

平成 24 年度名古屋大学大学院文学研究科
学位（課程博士）申請論文

タイに伝わるパーリ語蔵外伝典の研究
—仏像と地獄救済に関する説話を中心として—

第 2 部 テキスト・翻訳篇

名古屋大学大学院文学研究科
人文学専攻インド文化学専門

山本 聡子

平成 24 年 12 月

目次（第2部）

第2部 テキスト・翻訳篇

目次（第2部）	i-ii
はじめに	1
1. 貝葉写本	1
2. コム文字	1
3. ローマ字転写	2
4. コム文字パーリ語の特徴	6
4.1. 先行研究	6
4.2. 特異なパーリ語の例	7
4.3. タイ文字のパーリ語	9
4.4. コム文字・タイ文字・タイ語からの影響	10
5. 校訂方針	11
5.1. 既刊テキストの問題点	11
5.2. 本論文の校訂方針	12
5.3. 底本の選定	13
5.4. 写本の校合	15
5.5. 校訂案の提示	16
6. 翻訳方針	16
7. 写本情報	17
7.1. 『ヴァットングリ王物語』	18
7.2. 『コーサラ国仏像縁起譚』	19
7.3. 『目連尊者の問い』	20
7.4. 『マーレツヤデーヴァ長老物語註』	21
7.5. 『目連尊者の物語』	24
7.6. 『スピナクマーラ前世物語』	24
8. 略号	25

テキスト・翻訳	27
1. <i>Vaṭṭaṅgulirājasuttavaṇṇanā</i>	28
『ヴァットングリ王物語』	47
2. <i>Kosalabimbavaṇṇanā</i>	55
『コーサラ国仏像縁起譚』	77
3. <i>Moggallānabimbapañhāsutta</i>	89
『目連尊者の問い』	108
4. <i>Māleyyadevattheravatthu with Māleyyadevattheravatthudīpanīṭīkā</i>	118
『マーレツヤデーヴァ長老物語』・『マーレツヤデーヴァ長老物語註』	247
5. <i>Mahāmoggallānattheravatthu</i>	316
『目連尊者の物語』	321
6. <i>Supinakumārajātaka</i>	323
『スピナクマーラ前世物語』	333

はじめに

1. 貝葉写本

校訂テキストを作成するのに用いた写本は、すべて貝葉写本（タイ語：ใบลาน）と呼ばれるものである。貝葉とは貝多羅葉の略語であり、貝多羅はサンスクリットで「葉」を意味する“patra”を音訳したものである。貝葉写本は、棕櫚科の植物の若葉の束を刈り取り、大釜で軽く茹で、これを陰干しにし乾燥させ、葉の両面を摩擦して艶出しする。それを縦5 cm～8 cm、横25 cm～80 cmほどの長方形の葉片に切り、何十枚、何百枚の同形の葉片を重ね、その両面に書写する。書写は、まず鉄筆で文字を刻み、その上に墨を塗って拭き取ることで、文字を表出させる。通常、葉片の裏面の左端にページ番号がka, kā, ki, kīというパーリ語のアルファベット、あるいは、数字が表記され、写本の左右に開けられた孔に紐を通し束ねられる。南アジアや東南アジアでは、この貝葉写本にパーリ語や各々の現地語で仏典を記し伝承してきた。

2. コム文字

上座部仏教のパーリ語仏典は、スリランカではシンハラ文字、ミャンマーではビルマ文字、ラオスではラーオ文字など、それぞれの地域で異なる文字を用いて書写されてきた。これらの文字はすべて南インド系の丸型のブラフミー文字を受け継いだものである。タイの中でも特に中部タイでは、仏典を書写するのにコム文字やタイ文字を用いてきた。コム文字とは、タイ語で“akson khom (อักษรขอม)”、「古代カンボジア文字」を意味するものであり、Fine Arts Department of Thailand [2000: 78-80] では、タイにおいてスコタイ時代からタイ語とパーリ語を記すのに用いられてきた文字である、としている。

日本では、中部タイで筆写されたパーリ語写本の文字を一般的にクメール文字と呼び、写本カタログなどではクメール文字の中でも、貝葉写本の筆写に用いられた細字体をコム書体、貝葉写本の表紙や大型紙折れ写本などの筆写に用いられた太字体をムール書体と区別して呼称することが多い。しかし、カンボジアで用いられるクメール文字について、峰岸 [2001: 349-351] は、ムール文字系とチュリエン文字系に大別され、ムール系文字は、さらにムール文字とコム文字に分類され¹、コム文字は、元来、タイ人がクメール系文字に与えた名称であり、それがカンボジアに伝えられ、カンボジア人もこれをコム文字と呼ぶようになったと考えられている、と言及している。従って、「コム」という呼称はタイ語由来であるが、「ムール」という呼称は、タイ語ではなく、カンボジア人がクメール文字の書体に用いた表現と言える。本論文で用いる写本はすべてタイで書写された写本であるため、タイ語で“akson khom (อักษรขอม)”と呼ばれ

¹ 峰岸 [2001: 351] は、「コム文字」ではなく、「コーム文字」と表記しているが、本論文では「コム文字」に統一した。

る文字を「コム文字」と称することとし、特にコム書体（細字体）とムール書体（太字体）という区別を設けないこととする。

3. ローマ字転写

先述したように上座部仏教の仏典はそれぞれの地域で異なる文字で筆記されてきたため、欧米や日本のパーリ語文献研究者は、タイ文字やシンハラ文字などのパーリ語文献を統一的に研究するためにローマ字テキストを研究資料としている。従って、本論文の校訂テキストもローマ字テキストとする。蔵外仏典の多くは、書写が繰り返され、意味不明な文字の羅列で、読み解けなくなってしまうことが多々ある。このような写本であっても「読める」ように転写をするのではなく、意味不明であっても文字通り転写する。

貝葉写本で文字の削除がなされる場合、文字の中心に点を打つことによって、あるいは、文字に斜線を入れることによってなされ、白インクで塗りつぶすことによって文字削除されることもある。文字を挿入する場合には、挿入箇所＋記号を付け、余白に挿入文字が筆写される。また、鉄筆の筆記の上に筆書きで訂正されることや、鉄筆書きの上部に筆書きで短い縦棒が記され、スペース記号を意味する修正がなされることもある。上書きの修正により元の鉄筆の筆記が判読できないことがあるため、修正された綴りでローマ字転写する。また、ダングダ（句点）は、ピリオド（.）で転写した。

以下、コム文字（パーリ語）のアルファベットとそのローマ字転写を示し、注意をしなければならない似通った文字や、特定の写本にのみ現れる文字表にない例外的な文字について解説する。

母音文字

a	ā	i	ī	u	ū	e	o
अ	आ	इ	ई	उ	ऊ	ए	ओ

母音符号

-a	-ā	-i	-ī	-u	-ū
□	□ ^h	□ ^h	□ ^h	□ ^h	□ ^h
-e	-ai	-o ²	-au (-o) ³	-m̄	-h̄
□ ^h	□ ^h	□ ^h	□ ^h	□ ^h	□ ^h

子音文字

k-	kh-	g-	gh-	ñ-
ḱ	ḱ ^h	ḡ	ḡ ^h	ṅ
c-	ch-	j-	jh-	ñ-
ḥ	ḥ ^h	ḵ	ḵ ^h	ṅ
t-	th-	ḍ-	ḍh-	ṇ-
ṭ	ṭ ^h	ḍ	ḍ ^h	ṇ
t-	th-	d-	dh-	n-
ṭ	ṭ ^h	ḍ	ḍ ^h	ṇ
p-	ph-	b-	bh-	m-
ḷ	ḷ ^h	ḃ	ḃ ^h	ṃ
y-	r-	l-	v-	s-
ḷ	ṛ	ḷ	ṽ	ṣ

² この母音符号“-o”は、葉番号を記すのに用いられるが、本文のパーリ語では、あまり用いられない。

³ この母音符号は、パーリ語本文の筆写では“o”として用いられるが、写本の左端の葉番号を記す場合には“au”として用いられる。

h-	l-	
ဟ	လ	

結合子音文字

-k-	-kh-	-g-	-gh-	-ñ-
□ က	□ ခ	□ ဂ	□ ဂ	
-c-	-ch-	-j-	-jh-	-ñ-
□ င	□ င	□ ည	□ ည	□ ဣ
-t-	-th-	-d ⁴ -	-dh-	-n-
□ တ	□ တ	□ ဒ	□ ဒ	□ န
-t-	-th-	-d-	-dh-	-n-
□ တ	□ တ	□ ဒ	□ ဒ	□ န
-p-	-ph-	-b-	-bh-	-m-
□ ပ	□ ပ	□ ပ	□ ပ	□ မ
-y-	-r-	-l-	-v-	-s-
□ ယ	□ ရ	□ လ	□ ဝ	□ ဆ
-h-				
□ ဟ				

⁴ 左の文字が“-d-”の結合子音文字とされることが多いが、実際には、大型紙折れ写本で見られることはあるが、貝葉写本上ではほとんど見られず、右の“-d-”の表記が一般的に用いられている。

似通った注意すべき文字

- “a” と “rara”

母音文字 “a” の横線が明瞭でない場合、“rara” と読める。

- “u” と “khu”

子音文字 “kh-” に母音符号 “-u” が付くと母音文字 “u” との区別がつかなくなるため、文脈で判断し転写した。

- “i” と “-iṃ”

“i” の母音符号の上に点のように記される場合、長母音記号 “-ī” であるのか、アヌスヴァーラ “-iṃ” であるのか判読しにくい。

- “g-” と “t-”

“g-” はマルの部分が一重、“t-” は二重である。書写者によっては全く区別することなく混同して書写していることもあるが、明らかに異なる文字を用い、区別して書写された写本もあるため、“g-” と “t-” を厳密に区別し、綴られた通りにローマ字転写した。文脈から判断すれば明らかに “gacchati (行く)” とローマ字転写すべきであるとしても、綴り字が “tacchati” であれば、“tacchati (切る)” とローマ字転写した。

- “-ñ-”

“puñña (福德)” などの“-ññ-” という綴りは、貝葉写本では “-ñ-” を重ねて筆写することが困難なためかほとんど現れることはない。“ñatvā (知って)” などの綴りと区別するために、“-ññ-” と結合文字で記されていない限り “-ñ-” とローマ字転写した。

- “pā” と “cā”

子音文字 “p-” に母音符号 “-ā” が付く場合、“ha” の表記と区別するために右下にハライが付くが、子音文字 “c-” に母音符号 “-ā” が付いた場合は、ハライが付かない。

- “p-” と “m-”

葉脈により横線の有無が判りにくく、“p-” と “m-” とが判読しにくい。

- “b-” と “t-”

“b-” の中央の凹みが小さすぎる場合、“t-” と読める。

- “mā” と “ha”

葉脈により横線の有無が判りにくく、“mā” と “ha” とが判読しにくい。

- “rā” と “vā”

子音文字 “r-” と “v-” は、母音符号 “-ā” が付くと類似した文字になる。幅の狭いものを “rā”、幅の広いものを “vā” と転写した。

- “lā” と “ṇa”




子音文字 “l-” に母音符号 “-ā” が付くと、“ṇa” と類似した文字になる。真ん中の谷の部分

に小さな山があるものを“na”、平らであるものを“la”と転写した。

- “s-” と “l-”

“s-” は、“l-”よりも左の山が低く、上にツメがある。母音符号“-i” または“-r” が付く場合、“si” あるいは“sr” であれば、母音符号は左の山の上に付き、“li” あるいは“lr” であれば、右のツメの所に母音符号が付く。

文字表にない特定の写本にのみ現れる綴り

	母音文字“e”と母音符号“-i”が結合している。“adhi-”などの dhi の表記に用いられているため、 <i>dhi</i> と斜体で転写した。
	子音文字“dh-”に結合子音文字“-dh”が結合している。“dhdh-”という綴りはあり得ないため、 <i>ddh</i> と斜体で転写した。
	子音文字“r-”に結合子音文字“-r”が結合している。“rr”という綴りはないため、 <i>ru</i> と斜体で転写した。

4. コム文字パーリ語の特徴

上座部仏教諸国の僧侶によって現在話されているパーリ語が、明らかに変化の跡が認められるように、パーリ語は不変の言語ではなく、古典語でありながらも実際には変化を受容しながら伝承されてきた言語である。タイで書写されたコム文字のパーリ語は、スリランカやビルマのパーリ語をもとに記された既刊のパーリ語辞書や文法書だけでは読み解くことは困難であり、コム文字の特徴や、タイ語など現地語からの影響を考慮しなければならない。

4. 1. 先行研究

コム文字で書かれたパーリ語の特徴に関する先行研究として、Martini [1937: 287-413] は、『十菩薩説』(Dasabodhisatta-uddesa) に見られるパーリ語をカンボジア語からの影響などを考慮し、詳細に分析しており、大変有用な研究である。しかしながら、『十菩薩説』の校訂テキストに用いたわずか 4 本の写本に限った分析であるため、これだけの資料でコム文字のパーリ語の特徴を定義付けるには不十分である。

Martini [1937: 287-413] がカンボジアあるいはタイで書写されたパーリ語を「野蛮なパーリ語」という視点で研究したのに対し、Masefield [2008: 1-9] はコム文字のパーリ語は変化したパーリ語であって、退化した、あるいは、腐敗したパーリ語ではない、という見解を示している。

4.2. 特異なパーリ語の例

Martini [1937: 287-413] らによって既に指摘がなされているものもあるが、以下に本論文の校訂テキストにあらわれる特異なパーリ語の例を挙げる。

【主語と動詞の人称や数の不一致】

devo na vassanti (主語は単数形であるが、動詞は3人称複数形である)

kulabandhavā me atthi (主語は複数形であるが、動詞は3人称単数形である)

mahapphalaṃ hoti mahānisamsaṃ labhissanti (hoti は3人称単数形であるが、labhissanti は3人称複数形である)

【散文の語順の乱れ】

sutvāna bimbassa phalaṃ (動詞(連続体) + 目的語)

pakāsetvā catusaccaṃ anuttaraṃ (動詞(連続体) + 目的語)

samodhānesi jātaṃ jātidassijino (動詞(アオリスト) + 目的語 + 主語)

【文末の連続体(ジェラント)】

uraṃ datvā.

matthake nisīditvā.

【特異な単語の綴り】

- ・ 〈短母音の代わりに長母音が現れるもの〉

pāvisi (pavisati の aor.) → pāvīsi

sobhita (輝いた) → sobhīta

- ・ 〈長母音の代わりに短母音が現れるもの〉

dūra (遠い) → dura

dīpa (燈明) → dipa

dhūpa (芳香) → dhupa

- ・ 〈有気音の代わりに無気音が現れるもの〉

osadhi (薬草) → osadi

addhan (時) → addan

- ・ 〈無気音の代わりに有気音が現れるもの〉

kuddaka (小さな) → kuddhaka

maddana (碎破) → maddhana

bhadda (善い) → bhaddha

- ・ 〈反舌音の代わりに歯音が現れるもの〉

paṭimā (像) → patimā

paṭimaṇḍita (飾られた) → patimaṇḍita

- tutṭha (満足した) → tuttha
- ・ 〈歯音の代わりに反舌音が現れるもの〉
 - ghāta (殺害) → ghāṭa
 - rajata (銀) → rajaṭa
 - jātaka (前世物語) → jāṭaka
 - ・ 〈重複子音の代わりに単子音が現れるもの〉
 - vaḍḍhaki (大工) → vaḍhaki
 - viddhaṃsati (破壊する) → vidhaṃsati
 - sammukhā (面前に) → samukhā
 - ・ 〈単子音の代わりに重複子音が現れるもの〉
 - pasenadi (パセーナディ) → passenadi
 - likhita (書かれた) → likkhita
 - parivuta (囲まれた) → parivutta

これらコム文字のパーリ語が、スリランカやビルマのパーリ語と異なるのは確かである。しかし、これらのパーリ語を「間違ったパーリ語」としてして、安易に修正することはできない。これらの中には単なる書き損じもあるであろうが、タイで書かれたコム文字の「正しいパーリ語」がどのようなパーリ語であるかが明らかとなっていない以上、スリランカやビルマのパーリ語と異なっていると、言えない。書写が繰り返され、次第に乱れてきたとも考えられるが、コム文字の特異なパーリ語で書かれた膨大な量の写本が残されており、このパーリ語で意味を伝えてきた事実がある。パーリ語の知識不足としてタイのパーリ語を片付けるべきではなく、タイのコム文字パーリ語の資料を蓄積し、綿密な分析をしなければならない。以下、コム文字の筆記の特徴、タイ文字・タイ語からの影響という視点で、これらのコム文字パーリ語について若干の考察を示す。

4.3. タイ文字のパーリ語

タイ文字の子音文字とそのパーリ語音とその現代タイ語音をローマ字で以下に記す。

タイ文字	ก	ข	ง	ฆ	จ
パーリ語音	k-	kh-	g-	gh-	ñ-
タイ語音	k-	kh-	kh-	kh-	ŋ-
タイ文字	ฉ	ช	ซ	ฌ	ญ
パーリ語音	c-	ch-	j-	jh-	ñ-
タイ語音	c-	ch-	ch-	ch-	y-
タイ文字	ฏ	ฐ	ฑ	ฒ	ณ
パーリ語音	t-	ṭh-	ḍ-	ḍh-	ṇ-
タイ語音	t-	th-	th-	th-	n-
タイ文字	ถ	ธ	ด	ด	น
パーリ語音	t-	th-	d-	dh-	n-
タイ語音	t-	th-	th-	th-	n-
タイ文字	ป	ผ	พ	ภ	ม
パーリ語音	p-	ph-	b-	bh-	m-
タイ語音	p-	ph-	ph-	ph-	m-
タイ文字	ย	ร	ล	ว	ส
パーリ語音	y-	r-	l-	v-	s-
タイ語音	y-	r-	l-	w-	s-
タイ文字	ห	ฬ			
パーリ語音	h-	ḷ-			
タイ語音	h-	l-			

表のように、タイ文字でパーリ語を表記する場合には、1音に対して1文字であるが、タイ語では、kh- (ข / ก / ฆ)、ch- (ช / ฉ / ฌ)、t- (ฏ / ถ)、th- (ฐ / ฑ / ฒ / ถ / ฑ / ฒ)、n- (ณ / น)、ph- (ผ / พ / ภ)、y- (ญ / ย)、l- (ล / ฬ) は同じ音に複数の文字があることがわかる。タイ文字には、低子音文字・中子音文字・高子音文字という区別があり、どの子音文字に属するかによって異なる声調となるため、同じ音で発音されたとしてもタイ語であればどの文字で表記されているのかわかる場合もある。

4.4. コム文字・タイ文字・タイ語からの影響

コム文字パーリ語とスリランカやビルマのパーリ語との相違が、コム文字の特徴に起因すると考えられるものがある。例えば、“pañhā (問い)” は、多くの場合 “panhā” と記される。コム文字の結合子音文字 “-ñ-” の下に結合子音文字 “-h-” を書写することが困難であったためか、“-ñ-” ではなく “-ṇ-” と “-h-” が結合している。また、子音文字 “-v-” と結合子音文字 “-y-” が結合することはなく、“vyākaraṇa (授記)” などの “-vy-” という綴りはなく、必ず “-by-” と記される。スリランカやビルマのパーリ語で “-v-” である単語が、コム文字パーリ語で “-b-” で表記され、そのままタイ語に受容されているものもある。例えば、“vāṇija (商人)” は、コム文字でしばしば “bāṇija” と記され、タイ語では “พานิช (phanit)” となり、“vāhana (運搬獣)” は、コム文字でしばしば “bāhana” と記され、タイ語では “พาหนะ (phahana)” となる。つまりコム文字表記の影響がタイ語に現れていることになる。写本を見ながらただ書き写したとすれば、似通った文字と書き間違えたとも考えられる。そのため、先述した似通った注意すべき文字は、書き損じが起きた可能性を考慮し、読み替えなければならない。

ローマ字転写されたテキストで学習している我々は、パーリ語がローマ字転写された音で発音されていると思いがちだが、現代のタイ人僧侶らがパーリ語仏典を読誦するのを耳にすると、彼らの読誦するパーリ語にはほとんど半舌音や濁音の区別がなく、タイ文字表記のパーリ語をタイ語の発音で読誦しているように聞こえる。本論文の校訂テキストに用いた写本の成立年代は一部の写本を除いて明確ではなく、書写された時代にタイ人がどのようにタイ語、パーリ語を発声していたのかは明らかではない。しかしながら、特異なパーリ語の例に示したように、無気音と有気音、反舌音と歯音が混用されていることから、コム文字を厳密に異なる音で発音していなかったと考えられる。書写する際に写本を見ながら書き写したのではなく、写本の読誦を聞いて書写したとすれば、このような文字の書き間違いが頻繁に起きたのは想像に難くない。従って、コム文字のパーリ語を読解する際には、コム文字がどのタイ文字に匹敵し、タイ語でそのタイ文字の発音が他のどのタイ文字と同じ音であり、コム文字でどの表記となるのかを考慮しなければならない。例えば、コム文字で “-kh-” と記されていた場合、タイ文字では “ก(kh-)” であり、タイ語で “-kh-” の音になるのは “ก (kh-)” ・ “ข (kh-)” である。すなわち、コム文字で “-g-” ・ “-gh-” であった可能性を考慮し読解しなければならない。

一般的に散文のパーリ語では、「目的語＋動詞」の語順であるが、コム文字のパーリ語では、「動詞＋目的語」という語順で現れることがある。また、複合語の語順が「修飾語＋被修飾語」ではなく、「被修飾語＋修飾語」となることがある。これらは、タイ語文法の影響を受けたものと考えられる。

5. 校訂方針

本論文で取り上げる仏典は、パーリ語とタイ語で伝承されている三蔵とは異なり、写本に記された状態で伝えられてきたものである。それらの写本に説かれる内容は、タイ語で口承で伝えられている場合もあるが、現在パーリ語仏典としては全く知られていないのが実情である。このような伝承の途切れているパーリ語蔵外仏典の校訂テキストを作成しようとする場合、校訂者はこれらの写本をどのように扱うべきなのだろうか。

5.1. 既刊テキストの問題点

Skilling [2009: 33-43] は、タイの蔵外仏典以外のパーリ語文献も含め様々な校訂方針を検討し、*Jambūpati-Sūtra* のテキスト (Santi Pakdeekham [2009]) に用いた “synoptic edition” という方針を提案し、タイのパーリ語仏典の扱い方に問題提起している。*Jambūpati-Sūtra* のテキスト (Santi Pakdeekham [2009]) を出版した Fragile Palm Leaves Foundation & Lumbini International Research Institute からその後出版された *Buddhapādamāṅgala* のテキスト (Cicuzza [2011]) は、“synoptic edition” とはまた異なる方針に従っており、それぞれの校訂者により異なる方針に基づき、統一されていないのが現状である。以下に、これまでに出版されたパーリ語蔵外仏典のテキストを例に挙げその問題点を指摘する。

Otani University [2004] のような、校訂を全く加えず、写本をローマ字転写し、必要に応じて単語間にスペースを加え、他のいくつかの写本を校合し異読を注記したローマ字転写テキストが出版されているが、コム文字の特徴を知らず、タイのパーリ語に慣れていない研究者にとっては、全く校訂がなされていないため、難解なままである。また、Otani University [2004] の場合はマイクロフィルムが入手できるため、校合されたテキストであっても、実際にそれぞれの写本にどのように綴られていたのかを写本で確認することができるが、例えば、写本が散逸してしまったものや、筆者が研究対象とした写本のように、NRCT の研究許可を必要とするタイ国立図書館が所蔵するもので、写真撮影や複写が許可されない場合、実際に写本にどのように書写されていたのか容易に確認することはできない。単語間にスペースを加え、他の写本と校合したことにより、写本が有していた情報を失わせたことになる。タイのパーリ語蔵外仏典を主な研究対象とする研究者にとって、写本の写真データなどが入手困難な場合には、写本を転写し、単語間にスペースを入れず、他の写本と校合されていないローマ字転写は、写本に綴られていた状態に戻すことができ、写本の写真データの代わりとなる有用な資料である。ローマ字転写からコム文字の写本に書かれた状態に変換することができなければ、転写としては無意味なものである。

Santi Pakdeekham [2009] では、底本を決め異読を注記する形式ではないため、複数の写本がそれぞれどのように綴られていたのか、一目瞭然であり、綿密な研究のための資料としては有

用であるが、紙数が膨大となる。また、校訂が加えられていないため、タイのパーリ語に慣れていない研究者にとっては読み難く、文が途切れ途切れに記されるため、通読には適さない形式である。単語間に適宜スペースが入れられているが、巻末に写本の写真データの一部も収録されているため、写本に戻る事ができるという点でコム文字パーリ語研究者にとって有用である。

Cicuzza [2011] は、脚注に写本の異読や校訂を記し、本文は一つの写本によらず、異読や校訂に基づき整えられているため、本文だけで読解できる。脚注に目を向ければ写本にどのように記されていたのかはわかるが、本文だけで読めるため、脚注に記された異読が活用されることは少ないであろう。また、本文中にそれぞれの写本のフォリオ番号が記されているため、単語や文が切断されている。

このようなローマ字転写テキストに対し、The National Library of Thailand [2001] のような、異読の注記すらなさず、校訂者による校訂であると明記せずに校訂を加え、意味の通るテキストとして出版されたタイ文字パーリ語テキストもある。パーリ語研究者にとっては、読解し易いテキストであろうが、このようなテキストでは、テキストの著者や写本の書写者が記したことを読み解いたのではなく、校訂者によって作られたテキストを読んだことになり、校訂者が著者化する危険性がある。

5.2. 本論文の校訂方針

先述したようにタイのパーリ語は、スリランカやビルマのパーリ語に基づいて著された既刊パーリ語辞書や文法書では読み解けないことが多々ある。それらの一つ一つの単語の綴りや文法の特徴については今後の研究の蓄積が必須である。本論文では、今後の「タイのパーリ語」研究に資するために、コム文字のパーリ語を保持し、必要以上に手を加えない校訂テキストとする。校訂者の見解を明示した校訂テキストと、付録として写本の写真データ、あるいは、写本に綴られたままローマ字転写しただけのものの双方を提示することが望ましいが、紙数が膨大となるため、本論文では校訂テキストのみを提示する。

写本が校訂テキストになることによって、より多くの研究者とテキストを共有することが可能となり、校訂者以外の研究者に解読されることにより新たな見解が導かれ、その仏典の著者の真意に近づけるであろう。読み手の思考を阻害せず、新たな見解を生み出し得るテキストを目指す。先述したコム文字パーリ語蔵外仏典のこれまでに出版されたテキストの問題点を踏まえ、以下に筆者による校訂方針を明示する。

5.3. 底本の選定

本論文の校訂テキストでは、パーリ語研究者にとって読み易い、比較的校訂を加えずに済む写本を底本としたり、出自が明らかな写本を底本とはしない。「正しい」パーリ語文法に基づいて書かれているか、既刊の辞書に見られる単語の綴りであるのか否か、という点は全く考慮せず、以下に記すように機械的に底本を選定する。次頁のフローチャートを合わせて参照されたい。

- ① それぞれの文献ごとに写本の系統によってグループ分けする。同系統であるか否かを判断する基準として、次フォリオへ移る箇所が一致するか否か、同様の欠落文が見られるか否か、2 プーク（束）からなる写本である場合、第1 プークから第2 プークへ移行する箇所が一致するか否か、という点から大別する。

同系統の写本であると考えられる場合であっても、写本の新旧関係は不明である。

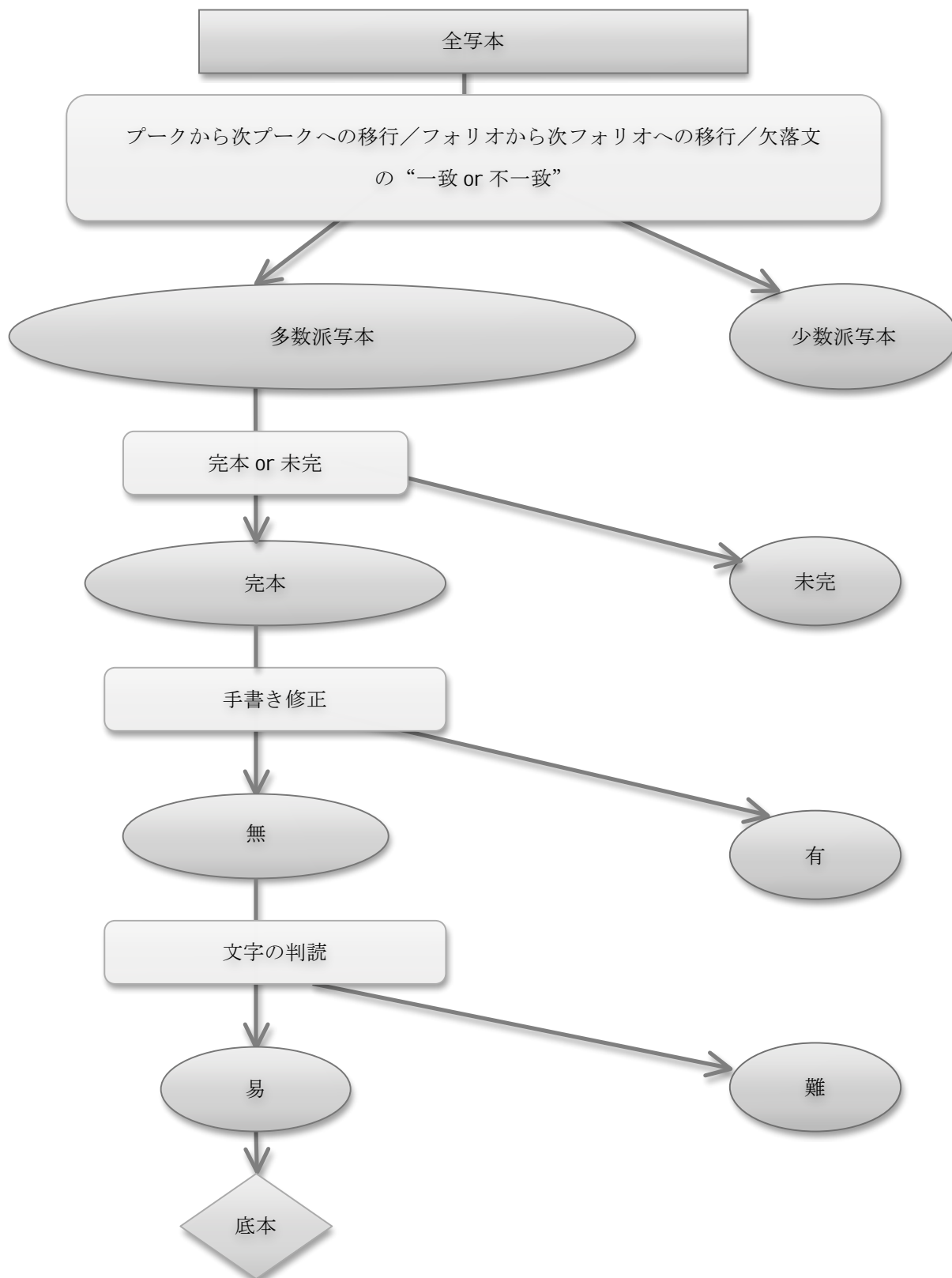
- ② より多くの写本が属する多数派グループを完本と未完の写本とに分ける。複数のプークからなる場合、いずれかのプークが欠本であったり、プークは揃っていても、1 フォリオでも欠けていれば、未完写本とする。長文の欠落は未完とはせず、異系統の写本とする。

- ③ 完本のうち筆書きによる修正が加えられていない純粋な写本と修正が加えられている写本とに分ける。

鉄筆による書写の後、その写本を読誦した者によって、あるいは、その写本を原本として書写した者によって修正されたと考えられる筆書きのインク文字がある。これらが、いつ誰によって修正されたのかは不明である。写本を所蔵するデンマーク王立図書館や大英図書館では、鉛筆以外の筆記用具の使用は禁止であったが、タイ国立図書館では、そのような規則はなく、写本にペン書きをしようと思えばできる環境であり、筆書きの修正が司書や閲覧者によってなされたとも疑える。従って、筆書き修正がなされている写本を底本に選定しないようにする。全写本に筆書きの修正がある場合、修正の少ないものを選ぶ。

- ④ “g-” と “t-” など似通った文字が判読し易いか否か、という点で分ける。
- ⑤ そのうち最も判読し易い写本を底本とする。すべてのテキストにおいて底本の写本記号を Z に統一する。

フローチャート



5. 4. 写本の校合

上記方法によって底本を選定し、本文は一貫して底本に従い、他の写本の読みを混在させず、校訂を加えることはしない。写本上にスペースなく綴られている場合であっても適宜スペースを挿入しローマ字転写する。綴られた通りにローマ字転写されている方が写本の持つ情報を失わせないが、読み難く、異読を注記したとしても、長文になり過ぎ、どこが相違しているのかわかりにくい。ローマ字のパーリ語テキストでは、しばしば、アヴァグラハや複合語にハイフンを付すということがなされているが、このような挿入はコム文字パーリ語には存在せず、校訂者の読解を読み手に強制し、読み手の思考を阻害し、新たな読みを生み出すことが困難であるため、不必要な記号は用いない。ただし、ある単語と母音から始まる単語とが複合語を形成する場合、母音と母音が連続するため、ハイフンを付した。PTS から出版されたテキストでは文頭や固有名詞の一文字目を大文字で表記していることもあるが、コム文字に大文字と小文字の区別はないため、テキストの本文中では大文字は用いず、それぞれのテキストのタイトルと写本記号にのみ用いる。

写本を校合する際、異読がある場合は、異読箇所のみを記すのではなく、長文であっても脚注を付した語句に対応する語句すべてを記し、その後ろに写本記号を記す。また、語句の欠落がある場合には、欠落している語を記した後に *om.* を付し、その後ろに写本記号を記す。脚注番号はテキスト毎に振り直す。また、本文中にフォリオ番号を記すと煩雑になるため、底本も含めすべての写本のフォリオ番号は脚注に示す。

偈文や会話文は、インデントし、“*gātham āha* (偈を唱えました)” などの語句に続けて説かれ、偈文として記されたことが明らか場合のみ偈文と捉え、偈番号を付す。偈文は韻律を考慮せず、写本の表記に従い、句 (*pāda*) を分ける。また、適宜、段落分けし、①、②・・・とセクション番号を付し、カンマ (,) やピリオド (.) を補う。

Māleyyadevattheravatthu (Mth-v) with *Māleyyadevattheravatthudīpanīṭikā (Mth-v-ṭ)* では、Denis による *Mth-v* の校訂テキストを Collins [1993: 19-60] より本文のみそのまま引用し、*Mth-v* (12 pt.) を適宜段落分けし、それに対応する *Mth-v-ṭ* (10 pt.) を文字の大きさを変えて記す。*Mth-v-ṭ* で注釈される *Mth-v* のパーリ語句は、対応箇所を示すために双方のテキストにおいて太字斜体で表記し、*Mth-v-ṭ* で記された語句をさらに *Mth-v-ṭ* で引用している場合、太字体で表記する。“*peyyāla* (省略)” が用いられる箇所は網かけによって示す。

5. 5. 校訂案の提示

校訂を必要とする場合でも、本文中は写本の綴りに従い、校訂は脚注において加える。校訂を加える際、底本以外の写本の異読によって校訂が可能な場合は、その写本の異読を [] で括る。例えば、底本で “suvanna” と綴られているが、A 写本に “suvannaṃ” という異読がある場合には、脚注に [suvannaṃ A] と記す。また、校訂を必要とするが底本以外の写本の異読によって校訂不可能な場合には、校訂者により脚注において校訂案を [] 内に提示する。例えば、底本で “meteyya” と綴られ、A 写本に “meteyyo” という異読がある場合、脚注に meteyyo A; [metteyyo] と異読の後に校訂案を付す。本論文の校訂テキストに用いた [] は、提案を意味する記号である。

校訂する際、タイのパーリ語でなくとも現れ得る短母音と長母音の相違や、歯音と反舌音の相違であっても辞書（雲井 [2008]）の綴りに従い、用例などを考慮し、校訂を加える。また動詞や名詞の曲用も適切な形に校訂する。

6. 翻訳方針

底本は、*Mth-v* (Collins [1993: 19-60])、及び、校訂者によるテキストである。原文に忠実に和訳することを心がけ、平行するパーリ語文献がある場合にはそれらの先行研究を参照し、和訳する。また、校訂案を提示することができず、訳出できていない箇所については注記する。校訂テキストに付したセクション番号に従い翻訳にも番号を付し、さらに【小見出し】を記す。

他のパーリ語文献からの引用と考えられる場合は、翻訳の脚注に、典拠の記述、及び、既刊の和訳文献がある場合には和訳を記す。典拠を注記する場合、使用したテキストに従い、大文字、セミコロンなどを維持し、変更を加えない。ただし、アヌスヴァーラの表記がテキストによって異なっても、すべて m に統一する。偈の引用の場合には、偈の冒頭に偈番号を丸括弧で付し、偈文の改行は省き、偈文の切れ目を示すためにカンマを補う。同様に和訳にも偈番号を付す。脚注番号は翻訳毎に振り直す。

『マーレツヤデーヴァ長老物語』の本文の和訳 (12 pt.) と注釈文献である『マーレツヤデーヴァ長老物語註』の本文の和訳 (10 pt.) は文字の大きさを変えて記す。また、『マーレツヤデーヴァ長老物語』に言及される語句が『マーレツヤデーヴァ長老物語註』で注釈される場合、『マーレツヤデーヴァ長老物語』の和訳はゴシック体で記し、丸括弧で原語を付す。

以下に表記法についてまとめる。

[] は、訳者による語句の補足、挿入を示す。

() は、言い換え、原語、簡単な注記である。

「 」は、会話文を示すが、偈文の場合には付さず、インデントのみ行う。

『 』は、引用中の引用、経典名、書名を示す。パーリ語のまま書名を表記する場合は斜体で表記する。

【 】は、便宜上付した小見出しである。

①、②などは、便宜上付したセクション番号である。

網掛けは、原文で省略（peyyāla）を用いて記された語句を示す。

7. 写本情報

本論文の校訂テキストに用いた写本はすべてバンコクにあるタイ国立図書館が所蔵するものであるが、*Vaṭṭaṅgulirājasuttavaṇṇanā*（『ヴァッタングリ王物語』）のみ大谷大学図書館が所蔵するタイ国立図書館所蔵写本のマイクロフィルムである。以下に、写本の基本情報、特徴、グループ図をテキスト毎に示す。

7.1. 『ヴァッタングリ王物語』 (Vaṭṭaṅgulirājasuttavaṅṅana)

記号	請求番号 ⁵	写本上のタイトル ⁶	フォリオ番号
A	M1/000070/A	vaṭṭaṅgulirājasuttavaṅṅana	pam, b ~ pho, b
B	M1/000070/B	vaṭṭaṅgulirājasuttavaṅṅana	dham, a ~ nai, b
C	M1/000070/C	vaṭṭaṅgulirājasuttavaṅṅana	pau, a ~ phe, b
Z	M1/000070/D	vaṭṭaṅgulirājasuttavaṅṅana	pam, b ~ pho, b

【特徴】

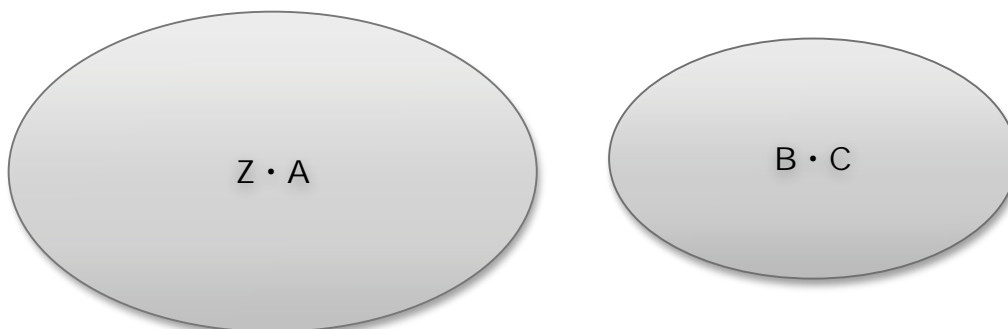
A 写本: 筆書きの修正が多い。Z 写本と同系統と考えられる。

B 写本: 文字そのものは読み易く、筆書きの修正もない。A・Z 写本と比較すると、B・C 写本に同様の欠文が見られるため、両写本は、A・Z 写本とは異なる系統にあると考えられる。

C 写本: 写本が汚損しており、非常に読みにくいマイクロフィルムである。写本の一部データ (Folio No. phe, b) が欠如している。筆書きによる文字修正がなされているが、判読が困難である。文字の上部に付されるツメの角が丸くなった癖字である。A・Z 写本と比較すると、B・C 写本に同様の欠文が見られるため、両写本は、A・Z 写本とは異なる系統にあると考えられる。

Z 写本: 田辺 [1981: 66] によれば、ラタナコーシン王朝のラーマ 3 世ナンクラオ王の時に書写されたものである。筆書きの修正は、ほとんどなされていない。“g-” と “t-” などが厳密に区別して表記され、“-ññ-” の表記も見られ、コム文字を正確に刻んだ判読しやすい筆記体である。

【グループ図】



⁵ 田辺博士により将来された「パンニャーサ・ジャータカ」集のマイクロフィルムは、現在大谷大学図書館が所蔵している。大谷大学図書館における請求番号である。これらのマイクロフィルムが、タイ国立図書館のどの請求番号の写本に当たるのかは未確認である。

⁶ 『ヴァッタングリ王物語』は、「パンニャーサ・ジャータカ」集の中の一話であるため、表紙に記されたタイトルはない。ここでは、テキストの最後の“_____niṭṭhitam”に記されたタイトルを示した。

7.2. 『コーサラ国仏像縁起譚』 (Kosalabimbavaṇṇanā) ⁷

記号	請求番号	写本上のタイトル	フォリオ番号
A	13228/1	kosallabimbavaṇṇanā	ka, b ~ khī, b
B	5055/jha/1	kosallabimbavaṇṇanā	ka, b ~ khā, b
C	6864/kha/1		
Z	6676/ga/1	kosallabimbavaṇṇanā	ka, b ~ khā, b

【特徴】

A 写本：“g-”と“t-”の表記は比較的判別し易いが、“s-”と“l-”の表記が類似している。

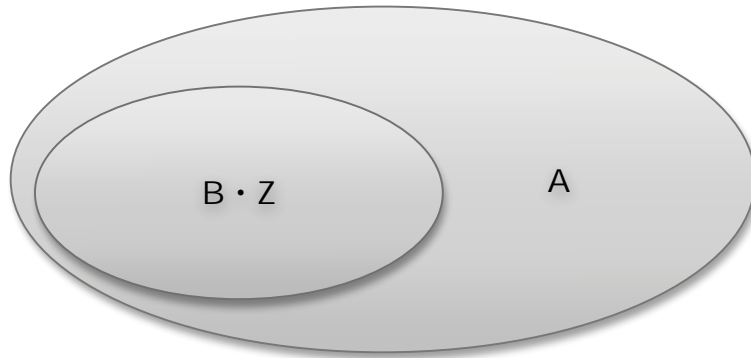
鉄筆で筆写した際の文字削除方法が、文字の中央に点を打つものではなく、文字の上に斜線を引くものである。筆書きの修正はない。

B 写本：“g-”と“t-”の表記が類似しており判別し難い。“b-”の文字の上部にある凹みが小さいため“t-”の表記に類似して見える。母音文字“a”の表記の横棒が薄く、“rara”と読める。筆書きの修正が多い。

C 写本：目録カードはあったが、写本は未見である。

Z 写本：“g-”と“t-”の文字は、区別して表記されているが、“tā (to)”と“dhā (dho)”の表記が類似している。筆書きの修正はない。

【グループ図】



⁷ 『タイ国立図書館目録』 (The Vajirañāṇa Library [1921: 33]) と目録カードのタイトルは、*โกศลพิมพ์ปญหา (kosalabimbapañhā)* である。

7.3. 『目連尊者の問い』 (Moggallānabimbapañhāsutta) ⁸

記号	請求番号	写本上のタイトル	フォリオ番号
A	6864/ḍha/1	brahmoggallānabimbapaṇhasutaṃ phūk 5	ja, a ~ jaṃ, b
B	5177/ka/4	moggallānabimbapaṇhāsuttaṃ	ja, a ~ jaṃ, a
Z	6676/gha/1	moggalānabimbapaṇhāsuttaṃ	ja, a ~ jaṃ, a

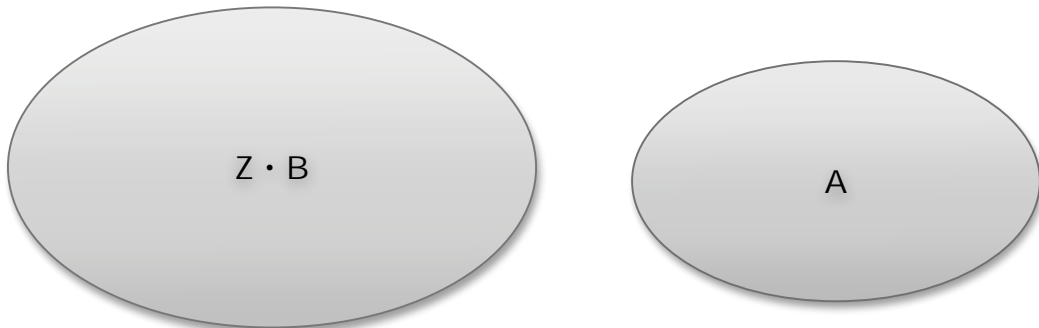
【特徴】

A 写本：表紙は、黒地に金の花柄文様が描かれ、タイトルが記されている。写本の右側にカビがあるが、判読に支障はない。“g-”と“t-”は比較的判読し易く、筆書きの修正はない。結合子音文字“-j-”として子音文字“-j-”を使用している。

B 写本：筆書きの修正や文字削除のための白塗り修正が多い。さらにスペースを取る為の修正も頻繁になされている。“g-”と“t-”は比較的判読し易い。“-ṇḍ-”の表記で複雑な方の結合子音文字“-ḍ-”が現れる。

Z 写本：写本の側面に文様が描かれている。“g-”と“t-”は比較的判読し易く、筆書きの修正もない。

【グループ図】



⁸ 『タイ国立図書館目録』(The Vajirañāṇa Library [1921: 33]) と目録カードでは、โมกคคullanพิมพญหา (moggallānabimbapañhā) である。

7.4. 『マーレツヤデーヴァ長老物語註』 (Māleyyadevattheravatthudīpanīṭikā) ⁹

記号	請求番号	写本上のタイトル	フォリオ番号
A	2006/ja/1	bradīpanīṭikāmālayadevatheravatthu phūk 1	ka, b ~ kaḥ, b
	2006/ja/2	dīpanīṭikāmālayadevattheravatthu phūk 2	ga, a ~ ñu, a
B	3702/ga/1	dīpanīṭikāmālayadevattheravatthu phūk 1	ka, b ~ kaḥ, b
	3702/ga/2	dīpanīṭikāmālayadevattheravatthu phūk 2	ga, a ~ ñu, a
C	4904/kha/1	dīpanīṭikāmālayadevattheravatthu phūk 1	ka, b ~ kaḥ, b
	4904/kha/2	dīpanīṭikāmālayadevattheravatthu phūk 2	ga, a ~ ñu, a
D	12919/1	dīpanīṭikāmālayadevattheravatthu phūk 1	ka, b ~ kaḥ, b
	12919/2	dīpanīṭikāmālayadevattheravatthu phūk 2	ga, a ~ ñu, a
E	3696/ kha/ 1	ṭikābramāleyyadiṇi phūk 1	ka, a ~ khaṃ, b
	3696/ kha/ 2	dīpanīṭikābramāleyya phūk 2	ga, a ~ ghaḥ, a
F	6086/ ga/1	bradīpanīṭikāmālayadevathera phūk 1	ka, b ~ gī, b
	6086/ ga/2	bradīpanīṭikāmālayadevathera phūk 2	gu, a ~ ñu, b
G	5224/ kha/ 1	bradīpanīṭikāmālayadevathera phūk 1	ka, b ~ khaḥ, b
	6800/ kha/2	bradīpanīṭikāmālayadevathera phūk 2	ga, a ~ ñu, a
H	8759/ ca/1	bramāleyyadiṇiṭikā phūk 1	ka, a ~ ghu, b
I	1166/ña/1	ṭikābramāleyya phūk 1	ka, b ~ khaḥ, b
J	3662/ña/1	ṭikābramāleyyadiṇi phūk 1	ka, a ~ khaḥ, b
K	7163/kha/1	dīpanīṭikāmālayadevattheravatthu phūk 1	ka, a ~ khaṃ, b
L	5174/ga/2	bramāleyyadiṇiṭikā phūk 2	ga, a ~ ghau, b
Z	5454/ña/1	bradīpanīṭikāmāleyya devatheravatthu phūk 1	ka, b ~ khaḥ, b
	5454/ña/2	dīpanīṭikāmālayadevattheravatthu phūk 2	ga, a ~ ñu, a

【特徴】

A 写本：筆書きの修正が数カ所で行われ、文字の中央に点を打つ文字削除が多い。“bha”と“ka”が類似した表記である。“*dhdh-*”の表記が現れる。

B 写本：筆書きの修正がわずかにある。Z 写本と同系統であると思われる。“*dhdh-*”の表記が現れる。

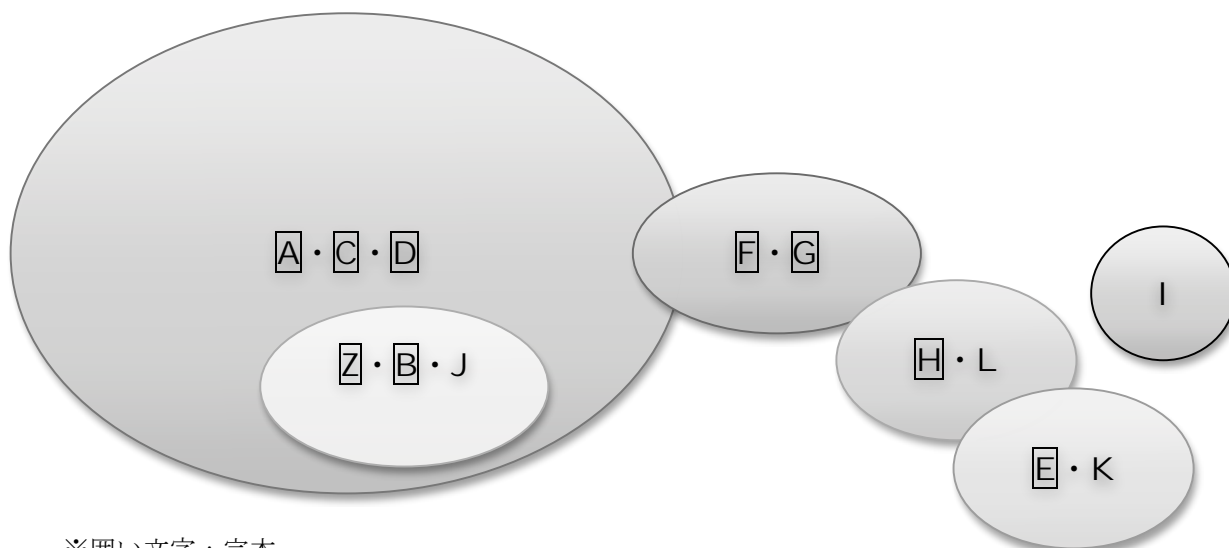
C 写本：筆書きの修正がしばしばなされている。“g-”と“t-”、“s-”と“l-”の表記は区別されていない。“*dhdh-*”の表記が現れる。

⁹ 『タイ国立図書館目録』 (The Vajirañña Library [1921: 30]) では、*มัลลยสูตร* (māleyyasūtra) がリストアップされており、この注釈文献もここに含まれると考えられる。

- D 写本：筆書きの修正が数カ所でなされ、ダンダの上に筆書きでマルが記され、装飾されている。“rā”と“vā”、“rā”と“bha”、“ca”と“dha”、“ddha”と“dva”が判読しにくい。“*dhḍh-*”の表記が現れる。
- E 写本：仏暦 2379 年（西暦 1836 年）に書写したと記された奥付がある。写本の前半に筆書きによる修正が多く、白塗りによる修正も多い。“da”と“pā”の表記が類似している。“*dhḍh-*”の表記が現れる。コム文字のパーリ語では“jātaka（前世物語）”と綴られることが多いが、“jātaka”という綴りが見られる。
- F 写本：1 枚のフォリオ（No. gau, a & b）が欠落しているため、完本ではない。筆書きの修正が数カ所でなされている。“dha”と“ca”、“ṇa”と“lā”、“pā”と“dā”が判読しにくい。G 写本と同系統の写本と思われる。
- G 写本：第 1 プークと第 2 プークに異なる請求番号が付されているが、筆跡などから連続する写本であると判断できる。筆書きの修正が数カ所なされている。F 写本と同系統の写本と思われる。
- H 写本：1 プークのみの完本である。小さな文字で、間隔を取らず詰めて書かれている。筆書きの修正、文字の中央に点を付す文字削除が非常に多い。アヌスヴァーラの“-ṃ”が頻繁に欠落している。他の写本には見られない特異な文字表記が多くある。例えば、母音符号“-o”として“ṛ”を用い、“adhivacana”や“bodhi”などの“dhi”の文字として、母音文字“e”に母音符号“-i”を付して記し、“saddhādhika”などでは通常の“dhi”の表記で記しており、表記が混在している。また、通常の“ci”の表記に加えて、“vicitta”などの“ci”として“ṭhi”の表記が用いられていることがあるが、これについては“ṭhi”と綴り通りローマ字転写した。
- I 写本：第 2 プークが欠如しており、写本の一部が劣化している。“rūpa”などの“rū”の表記が、“rr”となっている箇所があり、“rū”と斜体で転写した。“n-”と“d-”の表記の仕方が類似している。ダンダの後などでスペースをとらず文字を詰めて書写しているため、読みにくい。
- J 写本：第 2 プークが欠如している。“t-”と“g-”の表記が区別されておらず、筆書きの修正はない。B・Z 写本と同系統の写本であると思われる。
- K 写本：第 2 プークが欠如している。筆書きの修正がある。子音文字“th-”の表記が見られる。結合子音文字“-ḍ-”として“-d-”の表記と複雑な“-ḍ-”の表記と双方が混在している。結合子音文字“-j-”として、通常の子音文字“-j-”を頻繁に用いている。
- L 写本：第 1 プークが欠如している。“t-”と“g-”の表記が区別されていない。筆書きの修正はない。“*dhḍh-*”の表記が見られる。

Z写本：仏暦2411年（西暦1868年）に書写したと記された奥付があるが、草書体で書かれているため、奥付全文の解読は困難である。第1プークに筆書きの修正が数カ所なされている。“*dhdh-*”の表記が見られる。

【グループ図】



7.5. 『目連尊者の物語』 (*Mahāmogallānatheravatthu*)¹⁰

記号	請求番号	写本上のタイトル	フォリオ番号
Z	1562/ca/1	bramoggalā (mahāmoggalānatheravatthunitthitaṃ)	ka, a ~ kā, b ka, a ~ kā?, b

【特徴】

Z 写本：表紙のタイトルは bramoggalā であるが、その中に supinnakumārajātaka (ka, a ~ kā, b と 4, a ~ 6, b)、mahāmoggalānatheravatthu (ka, a ~ kā?, b) の順で 2 話が収められている。*Mahāmoggalānatheravatthu* の筆跡は、*Supinakumārajātaka* のものと異なり、子音文字 “n-” の表記が特徴的である。写本の 2 枚目はページ番号が付されていないが、筆跡から同一人物による書写であると思われる。筆書きの修正がなされている。

7.6. 『スピナクマーラ物語』 (*Supinakumāra-jātaka*)

記号	請求番号	写本上のタイトル	フォリオ番号
Z	1562/ca/1	bramoggalā (supinnakumārajātakam nitthitaṃ)	ka, a ~ kā, b 4, a ~ 6, b

【特徴】

Z 写本：表紙のタイトル bramoggalā であるが、その中に supinnakumārajātaka (ka, a ~ kā, b・4, a ~ 6, b)、mahāmoggalānatheravatthu (ka, a ~ kā?, b) の順で 2 話が収められている。*Supinakumārajātaka* は、フォリオ番号が連続しておらず、前半 (ka, a ~ kā, b) と後半 (4, a ~ 6, b) の筆跡も異なる。前半の筆跡の特徴は、“s-” と “l-” が類似しており、後半は、極小の文字で、強い癖字である。筆書きの修正は後半にのみ見られる。さらに、これらの筆跡と上述した *Mahāmoggalānatheravatthu* の筆跡も異なる。写本の側面に描かれた文様は一致しているため、書写の際、書写者が途中で交代した、あるいは、別々に書写されたものをまとめて一つの写本として束ねたと考えられる。

¹⁰ 『タイ国立図書館目録』 (The Vajirañāṇa Library [1921]) にはリストアップされていない。タイ国立図書館の目録カードのタイトルは、โมกคัลลานสูตร (moggalānasutta) である。

8. 略号

第2部の翻訳において用いた略号を以下に記す。

<i>Abhidh-s</i>	<i>Abhidhammatthasaṅgaha</i> : Saddhātissa [1989: 1-51]
<i>AN</i>	<i>Aṅguttaranikāya</i> : Hardy [1896, 1900]
<i>Anāg</i>	<i>Anāgatavaṃsa</i> : Minayeff [1886]
<i>Anāg-a</i>	<i>Amatarasadhārā</i> : The National Library of Thailand [2001: 95-165]
<i>As</i>	<i>Atthasālinī</i> : Müller [1979]
<i>As-mṭ</i>	<i>Dhammasaṅgaṇīmūlaṭṭkā</i> : Vipassana Research Institute [1998d]
<i>Bālāv</i>	<i>Bālāvatāro</i> : Phra Khanthasraphiwong [1998]
<i>Cp-a</i>	<i>Cariyāpiṭaka-aṭṭhakathā</i> : Barua [1979]
<i>Dasab</i>	<i>Dasabodhisatta-uddesa</i> : Martini [1936]
<i>Dhp</i>	<i>Dhammapada</i> : Hinüber & Norman [1994]
<i>Dhp-a</i>	<i>Dhammapada-aṭṭhakathā</i> : Norman [1970]
<i>DN</i>	<i>Dīghanikāya</i> : Carpenter [1992], Davids & Carpenter [1995]
<i>Ja</i>	<i>Jātaka-aṭṭhakathā</i> : Fausbøll [1877, 1883, 1887, 1891, 1896]
<i>Mhv</i>	<i>Mahāvamsa</i> : Geiger [1908]
<i>Mil</i>	<i>Milindapañhā</i> : Trenckner [1962]
<i>Mil-ṭ</i>	<i>Milindaṭṭkā</i> : Jaini [1961]
<i>MN</i>	<i>Majjhimanikāya</i> : Chalmers [1994]
<i>Mogg-vth</i>	<i>Mahāmoggallānattheravatthu</i> : 本論文第2部 pp. 316-320
<i>Mp</i>	<i>Manorathapūraṇī</i> : Walleser & Hermann [1967]
<i>Mth-v</i>	<i>Māleyyadevattheravatthu</i> : Collins [1993: 19-60]
<i>Mth-v-ṭ</i>	<i>Māleyyadevattheravatthudīpanīṭīkā</i> : 本論文第2部 pp. 118-246
<i>Nett</i>	<i>Nettipakaraṇa</i> : Hardy [1961]
<i>Paṭṭh-a</i>	<i>Pañcappakaraṇa-aṭṭhakathā</i> : Davids [1988]
<i>Pālim-nṭ</i>	<i>Vinayālaṅkāraṭṭkā</i> : Vipassana Research Institute [1998b]
<i>Pj I</i>	<i>Paramatthajotikā I</i> : Smith [1978]
<i>Pj II</i>	<i>Paramatthajotikā II</i> : Smith [1989]
<i>Ps</i>	<i>Papañcasūdanī</i> : Woods & Kosambi [1977], Horner [1977]
<i>Pv</i>	<i>Petavatthu</i> : Jayawickrama [1977]
<i>Pv-a</i>	<i>Petavatthu-aṭṭhakathā</i> : Hardy [1894]
<i>Sn</i>	<i>Suttanipāta</i> : Andersen & Smith [1913]

<i>SN</i>	<i>Samyuttanikāya</i> : Feer [1975]
<i>Sp</i>	<i>Samantapāsādikā</i> : Takakusu & Nagai [1975]
<i>Spk</i>	<i>Sāratthappakāsinī</i> : Woodward [1977]
<i>Sp-ṭ</i>	<i>Sāratthadīpanī</i> : Vipassana Research Institute [1998a]
<i>Sv</i>	<i>Sumaṅgalavilāsinī</i> : Davids & Carpenter[1968], Stade[1971]
<i>Sv-pṭ</i>	<i>Līnatthappakāsinī I</i> : Silva [1970]
<i>Th</i>	<i>Theragāthā</i> : Oldenberg & Pischel [1966]
<i>Vism</i>	<i>Visuddhimagga</i> : Davids [1975]
<i>Vism-mhṭ</i>	<i>Visuddhimaggamahāṭṭhā</i> : Vipassana Research Institute [1998e]
<i>Vv</i>	<i>Vimānavatthu</i> : Jayawickrama [1977]

『南伝』 『南伝大蔵経』: 大蔵出版 [1935-41]

テキスト・翻訳

1

Vatṭaṅgulirājasuttavaṇṇanā

『ヴァットングリ王物語』

Vatṭaṅgulirājasuttavaṇṇanā

evam¹ me sutam. ekaṃ samayaṃ bhagavā sāvattīyaṃ² viharati³ jetavane anāthapiṇḍikassārāme⁴. tena kho pana samayena passenadikosalo⁵ rājā tasmim nagare rajjaṃ kāresi. so rājā dhammarājā catūhi saṅgahavatthūhi mahājanaṃ pāleti adaṇḍena asatthēna. so niccaṃ sāyaṇhasapaye⁶ dhammassavanatthāya⁷ gandhamālādīni⁸ gahetvā jetavaṃ⁹ gacchati.

ekadā kira samayena¹⁰ bhagavā paccusamaye¹¹ utṭhāya¹² pi¹³ cakkhunā lokaṃ oloketvā duruthāne¹⁴ vevenyyajanānaṃ¹⁵ adassa¹⁶. tadā¹⁷ pāto¹⁸ vuṭṭhāya¹⁹ sarirakiccaṃ²⁰ katvā pattacivaram²¹ ādāya tattha gantvā dhammaṃ desetvā taṃ puggalaṃ sotāpattiphale²² patitṭhāpesi²³.

tadā passenadikosalo rājā saparivāro gandhamālādīni²⁴ gāhāpetvā sāyaṇhasamaye dhammassavanatthāya²⁵ jetavanaṃ gacchanto tathāgataṃ adisvā pakampamānahadayo²⁶ dukkhi²⁷ dummano²⁸,

aho²⁹ suñño³⁰ jetavanaṃ³¹ ti

āha,

chinnā³² vata³³ me āsā ti.

¹ (paṃ, b) evam AZ; (dham, a) eva B; (pau, a) evam C

² sāvattīyaṃ A; (paḥ, a) sāvattīyaṃ Z

³ (paḥ, a) viharati A

⁴ anāthapiṇḍikassārāme A; anāthapiṇḍikassa ārame B

⁵ [pasenadikosalo]

⁶ [sāyaṇhasamaye A]; sāyaṇhasamaye na B; sāyaṇhasameye na C

⁷ dhammassavanatthāya A; dhammassavanatthāya B; dhammassavanatthāya C

⁸ gandhamālādīni B; gandhamālādīni C

⁹ [jetavanaṃ AC]; jetavanaṃ B

¹⁰ samaye A

¹¹ paccasamaye B; paccusamaye C; [paccūsamaye]

¹² upāyaṃ BC

¹³ mi A; pi om. B

¹⁴ durathāne AC; duratṭhāne B; [dūratṭhāne]

¹⁵ vevenyyajanānaṃ B; vevenyyajānā(pau, b)naṃ C

¹⁶ addassa A; [addasā]

¹⁷ taṃdā B

¹⁸ pā(dham, b)to B

¹⁹ vaṭṭhāya B

²⁰ sarirakiccaṃ AC; sariraṃ kiccaṃ B

²¹ pattacivaramm B; pattacivaram C

²² sotāpattiphalaṃ BC

²³ patitṭhāpetvā BC

²⁴ gandhamālādīni C

²⁵ dhammassavanatthāya AC; dhammassavatthāya B

²⁶ pakampamānahada(paḥ, b)yo A; kappamānahadayo B

²⁷ dukkhi BC

²⁸ dumano B

²⁹ (paḥ, b) aho Z

³⁰ suñño A; suñṇā B; suñṇā C; [suñṇā]

³¹ jetavanaṃ B

³² chinnaṃ C

³³ vatta B

evañ ca pana³⁴ vatvā vip̐patisāro³⁵ hutvā dipadhupagandhamālādīhi³⁶ bhagavato āsanam̐ pūjetvā puna
sāvattihīya³⁷ gantvā pāvīsi³⁸.

so rājā sakalaratti³⁹ vigatathīnamiddho⁴⁰ amacce brāhmaṇagahapatike⁴¹ ca⁴² āpantetvā⁴³
evam āha,

bhonto buddhā⁴⁴ nāma anividhanivāsā⁴⁵ yattha yattha veneyyasattā nivassanti⁴⁶ tattha tattha
gacchanti buddhānam⁴⁷ karaṇāhi⁴⁸ nāma, amhākaṃ buddhopamāṇo⁴⁹ na saṃghānāma⁵⁰
niccakālam̐ ratanattayam̐⁵¹ payirūpāsītuṃ⁵² icchāmi, sace bhagavā aññatra⁵³ gacchati⁵⁴ aññesam̐⁵⁵
atthāya mama vattam̐ upacchindati⁵⁶, tasmā buddhapatimam̐⁵⁷ sace⁵⁸ bhagavatā⁵⁹ anuññātam̐⁶⁰
kattukāmomhī⁶¹ ti.

sabbe amaccādayo rañño⁶² vacanam̐ sutvā pamuditacittā⁶³ evam āhaṃsu⁶⁴.

cintayantehi⁶⁵ mahārāja sabbasattānam⁶⁶ atthāya⁶⁷ cīram̐⁶⁸ bhavissam̐⁶⁹ mayam̐ yathābalaṃ
buddhapatimam̐⁷⁰ karissāmā ti.

³⁴ pavana C

³⁵ vip̐patisāro B; vip̐patisāro C

³⁶ dipadhupagandhamālādīhi A; dipadupagandhamālādīhi B; dipadhupagandhamālādīhi C; [dīpadhūpagandhamālādīhi]

³⁷ sāvattihīyam̐ AC; sāvattihīyam̐ B; [sāvattim̐]

³⁸ [pāvīsi BC]

³⁹ [sakalarattim̐ AC]

⁴⁰ vigatathīnamiddho AC; vigatathīnamiddho B

⁴¹ brāhmaṇagahapatike A

⁴² pa B

⁴³ [āpantetvā ABC]

⁴⁴ buddā B

⁴⁵ [anibaddhanivāsā A]; anividhanivāsā B; aniccanivāsā C

⁴⁶ [nivasanti A]; nivasattāni B; nicassanti C

⁴⁷ buddhānam̐ B

⁴⁸ karaṇāhi B

⁴⁹ buddhomāpamāṇo A; buddhāmāpamāṇo dhammā B; buddhāmāpaha(pam̐, a)ṇo C

⁵⁰ saṃgham̐ nāma B; saṃgham̐ nāma C; [saṃghārāme]

⁵¹ ratana(dhaḥ, a)tayam̐ B

⁵² [payirūpāsītuṃ]

⁵³ aññatra A; aññataram̐ B; aññatram̐ C

⁵⁴ gacchanti B

⁵⁵ aññesam̐ ABC

⁵⁶ upacchindati B

⁵⁷ buddhapatimam̐ B; [buddhapaṭimam̐]

⁵⁸ saceṃ C

⁵⁹ bhagavā BC

⁶⁰ anuññātam̐ AC; anaññātam̐ B

⁶¹ kattukāmomhī BC

⁶² rañño ABC

⁶³ pamaditacitto B

⁶⁴ āha B

⁶⁵ cintayantehi B

⁶⁶ sattānam̐ A; sabbasattā(pha, a)nam̐ Z

⁶⁷ atthā(pha, a)ya A

⁶⁸ [cīram̐ ABC]

⁶⁹ bhavissa B; [bhavissati]

⁷⁰ buddhapatimam̐ B

atha rājā punadivase sāyaṇhasamaye⁷¹ amaccādayo⁷² āmantetvā gandhamālādīni⁷³ gāhāpetvā jetavanaṃ gacchati yena bhagavā tenupasaṅkami⁷⁴ upasaṅkamitvā⁷⁵ bhagavantaṃ pūjetvā vanditvā⁷⁶ ekamantaṃ nisīdi⁷⁷. ekamantaṃ nisinnō⁷⁸ kho passenadikosalo⁷⁹ rājā bhagavantaṃ etad avoca,

hiyo⁸⁰ bhante sāvatthiyaṃ manussā jetavanaṃ āgatā bhagavantaṃ adisvā⁸¹ vipptisārā⁸² sakagehaṃ⁸³ gatā⁸⁴ aho suññaṃ⁸⁵ jetavanaṃ⁸⁶ ti⁸⁷ vandamānā puna sāvatthiyaṃ⁸⁸ pāvimsu⁸⁹, tasmā bhante lokānukampāya amhākaṃ buddhapatimākāraṇaṃ⁹⁰ anujānātha, mayāṃ saddhāya sampannā buddhapatimaṃ⁹¹ kātuṃ icchāmi⁹² sace bhagavatā anuññātan⁹³ ti.

atha bhagavā rañño⁹⁴ vacanaṃ sutvā⁹⁵ evam āha.

sādhu sādhu mahārāja⁹⁶ karohi buddhapatimaṃ⁹⁷ yathākāmaṃ⁹⁸ anujānāmi⁹⁹ ti.

atha rājā tathāgatassa vacanaṃ sutvā pītimānaso¹⁰⁰ hutvā bhagavantaṃ vanditvā dhammaṃ sutvā saha amaccehi āpucchitvā nagaraṃ pāvīsī¹⁰¹. so rājā punadivase sabbe vaḍḍhakiṃ¹⁰² pakkosāpetvā mahagghena candanasārena¹⁰³ buddhapatimaṃ kāresi. niṭṭhite¹⁰⁴ cana¹⁰⁵ buddhapatimākāraṇe¹⁰⁶

71 sāyhasamaye B
72 āmaccā dadayo B
73 gandamālādīni B
74 tenupasaṅkamitvā B
75 upasaṅkamitvā *om.* B
76 vanditvā C
77 nisīdi BC
78 nisinnaṃ B
79 passenadikosallo AC
80 [hiyyo A]
81 ādisvā A
82 vipptisārā B; [vipptisārā]
83 sakaṭaṃ B; (paṃ, b) sakaṭaṃ C
84 gaṇhāya BC
85 suññaṃ ABC
86 jetavanaṃ BC
87 ti *om.* B
88 sāva(dhah, b)ṭthiṃ B
89 pāvīsu B
90 [buddhapatimākāraṇaṃ AC]; buddapatimākāraṇaṃ B
91 buddapatimaṃ B
92 [icchāma C]
93 anuññātan ABC
94 rañño ABC
95 sutvā *om.* B
96 mahārāja BC
97 buddha(pha, b)patimaṃ A
98 (pha, b) yathākāmaṃ Z
99 anujānāmi A
100 pītimānaso C
101 pāvīsī A; [pāvīsī BC]
102 vaḍḍhaki B; vaḍḍhaki C; [vaḍḍhaki]
103 ccandasārena B
104 niṭṭhita B
105 [pana AC]; canda B
106 buddhapatimākāraṇe AC; buddapatimākāraṇe B; [buddhapatimākāraṇe]

cittakaṃ sulikkhāpetvā¹⁰⁷ lekhārasadisam¹⁰⁸ buddhapatimaṃ¹⁰⁹ kāśāvena¹¹⁰ pārupitvā
sajīvamānasammāsambuddho¹¹¹ viya ahoṣi¹¹². taddā¹¹³ passenadikosalo¹¹⁴ rājā buddhapatimānurūpaṃ¹¹⁵
nānāvīcittaratanaṃmaṇḍapaṃ¹¹⁶ kārapetvā maṇḍapamajjhe¹¹⁷ sihāsane¹¹⁸ buddhapatimaṃ¹¹⁹
nisīdāpetvā¹²⁰ bahūsakkāraṃ¹²¹ akāsi¹²².

tadā rājā saha parivārehi¹²³ vihāraṃ gantvā bhagavantaṃ¹²⁴ vanditvā nivedesi,

bhante niṭṭhitaṃ buddhapatimākaraṇaṃ¹²⁵ sace¹²⁶ bhagavā passeyya ativiya sobhatī ti.

atha¹²⁷ bhagavā tuṅhībhāvena¹²⁸ sampaṭṭicchi¹²⁹.

punadvase satthā bhikkhusaṃghaparivutto¹³⁰ rājanivesanaṃ pavīsītva¹³¹ yena
buddhapatimaṃ¹³² tenupasaṅkami. tasmaiṃ khaṇe buddhapatimā¹³³ satthāraṃ disvā,

sajīvamānasammāsambuddhe¹³⁴ dhamaṇe mayā evarūpe uccāsane¹³⁵ nisīdituṃ¹³⁶ ayuttan ti
cintetvā sattaratanaśihāsanaṃ¹³⁷ otarituṃ¹³⁸ ārabhi. atha bhagavā pana¹³⁹ taṃ¹⁴⁰ disvā
erāvaṇasoṇḍasadisam¹⁴¹ dakkhiṇaḥatthaṃ¹⁴² pasāretvā nivāresi,

¹⁰⁷ sudulikkhāpetvā B; sutṭhulikkhāpetvā C; [sulikkhāpetvā]

¹⁰⁸ lekhārasadisam B; lekhārūpasadisam C; [lākhārasadisam]

¹⁰⁹ buddhapatimaṃ om. B

¹¹⁰ kāśāvaṃ BC

¹¹¹ sajīvamānabuddhasammāsammambuddo B; sajīvamānabuddhasammāsambuddho C

¹¹² (paḥ, a) ahoṣi C

¹¹³ tathā A

¹¹⁴ passenidikosalo B

¹¹⁵ buddapatimānurūpaṃ B; buddhapatimānurūpaṃ C

¹¹⁶ nānāvīcittaratana(na, a)maṇḍapaṃ B

¹¹⁷ maṇḍamajjhe C

¹¹⁸ [śihāsane]

¹¹⁹ buddapatimaṃ B

¹²⁰ nisīdāpetvā B

¹²¹ bahūsakkāraṃ ABC

¹²² akāsi A

¹²³ parivāhi B

¹²⁴ bhavavantaṃ B

¹²⁵ buddhapatimākaraṇaṃ B

¹²⁶ sace ce C

¹²⁷ a(phā, a)tha A

¹²⁸ tuṅhībhāvena ABC

¹²⁹ sampaṭṭicchi C; sa(phā, a)mpaṭṭicchi D

¹³⁰ bhikkhūsamghaparivutto A; [bhikkhūsamghaparivuto]

¹³¹ [pavīsītva BC]

¹³² buddapatimaṃ B

¹³³ buddapatimā B

¹³⁴ sajīvamānasammāsambūde A; sajīvamānasammāsambudde B; sajīvamānasammāsabuddhe C

¹³⁵ utṭhāyāsane B

¹³⁶ nisīdituṃ A; nisīdituṃ BC

¹³⁷ [sattaratanaśihāsanaṃ A]

¹³⁸ otarituṃ B

¹³⁹ pana om. B

¹⁴⁰ patimaṃ B

¹⁴¹ erāvaṇasoṇḍasadisam A; [erāvaṇasoṇḍasadisam]

¹⁴² dakkhiṇaṃ hatthaṃ B

nisīdatu¹⁴³ mā āvuso¹⁴⁴ otari, ahaṃ na cīrasseva¹⁴⁵ parinibbāyissāmi, tvañ cāvuso
 pañcavassasahassāni¹⁴⁶ mama sāsanaṃ pālehi, sabbalokatthāyāti¹⁴⁷ sāsanaṃ paṭicchādesi¹⁴⁸.
 so taṃ¹⁴⁹ sutvā viya punāsane nisīdi¹⁵⁰. tadā rājāpamukhā¹⁵¹ mahājanā¹⁵² taṃ acchiriyaṃ¹⁵³ dvisvā¹⁵⁴
 sāsane uraṃ datvā celukkhapasatasahassāni¹⁵⁵ pavattayimṣu.

tadā passenadikosalo¹⁵⁶ rājā bhagavantaṃ vanditvā buddhapatimakaraṇānisamse¹⁵⁷ pucchanto
 bhagavantaṃ¹⁵⁸ avoca.

bhante yo koci puriso vā itthi¹⁵⁹ vā buddhapatimaṃ karonto¹⁶⁰ so katam¹⁶¹ ānisaṃsaṃ labhati¹⁶²
 ti.

taṃ sutvā bhagavā mukhakambalaṃ¹⁶³ vivarivā rājānaṃ¹⁶⁴ etad¹⁶⁵ avoca,

mahārāja¹⁶⁶ koci puriso vā¹⁶⁷ itthi¹⁶⁸ vā saddhāsampanno buddhapatimaṃ¹⁶⁹ karonto
 mattikamayaṃ vā selamayaṃ vā¹⁷⁰ lohamayaṃ vā tambamayaṃ¹⁷¹ vā kaṭṭhamayaṃ¹⁷² vā
 tipukamayaṃ¹⁷³ vā ratanamayaṃ vā rajatamayaṃ¹⁷⁴ vā suvaṇṇamayaṃ¹⁷⁵ vā¹⁷⁶ dantamayaṃ¹⁷⁷
 vā visānamayaṃ¹⁷⁸ vā likkhitamayaṃ¹⁷⁹ vā yaṃ kiñci sabbantamayaṃ¹⁸⁰ vā so ca¹⁸¹

¹⁴³ ditu B; nisidatu C

¹⁴⁴ āvu(paḥ, b)so C

¹⁴⁵ [cīrasseva BC]

¹⁴⁶ (na, b) pañcavassasahassāni B

¹⁴⁷ sabbalokatvatthāya B; [sabbalokatthāyā]

¹⁴⁸ [paṭicchādesi ti B]

¹⁴⁹ tvam B

¹⁵⁰ nisidi BC

¹⁵¹ rājāpamukhā A; rājāpamukhā B

¹⁵² mahājanā B

¹⁵³ acchiriyaṃ B

¹⁵⁴ dvisvā C

¹⁵⁵ [celukkhapasatasahassāni AC]; celukkhapasatasahassāni B

¹⁵⁶ passenadikosallo AC

¹⁵⁷ [buddhapatimāka(phā, b)raṇānisamse A]; buddhapatimakaraṇānisamse ~ bhagavantaṃ *om.* B; buddhapatimākarāṇānisamse C;

(phā, b) buddhapatimākarāṇānisamse Z

¹⁵⁸ buddhapatimākarāṇānisamse ~ bhagavantaṃ *om.* B

¹⁵⁹ itthi A

¹⁶⁰ karono B

¹⁶¹ [kam A]

¹⁶² bhetī A; labhati C

¹⁶³ mukhakambalaṃ A; mukkhakambalaṃ C; [mukhakamalaṃ]

¹⁶⁴ rājānaṃ eva BC

¹⁶⁵ tad C

¹⁶⁶ mahārāja yo

¹⁶⁷ vā vā B

¹⁶⁸ itthi BC

¹⁶⁹ buddhapatimaṃ B

¹⁷⁰ vā *om.* ABC

¹⁷¹ tāmbamayaṃ BC

¹⁷² kamsamayaṃ B

¹⁷³ tipukamayaṃ C

¹⁷⁴ rajjatamayaṃ AB; rajjāta(pha, a)mayaṃ C; [rajatamayaṃ]

¹⁷⁵ (nā, a) yuvaṇṇamayaṃ B

¹⁷⁶ vā *om.* B

¹⁷⁷ dahantamayaṃ B

¹⁷⁸ [visānamayaṃ A]

¹⁷⁹ [likhitamayaṃ]

¹⁸⁰ sabbattamayaṃ A

¹⁸¹ ca *om.* B

mahapphalam¹⁸² mahānisamsam labhissati. yāca¹⁸³ mahārāja loke buddhapatimam¹⁸⁴ tiṭṭhati na¹⁸⁵ tāva loko buddhasuñño¹⁸⁶ bhavissati, sāsane ca patittham¹⁸⁷ labhati, yo ca buddhapatimam katvā dharamāne¹⁸⁸ sukharāyano ahoṣi yaṃ patthanam paṭṭhpeti¹⁸⁹ taṃ taṃ phalam yathākāmaṃ labhissatī ti.

bodhisatto mahārāja pubbe kusalam katvā mattikāya buddhapatimāyam¹⁹⁰ ekaṅgulicchinnam¹⁹¹ puna pākātikam¹⁹² karitvā appamattakam pi pūjam¹⁹³ akāsi. tassa phalena sagge saggasampattim¹⁹⁴ yathākāmaṃ anubhavitvā tato¹⁹⁵ cavitvā¹⁹⁶ jambūdipe¹⁹⁷ ekarājā ahoṣi. tato param bodhimaṇḍe nisīditvā¹⁹⁸ sāgaratalapariyantam¹⁹⁹ mārabalam²⁰⁰ vidhamsetvā²⁰¹ sabbaññutam²⁰² patto ti.

tena raññā²⁰³ yācito atītam²⁰⁴ āhari.

atīte²⁰⁵ kira amaravatī²⁰⁶ nāma nagare eko bānijo²⁰⁷ kulabaddhakumāro²⁰⁸ nāma pativassati²⁰⁹. ekadā²¹⁰ kira samaye kulabaddhakumāro²¹¹ bānijjakammatthāya²¹² bānijjakasahashehi²¹³ saddhim aññam²¹⁴ nagaram pāyāsi. gacchanto so antarāmagge vanārāme ekaṃ buddhapatimam mattikamayam vassodakena bhinnekaṅgulim disvā taṃ²¹⁵ vanditvā guḷena mattikam²¹⁶ maddhitvā²¹⁷

¹⁸² pamphalapphalam B
¹⁸³ yāvaca A; [yāva BC]
¹⁸⁴ [buddhapatimā A]; buddapatimam B
¹⁸⁵ na ~ paṭṭhpeti *om.* B
¹⁸⁶ buddhasuñño AC
¹⁸⁷ patittham C
¹⁸⁸ dharammāne C
¹⁸⁹ (phi, a) paṭṭhpeti AZ; na ~ paṭṭhpeti *om.* B
¹⁹⁰ [buddhapatimāya AB]
¹⁹¹ ekaṅgulicchinnam A; ekāgulitthinam B; ekāgulicchinnam C
¹⁹² pākātikam BC
¹⁹³ pūjam C
¹⁹⁴ sampattim A; sagge sampattim B; saggasampatti C
¹⁹⁵ tato *om.* B
¹⁹⁶ cavitvā *om.* B
¹⁹⁷ jambūdipe A; jambudipe C; [jambudipe]
¹⁹⁸ nisīditvā BC
¹⁹⁹ sāgarapariyantam B
²⁰⁰ māram balam C
²⁰¹ [vidhamsetvā]
²⁰² sabbaññutam AC; sabbaññūtañam B
²⁰³ raññā ABC
²⁰⁴ atitam BC
²⁰⁵ atīte B; atī(pha, b)te C
²⁰⁶ ammaravati B; amaravati C
²⁰⁷ bānijjo B; [vānijo]
²⁰⁸ kulabaddhakumāro B; kulabbandakumāro C; [kulavaddhakumāro]
²⁰⁹ pativasati A; mativassati B; patimvassati C; [pativasati]
²¹⁰ (nā, b) ekadā B
²¹¹ kulabaddhakumāro B; kulabandakumāro C
²¹² [vānijjakammatthāya]
²¹³ bānijjakasahashehi ~ yaññatthāya *om.* BC; [vānijjakasahashehi]
²¹⁴ aññam A
²¹⁵ (phi, b) taṃ A

paripuṇṇabuddhapatimāṅgulim akāsi. so dipadhūpagandhamālādīhi²¹⁸ pūjetvā etissāpeti²¹⁹ rakkhitāya²²⁰ dāsiyā yaññathāya²²¹ dipadhūpagandhamālāya²²² pūjāya ca aṭṭhakahāpanam²²³ ādāya²²⁴ adāsi²²⁵. ekavattham²²⁶ nivāsetvā atirekataram pīti uppajji. tadā bodhisatto añjaliko²²⁷ ca²²⁸ evam²²⁹ pattheti²³⁰,
bhante iminā aṅgulikaraṇanissandena²³¹ anāgate kāle sabbe paccatthikā maṃ samukhā²³² mā hoti²³³, dhuvam²³⁴ buddho bhavissāmi²³⁵ ti.
tato²³⁶ paṭṭhāya bala-amittā²³⁷ pi antamaso pi ahivicchikā pi tassā²³⁸ samukhā gato²³⁹ nāhesum. tato cavitvā saggaloke nibbattivā saggasampattiṃ anubhavati²⁴⁰. tasmim²⁴¹ sabbe asurā saggalokam oloketum pi na visahiṃsu²⁴². tato cavitvā bārāṇasīraṇi²⁴³ aggamaheṣiyā²⁴⁴ kucchimhi paṭisandhim gaṇhi, devatāsahassā²⁴⁵ parivārā²⁴⁶ pana²⁴⁷ amaccakule balabhitthiyā²⁴⁸ kucchimhi²⁴⁹ paṭisandhim²⁵⁰ gaṇhiṃsu²⁵¹. sā aggamaheṣī²⁵² dasamāse sampunne²⁵³ dhañṇapuñṇalakkhaṇasampannam²⁵⁴ puttam vijāyi²⁵⁵. amaccagehesu balabhitthiyo²⁵⁶ tadahe²⁵⁷ va putte vijāyiṃsu²⁵⁸.

-
- 216 matti(phi, b)kaṃ Z
217 [madditvā]
218 dipadhūpagandhamālādīhi A
219 etissāpeti A; [etissāpi]
220 rakkhitāya A
221 yaññathāya A; bāññakasaṇṇasāsehi ~ yaññathāya om. BC
222 dipadhūpagandhamālāya A; dipapūpagandamālā B; dipadhūpagandhamālā C
223 aṭṭhakahāpanam B
224 ādāya om. B
225 dāsi C
226 etthavattham B
227 añjaliko B
228 ca om. BC
229 eva BC
230 paṭṭhahi B; paṭṭheti C
231 [aṅgulikaraṇanissandena A]; aṅgulikaraṇam nissandena B
232 [sammukhā]
233 hotu A; hohi B; hotu C; [hontu]
234 vudham A
235 bhavissāmā B; bhavissa C
236 tato pato B
237 balavittā B; balamattā C
238 [tassa A]
239 gatā AB
240 anubhaviti B; anubhavisati C
241 tasmim ~ visahiṃsu om. BC
242 tasmim ~ visahiṃsu om. BC
243 bārāṇasīraṇi AC; bārāṇasīraṇi B
244 aggamaheṣiyā A; aggemahesiyā B
245 deva(phī, a)tāsahassā A; devatāsa(phī, a)hassā Z
246 parivārā B; parivāvā C
247 puna BC
248 balabhitthiyā A; bala-itthiyo B; [vallabhitthiyā]
249 kucchi(phā, a)mhi C
250 paṭisandhi B
251 gaṇhisu B; gaṇhisum C
252 aggamaheṣi BC
253 sampanne A; sappanne B; sappunne C
254 dhañṇapuñṇalakkhaṇasampannam AC; dhañṇapuñṇalakkhaṇasa(ni, a)ppannam B
255 vijāyi A
256 balabhitthiyo A; bala-itthiyo B
257 tadahe B
258 vijāyiṃsu A; vijāyiṃsu B

bodhisatto kumāraparivārehi vaḍḍhamāno²⁵⁹ sahaḷātadārakehi²⁶⁰ parivārito. ye ye²⁶¹ hati²⁶² vā²⁶³ dunnivāritā²⁶⁴ te disvā ekāṅgulīnā²⁶⁵ uddhiccamattena²⁶⁶ tadā hete²⁶⁷ hatthi²⁶⁸ assā pattiṃsu²⁶⁹, tasmā tassa vattaṅgulī²⁷⁰ ti nāmam²⁷¹ karimṣu²⁷². so pitu accayena rajje²⁷³ patitṭhito dhammena rajjam kāresi. adaṇḍena asatthena catuhi²⁷⁴ saṅghavattḥūhi mahājanānaṃ²⁷⁵ pāleti. so dhammiko dhammarājā chadānasālāyo²⁷⁶ kārapetvā divase divase²⁷⁷ chasatasahassagghanikaṃ²⁷⁸ mahādānaṃ adāsi. añña²⁷⁹ sarirato²⁸⁰ khuddhakamakkhikāpivanamattaṃ²⁸¹ pi lohitaṃ²⁸² na visajjeti²⁸³, kā kathā nāma sattaḡhāte²⁸⁴. parassa bhaṇḍa²⁸⁵ kākaṇikamattaṃ pi sāpikena²⁸⁶ adinnaṃ na²⁸⁷ gaṇhi²⁸⁸. paraḍāraṃ rāgena na olokesi²⁸⁹. kiṅci²⁹⁰ musāvādam attam pi na bhaṇati. paṅcavidham²⁹¹ suram na pivati.

tadā sakalajambūdi²⁹² ekasatarājāno²⁹³ mahāsattassa guṇabhāvaṃ sutvā ekato sannipatitvā²⁹⁴ mantayimṣu,

mayam tassa rajjam²⁹⁵ tam patthitam²⁹⁶ padumaṃ viya gahessāmā ti.

²⁵⁹ [vaḍḍhamāno]

²⁶⁰ sahaḷātāpārakehi B

²⁶¹ yo B

²⁶² hatthi ABC; [hatthi assā]

²⁶³ vā *om.* A

²⁶⁴ vāritā A; dutivāritā B

²⁶⁵ ekāṅgulīnā A; ekāḡulinā BC

²⁶⁶ uddhiccamattena A; saccamattena BC; [udditṭhamattena]

²⁶⁷ te BC

²⁶⁸ hatthi BC

²⁶⁹ mattiṃsu A; patiṃsa tasmimḡ khaṇe B; pattimṣu tasmimḡ khaṇe C; [patiṃsu]

²⁷⁰ vattali B; vattaṅguli C; [vaṭṭaṅgulī]

²⁷¹ nāmam B

²⁷² akamṣu B

²⁷³ rajjena B; raje C

²⁷⁴ catūhi AB

²⁷⁵ [mahājanaṃ]

²⁷⁶ chadānusālāyo C

²⁷⁷ divasa A; divase *om.* BC

²⁷⁸ [chasatasahassagghanikaṃ A]; sattasahassagghanikaṃ B; chachasatasahassagghanikaṃ C

²⁷⁹ añña ABC; añña(phī, b)ssa Z

²⁸⁰ sarirato ABC

²⁸¹ [(phī, b) khuddakamakkhikāpivanamattaṃ A]; khudakamaṇḍikāpivenamattaṃ B; khuddhakamakkhikāpi(phā, b)vanamattaṃ C

²⁸² lohataṃ C

²⁸³ visajjesi B; visajeti C

²⁸⁴ [sattaḡhāte B]; sattaḡhāte C

²⁸⁵ [bhaṇḍam AB]

²⁸⁶ sāmike A; [sāmikena B]; sāmikena C

²⁸⁷ nam A

²⁸⁸ gaṇhi(ni, b). B

²⁸⁹ olokitaṃ B

²⁹⁰ kiṅca A

²⁹¹ paṅca BC

²⁹² sakalajambūdi^{pe} A; sakalajambudipe C

²⁹³ ekasattarājāno B

²⁹⁴ sannimatitvā A

²⁹⁵ rajjam B

²⁹⁶ paṭitam B

sabbe te aṭṭhārasa-akkhobhīnisankhātāni²⁹⁷ caturaṅginīyā²⁹⁸ senāhi parivāritā²⁹⁹ bārāṇasībhīmukhā³⁰⁰
aggamamsu³⁰¹. antarāmagge evaṃ paṇṇaṃ³⁰² likkhitvā,

rajjam³⁰³ vā no detha no³⁰⁴ ce³⁰⁵ amhehi pi yujjhatha amhehi yaṃ yaṃ vā icchatha taṃ taṃ
karothā³⁰⁶ ti

dūtassa³⁰⁷ paṇṇaṃ³⁰⁸ datvā pesayimsu³⁰⁹, dūto³¹⁰ bārāṇasiyaṃ³¹¹ pavīsivā³¹² rājaṅgaṇe aṭṭhāsi³¹³. eko³¹⁴
amacco³¹⁵ taṃ disvā rājānaṃ ārocesi³¹⁶. rājā naṃ pakkosāpetvā³¹⁷ āmantetvā pavuttiṃ³¹⁸ pucchi³¹⁹.
dūto³²⁰ rañño³²¹ paṇṇaṃ adāsi. bodhisatto paṇṇaṃ vācetvā³²² taruṇasiho³²³ viya asambhito³²⁴ hasitaṃ
katvā dūtaṃ³²⁵ eva pucchi,

katippamaṇā rājāno āgacchanti katippamaṇā balanikāyā ti

dūto³²⁶ āha,

ekasatarājāno āgatā³²⁷ aṭṭhārasa-akkhobhīnīyā³²⁸ balanikāyā ti.

taṃ sutvā mahāsatto³²⁹ evaṃ āha,

aham³³⁰ eva adaṇḍena asatthena ete rājāno balanikāyā³³¹ eva³³² ekaṅgulīnā³³³ palāpentā³³⁴ na
māremī ti.

²⁹⁷ aṭṭhārasa-akkhobhīnisankhātāhi AC; aṭṭhārasa-akkhobhīnisāṅgātāhi B; [aṭṭhārasa-akkhobhāṇisankhātāhi]

²⁹⁸ caturaṅganiyo B; [caturaṅginīyā C]

²⁹⁹ parivāratā A

³⁰⁰ bārāṇasībhīmukhā B; bārāṇasiṃ bhīmukhā C

³⁰¹ [agamamsu]

³⁰² paṇṇaṃ BC

³⁰³ chattaṃ BC

³⁰⁴ no *om.* BC

³⁰⁵ ce *om.* BC

³⁰⁶ karorothā B

³⁰⁷ dutassa A

³⁰⁸ paṇṇaṃ BC

³⁰⁹ pesayisu B

³¹⁰ dūto ABC

³¹¹ bārāṇasiyaṃ ABC; [bārāṇasiṃ]

³¹² [pavisivā BC]

³¹³ a(phi, a)ṭṭhāsi C

³¹⁴ (phu, a) eko Z

³¹⁵ (phu, a) amacco A

³¹⁶ arocesi C

³¹⁷ pakkosāpetvā C

³¹⁸ pavuttiṃ B

³¹⁹ pucchatī ti. (nī, a) . B

³²⁰ dūto BC

³²¹ rañño ABC

³²² vāpetvā B

³²³ taruṇasiṃho B; taruṇasiho C

³²⁴ [asambhito A]; achamhito B

³²⁵ dutam B

³²⁶ dūto C

³²⁷ āgato A

³²⁸ aṭṭhārasa-akkhobhīnīyā A; aṭṭhārasa-akkhobhīnīyā BC

³²⁹ pahahāsatto B

³³⁰ aham C

³³¹ balanikāyā BC

³³² va BC

³³³ ekaṅgulīnā A; ekakuṅgulīnā B

³³⁴ malopento B; [palāpento C]

tadā sahaṅgātā amaccā bodhisattaṃ vanditvā evam³³⁵ āhaṃsu,

deva mayaṃ yujjhāma, sabbe mayaṃ balavantā virā³³⁶ viraṅgarūpā³³⁷ paṇḍitā saṅgāmena³³⁸
anivattajātikā³³⁹ parasenācamaddanasamatthā³⁴⁰, erāvaṇṇasadiso³⁴¹ pi mahāgajjento³⁴² na
muñceyya, no asutaṃ³⁴³ na kā kathā hatthī³⁴⁴ sāmaññe³⁴⁵ ti

yuddhaṃ³⁴⁶ yāciṃsu. mahāsatto³⁴⁷ evam āha,

mā tumhe yujjhatha, sabbe te ekasatarājāno³⁴⁸ te sabbe balanikāyā ca³⁴⁹ maraṇapattā ahesuṃ. na
koci mutto³⁵⁰ eko amacco tesam maraṇabhāvo puttadāre āroceyya. sesā³⁵¹ sabbe tumhe ṇhātvā
pātarāsaṃ³⁵² bhūñjitvā³⁵³ samaṇḍitasabbapasādhana³⁵⁴ dhammassa balapakatililāya³⁵⁵ maṃ
parivāretvā³⁵⁶ gacchatha, ahañ ca hatthipiṭṭhiyaṃ nisīditvā³⁵⁷. ekasatarājāno balanikāyā³⁵⁸ ca³⁵⁹
ekaṅgulīnā³⁶⁰ vā³⁶¹ palāpentā³⁶² na māremi, sabbe tumhe sve³⁶³ maṃ parivāretvā nikkhamathā ti

amacce uyyojesi.

atha mahāsatto pabhātāya rattiyā ṇhātvā³⁶⁴ nānattarasabhojanaṃ³⁶⁵ bhūñjitvā³⁶⁶
sabbālaṅkārapatimaṇḍito³⁶⁷ rājaṅgaṇe³⁶⁸ tthatvā³⁶⁹ sabbe amacce³⁷⁰ sannipātāpetvā³⁷¹, rājabāhaṇa³⁷²

³³⁵ eevam B

³³⁶ cirā B; [vīrā]

³³⁷ ciraṅgarūpā B; viraṅgarupā C

³³⁸ saṅgāme B; saṅgāsagāme C

³³⁹ anivattijātikā B

³⁴⁰ rasesenāpamaddhanasamatthā B; [parasenāpamaddana(phi, b)samatthā C]

³⁴¹ evāvaṇṇasadiso B

³⁴² (phu, b) mahāgajjento A; mahāgajjente B; mahā(phu, b)gajjento Z

³⁴³ asuta A; [sutā]

³⁴⁴ hatthī BC

³⁴⁵ sāmaññe ABC

³⁴⁶ yuddha B

³⁴⁷ mahāsa(nī, b)tto B

³⁴⁸ ekasataṃ rājāno A

³⁴⁹ ca *om.* B

³⁵⁰ putto A; mutto *om.* BC

³⁵¹ te B; sesa C

³⁵² pātarā BC

³⁵³ bhūñjitvā B

³⁵⁴ [samaṇḍitasabbapasādhana A]; samaṇḍitasabbepasādhana B

³⁵⁵ [balapakatililāya]

³⁵⁶ parivāpetvā B

³⁵⁷ nisīditvā BC

³⁵⁸ balanikāyā B; [balanikāye]

³⁵⁹ ca *om.* B

³⁶⁰ ekaṅgulīnā A; [ekaṅgulīnā B]; ekaṅgulīnā C

³⁶¹ [va]

³⁶² palāpento A; palāpetvā B

³⁶³ sace B

³⁶⁴ petvā B

³⁶⁵ nānattarasabhojanaṃ B; nānattarasabhojanaṃ C

³⁶⁶ bhūñjitvā B

³⁶⁷ saṅcalaṅkārapatimaṇḍito A; sabbalaṅkārapatimaṇḍito B; sabbālaṅkārapatimaṇḍito C; [sabbālaṅkārapatimaṇḍito]

³⁶⁸ (phū, a) rājaṅgaṇe Z

³⁶⁹ tthatvā(phū, a)tvā A; thatvā B; tthatvā C

³⁷⁰ (phī, a) amacce C

gajjentaṃ³⁷³ suvaṇṇakaccha³⁷⁴ sabbālaṅkārapatimaṇḍitaṃ suraparasenāmaddhanasamatthaṃ³⁷⁵
 susikkhitaṃ³⁷⁶ vajira-āṅkusahatthaṃ³⁷⁷ pavighataḡajjitaṃ³⁷⁸ abhiruyhi,³⁷⁹ amaccagaṇaparivutto³⁸⁰
 sakko viya devagaṇehi³⁸¹ parivārito devaccharapaṭibhāgāhi³⁸² uttamarūpadharāhi³⁸³ caturitthiyā³⁸⁴
 parivārito, mahantehi sarīrasobhaṇehi³⁸⁵ ratanavicittādaṇḍāhi³⁸⁶ suvaṇṇabālavijānihi³⁸⁷ vijayamāno,
 suvaṇṇaratanamayāni setachattasatāni³⁸⁸ dhāriyamāno, nānappakārehi dhajapaṭākehi³⁸⁹ nānappakārehi
 turiyasaṅghaṭṭhehi³⁹⁰ parivutto³⁹¹, tehi³⁹² parivārehi pācīnadvārena³⁹³ nikkhamitvā parasenaṃ³⁹⁴ disvā
 pucchanto gātham āha.

1. hatthi³⁹⁵ assā rathā pati³⁹⁶ senāya caturaṅgini³⁹⁷
 samantaṃ³⁹⁸ parivārenti sobhanti³⁹⁹ suriyo⁴⁰⁰ janaṃ⁴⁰¹
2. kassa ca⁴⁰² senā pahati⁴⁰³ piṭṭhito⁴⁰⁴ anupiṭṭhiyā⁴⁰⁵
 vividhā⁴⁰⁶ aparimānā⁴⁰⁷ sāgarasseva ummiyo ti.

taṃ sutvā amaccā bodhisattaṃ etad avocum⁴⁰⁸,

deva ete ekasatarājāno jambūdiṇe⁴⁰⁹ amhehi⁴¹⁰ yujjhanatthāya āgatā, tesam senā mahitī⁴¹¹

371 sannipātāpetvā A
 372 rājabāhanaA; rājabāhana B; rājabāhanaṃ C; [rājavāhanaṃ]
 373 gajjentaṃ A; gajenti B
 374 [suvaṇṇakacchaṃ A]; suvaṇṇakacca B;
 375 (nu, a) surapassenamaddanasamatthaṃ B; surapassenāmaddhanasamatthaṃ C; [suraparasenāmaddanasamatthaṃ]
 376 sasikkhitaṃ B; su-usikkhitaṃ C
 377 vajivarakusahatthaṃ B; pajirasahatthaṃ C
 378 pavighatajitaṃ ABC; [pavighatatajjitaṃ]
 379 abhiruyhi B; [abhiruyha]
 380 amaccagaṇaparivārito B
 381 devagaṇa B
 382 [devaccharapaṭibhāgāhi]
 383 uttamarupadharāhi C
 384 caturitthiyāyasa B; caturitthiyāyasa C
 385 sarīrasobhaṇehi AC; sarīrasobhaṇe B
 386 ratanavicittādaṇḍāhi B
 387 suvaṇṇabālavijānihi A; suvaṇṇabālavijānihi B; suvaṇṇabālavijānihi C; [suvaṇṇabālavijānihi]
 388 settachattasatāni B
 389 dhajjappadhākehi B
 390 turiyasaṅghaṭṭhehi B
 391 parivutto *om.* AB
 392 tehi *om.* AB
 393 pācīnadvārehi pācīnadvārena B; [pācīnadvārena]
 394 parisenaṃ B
 395 hatthi BC
 396 [pattī]
 397 caturīṅgini A; caturaṅgini B; caturaṅgini C
 398 samantā B
 399 [sobhanti A]
 400 suriyoda B
 401 [viya]
 402 ca *om.* BC
 403 [mahati A]; mahati senatha B; mahati C
 404 pi(phū, b)ṭṭhito A
 405 anupi(phū, b)ṭṭhiyā Z
 406 vidhāvi B; vi(phī, b)dhā C
 407 [aparimānā]
 408 acecum B
 409 jambūdiṇe A; jambūdiṇe C
 410 a(nu, b)mhehi B

sāgarasseva ummiyo ti.

taṃ sutvā mahāsatto evam āha.

gacchatha, tumhe bhāṇe pama⁴¹² vacanaṃ⁴¹³ ekasatarājūnaṃ kathetha, sabbe mayā saddhiṃ⁴¹⁴ yujjhikāma. sabbe rājāno hatthiṃ⁴¹⁵ abhiruyhantu⁴¹⁶, aññe⁴¹⁷ ca hatthāroha hatthiṃ⁴¹⁸ abhiruyhantu, assāroha assaṃ abhiruyhantu, rathāroha rathaṃ abhiruyhantu, sabbadhajjapaṭāke⁴¹⁹ ussāpenti(u)⁴²⁰, te patikā⁴²¹ sannaddhā⁴²² hontu, yaṃ yaṃ saṅgāme⁴²³ kattabbaṃ⁴²⁴ kiccaṃ⁴²⁵ sabbaṃ taṃ kammaṃ karontū⁴²⁶ ti.

amaccā gantvā taṃ⁴²⁷ sabbavacanaṃ⁴²⁸ ekasatarājūnaṃ vadanti. te sabbe rājāno amaccānaṃ vacanaṃ sutvā appoṭetvā⁴²⁹ hasanti⁴³⁰ unnādayamānā⁴³¹ pathavi⁴³² undriyasaddo⁴³³ viya ahesuṃ. te tehi sabbehi senāpatihi⁴³⁴ yodhagaṇehi⁴³⁵ sannaddehi⁴³⁶ ummakaccā⁴³⁷ sobhitā⁴³⁸ nānāvidhāni satiphalakāvudhāni⁴³⁹ gahetvā aññamaññā⁴⁴⁰ hi yathābāhanaṃ⁴⁴¹ abhiruyhanti. nānāvidhakhaggādīnaṃ⁴⁴² tomaraṃ⁴⁴³ vibhamantānekakoṭivijulātā⁴⁴⁴ viya ākāse sabbe⁴⁴⁵ dissanti. hatthino⁴⁴⁶ mahantaṃ koñcanādaṃ⁴⁴⁷ nadanti, assā te hasanti⁴⁴⁸, ete balanikāyā unnādanti⁴⁴⁹, tesam

⁴¹¹ mahati ABC; [mahatī]

⁴¹² [mama ABC]

⁴¹³ vapanam B

⁴¹⁴ saddhiṃsu C

⁴¹⁵ hitthī B; hatthī C

⁴¹⁶ abhiruyhanti B

⁴¹⁷ aññe ABC

⁴¹⁸ hatthī BC

⁴¹⁹ sabbadhajjapadhāke B; [sabbadhajjapaṭāke]

⁴²⁰ [ussāpenti AC]; ussāvapentu B

⁴²¹ patikāna B; pattikā C

⁴²² saddhā B

⁴²³ [saṅgāme ABC]

⁴²⁴ kattabbaṃ B

⁴²⁵ niccaṃ A

⁴²⁶ karontu B

⁴²⁷ ta B

⁴²⁸ sabbam vacanam A

⁴²⁹ apotetvā C

⁴³⁰ ha(phe, a)senti AZ; hasanti B

⁴³¹ unnādayoyānā B; unnādayantā C

⁴³² pathavi BC

⁴³³ unriyasaddo A; uddhisaddho B; u(phu, a)ndhisaddho C; [udriyanasaddo]

⁴³⁴ senāpatihi BC

⁴³⁵ yodhagaṇehi B

⁴³⁶ sandande(nū, a)hi B; sannaddehi C

⁴³⁷ ummakatvā B

⁴³⁸ [sobhitā ABC]

⁴³⁹ [satiphalakāvudhāni A]; satibalakāvadhāni B

⁴⁴⁰ aññamaññā ABC

⁴⁴¹ yathāsaṅgāhanaṃ B

⁴⁴² nānāvidhakhaggādīni B; nānāvidhakhaggādīna C

⁴⁴³ tomara BC

⁴⁴⁴ vibhamantānekakoṭivijulātā A; [vibhamantānekakoṭivijullātā]

⁴⁴⁵ sebbe B

⁴⁴⁶ hatthīno A; hatthīnoha C

⁴⁴⁷ koñcanādasaddham B

⁴⁴⁸ hissanti B

⁴⁴⁹ unnādanti ete balanikāyā unnādanti A

nighoso⁴⁵⁰ yugāntavātasaddasado⁴⁵¹ ahosi. tadā te rājāno tassa abhimukhā gatā ahesuṃ.

tadā mahāsatto ekāgulinā⁴⁵² sucitā⁴⁵³ pi baddhapatihāngulikākatānaṃ⁴⁵⁴ nisandena⁴⁵⁵ sabbe te hatthārohā hatthīhi pattanti, assārohā assāhi⁴⁵⁶ pattanti, rathārohā rathehi pattanti, patikā ummakaccasannaddhā⁴⁵⁷ chandhitasannaddhā⁴⁵⁸ palāyanti⁴⁵⁹, keci⁴⁶⁰ pattanti, keci sahasā⁴⁶¹ upaddhāvanti⁴⁶², keci vanapabbate⁴⁶³ pavīsanti,⁴⁶⁴ keci nadisamuddhatiresu⁴⁶⁵ niliyanti⁴⁶⁶, keci vatthasakattā⁴⁶⁷ hāyanti. mahāsatto tesam vippakāraṃ disvā mahākaruṇā⁴⁶⁸ uppādetvā⁴⁶⁹ evam āha.

uṭṭhetha tātā, tumhe mā bhāyithā ti.

te sabbe uṭṭhāya añjalim⁴⁷⁰ paggayha maraṇatajjitā⁴⁷¹ nisīdanti⁴⁷². ete sakārānaṃ⁴⁷³ ca attano rajjaṃ⁴⁷⁴ ca dhīraṇā⁴⁷⁵ ca mahāsattassa nīyādentī⁴⁷⁶. tadā vaṭṭaṅgulirājā⁴⁷⁷ jambūdipe⁴⁷⁸ ekarājā⁴⁷⁹ ahosi⁴⁸⁰, te rājāno⁴⁸¹ ovaditvā anusāsetvā puna sakarajjaṃ⁴⁸² pesesi. tadā vaṭṭaṅgulirājā⁴⁸³ saha parivārehi⁴⁸⁴ attano nagaram eva pāvīsī⁴⁸⁵. tato paraṃ ekasatarājāno⁴⁸⁶ samvacchare nānāvidhappakāraṇaṃ⁴⁸⁷ tassa vaṭṭaṅguliraṇo⁴⁸⁸ pahīṇimsu⁴⁸⁹. mahāsatto attano santakaṃ⁴⁹⁰ sabbadhaṇaṃ dānaṃ⁴⁹¹ datvā dhammena

450 [nigghoso A]
451 yugāntavātasaddasado AB
452 [ekāgulinā]
453 [sucinā]
454 [buddhapatimāngulikākatānaṃ A]; buddhapatimāngulikākatānaṃ BC
455 [nisandena A]
456 avassehi B
457 ummakaccasannaddhā B
458 saddhitasannaddhā B; chandhitasannaddhā C; [sattasannaddhā]
459 pa(phe, b)lāyanti A
460 ke(phe, b)ci Z
461 [sahasā]
462 upaddhāvanti A; [upadhāvanti B]; u(phu, b)paddhāvanta C
463 balapabbate BC
464 pavipassanti A; pavissanti B; pavisissanti C; [pavisanti]
465 nadisamuddhatiresu A; nadisamuddhatire B; [nadīsamuddhatiresu]
466 nili(nū, b)yanti B; [niliyanti]
467 vatthasakattā B; [vatthasātakā]
468 mahākaruṇāya B
469 uppādetvā A; umpādetvā B
470 gañjali B; abbāli C
471 maraṇatajjitā ABC
472 nisīdanti BC
473 sakkātānaṃ B; sakātānaṃ C; [sakkārānaṃ]
474 [rajjaṃ A]; rajaṃ B; rajjaṃ C
475 dhīraṇā A; dhīraṇaṃ BC
476 [nīyādentī A]; nīyādentī BC
477 vaṭṭaṅgulirājā A; [vaṭṭaṅgulirājā B]; vaṭṭaṅgulirājā C
478 jambūdipe A; jambūdipe C
479 ekarājāno B
480 ahosi ~ rājāno *om.* B
481 ahosi ~ rājāno *om.* B
482 sakarajjaṃ B
483 [vaṭṭaṅgulirājā BC]
484 parivārehi A
485 [pāvīsī BC]
486 ekasatarājānaṃ A
487 nānāvidhappakāraṇaṃ paṇṇākāraṇaṃ A; nānādhapaṇṇākāraṇaṃ B
488 vaṭṭaṅguliraṇo A; vaṭṭaṅguliraṇo BC
489 pahīṇimsu B; pahīṇimsu C
490 santaka C
491 dānaṃ *om.* AB

samena rajjam⁴⁹² kāresi.

tadā kira samaye⁴⁹³ mahāsattassa karuṇānubhāvena⁴⁹⁴ sakkassa bhavanam uṇhākāram dasseti⁴⁹⁵. sakko āvajjanto⁴⁹⁶ taṃ kāraṇam ñatvā saggato otarivā mahāsattassa santikaṃ āgantvā disobhāsenā⁴⁹⁷ taruṇasuriyo⁴⁹⁸ viya⁴⁹⁹ jalamāno⁵⁰⁰ mahāsattam pucchanto⁵⁰¹ gātham āha.

3. pucchāmi⁵⁰² taṃ mahārāja kiṃ puñṇam⁵⁰³ pakatam tayā

pubbe pi⁵⁰⁴ yātvam⁵⁰⁵ puñṇena⁵⁰⁶ laddho te vijayo⁵⁰⁷ ayan ti.

taṃ sutvā mahāsatto tutthacitto⁵⁰⁸ hutvā paṭiladdhajātissaraṇāṇo⁵⁰⁹ attano pubbakammaṃ⁵¹⁰ āvikaronto⁵¹¹ imam gātham āha.

4. bāṇijohaṃ pure⁵¹² āsiṃ⁵¹³ nāmako kulavaddhano⁵¹⁴

gacchāmi tena saddhiṃ⁵¹⁵ so dhanena⁵¹⁶ dāyaṃ⁵¹⁷ esati⁵¹⁸.

5. chinnaṃ⁵¹⁹ ekāguliṃ⁵²⁰ disvā buddharūpassa⁵²¹ tāvad eva

tutthacitto āsiṃ⁵²² na ussahāmi cetasā

6. maddhitvā mattikāsuddhaṃ⁵²³ guliyā⁵²⁴ aṅguli⁵²⁵ kare

tena puñṇānubhāvena⁵²⁶ laddho me⁵²⁷ vijayo⁵²⁸ ayaṃ

⁴⁹² (phai, a) rajjam A
⁴⁹³ (phai, a) samaye Z
⁴⁹⁴ kāraṇānubhāvena B; karuṇā(phū, a)nubhāvena C
⁴⁹⁵ dassesi B
⁴⁹⁶ (ne, a) āvajjanto B; āvajjento AC
⁴⁹⁷ dibhāsenā BC
⁴⁹⁸ taruṇāpuriso B
⁴⁹⁹ vi BC
⁵⁰⁰ jalamāno B
⁵⁰¹ pucchanto imam B
⁵⁰² pucchāmi B
⁵⁰³ puñṇam ABC
⁵⁰⁴ vi B
⁵⁰⁵ [kena]
⁵⁰⁶ puñṇena ABC
⁵⁰⁷ vijayo B
⁵⁰⁸ sututtamitto C; [tutthacitto]
⁵⁰⁹ paṭiladdhajātissaraṇāṇoBC; [paṭiladdhajātissaraṇāṇo]
⁵¹⁰ pubbe kammaṃ B
⁵¹¹ [āvikaronto ABC]
⁵¹² puñe B
⁵¹³ āsi B
⁵¹⁴ kulabbaddhano B
⁵¹⁵ sadi B
⁵¹⁶ dhanenaṇḍāya BC
⁵¹⁷ dāyaṃ om. BC
⁵¹⁸ essati B
⁵¹⁹ sannam B
⁵²⁰ ekāguli C; [ekāguliṃ]
⁵²¹ buddharupassa C
⁵²² āha āsi B; āha āsi C
⁵²³ mattikāsuddhaṃ B; mattikkāsuddham C
⁵²⁴ gulikāya B; [gulikāya]
⁵²⁵ [aṅguliṃ A]; aṅguli BC

7. sihosi⁵²⁹ samukhā gantvā⁵³⁰ mama dukkhāya ghāṭakam⁵³¹
 mayā cekāguli⁵³² yeva pakasāte puññatejasā⁵³³
8. mahāgajjendasahassāni sayodhā vāhanāni⁵³⁴ ca
 samukhāni ca me gantvā sucittāni⁵³⁵ pattanti ce.
9. pabbato pi mahākuto⁵³⁶ sattasabbenam⁵³⁷ ālayyā⁵³⁸
 kodena⁵³⁹ lacitto⁵⁴⁰ veṇe⁵⁴¹ bhasmabhuto⁵⁴² ci⁵⁴³ kevalo⁵⁴⁴
10. jayanañ ca gulimā⁵⁴⁵ laṭṭhaparibhoge⁵⁴⁶ na lakkhaye⁵⁴⁷
 dānañ ca⁵⁴⁸ vināseti pañcasādhāraṇā ime⁵⁴⁹
11. anāgate ca sambuddham sambujjhissāmi⁵⁵⁰ kosiya
 mayham pi⁵⁵¹ puññatejena⁵⁵² bhavissa⁵⁵³ lokanāyako⁵⁵⁴.
12. bhonto buddhapūjāya hi nāma appakāpi buddhassa katā
 mahapphalaṃ⁵⁵⁵ honti mahānisamsaṃ⁵⁵⁶ ti⁵⁵⁷.
- taṃ sutvā sakko pasannamānaso hutvā attānaṃ ācikkhanto evam āha.
13. sakkoham asmi⁵⁵⁸ devindo⁵⁵⁹ āgatosmi⁵⁶⁰ tava⁵⁶¹ santike
 anāgate pi sambuddho⁵⁶² pāpuṇissasi bhūpati⁵⁶³

⁵²⁶ puññanubhāne(phai, b)vena A; puññanubhāvena B; pubbeñanubhāvena C
⁵²⁷ (phai, b) me Z
⁵²⁸ vijanoyo B
⁵²⁹ sihosi A
⁵³⁰ (phū, b)gantvā C
⁵³¹ ghāṭakam B
⁵³² cekāguli B; pekāguli C
⁵³³ puññatejasā AC; (ne, b) puññatejasā B
⁵³⁴ rohanā B; rohanāni C
⁵³⁵ sucittāni B
⁵³⁶ mahākuto A; mahākūḍho B; mahākuṭā C; [mahākūṭo]
⁵³⁷ [sabbesam]
⁵³⁸ ālayya B; [ālayā]
⁵³⁹ [koddhena]
⁵⁴⁰ lavito B; lacito C; [malacitto]
⁵⁴¹ [lene B]
⁵⁴² bhammabhūto B
⁵⁴³ vi B; [pi C]
⁵⁴⁴ [kevalo]
⁵⁴⁵ tulimā A; gulimā BC; [aṅgulinā]
⁵⁴⁶ ḍhaṭṭhaparibhoge B
⁵⁴⁷ [saṅkhaye]
⁵⁴⁸ ca taṃ B
⁵⁴⁹ [imā]
⁵⁵⁰ sambujjhivā ssāmi B
⁵⁵¹ vi BC
⁵⁵² puññatejena AC; puññatejena B
⁵⁵³ [bhavissam]
⁵⁵⁴ lokanāyako ti B; lonāyako ti C
⁵⁵⁵ mahapphallaṃ A
⁵⁵⁶ mahānisamsaṃ BC
⁵⁵⁷ ti om. BC
⁵⁵⁸ asmī B
⁵⁵⁹ devindho C
⁵⁶⁰ āgatosmi B
⁵⁶¹ tvam B

14. nisinno bodhimūlasmiṃ⁵⁶⁴ mārāṇ⁵⁶⁵ ceva⁵⁶⁶ vidhaṃsanam⁵⁶⁷

cakkavāḷapariyantam nikkhilam⁵⁶⁸ so parājayi.

kilesakkhandhamāro⁵⁶⁹ maccumāram asesato.

15. dvattiṃsanarakā⁵⁷⁰ suñño⁵⁷¹ karosi saggam⁵⁷² purayi⁵⁷³

dhammā pacchāropetvā⁵⁷⁴ amattasagge⁵⁷⁵ ca pāpuṇi⁵⁷⁶ ti.

tadā sakko bodhisattam āpucchitvā⁵⁷⁷ sakatṭhānam⁵⁷⁸ eva gato.

atha bhagavā buddhapatimākaraṇānisamsam⁵⁷⁹ rañño⁵⁸⁰ karonto⁵⁸¹ gātham āha⁵⁸².

16. sattakkhattum⁵⁸³ ca devindo⁵⁸⁴ devarajjam⁵⁸⁵ akārayi

asīti⁵⁸⁶ ca sattakkhattum⁵⁸⁷ cakkavatti sirivaro⁵⁸⁸

padesarajjam vipulam gaṇanāto asaṃkheyyo

17. yaṃ yaṃ aḅṅā⁵⁸⁹ ca⁵⁹⁰ vikallam⁵⁹¹ buddharūpasam⁵⁹² laddhare

mattimattikāyeva⁵⁹³ phalan tassa acinteyye⁵⁹⁴

⁵⁶² sambu(pho, a)ddho AZ

⁵⁶³ apati B

⁵⁶⁴ bodhimaṇḍalasmī B; bodhimūla(phe, a) ~ jī(phe, b) om. C

⁵⁶⁵ mārayodham B

⁵⁶⁶ ceva om. B

⁵⁶⁷ vidham(nai, a)sanam B

⁵⁶⁸ kinikkhilam A; nikkhalam B; [nikhilam]

⁵⁶⁹ kilesakkhandāmāro B; [kilesakkhandhamāram]

⁵⁷⁰ dvatisacanarakā B; [dvattiṃsanarake]

⁵⁷¹ suño A; saño B; [saññe]

⁵⁷² sagga B

⁵⁷³ puriyi B; [pūrayi]

⁵⁷⁴ pacchāropetvā B

⁵⁷⁵ amattam sagge A; namattasagge B

⁵⁷⁶ pāpuṇi B

⁵⁷⁷ āpucchi A

⁵⁷⁸ sakatṭhānam B

⁵⁷⁹ buddhapatimākaraṇānisamsam B

⁵⁸⁰ raño AB

⁵⁸¹ karonno B

⁵⁸² āmā B

⁵⁸³ sattakkhattum B

⁵⁸⁴ cevando B

⁵⁸⁵ devirajjam B

⁵⁸⁶ asiti B

⁵⁸⁷ sattakkhattum B; [sattakkhattum]

⁵⁸⁸ ciravaro B

⁵⁸⁹ aḅṅā A

⁵⁹⁰ cā B

⁵⁹¹ [vikalam B]

⁵⁹² [buddharūpassa B]

⁵⁹³ mattimattikāye A; mattikāyeva B

⁵⁹⁴ [acinteyyam]

18. pītiyā⁵⁹⁵ yo pi sandhare⁵⁹⁶ phalaṃ taṃ vipullaṃ⁵⁹⁷
tassa ciri⁵⁹⁸ uppatimo⁵⁹⁹ sadā
19. karitvā⁶⁰⁰ mattisettha⁶⁰¹ likkhitvā va yathārahaṃ⁶⁰²
mahātejā sadā⁶⁰³ honti suriyo⁶⁰⁴ va⁶⁰⁵ vimalo⁶⁰⁶
20. yathārahaṃ⁶⁰⁷ taṃ katvā kusalaṃ katvā yāvajīvaṃ⁶⁰⁸ manussataṃ⁶⁰⁹
narake te na jāyanti dujjātiyaṃ⁶¹⁰ na tthāyare⁶¹¹
tiracchānagatā⁶¹² kāye mahante⁶¹³ khuddhakāni⁶¹⁴ ca
21. ye bimbam⁶¹⁵ akārayi⁶¹⁶ lekkhaphalaṃ⁶¹⁷ tassa samaṃ liyā⁶¹⁸
yo bodhirukkhaṃ⁶¹⁹ ropeti⁶²⁰ yo ca pabbajito⁶²¹ naro
yo ca satthukaro bimbam⁶²² dhuvam⁶²³ buddho⁶²⁴ bhavissati
22. yo ca⁶²⁵ karo⁶²⁶ buddharūpaṃ⁶²⁷ dantena ca siṅgena vā
silāya⁶²⁸ iṭṭhakāya⁶²⁹ ca⁶³⁰ kāraṇe⁶³¹ saṅghakate⁶³²
anāgate bhave jāto metteyyasseva santike
dukkhassantaṃ⁶³³ karissati pacchā buddho⁶³⁴ bhavissati ti.

⁵⁹⁵ pitiyā B
⁵⁹⁶ sandare B
⁵⁹⁷ vipulaṃ gaṇanāto asaṃkheyyon B
⁵⁹⁸ piraṃ B; [ciraṃ]
⁵⁹⁹ uppattite B; [uppatati]
⁶⁰⁰ kiritvā B
⁶⁰¹ mattikasettha B; [mattikasetṭhā]
⁶⁰² yathārayahaṃ B
⁶⁰³ sapo B
⁶⁰⁴ suri(pho, b)yo A
⁶⁰⁵ ca B
⁶⁰⁶ (pho, b) vimalo Z
⁶⁰⁷ yara A; yajā B
⁶⁰⁸ yāvajīvaṃ B; bodhimūla(phe, a) ~ yāvajī(phe, b) om. C
⁶⁰⁹ [manussattaṃ B]
⁶¹⁰ dujjātiyaṃ A
⁶¹¹ [jāyare A]; jā(nai, b)yare B
⁶¹² [tiracchānagate]
⁶¹³ mahantaṃ B; mahanta C
⁶¹⁴ [khuddakāni ABC]
⁶¹⁵ bimba A; bimbi BC
⁶¹⁶ kārayi ABC
⁶¹⁷ [lekkhaphalaṃ]
⁶¹⁸ [siyā AB]
⁶¹⁹ borukkhaṃ C
⁶²⁰ lopeti C
⁶²¹ pabbajjito A
⁶²² bimbi B
⁶²³ dhuvam om. B
⁶²⁴ buddhaṃ karo B
⁶²⁵ pa B
⁶²⁶ kake B
⁶²⁷ buddharūpaṃ hi BC
⁶²⁸ silāya A; silā ca B; silāme C
⁶²⁹ buddhakāyassakāyassa B
⁶³⁰ ca om. B
⁶³¹ kāraṇeti ce B; kāraṇe ce C
⁶³² saṅghakate AC; [saṅghāya]

dhammadesanāvasāne bahū⁶³⁵ devamanussā sotāpannādayo ahesuṃ.

yodhā āgatā buddhaparisa⁶³⁶ vaṭṭaṅgulirājā⁶³⁷ pana aham⁶³⁸ eva⁶³⁹ sammāsambuddho⁶⁴⁰ ti.

vaṭṭaṅgulirājasuttavaṇṇanā⁶⁴¹ niṭṭhitā.

⁶³³ dukkhasantaṃ B

⁶³⁴ buddhā C

⁶³⁵ bahu BC

⁶³⁶ buddhaparimā A

⁶³⁷ [vaṭṭaṅgulirājā BC]

⁶³⁸ ahaṃ B

⁶³⁹ evassāva B

⁶⁴⁰ sammāsammaddho B

⁶⁴¹ vaṭṭaṅgulirājasuttavaṇṇanā A

『ヴァットングリ王物語』

【仏像起源伝説】

私によってこのように聞かれました。ある時釈尊はサーヴァッティのジェータヴァナにあるアナータピンディカの園に住んでいました。そしてその時、コーサラ国のパセーナディ王は、その都で統治していました。その王は、法王であり、刑罰によらず刀剣によらず四摂事によって多くの人々を護っていました。彼はいつも夕刻時に法を聞くために芳香・華鬘などを取って、ジェータヴァナに赴きました。

さてある時、釈尊は早朝時に起き、さらに眼で世界を眺め、遠方に導かれるべき人々を見ました。そして、朝早くから起き、身支度をして、鉢・衣を取り、そして赴き、法を示して、その人を預流果に住立させました。

そのとき、従者を伴ったコーサラ国のパセーナディ王は、芳香・華鬘などを取らせ、夕刻時に法を聞くためにジェータヴァナを訪れましたが、如来に会えず、心は動揺し苦悩し落胆して、

「なんと空虚なジェータヴァナなのか。」

と言いました。そして、

「実に私の願いは叶わなかった。」

このように言いがっかりして、灯明・香・芳香・華鬘などで釈尊の座具を供養し、再びサーヴァッティに帰入城しました。

一晩中の憂鬱な眠りから覚めたその王は、大臣やバラモンの家長たちに相談して、このように言いました。

「尊者たちよ、実にブッダたちは定住しておらず、まさにブッダたちの慈悲の故に導かれるべき人々が住んでいる所ならどこへでも赴かれます、我々にとってブッダに比類する者は僧園におられません、私は常に三宝を敬いたいのです、もし釈尊が他の所に赴かれるならば、他の人々のせいで私の行いが途切れてしまいます、それ故に、もし釈尊によって仏像が許されるならば、私は造りたいです。」と。

大臣などはみな、王の言葉を聞いて大いに喜んだ気持ちとなってこのように言いました。

「大王よ、[仏像は] 一切衆生のために心配している者たち（我々）と共に久しく存在するでしょう、我々が力の限り仏像をつくりましょう。」と。

そこで王は、翌日の夕刻時に大臣などに相談して、芳香・華鬘などを取らせ、ジェータヴァナに赴き、釈尊のところに近づきました、近づいて釈尊を供養して礼拝して、片隅に座りまし

た。実に片隅に座ったコーサラ国のパセーナディ王は、釈尊にこう言いました。

「尊者よ、昨日サーヴァッティーのジェータヴァナを訪ねた人々は、釈尊に謁見できずに、がっかりして自分の家に戻り、“なんと空虚なジェータヴァナなのか” と思い、再び敬礼してサーヴァッティーに入りました、それ故、尊者よ、世間の哀れみのために、我々が仏像を造ることをお許してください、もし釈尊によって許されるならば、我々は信仰心を持って仏像を造りたいと思います。」と。

そこで釈尊は王の言葉を聞いてこのように言いました。

「大王よ、善いかな善いかな。仏像を造りなさい、望み通り許可します。」と。

そこで王は如来の言葉を聞いて、喜心となって、釈尊に礼拝して法を聞き、大臣たちと共に別れを告げ、都に帰りました。翌日その王は、大工全員を召させて、高価な栴檀の堅材で仏像を造らせました。そして、仏像造りを終えると、彩色をよく施させ、漆色に似た仏像を袈裟で覆うと、生命と心を持つ正等覚者のようでした。その時コーサラ国のパセーナディ王は仏像に相応しい様々な色の宝で飾った仮堂を作らせ、仮堂の中の獅子座に仏像を座らせて、多くの敬意をなしました。そして王は従者たちとともに精舎に赴き、釈尊に礼拝して告げました。

「尊者よ、仏像造りを終えました、もし釈尊が見たなら、とてもよく輝くでしょう。」と。そこで釈尊は黙って承諾しました。

翌日、比丘僧伽を従えた釈尊は、王の住居を訪れ、仏像がある所に近づきました。その瞬間仏像は、釈尊を見て、

「生命と心をもつ正等覚者が存命のときに、まさに私によって高座に座られることは不適切だ」

と思い、七宝の獅子坐から下り始めました。しかし釈尊は、それ（仏像）を見て、エーラーヴァナ（インドラの乗り物である象）の鼻のような右手を伸ばして妨げました。

「尊者よ、座りなさい、下りることはありません、私は久しからずして般涅槃するであろう、さらに尊者よ、あなたは 5 千年間私の教説を守りなさい、あなたは全世界のために教説をしまっておくのです。」と。

彼はそれを聞いたかのように再び坐具に座りました。その時、王を首長とする多くの人々はその不思議なことを見て、教えに深く帰依して、大きな喝采を起こしました。

その時コーサラ国のパセーナディ王は、釈尊に礼拝して、仏像を造ることによる功德を尋ねて釈尊に言いました。

「尊者よ、いかなる男あるいは女が仏像を造り、その者はいかなる功德を得るのですか？」と。

それを聞いて釈尊は、蓮華のような口を開いて、王にこう言いました、

「大王よ、信具足したいかなる男あるいは女が、粘土製、あるいは石製、あるいは真鍮製、あるいは赤銅製、あるいは木製、あるいは錫製、あるいは宝製、あるいは銀製、あるいは金製、あるいは牙製、あるいは角製、あるいは線刻製、何製であっても、仏像を造るならば、その者は大きな果報として大きな功德を得るでしょう。大王よ、世界に仏像が住するかぎり、ブッダのいない世界はないでしょう、そして教説に拠り所を得るのです、そしてある人が仏像を造り、保持し、安樂を終極目的としていたならば、ある望みをたてれば、それぞれの結果を望み通り得るであろう。」と。

「大王よ、過去にボーディサッタが善業をなし、粘土製の仏像のちぎれた一本の指を修復して、僅かであっても供養しました。その結果として天界に達し、望み通り享受し、そして死に、閻浮提の唯一人の王となりました。そしてさらに菩提道場に座って、海や平地にいたる魔力を破壊させ、一切知性を得ました。」と。

その王に頼まれて、過去を振り返りました。

【前世物語 1 (仏像の指を修復した商人)】

昔、アマラヴァティーという名の都にクラバッドクマーラという名の一人の商人が住んでいたそうです。さてある時、クラバッドクマーラは商売をするために数千人の商人たちと一緒に他の都に出発しました。前進している彼は、途中の森園で雨期の雨によって壊れた指をもつ一体の粘土製の仏像を見て、それを礼拝して、丸めて粘土を捏ねて、完全な仏像の指を作りました。彼は灯明・香・芳香・華鬘などで供養して、一人の番人である下女にも祭事のためそして灯明・香・芳香・華鬘による供養のために 8 カパーナを取って与えました。一枚の衣を着せると、さらなる喜びが生まれました。そしてその時、合掌したボーディサッタは、このように願いました。

「尊者よ、この指を作った結果として将来、あらゆる敵が私の面前にいませんように、私が必ず覚者になりますように。」と。

その後、強い敵から蛇・サソリに至るまでも彼の面前に行くことはありませんでした。そして死んで、天界に生まれて、天界の幸せを享受しました。その時阿修羅たちは皆、天界を眺めることすらできませんでした。そして、死んで、パーラーナシー王の第一妃の胎内に再生を得ました、また、従者である数千人の神々は、大臣家の最愛の女の胎内に再生を得ました。その第一王妃は十ヶ月が満ちると富と幸福の相を具足した男の子を出産しました。まさにその日、大

臣家では最愛の女たちが男の子たちを出産しました。

【前世物語 2 (ヴァットングリ王)】

ボーディサッタは男の子たちに囲まれて成長し、同時に生まれた子供たちに慕われていました。抑制し難い象馬があり、それらを見て、一本の指で指差しただけで、まさにその時これらの象馬は倒れました、それ故、彼の名をヴァットングリとしました。彼は父の死後即位し、法に基づいて統治しました。刑罰によらず刀剣によらず四摂事によってたくさんの人々を護っていました。持法者であり法王である彼は、6つの布施堂を作らせて、日々60万の価値のある大きな布施を与えました。小さなヤブが吸うわずかな血でさえも他人の身体から流させませんでした、実に衆生の殺害についていかなる話があるだろうか [聞いたこともない] 他人の僅かな価値の品物であっても持ち主によって与えられないものを取りませんでした。他人の妻を貪欲によって見ませんでした。どんなわずかな妄語すら言いませんでした。5種の酒を飲みませんでした。

そして閻浮提全土にいる百人の王たちは、マハーサッタ(ヴァットングリ王)の徳性を聞き、一緒に集まって、相談しました。

「我々がその望んだ蓮のような彼の王領を奪いましょう。」と。

彼らは皆、18アッコーパーニーを数える四軍によって囲まれ、パーラーナシーに向けて出発しました。道中でこのように手紙を書きました、

“我々に王領をよこせ、あるいは、もしそうでないならば我々と戦え我々と、お前たちが望む方をせよ。”

という手紙を使者に渡して派遣しました、使者はパーラーナシーに入って、王宮の中庭に立ちました。一人の大臣が彼を見て、王に告げました。王は彼を召させて、話をして、伝言を尋ねました。使者は王に手紙を渡しました。ボーディサッタ(ヴァットングリ王)は手紙を読ませて、恐怖心のない幼いライオンのように微笑んで、まさに使者に尋ねました。

「何人の王で何人の軍隊がやって来ているのですか」と。

使者は言いました。

「百人の王で18アッコーパーニーの軍隊がやって来ました」と。

そう聞いてマハーサッタ(ヴァットングリ王)はこのように言いました。

「まさに私は刑罰によらず刀剣によらず、これらの王たちと軍隊を一本の指で追い払うだけで殺しません」と。

そして、同時に生まれた大臣たちは、ボーディサッタ（ヴァッタングリ王）に礼拝して、このように言いました。

「王よ、我々が戦います、我々は皆、力強く雄々しい勇者で賢者であり、戦によって逃げ出すような者でなく敵軍を粉碎できます、エーラーヴァナのような大声を出している[象]も逃げ出すことはないだろう、匹敵する象についていかなる話があるだろうか、我々によって聞かれたことはない。」

と言って、戦を求めました。マハーサッタ（ヴァッタングリ王）はこのように言いました。

「あなた方は戦ってはいけません、その百人の王すべてとその軍隊すべてが死に至ってしまします。誰か一人の大臣が脱出できず死んだならば、彼らの息子や妻に告げなければなりません。残りのあなた方皆は、沐浴をして朝食を食べ、あらゆる装身具でよく飾り、法の強力な優雅さによって私を取り囲んで、前進しなさい、そして私は象の背に座って、百人の王と軍隊をただ一本の指で追い払って殺しません、明日あなた方皆は、私を取り囲んで出城しなさい。」

と言って大臣たちを退けました。

そこでマハーサッタ（ヴァッタングリ王）は、光明の夜に沐浴して、いろいろな味の食物を食べ、全身を装身具で飾り、王宮の中庭に立ち、大臣皆を集合させて、大声で鳴き、金色の帯を有し、全身を装身具で飾り、天界の敵軍を破壊することができ、よく調教され、金剛を持った恐怖心のない王の乗物に乗り、天人衆に囲まれ、天女に似た至高の容姿を備えた4人の女性に囲まれたサッカのように大臣衆に囲まれて、偉大な舍利の輝きを有し宝で飾られた棒杖のついた金色の新しい扇子で扇いで、金色の宝でできた数百の白傘を携え、様々な旗・法幢や奏でられた様々な楽器に囲まれ、その従者たちを従えて、東門から出て敵軍を見て、尋ねて偈を唱えました。

1. 軍隊の四支は象軍・騎馬隊・戦車隊・歩兵隊であり、太陽のように輝いてあまねく圍繞しています
2. では、誰の軍隊が、海の波のように種々無限で後ろに行くに従って大きくなるのですか、と。

それを聞いて大臣たちはボーディサッタ（ヴァッタングリ王）にこう言いました。

「王よ、これら閻浮提の百人の王は、我々と戦うためにやって来ました、彼らの軍隊が大きく、海の波のようです。」と。

それを聞いて、マハーサッタ（ヴァッタングリ王）は、このように言いました。

「行きなさい、あなた方は私の言葉を百人の王に確かに語りなさい、“皆は私と戦いたい」

だ。王たちは皆、象に乗りなさい、そして他の象に乗る者たちは象に乗りなさい、馬に乗る者たちは馬に乗りなさい、戦車に乗る者たちは戦車に乗りなさい、すべての旗・法幢を揚げなさい、その歩兵たちは武装しなさい、戦においてなされるべきすべての行為、その行為をなしなさい」と。

大臣たちは進み出て、彼のすべての言葉を百人の王に告げました。その王たちは皆、大臣の発言を聞いて手を叩いて笑うと、大地が破れる音のように轟きました。それらすべての武装した軍主たちや戦士衆と共に彼らは亜麻の帯を纏って輝き、様々な剣・盾という武器を手にとって、次々と乗り物に乗りました。様々な剣などの槍が 1 コーティを越える電光のように明るくなり虚空全体が見えました。象たちは大きな叫び声をあげ、その馬たちは笑い、これらの軍隊は声を上げましたが、彼らの時代の終極における風音のように無音になりました。その時その王たちは彼の正面から前進しました。

その時、マハーサッタ（ヴァッタングリ王）は、仏像の指の作者となった結果として、一本の清浄な指だけで、それらすべての象に乗った者たちは象から落ち、馬に乗った者たちは馬から落ち、戦車に乗った者たちは戦車から落ちました、麻の帯を身に付け刀で武装した歩兵は逃げ、或る者たちは倒れ、或る者たちは急に辺りを走り回り、或る者たちは森山に入り、或る者たちは河岸や海岸に隠れ、或る者たちは衣服が失われます。マハーサッタ（ヴァッタングリ王）は彼らの異変を見て、大きな悲心を起こして、このように言いました。

「男たちよ、起き上がりなさい、あなた方は恐れることはありません。」と。

彼らは皆、立って挨拶をして、死を怖れて座りました。そして恭敬しているこれらの者たちは自分の領土や娘をマハーサッタ（ヴァッタングリ王）のために贈りました。その時ヴァッタングリ王は閻浮提で唯一の王となり、その王たちを教誡し、教訓し、再び自分の王領に送り返しました。そしてヴァッタングリ王は従者たちとともに、まさに自分の都に戻りました。その後、百人の王は毎年、多種多様な手紙と贈り物をかのヴァッタングリ王のために送りました。マハーサッタ（ヴァッタングリ王）は、自分の所有しているすべての財産を布施として与えて、法に基づいて正しく統治しました。

さてその時マハーサッタ（ヴァッタングリ王）の慈悲力によって熱気を帯びたサッカの居場所を示しました。耳を傾けていたサッカは、その行いを知って、天界から下って、マハーサッタ（ヴァッタングリ王）の近くにやって来て、四方の光によって朝日のように輝いて、マハーサッタ（ヴァッタングリ王）に尋ねて、偈を唱えました。

3. 大王よ、あなたにお尋ねします、どんな功德があなたによってなされたのですか、そして前世におけるどんな功德によってあなたのこの勝

利が得られたのですか、と。

それを聞いてマハーサッタ（ヴァッタングリ王）は満足した心となって、宿命智を得て自分の過去の行いを明らかにして、この偈を唱えました。

4. 私は昔クラヴァッダナという名の商人で、財としての分け前を望む者（商人）と共に〔商売に〕赴きました、
5. 仏像のちぎれた一本の指を目にした途端、わたしは満足できず、心から努力（修復）しました、
6. 清浄な土を捏ね、丸めて指を造ったのです、その功德の力によって私のこの勝利が得られたのです、
7. ライオンが面前にやって来ても、私の苦の破壊者である一本の指こそが功德の威光を持つ私によって輝くのです。
8. 幾千もの巨大な象たちや戦士を乗せた乗物といった様々な者たちが私の面前に来て倒れます。
9. 山の頂きはあらゆる衆生にとっての抛り所で、洞窟では怒りによって垢穢がただの灰となります、
10. 指による勝利はすばらしい享受を尽きさせず、布施はこれら 5 つの罪悪を滅ぼします¹。
11. そしてコーシア（インドラ）よ、私は未来に正覚者となるでしょう、私の功德の威光によって世界の指導者にもなるでしょう。
12. なぜなら尊者よ、仏供養としてわずかでも仏のためになされたことは、大きな果報として大功德となるからです、と。

それを聞いて、サッカは明浄心となり自身を明らかにしてこのように言いました。

13. 私は天界の王サッカです、私はあなたの元にやって来ました、大地の主よ、あなたは来世でも正覚者となるでしょう、
14. そして菩提樹の下に座った彼は、まさに鉄圍山にいたるまで破壊をなすあらゆる魔に打ち勝ちます。悩魔や陰魔や死魔に残らず〔打ち勝ちます〕
15. 三十二地獄を空っぽにし、天界を満たし、法を説いて、さらに不死の天界に達します、と。

その時サッカはボーディサッタ（ヴァッタングリ王）に別れを告げ、まさに自分の居場所に戻りました。

¹ *Kaṇhajāṭaka* (*Ja*, vol. 4, p. 7)において *pañcasādhāraṇabhāvena* という語が現れる。中村[1989: 9]に基づき *pañcasādhāraṇā* を和訳。

【釈尊による説法】

そして釈尊は仏像を造ることによる功德の偈を王（パセーナディ王）のためにつくり唱えました。

16. そして、天界の王（私）は、7度天界を統治し、そして80回100回吉祥なる最勝の転輪聖王となり、王領は広大となり、象の群れは数えきれなくなりました、
17. そして、仏像の欠けた部分を土によって得たならば、まさにその結果は思いもよらないほどです、
18. ある人が喜びによって広げたその広大な果報とは、その人の生命が常に長いことです、
19. 極上の土から造り、まさに適切に線刻すれば、偉大なる威光は常に清らかな太陽のようです、
20. ふさわしくそれを造り、善をなせば、命ある限り人間となり、彼らは地獄や悪い境涯に再生せず、大きな畜生の身体や微細なものに再生することはありません、
21. ある人々が像を造らせたなら、その人の〔果報は〕写経の果報と等しいであろう、菩提樹を植える者や出家する者、そして釈尊の像を造る者は必ず覚者となるでしょう、
22. 象牙や角によって仏像を造る者、あるいは岩や煉瓦によって僧団のために〔仏像を〕造らせる者は、未来に弥勒のそばの存在に生まれ、苦を滅し、後に覚者となるでしょう、と。

説法が終わるとたくさんの天人たちは預流などになりました。

「やってきた戦士たちは仏の従者であり、またヴァットングリ王こそが正等覚者である私です」と。

『ヴァットングリ王物語』 完

2

Kosalabimbavaṇṇanā

『コーサラ国仏像縁起譚』

Kosalabimbavaṇṇanā

mahākāruṇikam¹ nāthaṃ dhamman tena sudesitaṃ vande² ariyasamghaṃ³ ca⁴ dakkhiṇeyyam⁵
niraṅgaṇaṃ. jinabimbaṃ karontānaṃ mītipāmojjavaḍḍhana⁶ jinena desitā bimbaṃ vaṇṇanāyā mahesinā⁷.

tena kho pana samayena pasenadikosallarājā⁸ tasmim nagare rajjaṃ kāresi. so rājā⁹ dhammiko
dhammarājā catūhi¹⁰ saṅgahavatthūhi mahājanaṃ¹¹ pāleti adaḍḍena asatthena, niccaṃ sāyaṇhasamaye
dhammassavanatthāya gandhamālādīni gahetvā jetavanaṃ gacchati.

tadā kira samaye bhagavā paccusasamaye¹² dibbacakkhunā¹³ lokam olokento duraṭṭhānaṃ¹⁴
veloyajanaṃ¹⁵ addasa¹⁶. tadā pāto vuṭṭhāya¹⁷ sarirakiccaṃ¹⁸ katvā pattacivaram¹⁹ ādāya tattha gantvā²⁰
dhammaṃ desetvā²¹ taṃ²² puggalaṃ²³ mattaphale²⁴ patitṭhapesi. vuttam pi cetam²⁵.

tadā passenadiparājā²⁶ kosalo²⁷ passitum²⁸ jinaṃ pūjābhaṇḍaṃ sapariso gāhāpetvāna sabbaso
nagaramhābhiniikkamma vihāraṃ²⁹ samupātami³⁰. upasaṅkama³¹ sambuddhaṃ³² adisvā sugatālaye³³
saṃviggamānahadayo³⁴ hutvā evam āha narādipo³⁵,

sambaddhena³⁶ vinā etaṃ suṇaṃ³⁷ jetavanaṃ³⁸ iti.

¹ (ka, b) mahākāruṇikam A; (ka, b) mahākāruṇikam BZ

² vandhe A

³ ariyasamghassa A

⁴ om. A

⁵ dikkhiṇeyyam A

⁶ pītipāmojjavaḍḍhanā A; [pītipāmojjavaḍḍhanā]

⁷ mahesino A

⁸ passenadikosallarājā AB; [pasenadikosallarājā]

⁹ (kā, a) rājā A

¹⁰ catuhi A; catū(kā, a)hi B

¹¹ (kā, a) mahājanaṃ Z

¹² paccusasamaye A; [paccūsasamaye]

¹³ dīccacakkhanā A

¹⁴ [dūratṭhānaṃ]

¹⁵ [veyyajanaṃ A]

¹⁶ addha (kā, b) ssa A

¹⁷ vuṭṭhāya A

¹⁸ [sarirakiccaṃ]

¹⁹ patacivaram A

²⁰ tantvā B

²¹ (kā, b) desetvā B

²² (kā, b) taṃ Z

²³ puttalaṃ B

²⁴ [maggaphale]

²⁵ cetaṃ A

²⁶ [pasenadirājā]

²⁷ kosallo A

²⁸ passittum A

²⁹ vihāra A

³⁰ sumupāgami A; [samupāgami B]

³¹ [upasaṅkamma]

³² sambuddhaṃ A

³³ sutattālaye A

³⁴ saṃviggamānaṃ hadayo A; [saṃviggahadaya]

³⁵ [narādhipo]

³⁶ [sambuddhena]

parisā pissa

sambuddham³⁹ apassantā nirālaye saṃvittahadayo⁴⁰

sabbe evam āhaṃsu, tāvade dipadhupagandhamālādīhi⁴¹ bhagavato āsanaṃ pūjetvā puna sāvattīyaṃ⁴² pāvisiṃsu⁴³.

so rājā sakalarattīyaṃ viggatathinamiddho⁴⁴ amacce ca brāhmaṇagahapatike ca āmantetvā evam āha.

bhonto buddhā nāma anivaddhanivāsā⁴⁵ yattha yattha veṇeyyajanā santi tattha tattha gacchanti⁴⁶.

buddhānaṃ karuṇā hi nāma sabbasattesu byāpitā⁴⁷. ahañ camhi buddhamāmakko dhammamāmakko saṃghamāmakko niccakālaṃ ratanattaye payirūpāsituṃ icchāmi. sace⁴⁸ bhagavā⁴⁹ añatra gacchati añesaṃ atthāya vattaṃ⁵⁰ upacchindati⁵¹. tasmā buddhasmā⁵² patibuddhapattimaṃ⁵³ sace bhagavā anuñātāṃ katukāmomhī⁵⁴ ti.

sabbe amaccādayo rañño⁵⁵ vacanaṃ sutvā pamuditacittā⁵⁶ evam āhaṃsu.

sucintitante mahārāja sabbasattānaṃ atthāya ciraṃ bhavissati, mayañ camhā yathā, sabbe mayaṃ buddhapattimaṃ⁵⁷ karissāmā ti.

atha rājā punadivase sāyaṇhasamaye amaccādayo āmantesi, gandhamālādīhi⁵⁸ gāhāpetvā jetavanaṃ gantvā yena bhagavā⁵⁹ tenupasānkami, upasānkamitvā gandhamālādīhi bhagavantaṃ pūjetvā vanditvā⁶⁰ ekamantaṃ nisīdi. ekamantaṃ⁶¹ nisinna⁶² kho passenadikosalo⁶³ rājā bhagavantaṃ etad avoca.

³⁷ [suññaṃ]

³⁸ jetavanā A

³⁹ sambuddhaṃ A

⁴⁰ saṃviggahedayo A

⁴¹ dipadhūpagandhamālādīhi A; [dīpadhūpagandhamālādīhi]

⁴² sāvattīyaṃ A

⁴³ pāvisiṃsu B

⁴⁴ vittatathinamiddho A

⁴⁵ anivaddhanivāsā A; [anivaddhanivāsā]

⁴⁶ gaccha(ki, a)nti A

⁴⁷ byāmitā A

⁴⁸ sacce A

⁴⁹ bhaggavā A

⁵⁰ vaggam B

⁵¹ upacchindhati A

⁵² (ki, a) buddhasmā B; bu(ki, a)ddhasmā Z

⁵³ patibuddhapattimaṃ A; [paṭibuddhapattimaṃ]

⁵⁴ katabhāmāmhī A; [kattukāmomhī B]

⁵⁵ [rañño]

⁵⁶ pamūdigacittā A

⁵⁷ buddhapattimaṃ A; [buddhapattimaṃ]

⁵⁸ gandhamālādīhi A

⁵⁹ bhaggavā A

⁶⁰ vandhitvā A

⁶¹ ekamanta A

⁶² nisi(ki, b)no A

⁶³ [pasenadikosalo]

hiyo ⁶⁴ bhante sāvattḥimanussā jetavanam āgantvā bhagavantam adisvā vipatisārā ⁶⁵ sukataṃkaṇṭho ⁶⁶, aho suṇam ⁶⁷ jetavanan ti vadamānā puna ⁶⁸ sāvattḥim ⁶⁹ pāvimsu. bhante lokānukampāya buddhapatimākaraṇam anujānātha, mayam saddhāsampannā buddhapatimam ⁷⁰ kātum icchāma sacce ⁷¹ bhagavā anuñāto ti.

atha bhagavā raṇo vacanam ⁷² sutvā evam āha ⁷³.

yehi keci mahārāja buddhabimam sukāraye suvaṇṇādīmayam vā pi ⁷⁴ cittakādīmayam pi vā digham ⁷⁵ rassam mahantam vā khuddhakam ⁷⁶ sāsappupamam ⁷⁷ kattabbam eva patimam yathāsati yathābalaṃ mahapphalam ⁷⁸ pi sabbesam asaṃkheyyam anuttaram vadāmiham, mahārāja evam jānāhi khattiyā ti.

atha rājā tathāgatassa vacanam sutvā,

sādhu sādhu bhante ⁷⁹ ti

bhagavantam ⁸⁰ vanditvā ⁸¹ dhammam sutvā nagaram pāvīsī ⁸². so rājā vadhakim ⁸³ pakosāpetvā ⁸⁴ mahagghacandhanasārena ⁸⁵ buddhapatimam ⁸⁶ kārapetvā sutthu ⁸⁷ likkhāpetvā ⁸⁸ sajjivamānasammāsambuddho ⁸⁹ viya aho. nitthitesu ⁹⁰ sabbakammesu buddhapatimam ⁹¹ anurūpena vicitramaṇḍape patiṭṭhapetvā dāsādāsīādayo datvā bhagavantam ⁹² upasānkamitvā nivedesi.

bhante nitthitam ⁹³ buddhapatimākaraṇam ⁹⁴ sacce ⁹⁵ bhagavā ⁹⁶ passeyya ⁹⁷ sobhati ⁹⁸.

⁶⁴ [hiyyo B]

⁶⁵ [vipatisārā]

⁶⁶ [sukkhakaṇṭhā]

⁶⁷ [suṇam]

⁶⁸ manu A

⁶⁹ sāvattḥī B

⁷⁰ buddhapatimam A; [buddhapaṭimam]

⁷¹ sacce A

⁷² (ki, b) vacanam Z

⁷³ ā(ki, b)ha B

⁷⁴ ci B

⁷⁵ [digham B]

⁷⁶ khuddakam B; [khuddakam]

⁷⁷ sāsappupamam A

⁷⁸ mahamphalam B

⁷⁹ (kī, a) bhante A

⁸⁰ bhaggavantam A

⁸¹ vandhitvā A

⁸² pāvīsī B

⁸³ [vadhakim]

⁸⁴ [pakosāpetvā B]

⁸⁵ [mahagghacandhanasārena B]

⁸⁶ buddhapatimam A; [buddhapaṭimam]

⁸⁷ suttha A

⁸⁸ [likkhāpetvā]

⁸⁹ sajjivamānasammāsambuddho A; [sajjivamānasammāsambuddho]

⁹⁰ [nitthitesu B]

⁹¹ [buddhapaṭimam]

⁹² bhaggavantam A

⁹³ natthitam A; [nitthitam B]

⁹⁴ [buddhapaṭimākaraṇam]

⁹⁵ sacce A

bhagavā tuṇhibhāvena⁹⁹ sampaticchi¹⁰⁰.

punadvase sathā bhikkhusaṃghaparivutto passenadikosalassa¹⁰¹ raṇṇo¹⁰² nivesanaṃ gantvā yena buddhapatimā¹⁰³ tenupasaṅkami¹⁰⁴ . tasmim¹⁰⁵ khaṇe buddhapatimā¹⁰⁶ sathhāraṃ disvā sajjivamānasammāsambuddho¹⁰⁷ viya sajjivamāne¹⁰⁸ sammāsambuddhe sati evarūpe uccāsane¹⁰⁹ nisīdituṃ ayuttan ti cintetvā gātham āha.

1. atulasirivilāse¹¹⁰ buddhaseṭṭhe dharante

ahaṃ pi atiuce neva yuttaṃ nisinna iti

ca pavarabimbo¹¹¹ cintayitvekapādaṃ nikkhiyam¹¹² upagantuṃ¹¹³ karaṇaṃ so karitthāti. atha naṃ bhagavā taṃ disvā erāvaṇasadiṣaṃ dakkhiṇatthaṃ¹¹⁴ pasāretvā¹¹⁵ nivāresi.

nisīdatha tumhe¹¹⁶ mā uṭṭhehī ti

vatvā gātham āha.

2. nibbāyissāmihaṃ¹¹⁷ bimba¹¹⁸ nacirena tuvaṃ pana

pañcavassasahassāni¹¹⁹ tiṭṭheyyasī¹²⁰ ti.

3. sāsane sabbalokahitathāya attano sāsanaṃ vuḍhi¹²¹

niyādesipabimbassa¹²² loke lokattapuggalo¹²³

4. acetano bimbavaro pi¹²⁴ ādaraṃ kareyya ce

buddhavarassa¹²⁵ sabbaso.

⁹⁶ bhaggavā A

⁹⁷ paseyya A

⁹⁸ sobhitti A

⁹⁹ guṇhibhāvena B

¹⁰⁰ sampaticchi A

¹⁰¹ passenadiko(kī, a)salassa B; passe(kī, a)nadikosalassa Z; [pasenadikosalassa]

¹⁰² [raṇṇo]

¹⁰³ [buddhapatimā]

¹⁰⁴ tenūpasaṅkami A; tenapasāṅkami B

¹⁰⁵ tasmī A

¹⁰⁶ [buddhapatimā]

¹⁰⁷ [sajjivamānasammāsambuddho]

¹⁰⁸ [sajjivamāne]

¹⁰⁹ uccāsano A

¹¹⁰ atu(kī, b)lasirivilāse A

¹¹¹ havarabimbo A

¹¹² [nikkhiyam]

¹¹³ upatantuṃ AB

¹¹⁴ dikkhiṇatthaṃ A; dakkhiṇatthaṃ B

¹¹⁵ passāretvā A

¹¹⁶ tutumhe A

¹¹⁷ niṅcanissāmihaṃ A

¹¹⁸ bimbaṃ A

¹¹⁹ pañcavassasahassāna A

¹²⁰ tiṭṭheyyasī A; [tiṭṭheyyāsī B]

¹²¹ viḍhi A; [vuḍḍhiṃ]

¹²² niyādesipabbimbassa A; [niyyādesipabbimbassa]

¹²³ lokattaputtalo B; [lokaggapuggalo]

¹²⁴ ci B

¹²⁵ baddhavarassa B

5. sacetano¹²⁶ seṭṭhasukhassa¹²⁷ esa ko¹²⁸

sasādaraṃ ko na kareyya satthuno.

sutvā pana āsane nisīdi. tadā rāḷapamukhā¹²⁹ mahājanā taṃ acchiriyaṃ¹³⁰ disvā sāsane uraṃ datvā. narindassa¹³¹ passannacittākāraṃ¹³² dassento satthā āha.

tato sapaṛiso¹³³ rāḷā sasamaṅgaṃ lokanāyakaṃ mahārahe supañate¹³⁴ nisīdāpiyasatthuno¹³⁵ santapetvā¹³⁶ paṇitena¹³⁷ piṇḍipātena¹³⁸ sabbadā. bhattakiccāvasānamhi sambuddhaṃ¹³⁹ upasaṅkamtivā vanditvā¹⁴⁰ ekamantaṃ nisīdiya bimbānisamsaṃ pucchanto rāḷā¹⁴¹ āha.

mahāmuni pucchāmi taṃ mahāviralokanāthapabhaṅkara ye janā patimaṃ¹⁴² tuyhaṃ kārenti kārāpentī vā vipāko kīdiso tesamaṃ samparaḷyo ca kīdiso ācikkha me munivara sotum icchāmi taṃ phalan ti.

taṃ sutvā bhagavā rāḷānaṃ gāthama āha.

6. narinda¹⁴³ sotaṃ tava sannidhāya bimbānisamsaṃ
atulānubhāvaṃ¹⁴⁴ buddhehi¹⁴⁵ vaṇṇitupameyyaṃ
sammākathassāmi¹⁴⁶ suṇohim¹⁴⁷ etaṃ.

7. mahārāja¹⁴⁸ yo koci puriso vā itthī vā
saddhāya buddhapatimaṃ¹⁴⁹ mattikamayaṃ¹⁵⁰ vā

8. dārumayaṃ vā selamayaṃ vā¹⁵¹
tāmbamayaṃ¹⁵² vā tipukamayaṃ vā

9. rajaṭamayaṃ¹⁵³ vā dantamayaṃ vā
atha vā buddhapatimaṃ¹⁵⁴ patitaṃ antaraṃ vā

¹²⁶ sacetano AB

¹²⁷ seṭṭhasukha(kī, b)ssa B

¹²⁸ (kī, b)ko Z

¹²⁹ rāḷapamukkhā A

¹³⁰ [acchiriyaṃ]

¹³¹ narindhassa A

¹³² pa(ku, a)ssannacittākāraṃ A; [pasannacittākāraṃ]

¹³³ samariso A

¹³⁴ supañave A; supañatte B; [supañāte]

¹³⁵ nisināmiyasatthuno A

¹³⁶ [santappetvā B]

¹³⁷ [paṇitena B]

¹³⁸ paṇḍipātena A; piṇḍapātena B

¹³⁹ sambaddhaṃ AB

¹⁴⁰ vandhitvā A

¹⁴¹ rāḷā om. A

¹⁴² [paṭimaṃ]

¹⁴³ narindha A

¹⁴⁴ aḷaṇānubhāvaṃ B

¹⁴⁵ buddhāhi A

¹⁴⁶ sammākathissāmi B

¹⁴⁷ [suṇohi]

¹⁴⁸ (ku, a) mahārāja BZ

¹⁴⁹ [buddhapatimaṃ]

¹⁵⁰ matikamayaṃ A

¹⁵¹ (ku, b) vā A

¹⁵² [tambamayaṃ]

¹⁵³ rajattamayaṃ A; rajaphamayaṃ B; [rajatamayaṃ]

10. aṅgapaccaṅgachinnaṃ¹⁵⁵ kārāpetvā
mahapphalam¹⁵⁶ hoti mahānisamsam labhissanti¹⁵⁷.
11. mahārāja yāva¹⁵⁸ loke buddhapatimā¹⁵⁹ tiṭṭhati
na tāva¹⁶⁰ loke buddhasuṇo¹⁶¹ bhavissati
sāsanañ ca patiṭṭham labhati
12. yo yo buddhapatimāparāyano¹⁶² ahosi
so so dharamānabuddhaparāyano hoti.
yaṃ yaṃ phalam paṭṭheti¹⁶³ yathākāmaṃ labhissati.
13. mahārāja yo koci purisapuggalo mahiddhiko mahānubhāvo
pathavitalato yāva bhavattā¹⁶⁴
sattaratanehi pūretvā¹⁶⁵ gaṇetuṃ sakkoti.
14. buddhapatimākaraṇassa¹⁶⁶ yavappamānassa
phalam gaṇetuṃ na sakkoti¹⁶⁷.
15. mahārāja mahiddhiko mahānubhāvo¹⁶⁸
pubbavidehe muttamāsehi pūretvā¹⁶⁹
16. uttarakarūdipe¹⁷⁰ sāsapehi pūretvā¹⁷¹
amaratoyānadipe¹⁷² tilehi pūretvā¹⁷³
17. sakalajambūdipe¹⁷⁴ sassehi pūretvā¹⁷⁵
taṃ sabbaṃ gaṇetuṃ sakkoti.
18. buddhapatimākaraṇassa¹⁷⁶ yavappamānassa¹⁷⁷
phalam gaṇetuṃ na¹⁷⁸ sakkoti.

¹⁵⁴ [buddhapaṭimam]

¹⁵⁵ aṅgapaccaṅgachindham A

¹⁵⁶ pahapphalam A

¹⁵⁷ [labhissati]

¹⁵⁸ yava A

¹⁵⁹ [buddhapaṭimā]

¹⁶⁰ gāva A

¹⁶¹ [buddhasuṇo]

¹⁶² buddhapaṭimāparāyano A; [buddhapaṭimāparāyano]

¹⁶³ [paṭṭheti]

¹⁶⁴ tavatto A; [bhavaggā]

¹⁶⁵ pūretvā B

¹⁶⁶ [buddhapaṭimākaraṇassa]

¹⁶⁷ ssakkoti A

¹⁶⁸ mahānubhāvo A

¹⁶⁹ pūretvā AB

¹⁷⁰ [uttarakarūdipe]

¹⁷¹ pūretvā B

¹⁷² amarakoyānadipe B; [aparagoyānadipe]

¹⁷³ (kū, a) pūretvā A; pūretvā B

¹⁷⁴ sakala(ku, b)jambūdipe B; [sakalajambūdipe]

¹⁷⁵ pūretvā B; (ku, b) pūretvā Z

¹⁷⁶ buddhapaṭimākaraṇassa A; [buddhapaṭimākaraṇassa]

¹⁷⁷ yavappamāṇassa B

¹⁷⁸ na om. A

19. ko pana vādo mahante buddhapatimākarane¹⁷⁹
mahapphalaṃ mahānisamsaṃ
taṃ jinabimbaṃ kātukāraṃ¹⁸⁰ dassento¹⁸¹ satthā¹⁸² imaṃ gātham āha.
20. karoti kārāpayate jinabimbaṃ naro idha
sele lepe paṭe kaṭṭhe¹⁸³ mahantaṃ khuddhakaṃ¹⁸⁴ pi¹⁸⁵ vā
21. aṅgapaccaṅgasampannā ārohapariṇāha vā hoti
sobhattasampannā¹⁸⁶ puriso bimbassa¹⁸⁷ kārako ti.
22. suvaṇṇavaṇṇo ruciro mahātejjiddhivikkammo¹⁸⁸
dhitimāpatisampanno¹⁸⁹ hoti bimbassa kārako
23. visālavihhave sāre jāyate¹⁹⁰ samate¹⁹¹ kule
uḷārayasarāpaṇo¹⁹² hoti bimbassa kārako
24. chinno matisampanno¹⁹³ kataññū¹⁹⁴ kusalo bahū
naro jātissaro hoti satthubimbassa kārako ti.
25. bahū pūjenti¹⁹⁵ sakkaronti namanti ca
sadā janānuvattanti¹⁹⁶ narabimbassa kārako¹⁹⁷ ti.
26. parivārenti devesu devatānekakoṭiyo¹⁹⁸
setṭhe vimāne¹⁹⁹ rucire rammate²⁰⁰ bimbakārako²⁰¹
27. visālāmalanilakkho²⁰² sūpasannasuvindiyō²⁰³
surūpo jātisampanno hoti bimbassa kārako

¹⁷⁹ [buddhapatimākarane]

¹⁸⁰ kātumkā A

¹⁸¹ dasento A

¹⁸² sattā A

¹⁸³ paṭṭhe A

¹⁸⁴ [khuddakam]

¹⁸⁵ ci B

¹⁸⁶ sobhaggasampannā A

¹⁸⁷ timbassa B

¹⁸⁸ mahātejjiddhivikkammo A

¹⁸⁹ dhitimāpatisampanno A

¹⁹⁰ jāyate A

¹⁹¹ sapate B

¹⁹² uḷārayasavāpaṇo B; [uḷārayasarāpaṇo]

¹⁹³ mattisampanno A

¹⁹⁴ [kataññū]

¹⁹⁵ (kū, b) jāpūjenti A

¹⁹⁶ [janānuvattanti B]

¹⁹⁷ [kārakā]

¹⁹⁸ deva(kū, a)tānekakoṭiyo B; devatānekako(kū, a)ṭiyo Z

¹⁹⁹ setṭhavimāne A

²⁰⁰ [rammake A]

²⁰¹ [bimbakārakā]

²⁰² [visālāmalalakkho]

²⁰³ supasannasuvindhayo A; [supasannasuvindiyō B]

28. piḷakākaṇḍakacchādibyādiyo²⁰⁴
 sabbadehajā²⁰⁵ na honti
 sukhasampanno hoti bimbassa kārako ti.
29. tassa bimbakārakassa cakkhurogo sotarogo
 ghānarogo²⁰⁶ jivhārogo²⁰⁷ kāyarogo²⁰⁸ sīsarogo²⁰⁹
30. kaṇṇarogo²¹⁰ mukharogo²¹¹ dantarogo²¹² kāso
 sāso pināso dāho²¹³ jaro kucchirogo²¹⁴ mucchā
31. pakkhindhikā²¹⁵ sulā²¹⁶ visucikā²¹⁷.
 kuṭṭhaṃ gaṇḍo²¹⁸ kilāso soso apamāro²¹⁹
32. daddakaṇḍakacchurakkhasā²²⁰ vitacchikālohitāṃ²²¹
 pittaṃ madhumeho aṃso²²² piḷakā²²³ bhagandalā²²⁴
33. pittasamuṭṭhānā²²⁵ ābādhā semhasamuṭṭhānā ābādhā
 vātasamuṭṭhānā ābādhā sannipātikā ābādhā
34. utuparināmajā ābādhā visamaparihārajā²²⁶ ābādhā
 opakkamikā ābādhā kammavipākajā²²⁷ ābādhā²²⁸
35. sītaṃ²²⁹ uṇhaṃ²³⁰ jighacchā²³¹ pipāsā²³²
 uccāro²³³ passavo iti ādayo rogā na honti.

kāyasukhaṃ dassento āha,

rattapādatalo hoti mukhapaṇḍā²³⁴ tambaṅguli²³⁵ manuñadeho sirimā naro

²⁰⁴ piḷakākaṇḍakacchādibyādiyo A
²⁰⁵ sabbadehadhā A
²⁰⁶ ghanarogo A; ghānaroto B
²⁰⁷ jivhāroto B
²⁰⁸ kāyaroto B
²⁰⁹ sīsaroto B
²¹⁰ kaṇṇaroto B
²¹¹ mukharoto B
²¹² dantaroto B
²¹³ [dāho]
²¹⁴ kucchiro A; kucchiroto B
²¹⁵ pakkhandhikā A; [pakkhandikā B]
²¹⁶ su A; [sūlā]
²¹⁷ [visucikā B]
²¹⁸ taṇḍo AB
²¹⁹ appamāro A
²²⁰ dandhakaṇḍakaccharakkhasā A
²²¹ vitacchikāsohitāṃ B
²²² raṃraso B
²²³ miḷakā B
²²⁴ bhagandhalā A
²²⁵ pittaṃ(ke, a)muṭṭhānā A; pittasamudatṭhānā B
²²⁶ visamamarihārajā A
²²⁷ kammavipākajā A
²²⁸ (kū, b) ābādhā B
²²⁹ sītaṃ A
²³⁰ (kū, b) uṇhaṃ Z
²³¹ jighacchā B
²³² mipāsā A
²³³ ucāro A

bimbassa kārako ti.

paggahitadhajjākiṇṇo²³⁶ surasenāpurakkhato ramme surapure²³⁷ yāti rathattho
bimbassa kārako ruciro²³⁸ dassano hoti itthānitthajanappiyo²³⁹ janātittim na
gacchanti dassane bimbakatuno viṇā²⁴⁰ mudiṅgā purajā²⁴¹ vādāsamkhassarāvarā
pamattam pabodhenti narabimbassa kārako ti.

devesu²⁴² devarajjānaṃ cakkavatti yasaṃ naro bhutvāna vipule gāme²⁴³ naro
bimbassa kārako ti.

evaṃ dasabaladharajinavaradasasatakiraṇo²⁴⁴ anantañāṇo²⁴⁵ bhagavā attano
desanāñāṇakiraṇasamāgamena²⁴⁶ vā narapatipamukhasakalajanaminakamalavanavibodhetum²⁴⁷
manussaloke labhitabbasampattim ekadesekadesena²⁴⁸ kathetvā tato paraṃ devaloke²⁴⁹
labhitabbasampattim²⁵⁰ pi samkhepato²⁵¹ dasseti. tam sabbam²⁵² pi²⁵³ sotaraṇam²⁵⁴ vahaṃ katvā
dassento gātham āha.

36. manujavarasukhattam sabbaloke abhutvā

vividhasuparittaggaṃ²⁵⁵ sabbaso purayitvā²⁵⁶

37. sugatadhabimbakārā²⁵⁷

tena puñena²⁵⁸ tamhāvavitamarāṇadhammā²⁵⁹ devalokaṃ²⁶⁰ vajjanti

38. manussattabhāvaṃ jahitvāna santo

sace enti devattabhāvaṃ narā te

39. vimāne labhante²⁶¹ vagaharū

rūpe vare haṅgasoheva

²³⁴ mukhamaṇḍā A; [mukhapaṇḍarā]

²³⁵ tambaṅgūli A; gambaṅgali B

²³⁶ pattahittamdhajjākiṇṇo A; pattamhigadhajjākiṇṇo B

²³⁷ supure A

²³⁸ ruciro B

²³⁹ itthānijjanampiyo A

²⁴⁰ viṇā A

²⁴¹ [murajā B]

²⁴² (ke, b) devesu

²⁴³ tāme AB

²⁴⁴ dassabaladharajinavaradasasatakiraṇo A; dasabaladharajinavaradasasagakiraṇo B

²⁴⁵ anantañāṇo A

²⁴⁶ desanāñāṇakiraṇasamātamena A

²⁴⁷ narapatipamukhasakalajanaminakamalavanavibodhetum A; naratipamukhasakalajanaminakamalavanavibodhetum B

²⁴⁸ ekadesekasena A

²⁴⁹ deva(ke, a)loke B

²⁵⁰ (ke, a) labhitabbasampattim Z

²⁵¹ samkhepato A

²⁵² sampa A

²⁵³ pi *om.* A

²⁵⁴ sogaraṇam AB

²⁵⁵ vividhasuparittam A; vividhasuparittam B

²⁵⁶ [pūrayitvā]

²⁵⁷ [sugatadbimbakārā]

²⁵⁸ [puñena]

²⁵⁹ gamhāvavitamarāṇadhammā B; [tamhāvītamaraṇadhammā]

²⁶⁰ [devaloke]

²⁶¹ la(kai, a)bhante A

40. puṇṇe suramme turiyehi²⁶² varehi varā

pamadāparitovaramāpayare

41. sasatam²⁶³ tam pamadāhi²⁶⁴ varāhi varā sahita

atthi seṭṭhasukham anubhonti varam.

tadā rājā pāto va sataṣaḥassaṃ²⁶⁵ visajjetvā²⁶⁶ mahādānaṃ datvā soḷasahi gandhodakaghāṭehi
sisaṇḥāyitvā²⁶⁷ katapātarāso suddhuttarāsaṅgaṃ²⁶⁸ ekaṃsaṃ katvā uparipāsādassa sirisayane²⁶⁹
pallaṅkaṃ²⁷⁰ ābhujjitvā²⁷¹ nisinno attano dānaṃmayavaraṃmayapuññasamuddhayaṃ²⁷² āvajjento²⁷³
nisīdati. ayaṃ cakkavattidhammatā. tassāvajjentassa²⁷⁴ puññakammaṃpaccayautusamuṭṭhānaṃ²⁷⁵
nilamaṇisaṃmudhisaṃ²⁷⁶ pācīṇasaṃmudhijilatuma²⁷⁷ bhindamānaṃ²⁷⁸ viya ākāsaṃ
āsamuddhayākāsaṃ²⁷⁹ alaṅkarumānaṃ viya dibbacakkaratanaṃ²⁸⁰ vā pātubhavati.

pubbe bodhisatto mahārāja buddhapatimāya²⁸¹ ekāṅgulichinnaṃ²⁸² disvā puna mattikāya²⁸³
karitvā appamattakaṃ²⁸⁴ pūjaṃ akāsi. tassa phalena sattaṃpattim²⁸⁵ yathākāmaṃ
anubhavitvā²⁸⁶ tato cavitvā jambūdiṇe cakkavattirājā ahoṣi. tato paraṃ bodhimaṇḍe nisīditvā
cakkavāḷapariyaṃtaṃ²⁸⁷ mārabalaṃ vidhaṃsetvā sabbañūtaṃ²⁸⁸ patto ti.

atha vā yo koci puggalo buddhaṅguliṃ vā kaṇṇaṃ vā sisaṃ²⁸⁹ vā chinnapādaṃ vā buddhapatimaṃ
antaradhānaṃ vā bhijjamānaṃ vā karoti kārāpeti²⁹⁰ tena phalena sabbasaṃpattim²⁹¹ pasavati.

²⁶² guriyehi AB

²⁶³ [sassetam]

²⁶⁴ padāhi A; pamapāhi B

²⁶⁵ sataṣaḥassaṃ A

²⁶⁶ [vissajjetvā]

²⁶⁷ sisaṇḥāyitvā B; [sisaṃ nhāyitvā]

²⁶⁸ katapātarāsoṣuddhuttarāsaṅgaṃ A

²⁶⁹ [sirisayane]

²⁷⁰ pallaṅkaṃ A

²⁷¹ ābhujjitvā A

²⁷² [dānaṃmayapuññasamudayaṃ]

²⁷³ āvajjanto A

²⁷⁴ tassāvajjenta(ke, b)ssa B

²⁷⁵ uññakamma(ke, b)paccayautusamuṭṭhānaṃ Z; [puññakammaṃpaccayaṃ utusamuṭṭhānaṃ]

²⁷⁶ nilacānisamumādisaṃ A; [nilamaṇisaṃmudayasadisāṃ]

²⁷⁷ pācīṇasaṃmudhijilatuma A; [pācīṇasaṃmudhijalatalama]

²⁷⁸ bhindamānaṃ A

²⁷⁹ [samudayaṃ ākāsaṃ]

²⁸⁰ dibbacakka(kai, b)rattanaṃ A

²⁸¹ [buddhapatimāya]

²⁸² ekāṅgulichinnaṃ B

²⁸³ mattikāya A

²⁸⁴ appamatikaṃ A

²⁸⁵ [saggasaṃpattim]

²⁸⁶ anabhavitvā A

²⁸⁷ cakkavāḷapariyaṃtaṃ B

²⁸⁸ sabbañūtaṃ A

²⁸⁹ [sisaṃ]

²⁹⁰ kārāpeti A

²⁹¹ saccasaṃpattim A

ekadā kira samaye kulavaddhakumāro bānijakammatthāya²⁹² bānijasahashehi²⁹³ saddhim
 aññaṃ²⁹⁴ nagaraṃ pāyāsi antarāmagge²⁹⁵ ekaṃ²⁹⁶ buddhapaṭimam²⁹⁷ mattikamayam²⁹⁸ vassodakena
 ajjhottharitam ekāṅgulichinnaṃ disvā vanditvā²⁹⁹ mattikāṅguliya³⁰⁰ madditvā³⁰¹
 buddhapatimāṅgulim³⁰² akāsi.³⁰³ so dipadhupagandhamālādīhi³⁰⁴ pūjetvā³⁰⁵ ekissā cetiyarakkhikāya
 dāsiyā yañatthāya dipadhupapūjāya³⁰⁶ ca aṭṭhakahāpanam³⁰⁷ adāsi³⁰⁸. bodhisatto vanditvā³⁰⁹ añjalim³¹⁰
 paggayhitvā³¹¹ evam adhiṭṭhānam paṭṭhanam³¹² gātham āha.

42. iminā pana me bhante puñnakammenanāgate³¹³

sabbasattuttamo buddho bhavyeyam atulo jino

43. samsaranto va samsāre bhavyeyam uttame kule

balarūpaṇupeto³¹⁴ puñāvā³¹⁵ pavaruttamo

44. paccāmittāri³¹⁶ pu³¹⁷ nāhosi mama samukkho

sabbaverabhayābhito³¹⁸ labheyam³¹⁹ paramam sukham

anāgate³²⁰ kāle buddho bhavissāmī³²¹ ti.

tato paṭṭhāya sabbe paccatthikā antamaso ahivicchikādīni tassa tassa sammukhā
 nāhesum³²². tato cavitvā saggaloke³²³ nibbato³²⁴ sagge sampattim anubhavamāno³²⁵

²⁹² bānijatamatthāya A; [vānijakammatthāya]

²⁹³ bānijahashehi B; [vānijasahashehi]

²⁹⁴ [aññaṃ]

²⁹⁵ antarāmatte B

²⁹⁶ eka A

²⁹⁷ [buddhapaṭimam]

²⁹⁸ kamayam A

²⁹⁹ vandhitvā AB

³⁰⁰ matikāṅgaliyāya A; (kai, a) mattikāṅguliya B; [mattikāṅgulim]

³⁰¹ maddhitvā A

³⁰² (ko, a) buddhapatimāṅgulim A; [buddhapaṭimāṅgulim]

³⁰³ (kai, a). Z

³⁰⁴ dipadhupagandhamālādīhi A; [dīpadhūpagandhamālādīhi]

³⁰⁵ pūjetvā A

³⁰⁶ [dīpadhūpapūjāya]

³⁰⁷ aṭṭhakahāpanam A; [aṭṭhakahāpanam]

³⁰⁸ akāsi A

³⁰⁹ vandhitvā A

³¹⁰ añjala A; añjalī B

³¹¹ pattayhitvā B

³¹² pathanam A; [paṭṭhanam]

³¹³ pañnakammenanāgate A; [puñnakammena anāgate]

³¹⁴ balarūpatuṇupeto B

³¹⁵ [puñāvā]

³¹⁶ paccāmittāra A

³¹⁷ [puna]

³¹⁸ [sabbaverabhayābhito]

³¹⁹ labheyā A

³²⁰ anāgate B

³²¹ bhivissāmī A

³²² nāhesum A

³²³ sattaloke AB

³²⁴ nibbato B

³²⁵ anubhavamāno A

tasmim̐ sabbe pi³²⁶ asurādayo³²⁷ saggaloke suvisum̐visum̐.

tato cavitvā bārānasiraṇo³²⁸ aggahesiyā³²⁹ kucchimhi paṭisandhim̐³³⁰ gaṇhi. sā aggamaheṣī dasamāse³³¹ sampuṇṇe dhaṇalakkhaṇasampannam̐³³² puttam̐ vijjāyi³³³. amaccagehe va sabbitthiyo³³⁴ tadahe va puttam̐ vijjāyimsu³³⁵.

bodhisatto kumārparivāritehi saddhim̐ vaḍhamāno³³⁶ sahaḷatādārakehi parivārito vicariye hatthī vā asse vā durato³³⁷ va disvā ekaṅgulinā mitamatte tadā te hatthī³³⁸ assā paṭimsu. tasmā tassa vaḍhaṅgulī³³⁹ ti nāmaṃ kariṃsu.

so pitu³⁴⁰ accayena rajje abhisīncitvā rajjam̐ kāresi. adaḍḍena³⁴¹ asatthena³⁴² catūhi saṅghavattūhi mahājanam̐ pāleti³⁴³, dhammiko dhammarājā chadānasālāyo³⁴⁴ kārāpetvā divase divase satahassagghanikam̐ mahādānam̐ adāsi³⁴⁵. añassa³⁴⁶ sarirato³⁴⁷ khuddhakapakkhikāpivanamattam̐³⁴⁸ pi lohitaṃ na visajjeti³⁴⁹ kākapāṇaghātam̐³⁵⁰ ke parassa bhaḍḍam̐ kākaṇikamattam̐³⁵¹ pi adinnaṃ gaṇhati na paradāram̐ vāge³⁵² na oloketi kiñci musāvādam̐³⁵³ na bhaṇati pañcavidhasaram̐³⁵⁴ na pivati.

³²⁶ (ko, b) pi A

³²⁷ asurānayo B

³²⁸ bārānasiraṇo A; [bārānasiraṇo]

³²⁹ attamaheṣiyā AB; [aggamaheṣiyā]

³³⁰ paṭisandhi A

³³¹ dassamāse A

³³² dhaṇalakkhaṇasampannam̐ A; dhammāla(kai, b)kkhaṇasampannam̐ B; dhaṇalakkhaṇa(kai, b)sampannam̐ Z

³³³ [vijjāyi A]

³³⁴ sabbitthiyo A

³³⁵ [vijjāyimsu A]

³³⁶ [vaḍḍhamāno]

³³⁷ [dūrato]

³³⁸ hatthi AB

³³⁹ vaḍhaṅguli B

³⁴⁰ piḅu B

³⁴¹ addhaḍḍena B

³⁴² assatthena A

³⁴³ pālesi A

³⁴⁴ [chadanasālāyo]

³⁴⁵ akāsi A

³⁴⁶ ayassa A; [aññassa]

³⁴⁷ sarira(kau, a)to A; [sarirato]

³⁴⁸ khudakamakkhikāpivanamattam A; khuddhakamakkhikāpivanamattam B, [khuddakamakkhikāpivanamattam]

³⁴⁹ vissajeti A

³⁵⁰ [kākapāṇaghātam̐]

³⁵¹ kākaṇikamattam A

³⁵² rāte A; vāte B

³⁵³ mussāvāda A

³⁵⁴ pañcavidhasaram̐ A

tadā sakalajambūdiṭṭe³⁵⁵ ekasatarājāno³⁵⁶ mahāsattassa³⁵⁷ guṇaṃ sutvā ekato³⁵⁸ sannipatitvā mantayimṣu³⁵⁹,

tassa rajjaṃ amakkhikamadhupaṭilaṃ³⁶⁰ viya gahessāmā ti.

aṭṭhārassa-akkhobhinisaṃkhātehi³⁶¹ catūraṅgaṇisenāhi³⁶² parivāritā³⁶³ bārāṇasibhimukhā³⁶⁴ aggamimṣu³⁶⁵. antarāmagge³⁶⁶ paṇṇaṃ likkhāpitvā³⁶⁷ chattaṃ no detha³⁶⁸ amhehi yujjathā³⁶⁹ ti, yaṃ yaṃ icchasi taṃ taṃ karotū ti dūtassa paṇṇaṃ datvā pesayimṣu. tesāṃ yujjitukāraṇaṃ³⁷⁰ dassetvā satthā gātham āha.

45. ekasate mahāthāme³⁷¹ dūtāṃ pāheti³⁷² bhūpati

pesentūti³⁷³ pasutvā³⁷⁴ rājā³⁷⁵ etad abravuṃ.

dūto bārāṇasiyaṃ pavisitvā³⁷⁶ rājaṅgaṇe aṭṭhāsi. eko amacco³⁷⁷ taṃ disvā rājānaṃ ārocesi. rājā taṃ āmantetvā taṃ pavuttimṃ pucchi. dūto raṇṇo³⁷⁸ paṇṇaṃ³⁷⁹ adāsi. mahāsatto³⁸⁰ paṇṇaṃ vācetvā taruṇasiho viya asambhito³⁸¹ dūtāṃ eva pucchi.

katippamāṇā rājāno āgacchanti³⁸² katippamāṇo balanikāyo³⁸³ ti.

dūto gātham āha,

46. tato sabbe hi rājā ekasatasamāgatā³⁸⁴

aṭṭhārassa-akkhobhiniyā senāya³⁸⁵ parivāritā

³⁵⁵ [sakalajambūdiṭṭe]

³⁵⁶ ekasatarājādo A; ekasatarājā B

³⁵⁷ mahāsattassa A

³⁵⁸ (ko, a) ekato BZ

³⁵⁹ attamimṣu B

³⁶⁰ [amakkhikamadhupaṭilaṃ B]

³⁶¹ aṭṭhārassa-akkhobhinisaṃkhātehi A

³⁶² caturaṅgaṇisenāhi A; caturaṅgaṇikasenāhi B

³⁶³ parivārito A

³⁶⁴ bārāṇasibhimukho A

³⁶⁵ attamimṣu A; attamimṣu B

³⁶⁶ antarāmatte B

³⁶⁷ [likkhāpitvā]

³⁶⁸ tha A

³⁶⁹ yujjathā A

³⁷⁰ yujjitukāraṇaṃ A

³⁷¹ mathāme A; mahānāme B

³⁷² dāheti B

³⁷³ mesentūti A

³⁷⁴ masutvā B

³⁷⁵ (kau, b) rājā A

³⁷⁶ pavisitvā AB

³⁷⁷ amacco A

³⁷⁸ [raṇṇo]

³⁷⁹ paṇṇaṃ A

³⁸⁰ mahāsato A

³⁸¹ asamito A; [asambhito]

³⁸² āgacchanti B

³⁸³ balanikāho A

³⁸⁴ e(ko, b)kasatasamāgatā B; (ko, b) ekasatasamāgatā Z

³⁸⁵ senā A

47. yuddhāya³⁸⁶ siṃghaso³⁸⁷ gantvā patvā nagaram gato³⁸⁸

nagarāsantike desekhandhāvāram nivesayati

khandhāvāranivesanā³⁸⁹ nagarassa samantato

48. tato dūtaṃ pahiṇimsu³⁹⁰ bodhisattassa khattiyā

detha no setachattaṃ³⁹¹ vā yuddhaṃ vā ti.

narādipo³⁹² tesam taṃ vacanaṃ sutvā,

kuddhokodhamadhivāsāye yuddhayeva³⁹³ karissanti patidūtaṃ apesayi ahañ ceva adaṇḍena
asatthena³⁹⁴ parājito.

tadā sahajātā amaccā balavantā virāṅgarūpā parasenapamaddanasamatthā³⁹⁵ sangāme acalājātā
gātham āha.

49. balavanto mahāmaccā yācimsu yujjhitaṃ³⁹⁶ pi ca

yujjhissāma mayam deva tvaṃ mā yujjha rathesabhā ti.

tesam rājā nivāresi.

tumhākaṃ yujjhanekayujjhissāmi ahaṃ yeva mama yuddhaṃ idaṃ iti.

tato te puna³⁹⁷ yācimsu³⁹⁸ bodhisattaṃ narādipaṃ,

deva amhesu ekekaṃ pesesi³⁹⁹ ce pi yujjhitaṃ yuddhaṃ katvāna sabbe⁴⁰⁰ te bandhitvā⁴⁰¹ tava
santikaṃ.

mahāsatto pi dayāluko vacanaṃ sutvā nivāresi⁴⁰² gātham āha.

50. surā⁴⁰³ etesu ehi gantvā yuddhaṃ karoti ce

sasene te hi rājāno viddhamsetuṃ na⁴⁰⁴ dukkaraṃ

51. maraṇaṃ bandhanaṃ vā pi karontānaṃ⁴⁰⁵ nivāritaṃ

dukkaraṃ⁴⁰⁶ ti vicintitvā⁴⁰⁷ samā⁴⁰⁸ tesu nivāreyyūṃ⁴⁰⁹

³⁸⁶ yuddhoya A

³⁸⁷ siṃghāso A; siṃhaso B; [siṅghasso]

³⁸⁸ [tato A]

³⁸⁹ khandhāvāranivāsānā A

³⁹⁰ pahaṇimsu B

³⁹¹ settachattaṃ A

³⁹² [narādhipo B]

³⁹³ (kaṃ, a) yuddhayeva A

³⁹⁴ assatthena A

³⁹⁵ marasenapamaddhanasamatthā A

³⁹⁶ yujjhitaṃ A

³⁹⁷ pana A

³⁹⁸ yāsu A; yācisu B

³⁹⁹ mesesi A

⁴⁰⁰ sa(kau, a)bbe Z

⁴⁰¹ (kau, a) bandhitvā B

⁴⁰² nirāresi B

⁴⁰³ [sūrā]

⁴⁰⁴ (kaṃ, b) na A

⁴⁰⁵ karontonam B

⁴⁰⁶ dakkaraṃ A; dakkaram B

⁴⁰⁷ vicintitvā A

⁴⁰⁸ [samma]

52. yujjhissāmi ahaṃ yeva mayhaṃ yuddhaṃ idaṃ pana

bāhanā tumhe mayā saddhiṃ va gacchatha
gacchantā pi ayujjhantā oloketāva tiṭṭhathā ti.

53. na koci tesam maraṇabhavaṃ⁴¹⁰ puttadāre ārocesi.

54. sve sabbe tumhe ṇhātvā pātarāsam⁴¹¹ bhuñjitvā
sumaṇḍitapasādhanaṃ⁴¹² maṃ parivāretvā āgacchathā ti.

55. ahañ camhi hatthipiṭṭhiyaṃ nisīditvā

ekasatarājāno balanikāye hi
ekāṅgulinā palāpento⁴¹³ na māremi
sabbe tumhe sve maṃ parivāretvā nikkhamathā ti.

atha mahāsatto pabhāya rattiyaṃ ṇhātvā nānattarasabhojanaṃ⁴¹⁴ bhuñjitvā
sabbālaṅkārapaṭimaṇḍito⁴¹⁵ rājaṅgaṇe thatvā⁴¹⁶ sabbe amaccā⁴¹⁷ sannipātāpetvā⁴¹⁸ rājabālanam⁴¹⁹
gajjendham⁴²⁰ suvaṇṇakaccham⁴²¹ hatthālaṅkārapaṭimaṇḍitam⁴²² parasenapamaddanasamattham⁴²³
hatthācāriyehi⁴²⁴ susikkhitam⁴²⁵ abhiruyhi amaccagaṇaparivutto sakko viya devagaṇaparivutto⁴²⁶
devaccharapatibhāgāhi⁴²⁷ uttamarūpadharāhi caturitthi⁴²⁸ ratanakhacittadaṇḍāhi⁴²⁹ suvaṇṇavijjanīhi⁴³⁰
vijjayamāno⁴³¹ nānappakārehi⁴³² dhujapaṭākehi⁴³³ nānappakārehi⁴³⁴ turiyehi⁴³⁵ vajjantehi mahantena
parivārena pācinadvārena⁴³⁶ nikkhami. parasenam disvā pucchanto gātham āha.

⁴⁰⁹ nivāreyyam B

⁴¹⁰ maraṇabhavaṃ A

⁴¹¹ pātaḥarāsam A; pātakasam B

⁴¹² sumaṇḍitapasādhinā A

⁴¹³ malāpento B

⁴¹⁴ nānattarasabhojjanam A

⁴¹⁵ [sabbālaṅkārapaṭimaṇḍito B]

⁴¹⁶ [thatvā]

⁴¹⁷ [amacce]

⁴¹⁸ sannipāta(kau, b)petvā B

⁴¹⁹ rājabāhanam A; rājabāla(kau, b)nam Z; [rājavāhanam]

⁴²⁰ gajjemndham A; [gajendam]

⁴²¹ suva(kah, a)ṇṇakaccham A

⁴²² hatthālaṅkārapaṭimaṇḍitam A

⁴²³ parasenapamaddhanasamattam A; parasenapamandanasamattam B

⁴²⁴ hatthāpāriyehi AB

⁴²⁵ susikkhi A

⁴²⁶ dhevaganaparivutto A; devatanaparivutto B

⁴²⁷ devaccharapatibhātāhi B

⁴²⁸ caturitthi B

⁴²⁹ rattanakhacittadaṇḍāhi A

⁴³⁰ suvaṇṇavijjanīhi A; [suvaṇṇavijjanīhi]

⁴³¹ vijjamāno A; [vijjayamāno]

⁴³² nānappakārehi A

⁴³³ dhajapadhākehi B

⁴³⁴ nānappakārehi A

⁴³⁵ guriyehi A

⁴³⁶ pācinaddhāre A; pācinaddhārena B; [pācinadvārena]

56. hatthi⁴³⁷ assā rathā pati⁴³⁸ senāya caturaṅgiṇi⁴³⁹

samantā parivārenti nagaram honti siriya⁴⁴⁰ jalam

57. kassesā mahatisenā⁴⁴¹ piṭṭhito anupatiko

vividhā aparimāṇā sāgarasseva⁴⁴² ummiyo ti.

taṃ sutvā amaccā naṃ bodhisattaṃ etad avocum,

deva ekasatarājāno⁴⁴³ jambūdipe⁴⁴⁴ amhehi yujjhanatthāya⁴⁴⁵ āgatā tesam senā mahati
sāgarasseva⁴⁴⁶ ummiyo ti.

taṃ sutvā mahāsatto evaṃ gātham āha.

58. rājā gato⁴⁴⁷ ekasate⁴⁴⁸ narinde⁴⁴⁹ sabbattha tumhe ca

yujjhanattham vatvā vatvāna ekaṅgulinā mitattā⁴⁵⁰

pātesi tasmim ca khaṇe na senā ti.

sabbe amaccā gantvā sabbavacanam ekasatarājāno vadanti. te sabbe rājāno amaccānam vacanam
suttvā appoṭetvā⁴⁵¹ nādayantā pathaviuddhriyasaddo⁴⁵² viya ahoṣi. te sabbe rājāno saha yodhāgaṇehi⁴⁵³
nānāvividhāni āvudhāni gahetvā tattha yānam āruya nānāvividhehi āvudhehi⁴⁵⁴ vijulatā viya ākāse
hatthino koṇcanādaṃ nadanti. assā rathā hasanti⁴⁵⁵ nadanti balanikāyā saddam⁴⁵⁶ nadanti. tesam⁴⁵⁷
niḡghoso yugāntavātasadiso⁴⁵⁸ ahoṣi. sabbe rājāno balanikāyehi⁴⁵⁹ gantvā bodhisattassa abhimadditum⁴⁶⁰
ārabbhimsu⁴⁶¹.

mahāsatto⁴⁶² ekaṅgulinā⁴⁶³ sutto⁴⁶⁴ buddhapatimāṅgulikāraṇanisandena⁴⁶⁵ sabbe hatthāroha
hatthehi patimsu. assāroha assehi patimsu. rathāroha⁴⁶⁶ rathehi patimsu. patikā⁴⁶⁷ omuttasannaddhā

⁴³⁷ [hatthī]

⁴³⁸ [patī]

⁴³⁹ thaguraṅgiṇi B

⁴⁴⁰ sariyā A

⁴⁴¹ malatisenā B

⁴⁴² sānatarasseva A

⁴⁴³ ekasatarājānā A

⁴⁴⁴ jambūdipe A; [jambūdipe]

⁴⁴⁵ (kaḥ, b) yujjanatthāya A

⁴⁴⁶ sānagarasseva A; sāgaresseva B

⁴⁴⁷ [tato A; (kaṃ, a) tato B]; (kaṃ, a) gato Z

⁴⁴⁸ ekagate B

⁴⁴⁹ nirindhe A

⁴⁵⁰ [mitamattā]

⁴⁵¹ apoṭetvā A

⁴⁵² pathaviunriyasado A; pathaviundriyasaddo B; [pathaviudriyasaddo]

⁴⁵³ yonāgaṇehi A

⁴⁵⁴ āvudhehi A

⁴⁵⁵ santi A

⁴⁵⁶ saddham A; sandam B

⁴⁵⁷ (kha, a) tesam A

⁴⁵⁸ yutāntavātasadiso AB

⁴⁵⁹ balanivāyehi A

⁴⁶⁰ abhimaddhitum A

⁴⁶¹ āribbhisu A

⁴⁶² mahāsato A

⁴⁶³ ekaṅgulimānā A

⁴⁶⁴ satto A

⁴⁶⁵ buddhapatimāṅgulikāraṇasandhena A; [buddhapatimāṅgulikāraṇanissandena]

⁴⁶⁶ rathāro(kam, b)hā Z

āvudhāni chandhetvā⁴⁶⁸ pattanti⁴⁶⁹. keci samuddhatire⁴⁷⁰ niliyanti⁴⁷¹. tesam palātabhāvaṃ dassento āha.

te vandamānā⁴⁷² ādhā⁴⁷³ atulam⁴⁷⁴ narinda⁴⁷⁵ samābhayaṃ yāciyamānā ahesuṃ

te khattiye ekasate sasene disvā dayālu⁴⁷⁶ atha bodhisatto mātā va⁴⁷⁷ puttam anukapamānā⁴⁷⁸,

uṭṭhetha mā bhāyitharo ti

vatvā datvāna⁴⁷⁹ tesam abhayaṃ janindo⁴⁸⁰ rajjam pi tesam pana tesam eva datvāna tesam atha pañcasīle⁴⁸¹ samāpatipattim⁴⁸² ca ovaditvā purakkhato⁴⁸³ rājavarehi rājāindo⁴⁸⁴ va puram⁴⁸⁵ puna pāvītṭha⁴⁸⁶, atha narapatiseṭṭho maṇḍiram⁴⁸⁷ pāvīsitvā⁴⁸⁸ atulasirivilāso setachattassa⁴⁸⁹ heṭṭhā amitaratanavicitena⁴⁹⁰ pallaṅkaseṭṭhe⁴⁹¹ surapati viya rājā rājamajjhe⁴⁹² nisinno atulamahāpūjam yuddhajjetu⁴⁹³ uḷāram atulasirivilāsam attabhāvaṃ ca disvā atulavarapītīsomanaṣsam⁴⁹⁴ labhitvā visesaṃ atulaphaladdham⁴⁹⁵ kinnu pubbe akāsi iti ca pavaraṛājā cintayitvā sukkena⁴⁹⁶ adhikusalakammaṃ kātaveyāmittha⁴⁹⁷. sakaṭānaṃ⁴⁹⁸ ca attano rajjaṃ ca bodhisattassa niyādeti⁴⁹⁹. tadā vaḍhaṅgulirājā⁵⁰⁰ cakkavattirājā hutvā te pana rājāno attano rajje⁵⁰¹ pesesi⁵⁰². vaḍhaṅgulirājā attano nagaram pāvīsi. tato param ekasatarājāno saṃvacchare nānāvīdhaṇṇakāram vaḍhaṅguliraṇṇo pahīṇīsu. rājā sabbadhanam dānam datvā dhammena sammena rajjam kāresi.

⁴⁶⁷ (kaṃ, b) patikā B

⁴⁶⁸ dhaddhetvā A; dhandetvā B; [chadḍetvā]

⁴⁶⁹ [pattanti B]

⁴⁷⁰ samuddare B; [samuddatīre]

⁴⁷¹ [niliyanti]

⁴⁷² vandhamānā A

⁴⁷³ [addhā]

⁴⁷⁴ atalam A

⁴⁷⁵ nirindha A

⁴⁷⁶ dayāsu B

⁴⁷⁷ vu B

⁴⁷⁸ anukappamānā A; anukampamānā B

⁴⁷⁹ da(kha, b)tvāna A

⁴⁸⁰ janindho A

⁴⁸¹ pañcasīle AB

⁴⁸² samāpattipattim A; sammāpatipattim B; [sammāpatipattim]

⁴⁸³ murakkhato A

⁴⁸⁴ rājāindho A

⁴⁸⁵ param A

⁴⁸⁶ pāvītṭha B

⁴⁸⁷ [maṇḍiram]

⁴⁸⁸ [pāvīsitvā]

⁴⁸⁹ settachattassa A

⁴⁹⁰ amittarattanavicitena A; amīgaraganavicitena B; [amitaratanavicittena]

⁴⁹¹ pallaṅkaseṭṭhe A

⁴⁹² rājamajje A

⁴⁹³ yuddhajjetu A; [yajāpetvā]

⁴⁹⁴ atalavarapītīsomanaṣsam A

⁴⁹⁵ atulaphaladdam A

⁴⁹⁶ sukkena A; (kaḥ, a) sukhe B; (kaḥ, a) sukkena Z

⁴⁹⁷ kātaveyāmittha B; [kātaveyāmittham]

⁴⁹⁸ sakaṭānaṃ A

⁴⁹⁹ [niyyādenti]

⁵⁰⁰ vaḍhaṅgurājā A

⁵⁰¹ ra(khā, a)jje A

⁵⁰² mesesi A

tadā kira samaye mahāsattassa karuṇānubhāvena⁵⁰³ sakkassa bhavanam uṇhākāram dassesi. sakko⁵⁰⁴ āvajjento taṃ kāraṇam⁵⁰⁵ ñatvā saggato⁵⁰⁶ otarivā mahāsattassa santikaṃ gantvā dibbabhāsenā⁵⁰⁷ taruṇasuriyo viya jajjalamāno mahāsattam pucchanto gātham āha.

59. pucchāmi taṃ mahārāja⁵⁰⁸ kiṃ puñam⁵⁰⁹ pakatam tayā
pubbe pi yena puñena⁵¹⁰ laddho te vijjayo⁵¹¹ ayam.

mahāsatto patiladdhajātissarañāṇena attano pubbakammaṃ āvikaronto⁵¹² imā gāthāyo āha.

60. bāñijoham⁵¹³ pure⁵¹⁴ āsiṃ nāma⁵¹⁵ kulavaḍhano
chinnam ekāṅgulim disvā buddharūpaṃ tadā vane

61. madditvā⁵¹⁶ mattikaṃ⁵¹⁷ suddham⁵¹⁸ rūpaṃ passāṅgulim⁵¹⁹ kare
tena puñānubhāvena⁵²⁰ laddho me vijjayo ayam

62. silo⁵²¹ pi samukho gantvā maṃ duṭṭhāya⁵²² sucito⁵²³
mayāpekāṅguliyeva⁵²⁴ pattanti⁵²⁵ puñatejasā⁵²⁶

63. mahāgajjendasahassāni⁵²⁷ sayodhārohanāni⁵²⁸ ca
rathasāyahi⁵²⁹ āgantvā suvitāni⁵³⁰ pattanti⁵³¹ te

64. pacchato pi mahākūṭo⁵³² mama sattanam⁵³³ āsayo
tāpena⁵³⁴ suvito⁵³⁵ eso tasmā bhūto mi⁵³⁶ teballo⁵³⁷

⁵⁰³ karuṇānubhāvena A

⁵⁰⁴ sako A

⁵⁰⁵ karaṇam A

⁵⁰⁶ sattato AB

⁵⁰⁷ [dibbābhāsenā]

⁵⁰⁸ rājā A

⁵⁰⁹ [puñam]

⁵¹⁰ [puñena]

⁵¹¹ [vijjayo]

⁵¹² [āvikaronto A]

⁵¹³ (kaḥ, b) bāñijoham Z

⁵¹⁴ pu(kah, b)re B

⁵¹⁵ nā(khā, b)ma A

⁵¹⁶ maddhitvā A; manditvā B

⁵¹⁷ mattakam A

⁵¹⁸ suddam A

⁵¹⁹ pasāṅgulim A

⁵²⁰ puñānubhāvena A; [puñānubhāvena]

⁵²¹ siṃho A; siho B; [siho]

⁵²² duḍḍhāya B

⁵²³ supito B

⁵²⁴ mayāpakāṅguliyeva A

⁵²⁵ pattani B; [patanti]

⁵²⁶ [puñatejasā]

⁵²⁷ mahāgajjendhasahassāni A

⁵²⁸ [sayodhāvahanāni B]

⁵²⁹ rathasāyabhi B; [rathasārathī]

⁵³⁰ [suvitāni]

⁵³¹ [patanti]

⁵³² mahākudho A ; [mahākūṭo]

⁵³³ [sattānam]

⁵³⁴ [tapena]

⁵³⁵ [suvīto]

⁵³⁶ [pi]

65. yaṃ dhaṇaṃ aṅgulisuciparibhoge⁵³⁸ na khiyate
 mahātejena nassanti pañcasādhāraṇā ime
 66. anāte⁵³⁹ pi buddhattaṃ samijjhissaṃ⁵⁴⁰ surapati
 mayhaṃ pi puñatejena⁵⁴¹ bhavissaṃ lokanāyako ti.
 67. bhonto buddhapūjānāma
 appakā pi saddhāyakatā
 mahapphalā⁵⁴² honti mahānisamsā.

taṃ sutvā pasannaṃānaso hutvā āvīkaronto⁵⁴³ imaṃ gātham āha.

68. sakkoham⁵⁴⁴ asmi⁵⁴⁵ devindo⁵⁴⁶ āgatosmi tava santike⁵⁴⁷
 anāgate⁵⁴⁸ pi buddhattaṃ pāpuñissasi bhūpati
 69. nisinno bodhimūlasmiṃ mārayodhāvidhaṃsaṇaṃ
 kilesakhandhamāre ca maccumāraṃ⁵⁴⁹ asesato⁵⁵⁰
 ajjesi⁵⁵¹ saḥassanātho devesu mānussesu ca
 70. dhammanāvaṃ samāruyha
 saṃsāre ca mahaṇṇave nimujjajanattaṃ sabbam
 71. kāresi⁵⁵² bhayaḍukkhatto⁵⁵³ dvatimsaniriye⁵⁵⁴ suṇe⁵⁵⁵ karonto
 saggam⁵⁵⁶ purayi
 dhammātaṇ⁵⁵⁷ ca pāyevā arahattamaggaṃ⁵⁵⁸ pāpuṇīti.

tadā sakko bodhisattaṃ āpucchitvā gātham āha. taṃ sabbavacaṇaṃ⁵⁵⁹ sutvā,

devarājāsujampati ovaditvā narādhipaṃ⁵⁶⁰ māpetvā buddhapatimaṃ⁵⁶¹ pūjissāmi⁵⁶² ahan ti
 ca⁵⁶³ vatvāna⁵⁶⁴ tampadesamhā saggakāyaṃ⁵⁶⁵ apakkami.

⁵³⁷ [kevalo]
⁵³⁸ aṅgalisuciparibhoge A
⁵³⁹ [anāgate AB]
⁵⁴⁰ samijjhissaṃ A
⁵⁴¹ [puñatejena]
⁵⁴² maha(khi, a)pphalā A
⁵⁴³ [āvīkaronto AB]
⁵⁴⁴ sakkom A
⁵⁴⁵ asmiṃ A
⁵⁴⁶ devinto A
⁵⁴⁷ ntike A; (kha, a) ntike B
⁵⁴⁸ (kha, a) anāgate Z
⁵⁴⁹ maccamāraṃ A; paccumāraṃ B
⁵⁵⁰ asesato A
⁵⁵¹ [ajesi]
⁵⁵² gāresi A
⁵⁵³ bhayhadukkhatto A
⁵⁵⁴ dvatimsaniriye A
⁵⁵⁵ [suṇe]
⁵⁵⁶ sattaṃ AB
⁵⁵⁷ dhammācattaṇ A
⁵⁵⁸ arahattamattaṃ AB
⁵⁵⁹ sabbam vacanaṃ B
⁵⁶⁰ narādhipaṃ A
⁵⁶¹ [buddhapatimaṃ]
⁵⁶² pūjessāmi A

atha bhagavā⁵⁶⁶ buddhapatimākarāṇānisamsam⁵⁶⁷ kathento gātham āha.

72. sattakkhattuñ⁵⁶⁸ ca devindo⁵⁶⁹ devarajjam⁵⁷⁰ akārayi

asītiñ ca sattakkhattum⁵⁷¹ cakkavattisirim⁵⁷² labhe⁵⁷³

73. padesarajjam vipullam⁵⁷⁴ gaṇanāto asaṃkheyyam

bhogena onatānatthi patimākarāṇaphalam⁵⁷⁵

74. yaṃ yaṃ aṅgulivikallam⁵⁷⁶ buddharūpassa saṇḍape⁵⁷⁷

omato mattikāyeva⁵⁷⁸ phalan tissa⁵⁷⁹ acintayyam⁵⁸⁰

75. pādahattham pi ce bhaṅgam

pītiyā yo ca saṇḍape⁵⁸¹ phalan tam vipulan⁵⁸² tassa

ciram⁵⁸³ upajji⁵⁸⁴ tejasā.

uttariṃ pi dhammam desento imam gātham⁵⁸⁵ abhāsi.

76. kārāpetvā buddhapatimam⁵⁸⁶ cetiyañ ca yathāraham

mahātejā sadā⁵⁸⁷ honti suriyo vipulo yathā

77. santam pi kusalam katvā yāvajivam⁵⁸⁸ saranti ye

kālam⁵⁸⁹ katvāna te yanti nibbānam paramam sukham

78. disvā metteyyasambuddham⁵⁹⁰ katvā tassānusāsanam

dukkhassantam karo hoti munibimbassa kārako

⁵⁶³ (khi, b) ca A

⁵⁶⁴ vantvāna B

⁵⁶⁵ sattakāyam AB

⁵⁶⁶ bhaggavā A

⁵⁶⁷ [buddhapatimākarāṇānisamsam]

⁵⁶⁸ sattakkhattuñ B

⁵⁶⁹ devindho A

⁵⁷⁰ devajjam A

⁵⁷¹ sattakkhattum A; [sattakkhattum]

⁵⁷² cakkavattisiri B

⁵⁷³ labho A

⁵⁷⁴ vipulam B; [vipulam]

⁵⁷⁵ [patimākarāṇaphalam]

⁵⁷⁶ [aṅgulivikalam]

⁵⁷⁷ saṇḍa(kha, b)pe BZ; [saṇḍape]

⁵⁷⁸ matikāyeva A

⁵⁷⁹ tassa AB

⁵⁸⁰ acintayam A

⁵⁸¹ [saṇḍape]

⁵⁸² vilan A; vilapulan B

⁵⁸³ caram A

⁵⁸⁴ [uppajji B]

⁵⁸⁵ tātham B

⁵⁸⁶ [buddhapatimam]

⁵⁸⁷ saddhā A

⁵⁸⁸ [yāvajivam]

⁵⁸⁹ kāsam A

⁵⁹⁰ (khī, a) metteyyasambuddham A

79. tasmā kareyyataṃ bimbaṃ sammāsambuddhavaṇṇitaṃ⁵⁹¹

sabbasampattiṃ mokkhaṃ vā icchanto pañāvā⁵⁹² naro

80. sabbaso buddhapaṭimaṃ⁵⁹³ karontānaṃ phalaṃ pana

ko nāma kathitaṃ sakko⁵⁹⁴ lokanāthaṃ vinā paro ti.

sutvāna bimbassa phalaṃ narindo⁵⁹⁵ hutvāna hattho paramapītito⁵⁹⁶ phuttho uḷārāyaca
pītiyā so sambuddhapāde sirasā namitvā,

bimbānisamaṣena⁵⁹⁷ bhavyeayaṃ jātissaro sabbaguṇupapanno⁵⁹⁸ dhanena rūpena kulena hatā⁵⁹⁹
buddho bhavissāmi anāgatamhi⁶⁰⁰ mātāpitāñātikam⁶⁰¹ bandhavā⁶⁰² ca sabbe ca sattā sukhitā
bhavanti

evaṃ ca panidhāpa⁶⁰³ seṭṭhaseṭṭho pasanno abhinandirājā⁶⁰⁴ gato⁶⁰⁵. satthā pakāsetvā⁶⁰⁶ catusaccam
anuttaramṃ samodhānesi⁶⁰⁷ jātakam⁶⁰⁸ jātidassijino.

tadā mātā sirimahāmāyā pitā suddhodano amma⁶⁰⁹ anuruddho ca so sakko⁶¹⁰ mahesica⁶¹¹
yasodharā jambūdipe⁶¹² ca rājāno asīti⁶¹³ pi ca parisā buddhapaṭisā yāgamhi⁶¹⁴ samaye tahiṃ⁶¹⁵
vadhaṅguli lokanātho evaṃ dhāretha jātakam⁶¹⁶.

vadhaṅgulijātakam⁶¹⁷ imaṃ dhammadesanaṃ sutvā sakalajambūdipe⁶¹⁸ manussā
buddhapaṭimaṃ⁶¹⁹ vā cetiyaṃ vā kāretvā kārapetvā bhagavati cārikaṃ gatakāle⁶²⁰ sakkaccam pūjenti,
tena kusalakamma usannakusalamūlā⁶²¹ hutvā cutā yebhuyyena⁶²² devaloke nibbattiṃsu.

⁵⁹¹ sasammāsambuddhavanitaṃ A

⁵⁹² [pañāvā]

⁵⁹³ [buddhapaṭimaṃ]

⁵⁹⁴ sakko *om.* A

⁵⁹⁵ narindho A

⁵⁹⁶ parapitito A

⁵⁹⁷ bimbānisamaṣ A

⁵⁹⁸ sabbaguṇaṃ papanno A

⁵⁹⁹ mātā A; [punṇo]

⁶⁰⁰ anāgatamhi B

⁶⁰¹ mātāpitābātikam A; mātā(khā, a)pitāñātikam Z

⁶⁰² bandhu(khā, a)vā B

⁶⁰³ [panidhāya]

⁶⁰⁴ abhinandhirājā A

⁶⁰⁵ tato B

⁶⁰⁶ pakkosetvā A; cakāsetvā B

⁶⁰⁷ samodhāne(khī, b)si A

⁶⁰⁸ jātakam B

⁶⁰⁹ [āyasmā]

⁶¹⁰ pakko A

⁶¹¹ mahesīca A

⁶¹² [jambūdipe]

⁶¹³ asiti B

⁶¹⁴ [yātamhi A]; (khā, b) yātamhi B; (khā, b) yāgamhi Z

⁶¹⁵ tahi B; [amhi]

⁶¹⁶ [jātakam AB]

⁶¹⁷ vadhaṅgulijātakam B

⁶¹⁸ [jambūdipe]

⁶¹⁹ [buddhapaṭimaṃ]

⁶²⁰ tagakāle A

⁶²¹ [ussannakusalamūlā B]

⁶²² yebhuyyena A

『コーサラ国仏像縁起譚』

【帰依文】

偉大な慈悲心を有する者（仏）に、彼（仏）によってよく示された拠り所となる法に、煩惱なき供養されるべき聖なる僧伽に帰依せよ。仏によって仏像を造ることの喜悦の増大が示され、仏像を讃えるために大聖人によって〔説かれました〕

【仏像起源伝説】

さて、その時コーサラ国のパセーナディ王はその都で統治していました。その王は法に従う法王で四摂事によって多くの人を刑罰によらず刀剣によらず護っていました、いつも夕刻時に法を聴くために芳香・華蔓などを持ってジェータヴァナに赴きました。

その時、釈尊は早朝に天眼によって世界を眺め、遠方の導かれるべき人を見ました。そして早朝から起き、身支度をして鉢と衣を持ってそこに行き、法を示してその人を道果に住立させました。また、これも説かれました。

その時従者を伴ったコーサラ国のパセーナディ王は仏に会うために供養の品を持たせて、都全土から出て、精舎に近づきました。近づいたが正覚者に会えず、善逝を慕い、不安になり、君主はこのように言いました、

「正覚者なくして、これは空っぽのジェータヴァナだ」と。

彼の従者たちも

「正覚者に会えず、慕っている者がおらず不安です」

皆このように言いました、直ちに灯明・香・芳香・華蔓などで釈尊の坐具を供養して再びサーヴァティーに帰りました。

一晩中の深い眠りから覚めたその王は、大臣やバラモンの家長たちに相談し、このように言いました。

「尊者たちよ、実にブッダたちは決まった住居を持たず、導かれるべき人々がいる所へはどこへでも行きます。なぜならブッダたちの慈悲があらゆる衆生に対して満たされるからです。私は、仏を信奉し、法を信奉し、僧伽を信奉し、常に三宝を敬いたいのです。もし釈尊が他の所へ行けば、他の人のために行いが途切れてしまいます。それ故、仏陀に基づく仏像をもし釈尊が許すならば、わたしは造りたいです」と。

大臣等は皆、王の言葉を聞いて大いに喜んでこのように言いました。

「大王よ、あらゆる人々のために〔仏像は〕久しくあるでしょう、我々は〔あなたに〕従います。我々みんなで仏像を造りましょう」と。

そこで王は翌日の夕刻時に大臣等に相談しました、芳香・華蔓などを取らせてジェータヴァナに行き、釈尊のもとに近づきました、近づいて芳香・華蔓などで釈尊を供養して礼拝して傍らに座りました。まさに傍らに座ったコーサラ国のパセーナディ王は釈尊にこう言いました。

「釈尊よ、昨日サーヴァッティの人々がジェータヴァナに来ましたが、釈尊に会えず、がっかりして、喉を渴かして『なんと空虚なジェータヴァナなのか』と言い、再びサーヴァッティに帰りました。釈尊よ、世間の悲しみのために我々が仏像を造ることをお許し下さい、もし、釈尊が許すならば我々が信仰心を持って仏像を造りたいと思います」と。

そこで釈尊は王の言葉を聞いてこのように言いました。

「大王よ、誰であっても黄金製などでも、彩色製などでも、高くても、低くても、大きくても、芥子のように小さくても、まさに作られるべき像を正念の限り力の限り仏像をよく造れば、計り知れないほど無上の偉大なる果報を〔得られるだろう〕と私は言います、大王よ、王族たちはこのように知りなさい」と。

そこで王は如来の言葉を聞いて、

「尊者よ、わかりました」と

〔言って〕釈尊に礼拝して法を聴いて都に帰りました。その王は大工を召させて高価な栴檀の堅材で仏像を造らせ、よく描かせると命と心を持つ正等覚者のようでした。すべて造り終わると仏像にふさわしい彩色を施した祠堂に住立させて、奴僕・奴婢等を与えて釈尊に近づいて言いました。

「尊者よ、仏像を造り終わりました。もし釈尊が見たなら輝くでしょう」

〔と云って〕釈尊は黙って承諾しました。

翌日、比丘僧伽を従えた師は、パセーナディ王の住居に行き仏像のあるところに近づきました。その時仏像は師を見て、「生命と心を具足する正覚者のようであるが、生命と心のある正等覚者が存命の時にこのような高座に座るのはふさわしくない」と思い偈を唱えました。

1. 比較できないほどに美しい、最上の仏が存命の時に、わたしも最上なる〔座〕に座ることはふさわしくない

と最上なる仏像は考えて、それは下りるために踏み出されるべき一歩をなした。そこで釈尊はそれを見て、エーラーヴァナのような右手を伸ばして遮りました。

「あなたは座りなさい、立ち上がらなくていいです」と

言い、偈を唱えました。

2. 仏像よ、私は久しからずして涅槃するでしょう、あなたは5千年間とどまるべきです、と。
3. 教えについて全世界の利益のために仏像のない世界では、世界でも優れた人が自らの教えを広く伝えます、
4. たとえ無思の最上なる仏像でも最上の仏にあまねく敬意をなすべきです。
5. 有思で最上の幸福のある彼は誰か、師のために誰が敬意をなさないであろうか。

そして聞いて座に座りました。その時、王を首長とするたくさんの人々がその不思議なことを見て教えに帰依しました。人王のために浄心の姿を示して、師は言ったのです。

それから従者を伴った王は、僧伽を伴った世界の指導者(釈尊)をよく用意された偉大な独座に座らせて、師のために最上の鉢食によって常に満足させました。正覚者に近づいて、礼拝して傍らに座り、仏像の功德を尋ねて王は言いました、

「偉大なる牟尼よ、わたしはあなたにお尋ねします、偉大な英雄で世界主で作光者たる者よ、ある人があなたの像を造る、あるいは、造らせると、彼らにはどんな果報が、どのような来世が[あるのでしょうか] 私のために説いてください。最上なる牟尼よ、わたしはその果報を聞きたいのです」と。

それを聞いて、釈尊は王に偈を唱えました。

6. 人王よ、あなたの耳を傾けて、仏たちによって説かれた比較されるべき無比の威力ある仏像の功德を正しく語りましょう、あなたはこれを聞きなさい。
- 7-10. 大王よ、男でも女でも信仰によって、粘土製でも木製でも石製でも赤銅製でも錫製でも銀製でも象牙製でも仏像を[造れば]、また、途中で崩れた仏像を、あるいは折れた肢節を造らせれば、偉大な果報をもたらす偉大な功德を得るだろう。
11. 大王よ、世に仏像がない限り、世に仏の空があるだろう。
そして確立された教えを得ます。
12. 仏像の目的は、生きている仏の目的でもある。結果を望めば、望み通り得るだろう。
13. 大王よ、偉大な神通力を有し、偉大な威力を有する人は誰でも、大地の表面から有頂天に至るまで七宝でみだし数え上げることができる。

14. 大麦ほどの大きさの仏像を造ることの結果を数えることはできません。
- 15-17. 大王よ、偉大な神通力を有し、偉大な威力を有する者が東方毘提訶を緑豆・そら豆で満たし、北拘盧島を芥子で満たし、西牛貨島を胡麻で満たし、閻浮提全土を穀物で満たしてもそのすべてを数えることはできません。
18. 大麦ほどの大きさの仏像を造った結果を数えることはできません。
19. そして、仏像を造ることは偉大なことなので、どんな言葉が偉大な果報や偉大な功德を [表せるだろうか]

その仏像を造ることを示して師はこの偈を唱えました。

20. この世で人は、石や漆喰や布や木片で、大きくても小さくても、
仏像を造り、造らせます、
21. 仏像を造る者は、肢節を有し、背丈あるいは胴回りがあり、吉祥を具足します、と。
22. 仏像を造る者は、金色で美しく偉大な威力・神通力を有し、勇猛で、決断力や意志を有します。
23. 仏像を造る者は、広大な権力を有し、堅実で、敬われた家に生まれ、偉大で名声のある知恵を有する者です。
24. 師の像（仏像）を造る者は、[煩悩を] 断絶し、思惟を有し、たくさんのお恩を知り、宿命通を備える善き人です、と。
25. 人の像（仏像）を造る者は、常に多くの人々が供養し、恭敬し、礼拝し、従順する [ような人です] と。
26. 仏像を造る者は、天において1コーティの天女たちが美しく楽しい最上の宮殿で取り囲む [ような人です]
27. 仏像を造る者は、広大な穢れなき相を具足し、大変明浄で善く知り容姿端麗で生命を具足します。
28. 仏像を造る者は、吹出物・疥癬・風癬などの病が全身に生じることはありません、幸福を具足します、と。
- 29-35. その仏像を造る者には、眼病、耳病、鼻病、舌病、身病、頭病、耳の病、口病、歯病、咳、喘息、外鼻病、煩熱、熱病、胎病、気絶、赤痢、強痛、コレラ。
癩病、癰、瘡疥、結核、癩癧、輪癬・疥癬・風癬、疥癬、血、胆汁、糖尿病、肩、吹出物、潰瘍、胆汁の生じる病気、痰の生じる病気、

風の生じる病気、集会病、季節の変化で生じる病、不等姿勢で生じる病、発作的病、業異熟の病、寒さ、暑さ、飢え、渇き、大便、小便云々の病はない。

身体の健康を示して言いました

「仏像を造る者は、赤い足の裏を、白い顔を、赤銅の指を、美しい身体を備えた吉祥なる人です」と。

「仏像を造る者は、幡を手にしたものに囲まれ、神の軍を前に置き、望ましい車を有し、楽しい天の都へ赴きます、[仏像を造る者の] すばらしい考えは、望まれた人や望まれない人への愛があります、仏像を造る者の考えにおいて人々が不満足に至ることはありません、人の像（仏像）を造る者は、小鼓や鼓や言葉や法螺貝や叫び声なしに放逸に気づきます」と。

「仏像を造る人は、転輪聖王が名声を広い村で享受する [ように] 天において天の王国の [名声を享受する] 人です」と。

このように十力を有する最上なる勝者で千の輝きを有し、無辺智を有する釈尊は、自分の教えと智と輝きとを集めて、蓮の森のような王を初めとするすべての人を覚らせるために人間界で得られるべき幸せを一つ一つ語り、その後天界で得られるべき幸せも簡略に示しました。そのすべての聴衆たちの導者となって示して偈を唱えました。

36. 人間の最高の幸せを全世界で享受せず、種々のよく悩まされた事をすっかり満たします

37. 善逝の像を造る者は、その福德によって、天界において渴愛と結びついた死という定めから逃れます

38-41. 人間としての存在を捨て、もしその人々が天人としての存在となれば、宮殿においてすばらしい容姿を得て¹、すばらしい楽器によって満たされよく楽しみ²、常にすばらしい婦人たちをよく伴い、そのすばらしい最上の幸福を享受します。

その時王は早朝に十万を出して、大きな布施を与えて、16[種]の香水瓶によって頭を洗い清め、朝食を終え、清浄な上衣を一肩に着けて、高楼の上の吉祥なる臥床で結跏趺坐し、座った彼は自分の布施による福德の集積に心を傾けて座りました。これは転輪聖王の常法です。彼（転輪王）が心を傾けている時、福德業を縁とし、時節による等起の、青い摩尼の集まりと同様に天界の転輪宝が、東方の水面を破るように虚空が生じ、虚空を莊嚴するように現れました。

「大王よ、昔ボーディサッタは仏像の一本の折れた指を見て、粘土で直し、わずかばかり

¹ 第39偈 “vimāne labhante vagaharū, rūpe vare haṅgasoheva” のうち “vagaharū” と “haṅgasoheva” は、校訂案を提示できず訳出できていない。

² 第40偈 “punṇe suramme turiyehi varehi varā pamadāparitovaramāpayare” のうち “pamadāparitovaramāpayare” は、校訂案を提示できず訳出できていない。

の供養をしました。その結果として、望み通り天界の幸せを享受し、それから死んで、閻浮提で転輪聖王となりました。その後、菩提樹下に座って、鉄圍山の周りの魔軍を破って、一切智性を得ました」と。

そして、誰であっても仏の指、あるいは耳、あるいは頭、あるいは折れた足、あるいは失ったり壊れたりした仏像を造り、造らせる、その結果としてあらゆる幸せが生じるのです。

【前世物語 1 (仏像を修復した商人)】

さて、ある時クラヴァツダクマーラは、商売をするために数千人の商人たちと一緒に別の都へ出発しました、道中で一体の粘土製の仏像の雨に濡れて折れた一本の指を見つけ、礼拝して、粘土で指を捏ねて、仏像の指を造りました。彼は、灯明・香・芳香・華蔓などによって供養して、塔廟を護るための一人の下女に祭事や灯明・香による供養のための 8 カハーパナを与えました。ボーディサッタは礼拝して、合掌して、このように誓願の偈を唱えました。

42. そして、尊者よ、私のこの善行によって、来世において全衆生の中で最上の覚者で比較できないほどの勝者となりますように。
43. 輪廻している私が輪廻に於いて最上の家に [生まれ] 力・容姿・徳を持ち、福があり、最勝で、最上でありますように。
44. また、敵やあらゆる怨み・怖れ・畏れが私の面前にありませんように、最上の幸せを得ますように、来世に仏となりますように、と。

その後敵は皆、蛇やサソリなどでさえも彼の面前に来ることはありませんでした。そして死んでから、天界に再生し、天で幸せを享受し、その時阿修羅などは天界によく各々 [住していました]

【前世物語 2 (ヴァツタングリ王)】

そして死んでからバーラーナシ王の第一妃の胎内に再生を得ました。その第一妃は 10 ヶ月が満ちると、富の相を具足した男の子を産みました。まさに大臣家では女たちが、ちょうどその日男の子を出産しました。

ボーディサッタは男の子たちと一緒に成長し、同時に産まれた男の子たちに尊敬され、象あるいは馬たちを実に遠くから見て、一本の指で [指差して] 数えただけで、その時象馬は倒れました。それ故に、彼にヴァダングリという名を付けました。

彼は父の死後、王国で灌頂式をなし、統治していました。刑罰によらず、刀剣によらず、四摂事によって多くの人を守りました、法に従う法王は、屋根付きの講堂を造らせて、毎日 10 万の価値のある大きな布施を与えました。小さな蛇が吸うわずかな血でさえも他人の身体から流させ

ませんでした。誰がカラスや生き物の殺害を〔なしましょうか〕、価値が少なくても与えられない他人の物を取りませんでした、他人の妻を貪欲において見ませんでした、どんな妄語も言いませんでした、5種の酒を飲みませんでした。

その時、閻浮提全土にいる百人の王たちはマハーサッタの徳を聞き、一カ所に集まって相談しました、

「汚れない蜜でできた屋根があるような彼の王国を奪いましょう」と。

18 アッコービニを数える四隊の軍で囲んでバーラーナシーを出発しました。道中で手紙を書かせて、「〔王〕傘を我々によこせ、我々と闘え。おまえが望むようにしろ」という手紙を使者に渡し派遣しました。彼らが戦をなすことを示して師は偈を唱えました。

45. 生きとし生けるものの主（王）よ、百人の偉大な力を持つ者たち

に使者を派遣しました、王たちはこのように言いました。

使者はバーラーナシーに入って、王宮の中庭に立ちました。一人の大臣はそれを見て王に告げました。王は彼（大臣）に相談しその言葉を問いました。使者が王に手紙を渡しました。マハーサッタは手紙を読ませて若い獅子のように怖れず、まさに使者に問いました。

「何人の王で何人の軍隊がやって来ているのですか」と。

使者は偈を唱えました。

46. 百人の王たち皆がやって来て、18 アッコービニーの軍が取り囲んでいます

47. 戦のための駿馬が走り、そして都に至り、都近くの場所に陣営を置き、陣営は都全土に〔あります〕

48. そして『ボーディサッタの王族たちよ、我々に白傘あるいは兵衛をよこせ』と使者を送りました、と。

人王（ヴァダングリ王）は彼らのその言葉を聞いて、

「怒りに共感します、まさに戦をなしましょう、使者を送ります、まさに私は刑罰によらず刀剣によらず打ち負かします」〔と言いました〕

その時、力強く勇ましく敵を破壊でき戦で動じない同時に産まれた大臣たちは、偈を唱えました。

49. 力強い偉大な大臣たちは戦を望みます、王よ、我々が戦いましょう、車兵の主（王）よ、あなたは闘ってはなりません、と。

王は彼らの（進言を）遮りました。

「あなた方のために戦場でまさに私がこの私の戦を一人で戦いましょう」と。

そして再び彼らは君主であるボーディサッタに請いました、

「王よ、我々に [指令を] 送れば、戦うために兵衛をなし、彼ら（我々）は皆、あななの側近くで結束します。」

慈悲心あるマハーサッタも言葉を聞いて遮り偈を唱えました。

- 50・51. 勇敢な者たちよ、あなたは彼らの許へ行きなさい、行ってもし戦をなすならば、王たちはその軍を備えた（あなたたち）を破壊することは難しくありません、死あるいは束縛をなす彼らを止めることは難しいと考えて、友よ、彼らの許に [行く事を] やめるべきです。
52. まさに私が私のこの戦いを闘いましょう、乗り物に乗ったあなた方は私と一緒に行きなさい、行っても闘わずに見ていなさい、と。
53. 誰も彼らの死を妻子に告げることはありません。
54. 明日あなた方は皆、沐浴し、朝食を食べ、装身具でよく飾り、私を取り囲んでやって来なさい、と。
55. 私は象の背に座っています、百人の王と力強い軍隊を一本の指で逃げさせ、殺しません、あなた方は皆、明日私を取り囲んで出陣しなさい、と。

そこでマハーサッタは夜明けに沐浴して、色々な味の食べ物を食べ、全身を装身具で飾り、王宮の中庭に立ち、大臣皆を集合させて、金色の帯を付け、象の装身具で飾って、敵軍を破ることのできる象の調教師によってよく訓練された王の乗り物の象に乗って、天人衆に囲まれ、天女のような至高なる容姿を備えた四人の女性に [囲まれた] サッカのように大臣衆に囲まれて、宝をちりばめた柄のある金色の扇で煽いで、様々な種類の幡や大きな幡で奏でられた様々な種類の楽器で [取り囲んで] たくさんの従者とともに東門から出ました。敵軍を見て、尋ねて偈を唱えました。

56. 軍隊の四軍は象隊、騎馬隊、戦車隊、歩兵隊であまねく都を取り囲み、栄誉の輝きです、
57. 海の波のように後方から到来した様々で無限であるこの偉大なる軍は誰のものですか、と。

それを聞いて、大臣たちはそのボーディサッタにこう言いました、

「王よ、閻浮提にいる百人の王は、我々と闘うためにやってきました、彼らの軍は偉大で海の波のようです」と。

それを聞いてボーディサッタは偈を唱えました。

58. 王たちよ、あらゆるところにいるあなた方百人の人王（敵）たちに戦を望むと告げます、一本の指で〔指差して〕数えただけで、その時軍を殺しません、と。

大臣たちは皆行き、すべての言葉を百人の王に告げました。その王たちは皆、大臣たちの言葉を聞いて、手を叩いて大地が割けるように轟きました。その王たちは皆、戦士衆と共に、様々な種類の武器を取り、そこで乗り物に乗って、様々な種類の武器で稲妻のように虚空に〔光らせ〕象の叫びをあげました。騎馬隊や戦車隊は笑い、叫び、軍隊が声をあげました。彼らの声は時代の終わりの風のようなものでした。王たちは皆、軍隊と共に行き、ボーディサッタの〔軍を〕打ち砕くために出発しました。

マハーサッタが、一本の指で眠らせ、仏像の指を造った結果によって、すべての象に乗った者たちは象から落ちました。馬に乗った者たちは馬から落ちました。戦車に乗った者たちは戦車から落ちました。甲冑を脱いだ戦士たちは武器を捨てて、倒れました。ある者は海岸に留まりました。彼らが逃げたのを示して言いました。

「人王よ、実に彼らは敬礼し、平静と無畏を請うています」

その軍隊を連れだした百人の王を見て、そこで慈悲においてボーディサッタは母と子を哀れみ

「立ち上がりなさい、怖れることはありません」

と言って、彼らに無畏を与え、人王（ヴァダングリ王）は彼らの王国も彼らに与え、そこで彼らのために五戒や正しい道を訓戒して、王たちに尊敬され、王（ヴァダングリ王）は再び都に入りました、そして、最上なる王は、宮殿に入り、無比の吉祥なる美しさを有する者は白傘の下に様々な無限の宝で〔飾られた〕最上の椅子に天主のように王たちの間に座って、無比の偉大なる供養をさせ、偉大で無比の吉祥なる美しさを有する自身を見て、無比の優れた歓喜を得て、優れた無比の結果を得て、過去に何をしたのだろうか、と最上なる王は考えると、喜んでたくさんの善業をなすことに努めていました。〔そして、百人の王が〕自分の領地と自分の王権をボーディサッタに与えました。その時ヴァダングリ王は転輪聖王となり、そしてその王たちを各々の王国へ帰らせました。ヴァダングリ王は自分の都へ帰りました。それから後に百人の王たちは毎年、多種多様な手紙と贈り物をヴァダングリ王に贈りました。王はすべての財産を布施して、法に基づいて正しく統治しました。

その時マハーサッタの慈悲の力によって熱気を帯びたサッカの居場所を示しました。サッカは耳を傾けて、その行いを知り、天界から降りてマハーサッタの近くへ行き、天の光明によって朝日のように輝きマハーサッタに尋ねて偈を唱えました。

59. 大王よ、あなたにお尋ねします。あなたによってどんな福德がなされたのですか。前世に於けるある福德によってあなたのこの勝利があるのですか。

マハーサッタは宿命智を得て、自分の前世での行いを明らかにしてこれらの偈を唱えました。

60-61. 私は昔クラヴァツダという名の商人でした、その時森で折れた指の仏像を見て、清浄な土を捏ねて仏像の美しい指を造りました、その福德によって私のこの勝利が得られました。

62. 面前の獅子が私を清浄から汚すために進み出ても、福德の光明を持つ私によってまさに一本の指で倒れます。

63. よく訓練された幾千もの巨大な象や戦士を乗せた乗り物やその戦車に乗った御者がやって来ても、倒れます。

64. 後方には私や衆生の抛り所である偉大な山の頂があります、それ故、これ（山の頂）は熱から離れた唯一の存在です。

65. 清浄な指による享受において、ある財が尽きることはありません、偉大な光明によって〔殺生などの〕これら 5 つの罪悪が滅びます³。

66. 天界の主よ、未来に仏性を得るでしょう、我々は福德の威光によって世間主にもなるでしょう、と。

67. 尊者よ、わずかであっても信仰によってなされた仏供養は、偉大な結果を〔もたらす〕大きな功德となります。

それを聞いて喜んで明らかにしてこの偈を唱えました。

68. 私は天界の王サッカです、あなたのもとへやって来ました、大地の主よ、来世でもあなたは仏性を得るでしょう。

69. 菩提樹下に座った彼は、魔という戦士を破壊し、輝かしい主は、天や人の中で悩魔や陰魔や死魔に残らず打ち勝ちました。

70・71. 法という船に乗って、輪廻という大海に沈んだ人々皆を恐怖や苦しみからなします（救います）、三十二地獄を空っぽにし天界を満たします。法という甘露を飲ませて、阿羅漢の道に至ります。

その時サッカはボーディサッタに許しを請い偈を唱えました。すべての言葉を聞いて、

「天界の王スジャンパティよ、人王を訓戒し、私が仏像を造って供養しましょう」

³ *Kaṇhajāṭaka* (*Ja*, vol. 4, p. 7)において *pañcasādhāraṇabhāvena* という語が現れる。中村[1989: 9]に基づき *pañcasādhāraṇā* を和訳。

と言って、その場から天の身へ戻りました。

【釈尊による説法】

そして釈尊は仏像を造ることによる功德を説いて偈を唱えました。

72・73. 天界の王は、天界を7度統治し、80回100回吉祥なる転輪聖王[としての生]を得るでしょう、広大な王国は計算によって数えられません、仏像を造った果報を享受することによって卑しい者になることはありません。

74. 下部から土で仏像の欠けた指を付けたら、その結果は思いもよらないほどです。

75. たとえ足や手が壊れていても、喜悦を持って[足や手を]付けたら、その結果は広大で、威光が久しく生じます。

さらに法を示してこの偈を唱えました。

76. ふさわしい仏像や塔廟をつくらせて、偉大なる威光は常に大きな太陽のようです。

77. 命の限り正しい善業をなす者たちは、死後、最上の幸福である涅槃へ赴きます

78. 牟尼の像の作者は、弥勒仏に会い、彼の教説をなし、苦しみの終局をなすだろう。

79. それ故、あらゆる幸せあるいは解脱を望む有慧者は、正等覚者を描いた像を造るべきです。

80. 世間主を除いて他の誰が仏像を造った結果を語る事ができましょうか、という

仏像[を造ること]の結果を聞いて、人王となり、最上の喜びから手が触れられ、そして偉大なる者のために喜んで正覚者の足に頭で拝み、

仏像の功德によって宿命通を有し、あらゆる徳を備えるだろう。富に、容姿に、家に満足し、私は来世で仏となるだろう、母父親類や親族、そしてすべての衆生は幸せになります。

そして、このように誓願して、最も明浄なる王は歡喜しました。師は無上の四聖諦を明らかにし、生を見ることのできる勝者がジャータカを結びました。

「その時、母はシリマハーマーヤー、父はスッドーダナ、そしてかのサッカが尊者アヌルッタ、王妃がヤソーダラー、閻浮提にいる80人の王が仏の従者で、過去においてヴァダ

ングリが世間主である私です、このようにジャータカを保持しなさい。」

このヴァダングリジャータカの説法を聞いて、閻浮提全土の人々は仏像あるいは塔廟を造り、造らせて、釈尊（仏像・仏塔）に対する巡礼に出掛ける時に、恭しく供養をなします、その善行によって善根が増大し、死後、多くは天界に再生しました。

3

Moggallānabimbapañhāsutta

『目連尊者の問い』

Moggallānabimbapañhāsutta

ye¹ nirājapatto² yavaṭṭakāla³ paricālayantā⁴ savaṇana⁵ vimalam ājayissu⁶ te pubbako⁷ thācariye⁸ namāmi. vanditvā baddhavipasañ⁹ ca dhammaṃ tamonudasaṃghaniraṅganañ¹⁰ ca vakkhāmi bimbena suvaṇṇa¹¹ tassa bimbānisamsa¹² catu¹³ suṇohi¹⁴ me taṃ buddhāvuttānusārena¹⁵ katvā gāthasadānaraṃ¹⁶ mahapphalaṃ va sabbe sādhuco¹⁷ kusalatthiko¹⁸.

ekadā kira samaye satthā jetavane viharanto. satthā catuvidhaparissabhantare¹⁹ buddhapatimākaṇaphalena²⁰ devamanussānaṃ dhammaṃ desento,

bhikkhave buddhapatimākaṇaṃ²¹ nāma mahapphalaṃ hoti mahānisamsaṃ. kathaṃ amhehi jānitabbaṃ.

atite²² kira navuttikappāvasāne²³ vipassissa²⁴ sammāsambuddho loke udapādi. so dhammaṃ desento devamanussā dhammaṃ sutvā sotāmaggasakadāgāmiārahattaṃ²⁵ pāpuṇṇisu. so²⁶ hi bhagavā buddhapatimākaṇaphalena²⁷ dhammaṃ desento,

bhikkhave yo koci²⁸ purisapuggalo itthi²⁹ vā puriso vā bhikkhu vā bhikkhuni vā upāsako vā upāsikā

¹ (ja, a)ye ABZ

² hirājamattā A; nirājapatto B; [munirājaputtā]

³ yaṃ vaṭṭakālaṃ A; [yāvajjakālaṃ]

⁴ [paripālayantā A]

⁵ suvaṇṇena A; savaṇana B; [saṃvaṇṇanaṃ]

⁶ āpajjayiṃsu A; [ānayaṃsu]

⁷ pubbakā A; [pubbake]

⁸ [cācariye]

⁹ [buddhaṃ vipassiṇ A]; buddhaṃvimsaṇ B

¹⁰ tamonuddhaṃ saṃghaṃ niraṅganañ A; [tamonudaṃ saṃghaṃ niraṅganañ B]

¹¹ [suvaṇṇaṃ AB]

¹² [bimbānisamsaṃ AB]

¹³ [catuvidhaṃ A]; ca B

¹⁴ suṇātha A

¹⁵ buddhāvuttānusārena B

¹⁶ gāthasaddhāraṃ A; [gāthasaddhāraṃ]

¹⁷ [sādhuvo A]; sādhuvo B

¹⁸ [kusalatthikā A]

¹⁹ catuvidhaparissabhantare AB; [catuvidhaparissabhantare]

²⁰ patimākaṇaphalena A; [buddhapatimākaṇaphalena]

²¹ [buddhapatimākaṇaṃ]

²² [atite AB]

²³ [navuttikappāvasāne A]

²⁴ [vipassi AB]

²⁵ sotāmaggasakadāgāmiārahattaṃ A; sotāmaggasakadāgāmiārahattaṃ B

²⁶ (ja, b) so BZ

²⁷ buddhapatimākaṇaphalena B; [buddhapatimākaṇaphalena]

²⁸ ko B

vā buddhapatimākaraṇaṃ karonto, suvaṇṇamayam vā rajaṭamayam³⁰ vā kamsatāmbamayam³¹ vā tipukamayam vā³² selamayam vā kaṭṭhamayam vā so puriso³³ sā³⁴ pana itthi³⁵ vā dhammaṃ sutvā parisā³⁶ buddhapatimā³⁷ karonti³⁸ devamanussā rajjasampattiṃ labhitvā.

satthu vipassissa sammāsambuddhassa parinibbutakāle³⁹ amaravatinagare amaravati nāma rājā rajam⁴⁰ kāresi. sabbe te pana rājāno devamanussā suvaṇṇarajaṭaiṭṭhakamayam⁴¹ thūpaṃ karonti dvādasayojanappamānaṃ⁴² thūpaṃ kārapetvā sabbe devamanussā thūpaṃ gandhamālādīhi⁴³ pūjetvā vanditvā sattame divase buddhasaririkiccaṃ⁴⁴ katvā. tadā purimadaliddhakapuriso⁴⁵ bhiriya⁴⁶ saddhiṃ gahetvā⁴⁷ dipadhūpagandhamālādīni⁴⁸ bhagavato suvaṇṇaājālipūjetvā⁴⁹ thitakāle⁵⁰ bhariya⁵¹ saddhiṃ evam āha.

bhadde⁵² purimabhava jātā mayam adinnadānadosena⁵³ arakkhitasiladosena⁵⁴ abhāvitabhāvanadosena⁵⁵ idāni⁵⁶ daliddhakam uppatatamhā ti⁵⁷.
atha idāni kusalakammaṃ akatvā anāgate kāle atirekatadukkham⁵⁸ anubhavissāma⁵⁹ ti⁶⁰
mayam buddharūpaṃ karissāma⁶¹ ti⁶²,
daliddake⁶³ muñcissāma⁶⁴ ti⁶⁵,
pubbakamme⁶⁶ niriye⁶⁷ na uppajjanti⁶⁸ buddhapatimākaraṇena⁶⁹ phalena mahānisamso⁷⁰

²⁹ itthī A

³⁰ [rajatamayam]

³¹ satāmbamayam B; [kamsatambamayam]

³² vā lohamayam vā A

³³ puriso vā A

³⁴ sā om. B

³⁵ itthī AB

³⁶ parisā om. B

³⁷ [buddhapatimam A]

³⁸ karoti B

³⁹ parinibbutakālo B

⁴⁰ [rajjam AB]

⁴¹ suvaṇṇarajaṭaiṭṭhakamayam B; [suvaṇṇarajataiṭṭhakāmayam]

⁴² [dvādasayojanapamānaṃ A]; [dvādasayojanappamānaṃ B]

⁴³ gandhamālādīni A

⁴⁴ buddhasarīra(jā, a)kiccaṃ A

⁴⁵ [daliddapuriso]

⁴⁶ [bhariyāya B]

⁴⁷ dipadhūpagandhamālādīni A

⁴⁸ gahetvā A; dipadhūpagandhamādīni B; dipadhūpagandha(jā, a)mālādīni Z; [dīpadhūpagandhamālādīni]

⁴⁹ pūjetvā A; [(jā, a) suvaṇṇaājālipūjetvā B]

⁵⁰ [thitakāle]

⁵¹ bhiriya A; [bhariyāya]

⁵² bhandhe AB; [bhadante]

⁵³ [adinnadānadosena AB]

⁵⁴ [arakkhitasiladosena A]

⁵⁵ [abhāvitabhāvanadosena AB]

⁵⁶ iddhāni B

⁵⁷ ti om. A

⁵⁸ [atirekatadukkham AB]

⁵⁹ anubhavissāma A

⁶⁰ ti om. A

⁶¹ karissāma A

⁶² ti om. A

⁶³ daliddhake AB

⁶⁴ muñcissāma A

⁶⁵ ti ~ uppajjanti om. A

sabbadānato hoti. ekadānasāsaṃ⁷¹ mahapphalaṃ⁷² hoti mahānisaṃsaṃ, sālaṃ dānasatasahassato⁷³
 ekaṃ tadākaṃ⁷⁴ dānaṃ mahapphalaṃ⁷⁵ hoti mahānisaṃsaṃ. gaṭākadānasatasahassato⁷⁶ ekaṃ
 dānavihāraṃ⁷⁷ mahapphalaṃ⁷⁸ hoti mahānisaṃsaṃ, vihāradānasatasahassato⁷⁹
 ekabuddhapatimākaṃ⁸⁰ mahapphalaṃ⁸¹ hoti mahānisaṃsaṃ⁸². tasmā⁸³ buddhapatimā
 karissāmā ti.

kiṃ pana vacanaṃ mayam jātamā ti⁸⁴

pitāmātā⁸⁵ nadissati, nātikā⁸⁶ nadissati, puttadhītā⁸⁷ nadissati, sabbalābhasakkāraṃ⁸⁸ labhitvā
 namanā⁸⁹. tasmā buddhapatimākarissāmā⁹⁰ idāni⁹¹ mayam puñam⁹² katvā⁹³.

sā tassa vacanaṃ sutvā

ahaṃ dāsisāmi⁹⁴ pañam⁹⁵ ahaṃ kaṭṭham maggaṃ⁹⁶ ānetvā⁹⁷ nikanitvā mūlam ānesum⁹⁸, nikanitvā
 mūlalapandanasāraṃ⁹⁹ ānetvā vicitakammageham¹⁰⁰ gantvā, tāta vicitakammabimam¹⁰¹ karohi¹⁰²,
 ahaṃ mūlabhāgaṃ¹⁰³ datvā ti.

tassa¹⁰⁴ vacanaṃ¹⁰⁵ sutvā¹⁰⁶ so buddhapatimaṃ¹⁰⁷ parinitthitaṃ¹⁰⁸ katvā gantvā daliddhakassa¹⁰⁹

⁶⁶ [pubbakammena]

⁶⁷ [niraye B]

⁶⁸ ti ~ uppajjanti *om.* A

⁶⁹ [buddhapatimākaṃ]

⁷⁰ mahānisaṃsaṃso A

⁷¹ ekadānasālaṃ A; [ekaṃ dānasālaṃ B]

⁷² mahamphalaṃ A

⁷³ dānaṃ satasahassato A

⁷⁴ taṭākaṃ A; tadāka B; [paṭākaṃ]

⁷⁵ mahamphalaṃ A

⁷⁶ gaṭākaṭānasatasahassato B; [paṭākadānasatasahassato]

⁷⁷ dānaṃ vihāraṃ B

⁷⁸ (jā, b) mahamphalaṃ A

⁷⁹ vihāradānasatasahassato A

⁸⁰ ekaṃ buddhapatimākaṃ AB; [ekabuddhapatimākaṃ]

⁸¹ mahamphalaṃ A

⁸² mahāni(jā, b)saṃsaṃ BZ

⁸³ [tasmā ~ ti *om.* A]

⁸⁴ [tasmā ~ ti *om.* A]

⁸⁵ pitāmācā A

⁸⁶ nātakā A

⁸⁷ [puttadhītā A]

⁸⁸ [sabbam lābhasakkāraṃ A]; sabbalābhasakkāraṃ B

⁸⁹ namassamānā A

⁹⁰ buddhapatimākarissāmā ti A; [buddhapatimaṃ karissāmā]

⁹¹ idāni ~ katvā *om.* A

⁹² [puñam]

⁹³ idāni ~ katvā *om.* A

⁹⁴ [dassāmi]

⁹⁵ puñam B; [puñam]

⁹⁶ mattam B

⁹⁷ ānessāmi A

⁹⁸ [ānesim B]

⁹⁹ [mūlacandanasāraṃ A]; mūlena candanasāraṃ B

¹⁰⁰ [vicitakammageham]

¹⁰¹ [vicitakammabimam]

¹⁰² karohīti B

¹⁰³ mūlabhātam B

¹⁰⁴ tassa *om.* A; [tassā]

¹⁰⁵ vacanaṃ *om.* A

¹⁰⁶ sutvā *om.* A

ārocesi¹¹⁰. imaṃ gātham āha.

1. ahaṃ sammabuddhabimbaṃ soviseṭṭhaṃ¹¹¹

soṇeyyavilippiyaṃ¹¹² phanassa¹¹³ bimbaṃ pārūpayitvā¹¹⁴

varacīvarena¹¹⁵ ratanalākhārasacitakena.

2. ucce¹¹⁶ nisidāpeyya¹¹⁷ buddhabimbaṃ disvā

sajīvaṃ¹¹⁸ cīvaropamaṇaṃ¹¹⁹ gantvā

daliddho¹²⁰ pativedayi¹²¹ so sambuddhabimbaṃ¹²² parinittithan¹²³ ti.

so¹²⁴ tassa vacanaṃ sutvā passannaṃānaso¹²⁵ hutvā mūlabhāgaṃ¹²⁶ datvā āpucchitvā bimbaṃ āropetvā

sise¹²⁷ thapetvā yena disābhāgena¹²⁸ vihāraṃ tena disābhāgena gantvā vihāraṃ pavisitvā¹²⁹ bimbaṃ

mahārahaṃ nisīditvā¹³⁰. dipadhūpagandhamālādīhi¹³¹ pūje¹³² vanditvā bhikkhusaṃghassa annapānādīhi

bhojetvā. bhattakiccāvasāne dhammaṃ sotukāmo yācantā¹³³.

bhante therassa¹³⁴ mayaṃ bimbaṃ karoma. kiṃ mahapphalaṃ¹³⁵ hoti mahānisaṃsan ti.

thero¹³⁶ sutvā¹³⁷ gātham āha.

¹⁰⁷ [buddhapaṭimam]

¹⁰⁸ [parinittithitam A]

¹⁰⁹ daliddhassa A; [daliddiyā]

¹¹⁰ ārocento A

¹¹¹ [sobhāsetṭham]

¹¹² [selamayaṃ vilimpiyaṃ A]; soṇeyyavilimpiyaṃ B

¹¹³ [jinassa A]

¹¹⁴ (ji, a) pārūpayitvā A; [pārūpayitvā B]

¹¹⁵ varacivarena B

¹¹⁶ uddhe B

¹¹⁷ nisidāpeyyaṃ A

¹¹⁸ [sajīvaṃ A]

¹¹⁹ [va virocamaṇaṃ A]; civarocamaṇaṃ B

¹²⁰ [daliddo]

¹²¹ pavedayi A; patavedayi B; [paṭivedayi]

¹²² sambuddha(ji, a)bimbaṃ Z

¹²³ [parinittithitan A]; pa(ji, a)rinittithitan B

¹²⁴ [sā]

¹²⁵ [pasannaṃānaso AB]

¹²⁶ mūlatātaṃ B

¹²⁷ [sīse A]

¹²⁸ disābhātena B

¹²⁹ pavisitvā AB

¹³⁰ nisīditvā B; [nisidāpetvā]

¹³¹ dipadhūpagandhamālādīhi A; [dīpadhūpagandhamālādīhi]

¹³² [pūjetvā A]; pujetvā B

¹³³ yācanto A; yacantā B

¹³⁴ [thera B]

¹³⁵ mahamphalaṃ A

¹³⁶ thero taṃ A

¹³⁷ sutvā imaṃ A

3. vidatthimataṃ¹³⁸ uccaparipamānaṃ¹³⁹
 kaṭṭhassa selassa atha cittakamme¹⁴⁰
 yo lokanāthassa kareyya¹⁴¹ bimbaṃ¹⁴²
 so hoti buddho dipadānaṃ¹⁴³ uttamo.
4. saddhā pubbagamaṃ¹⁴⁴ bimbaṃ
 appi¹⁴⁵ kiñci pi yo¹⁴⁶ kataṃ passannā¹⁴⁷ tīsu kālesu alabhanti¹⁴⁸
5. tividhaṃ sukhaṃ sukhaṃ¹⁴⁹ mānussayaṃ deti
 sattesu¹⁵⁰ paramaṃ sukhaṃ
 tato ca nibbānasukhaṃ¹⁵¹ phalabimbena¹⁵² labhatī ti.

so dhammaṃ sutvā passannamānaso¹⁵³ hutvā sabbālaṅkāraṇi¹⁵⁴ pūjetvā attānaṃ niyādeti¹⁵⁵. pañidhānaṃ
 katvā¹⁵⁶ gātham āha

6. iminā bimbaphaleneva vipassannena¹⁵⁷ cetasā
 yattha yattha bhava jāto mā daliddhakule¹⁵⁸ āhu.
7. mā daliddhaṃ¹⁵⁹ gato rājā samiddhāya¹⁶⁰ mahitale¹⁶¹
 mātāpitāñātigaṇā mā daliddhakule āhu
8. jivitaṃ buddhaṃ saraṇaṃ dhammaṃ saṃghaṃ ca saraṇaṃ
 jātibuddhaṃ ca saraṇaṃ dhammaṃ saṃghaṃ ca saraṇaṃ
 yāva nibbānaṃ buddhaṃ saraṇaṃ dhammaṃ saṃghaṃ ca saraṇaṃ¹⁶²

¹³⁸ [vidatthimattaṃ AB]

¹³⁹ uccaparimānaṃ A; [uccaparimānaṃ]

¹⁴⁰ pittakamme B

¹⁴¹ kare(ji, b)yya A

¹⁴² bimba A

¹⁴³ [dīpadānaṃ A]

¹⁴⁴ pubbaṅgamaṃ A

¹⁴⁵ api A

¹⁴⁶ [ye A], yena B

¹⁴⁷ [pasannā A]

¹⁴⁸ [labhanti AB]

¹⁴⁹ sukha A

¹⁵⁰ [saggesu B]

¹⁵¹ nibbānaṃ sukhaṃ A; ni(ji, b)bbānasukhaṃ Z

¹⁵² (ji, b) phalabimbena B

¹⁵³ [pasannamānaso AB]

¹⁵⁴ sabbālaṅkāraṇi A

¹⁵⁵ [niyyādeti]

¹⁵⁶ katvā imaṃ A

¹⁵⁷ vipassannena B; [vipassanāya]

¹⁵⁸ [daliddakule]

¹⁵⁹ [daliddaṃ]

¹⁶⁰ [samiddhāya B]

¹⁶¹ [mahilāya]

¹⁶² saṃraṇaṃ A; saraṇaṃ om. B

9. sabbadhanā¹⁶³ labhitvāna manāpaṃ dhammatī¹⁶⁴ ti¹⁶⁵

bhiriya¹⁶⁶ cutā¹⁶⁷ silavanti¹⁶⁸ dāsaṃ dāsī¹⁶⁹ sukhitan ti.

thero anumodanaṃ karonto¹⁷⁰ gātham āha.

10. icchitaṃ paṭṭhitaṃ tuyhaṃ khippam eva samijjhatu

sabbe pūrentu¹⁷¹ saṅkappā¹⁷² cando paṇṇaraso yathā¹⁷³.

taṃ sutvā daliddhakapuriso¹⁷⁴ theram vanditvā āpucchitvā bhiriya¹⁷⁵ saddhiṃ gehaṃ gantvā jivitaṃ¹⁷⁶ kappesi, āyuhapariyoṣāne kālaṃ katvā sabbe janā sarirakiccaṃ¹⁷⁷ katvā buddhapatimākaraṇaphalena¹⁷⁸ nisandhena¹⁷⁹ pañcasatesu jātisū¹⁸⁰ catudīpesu¹⁸¹ cakkavattirājā ahoṣi, sattaratanasamannāgato ahoṣi, itthiratanam parināyakaratanam¹⁸² gahapatiratanam hatthiratanam¹⁸³ assaratanam¹⁸⁴ cakkaratanam maṇīratanan¹⁸⁵ ti. kena dinnan ti na mātādinnaṃ na pitādinnaṃ na ñātikādinnan¹⁸⁶ ti. suvaṇṇapāsādam sataśahassakuṭāgāraparimaṇḍitaṃ¹⁸⁷. tassa suvaṇṇamaye thambhe¹⁸⁸ rajaṭamaya¹⁸⁹ ghaṭikā ahoṣi. rajaṭamayesu¹⁹⁰ sovaṇṇamayā¹⁹¹ maṇīthambhesu pabālamaya¹⁹² thambhesu. maṇimaya thambhesu sattaratanamayā. sattaratanamayesu thambhesu sattaratanamayā ghaṭikā ahesu¹⁹³. tato suvaṇṇapāsādam antaresu kiṃ kaṇṇikajālāni¹⁹⁴ olambiṃsu¹⁹⁵. dibbapupphadibbagandhadāmamālādīni¹⁹⁶ olambiṃsu. antopāsāde suvaṇṇapalaṅke¹⁹⁷ nisīditvā setacchattasatasahassasuvaṇṇadhajjā¹⁹⁸ sataśahassacāmaram

¹⁶³ [sabbadhanam A]; sabbadhanāni B

¹⁶⁴ dhammapī A; [labhati B]

¹⁶⁵ ti ca A

¹⁶⁶ [bhariyā B]

¹⁶⁷ (jī, a)cuttā A; [puttā]

¹⁶⁸ [sīlavanti] A; sīlavanti B

¹⁶⁹ dāsī ca A; dāsī B; [dāsīm ca]

¹⁷⁰ karonto imam A

¹⁷¹ [pūrentu]

¹⁷² saṅkappā AB

¹⁷³ yathā ti A

¹⁷⁴ [daliddhakapuriso]

¹⁷⁵ [bhariyā(jī, a)ya B]; (jī, a) bhiriya Z

¹⁷⁶ [jivitaṃ A]

¹⁷⁷ [sarirakiccaṃ A]

¹⁷⁸ [buddhapatimākaraṇaphalena]

¹⁷⁹ [nisandena A]; nisandena B

¹⁸⁰ jātisū B

¹⁸¹ [catudīpesu A]

¹⁸² [parināyakaratanam]

¹⁸³ hatthiratanam B

¹⁸⁴ assaratanam B

¹⁸⁵ maṇīratanan AB

¹⁸⁶ ñātikādinnan A ñātikādīnan B

¹⁸⁷ sataśahassakuṭāgāraparimaṇḍitaṃ B; [sataśahassakuṭāgāraparimaṇḍitaṃ]

¹⁸⁸ tha(jī, b)mbhe A

¹⁸⁹ rajaṭamaya AB; [rajaṭamaya]

¹⁹⁰ rajaṭamayesu A; rajaṭamaye B; [rajaṭamayesu]

¹⁹¹ vaṇṇamayā A

¹⁹² pabālamaya A; [pavālamaya]

¹⁹³ [ahesuṃ AB]

¹⁹⁴ kaṇṇikajālāni B; kaṇṇikajā(jī, b)lāni Z

¹⁹⁵ ola(jī, b)mbiṃsu B

¹⁹⁶ dibbapupphadibbagandhadāmamālādīni B

¹⁹⁷ [suvaṇṇapallaṅke AB]

¹⁹⁸ [setacchattasatasahassasuvaṇṇadhajjā A]; setacchattasatasahassasuvaṇṇadhajjā B

satasahassadibbatthu¹⁹⁹ satasahassadibbapupphamālādīni
satasahassadibbagandhasatasahassanaccatita²⁰⁰ satasahassadivā ca rattīñ ca parivāretvā²⁰¹ so pana sā pana
itthi²⁰² buddhapatimākarāṇaphalena²⁰³ anulomapatilomaṃ manussesu deve²⁰⁴ saṃsaranti anubhavitvā.

athekasmim samaye mahāmogallānathero²⁰⁵ devalokacārikañ²⁰⁶ caranto tassa vimānadvāre
atthāsi. devaputto paricārikāhi ācikkhito theratassāgamaṇaṃ²⁰⁷ sutvā sahaparivāro āgantvā therassa pāde
vanditvā katañjulikā²⁰⁸ atthāsi. atha naṃ thero pucchanto²⁰⁹ gātham āha.

11. uccam idaṃ mañithūpavimānaṃ²¹⁰
samtato²¹¹ pañcavīsatiyojanāni²¹²
kuṭṭāgārā²¹³ sattasatakulārā²¹⁴
veduriyathambhā²¹⁵ rucirathitā subhā²¹⁶.
12. deviddhi pattosi mahānubhāvo
manussaloke kim akāsi puṇaṃ²¹⁷ kenāsi
evañ jalitānubhāvā²¹⁸ vaṇṇo ca te sabbadisā pabhāsati
kena te tādiso vaṇṇo kena te idha samijjati²¹⁹.
13. uppajjanti ca te bhogā ye keci manaso piyā
vīsatiyojanavittthāraṃ²²⁰ ubbedhaṃ pañcavīsati²²¹
14. nānāvāṇṇarajjatakūṭehi²²² patimaṇḍitā²²³
lohitāṅkamayā²²⁴ thambhā suvaṇṇamayā bhittiyo

¹⁹⁹ [satasahassadibbatthaṃ A]; satasahassadibbattha B
²⁰⁰ satasahassadibbagandhasatasahassanaccatitaṃ A; [satasahassadibbagandhasatasahassanaccagītaṃ]
²⁰¹ pavāretvā B
²⁰² itthi B
²⁰³ [buddhapatimākarāṇaphalena]
²⁰⁴ [devesu AB]
²⁰⁵ [mahāmogallānathero AB]
²⁰⁶ (ju, a) devalokacārikañ A
²⁰⁷ [therassāgamaṇaṃ A]; therassagamaṇaṃ B
²⁰⁸ katañjuliko A; [katañjaliko]
²⁰⁹ pucchanto imaṃ A
²¹⁰ mañithūpaṃ vimānaṃ A
²¹¹ samanta(ju, a)to Z
²¹² pañca(ju, a)vīsatiyojanāni B
²¹³ [kuṭṭāgārā]
²¹⁴ sattasatakulārā B
²¹⁵ veduriyathambhā AB; [veluriyathambhā]
²¹⁶ sutā B
²¹⁷ [puṇṇaṃ]
²¹⁸ evañjalikānubhāvo A
²¹⁹ [samijjati A]; samajjati B
²²⁰ vīsatiyojanavittthāraṃ AB; [vīsatiyojanavittthāraṃ]
²²¹ [pañcavīsati AB]
²²² nānāvāṇṇarajjatakūṭehi A; nānāvāṇṇarajjatakūṭehi B; [nānāvāṇṇarajjatakūṭehi]
²²³ [paṭimaṇḍitā]
²²⁴ [lohitāṅkamayā]

15. indanilamayā²²⁵ pitthā²²⁶ kavātā²²⁷ phalikamayā
 citraghale²²⁸ rammakañce²²⁹ turiyāpañcāngasannibhā
16. piddahe²³⁰ vivare kāle surāmaṃsupabodhane²³¹
 mañinā²³² vātapānena vaduriyapabhassarā²³³
17. kuṭāgāraṃ²³⁴ vare tattha pallaṅkesu paṭiṭṭhitā²³⁵
 khomakodumbako²³⁶ seyyaratakambalasaṅthare²³⁷
18. nisidi²³⁸ varapallaṅke accharāhi parivārito²³⁹
 alaṅkārevarā sabbā vijulam²⁴⁰ iva ambare²⁴¹.

so devaputto attamano moggallānena pucchito paṇhaṃ puṭṭho pa²⁴² byākāsi.

yassa kammassidaṃ phalaṃ, ahaṃ manusse manussabhūto bimbaṃ karomi
 cettaso²⁴³. pūjivā picchitaṃ²⁴⁴ bimbaṃ yathāsati yathābalaṃ. tena me tādiso vaṇṇo
 tena me viddhi²⁴⁵ mijjati²⁴⁶, uppajjanti pi²⁴⁷ me bhogā, ye keci manaso piyā tenamhi,
 evañjalitā²⁴⁸ mahānubhāvā vaṇṇā ca me sabbadisā pabhāsati²⁴⁹, obhāsenti disā sabbā
 osadi²⁵⁰ viya tārakā, visatiyojanaviṭṭhāraṃ²⁵¹ ubbedhaṃ
 pañcavisatinānāvannaḍhajatthakāṭehi²⁵² paṭimaṇḍitā²⁵³ lohitaṅgamayā thambhā
 suvaṇṇamiyabhittiyo²⁵⁴ indanilamayā²⁵⁵ pitta²⁵⁶ kavātā²⁵⁷ phalikamayā citraghale²⁵⁸

²²⁵ [indanilamayā]

²²⁶ [pitthā]

²²⁷ ka(ju, b)vātā A

²²⁸ [cittrāggaḷā]

²²⁹ [rammakañcanā]

²³⁰ piddahe A; piddahe B; [piddahe]

²³¹ surāmaṃsupabodhane B

²³² mañinā B

²³³ veduriyapabhassarā AB; [veduriyapabhassarā]

²³⁴ kuṭāgāra A; [kūṭāgāre]

²³⁵ [paṭiṭṭhitā]

²³⁶ [khomakodumbarakoA]; khomakodumbarako B

²³⁷ sayye rattakambalasaṅthare A; seyyarattakambalasaṅthare B; seyyaratakambalasa(ju, b)ṅthare Z; [seyyarattakambalasaṅthare]

²³⁸ [nisīdi A]; ni(ju, b)sidi B

²³⁹ parivuto A

²⁴⁰ [vijjuma]

²⁴¹ ambare ti A

²⁴² [pi A]

²⁴³ [cetaso AB]

²⁴⁴ [pacchitaṃ A]

²⁴⁵ [vitti]

²⁴⁶ mijjhati A; samijjhati B

²⁴⁷ ca A; ma B

²⁴⁸ evañjalikā B

²⁴⁹ [pabhāsanti]

²⁵⁰ [osadhi AB]

²⁵¹ visatiyojanavi(jū, a)ṭṭhāraṃ A; visatiyojanaviṭṭhāraṃ B; [visatiyojanaviṭṭhāraṃ]

²⁵² pañcavisatinānāvannaḍhajatthakāṭehi A; pañcavisatinānāvannaḍhajjhā tattha kāṭehi B; [pañcavisatinānāvannaḍhajatthakāṭehi]

²⁵³ [paṭimaṇḍitā]

²⁵⁴ [suvaṇṇamiyabhittiyo AB]

²⁵⁵ [indanilamayā]

²⁵⁶ citta A; pitthā B; [pitthā]

²⁵⁷ kavā A

²⁵⁸ citragha(jū, a)le B; ci(jū, a)traghale Z; [cittrāggaḷā]

rammakañce²⁵⁹ turiyāpañcāṅgasannibhā²⁶⁰.

taṃ sutvā therō āha

evaṃ²⁶¹ me vuttā ti²⁶²

bho devaputta²⁶³ buddhapatimam katam mahapphalam eva hoti²⁶⁴.

so tassa ajjhāsaya²⁶⁵ ñatvā caturiyasaccāni²⁶⁶ desesi. devaputto accharāhi satasahasseehi saddhim
sotāpatiphale²⁶⁷ patitthapesi.

thero saggato²⁶⁸ otarivā yena disābhāgena bhagavā atthi tena disā bhāgena gantvā. tasmim
khaṇe bhagavā gandhakutito²⁶⁹ nikkhamivā buddhalilāya²⁷⁰ dhammasabhāyaṃ āgantvā dhammāsane
nisidivā²⁷¹ dhammam desesi. moggallānathero upasaṅkavitvā bhagavantam atthāsi²⁷². sabbam pavuttim
satthu ārocesi.²⁷³ satthā pana devaputtassa purimakammaṃ kathetvā chabbanaramsiyo²⁷⁴ visajetvā²⁷⁵.
yamakayamakā tumbātumbā²⁷⁶ onatta-onattā²⁷⁷ veditavedittā²⁷⁸ dasasahassalokadhātu
yāvabrahmaloke²⁷⁹ pharivā candapabhā viya satasahassasuriyapabhā²⁸⁰ viya satasahassamahābrahmā²⁸¹
viya satasahassanti²⁸². indadhanu²⁸³ viya satasahassaraṅsiobhāsam²⁸⁴ disvā ramśiveditamāṇijālam²⁸⁵
pariveditam²⁸⁶ muttājālam²⁸⁷ pabālhajālan²⁸⁸ ti²⁸⁹ veduriyajālam²⁹⁰ kāñcanapabbataviya²⁹¹. satthā

²⁵⁹ [rammakañcanā]

²⁶⁰ turiyāpañcāṅgasannibhā ti A; turiyāpañcāṅgasannibhā B

²⁶¹ evaṃ ~ ti om. A

²⁶² evaṃ ~ ti om. A

²⁶³ devaputtam B

²⁶⁴ [hoti ti A]

²⁶⁵ [ajjhāsayaṃ AB]

²⁶⁶ caturāriyasaccāni AB

²⁶⁷ [sotāpatiphale B]

²⁶⁸ sattato B

²⁶⁹ gandakutito B

²⁷⁰ buddhalilāya A; [buddhalilāyaṃ]

²⁷¹ [nisidivā AB]

²⁷² abhivādetvā A; vanditvā atthāsi B

²⁷³ ārocesi(jū, b). A

²⁷⁴ [chavvanaramsiyo]

²⁷⁵ [visajjetvā AB]

²⁷⁶ tumbātumbā A; [gumbagumbā]

²⁷⁷ [oṇata-oṇatā]

²⁷⁸ [veditaveditā A]; vedittavedittā B

²⁷⁹ yā(jū, b)vābrāhmaloke B; (jū, b) yāvabrahmaloke Z

²⁸⁰ satasahassam suriyapabhā A

²⁸¹ satasahassam mahābrahmā A; satasahassamahābrahmā B

²⁸² [satasahassam]

²⁸³ indadhanu ~ kāñcanapabbataviya om. A

²⁸⁴ satasahassaraṅsiobhāsam B

²⁸⁵ ramśiveditamāṇijālam B

²⁸⁶ phariveditam B

²⁸⁷ puttājālam B

²⁸⁸ pabālhajālam B; [pavāljālam]

²⁸⁹ [ti om. B]

²⁹⁰ [veduriyajālam]

²⁹¹ indadhanu ~ kāñcanapabbataviya om. A; kāñcanapabbatamviya B; [kāñcanapabbatam viya]

dhammaṃ desento²⁹² gātham āha.

19. buddhabimbaṃ karitvā ye saddhāsampannacetasā
devaloke manusse vā bhogasampannabhāvitā

20. samiddho²⁹³ bhogasampanno²⁹⁴ tejavanto mahāyassā²⁹⁵
sabbe janā atikantā²⁹⁶ puṇṇacandasamo²⁹⁷ yathā²⁹⁸.

thero dhammadesanaṃ sutvā pasannamānaso hutvā bhagavantaṃ pucchanto²⁹⁹ gātham āha.

21. suvaṇṇarajatakāmsatipukkaṃ³⁰⁰ mattidārūnaṃ³⁰¹
selam lekkham maṇitathā³⁰² sampatti kiṃ bhavissati.

22. kīdiso³⁰³ tesam vipāko samparāyo³⁰⁴ kīdiso
bhagavan taṃ puccha³⁰⁵ tvam suṇohi³⁰⁶ me.

sundharavararūpaṃ³⁰⁷ dhārento bhagavā antodhammāya³⁰⁸ buddhalilāya³⁰⁹ marugaṇamajjhe aṭṭhāsi³¹⁰.

mahāmoggallānatheraṃ³¹¹ dhammaṃ desento imaṃ gātham āha.

23. mattikabimbaṃ karitvā setṭhaseṭṭhi³¹² olārika³¹³
tipukaṃ³¹⁴ bimbaṃ karitvā brāhmaṇaṃ setṭhavarakaṃ.

24. kaṭṭhakabimbaṃ³¹⁵ karitvā³¹⁶ setṭharajā olārikaṃ³¹⁷
selam³¹⁸ bimbaṃ karitvā ye devatā setṭhavarakaṃ

25. kamsabimbaṃ³¹⁹ ye setṭhaindā olārikaṃ³²⁰
rajaṭaṃ³²¹ bimbaṃ karitvā yāmānaṃ³²² setṭhadevatā

²⁹² desento imaṃ A

²⁹³ [samiddhā B]

²⁹⁴ [bhogasampannā B]

²⁹⁵ [mahāyassā AB]

²⁹⁶ [atikkantā AB]

²⁹⁷ [puṇṇacandasamā B]

²⁹⁸ yathā ti A

²⁹⁹ pucchanto imaṃ A

³⁰⁰ suvaṇṇarajatakāmsatipukaṃ AB; [suvaṇṇarajatakāmsatipukaṃ]

³⁰¹ mattikadārūnaṃ B

³⁰² maṇitathā B

³⁰³ kīdiso ~ aṭṭhāsi. om. A

³⁰⁴ sampattiyo B

³⁰⁵ (je, a) puccha Z; [puccham]

³⁰⁶ su(je, a)ṇohi B

³⁰⁷ [sundharavararūpaṃ]

³⁰⁸ anantāya B

³⁰⁹ [buddhalilāya]

³¹⁰ kīdiso ~ aṭṭhāsi. om. A

³¹¹ satthā mahāmoggallānathera(je, a)ssa A

³¹² setṭhaseṭṭhi AB

³¹³ olārikaṃ A; olārikaṃ B; [olārikaṃ]

³¹⁴ [tipuka]

³¹⁵ kaṭṭham bimbaṃ B

³¹⁶ karitvāna B

³¹⁷ [olārikaṃ]

³¹⁸ [sela A]

³¹⁹ kamsabimbaṃ karitvā A; kamsabimbaṃ karitvā B

³²⁰ [olārikaṃ]

³²¹ rajaṭa A; [rajata]

26. maṇibimbaṃ³²³ karitvā ye tussitadevatā³²⁴ varam
 likkhitam³²⁵ bimbaṃ karitvā brahmā seṭṭham olārikam³²⁶
 suvaṇṇam³²⁷ bimbaṃ karitvā sabbañupatabbakara³²⁸.

thero³²⁹ dhammadesanam³³⁰ sutvā passannamānaso³³¹ hutvā bhagavā³³² pucchanto³³³ gātham āha.

27. sukataṃ attano bimbaṃ dhanam bimbaṃ mahapphalam
 kammaṃ kārapeyye³³⁴ bimbaṃ bimbaṃ modanti kīdisam³³⁵
 28. bhāgam³³⁶ ekaṃ kataṃ hoti sammam hoti³³⁷ samamahapphalam³³⁸
 bhāgam ekaṃ labhitvā ye brūhi tvaṃ va suṇohi me³³⁹.

bhagavā³⁴⁰ gātham āha.

29. sukataṃ attano bimbaṃ dasakoṭisahassakam
 bimbaṃ katvā dhanam hoti sattakoṭisahassakam³⁴¹
 30. kammakaram³⁴² katvā bimbaṃ tayokoṭisahassakam
 bimbaṃ modanti karitvā ekakoṭisahassakam³⁴³.

thero³⁴⁴ pucchanto³⁴⁵ gātham āha.

31. rammā mattikabimbaṃ kataṃ³⁴⁶ ye³⁴⁷ pūjenti manasā narā³⁴⁸
 tena pūjāya phalena sampatti kiṃ bhavissati ti.

bhagavā³⁴⁹ gātham āha.

³²² yāmāna A
³²³ maṇibimbaṃ A
³²⁴ [tussitadevatā]
³²⁵ likkhita A; [likkhita]
³²⁶ [olārikam]
³²⁷ [suvaṇṇa AB]
³²⁸ sabbañupatabbakaram ti A; sabbañupattabbakaram B; [sabbañupattabbakaram]
³²⁹ thero puna A
³³⁰ dhammadesanam ~ bhagavā om. A
³³¹ pasannamānaso B
³³² dhammadesanam ~ bhagavā om. A; [bhagavantam]
³³³ pucchanto imam A
³³⁴ kārapeya A; kārapeyye B; [kārapeyya]
³³⁵ kīdisan ti A
³³⁶ bhāgam~me. om. A
³³⁷ ho(je, b)ti B
³³⁸ sammamahapphalam B; (je, b) samamahapphalam Z
³³⁹ bhāgam~me. om. A
³⁴⁰ bhagavā imam A
³⁴¹ satakoṭisahassakam A
³⁴² kamma(je, b)karam A
³⁴³ ekakoṭisahassakam ti A
³⁴⁴ thero puna A
³⁴⁵ pucchanto imam A
³⁴⁶ ye A
³⁴⁷ kataṃ A
³⁴⁸ narā om. A
³⁴⁹ bhagavā imam A

32. mattikaṃ bimbaṃ labhitvā³⁵⁰ ye pūjenti manasā narā
 tena pūjāya phalena va³⁵¹ sabbakāmasamijjhati³⁵²
33. kuṭāgārādisampanne nānāhatthisamākule
 manusse sukkaṃ³⁵³ sampattiṃ anubhoti³⁵⁴ bhava bhava
34. sulabhabhəriyaṃ³⁵⁵ puttāṃ suvaṇṇarajaṭṭhaṃ³⁵⁶ bahū
 sabbabhogāpi vaḍḍhanti³⁵⁷ buddhabimbassidaṃ³⁵⁸ phalaṃ.

thero³⁵⁹ pucchanto³⁶⁰ gātham āha.

35. tipukkaṃ³⁶¹ bimbaṃ labhitvā³⁶² pūjenti manasā narā
 tena pūjāphaleneva lābhaṃ hoti³⁶³ kīdisaṃ³⁶⁴.

bhagavā³⁶⁵ gātham āha.

36. tipukkabimbaṃ³⁶⁶ labhitvā ye pūjenti³⁶⁷ manasā narā.
 tena pūjāphaleneva samiddhā honti te saddhā
37. dāsaṃ dāsī³⁶⁸ sattaṣaṭṭhaṃ nāriyo ca alaṅkataṃ³⁶⁹
 hatthiassa³⁷⁰ sattaṣaṭṭhaṃ athāssa³⁷¹ sattaṣaṭṭhaṃ
38. gomahisā³⁷² sattaṣaṭṭhaṃ dhenusattaṣaṭṭhaṃ³⁷³ tathā
 bahū bhogā sadā honti bimbapūjassidaṃ³⁷⁴ phalaṃ³⁷⁵.

thero puna pucchanto³⁷⁶ gātham āha. ³⁷⁷

³⁵⁰ karitvā A
³⁵¹ va om. AB
³⁵² [sabbakāmaṃ samijjhati A]
³⁵³ [sukkaṃ A]
³⁵⁴ [anubhoti]
³⁵⁵ [sulabhabhəriyaṃ B]
³⁵⁶ [suvaṇṇarajaṭṭhaṃ]
³⁵⁷ [vaḍḍhanti]
³⁵⁸ buddhabimbaṃssidaṃ B
³⁵⁹ thero puna A
³⁶⁰ pucchanto imaṃ A
³⁶¹ [tipukkaṃ AB]; (jai, a) tipukkaṃ Z
³⁶² (jai, a) labhitvā B
³⁶³ loti B
³⁶⁴ kīdisan ti A
³⁶⁵ (jai, a) bhagavā imaṃ A
³⁶⁶ tipukkaṃ bimbaṃ A; [tipukkabimbaṃ B]
³⁶⁷ pūjenti B
³⁶⁸ [dāsī A]
³⁶⁹ [alaṅkatā]
³⁷⁰ [hatthiassa A]
³⁷¹ [rathāssa AB]
³⁷² gomahisā AB
³⁷³ dhenasattaṣaṭṭhaṃ B
³⁷⁴ [bimbapūjāyidaṃ A]
³⁷⁵ phalan ti A
³⁷⁶ pucchanto imaṃ A
³⁷⁷ [39. kaṭṭhabimbaṃ labhitvāye pūjenti manasā narā tena pūjāphaleneva lābhaṃ hoti kīdisan ti. bhagavā imaṃ gātham āha A]

40. bimbakatṭham labhitvā ye pūjenti manasā narā
 tena puñaphaleneva tikkhapañā visāradā
 jambūdīparājāno³⁷⁸ katvā pūjenti te sadā.
41. yaṃ yaṃ padesaṃ gacchati tatha tattheva pūjito
 bimbapūjāphaleneva rājā hoti bhava bhava
42. navañāgasahassāni³⁷⁹ sabbālañkārahūsitā³⁸⁰
 parivārenti te rajje³⁸¹ dibbapūjāyidaṃ³⁸² phalaṃ.
43. navaassāsahassāni³⁸³ sabbālañkārahūsitā
 parivārenti te rajje dibbapūjāyidaṃ³⁸⁴ phalaṃ.
44. navarathasahassāni tathā vināsahassakā³⁸⁵
 parivārenti te rajje bimbapūjāyidaṃ phalaṃ.
45. nāriñavasahassāni³⁸⁶ sabbālañkārahūlitā³⁸⁷
 parivārenti te rajje bimbapūjāyidaṃ phalaṃ.
46. añikoṭṭhāsahassāni³⁸⁸ suvaññarajjātabahū³⁸⁹
 rathakoṭṭhāsahassāni³⁹⁰ bimbapūjāyidaṃ phalaṃ.
47. dāsīñavasahassāni³⁹¹ tathā dāsāsahassakā
 parivārenti te rajje bimbapūjāyidaṃ³⁹² phalaṃ³⁹³.
48. yaṃ³⁹⁴ yaṃ icchati kāmā naṃ samijjhati manoratham
 sabbabhogāvi³⁹⁵ vaḍḍhanti³⁹⁶ sukhaṃ anubhavanti ca³⁹⁷.

thero³⁹⁸ pucchanto³⁹⁹ gātham āha.

³⁷⁸ jambūdīpecarājāno A; [jambudīparājāno]

³⁷⁹ navañātasahassāni B

³⁸⁰ sabbālañkārahū(jai, b)sitā A

³⁸¹ (jai, b) rajje Z

³⁸² [(jai, b) bimbapūjāyidaṃ B]

³⁸³ navaassāsahassāni A

³⁸⁴ dibbapūjāyidaṃ A; [bimbapūjāyidaṃ B]

³⁸⁵ [vidhā sahasakā A]

³⁸⁶ [nāriñavasahassāni A]

³⁸⁷ [sabbālañkārahūsitā AB]

³⁸⁸ [añikoṭṭhāsahassāni AB]

³⁸⁹ suvaññarajjātabahū A; [suvaññarajjātabahū]

³⁹⁰ vatthakoṭṭhāsahassāni AB

³⁹¹ dāsīñavasahassāni A

³⁹² bimbapūjāyidaṃ B

³⁹³ phalaṃ ti A

³⁹⁴ yaṃ ~ ca om. A

³⁹⁵ [sabbabhogā va]

³⁹⁶ [vaḍḍhanti]

³⁹⁷ yaṃ ~ ca. om. A

³⁹⁸ thero puna A

³⁹⁹ pucchanto imaṃ A

49. selabimbaṃ karitvā ye pūjenti manasā narā
tena pūjāphaleneva vimānaṃ kiṃ bhavissati⁴⁰⁰.

bhagavā⁴⁰¹ gātham āha,

50. selabimbaṃ⁴⁰² kataṃ yeva saddhā⁴⁰³ pūjenti manasā narā
tena⁴⁰⁴ puñaphaleneva⁴⁰⁵ sabbakāmaṃ samijjhati

51. sabbalokapiyā⁴⁰⁶ niccaṃ devasaṃghāhi pūjito
tena puñaphaleneva⁴⁰⁷ siddhilābho nirantaraṃ

52. siddhikiccaṃ hi ākiṇṇacandaraṃsihi⁴⁰⁸ secitaṃ⁴⁰⁹
dasa-āyusahassāni bimbapūjāyidaṃ phalaṃ⁴¹⁰

thero puna pucchanto⁴¹¹ gātham āha.

53. maṇibimbaṃ karitvā ye pūjenti manasā narā
tena pūjāphaleneva meteyya⁴¹² kiṃ⁴¹³ bhavissati⁴¹⁴.

bhagavā⁴¹⁵ gātham āha.

54. maṇibimbakarā⁴¹⁶ ye ke⁴¹⁷ saddhā⁴¹⁸ pūjenti manasā narā
tena puñaphaleneva⁴¹⁹ devate tussitavare⁴²⁰ veduriyapāsāde⁴²¹ va

55. pañcavīsatiyojana⁴²² devaccharāhi sampuṇṇa⁴²³
maṇibimbassidaṃ⁴²⁴ phalaṃ atikkantā sabbadevānaṃ⁴²⁵
puṇṇacando⁴²⁶ samo yathā

⁴⁰⁰ bhavissatī ti A
⁴⁰¹ bhagavā imaṃ A
⁴⁰² sela(jo, a)bimbaṃ B; (jo, a) selabimbaṃ Z
⁴⁰³ sadā A
⁴⁰⁴ (jo, a) tena A
⁴⁰⁵ [puñaphaleneva]
⁴⁰⁶ sabbalokapiyo A
⁴⁰⁷ [puñaphaleneva]
⁴⁰⁸ [ākiṇṇaṃ candaraṃsihi A]; ākiṇṇaṃ candaraṃsihi B
⁴⁰⁹ [sevitam A]
⁴¹⁰ phalaṃ ti A
⁴¹¹ pucchanto imaṃ A
⁴¹² meteyyo A; [metteyyo]
⁴¹³ [ko]
⁴¹⁴ bhavissatī ti A
⁴¹⁵ bhagavā imaṃ A
⁴¹⁶ [maṇibimbaṃ karivā A]; maṇibimbaṃ karā B
⁴¹⁷ ke *om.* A
⁴¹⁸ saddhā *om.* A
⁴¹⁹ [puñaphaleneva]
⁴²⁰ tussipūre A
⁴²¹ veduriyapāsāde A; [veluriyapāsāde]
⁴²² [pañcavīsatiyojanaṃ A]; pañcavīsatiyojane B
⁴²³ sampannaṃ A; [sampuṇṇaṃ B]
⁴²⁴ maṇibimbassidaṃ A
⁴²⁵ sabbadevā A
⁴²⁶ puṇṇaṃ cando B

56. pūjaṃ⁴²⁷ katvā⁴²⁸ maṇibimbaṃ⁴²⁹ dipehi⁴³⁰
 pupphehi vilepanehi dhupehi⁴³¹ cuṇṇehi ca
 sakkaritvāna⁴³² vandanti thomenti passannacittā⁴³³
57. saddhā⁴³⁴ siyā ye katadānasilā⁴³⁵ passannacittā⁴³⁶ ratanesu bimbaṃ
 te yāvajivakaṃ⁴³⁷ sakkaritvā⁴³⁸ tato cutā devatussitavare⁴³⁹ vā.
58. te tattha sattesu⁴⁴⁰ cira⁴⁴¹ vasitvā tato cavitvā manussesu jātā
 puñānubhāvena manussabhūtā metteyyabuddhena samāgameyya.
59. metteyyabuddho sabbañu⁴⁴² sabbalokānukampako
 tesam phalaṃ labhissanti⁴⁴³ metteyyasseva⁴⁴⁴ santike⁴⁴⁵.

thero puna⁴⁴⁶ pucchanto⁴⁴⁷ gātham āha.

60. likkhitaṃ bimbakatame⁴⁴⁸ pūjenti manasā narā
 tena pūjāphaleneva nāri⁴⁴⁹ brahmā⁴⁵⁰ va kidisā⁴⁵¹.

bhagavā⁴⁵² gātham āha.

61. likkhitaṃ⁴⁵³ bimbaṃ kataṃ⁴⁵⁴ ye⁴⁵⁵ saddhā⁴⁵⁶ pūjenti manasā narā
 tena pubbāphaleneva⁴⁵⁷ brahmasampattikaṃ labhi

⁴²⁷ pūjaṃ *om.* A
⁴²⁸ katvā *om.* A
⁴²⁹ maṇibimbaṃ jinaṃ A
⁴³⁰ [dipehi AB]
⁴³¹ dhupe(jo, b)hi A; dhūpehi B
⁴³² samkaritvāna A; (jo, b) sakkaritvāna B; sakkaritvā(jo, b)na Z
⁴³³ [pasannacittā AB]
⁴³⁴ saddā ~ labhissanti *om.* A; sattā B
⁴³⁵ [katadānasilā B]
⁴³⁶ [pasannacittā B]
⁴³⁷ [yāvajīvaṃ]
⁴³⁸ sakkaritvāna B
⁴³⁹ devatussivare B
⁴⁴⁰ [saggesu]
⁴⁴¹ ciraṃ B
⁴⁴² sabbañu B
⁴⁴³ saddhā ~ labhissanti *om.* A
⁴⁴⁴ tato cutā manussesu metteyyasseva A
⁴⁴⁵ santike puñānubhāvena jātanti A
⁴⁴⁶ puna *om.* B
⁴⁴⁷ pucchanto imaṃ A
⁴⁴⁸ [bimbaṃ karitvā A]
⁴⁴⁹ [nāri]
⁴⁵⁰ brāhmā B
⁴⁵¹ kidisā ti A; [kidisā B]
⁴⁵² bhagavā imaṃ A
⁴⁵³ likkhita A
⁴⁵⁴ karitvā A
⁴⁵⁵ ye *om.* A
⁴⁵⁶ saddhā *om.* A
⁴⁵⁷ puñāphaleneva AB; [puñāphaleneva]

62. suvaṇṇamayapāsādam pañcavīsatiyojana⁴⁵⁸
 brahmanārīhi sampunam⁴⁵⁹ bimbapūjassidaṃ phalaṃ
 63. atikkantā brahmagaṇā⁴⁶⁰ koṭicandapabhā viya
 vicitravatthābharaṇā vā⁴⁶¹ bimbapūjassidaṃ phalaṃ
 64. sabbasampattim icchasi metteyyo⁴⁶² bhavissati
 sabbañūtam⁴⁶³ labhitvā te bimbapūjassidaṃ phalaṃ⁴⁶⁴.

thero puna pucchanto⁴⁶⁵ gātham āha.

65. suvaṇṇapūjā⁴⁶⁶ karāye ke na te jāyanti duggati⁴⁶⁷
 devaloke rammanti⁴⁶⁸ te⁴⁶⁹.

bhagavā⁴⁷⁰ gātham āha.

66. suvaṇṇabimbakataṃ⁴⁷¹ yeva⁴⁷² ānisamse mahapphale
 cavitvā tena puñena⁴⁷³ devaloke rammanti⁴⁷⁴
 67. te dibbaannaṃ⁴⁷⁵ dibbapānaṃ⁴⁷⁶ dibbavattham subhañjate⁴⁷⁷
 dibbaāyusahassāni ciraṃ⁴⁷⁸ satte⁴⁷⁹ thitā⁴⁸⁰ tato cavitvā
 tāvatimsā⁴⁸¹ manusse⁴⁸² uppajjanti dvekule⁴⁸³ uppajjanti⁴⁸⁴
 68. khattiyevā pi⁴⁸⁵ brāhmaṇakule vā⁴⁸⁶ jāyanti
 bimbapūjassidaṃ phalaṃ.

⁴⁵⁸ [pañcavīsatiyojanaṃ AB]

⁴⁵⁹ sampunam A; [sampunṇam B]

⁴⁶⁰ brahmaga(jau, a)ṇā B; (jau, a) brahmagaṇā Z

⁴⁶¹ vā om. A

⁴⁶² meteyyo va A

⁴⁶³ (jau, a) sabbañūtam A; sabbañūtam B

⁴⁶⁴ phalaṃ ti A

⁴⁶⁵ pucchanto imaṃ A

⁴⁶⁶ suvaṇṇabimbaṃ A

⁴⁶⁷ duggatiṃ AB; [duggatiṃhi]

⁴⁶⁸ [ramanti A]

⁴⁶⁹ te ti A

⁴⁷⁰ bhagavā imaṃ A

⁴⁷¹ suvaṇṇabimbaṃ katañ A; vasuvaṇṇabimbaṃkataṃ B

⁴⁷² ca A

⁴⁷³ [puññena]

⁴⁷⁴ [ramanti A]

⁴⁷⁵ dibbam annam B

⁴⁷⁶ [dibbapānam AB]

⁴⁷⁷ [subhuñjate A]

⁴⁷⁸ ciraṃ A

⁴⁷⁹ [sagge]

⁴⁸⁰ [thitā]

⁴⁸¹ tāvatimsā va A

⁴⁸² manusse pi A

⁴⁸³ dvekule ca A

⁴⁸⁴ upapajjanti B

⁴⁸⁵ seṭṭhikule A

⁴⁸⁶ vā om. A

69. sujātā thavasampannā⁴⁸⁷ ārohaparināhavā
 aṅgapaccaṅgasampanno⁴⁸⁸ bimbapūjassidaṃ⁴⁸⁹ phalaṃ
70. viṣaṭṭhavadanā⁴⁹⁰ honti piyā⁴⁹¹ honti sadevaphalaṃ⁴⁹²
 uppalassa yathā⁴⁹³ gandho mukkhāṃ⁴⁹⁴ vāyanti sabbadā
 nayanāsabbadhammānaṃ⁴⁹⁵ atṭibyañjanakovidhā⁴⁹⁶
 viṣaṭṭhavadanā hoti bimbapūjassidaṃ phalaṃ
71. na te ummattakā honti na⁴⁹⁷ khujjā⁴⁹⁸ honti⁴⁹⁹
 te sadā⁵⁰⁰ na andhā badhirā honti
 avikallinri⁵⁰¹ appamānā⁵⁰² asamuñhā⁵⁰³
 uju⁵⁰⁴ gacchanti suggaṭṭim⁵⁰⁵ lābhino seṭṭhalābhānaṃ
 bimbapūjassidaṃ phalaṃ
72. dānapāramittaṃ⁵⁰⁶ katvā sabbañūtaṃ⁵⁰⁷ pāpuṇissati
 tena puñaphaleneva⁵⁰⁸ yad icchanaṃ⁵⁰⁹ sajjhati⁵¹⁰
 sabbadukkhā atikkantā⁵¹¹.
73. sabbasotthi⁵¹² bhavanti⁵¹³ te tena puñaphaleneva⁵¹⁴ sabbapāpā vinassati⁵¹⁵
 anāgate ca metteyyadassanañ⁵¹⁶ ca⁵¹⁷ labhissati⁵¹⁸
 sabbadukkhā na bujjhantā nibbānasseva santike.

487 [jvasampannā AB]
 488 [aṅgapaccaṅgasampannā AB]
 489 bimbapūjāssidaṃ B
 490 [viṣaṭṭhanavadanā]
 491 pi(jau, b)ya A
 492 [sadevakam A]
 493 ya(jau, b)thā BZ
 494 [mukkhā B]
 495 [nayanā sabbadhammānaṃ]
 496 atṭibyañjanakovidhā B; [atṭibyañjanakovidā]
 497 na *om.* B
 498 khujjā *om.* B
 499 honti *om.* B
 500 saddhā B
 501 avikallindriyāni ca A; avikalinriyā B; [avikindriyā]
 502 [appamānā]
 503 asammūlhā A; asumuñhā B; [asammūlhā]
 504 [ujuṃ AB]a
 505 [suggaṭṭim AB]
 506 [dānapāramittaṃ A]
 507 sabbañūtaṃ AB; [sabbañūtaṃ]
 508 [puñaphaleneva]
 509 [icchakam AB]
 510 [samijjhati AB]
 511 [atikkantā AB]
 512 [sabbasotthi AB]
 513 bhavantu A
 514 [puñaphaleneva]
 515 vinassanti B
 516 metteyyam dassanañ A
 517 ceva A
 518 labhati A

purisā⁵¹⁹ pi ca sambuddhaṃ dhamma⁵²⁰ sambuddhadesitaṃ passannacittā⁵²¹ hutvāna,
moggallānena⁵²² pucchitvā⁵²³,

upāsikā⁵²⁴ saddhā honti sotā labbhati⁵²⁵ te⁵²⁶ sadā. sakidāgā⁵²⁷ sadā honti upāsako
labbhati⁵²⁸ satim⁵²⁹, bhikkhunī no⁵³⁰ saddhā honti, anāgā⁵³¹ labbhissati⁵³² arahatta⁵³³
saddhā⁵³⁴, sabbe bhikkhū labbhissantī⁵³⁵ ti

moggallānathero dhammadesanaṃ sutvā passannacitto⁵³⁶ hutvā abhinandati. desanāpariyosāne dhammaṃ
buddhassa desitaṃ buddhabimbaṃ kataṃ yeva moggallānena pucchitā paṇhaṃ⁵³⁷ puṭṭho ca byākāsi,
bimbaṃ desesitaṃ phalaṃ moggallānaṃ pamodento nibbānapattaṃ⁵³⁸ labbhati⁵³⁹ ti.

moggallānabimbapaṇhā⁵⁴⁰ nitthitā⁵⁴¹

⁵¹⁹ (jaṃ, a)purisā A
⁵²⁰ [dhammaṃ AB]
⁵²¹ [pasannacittā AB]
⁵²² moggallāne A
⁵²³ pucchitā A
⁵²⁴ upāsakā A
⁵²⁵ labhati A; [labhissantī]
⁵²⁶ [tā]
⁵²⁷ sakidātā B; [sakadāgāmī]
⁵²⁸ labhi A; [labhati]
⁵²⁹ sati B
⁵³⁰ (jaṃ, a) no BZ
⁵³¹ anāgāmi A; [anāgāmī]
⁵³² [labhissati A]
⁵³³ saarahatta A; [arahattaṃ B]
⁵³⁴ saddhā honti A
⁵³⁵ [labhissantī A]; labbhissantī B
⁵³⁶ [pasannacitto AB]
⁵³⁷ [paṇhaṃ]
⁵³⁸ [nibbānamattaṃ AB]
⁵³⁹ [labhati A]; [labbheti]
⁵⁴⁰ moggallānabimbapa(jaṃ, b)ṇhā A; [moggallānabimbapañhā]
⁵⁴¹ [nitthitā A]

『目連尊者の問い』

【帰依文】

仏弟子たちは今まで [仏典と法を] 守らせ離垢の注釈を導きました、その過去の師匠たちに私は敬礼します¹。ヴィパッシン仏と破闇者である法と汚れ無き僧伽を礼拝し、私は、[仏] 像によって、その黄金 [のような仏] 像の功德を四衆に語ります、あなたはそれ（仏像の功德）を私の仏の話に従って聴きなさい、高貴な善を求める者は皆、深淵な信仰心ある敬意をなし、偉大な果報を [得ます]

【現在時】

ある時、師がジェータヴァナに住していたそうです。[その折] 師は四衆の間で、仏像を造ることの果報によって天と人のために法を示し、
「比丘たちよ、実に仏像を造ることは大きな果報をもたらす大きな功德である。[以下の] 話は我々によって知られるべきである。」[と語り始めました]

【ヴィパッシン仏の時代の貧者の造像】

昔、九十劫の終わりにヴィパッシン仏が世に生まれました。彼が法を示して、天と人は法を聞き、預流向・一來向・不還向・阿羅漢向に至りました。かの尊き人（ヴィパッシン仏）は、仏像を造ることの果報によって法を示して、

「比丘たちよ、どんな人間でも、女でも男でも比丘でも比丘尼でも優婆塞でも優婆夷でも仏像を造れば、黄金製でも、銀製でも、赤銅・青銅製でも、錫製でも、石製でも、木製でも、その男あるいはその女が法を聞いて、[四] 衆たちが仏像を造れば、天と人は王の幸福を得ます。」

師であるヴィパッシン仏の般涅槃の時、アマラヴァティーの都ではアマラヴァティーという名の王が統治していました。そしてそれらの王や天や人は皆、金・銀・瓦製の仏塔を建て、12 ヨーjanaもの大きさの塔を建てさせ、天と人は皆、塔を芳香・華鬘で供養し礼拝して、七日目に仏の身体になされるべきことをなしました。その時、貧しい人が妻と一緒に灯明・香・芳香・華鬘などを取らせて、尊者（ヴィパッシン仏）の黄金の合掌を供養し、立つと、妻と共にこのように言いました。

「尊者よ、我々は前世での布施をしなかった布施の罪によって、守らなかった戒の罪によって、修習しなかった修習の罪によって、今貧者になってしまいました」と。

¹ *Vin-vn-pt*, p. 2: ye tantidhammaṃ munirājaputtā. yāvajjakālaṃ paripālayantā. saṃvaṇṇanaṃ nimmalam ānayaṃsu. te pubbake cācariye namāmi.

「そして、我々は今 [も] 善業をなしていないので、来世にはさらなる苦しみ受けるでしょう」と、

「我々は仏像を造りましょう」と、

「[そうすれば] 我々は貧者から解放されるでしょう」と、

「前世の業によって地獄に再生しません、仏像を造ることの果報による大きな功德はあらゆる布施 [によって得られる功德] よりも [偉大] です。一つの堂を布施するのは大きな果報をもたらす大きな功德です。十万の堂を布施することよりも一つの旗を布施することは大きな果報をもたらす大きな功德です。十万の旗を布施することよりも一体の仏像を造ることは大きな果報をもたらす大きな功德です。父母は喜び、親類も喜び、息子娘も喜びでしょう、あらゆる利得と名聞を得て尊敬します。それ故に仏像を造りましょう、我々は今福德をなします。」

彼女は彼の言葉を聞いて、

「私が福德を与えましょう、私が木材を持って、切断して根（土台）を持ってきます。切断して梅檀の根の堅材を持って、飾られた家に行きます、愛する者よ、あなたは装飾をなした像を造って下さい。私は根の部分（土台）を布施します」と。

彼女の言葉を聞いて、彼は仏像を造り終えると、行って、貧者（妻）に告げました。この偈を唱えました。

1. 私は、華麗ですばらしい正覚者の像を、浴油供されるべき石製の勝者の像を宝のようなラック色の最上の衣で覆わせ、
2. 高座に座らせ、仏像を見ると命ある者のように輝き、
かの貧者は言いました「正覚者の像を完成させました」と。

彼女は、彼の言葉を聞いて心喜び、根の部分（土台）を布施し、許可を請い像を（土台に）載せて、頭に置いて、精舎のあるその方角に向かい精舎に入り、偉大な阿羅漢が像を座らせました。灯明・香・芳香・華鬘で供養し礼拝して、比丘僧伽の食べ物と水などで [貧者を] もてなしました。[貧者は] 食事が終わると、法を聞きたいと請い、

「尊き長老よ、我々が像を造りました。どんな大きな果報をもたらす大きな功德なのですか」と。
長老は聞いて偈を唱えました。

3. 高さわずかヴィッタティ（12 指節）ほどの大きさの木や石の世間主の像を造り、様々な行い（供養）をなす人は、燈明を布施して、最上仏となるでしょう。
4. 信ある者が、どんな上首の像であっても造れば、満足し、三世において [果報を] 得ます、

5. それ（造像の果報）が、三種の楽、人間界での楽、天界での最上の楽、そして涅槃の楽を与えます、像を〔造ったことによる〕果報として得ます、と。

彼（貧者）は法を聞いて心喜び、あらゆる装身具を供養して自身を明らかにしました。請願して偈を唱えました。

6. この像〔を造ったことの〕果報、内観、心により、
何度生まれ変わっても貧しい家に〔生まれ〕ません。
7. 貧しくならず、富裕な女性たちを連れた王となります、
父母親類たちは貧しい家に〔生まれ〕ません、
8. 生きた仏への帰依や法・僧伽への帰依、命ある仏への帰依や法・
僧伽への帰依、涅槃仏や法・僧伽への帰依にいたるまで〔なしま
す〕
9. あらゆる財を得て、喜びを得ます、と
妻や息子は具戒者で、奴僕や奴婢は幸せです、と。

長老は喜んで偈を唱えました。

10. 欲し、願ったことが、あなたの為にすぐに叶いますように、
すべての思惟が満たされますように、十五夜の月のように。

それを聞いて、貧しい男は長老を礼拝して、許しを請い、妻と一緒に家に帰り、寿命を全うし、寿命の終わりに死に、すべての人々が身体になされるべきことをなし、仏像を造った果報によって五百回の生に於いて、四島において転輪聖王となり、七宝を具足しました。〔七宝とは〕女宝・將軍宝・家長宝・象宝・馬宝・輪宝・摩尼宝です。だれによって〔七宝を〕与えられたのかというと、母によって与えられたのではなく、父によって与えられたのではなく、親類によって与えられたのでもありません。黄金の宮殿は、装飾された十万の重閣です。それ（宮殿）の黄金製の柱に銀製の楔があります。銀製の〔柱〕に黄金製の〔楔〕があり、摩尼製の柱に珊瑚製の〔楔〕があり、〔珊瑚製の〕柱に摩尼製の〔楔が〕あり、〔摩尼製の〕柱に七宝製の〔楔〕があります。七宝製の柱に七宝製の楔があります。それから黄金の宮殿の中にはどんな天井網が懸かっていますか。天の花・天の香・花輪・華鬘などが懸かっています。宮殿内にある黄金の椅子に座って、十万の白傘・黄金幢、十万の払子、十万の天衣、十万の天の花・華鬘など、十万の天の香や十万の舞踊と歌、十万の昼や夜を取り囲んで、彼もその女も仏像を造ったことの果報によって順に逆に人間界や天界に輪廻し享受しました。

【目連尊者と天人との対話】

さて、ある時マハーモッガラーナ長老が天界の遊行を行いながら、その宮殿の門に立ちました。

従者に告げられた天人は [マハーモッガラナ] 長老がやって来たのを聞いて、従者と共にやって来て長老の足に礼拝して、合掌して立ちました。そして彼（天人）に長老は尋ねて偈を唱えました。

11. この高い摩尼の塔と宮殿は全体に 25 ヨーjanaで、
重閣は七百もの偉大な瑠璃の柱が輝いて立っていて、美しいです。
12. あなたは天の神通力、偉大な威力を得ています、
人間界でどんな福德をなしましたか、なぜあなたはこのように輝かしい威力を得たのですか、あなたの姿は全方角で輝いています、
なぜあなたにはこのような姿があるのですか、なぜこの世であなたは成功するのですか、
13. そして、あらゆる心の快い富があなたに生じます。
縦横 20 ヨーjana、
14. 様々な 25 種類の銀の屋根で装飾され、
赤珠製の柱、黄金製の壁、
- 15.・16. サファイア製の横木、水晶製の窓があり、
[扉が] 開閉する時、美しい黄金の門 [の奏でる音は] 五支の楽器のようで、眠りから覚めれば、酒や肉があり²、
摩尼の風窓によって瑠璃色に輝きます、
17. その最上の重閣にある椅子に安立しました、
亜麻布を纏った者（天人）がより優れた赤絨毯を敷いた所に、
18. 天女たちに囲まれて最上の椅子に座りました、
最勝者たちは皆、空中にある雷光のように輝いていました。

その天人は喜び、モッガラナによって問われ、問われた問いに答えました。

「ある行いにこの果報がある、私は人間界において人間存在として心のために像を造りました。切断された像を正念の限り、力の限り供養しました。それによって私のそのような容姿、それによって私の利が成就します、私の財も生じます、それによって私はこのような光輝な偉大な威力や容姿が私の全方角で輝き、太白星のような [私の威光が] 全方角を照らします。縦横 20 ヨーjanaで、25 の様々な種類の銀の屋根で装飾され、赤珠製の柱、黄金製の壁、サファイア製の横木、水晶製の窓、美しい金色の美しい門があり、五支の楽器のようです。」

² 『ヴェッサンタラ・ジャータカ』の下記の類似する言及に基づき和訳。Ja, vol. 6, p. 483: citraggalerughusite, surāmaṃsapabodhane. (中村 [1988: 153]: キラキラと輝くかんぬきの音ひびき、眠りより覚めれば酒や肉がある) さらに、中村 [1988: 265] は、citraggalerughusite は、五種の楽器の奏でる音色に似た、心地よい音をたて、七宝でキラキラとしている扉が鳴り響くと注釈されている、と述べている。

それを聞いて長老は、言いました、

「わたしによって次のように語られました『ああ天人よ、仏像を造ったことは実に大きな果報です』」と、

彼（モッガラーナ長老）は、その意向を知って四聖諦を示しました。天人は十万の天女たちと一緒に預流果に住立させました。

【釈尊と目連尊者との対話（造像の果報）】

長老は天界から下り、釈尊のいるその方角へ向かいました。その時、釈尊は仏の居室から出て、すばらしい法堂に来て、法座に座って法を示しました。モッガラーナ長老は釈尊に近づいて立ちました。すべての出来事を釈尊に告げました。そして師は、天人の前世を語り六色の光線を放ちました。[光線は]対になり、群れになり、下へ下へ向かい、[人々に]知られ、1万の世界が梵天界にいたるまで広がり、月光のように、十万の太陽光のように、十万の大梵天のように、十万[もの輝きです]天の弓のような十万の光線の輝きを見ると、光線を受けた摩尼網、真珠網、珊瑚網、瑠璃網は黄金の山のようにでした。師は法を示して偈を唱えました。

19. 信仰心のある心で仏像を造る人は、
天界あるいは人間界で富を備え修習し、
20. 成功し、富を備え、光明を有し、偉大な名誉を有し、
人々は皆、満月のように優れています。

長老は説法を聞いて、心喜び釈尊に尋ねて偈を唱えました。

21. 同様に金・銀・青銅・錫、土・木、
石、線刻、摩尼[の像を造れば]、どんな幸福がありますか。
22. 彼らにどのような果報が、どのような未来があるのですか、
釈尊よ、わたしのその問いをお聞きください。

最も美しい姿を保った釈尊は、内なる法のために仏の遊戯によって風神衆の間で立ち上がりました。[師は]マハーモッガラーナ長老に法を示してこの偈を唱えました。

23. 土製の像を造れば、偉大な優れた長者となり、
錫製の像を造れば、最上の願望を有するパラモンになります。
24. 木製の像を造れば、偉大な最勝王となり、
石製の像を造れば、最上の願望を有する神々となり、
25. 青銅製の像を造れば、偉大な最上の帝釈天となり、
銀製の像を造れば、夜摩天の最上の神々となり、

26. 摩尼製の像を造れば、優れた兜率天の神々となり、
線刻の像を造れば、偉大な最上の梵天となり、
黄金製の像を造れば、得られるべき一切智を有するものとなりま
す。

長老は、説法を聞いて心喜び、釈尊に尋ねて偈を唱えました。

27. 自分の為によく像を造れば、像を財とすれば、像を造らせれば、
像を喜ばば、いかに大きな果報を [得ますか]
28. [像の] 一部分を造っても、全部を [造っても] 等しく大きな果
報がありますか、[あるいは] 一部分 [の果報を] を得るのですか、
私の [問い] を聞いて、答えて下さい。

釈尊は偈を唱えました。

29. 自分の為によく像を造れば、1万コーティ [の果報を得ます]
像を造って財とすれば、7千コーティ [の果報を得ます]
30. 像を造らせれば、3千コーティ [の果報を得ます]
像を喜ばば、1千コーティ [の果報を得ます]

【釈尊と目連尊者との対話（供養の果報）】

【土製の像】

長老は尋ねて偈を唱えました。

31. 美しい人々が造った土製の像を心から供養すれば、
その供養の果報としてどのような幸福がありますか、と。

釈尊は偈を唱えました。

32. 土製の像を得て、人々は心から供養します、
その供養の果報としてあらゆる欲望を満たします、
33. 重閣などを有し、様々な象の群れを有した人々は、
後世に生まれ変わって、幸福を享受します、
34. 妻子は得やすく、金銀は多く、
あらゆる財物が増大します、これが仏像の果報です。

【錫製の像】

長老は尋ねて偈を唱えました。

35. 錫製の像を得て、人々は心から供養します、
その供養の果報としてどのような利得がありますか。

釈尊は偈を唱えました。

36. 錫製の像を得て、人々は心から供養します。
その供養の結果によって彼らは成功し信仰心ある者となります、
37. 7 百人の奴隷・奴婢、着飾った女たち、
7 百頭の象・馬、7 百の車・馬、
38. 7 百頭の牛・水牛、同様に 7 百頭の牝牛、
たくさの富が常にあります、これが像供養の果報です。

【木製の像】

また、長老は尋ねて偈を唱えました。

39. 木製の像を得て、人々は心から供養します、
その供養の果報としてどのような利得がありますか、と。

釈尊はこの偈を唱えました。

40. 木製の像を得て、人々は心から供養します、
その福德の果報によって鋭い智慧を有し、
畏れない閻浮提の王となり、常に [仏像を] 供養します。
41. 赴いた土地土地で [人々に] 敬礼され、
像を供養した果報として後世にも王となります
42. あらゆる装身具で飾られたそれら 9 千頭の象たちが、
王国を取り囲みます、これが像供養の果報です。
43. あらゆる装身具で飾られたそれら 9 千頭の馬たちが、
王国を取り囲みます。これが像供養の果報です。
44. 同様に、数千種類のそれら 9 千台の車が、
王国を取り囲みます、これが像供養の果報です。
45. あらゆる装身具で飾られた 9 千人の婦人が、
王国を取り囲みます、これが像供養の果報です。
46. 金銀の沢山入った数千の摩尼製の蔵、
数千の車庫があります、これが像供養の果報です。
47. 同様に、彼ら 9 千人の奴婢、数千人の奴僕が、
王国を取り囲みます、これが像供養の果報です。
48. 欲望から欲したその意樂を満たします、あらゆる財物が増大し、
そして幸福を享受します。

【石製の像】

長老は尋ねて偈を唱えました。

49. 石製の像を造って、人々は心から供養します、
その供養の果報としてどのような宮殿がありますか。

釈尊は偈を唱えました。

50. 石製の像を造って、信仰心ある人たちが心から供養します、
その福德の果報によってあらゆる欲を満たします、
51. 全世界の愛すべき者は常に天人衆によって供養され、
まさにその福德の果報によって絶え間なく完成を得ます。
52. 月の光線によって撒布されたように完成が撒布され、
1万年の寿命となります、これが像供養の果報です。

【摩尼製の像】

再び長老は尋ねて偈を唱えました。

53. 摩尼製の像を造り、人々は心から供養します、
まさにその供養の果報によってどのような弥勒がいるのでしょうか。

釈尊は偈を唱えました。

54. 摩尼製の像を造り、信仰心のある人々は心から供養します、
まさにその福德の果報によって天界の最上の兜率天にある瑠璃の
宮殿において、
55. 25 ヨージャナを天女たちによって満たしました、
これが摩尼製の像の果報です、あらゆる神々は優れており、
満月と同じようです、
56. 摩尼製の仏像を灯明によって、
花々によって、塗香によって、香によって、粉によって供養し、
恭敬して、礼拝して、賞賛して、満足します。
57. 信仰心があり、布施や戒をなし、心喜び、宝において像を[造る]
者たちは、
58. 命の限り恭敬し、死んでから最上なる兜率天に[再生しました]
彼らはその天界に久しく住して、その後死んで人間界に生まれま
した、

59. 福德によって人間となり、弥勒仏と共にやって来ましょう。
弥勒仏は、一切智者で全世界の慈悲者です、
まさに弥勒の側でこれらの果報を得るでしょう。

【線刻の像】

さらに長老は尋ねて偈を唱えました。

60. 線刻の像を造って、人々は心から供養します、
まさにその供養の果報によってどのような高貴な婦人が [いるの
ですか]

釈尊は偈を唱えました。

61. 線刻の像を造って、信仰心ある人々は心から供養します、
まさにその福德の果報によってすばらしい幸福を得ます、
62. 黄金製の宮殿は 25 ヨーjanaで、
高貴な婦人たちによって満たされます、これが像供養の果報です、
63. すばらしい高貴な者の集まりはコーティもの月明かりのようで、
種々の衣・装身具を具足します、これが像供養の果報です、
64. あなたがあらゆる幸福を欲し、弥勒がいるでしょう、
一切智性を得ます、これが像供養の果報です。

【黄金製の像】

再び長老は尋ねて偈を唱えました。

65. 黄金の [像を] 供養するどのような人たちが、悪趣に再生せず、
天界を楽しむのですか。

釈尊は偈を唱えました。

66. 黄金の像を造って、功德ある偉大な果報を [得て]
死んで、その福德によって天界で楽しみます、
67. 彼らは天の食物、天の飲物、天衣をよく享受し、
天での数千年の寿命を有し、久しく天界に住し、その後死に、
三十三天から人間界に生まれます、両家に生まれます、
68. [すなわち] 王家あるいはパラモン家に生まれます、これが像供
養の果報です。
69. 速力を備え、身丈・身幅を有し、
肢節を具え、よく生まれます、これが像供養の果報です。

70. 愛すべき明らかな言葉を持ち、天と共にあります、
青蓮華の香が口に常に吹きます、
眼はすべての法の特相を熟知し、
明らかな言葉があります、これが像供養の果報です。
71. 彼は狂者にならず、せむしにならず、
彼らは常に盲目、聾者になりません、
無量で不動の欠けることのない感官を有し、
利得者は最上の利益のために正しく善趣に赴きます、
これが像供養の果報です、
72. 布施波羅蜜をなし一切智性を得るでしょう、
まさにその福德の果報によって望みを叶え、
あらゆる苦を超越します。
73. その福德の果によってあらゆる罪は消滅します、
そして未来において弥勒に見えるでしょう、
まさに涅槃の近くにおいてあらゆる苦を知ることはありません。

人々はまた、正覚者と正覚者によって示された法とをよろこびました、モッガラーナに問われ〔釈尊は〕

「優婆夷は信仰心ある者となり、彼女らは常に預流を得ます。優婆塞は常に一來者となり、憶念を得ます、実に比丘尼は信仰心ある者となり不還を得るでしょう、信仰心あるすべての比丘は阿羅漢性を得るでしょう」と〔説きました〕

モッガラーナ長老は、説法を聞いて、心喜んで歓喜しました。仏の教説の終わりにまさに仏像を造ったことについての仏の法を示し、〔釈尊は〕モッガラーナによって尋ねられ問われた問いに答えました。像について説き示しました、その果報はモッガラーナを喜ばせて涅槃の道を得させました、と。

『目連尊者の問い』 完

4

Māleyyadevattheravatthu
with
Māleyyadevattheravatthudīpanīṭikā

『マーレツヤデーヴァ長老物語』

『マーレツヤデーヴァ長老物語註』

Māleyyadevattheravatthu
with
Māleyyadevattheravatthudīpanīṭikā

nomo tassa bhagavato arahato sammāsambuddhassa.

suranaramahīṇiyam buddhaseṭṭham namitvā
sugatappabhavam dhammam sādhuṃ saṅghañ ca namitvā
sakalajanappasādam Mālayyam nāma vatthuṃ
paramanayavicittam sāmāsā ārabhissan ti.

namo¹ tassatthu².

vanditvā³ sirasā buddham ciram⁴ ālayadhamsakam⁵
dhammaṃ⁶ ca nimmaluttamam⁷ gaṇañ cāpi nirabbadam⁸.
pubbācariyasihānam⁹ matam¹⁰ nissāya sādhuṃ
vakkhissam¹¹ mālayyamdipaniṃ¹² sukhattham mandhubuddhinam¹³
paramavicittanayamsamannāgam¹⁴ anuttaram
pavarāniratisayam¹⁵ hitasukhāvaham¹⁶ abhirammaṇiyā¹⁷ ti¹⁸.

madhurasotarāsāyanam¹⁹ anavasesam²⁰ sakalajanapasādajananam²¹ idaṃ pakaraṇam²²
ārabbhanto²³ pathaman²⁴ tāva ratījanatthena²⁵ cittakatādiatthena²⁶ ca ratanasammatam

¹ (ka, b). namo ABCDJZ; (ka, a). namo EHK; namo om. FGI

² tassatthu om. FGI

³ vandhitvā CH; (ka, b) vanditvā FGI

⁴ eramm EHK; cīram F; [dhīram G]; dhīram I

⁵ āyamdhamsakam A; āyadhamsakam D; āleyyadhamsakam I

⁶ dhammam H

⁷ [nimmaluttamam ABCDEFGHIJK]

⁸ nirabbaddham A; nīrabbadam B; [nirabbadam CDG]; nirabbuddham EI; nirabbuddham H; nirabbuddham K

⁹ pubbācariyasihānam BFGK

¹⁰ matī H

¹¹ vakkhissa H; [vakkhāmi]

¹² [mālayyadīpaniṃ AD]; mālayyadīpani BHJ; mālayadīpaniṃ EFGK; mālayadīpaniṃ I

¹³ [mandabuddhīnam AFGHI]; mandabuddhīnam BCJ; mandhabuddhīnam D; maṇḍabuddhīnam E; maṇḍabuddhīnam K

¹⁴ paramavicittanayasamanāgam A; [paramavicittanayasamannāgam BCDEFGHIJK]

¹⁵ pavarāniratisaya A; pavarāniratisaya DFI; parāniratisaya EHK

¹⁶ hitasukhāvaha(kā, a)m A; hitam sukhāvaham EHK; (kā, a) hitasukhāvaham FG; hitasukhāvaha(kā, a)m I

¹⁷ a(kā, a)bhīrammaṇiyā B; abhirammaṇi(kā, a)yā C; abhirammaṇiyā FG; abhiramma(kā, a)ṇiyā Z; [abhirammaṇīyan]

¹⁸ (kā, a) ti D

¹⁹ [madhurasotarāsāyanam HK]; madhurasotasoyanap I

²⁰ anavasesa I

²¹ sakalajanapasādajananam A; sakaṃlajanapasādajananam H; sakalajanapasājana(kā, a)nam I

²² pakāṇam E; pakaraṇamm H

²³ ārabhanto FG

²⁴ patthaman H; pathaman K

sakalabhavadukkhani vāraṇasamatthaṃ²⁷ tibhavanekasaraṇabuddhādivatthuttayaṃ²⁸
namaassitukāmoyam²⁹ ācariyo tassa viditthagayaṇogadassanattaṃ³⁰ *suranaramahīṇiyam*³¹
*buddhaseṭṭhan*³² ty ādim āha. visiṭthagayaṇogena³³ hi paṇāmārahabhāvo³⁴ paṇāmāraheva³⁵ kato³⁶
paṇāmo yathādhippetatthaṃ³⁷ siddhikaro hoti³⁸ ti³⁹. ettha ca ratanattayappaṇāmakaraṇappayojanaṃ⁴⁰
tatha tatha⁴¹ bahudhā papañānti⁴² ācariyā. visesena pana⁴³ antarāyabhayavighāṭanaṃ⁴⁴ icchanti.
tathā hi vuttaṃ aṭṭhakathācariyehi

nippaccakārassetassa katassa⁴⁵ ratanattaye

ānubhāvena⁴⁶ sosetvā⁴⁷ antarāye asesato⁴⁸ ti.

ratanattayapaṇāmo⁴⁹ hi paramatthato kāmāvacarakusalacetanā⁵⁰. sā⁵¹ ca pathamajavanacittasampayuttā⁵²
adhippetā⁵³. sā hi vandaneyyavandakānaṃ⁵⁴ khettsampadāya⁵⁵ ajjhāsayasampadāya⁵⁶ ca⁵⁷
diṭṭhadhammavedaniyā⁵⁸ jātā porāṇakusalakammaṃ⁵⁹ balānuppādānavasena⁶⁰
purimakammaṇibhattitassa⁶¹ vipākasantānaṃ⁶² antarāyakarāṇi⁶³ upapīlakupacchedakasaṃkhātāni⁶⁴

²⁵ [ratijananatthena EK]; ratijananatthe I

²⁶ cittikatādiatthena CFGHK; pittikatādiatthehi I

²⁷ sakalabhavadakkhinivāraṇasamatthaṃ H

²⁸ tibhavanekasaraṇaṃ buddhādivatthuttayaṃ ACDEFGK; tibhavanekasaraṇaṃ buddhādivatthuttayaṃ H; tibhavanekasaraṇaṃ buddhādivatthuttayaṃ I

²⁹ manassitukāmoyam A; [namassitukāmoyam BCDEHIJK]; namassitukā(kā, b)moyam F; namassitukāmo(kā, b) yam G

³⁰ visi(kā, b)ṭṭhagayaṇogadassanattaṃ A; viditthagayaṇogadassanattaṃ BJ; vi(kā, b)ṭṭhagayaṇogadassanattaṃ C;

³¹ visiṭthagayaṇogadassanattaṃ D; [visiṭthagayaṇogadassanattaṃ EK]; viliṭthagayaṇogadassanattaṃ FG;

³² visiṭthagayaṇogadassanattaṃ H; visiṭthagayaṇogadassanattaṃ I; viditthagayaṇogadassanattaṃ Z

³³ suranaramahīṇiyam EK; suranaramahīṇiyam H; suranaramahīṇiya I

³⁴ baddhaseṭṭhan H

³⁵ visiṭthagayaṇogena K

³⁶ paṇāmārahabhāvo A; paṇāmārahabhāvo DEFGK; paṇāmārahabhāvo H; paṇāmārahabhāvo I

³⁷ paṇāmārahevo C; (kā, b) paṇāmārasāca I; paṇāmāraheva K

³⁸ kate H; kato om. I

³⁹ yathādhippetatthaṃ A; yathādhippetattha EFIK; yathādhippetattha H

⁴⁰ hoti EH

⁴¹ ti E

⁴² ratanattayapaṇāmakaraṇappayojanaṃ FGI; ratanattayapaṇāmakaraṇappayojanaṃ H

⁴³ (ka, b) tatha K

⁴⁴ pañcenti A; [papañcenti BCGHIJK]; mapañcenti D; papañce(ka, b)nti E; papañcañcanti F

⁴⁵ pana om. F

⁴⁶ antarāyabhayavighāṭanaṃ CK; [antarāyavighāṭanaṃ]

⁴⁷ (ka, b) katassa H

⁴⁸ anubhāvena E

⁴⁹ parisosetvā H

⁵⁰ asesato A

⁵¹ rattanattayaṇāmo A; ratanattayapaṇāmo D

⁵² kāmāvacarakusalacetano H

⁵³ ya H

⁵⁴ paṭṭhamajavanacittasappakasantaṇassayuttāya H; pathamajavanacittasampayuttā ca I; paṭṭhamajavanacittasampayuttā K

⁵⁵ ampato H

⁵⁶ vandaneyyavandukānaṃ A; vandaneyyavandakānaṃ H; vandaneyyavandakānaṃ I

⁵⁷ khettsadāya H

⁵⁸ (ki, a) ajjhāsayasampadāya G

⁵⁹ pa G

⁶⁰ diṭṭhadhammavedaniyā D; (ki, a) diṭṭhadhammavedaniyā F

⁶¹ porāṇakusalakammaṃ D; porāṇakussalakammaṃ H

⁶² (ki, a) balānuppādānavasena BJ; balānu(ki, a)ppādānavasena C; balānuppādānavasena I

⁶³ purimakammaṇi(ki, a)bbhattitassa A

⁶⁴ vipākasantānaṃ om. H; (ki, a)vipākasantānaṃ Z

⁶⁵ antarāṇi H

⁶⁶ u(ki, a)papīlakupacchedakasaṃkhātāni D; [upapīlakupacchedakasaṃkhātāni E]; upapīlakupacchedakasaṃkhātāni FG

akusalakammāni vighāṭetvā⁶⁵ tannidānarogādiupaddhavasamkhātānaṃ⁶⁶ antarāyānaṃ anibbattikaṃ⁶⁷ karoti, tasmā ratanattayapaṇāmakaraṇaṃ⁶⁸ attanā sammārabhitassa⁶⁹ pakaraṇassa anantarāyena⁷⁰ sijjhanatthaṃ sissānusissānaṃ⁷¹ paṇāmapubbaṅgamāya⁷² paṭipattiyā⁷³ anantarāyena uggahadhāraṇādisijjhanatthaṃ⁷⁴ ca. ayam ettha pana avayavattho. ayam esamudāyattho⁷⁵ . saranaramahiṇiyaṃ⁷⁶ buddhaseṭṭhaṃ namitvā⁷⁷ sugatappabhavaṃ dhammaṃ natvā sādhusaṃghaṃ⁷⁸ ca natvā⁷⁹ sakalajanappasādaṃ⁸⁰ paramanayavicittaṃ⁸¹ mālayyaṃ⁸² nāma⁸³ vatthum samāsā⁸⁴ ārabhissaṃ⁸⁵ ti sambandho⁸⁶. vākyatthasamudāyoyaṃ⁸⁷. mālayyakatācariyo⁸⁸ katvā paṇāmarattanatayaṃ⁸⁹ iti ahaṃ namitvā buddhaseṭṭhaṃ⁹⁰ kiṃbhūtaṃ⁹¹ suranaramahiṇiyaṃ⁹² ca na kevalam eva⁹³ buddhaseṭṭhaṃ⁹⁴ namitvā ahaṃ natvā⁹⁵ dhammaṃ kiṃbhūtaṃ⁹⁶ sugatappabhavaṃ⁹⁷ ca na kevalam⁹⁸ eva dhammaṃ⁹⁹ natvā ahaṃ¹⁰⁰ natvā¹⁰¹ saṃghaṃ kiṃbhūtaṃ¹⁰² sādhuṃ¹⁰³ ariyasappurisabhūtaṃ¹⁰⁴ catumaggaphalaṭṭhaṃ¹⁰⁵ . evaṃ¹⁰⁶ ratanattayapaṇāmanubhāvena¹⁰⁷ hatantarāyo¹⁰⁸ hutvā¹⁰⁹ ārabhissaṃ

⁶⁵ [vighāṭetvā]

⁶⁶ tannidānarogādi-upaddhavasamkhātānaṃ AC DK; tannidānarogādi-upaddhavasamkhātānaṃ BEFGHJ;

tannidānarogāni-upaddhavasamkhātānaṃ I

⁶⁷ anibbattitaṃ EIK; bba anibbattitaṃ H

⁶⁸ rattanattayapaṇāmakaraṇaṃ C

⁶⁹ [sammārabhitassa EFGK]; sammārabhitassa H; sammārabhitassa I

⁷⁰ (kā, a) antarāyena K

⁷¹ sissānasissānaṃ I

⁷² paṇāmapubbaṅga(kā, a)māya E; paṇāmapubbaṅgamāya H

⁷³ paṭipattiyā A; paṭipattiyā H

⁷⁴ uggahadhāraṇādisijjha(ki, a)natthaṃ I

⁷⁵ ettha samudāṭṭho A; [ettha samudāyattho CDEFGHIK]

⁷⁶ [suranaramahiṇiyaṃ ABDEFGHJK]; suranaramahiṇiyaṃ I

⁷⁷ namitvāna H

⁷⁸ sādhuṃ saṃghaṃ ABCDEGHK

⁷⁹ natvāna EHK

⁸⁰ sakalajanappasādaṃ EFGHIJK

⁸¹ purimanayavicittaṃ I

⁸² māleyyaṃ A; mālayyaṃ FGI

⁸³ (kā, a) nāma H

⁸⁴ sammāsāmaṃ I

⁸⁵ ārabhissa(ki, b)n G; ārabhissaṃ I

⁸⁶ sambandho A; sambandho (ki, b) F

⁸⁷ vākyatthasamudhāyoyaṃ A; vākyatthasamudhāyoyaṃ K

⁸⁸ māleyyakatācariyo A; mālayyakatācariyo F; mālayyakatācariyo GI

⁸⁹ paṇāmaṃ rattanattayaṃ AD; [paṇāmaṃ ratanattayaṃ CEGHIK]; maṇāmaṃ ratanattayaṃ F

⁹⁰ buddha(ki, b)seṭṭhaṃ B; (ki, b) buddhaseṭṭhaṃ C

⁹¹ bhībhūtaṃ I; (ki, b) kiṃbhūtaṃ J

⁹² suranaramahi(ki, b)ṇiyaṃ Z

⁹³ e(ki, b)va A

⁹⁴ buddha(ki, b)seṭṭhaṃ D

⁹⁵ namitvā I

⁹⁶ kiṃbhūtaṃ H; bhībhūtaṃ I

⁹⁷ sugatappabhāvaṃ G; sugatappabhāvaṃ I

⁹⁸ keva kevalam H

⁹⁹ buddhaseṭṭhaṃ I

¹⁰⁰ ārabhissaṃ ahaṃ F

¹⁰¹ natvā om. I

¹⁰² kiṃbhūtaṃ DH; bhībhūtaṃ I

¹⁰³ sādhu I

¹⁰⁴ ariyasappurisabhūtaṃ BJ; ariyasappurisabhūtaṃ I

¹⁰⁵ catumaggaphalaṭṭhaṃ A; catumaggaphalaṭṭhaṃ D; catumattaphalaṭṭhaṃ H; cutumattaphalaṭṭhaṃ I

¹⁰⁶ eva HI

¹⁰⁷ ratanattayamaṇāmanubhāvena D; ratanattayamaṇāmanubhāvena H

¹⁰⁸ hantarāyo F

samāsā¹¹⁰ mālayyaṃ¹¹¹ nāma imaṃ vatthum¹¹² kiṃ¹¹³ bhūtaṃ paramanayavicittaṃ sakalajanappasādam¹¹⁴ sakalassa anuppannasaddhājanassa¹¹⁵ saddhājananaṃ¹¹⁶ uppannasaddhājanassa¹¹⁷ bhiiyo bhāvāya saddhājananaṃ¹¹⁸ ti atthayojanā¹¹⁹.

tattha *suranaramahiniyaṃ*¹²⁰ *sugatappabhavaṃ*¹²¹ *sādhun*¹²² ti padattayaṃ yathākkamaṃ¹²³ visesanaṃ¹²⁴. *buddhaṃsetṭhaṃ*¹²⁵ *dhammaṃ*¹²⁶ *saṃghaṃ* ti padattayaṃ kammanidassanaṃ¹²⁷. *namitvā natvā* ti madadvayaṃ¹²⁸ panaṃ¹²⁹ visesanakiriyaḍassanaṃ¹³⁰. pubbakālakiriya¹³¹ ti¹³² pi¹³³ vadanti. *namitvā natvā* ti namudhātu *tvāpaccayo*¹³⁴ hoti¹³⁵. pubbakālādicatusv¹³⁶ etthesu¹³⁷ pubbakālo idhāhippeto¹³⁸. na itarattayaṃ¹³⁹. kasmā ti ce¹⁴⁰. ayuttattā. yadi hi aparakāle¹⁴¹ pakaraṇato¹⁴² pacchā namassanaṃ¹⁴³ bhaveyya¹⁴⁴. yadi samānakāle¹⁴⁵ ekakkhaṇe¹⁴⁶ kiriyādvayaṃ¹⁴⁷ bhaveyya. yadi hetumhi vandanato¹⁴⁸ eva¹⁴⁹ pakaraṇaṃ¹⁵⁰ bhaveyya¹⁵¹ no karuṇāto. ayam ācariyo¹⁵² hi saṃsāre samuḷhabhāvā¹⁵³

¹⁰⁹ hutvā om. H

¹¹⁰ sammāsā I; (kā, b) samāsā K

¹¹¹ māleyyaṃ A; mālayyaṃ FGI; mālayya H

¹¹² vatthaṃ A

¹¹³ ki A

¹¹⁴ sakalajanapasādam EFGIK; sakalajapasādam H

¹¹⁵ anuppannasaddhājanassa om. F; anuppannassa saddhājanassa H

¹¹⁶ saddhājanassa saddhājanaṃ A; anuppannasaddhājananaṃ F; saddhājanaṃ K

¹¹⁷ uppannasaddhājana I; uppannasaddhājanassa K

¹¹⁸ saddhājananaṃ H

¹¹⁹ hatthayojanā H

¹²⁰ suranaramahiniyaṃ A; suranamahiniyaṃ D; suranaramarahiniyaṃ E

¹²¹ sugatappabhavaṃ A; sugatappabha(kā, b)vam E

¹²² sādhan A; sā(kī, a)dhun G; sadhun H

¹²³ yathākkammaṃ A; yathākkama HI

¹²⁴ vise(kī, a)saṇaṃ F; visesanaṃ H

¹²⁵ buddhaseṭṭha AH; [buddhaseṭṭhaṃ CDEGK]

¹²⁶ dhamma H

¹²⁷ kammaṃ nidassanaṃ H

¹²⁸ [padadvayaṃ ABCDEFGHIJK]

¹²⁹ [pana ABCDEFGHIJK]

¹³⁰ visesanakiriyaḍassanaṃ EFGHI; visesakriyaḍassanaṃ K

¹³¹ pubbakālakiriya EFGHIK

¹³² (kī, b) ti I

¹³³ ca H

¹³⁴ tvāpacca(kī, a)yō C; dvayato tvāpaccayā I

¹³⁵ honti I

¹³⁶ pubbakālādi(kī, a)catūs v A; pubbakālā(kī, a)dicatusv BJ; pubbakālādhīdicatusv F; pubbakālādicatusv GIK; (kā, b)

pubbakālādicatusv H

¹³⁷ [atthesu AEFHGHIK]; atthe(kī, a)su D

¹³⁸ idhā(kī, a)hippeto Z

¹³⁹ itarattayo H; itarattaye I

¹⁴⁰ ce. kasmā ti ce A

¹⁴¹ arakāle A

¹⁴² makaraṇato A; paṇāmakaraṇaṃ I

¹⁴³ dassanaṃ H

¹⁴⁴ bhaveyyaṃ ACK

¹⁴⁵ ssamānakāle H

¹⁴⁶ eka H

¹⁴⁷ kriyādvayaṃ EFGHIK

¹⁴⁸ vandinato D; vandhanato H

¹⁴⁹ evaṃ H

¹⁵⁰ makaraṇaṃ K

¹⁵¹ bhavaveyya D

¹⁵² ācariyāyo CD; ā(kī, a)cariyo K

¹⁵³ samuḷhabhāvo G; samuḷhebhavā I; [samuḷhabhāvā]

muñcitur¹⁵⁴ asakonte¹⁵⁵ sattanikāye disvā karuṇaṃ¹⁵⁶ uppādeti¹⁵⁷ kathaṃ panime sattā bhavasamsāravinimuttā¹⁵⁸ saggamokkhappattā¹⁵⁹ bhaveyyun¹⁶⁰ ti. tasmā karuṇāya coditattā¹⁶¹ idaṃ¹⁶² pakaraṇaṃ karoti na vandana¹⁶³. vandana¹⁶⁴ pana kiṃ¹⁶⁵ payojana¹⁶⁶ ti. vandanaṃ pana antarāyavighātanatthan¹⁶⁷ ti nanu avocumhā¹⁶⁸ ti.

tvāpaccayo pana ti¹⁶⁹ sādhanavācako¹⁷⁰ tisu¹⁷¹ sādhanesu kattusādhanam idhāhippetam¹⁷² no itaradvayaṃ¹⁷³. kasmā¹⁷⁴ ti ce. atthāyuttito.¹⁷⁵ yadi hi kammāsādhanavācako¹⁷⁶ ca bhaveyya buddhaseṭṭhan¹⁷⁷ ty ādi padehi sambandho na yujjati. kasmā ti ce¹⁷⁸. buddhaseṭṭhan¹⁷⁹ ty ādi padānaṃ avuttakammattā. kathaṃ viñāyati¹⁸⁰ ti ce. dutiyā¹⁸¹ vibhattiyā dassanato. dutiyā¹⁸² pi¹⁸³ avutte va hoti¹⁸⁴ ti¹⁸⁵. kathaṃ viñāyati¹⁸⁶ ti ce¹⁸⁷. kammani¹⁸⁸ dutiyāyaṃkko¹⁸⁹ ti vacanato¹⁹⁰, vutte¹⁹¹ tu pathamā¹⁹² hoti avutte dutiyādayo¹⁹³ ti¹⁹⁴ vacanato ca¹⁹⁵, yadi bhāvasādhanam¹⁹⁶ bhaveyya tathā¹⁹⁷ kammaṃ na sambundiyam¹⁹⁸ siyā. yadi kammaṃ iccheyya tathā¹⁹⁹ chaṭṭhikamma²⁰⁰ eva siyā tasmā

¹⁵⁴ muñcim I
¹⁵⁵ asakonte F
¹⁵⁶ kārūṇaṃ EK; karuṇā H
¹⁵⁷ uppajanati H; uppajjati I
¹⁵⁸ bhavasamsāravinimuttā EHIK
¹⁵⁹ sakaggamokkhappattā D; saggā(kī, b)mokkhappattā FG
¹⁶⁰ bhaveyyan FI; bhaveyyumṇ H
¹⁶¹ codittattā K
¹⁶² imaṃ I
¹⁶³ vandhana¹⁶³ H
¹⁶⁴ [vandanaṃ ABCDEFGHIJK]
¹⁶⁵ ki BCJ
¹⁶⁶ payo(ki, a)janaṃ E; mayojanaṃ F
¹⁶⁷ antarāyavighātanatthan F; [antarāyavighātanatthan]
¹⁶⁸ vocumhā HI
¹⁶⁹ taya I
¹⁷⁰ sādhanavācako I
¹⁷¹ [tisu ABDEFGHIJK]
¹⁷² idhāhippetam E; idhācippetaṃ H
¹⁷³ i(kī, b)taraddhayaṃ C; ibharaddhayaṃ D; itaraddhayaṃ K
¹⁷⁴ (kī, b) kasmā BJ
¹⁷⁵ (kī, b) atthāyuttito. A; atthāyuttito(kī, b). D; atthāyuttito ~ ce om. I
¹⁷⁶ [kammāsādhanavācako ABCEFGHIJK]; kammāsādhanavāca(kī, b)cako Z
¹⁷⁷ buddhaseṭṭhan H
¹⁷⁸ atthāyuttito ~ ce om. I
¹⁷⁹ (kī, a) . buddhaseṭṭhan H
¹⁸⁰ viñāti A; viñāyati H
¹⁸¹ dūtiyā J
¹⁸² dūtiyā J
¹⁸³ ti I
¹⁸⁴ hoti I
¹⁸⁵ ti om. I
¹⁸⁶ (kī, a) viñāyati I
¹⁸⁷ . kathaṃ viñāyati ti ce A
¹⁸⁸ kammani ACDI
¹⁸⁹ dutiyāyato A; [dutyāyatto BIJ]; dutyāyako CDEFG; dutyāyaṃkato H; dutyāyaṃtto K
¹⁹⁰ vacanato D
¹⁹¹ vatte DH; vutto I
¹⁹² [pathamā K]
¹⁹³ dūtiyā A; (kī, b) dūtiyāduyo K
¹⁹⁴ ti om. A
¹⁹⁵ ca om. H
¹⁹⁶ bhāvasādha(ku, a)naṃ F; bhāva(ku, a)sādhanam G
¹⁹⁷ [tadā ABCDEFGHIK]
¹⁹⁸ sambandayaṃ A; [sambandhiyam BCEFGHIJK]; sambandhayaṃ D; saccaniyam I

kattusādhanan²⁰¹ ti daṭṭhabbam.

atha vā **ārabhissan**²⁰² ti kattuvācakena kiriyaṭpadena²⁰³ samānādhikaraṇabhāvato²⁰⁴ tasseva visesanabhāvato²⁰⁵ ca kattuvācako²⁰⁶ ti daṭṭhabbo. nanu ca sāmāṇam²⁰⁷ visesaṃ²⁰⁸ bhedakaṃ²⁰⁹ visesanān ti vacanato **ārabhissan**²¹⁰ ti padaṃ²¹¹ visesaṃ²¹² bhavitabbaṃ²¹³, **namitvā**²¹⁴ ti²¹⁵ kiriyaṭpadassa²¹⁶ sādhanattayavācakattā²¹⁷ tvādipaccayassa²¹⁸ ca²¹⁹ pubbakālādisu²²⁰ pavattattā sāmāṇam²²¹ jātaṃ²²² **ārabhissāmī**²²³ ti padassa pana²²⁴ kattatthaṃ²²⁵ yeva vācakattā ekantāparakālikattā²²⁶ ca²²⁷ bhedakaṃ jātan ti. saccam etaṃ²²⁸. tathā pi na²²⁹ evam idha²³⁰ daṭṭhabbam²³¹. idha pana **ārabhissan**²³² ti visesaṃ²³³. **ārabhissan**²³⁴ ti vuttaṃ²³⁵ hi bhutvā vā sayitvā²³⁶ vā gantvā vā yaṃ kiñci pubbakammaṃ²³⁷ katvā **ārabhissan** ti aniyamitaṃ²³⁸ hoti²³⁹, **namitvā** ti vuttehi²⁴⁰ sesaṃ sabbaṃ pubbakiriyaṃ²⁴¹ nivattatī²⁴² ti. vuttaṃ²⁴³ hetam²⁴⁴ saddhuvidūhi²⁴⁵.

¹⁹⁹ [tadā ABCDEFGHIK]

²⁰⁰ chaṭṭhikammam BDEFGIJK

²⁰¹ katasādhanan A; kattasādhanan BJ; katusādhanan I; kuttusādhanan K

²⁰² ārabhissan I

²⁰³ kriyaṭpadena EFGHIK

²⁰⁴ sa(ki, b)mānādhikaraṇabhāvato E; sāmānādhikaraṇabhāvato F; sāmānādhikaraṇabhāvato G; samānādhikaraṇaḥṇabhāvato H;

samādhinādhikaraṇabhāvato I

²⁰⁵ visesakāvato I

²⁰⁶ kattavācako E; kattuvāko H

²⁰⁷ sāmāṇa I; [sāmāṇam]

²⁰⁸ visesaṃ ACDEFGK; visessa H; visesa I

²⁰⁹ bhe(ku, a)dakaṃ BJ; (ku, a) bhedakaṃ C

²¹⁰ ārabhissa(ku, a)n D; ārabhissan I

²¹¹ (ku, a) padaṃ A; pada H

²¹² visesanān ti HI

²¹³ bhavatabbaṃ F; bhavitabbaṃ om. HI

²¹⁴ nimitvā E

²¹⁵ ty ādi hi HI

²¹⁶ kriyaṭpadassa EFGK; kriyaṭpadadvayaṃ H; kriyaṭpadaddhayaṃ I

²¹⁷ sādhanattayavācakattā I; sā(ku, a)dhanattayavācakattā Z

²¹⁸ tvādipaccayassa om. HI

²¹⁹ vā EK; ca om. HI

²²⁰ [pubbakālādisu BCDEFGJK]; pubbakālādicatunnañcaṭṭhānānam vācakattā H; pubbakālādicatunnañcadhānānam vācakattā I

²²¹ sāmāṇa EHIK; [sāmāṇam]

²²² jāta I

²²³ ārabhissābami H; ārabhissāmī I

²²⁴ pana om. HI

²²⁵ tthaṃkattavatthaṃ A; kattavatthaṃ CD; katvatthaṃ EFGHIK

²²⁶ ekantāmarakālikattā A; ekattāpadattākālikaṃ I

²²⁷ pa G

²²⁸ eta BFJ

²²⁹ daṃ H

²³⁰ idadhana C; idaṃ I

²³¹ daṭṭha(ki, b)bbam H

²³² ārabhissān D; ārabhissan I

²³³ visessa DH; [padaṃ visesaṃ I]

²³⁴ ārabhissan I

²³⁵ vuttaṃ om. EHIK; vutte FG

²³⁶ (ku, b) sayitvā F; sa(ku, b)yitvā G

²³⁷ kammaṃ I

²³⁸ aniyamissaṃtaṃ A; anayamitaṃ D; aniyāmitaṃ I

²³⁹ hotī ti E; hoti ti H; (kī, a) hotī ti K

²⁴⁰ vattehi A; vutte pi H; vatte pana I

²⁴¹ kiriyaṃ A; pubbakriyaṃ EFGHK; (kī, b) pubbakriyaṃ I

²⁴² nivattī FG

²⁴³ vutta H

²⁴⁴ hetuṃ H

tvāntejābhidiyamānā²⁴⁶ kiriya²⁴⁷ kāmaṃ pi yathā vā

bhūtā²⁴⁸ tathā²⁴⁹ vā²⁵⁰ bhūtā²⁵¹ pi apadhānā²⁵² bhavanti²⁵³ tā²⁵⁴ ti.

vacanattho panettha²⁵⁵ kātabbo. tattha suranti jotenti²⁵⁶ *suva*²⁵⁷ upapattidevā²⁵⁸. naranti nayanatthena hetubhāvena²⁵⁹ naranti²⁶⁰ nibbantanti²⁶¹ ti *narā* manussā²⁶². surā²⁶³ ca²⁶⁴ asurā ca²⁶⁵ narā²⁶⁶ cā ti surāsanarā²⁶⁷. tehi²⁶⁸ pahitabbo²⁶⁹ pūjitabbo²⁷⁰ ti suranaramahiṇiyo²⁷¹. taṃ *suranamahiṇiyaṃ*²⁷². surāsuranaramahiṇiyan²⁷³ ti vattabbe tathā²⁷⁴ pi majjhe lopavasena²⁷⁵ *suranamahiṇiyan* ti vuttaṃ²⁷⁶. asurasaddassa²⁷⁷ lopo ty attho. suranaramahiṇiyan²⁷⁸ ti pi pātho²⁷⁹. ayamṃ²⁸⁰ evattho²⁸¹. ettha hi suraggahaṇena²⁸² indadevabrahmānaṃ²⁸³ asuraggahaṇena dibbāsurāmetāsuraṇaṃ²⁸⁴ naraggahaṇena²⁸⁵ manussatiracchānānaṃ ca gahaṇaṃ veditabbaṃ. *suranamahiṇiyan*²⁸⁶ ti devamanussehi²⁸⁷ pūjaneyyaṃ²⁸⁸.

cattāri²⁸⁹ saccāni sabbadhamme vā bujjhati abujjhi²⁹⁰ bujjhissati²⁹¹ ti²⁹² *buddho*²⁹³. bodhetā²⁹⁴

²⁴⁵ saddhavidūhi ACD; [saddavidūhi BEGI]; saddaviduhi F; saddhaviduhi H; sadduvidūhi J; saddavidūhi K

²⁴⁶ tvāntenābhidiyamānā ACDEFGHK; tvāntena tidhiyamānā I

²⁴⁷ kriyā EFGHIK

²⁴⁸ bhūtā H; bhūtā om. I

²⁴⁹ ta I

²⁵⁰ vā om. H

²⁵¹ bhūtā om. H; bhūtā tathā I

²⁵² appa(kī, a)dhānā E; appadhānā HIK

²⁵³ hotī HI

²⁵⁴ tā om. HI

²⁵⁵ panattha A

²⁵⁶ jotantī ti AFGL; [jotentī ti EK]; jotenti ti H

²⁵⁷ [surā ABCDEFGHIJK]

²⁵⁸ uppattidevā EK; uppatidevā H; cappattidevā I

²⁵⁹ hetubhāve I

²⁶⁰ rantī EIK

²⁶¹ nibbantī A; nibbantantī CDEFGHIK

²⁶² (ku, b) manussā C

²⁶³ su(ku, b)vā D

²⁶⁴ (ku, b) ca BJ

²⁶⁵ ca om. EK

²⁶⁶ na(ku, b)rā A; navā DJ

²⁶⁷ [surāsuranarā ABCDEFGHIJK]; surāsanarā om. I

²⁶⁸ (ku, b) tehi Z

²⁶⁹ [mahitabbo ADEFGHIK]; tabbomahitabbo D

²⁷⁰ pūjitabbo ACD

²⁷¹ suranaramahiṇiyā EK; suranaramahiṇiyo F

²⁷² [suranamahiṇiyaṃ BCEFGHIJK]

²⁷³ surāsuranaramahiṇirayan D; surāsuranarahiṇiyan F

²⁷⁴ asuraggahaṇenamanussatiracchānā yathā tathā I

²⁷⁵ lopavase F

²⁷⁶ vattaṃ H

²⁷⁷ asurasaddhassa ACDHJ

²⁷⁸ [surāsuranaramahiṇiyan FG]

²⁷⁹ pātho K

²⁸⁰ [ayam ABCDEFGHIJK]

²⁸¹ eva(kū, a)tttho FG

²⁸² surattahaṇena A; suraggahaṇen I; suraggahaṇena K

²⁸³ indabrahmunāṃ I

²⁸⁴ dibbāsarāpetāsuraṇaṃ A; [dibbāsurāpetāsuraṇaṃ BDEFGHIJK]; dibbāsurāpetāsuraṇaṃ C; dibbāsurāmetāsuraṇaṃ om. I

²⁸⁵ na(kī, a)raggahaṇena H; naraggahaṇena om. I

²⁸⁶ sura(kī, b)naramahiṇiyan K

²⁸⁷ devamanusse I

²⁸⁸ pūjaneyyaṃ F; pūjeneyyaṃ H

²⁸⁹ cattāri F

pajāyā ti vā²⁹⁵ **buddho**. ayañ²⁹⁶ ca²⁹⁷ pasaṭṭho²⁹⁸ ayañ²⁹⁹ ca pasaṭṭho³⁰⁰ ayam imesaṃ visesena
pasaṭṭhataro³⁰¹ ti **seṭṭho**. buddho ca so seṭṭho cā ti buddhaseṭṭho. taṃ³⁰² **buddhaseṭṭhaṃ**³⁰³.
seṭṭhasaddayogena³⁰⁴ hi³⁰⁵ paccekabuddhasāvaka³⁰⁶ nivattanti. sammāsambuddhan ti vuttavacanāṃ viya.
namassitunā³⁰⁷ ti **namitvā**. kāyavacīmanosaṃkhātehi³⁰⁸ parisuddhehi³⁰⁹ dvārattayehi³¹⁰
namitvā³¹¹ ti attho.

sundaraṃ nibbānaṃ gacchati³¹² ti **sugato**. sundaraṃ³¹³ sabbañuttaṃ³¹⁴ gato³¹⁵ patto³¹⁶ ti keci³¹⁷
vadanti. ayam³¹⁸ ettha saṅkhepo³¹⁹ vitthāro³²⁰ pana visuddhimette³²¹ buddhānussatisaṃvaṇṇanāyaṃ³²²
samantapāsādikavinayasamvaṇṇanāyaṃ³²³ ca oloketabbo tadatthikehi. sugatamhā pabhavati³²⁴ ti
sugatappabhavo³²⁵. sugato³²⁶ pabhavo³²⁷ assā³²⁸ ti **sugatappabhavo** ti pi³²⁹ viggaho³³⁰.

ubhayenāpi **dhammo**³³¹ yeva.³³² pāpake akusale dhamme dhunāti³³³ ti **dhammo**. satte nibbānaṃ

290 abujjha H
291 ssaṭī A; bujjhissati I
292 ti om. I
293 buddho om. I
294 (kī, b) bodhetā E
295 vā om. HI
296 ayaṃ H
297 ca om. H
298 paseṭṭho BCDHJ; (ku, a) paseṭṭho I
299 ayañ ~ pasaṭṭho om. I
300 paseṭṭho BCDHJ; ayañ ~ pasaṭṭho om. I
301 paseṭṭhataro I
302 (kū, a) taṃ C
303 (kū, a) buddhaseṭṭhaṃ BJ
304 (kū, a) seṭṭhasaddhayogena A; seṭṭhasaddhayogena CH; seṭṭhasaddassappayogena I; (kū, a) seṭṭhasaddayogena Z
305 dvayotena hi H
306 [paccekabuddhasāvake ABCFGJ]; (kū, a) paccekabuddhasāvake D; paccekabuddhasāvakā EHIK
307 namassitunā ACDEFGHK; [namassitvā]
308 kāyavacīmanosaṃkhātehi CEFCHI
309 parisuddhehi parisuddhehi H
310 ddhārattayehi CDEHK; dvārattaye F
311 nami H
312 gacchati H
313 sundharaṃ B
314 sabbañūtaṃ AEHIK; sabbañūtaṃ DFG; [sabbañūtaṃ]
315 tato ABCDEFGHIK
316 patto om. H; putto I
317 [sugato ti keci ABCDEFGHIJK]
318 ayaṃ H
319 saṅgepo F; saṅkhepo IK
320 vitthāro EHK
321 [visuddhimagge ABCDEFGHIJK]
322 bunussatisaṃvaṇṇanāyaṃ BJ; buddhānussatisaṃva(kū, b)ṇṇanāyaṃ F; buddhānussatisaṃvaṇṇanā(kū, b)yaṃ G;
buddhānussatisaṃvaṇṇanāya I; buddhānussatīvaṇṇanāyaṃ K
323 samantapāsādikavinayasamvaṇṇanāya H; samantapāsādikāvinayasamvaṇṇanāya I; samantapāsādikavinayaṇṇanāyaṃ K
324 pabhavati H; cabhavati I
325 sugappabhavo H
326 sukhatō A; sugatato E; (ku, a) sugatato K
327 cabhavo I
328 asso D
329 pi om. EK
330 viggaho ti I
331 (ku, a) dhammo E; dhamme H; dame I
332 yeva(kī, b). H
333 dhunāti H

vā dhāretī ti³³⁴ **dhmmo.** paṇḍitehi³³⁵ dhāriyatī³³⁶ ti **dhmmo.** lokuttaro ca pariyatti ca. taṃ **dhmmaṃ.**

sattānaṃ³³⁷ hi te³³⁸ sādheṭī ti **sādhusaṃgho**³³⁹. **sādhun** ti bhāvanapuṃsakan³⁴⁰ ti keci vadanti. evaṃ sante pi **saṃghan** ti padassa visesaṇaṃ kasmā na vuttan³⁴¹ ti pucchitabbaṃ. assa tasmā taṃ³⁴² **saṃghasaddena**³⁴³ tulyādhikaraṇaṃ³⁴⁴ yuttan³⁴⁵ ti daṭṭhabbaṃ. diṭṭhisīlasāmaṇahi³⁴⁶ sahati³⁴⁷ samattaṃ³⁴⁸ vā³⁴⁹ kammaṃ samuppagacchatī³⁵⁰ ti **saṃgho**, paramatthasaṃgho³⁵¹ ca sammutisaṃgho³⁵² ca³⁵³. taṃ **saṃghaṃ.**

namitūnā³⁵⁴ ti **namitvā.**

kalitabbo³⁵⁵ saṃkhyātabbo³⁵⁶ ti kalo³⁵⁷. kalena³⁵⁸ saha vattatī³⁵⁹ ti sakalo. sakalo ca so jano cā ti sakajano³⁶⁰. tassa sakalajanassa.

paramā³⁶¹ ca te nayā cā ti **paramanayā**³⁶². paramanayehi vicittaṃ³⁶³ **paramanayavicittaṃ**³⁶⁴. nandiyāvattatiputtalasihavikīlitaṅkusadisālocananayādisaṃkhātehi³⁶⁵ jinavacanānurūpehi³⁶⁶ paramanayehi vicittaṃ³⁶⁷ sobhitaṃ³⁶⁸ ti vuttaṃ hoti.

³³⁴ tī A

³³⁵ paṇḍitehi BJ; paṇdatehi H

³³⁶ dhārayatī EK; dhāreyati H

³³⁷ sattā(kū, b)naṃ C

³³⁸ (kū, b) te BJ

³³⁹ sādhusaṃ(kū, b)gho AD; sādhu(kū, b)saṃgho Z

³⁴⁰ bhāvanapuṃsakan F; bhāvanapusakan H; bhāvanapuṃsa(ku, b)kan I

³⁴¹ vuttaṃ EK; vutta H

³⁴² taṃ om. I

³⁴³ saṃghasaddhena AF

³⁴⁴ talyādhikaraṇaṃ F

³⁴⁵ yattan C

³⁴⁶ daṭṭhisīlasāmaṇehi A; diṭṭhisīlasāmaṇehi BEGJ; diṭṭhisīlasāmaṇehi CFIK; diṭṭhisīlasāmaṇehi D; daṭṭhasīlasāmaṇehi H; [diṭṭhisīlasāmaṇehi]

³⁴⁷ sahati EK; samāti G; sahati H; sahattaṇena I

³⁴⁸ [samaggaṃ ABCEFGHJK]; sammaggaṃ D; samagga I

³⁴⁹ vā om. I

³⁵⁰ [samupagacchatī EFGK]; sammupagacchatī I

³⁵¹ paramatthasaṃgho H

³⁵² sammutisaṃgho A; sammatisaṃgho BEFGHIJK; samuttisaṃgho C

³⁵³ ca om. K

³⁵⁴ namitūnā EFHIK

³⁵⁵ katalitabbo A; (ke, a) kalitabbo G; taṇitabbo H

³⁵⁶ saṃkhyā(ke, a)tabbo F; sakhyātabbo H

³⁵⁷ talo H

³⁵⁸ sakalena HI

³⁵⁹ gacchatī H

³⁶⁰ [sakalajano ABCDEFGHIJK]

³⁶¹ pamo I

³⁶² paramanayo E; (ku, b) paramanayā K

³⁶³ viettaṃ H

³⁶⁴ (ku, b) paramanayavicittaṃ E; paramanayaviṭṭhita H

³⁶⁵ nandiyāvattatipukkhalasihavikīlitaṅkusadisālocananayādisaṃkhātehi A;

nandiyāvattatipukkhalasihavikīlitaṅkusadisālocananayādisaṃkhātehi BCFGJ;

nandiyāvattatipukkhalasihavikīlitaṅkusadisālocananayādisaṃkhātehi D;

nandiyāvattatipukkhalasihavikīlitaṅkusadisālocananayādisaṃkhātehi E;

nandiyāvattatipukkhalasihavikīlitaṅkusadisālocananayādisaṃkhātehi H; nandiyāvattanaṃ

kusasihavikīlitaṅkusadisālocananayādisaṃkhātehi I; nandiyāvattatipukkhalasihavikīlitaṅkusadisālocananayādisaṃkhātehi K;

[nandiyāvattatipukkhalasihavikīlitaṅkusadisālocananayādisaṃkhātehi]

³⁶⁶ jinavacanānurūpehi AD; jinavacanānurūpehi FHI

³⁶⁷ viṭṭhitaṃ H

³⁶⁸ sobhitaṃ K

*ārabhissan*³⁶⁹ ti *ārabhissāmi*³⁷⁰ *kathessāmi*³⁷¹ ti *vā* attho. *kathemi*³⁷² ti *vā*³⁷³ *pātho*.³⁷⁴ *te* *hi* *vattamānasamippattā*³⁷⁵ *vattamānavohāre* *voharanti*³⁷⁶ *ti*. *ettha* *ca* *suranaramahīṇiyam*. *pa*³⁷⁷. *natvā* *ti* *etena* *ratanattayapaṇāmaṃ*³⁷⁸ *dasseti*. *ārabhissan*³⁷⁹ *ti* *padena* *kattāraṃ*³⁸⁰ *dasseti*. *mālayyaṃ*³⁸¹ *nāma* *vatthun* *ti* *padena* *sañam*³⁸² *dasseti*. *ettha*³⁸³ *ca* *nāmasaddo*³⁸⁴ *sañājotakanipātoyaṃ*³⁸⁵. *nimittaṃ* *pana* *duvidhaṃ*³⁸⁶ *hoti* *abbhantaraṃ* *bāhiraṃ*³⁸⁷ *vā*³⁸⁸. *tattha* *ca* *abbhantarabhūtā* *ācariyassa* *kuruṇā*³⁸⁹ *abbhantaranimittaṃ*³⁹⁰ *nāma*. *taṃ* *ārabhissan*³⁹¹ *ti* *padena* *sāmatthiyato*³⁹² *dassitaṃ*³⁹³ *ca*³⁹⁴. *ācariyasappa* *karuṇāya*³⁹⁵ *ārammaṇabhūto*³⁹⁶ *sakalajanasamuho*³⁹⁷ *bāhiraṇimittaṃ*³⁹⁸ *nāma*. *taṃ*³⁹⁹ *ca* *sakalajanappasādan* *ti* *padena* *dassitaṃ*.⁴⁰⁰ *sakalajanappasādan* *ti* *eteneva* *payojanam*⁴⁰¹ *pi* *dasseti*⁴⁰². *ettha* *ca* *ratanattayappaṇāmapayojanam*⁴⁰³ *vuttaṃ* *yeva*.

*kattāradassanaṃ*⁴⁰⁴ *pana*⁴⁰⁵ *sabyāpārattadassanattham*⁴⁰⁶ *sañādassanaṃ*⁴⁰⁷ *vohārasukhattham*⁴⁰⁸ *aviñātasañassa*⁴⁰⁹ *taṅṭhassa*⁴¹⁰ *vohārasijjhanato*⁴¹¹. *nimittaṃ* *dassanaṃ*⁴¹² *sappurisabhāvadassanattham*⁴¹³.

³⁶⁹ ārabhissan I

³⁷⁰ ārabhi(ke, a)ssāmi BJ; ārabhissāmī DK; ārabhissāmi I

³⁷¹ kathe(ke, a)ssāmī AC; kathe(ku, a)ssāmi H; kathessāmī om. K; kathessā(ke, a)mī Z

³⁷² kathessāmi H

³⁷³ *vā* om. I

³⁷⁴ pātho(ke, a). D; mātho. F; apare I; pātho K

³⁷⁵ vattamānasamippattā I; [vattamānasamippattā]

³⁷⁶ voharanti ABCDEFGH

³⁷⁷ lapa F

³⁷⁸ rattanattayapaṇāmaṃ A; ratanattayapaṇāmaṃ H

³⁷⁹ ārabhissan I

³⁸⁰ ka(kū, a)ttāraṃ I; kattāraṃ K

³⁸¹ mālayyaṃ FG; mālayyaṃ I

³⁸² [sañāmaṃ]

³⁸³ eta K

³⁸⁴ nāmasaddho ADH; (ke, b) nāmasaddo FG

³⁸⁵ sañājotakanipātoyaṃ D; sañājotakanihatoyaṃ I

³⁸⁶ dhuvidhaṃ HI

³⁸⁷ bāhiraṇī I

³⁸⁸ cā ti I

³⁸⁹ [karuṇā ABEGHIJK]

³⁹⁰ abbhantaranimitta A

³⁹¹ ārabhissan I

³⁹² sāmatiyato D; sāmattiyato I

³⁹³ dissataṃ H; dassitaṇī I

³⁹⁴ *ca* om. A

³⁹⁵ karuṇāva A

³⁹⁶ ārammaṇabhūto H

³⁹⁷ sattajanasamuho I; [sakalajanasamuho]

³⁹⁸ bāhiraṇimittaṃ D; (kū, a) bāhiraṇimittaṃ K

³⁹⁹ taṇī I

⁴⁰⁰ dassitaṃ(kū, a). E

⁴⁰¹ cayojanam H

⁴⁰² dasse H

⁴⁰³ rattanattappaṇāmapayojanam A; ratanattappaṇāmapayojanam D; ratanattayappaṇāmapayojanam E;

ratanattayappaṇāmapayojanam H; ratanattayappaṇāmapayojanam I

⁴⁰⁴ kattāradassanaṃ K

⁴⁰⁵ panaṃ H

⁴⁰⁶ sabyā(ke, b)pārattadassanattham A; sabyāpā(ke, b)rattadassanattham C; sabyāpārattadassanattham H; sabyāpāratta(ke, b)dassanattham Z

⁴⁰⁷ (ke, b) sañādassanaṃ BJ

⁴⁰⁸ vo(ke, b)hārasukhattham D

⁴⁰⁹ aviñātasāssa A; sañādassanaṃvohā aviñātasāssa K

⁴¹⁰ gaṅṭhassa ABCDEFGHIJ; gaṅṭhassa K; [ganthassa]

⁴¹¹ vohārasijjhanato BCFGJ

parimānadassanaṃ viñūnaṃ ⁴¹⁴ cittārācanaṃ ⁴¹⁵ gaṇṭhābhirukānuggahaṇatthaṃ ⁴¹⁶ ca.
payojanadassanaṃ ⁴¹⁷ paṇḍitassāyaṃ dhammo nāyaṃ dhammo duppañassāti vacanato
saggamokkhatthikānaṃ paṇḍitajanānaṃ ⁴¹⁸ savanuggahāṇāpanatthaṃ ⁴¹⁹ . taṃ ⁴²⁰
puñalakkhaṇāṇāpanatthaṃ ⁴²¹ taṃ ⁴²² ca yathādhīpetatthasijjhanatthaṃ ⁴²³ ti.

atīte kira ratanapatitṭhānabhūte Laṅkādīpasānkhāte **Tāmbapaṇṇidīpe**
paramiddhiñāṇena pākaṭo **Māleyyadevatthero** nāma *eko* thero **Kambojagāmaṃ nissāya**
Rohanajanapade **vihāsi**.

evaṃ ratanattayappaṇāmaṃ ⁴²⁴ dassetvā ⁴²⁵ idāni mālayyaṃ ⁴²⁶ nāma ⁴²⁷ vatthuṃ ārabhissanti ⁴²⁸
paṭiñātagaṇṭhaṃ ⁴²⁹ ārabhanto ⁴³⁰ āha **atīte** ⁴³¹ ty ādi. tattha ⁴³² atikkama ⁴³³ ito gato ⁴³⁴ pavatto ⁴³⁵ ty
ātito ⁴³⁶ kālo ⁴³⁷. tasmim atīte ⁴³⁸ kāle. atītasaddhuyotena ⁴³⁹ hi kālasaddho ⁴⁴⁰ payotaṃ ⁴⁴¹ ārabhi ⁴⁴² ti.

kirā ti nipāto. so ca **vihāsi** ⁴⁴³ ti kiriyāpadena ⁴⁴⁴ sampayogaṃ pi ⁴⁴⁵ hoti ⁴⁴⁶.

⁴¹² [nimittadassanaṃ ABCDEFGHIJK]

⁴¹³ sampurissabhāvadassanaṃ H; sappurissabhāvassanaṃ I

⁴¹⁴ viñūnaṃ BCDEFGIK

⁴¹⁵ cittārādanaṃ ACEFGHK; cittārādanaṃ D; vittārādanaṃ I

⁴¹⁶ gaṇṭhābhirukānuggahaṇatthaṃ A; gaṇṭhābhirukānuggahaṇatthaṃ EK; gaṇṭhābhirukānuggahaṇatthaṃ F; (ku, b)
gaṇṭhābhirukānuggahaṇatthaṃ H; gaṇṭhābhirukānuggahaṇatthaṃ I; [gaṇṭhābhirukānuggahaṇatthaṃ]

⁴¹⁷ payo(kai, a)janadassanaṃ FG

⁴¹⁸ paṇḍattajanānaṃ A; piṇḍattajanānaṃ E

⁴¹⁹ savanuggahaṇāpanatthaṃ A; [savanuggahaṇāpanatthaṃ CDEFGHIJK]

⁴²⁰ (kū, b) taṃ I

⁴²¹ puñalakkhaṇāṇāpanatthaṃ ABDEFGHI; puñalakkhaṇaṃ ṇāpanatthaṃ I; puñānaṃ lakkhaṇāṇāpanatthaṃ K;

[puñānaṃ lakkhaṇāṇāpanatthaṃ]

⁴²² taṃ I

⁴²³ yathādhīpetatthasijjhanatthaṃ I; yathādhīpetatthasijjhanatthaṃ K

⁴²⁴ tenattayappaṇāmaṃ C; ratanattayappaṇāmaṃ K

⁴²⁵ datvā A

⁴²⁶ mālayyaṃ FG; mālayyaṃ I

⁴²⁷ nāmaṃ BJ

⁴²⁸ ārabhissanti I

⁴²⁹ paṭiñātagaṇṭhaṃ I; [paṭiñātagaṇṭhaṃ]

⁴³⁰ ārabhanto FG

⁴³¹ [atīte BFGJK]

⁴³² tatta I

⁴³³ [atikkamma ACEFGHI]; abikkamma D; (kū, b) atikkamma K

⁴³⁴ tato I

⁴³⁵ pavato AD

⁴³⁶ ātito FG; [ātito]

⁴³⁷ kāso G

⁴³⁸ atīte CDH

⁴³⁹ atītasaddhuyotena A; [atītasaddhuyotena BFIJ]; atītasaddhuyotena C; atītasaddhuyotena DEK; atītasaddhuyotena G; atītasaddhuyotena

H

⁴⁴⁰ kālasaddho D; [kālasaddho EFGI]

⁴⁴¹ [payogaṃ ABCDEFGHIJK]; payogaṃ H

⁴⁴² [āharatī ABCDEFGHIJK]; āhara(kū, b)ṭī E; haratī H

⁴⁴³ vihāsi CH

⁴⁴⁴ kriyāpadena EGHK; kriyāpadeyāpadena F

⁴⁴⁵ para H; pa I

⁴⁴⁶ (kai, a) hoti A; hati H; rahati K

sammatidevo⁴⁹⁸ upapattidevo⁴⁹⁹ visuddhidevo⁵⁰⁰. tesu visuddhidevo idhādhippeto⁵⁰¹. sīlakkhandhādīhi⁵⁰²
thirati⁵⁰³ tesu vā tiṭṭhatī ti thero. atha vā. thiraṃ⁵⁰⁴ vuccati paṇā. sā assa atthī ti thero ti⁵⁰⁵ saddavutti⁵⁰⁶
vaṇṇanāyaṃ vuttaṃ. mālayyo⁵⁰⁷ ca so devo cā⁵⁰⁸ ti⁵⁰⁹ mālayyadevo⁵¹⁰ so⁵¹¹ eva thero ti tathā. eko aggo
setṭho. aggaphalappatto⁵¹² mahākhiṇāsavo⁵¹³ ty attho. **ekasaddo**⁵¹⁴ hattha⁵¹⁵ setṭhapariyāyo. savāsane
kilese so⁵¹⁶ eko sabbe nighāṭiyātiādīsu⁵¹⁷ viya.

tena vuttaṃ.

so hi⁵¹⁸ thero mahāpaṇo⁵¹⁹ mahāñāṇo⁵²⁰ mahāyaso mahākhiṇāsavā⁵²¹ setṭho santuttṭho
santamānaso pākato⁵²² ṇāṇa-iddhīhi⁵²³ tagaṇe⁵²⁴ viya⁵²⁵ candimā⁵²⁶ ti.

yaṃ⁵²⁷ pana kehici⁵²⁸ vuttaṃ

paramiddhiñāṇena⁵²⁹ pākato⁵³⁰ ti⁵³¹ vutte tassa aggaphalappattatā⁵³² sījhatī ti⁵³³.

eko⁵³⁴ ti adutiyo⁵³⁵. attho⁵³⁶ yujjati⁵³⁷ ti. taṃ na gahetabbaṃ visesābhāvato.

kambojagāmaṃ nissāyā ti kambojagāmaṃ⁵³⁸ gocaragāmaṃ⁵³⁹ katvā.

⁴⁹⁷ (kai, b) so BCJ

⁴⁹⁸ (kai, b) sammatidevo D; (ko, a) sammatidevo F; (ko, a) sammutidevo G; sammutidevo J

⁴⁹⁹ upapattidedavo F; upatidevā H; upapattidevo I; upa(kai, b)pattidevo Z

⁵⁰⁰ visuddhidevo FH

⁵⁰¹ imādhippeto G; idhādhippeto H; idhādhipeto K

⁵⁰² sīlakkhandhādīhi A; sīlakkhandhādīhi CEHI; sīlakkhandhādīhi D

⁵⁰³ thirati E

⁵⁰⁴ thiraṃ BJ; thira HI

⁵⁰⁵ ti om. H

⁵⁰⁶ saddhavutti AD; sandhavutti C

⁵⁰⁷ mālayyā A; māleyyo D; mālayo EFGH

⁵⁰⁸ ca H; ca~so om. I

⁵⁰⁹ ti om. H

⁵¹⁰ māleyyadevo DEK; mālayadevo FG; mālayyadevo om. H

⁵¹¹ ca~so om. I

⁵¹² aggaphalappatto A; maggaphalappatto I

⁵¹³ [mahākhiṇāsavo DEFGI]

⁵¹⁴ ekasaddho ACD

⁵¹⁵ hatthe A; hettha CDEGHIJK

⁵¹⁶ lo D

⁵¹⁷ nighāṭiyātiādīsu D

⁵¹⁸ hi om. I

⁵¹⁹ mahāpaṇo I

⁵²⁰ mahāñāṇo A; (kū, b) mahāñāṇo H; mañāmaṇi I

⁵²¹ mahākhiṇāsavo ACH; [mahākhiṇāsavo BDEFGIJ]; mahākhiṇā(ke, b)savo K

⁵²² pākato H

⁵²³ ṇāṇa-iddhīhi A

⁵²⁴ [gagaṇe BCDEFGJ]; gagaṇehi HK; gaggane I

⁵²⁵ vicaya BJ

⁵²⁶ candhimā A

⁵²⁷ (ke, b) yaṃ EI

⁵²⁸ kehiccittam F; kehipi I

⁵²⁹ paramiddhiñāṇena D

⁵³⁰ pākato D; pāka(ko, b)to F; pākato H

⁵³¹ (ko, b) ti F

⁵³² aggaphalappattatā A; aggaphalappatta(ko, a)tā C; maggaphalappattatā I

⁵³³ (ko, a) ti B; ti (ko, a). J

⁵³⁴ (ko, a) eko A; e(ko, a)ko D

⁵³⁵ adutiyo ti F

⁵³⁶ (ko, a) attho Z

⁵³⁷ yujjati ADEH; yajjati C

⁵³⁸ kambujagāmaṃ I

⁵³⁹ gocaragāma H; gocarām gāmaṃ K

so pana thero punappunaṃ niraye paccamānānaṃ *nārakānaṃ pavuttim āharitvā* tesam ñātakānaṃ kathetvā dānadīni puññāni kārāpetvā tesam uddissa puññānumodanena laddhapuññaphalena devalokaparāyane karonto tath' eva vihāsi. so pi iddhibalena devalokañ ca yamalokañ ca gacchati. devaloke ratanattaye pasannānaṃ upāsakānaṃ uāsikānaṃ mahantam isiriyaṃ disvā āgantvā “asuko ca upāsako asukā ca upāsikā asukasmīṃ nāma devaloke nibbattetvā mahāsampattim anubhavatī” ti manussānaṃ kathesi. yamaloke pāpamanussānaṃ mahantaṃ dukkhaṃ disvā āgantvā “asuko ca asukā ca asukasmīṃ niraye nibbattetvā mahantaṃ dukkham anubhavatī” ti manussānaṃ kathesi. manussā sāsane pasīdanti pāpāni na karonti dānadīni puññāni ñātakānaṃ kālakatānaṃ uddissimsu te uddissa puññānumodanena laddhapuññaphalena devalokaparāyanā honti.

*narakānaṃ*⁵⁴⁰ *pavuttim āharitvā* ti ettha so pana⁵⁴¹ kira thero sattānaṃ upakārako⁵⁴² mahāmogallānathero⁵⁴³ viya.

tena vuttaṃ.

thero gantvā abhikkhaṇaṃ ñātuṃ⁵⁴⁴ narake⁵⁴⁵ vattamānaṃkaṃ⁵⁴⁶
yathā pi moggalāno⁵⁴⁷ ca desetvā⁵⁴⁸ dhammam uttamaṃ
narakānaṃ pamocetuṃ⁵⁴⁹ devathero⁵⁵⁰ tathā ayaṃ.
yathā pi moggalāno⁵⁵¹ ca nāsetvā⁵⁵² narakaggiyo⁵⁵³
vuṭṭhidhāraṃ⁵⁵⁴ pavatteti⁵⁵⁵ devathero⁵⁵⁶ tathā ayaṃ.
yathā pi moggalāno⁵⁵⁷ ca nāsetvā lohakumbhiyo⁵⁵⁸
nāseti uracakkāni⁵⁵⁹ thero so maleyyo⁵⁶⁰ tathā.

⁵⁴⁰ nakāraṇaṃ D

⁵⁴¹ paṇa H

⁵⁴² uppakārako A

⁵⁴³ mahāmoggalānathero A; mahāmoggalānatthero EH; mahāmoggalanathero G; mahāmoggalānatthero K

⁵⁴⁴ ñātu H

⁵⁴⁵ nārake B

⁵⁴⁶ [vattamānaṃ ABCDEFGHIJK]

⁵⁴⁷ moggalāno A

⁵⁴⁸ desetvā G

⁵⁴⁹ pamocetu D

⁵⁵⁰ devathero EHK

⁵⁵¹ moggalāno A

⁵⁵² nādesatvā G

⁵⁵³ narakattiyo K

⁵⁵⁴ vuṭṭhadhāraṃ A

⁵⁵⁵ pavassesi I

⁵⁵⁶ devathero AFGI

⁵⁵⁷ moggalāno A

⁵⁵⁸ lohakumbiyo EH

yathā⁵⁶¹ pi moggallāno⁵⁶² ca pātetvā simbalivanam⁵⁶³
nāseti⁵⁶⁴ pabbataṅgāram⁵⁶⁵ devatthero⁵⁶⁶ tathā ayam.
yathā pi⁵⁶⁷ moggallāno⁵⁶⁸ ca katvā⁵⁶⁹ khāranadiṃ⁵⁷⁰ madhum⁵⁷¹
pāyesi⁵⁷² amatam⁵⁷³ satte⁵⁷⁴ devatthero⁵⁷⁵ tathā⁵⁷⁶ ayam.
yathā⁵⁷⁷ pi moggallāno⁵⁷⁸ ca netvā narakapesanam⁵⁷⁹
kathesi nātake nesam devatthero⁵⁸⁰ tathā ayam.
tasmā mālayyadevatthero⁵⁸¹ sabbattha⁵⁸² pākato⁵⁸³
iddhinibbatto⁵⁸⁴ moggallāno⁵⁸⁵ ca⁵⁸⁶ devatthero⁵⁸⁷ thito⁵⁸⁸ pa⁵⁸⁹ ti.

bahugūṇo⁵⁹⁰ narakānam devānam⁵⁹¹ bahugūṇo⁵⁹² tesam hi⁵⁹³ vattamānānam netvā āha⁵⁹⁴ ca⁵⁹⁵
ñātīnam⁵⁹⁶. narakā⁵⁹⁷ vā pi⁵⁹⁸ petā vā disvā mālayyam⁵⁹⁹ āgataṃ vanditvā sādareneva⁶⁰⁰ evam āhamsu,
tassa ca bhante sattupakārā⁶⁰¹ ca gantvāna⁶⁰² asukaṃ nāma⁶⁰³ niggamaṃ⁶⁰⁴ evaṃnāmā ca ñātika⁶⁰⁵

⁵⁵⁹ ūracakkāni A
⁵⁶⁰ malayyo A; mālayyo CDI; māleyyo E; mālayo FG; māleyye H; māle(kai, a)yyo K
⁵⁶¹ (kai, a) yathā E
⁵⁶² moggalāno A; moggallā(kau, a)no G
⁵⁶³ simbalivanam DI; (kau, a) simbalivanam F
⁵⁶⁴ nāsesi EH
⁵⁶⁵ pabbataṅgāram A
⁵⁶⁶ devatthero FGI; (ke, a) devatthero H
⁵⁶⁷ mi K
⁵⁶⁸ moggalā(ko, b)no A; mogga(ko, b)llāno BJ; moggalāno K
⁵⁶⁹ (ko, b) katvā C
⁵⁷⁰ khāranadi H
⁵⁷¹ (ko, b) madhum Z
⁵⁷² pāye(ko, b)si D
⁵⁷³ mattam E; amattam HK; amate I
⁵⁷⁴ sa(kai, a)tte I
⁵⁷⁵ devatthero FGI
⁵⁷⁶ tarathā H
⁵⁷⁷ yaṃthā H
⁵⁷⁸ moggalāno A
⁵⁷⁹ [narakapesanam ADK]; narakasāsanam I
⁵⁸⁰ devatthero FGI
⁵⁸¹ māleyyadevatthero CD; mālayadevatthero E; mālayadevatthero FG; mālayyadevatthero I
⁵⁸² sabbata A; sabbattha om. I
⁵⁸³ pākato ACDEFGHK; pākato om. I
⁵⁸⁴ iddhinibbuto AFG; iddhinibbato CDI; iddhinibbuto EK; iddhinibūto H
⁵⁸⁵ moggalāno A
⁵⁸⁶ ca om. I
⁵⁸⁷ devatthero FG
⁵⁸⁸ t̥thito I; [t̥thito K]
⁵⁸⁹ [ca?]
⁵⁹⁰ bahūgūṇo ADHIK; bahūgaṇo E
⁵⁹¹ devānaṃ I
⁵⁹² ca bahūgūṇo AHIK; ca bahugūṇo BCFGJ; ca bahūgūṇo DE
⁵⁹³ pa I
⁵⁹⁴ aha H
⁵⁹⁵ ca om. ADE
⁵⁹⁶ ñātīna BJ; ñātinam DH
⁵⁹⁷ [nārakā ABCDEFGHK]
⁵⁹⁸ pi om. H
⁵⁹⁹ māleyyam CDEK; mālayam FG
⁶⁰⁰ sādareneva AD
⁶⁰¹ sattupakārā AD; satthupakārā G; kattupakārā I
⁶⁰² gantvā CK; ganthāna H
⁶⁰³ nāmam I

kathetha vattamānānaṃ, karotha bahukaṃ⁶⁰⁶ subhaṃ, sāretha buddhādiguṇe, kappetha⁶⁰⁷ saphalañ⁶⁰⁸ ca
no anādīdānaṃ⁶⁰⁹ attam pi datvā vā pi sahatthenāparesaṃ⁶¹⁰ vānumodento⁶¹¹ kappetha⁶¹² saphalañ⁶¹³
ca no sutvā tesam kathaṃ thero gantvā taṃ⁶¹⁴ tehi yācituṃ⁶¹⁵ yan⁶¹⁶ tehi kathitaṃ⁶¹⁷ vācam⁶¹⁸ tesam⁶¹⁹
ñātikānaṃ⁶²⁰ āha ca. evaṃnāmo ca puriso⁶²¹ evaṃnāmā ca itthikā bahupāpakarā⁶²² loke thitā⁶²³ ajja
avīciye⁶²⁴ evaṃnāmo⁶²⁵ ca puriso evaṃnāmā⁶²⁶ ca itthikā bahupāpakarā⁶²⁷ loke⁶²⁸ petāni⁶²⁹ honti idāni
ca⁶³⁰ disvā maṃ evam⁶³¹ āhaṃsu sabbe rodaparāyaṇā⁶³² evaṃnāmā ca⁶³³ ñātikā⁶³⁴ evaṃnāmā
mātāpitā⁶³⁵ evaṃnāmā⁶³⁶ puttadārā⁶³⁷ sace amhe sinehakā dānādīṃ⁶³⁸ pi⁶³⁹ puṇaṃ⁶⁴⁰ katvā phalaṃ
kappetha no ica⁶⁴¹. sutvā sabbe namassitvā devattheraṃ⁶⁴² mahiddhikaṃ⁶⁴³ pattapuvādikapuṇaṃ⁶⁴⁴ katvā
kappenti taṃ phalaṃ. **sabbe te anumoditvā taṃ paṇaṃ**⁶⁴⁵ ñātikappitaṃ⁶⁴⁶ muñcivā⁶⁴⁷ te tato dukkhā⁶⁴⁸
nibbatiṃ⁶⁴⁹ susurālaye⁶⁵⁰ tasmā hi māleyyadevatthero⁶⁵¹ nāma mahiddhiko attano katakicco ca

⁶⁰⁴ [nigamaṃ AEF GK]; niggamaṃ *om.* I

⁶⁰⁵ ñātitokā D; ñātakā I; [ñātinam]

⁶⁰⁶ bahukaṃ A; bahū(kai, b)kaṃ E

⁶⁰⁷ (kau, b) kappetha F; kappethe I

⁶⁰⁸ ssaphalañ E; samphalañ I; ssaphala(kai, b)ñ K

⁶⁰⁹ [annādīdānaṃ ACDEFHIK]; (kau, b) annādīdānaṃ G

⁶¹⁰ sahatthanāparesaṃ ACDEF GK; sahatanāparesaṃ H; sahatthattanāparesaṃ I

⁶¹¹ vā anumodento A; [vānumodentā CDEFGIK]; vānumodanto H

⁶¹² kappethe I

⁶¹³ ssaphalañ EK; samphalañ H; samphalañ I

⁶¹⁴ taṃ *om.* D

⁶¹⁵ yācittaṃ A; [yācittaṃ BCDEFHIJK]; yācito G

⁶¹⁶ (kau, a) yan A

⁶¹⁷ kaṭṭhī(kau, a)taṃ C; kathi(kau, a)taṃ D; kathita I

⁶¹⁸ vāca H

⁶¹⁹ (kau, a) tesam BJZ

⁶²⁰ ñātinam CEHI; ñātinam FGK

⁶²¹ puriso A

⁶²² bahupāpakarā AD; bahupāpaṃ karā EI; bahupāpaṃ karā K

⁶²³ [thitā K]; petā honti idāni ca disvā maṃ evam āhaṃsu thitā I

⁶²⁴ [avīciye A]; avīca H; (kai, b) avīcito I

⁶²⁵ evanāmo H

⁶²⁶ evanā(ke, b)mā H

⁶²⁷ bahupāpakarā AD; bahuṃ pāpaṃ karā E; bahupāpaṃ karā HIK

⁶²⁸ ke H

⁶²⁹ [petā ACDEFGHIK]

⁶³⁰ nā H

⁶³¹ evaṃm EH

⁶³² [ārodanaparīdevanā]

⁶³³ pa A; ca *om.* I

⁶³⁴ pitāmātā I

⁶³⁵ ca ñātikā I

⁶³⁶ evanāmā H

⁶³⁷ ca puttadārā EHK

⁶³⁸ pānādi A; dānādi CDEFGHK; dānādīṃ I

⁶³⁹ pi *om.* EHK

⁶⁴⁰ puṇāni EHK; [puṇānaṃ]

⁶⁴¹ [idha ABCDEFGHIJK]

⁶⁴² devattheraṃ FGI

⁶⁴³ mahiddhikaṃ A; mahiddhika H

⁶⁴⁴ pattapuvādikam puṇaṃ AC; pattapurādikam puṇaṃ DEK; sattapuvādikam puṇaṃ FG; pattapurādikapuṇaṃ H; pattapurādikam

puṇaṃ I; [pattapurādikam puṇānaṃ]

⁶⁴⁵ puṇaṃ ABCEFGIJ; pu H; [puṇānaṃ]

⁶⁴⁶ ñāti(kam, a)kappitaṃ G; ñātikampitaṃ H

⁶⁴⁷ (ko, a) muñcivā E; (kam, a) muñcivā F; muñcitā I

⁶⁴⁸ (ko, a) dukkhā K

⁶⁴⁹ nibbitiṃ I

sattānam⁶⁵² upakārako⁶⁵³ ti. tattha anumoditvā⁶⁵⁴ ti sampaticchitvā⁶⁵⁵. taṃ puññān⁶⁵⁶ ti taṃ⁶⁵⁷
puññaphalaṃ⁶⁵⁸. tattha⁶⁵⁹ siyā⁶⁶⁰ yadi⁶⁶¹ evaṃ⁶⁶² eva⁶⁶³ sante⁶⁶⁴ taṃ puññaphalaṃ⁶⁶⁵ sampaticchanti⁶⁶⁶
idaṃ⁶⁶⁷ virujjhati,

bhante nāgasena ime dāyakā dānaṃ⁶⁶⁸ datvā pubbapetanāṃ uddissanti⁶⁶⁹ idaṃ⁶⁷⁰

tesaṃ pāpuṇātū⁶⁷¹ ti.

kiṃ ke⁶⁷² tato nidānaṃ kiñci phalaṃ⁶⁷³ labhanti⁶⁷⁴ ti.

keci mahārāja paṭilabhanti⁶⁷⁵ keci na⁶⁷⁶ paṭilabhanti⁶⁷⁷ ti.

ke te paṭilabhanti⁶⁷⁸, ke te na paṭilabhanti⁶⁷⁹ ti.

nirayupapannā⁶⁸⁰ mahārāja⁶⁸¹ na paṭilabhanti⁶⁸², sattaḡatā⁶⁸³ na paṭilabhanti⁶⁸⁴,

tiracchānāyonigatā⁶⁸⁵ ni⁶⁸⁶ paṭilabhanti⁶⁸⁷, manusse upapannā⁶⁸⁸ na paṭilabhanti⁶⁸⁹,

catunnaṃ⁶⁹⁰ petānaṃ⁶⁹¹ tayo petā na paṭilabhanti⁶⁹², nijjhāmatāṇhikā⁶⁹³

⁶⁵⁰ susurālayaye H

⁶⁵¹ mālayyedevatthero A; māleyyadevatthe E; mālayadevathero FG; mālayaṃ devatthero H; mālayyadevathero I

⁶⁵² sattānaṃ H

⁶⁵³ apakārarako H; upakārato K

⁶⁵⁴ nu anumoditvā H

⁶⁵⁵ sampaticchitā H

⁶⁵⁶ [puññān]

⁶⁵⁷ kaṃ A

⁶⁵⁸ pu(kau, b)ñaphalaṃ A; [puññaphalaṃ]

⁶⁵⁹ (kau, b) tattha C; taṃttha D

⁶⁶⁰ si(kau, b)yā D; sayā I

⁶⁶¹ (kau, b) yadi B

⁶⁶² evaṃ *om.* EFIK; (kau, b) evaṃ J

⁶⁶³ [eva *om.* ABCDEGHIJK]; (kau, b) eva Z

⁶⁶⁴ evante EIK

⁶⁶⁵ [puññaphalaṃ]

⁶⁶⁶ sapaṭicchanti F

⁶⁶⁷ ida H

⁶⁶⁸ thānaṃ H

⁶⁶⁹ uddhissanti DH; uddisanti FG

⁶⁷⁰ idaṃ *om.* EK

⁶⁷¹ pāṇātū E; pāṇātu H

⁶⁷² [te ABCDEFGHIJK]

⁶⁷³ phala A

⁶⁷⁴ bhantī D; bhanti H; paṭilabhanti ~ na *om.* I

⁶⁷⁵ [paṭilabhanti FG]; paṭilabhanti I

⁶⁷⁶ paṭilabhanti ~ na *om.* I

⁶⁷⁷ paṭilabhanti F; [paṭilabhanti GK]; paṭilabhanti H

⁶⁷⁸ paṭilabhanti I

⁶⁷⁹ paṭilabhanti H; paṭilabhanti I

⁶⁸⁰ nira(ko, a)yupapannā I

⁶⁸¹ mahāja A

⁶⁸² paṭilabhanti EHI

⁶⁸³ [saggatā ABCDEFGHIJK]; sa(kai, a)ggatā H

⁶⁸⁴ paṭilabhanti ti A; paṭilabhanti EI; catilabhanti H

⁶⁸⁵ tiracchānāyonigatā ACD; tiracchādayonigatā E

⁶⁸⁶ [na ACDEFGHIK]

⁶⁸⁷ paṭilabhanti CD; paṭilabhanti EHI

⁶⁸⁸ uppapannā AK; upapannā I

⁶⁸⁹ [paṭilabhanti AFGK]

⁶⁹⁰ catunna BJ

⁶⁹¹ metānaṃ H

⁶⁹² paṭilabhanti EHI; paṭi(kam, b)labhanti F

⁶⁹³ nijjhā(kam, b)matāṇhikā G; nijjhāmatāṇhikā I

khuppiṭṭāsā kālakañjikā⁶⁹⁴ ti⁶⁹⁵. paradattupajivino⁶⁹⁶ yeva⁶⁹⁷ paṭilabhanti⁶⁹⁸ te⁶⁹⁹. te
pi⁷⁰⁰ saramānā⁷⁰¹ yeva paṭilabhanti⁷⁰² ti vuccate.

sabbe ti⁷⁰³ ettha hi sampadesato⁷⁰⁴ **sabbasaddo**⁷⁰⁵ daṭṭhabbo no nippadesato, tasmā sabbe te
paradattūpajivino⁷⁰⁶ peṭā ti attho. atha vā. yathālābhanayato⁷⁰⁷ yathā⁷⁰⁸ macchatumbam⁷⁰⁹ pi
sarakathalam⁷¹⁰ pi carantam pi⁷¹¹ tiṭṭhantam⁷¹² pi⁷¹³ ti ettha⁷¹⁴ hi macchagumbāpekkhāya⁷¹⁵
caraṇakiriya⁷¹⁶ yojiyati caraṇayogato⁷¹⁷ evaṃ⁷¹⁸ idhāpi⁷¹⁹ yo laddhabbo⁷²⁰ so va⁷²¹ gantabbo. aparo
nayo **te pi saramānā yevā** ti ettha pisaddo⁷²² vuttāpekkho⁷²³ te nirayupapannā saramānā yeva⁷²⁴
paṭilabhanti⁷²⁵ ti vuttaṃ hoti. api ca nirayupapannā na paṭilabhanti⁷²⁶ ti idaṃ⁷²⁷ yebhuyya vuttiyā vasena
vuttan ti daṭṭhabbaṃ.

tirokuṭapetavathuvaṇṇanāyaṃ⁷²⁸ pana⁷²⁹ idaṃ vuttaṃ.

etthāha⁷³⁰

kiṃ⁷³¹ pana⁷³² petavisayupapannā⁷³³ evaṃ⁷³⁴ nātihetusampattiyo⁷³⁵ labhanti udāhu

⁶⁹⁴ kālakañjikā C; kālakañikā H; kālakañji I

⁶⁹⁵ ti *om.* I

⁶⁹⁶ paradattupajivino D; [paradattūpajivino EGK]; paradattūpajivino F

⁶⁹⁷ yeva ~ pi *om.* I

⁶⁹⁸ paṭilabhanti EH

⁶⁹⁹ te *om.* HK

⁷⁰⁰ yeva ~ pi *om.* I

⁷⁰¹ samānā A; saramāno D; (ko. b) saramānā K

⁷⁰² paṭilabhanti DHI; (ko, b) paṭilabhanti E

⁷⁰³ pi I

⁷⁰⁴ [sappadesato ABCDEFGIJ]; ssappadesato H; sappadesako K

⁷⁰⁵ saddho A; sabbe saddho C; sabbe saddo D; sabbasaddho HK

⁷⁰⁶ paradattūpajivino AB; paradattupajivino CI; paradattupajivino D; [paradattūpajivino EFK]; paradatūpajivino G;

paradattapajivino H

⁷⁰⁷ yathālābha(kam, a)nayato A

⁷⁰⁸ ya(kam, a)thā C

⁷⁰⁹ macchagambam A; maccha(kam, a)gumbam BJ; [macchagumbam CH]; ma(kam, a)cchagumbam D; macchagumbap EK;

pacchagumbam FG; macchakumbam I; maccha(kam, a)tumbam Z

⁷¹⁰ sakharakathalam ABCDEFGHJK; sakhakethalam I; [sakkharakathalam]

⁷¹¹ pi A

⁷¹² tiṭṭhantam *om.* A

⁷¹³ pi *om.* A; pi BCFGJK

⁷¹⁴ etaṃ I

⁷¹⁵ macchagambāpekkhāya H; macchakumbāpekkhāya I

⁷¹⁶ caraṇakiriya EFGHK; paraṇakiriya I

⁷¹⁷ paraṇayogato I

⁷¹⁸ eva H

⁷¹⁹ idhāpi A; idhānipi K

⁷²⁰ ladabbo H

⁷²¹ pa I

⁷²² pisaddho A; pisado H

⁷²³ vattāpekkhā H

⁷²⁴ saramā A; saramā K

⁷²⁵ labhanti EK; paṭilabhanti FG; labhanti H

⁷²⁶ palabhanti A; paṭilabhanti FG; paṭilabhanti H

⁷²⁷ idha I

⁷²⁸ tirokuṭapetavathuvaṇṇayam A; tirokuṭapeta(kah, a)vathuvaṇṇanāyaṃ FG; tirokuttapetavathuvaṇṇanāya H;

tirokuṭapetavathuvaṇṇanāya I; [tirokuḍḍapetavathuvaṇṇanāyaṃ]

⁷²⁹ panam D

⁷³⁰ etthāhi A; etthā I

⁷³¹ kiṃ *om.* H; kiṃ ~ gotamabrāhmaṇā *om.* I

⁷³² pana *om.* H

⁷³³ mitivisa(kai, b)yupapanā H; [pettivisayūpappannā]

añe⁷³⁶ pi⁷³⁷ ti.

na cettha amhehi vattabbam, atthi bhagavatā⁷³⁸ evam⁷³⁹ byākatattā⁷⁴⁰.

vuttam⁷⁴¹ hetam.

mayam gotama⁷⁴² brāhmaṇā⁷⁴³ nāma dānāni dema⁷⁴⁴, puññāni⁷⁴⁵ karoma, idaṃ dānaṃ petānaṃ ñātisālohitānaṃ upakappatu⁷⁴⁶, idaṃ dānaṃ⁷⁴⁷ petā ñātisālohitā paribhuñjantū⁷⁴⁸ ti, kacci⁷⁴⁹ taṃ bho gotama dānaṃ⁷⁵⁰ petāni⁷⁵¹ ñātisālohitānaṃ⁷⁵² uppakappati⁷⁵³, kacci taṃ petānaṃ⁷⁵⁴ ñātisālohitā dānaṃ⁷⁵⁵ paribhuñjanti⁷⁵⁶ ti.

thānaṃ⁷⁵⁷ kho brāhmaṇa uppakappati⁷⁵⁸, no aṭṭhāne ti.

katamaṃ pana⁷⁵⁹ gotama tṭhānaṃ⁷⁶⁰ katamaṃ⁷⁶¹ aṭṭhānaṃ ti.

idha brāhmaṇa ekacco pāṇātipātī⁷⁶² hoti, micchādīṭṭhiko hoti, so kāyassa bheda⁷⁶³ param⁷⁶⁴ maraṇā nirayaṃ⁷⁶⁵ upapajji⁷⁶⁶, yo nerayikānaṃ⁷⁶⁷ sattānaṃ āhāro tena so tattha yāpeti, tena so tattha tiṭṭhati. idaṃ kho brāhmaṇa aṭṭhānaṃ yattha tṭhitassa⁷⁶⁸ taṃ dānaṃ na⁷⁶⁹ uppakappati⁷⁷⁰.

idha brāhmaṇa ekacco pāṇātipātī⁷⁷¹ hoti, micchādīṭṭhiko⁷⁷² hoti, kāyassa⁷⁷³ bheda

⁷³⁴ [eva EHK]
⁷³⁵ yātihetusampattiyo C
⁷³⁶ añā D; [aññe]
⁷³⁷ pi H
⁷³⁸ bhavatā A
⁷³⁹ eva EHK
⁷⁴⁰ byākattattā ACD; byākatattā H
⁷⁴¹ (kau, a) vuttam K
⁷⁴² bho gotama EK
⁷⁴³ brāhmaṇā FG; kim ~ brāhmaṇā om. I
⁷⁴⁴ (kau, a) dema E
⁷⁴⁵ [puññāni]
⁷⁴⁶ uppakappatu ADH
⁷⁴⁷ dā(ko, b)naṃ I
⁷⁴⁸ paribhuñjantu F
⁷⁴⁹ ka(kam, b)cci C
⁷⁵⁰ (kam, b) dānaṃ J
⁷⁵¹ pe(kam, b)tānaṃ A; (kam, b) petānaṃ B; [petānaṃ CDEFGHIK]; petāna H
⁷⁵² (kam, b) ñātisālohitānaṃ Z
⁷⁵³ (kam, b) uppakappati D; [upakappati EFGIK]
⁷⁵⁴ [petā ACDEFGHIK]
⁷⁵⁵ dānaṃ om. I
⁷⁵⁶ paribhuñjanti H
⁷⁵⁷ thāne EHK; [thāne]
⁷⁵⁸ [upakappati EFGIK]
⁷⁵⁹ pa D
⁷⁶⁰ tṭhāna DE; thānaṃ IK; [thānaṃ]
⁷⁶¹ katamaṃ om. I
⁷⁶² dāṇātipātī A; pāṇātipātī CFG
⁷⁶³ bhe(kah, b)dā F
⁷⁶⁴ param EK
⁷⁶⁵ (kah, b)nirayaṃ F
⁷⁶⁶ [upapajjati EFGIK]
⁷⁶⁷ nerayikāna H; nerayakānaṃ K
⁷⁶⁸ [tṭhitassa]
⁷⁶⁹ naṃ J
⁷⁷⁰ [upakappati EFGK]
⁷⁷¹ pāṇātipātī BDEFGHIK; pāṇātipātī ~ ekacco om. I
⁷⁷² micchādīṭṭhito C

param⁷⁷⁴ maraṇā tiracchānayanīyaṃ uppapajjati⁷⁷⁵, yo tiracchānayaodīnaṃ⁷⁷⁶
sattānaṃ āhāro⁷⁷⁷ tena so tattha⁷⁷⁸ yāpeti, tena so tattha tiṭṭhati⁷⁷⁹. idaṃ kho
brāhmaṇa aṭṭhānaṃ yattha⁷⁸⁰ tṭhitassa⁷⁸¹ taṃ dānaṃ na uppakappati⁷⁸².
idha⁷⁸³ brāhmaṇa ekacco⁷⁸⁴ pāṇātipātā⁷⁸⁵ pativirato⁷⁸⁶ hoti, sammādiṭṭhiko hoti⁷⁸⁷,
so kāyassa bhedaṃ param⁷⁸⁸ maraṇā⁷⁸⁹ manussānaṃ⁷⁹⁰ saḥabyattaṃ⁷⁹¹ upapajjati.
yo⁷⁹² manussānaṃ āhāro tena so⁷⁹³ tattha yāpeti, tena⁷⁹⁴ so tattha tiṭṭhati. idaṃ kho
brāhmaṇa aṭṭhānaṃ yattha tṭhitassa⁷⁹⁵ taṃ dānaṃ⁷⁹⁶ na⁷⁹⁷ uppakappati⁷⁹⁸.
idha brāhmaṇa ekacco pāṇātipātā pativirato⁷⁹⁹ hoti, sammādiṭṭhiko⁸⁰⁰ hoti, so
kāyassa bhedaṃ param⁸⁰¹ maraṇā devānaṃ saḥabyattaṃ⁸⁰² upapajjati⁸⁰³. yo
devānaṃ⁸⁰⁴ āhāro⁸⁰⁵ tena so tattha yāpeti, tena so tattha tiṭṭhati⁸⁰⁶. idaṃ kho
brāhmaṇa aṭṭhānaṃ yattha⁸⁰⁷ tṭhitassa⁸⁰⁸ taṃ dānaṃ na uppakappati⁸⁰⁹.
idha brāhmaṇa ekacco pāṇātipātā⁸¹⁰ hoti⁸¹¹, micchādiṭṭhiko hoti, so kāyassa bhedaṃ
param maraṇā pitivisaṃ⁸¹² upapajjati⁸¹³ yo pitivisaṃ⁸¹⁴ āhāro⁸¹⁵ tena⁸¹⁶ so

⁷⁷³ [so kāyassa EFGK]

⁷⁷⁴ param param D; param EK; para H

⁷⁷⁵ [upapajjati AEFHGK]

⁷⁷⁶ [tiracchānayanīnaṃ ABK]; tiracchānayanīyaṃ C; tiracchānayanīnaṃ FH; tiracchānayanīnaṃ G

⁷⁷⁷ ā(ko, a)hāro H

⁷⁷⁸ (kau, b) tattha K

⁷⁷⁹ (kau, b) tiṭṭhati E

⁷⁸⁰ yassa K

⁷⁸¹ [tṭhitassa]

⁷⁸² uppa(kah, a)kappati C; upakappati EFGK

⁷⁸³ (kah, a) idha BJ

⁷⁸⁴ e(kah, a)kacco A; pāṇātipātā ~ ekacco om. I

⁷⁸⁵ (kah, a) pāṇātipātā DZ;

⁷⁸⁶ [pativirato]

⁷⁸⁷ hāti H

⁷⁸⁸ param om. D

⁷⁸⁹ mara D

⁷⁹⁰ nevānaṃ I

⁷⁹¹ saḥabyattaṃ GJ; [saḥavyattaṃ]

⁷⁹² yo ~ upapajjati om. I

⁷⁹³ (kha, a) so G

⁷⁹⁴ (kha, a) tena F

⁷⁹⁵ [tṭhitassa]

⁷⁹⁶ dāna H

⁷⁹⁷ na om. ADFG

⁷⁹⁸ [upakappati EFGK]

⁷⁹⁹ [pativirato]

⁸⁰⁰ sammādiṭṭhi H

⁸⁰¹ pamaraṃ H

⁸⁰² [saḥavyattaṃ]

⁸⁰³ yo ~ upapajjati om. I

⁸⁰⁴ devonaṃ D

⁸⁰⁵ āhā D

⁸⁰⁶ tiṭṭhi F

⁸⁰⁷ tattha I

⁸⁰⁸ [tṭhitassa]

⁸⁰⁹ upakappati EFGK

⁸¹⁰ pāṇātipātā ABDEFGHIJK

⁸¹¹ hoti om. A

⁸¹² piti(kau, a)visayaṃ I; [pittivisaṃ]

⁸¹³ upapajjati I

tattha yāpeti, tena so tattha tiṭṭhati⁸¹⁷. yaṃ⁸¹⁸ vā panassa⁸¹⁹ ito anupaveccanti⁸²⁰
mittā vāmaccā⁸²¹ vā nāṭisālohitā⁸²² vā, tena so tattha yāpeti tena so tattha tiṭṭhati⁸²³.
idaṃ kho brāhmaṇa aṭṭhānaṃ⁸²⁴ yattha⁸²⁵ tṭhitassa⁸²⁶ taṃ dānaṃ uppakappatī⁸²⁷ ti.
sace pana⁸²⁸ bho gotama⁸²⁹ so peto⁸³⁰ nāṭisālohitā⁸³¹ taṃ tṭhānaṃ⁸³² anuppanno⁸³³
hoti, ko taṃ pānaṃ⁸³⁴ paribhuñjati⁸³⁵ ti.
añe⁸³⁶ pissa⁸³⁷ brāhmaṇa petā nāṭisālohitā⁸³⁸ taṃ tṭhānaṃ⁸³⁹ uppānā⁸⁴⁰ honti⁸⁴¹, te
taṃ⁸⁴² dānaṃ paribhuñjanti⁸⁴³ ti.
sace bho gotama so ceva peto⁸⁴⁴ nāṭisāhito⁸⁴⁵ taṃ tṭhānaṃ⁸⁴⁶ anuppanno⁸⁴⁷ hoti, ko
taṃ dānaṃ paribhuñjati ti.
añe⁸⁴⁸ pissa brāhmaṇa petā nāṭisālohitā taṃ⁸⁴⁹ tṭhānaṃ⁸⁵⁰ uppānā⁸⁵¹ honti, te taṃ
dānaṃ⁸⁵² paribhuñjanti⁸⁵³. aṭṭhānaṃ kho brāhmaṇa anavakāso⁸⁵⁴ yaṃ⁸⁵⁵ taṃ⁸⁵⁶

⁸¹⁴ pitivisayikānaṃ sattānaṃ HI; [pittivisayakānaṃ]

⁸¹⁵ sattānaṃ ā(kam, a)hāro E; sattānaṃ āhāro FGK

⁸¹⁶ (kam, a) tena K

⁸¹⁷ ti(kah, b)ṭṭhati A

⁸¹⁸ (kah, b) yaṃ BCDJ

⁸¹⁹ (kah, b) panassa Z

⁸²⁰ anupave(kha, b)cchanti G

⁸²¹ vāma(ko, b)maccā H; vā amaccā H

⁸²² nā(kha, b)ṭisālohitā F

⁸²³ tiṭṭhati A; tiṭṭhi F

⁸²⁴ tṭhānaṃ AGHI; thānaṃ K; [thānaṃ]

⁸²⁵ yata A; tattha HI

⁸²⁶ thitassa I; [thitassa]

⁸²⁷ uppakampatī D; [upakampatī EFGK]

⁸²⁸ pana om. I

⁸²⁹ gama E

⁸³⁰ ceto A

⁸³¹ [nāṭisālohitō ACDEFGHIK]

⁸³² thānaṃ IK; [thānaṃ]

⁸³³ anupapannā A; anupapanno EK; [anupapanno I]

⁸³⁴ [dānaṃ ABCDEFGHIJK]

⁸³⁵ paribhuñanti H

⁸³⁶ [aññe]

⁸³⁷ passa D

⁸³⁸ yāṭisālohitā H

⁸³⁹ thānaṃ K; [thānaṃ]

⁸⁴⁰ uppānā EIK; [upapannā]

⁸⁴¹ hoti I

⁸⁴² taṃ H

⁸⁴³ paribhuñanti H

⁸⁴⁴ petā BJ

⁸⁴⁵ [nāṭisālohitō ACDEFGK]; nāṭisāṇehito I

⁸⁴⁶ tṭhāna H; thānaṃ IK; [thānaṃ]

⁸⁴⁷ anupapanno I; [anupapanno K]

⁸⁴⁸ [aññe]

⁸⁴⁹ ta D

⁸⁵⁰ thānaṃ K; [thānaṃ]

⁸⁵¹ upapannā EI; upapannā H; upapannā K

⁸⁵² tṭhānaṃ F

⁸⁵³ paribhuñanti H

⁸⁵⁴ anavakāso A

⁸⁵⁵ yaṃ om. I

⁸⁵⁶ taṃ om. I

vivittam⁸⁵⁷ assa iminā dīghena⁸⁵⁸ addunā⁸⁵⁹ yadidam⁸⁶⁰ petehi⁸⁶¹ nāṭisālohitehi⁸⁶² ti
sanniṭṭhānam⁸⁶³ ettha gantabban⁸⁶⁴ ti.

ath' ekadivasaṃ so thero pubbaṅhasamaye uṭṭhāy' āsanā pattacīvaram ādāya
piṇḍapātaṃ gahanatthāya gāmaṃ pāvīsi. tasmim gāme eko daliddakapuriso
mātu-upatṭhānaṃ karoti. tasmim kāle so gāmato nikkhamitvā ṇhāpanatthāya ekaṃ
saraṃ patvā tattha ṇhātvā aṭṭhanīluppalapupphāni disvā tāni gahetvā sarā uttaritvā
maggam paṭipajji. tadā so theram āgacchantam santam dantam suguttam jitindriyam
uttamarūpadharam pattahattham disvā samuppannapītipāmojjo yena thero ten'
upasaṅkami upasaṅkamtivā dasanakhasamodhānakarapuṭakamalo theram vanditvā
saddhāya bahulatāya aṭṭhanīluppalapupphāni **therassa hatthe datvā paṇidhānaṃ
karonto** imaṃ gātham āha:

therassa⁸⁶⁵ hatthe datvā⁸⁶⁶ ti⁸⁶⁷ therassa⁸⁶⁸ hatthe⁸⁶⁹ thapetvā⁸⁷⁰.

paṇidhānaṃ⁸⁷¹ karonto ti patṭhanam⁸⁷² patṭhapento⁸⁷³. karadhātu⁸⁷⁴ hi sabbabyāpi.

vuttam cetam⁸⁷⁵ bālāvatārakārake⁸⁷⁶

bhūkarā⁸⁷⁷ sabbadhātvatthesv⁸⁷⁸ eva⁸⁷⁹ santi⁸⁸⁰ ti.

iminā pupphadānena yattha yattha bhavāmi 'haṃ
jāṭisatasahassee mā daliddo bhavāmi 'han ti.

857 vivitta A
858 dighena AC DI
859 [addhunā ABCDG]; addhanā F; adhunā H; adunā I
860 yadidam D
861 (khā, a) petehi G
862 nāṭisāhitāhi A; nāṭisālohitehi DH; nā(khā, a)ṭisālohitehi F
863 (kaṃ, b) sanniṭṭhānam E
864 ganta(kha, a)bban A; tantabban K
865 the(kha, a)rassa C; (kaṃ, b) therassa K
866 (kha, a) datvā AJ
867 (kha, a)ti Z
868 (kau, b) therassa I
869 ha(kha, a)tthe D
870 petvā DE; [thapetvā]
871 paṇidhānaṃ I
872 setṭhapatṭhanam I; [patṭhanam]
873 thapento I
874 karadhātu AD; karaṭātu H
875 cetam CDHJK
876 bālāvatāvikārake D; bānavatārakārake J; bālāvarakārake I
877 bhūkarā H; bhūtavā I
878 sabbadhātvatthese AJ
879 va AJ; e I
880 santi H

*iminā pupphadānenā*⁸⁸¹ ti anena aṭṭhaniluppalapupphadānenā⁸⁸² ti vadanti ācariyā⁸⁸³. atha vā.
liṅgavipallāsavasena⁸⁸⁴ imāya aṭṭhaniluppalapupphamuñcana⁸⁸⁵
asaṃkhārikasomanassasahagatañāṇasampayuttakāmāvacarakusalacetanāyā⁸⁸⁶ ti. amhākaṃ⁸⁸⁷ khanti
nippariyāyato⁸⁸⁸ hi cetanā dānaṃ nāma. vatthupariyāyato⁸⁸⁹. pacchimo atthavikappo sundarataro⁸⁹⁰
gahetabbo.

thero aṭṭhaniluppalapupphāni gahetvā anumodanaṃ karonto imaṃ gātham āha:

yaṃ yaṃ lūkhaṃ paṇītaṃ vā deti pasannamānaso
vipākaṃ tassa dānassa yathā-icchā samijjhatī ti.

yaṃ yaṃ ti aniyamuddesavacanaṃ⁸⁹¹. tena yaṃ kiñci deyyadhammaṃ⁸⁹² jātaṃ dātabbaṃ gahitam
eva hoti⁸⁹³.

*lūkhaṃ*⁸⁹⁴ *majjhimaṃ paṇītaṃ*⁸⁹⁵ *vā* ti vattabbe chandahānibhāyā⁸⁹⁶ majjhimasaddassa⁸⁹⁷ lopo
kato. tena kiṃ vuttaṃ hoti.⁸⁹⁸ tattha hi pathami⁸⁹⁹ dānasamkhātassa⁹⁰⁰ deyyadhammassa⁹⁰¹
dāsabhūtānaṃ⁹⁰² lūkhahinalāmakajjhāsayaṃpuggalānaṃ⁹⁰³ dutiyan tasseva sahāyabhūtānaṃ⁹⁰⁴
majjhimajjhāsāyānaṃ tatiyaṃ pana tassa patisāmi-issarabhūtānaṃ⁹⁰⁵ paṇituttarajjhāsāyānaṃ⁹⁰⁶
sappūrisānaṃ⁹⁰⁷ vasena vuttan ti dīpitaṃ⁹⁰⁸ hoti. dāyato⁹⁰⁹ hi tividho⁹¹⁰ deyyadhammassa⁹¹¹ vasena

⁸⁸¹ (kau, a) pupphadānenā H

⁸⁸² aṭṭhaniluppalapupphadānenā E

⁸⁸³ ācariyo G; ācariyā H

⁸⁸⁴ liṅgavipallāsavasena K

⁸⁸⁵ aṭṭhaniluppalapupphamuñcana E; aṭṭhaniluppalapupphamuñcāna H; aṭṭhaniluppalamuñcāna I

⁸⁸⁶ saṃkhārikasomanassasahagataṃ ñāṇasampayuttakāmāvacarakusalacetanāyā I

⁸⁸⁷ amhāka H

⁸⁸⁸ nippariyāyato A; nippariyato HK; nippariyāye I

⁸⁸⁹ vatthupariyāyato C; [vatthupariyāyato ti DEFGHIK]

⁸⁹⁰ sundharataro CH; sandarataro F

⁸⁹¹ aniyamuddesavacanaṃ ACH

⁸⁹² deyyadhamma EFGHIK

⁸⁹³ (khā, b) hoti G

⁸⁹⁴ lūkha A; (khā, b) lūkhaṃ F; lukhaṃ HI

⁸⁹⁵ [paṇītaṃ DEFGK]

⁸⁹⁶ chandahānibhāyā H

⁸⁹⁷ majjhimasaddhassa A; majjhimasadvassa H

⁸⁹⁸ hoti(kha, b). ACJ; ho(kha, b)ti. B

⁸⁹⁹ pathamaṃ ABCDEFGHI; paṭhamaṃ K; [paṭhamaṃ]

⁹⁰⁰ dānasamkhā(kha, b)tassa Z

⁹⁰¹ (kaḥ, a) deyyadhammassa E

⁹⁰² dāsabhu(kha, b)tānaṃ D; dāsabhūtānaṃ H

⁹⁰³ lūkhahinalāmakajjhāsayaṃpuggalānaṃ DEHI; lūkhahina(kaḥ, a)lāmakajjhāsayaṃpuggalānaṃ K;

[lūkhahinalāmakajjhāsayaṃpuggalānaṃ]

⁹⁰⁴ sahāyabhūtānaṃ H

⁹⁰⁵ patisāmi-issarabhūtānaṃ A; patisāmi-issarabhūtānaṃ F; patisāmi-issarabhūtānaṃ H; patisāmissarabhūtānaṃ I

⁹⁰⁶ [paṇituttarajjhāsāyānaṃ DFG]; paṇituttamajjhāsāyānaṃ E; paṇituttajjhāsāyānaṃ H; paṇituttamajjhāsāyā(kaṃ, a)naṃ I;

paṇituttamajjhāsāyānaṃ K

⁹⁰⁷ [sappūrisānaṃ ACDEFGHIJK]

⁹⁰⁸ dīpitaṃ ACHI

dānadāso⁹¹² dānasahāyo dānapatī⁹¹³ ti. yo⁹¹⁴ hi⁹¹⁵ tatta attanā⁹¹⁶ madhuraṃ bhuñjati paresaṃ⁹¹⁷
amadhuraṃ lūkhaṃ⁹¹⁸ hīnaṃ⁹¹⁹ lāmakāṃ deti so dānaṃkhātassa⁹²⁰ deyyadhammassa dāso hutvā deti
nāma. yo ca yaṃ yaṃ attanā⁹²¹ bhuñjati⁹²² taṃ tad⁹²³ eva⁹²⁴ deti so tasseva⁹²⁵ sahāyo hutvā⁹²⁶ deti nāma.
yo pana attanā⁹²⁷ yaṃ⁹²⁸ vā taṃ⁹²⁹ vā bhuñjati paresaṃ madhuraṃ paṇītaṃ⁹³⁰ uttamataṃ deti so tassa
paṭijettakosāmi⁹³¹ hutvā deti nāma⁹³².

tena vuttaṃ

bhummasaṅgahe⁹³³ dānadāso sahāyo⁹³⁴ ca dānadāso⁹³⁵ dānapati ca⁹³⁶ dāyako⁹³⁷

kathito⁹³⁸ tivido⁹³⁹ yeva kuṭadante⁹⁴⁰ mahesinā ti.

deti ti deyyadhammaṃ sandhāya⁹⁴¹ cajiṭṭi⁹⁴² ti cetanā⁹⁴³ dhammaṃ sandhāya pariyaḍapeṭi
visuddhaṃ⁹⁴⁴ karoti⁹⁴⁵ ti attho⁹⁴⁶.

paṭṭhānatthakathāya⁹⁴⁷ pi vuttaṃ

dānaṃ⁹⁴⁸ **datvā** ti deyyadhammaṃ⁹⁴⁹ pajjitvā⁹⁵⁰ yāya vā⁹⁵¹ so diyaṭi⁹⁵², sā⁹⁵³ cetanā

⁹⁰⁹ [dāyako ABCDEFGHIK]

⁹¹⁰ tivido D; tivie I

⁹¹¹ deyyadhammassa A; deyyadhamma I

⁹¹² dānadāso G

⁹¹³ dānapati H

⁹¹⁴ yo *om.* I

⁹¹⁵ hi *om.* HI

⁹¹⁶ yo attanā I

⁹¹⁷ pa(kau, b)resāṃ H

⁹¹⁸ lūkhaṃ EH; sukhaṃ I

⁹¹⁹ [hīnaṃ]

⁹²⁰ dānaṃ saṃkhātassa H

⁹²¹ attanā *om.* HI

⁹²² bhuñjati F

⁹²³ taṃ HI

⁹²⁴ eva *om.* HI

⁹²⁵ tassa K

⁹²⁶ (khi, a) hutvā FG

⁹²⁷ attanā *om.* EHIK

⁹²⁸ yaṃ yaṃ I

⁹²⁹ taṃ taṃ I

⁹³⁰ paṇītaṃ AFHI; paṇītaṃ *om.* C

⁹³¹ paṭijettakosāmi A; patisāmi H; patissāmi I

⁹³² nāma *om.* I

⁹³³ [bhūmasaṅgahe A]; bhūmasaṅgahe CDEFGK; bhūmasaṅgahe HJ; bhūmasaṅgahe I

⁹³⁴ [dānasahāyo H]

⁹³⁵ [dānadāso *om.* ABCDEFGHIK]; dānadāso ~ ca *om.* I

⁹³⁶ dānadāso ~ ca *om.* I

⁹³⁷ dāya(khā, a)ko AC

⁹³⁸ (khā, a) kathito BJ; kathito D; kathito *om.* I; kathi(khā, a)to Z

⁹³⁹ tivī(khā, a)dho D

⁹⁴⁰ kathayante I

⁹⁴¹ sandāya I

⁹⁴² pajjati BIJ; (kaḥ, b) cajiṭṭi E; [cajati FG]; cajati H

⁹⁴³ cetathā H; ceta(kaḥ, b)nā K

⁹⁴⁴ visuddhaṃ F

⁹⁴⁵ karoti H

⁹⁴⁶ ato A

⁹⁴⁷ paṭṭhānatthakathāyaṃ E; paṭṭhānatthakathāyaṃ FGIK; paṭṭhānatthakathāya H

⁹⁴⁸ dāna F

⁹⁴⁹ deyyaṃ dhammaṃ C

⁹⁵⁰ cajiṭṭi ACDEHK; dhajitvā FG; pajjitvā I; paṭitvā J; [cajittvā]

⁹⁵¹ vā *om.* I

dānaṃ. **datvā** ti pariyodapetvā⁹⁵⁴ visuddhaṃ⁹⁵⁵ katvā ti.

atha vā. datvā ti lobhādīpāpadhammehi⁹⁵⁶ parisodhetvā parisuddhāpetvā⁹⁵⁷ ti attho.

pasannamānaso ti tisu⁹⁵⁸ kālesu pasannacitto⁹⁵⁹ hutvā.

yathāha bhagavā⁹⁶⁰

pubbeva dānā⁹⁶¹ sumano⁹⁶² dadañ⁹⁶³ cittaṃ⁹⁶⁴ pasādayaṃ⁹⁶⁵

datvā attamaṇo⁹⁶⁶ hoti esā puñassa⁹⁶⁷ sampadā ti.

yathā icchā ti yā yā icchā yathā icchā. icchānucchavikaṃ icchānurūpaṃ⁹⁶⁸ ti⁹⁶⁹ vuttaṃ⁹⁷⁰ hoti.

samijjhātī⁹⁷¹ ti sampadaṃ⁹⁷² sādheti. samijjhātu⁹⁷³ ti pi pātho⁹⁷⁴. tassattho na vicārito⁹⁷⁵.

thero anumodanaṃ katvā eva **sammacintesi** “imāni aṭṭhaniluppalapupphāni **kuhiṃ āropessāmi** cetiyaṃ vā **udāhu** upari pabbate vā parinibbute vā mahābodhiyaṃ vā bhagavato anuttaradhammacakkapavattanaṭṭhāne vā” ti. puna cintesi “etāni ṭhānāni sattakkhattum eva pūjesiṃ yan nūnāhaṃ devaloke Cūlāmaṇicetiyaṃ pūjessamī” ti.

samacintesi⁹⁷⁶ ti manodvāreyeva⁹⁷⁷ cittaṃ⁹⁷⁸ uppādesi.

kuhin⁹⁷⁹ ti. katarasmiṃ⁹⁸⁰ pūjaniyaṭṭhānavisesā⁹⁸¹.

āropessāmi⁹⁸² ti⁹⁸³ patitṭhāpessāmi⁹⁸⁴. pūjessāmi⁹⁸⁵ ti attho.

⁹⁵² [diyyati]

⁹⁵³ so AD

⁹⁵⁴ pariyoṭhapetvā I

⁹⁵⁵ visuddhiṃ EHK; visuddaṃ I

⁹⁵⁶ lobhādīpāpadhammehi H

⁹⁵⁷ parisuddāpetvā G; parisuddā I

⁹⁵⁸ tisu H

⁹⁵⁹ pasannacatto H

⁹⁶⁰ bhaggavā H

⁹⁶¹ (kaṃ b) dānā I

⁹⁶² sumanno A; suma(khi, b)no G; sumanā I

⁹⁶³ (khi, b) dadañ F

⁹⁶⁴ citta H

⁹⁶⁵ pasādaya I

⁹⁶⁶ aggamaṇo J

⁹⁶⁷ mepuñā I

⁹⁶⁸ icchānurūpaṃ H; icchānurūpaṃ I

⁹⁶⁹ ti *om.* HI

⁹⁷⁰ vutta A; vuttaṃ *om.* HI

⁹⁷¹ sapijjhātī A; samijjha(kaṃ, a)ti H; sampajjhātī I; samijjātī K

⁹⁷² sampa EHK

⁹⁷³ samijjhātu H

⁹⁷⁴ pātho K

⁹⁷⁵ viharato H; vipārito J

⁹⁷⁶ sama(khā, b)cintesi C; sammacintesi H

⁹⁷⁷ manodvāre(khā, b)yeva A; (khā, b) manodvāreyeva B; ma(khā, b)nodvāreyeva J

⁹⁷⁸ (khā, b)cittaṃ Z

⁹⁷⁹ ku(khā, b)hin D

⁹⁸⁰ katarasmi AH

⁹⁸¹ pūjaniyaṭṭhānavisesā H; pūjaniyaṭṭhānavisesā I

⁹⁸² āropessāmi HI

⁹⁸³ ti *om.* I

*udāhu*⁹⁸⁶ ti vitakkanatthe nipāto.

thero attanā cintitasamanantaram eva *abhiññāpādakaṃ catutthajjhānaṃ samāpajjitvā tato vutthāya anilapathatalaṃ ullaṅghitvā accharāsāṅghāṭamattam* eva sattaratanavicittatalabhūmibhāgapaṭimaṇḍitavilasitadasadevanagaramajjhe Sakkena devaraññā bhagavato attanā kappāsapicutulasadisamudutalajālavicittakaragahitena asinā chinditaparamamoḷiṃ “sac’ āham imāya pabbajjāya paramasambodhiṃ patvā buddho bhavissāmi mama moḷiṃ bhūmiyaṃ mā patatū” ti adhiṭṭhānena bhūmiyaṃ apatamānaṃ ākāse yeva pakkhipitvā sakasirasā vahatena suvaṇṇacaṅgoṭakavarena sampāṭicchitvā sakalasuregaṇānaṃ pūjanatthāya sasādarapatiṭṭhāpitam manoramamaṃ indanīlamanimayaṃ *Cūlāmaṇicetiyaṅganaṃ* patvā aṭṭhanīluppalapupphehi pujetvā padakkhiṇaṃ katvā aṭṭhadisāsu vanditvā pañcapatiṭṭhitena vanditvā pācīnadisābhāge nisīdi.

*abhiññāpādakaṃ*⁹⁸⁷ ti ettha abhivisesena⁹⁸⁸ ñāyatī⁹⁸⁹ ti abhiññā⁹⁹⁰. sā ca⁹⁹¹ pañcavidhā hoti⁹⁹² iddhividhi⁹⁹³ dibbasotaṃ paracittavijānaṃ⁹⁹⁴ pubbenivāsānussati⁹⁹⁵ dibbacakkhū⁹⁹⁶ ti. vuttaṃ pi cetam anuruddhācariyena

iddhividhaṃ⁹⁹⁷ dibbasotaṃ paracittavijānaṃ⁹⁹⁸

pubbenivāsānussati⁹⁹⁹ dibbacakkhū¹⁰⁰⁰ ti pañcavidhā¹⁰⁰¹ ti.

tāsu pana *anilapathatalaṃ*¹⁰⁰² *ullaṅghitvā*¹⁰⁰³ ti vuttatā iddhividhaññaṃ¹⁰⁰⁴ eva idhāhippetam¹⁰⁰⁵.

⁹⁸⁴ patīṭṭhāpessāmī A; (kha, a) patīṭṭhāpessāmī E; patīṭṭhāpessāmī I

⁹⁸⁵ pujessāmī H; pūjessā(kha, a)mī K

⁹⁸⁶ udāhu HIK

⁹⁸⁷ abhiññāpākaṃ A; [abhiññāpādakaṃ]

⁹⁸⁸ avisesena I

⁹⁸⁹ ñāyantī H; ñāyantī I

⁹⁹⁰ [abhiññā]

⁹⁹¹ ca om. I

⁹⁹² hotī tit H

⁹⁹³ iddhividhi BFGI; iddhividhi H

⁹⁹⁴ paricittavijānaṃ EK; paricittavijānaṃ H

⁹⁹⁵ pubbenivāsānussati H

⁹⁹⁶ dibbacakkhu DH

⁹⁹⁷ iddhividhi ADEHK; iddhividhi FG

⁹⁹⁸ paricittavijānaṃ EI; paricittavijānaṃ H

⁹⁹⁹ pubbenivāsā(khī, a)nussati F; (khī, a) pubbenivāsānussati G; pubbenivāsānussati H

¹⁰⁰⁰ dibbacakkhu FHK

¹⁰⁰¹ pañcadhā ACFGJ; vuttaṃ pi cetam iddhividhi dibbasotaṃ paricittavijānaṃ pubbe nivāsānussati dibbacakkhū ti pañcadhā I

¹⁰⁰² anilapatalaṃ I

¹⁰⁰³ ullaṅghitvā FG; upalaṅghitvā I

¹⁰⁰⁴ iddhividhiññaṃ ADEGHK; iddhividhiññaṃ F; ca iddhividhiññaṃ I

¹⁰⁰⁵ idhāhippetam H

pajjati¹⁰⁰⁶ pāpuṇiyati¹⁰⁰⁷ etena¹⁰⁰⁸ jjhānena¹⁰⁰⁹ abhiññānēnā¹⁰¹⁰ ti pādaṃ. tad eva pādakaṃ. kin taṃ¹⁰¹¹.
catutthajjhānaṃ¹⁰¹². abhiññakiriyābhiññāya¹⁰¹³ āsanna-kāraṇaṃ ti attho. abhiññāpādakaṃ¹⁰¹⁴ ti abhiññāya¹⁰¹⁵
patiṭṭhānabhūtaṃ¹⁰¹⁶ ty¹⁰¹⁷ idaṃ¹⁰¹⁸ sārattadīpaniyaṃ¹⁰¹⁹ vuttaṃ.

catutthajjhānaṃ ti catunnaṃ¹⁰²⁰ puraṇaṃ¹⁰²¹ catutthaṃ paccanikadhamme¹⁰²² jhāpeti¹⁰²³
jhāyanti¹⁰²⁴ vā etena yotino¹⁰²⁵ ti¹⁰²⁶ jjhānaṃ¹⁰²⁷ gocaraṃ¹⁰²⁸ cintenti¹⁰²⁹ ti attho. sayaṃ¹⁰³⁰ vā jhāyati¹⁰³¹
upajjhāyati¹⁰³² ti¹⁰³³ jjhānaṃ¹⁰³⁴. upanijjhāyanalakkhaṇaṃ¹⁰³⁵ jjhānaṃ¹⁰³⁶ ti vuttaṃ hoti. tad etaṃ¹⁰³⁷
pana **ārammaṇūpanijjhānaṃ**¹⁰³⁸ **lakkhaṇūpanijjhānaṃ**¹⁰³⁹ ti duvidhaṃ¹⁰⁴⁰ hoti. tattha
ārammaṇūpanijjhānaṃ¹⁰⁴¹ ti saha¹⁰⁴² upacārena¹⁰⁴³ atṭhasahapattiyō¹⁰⁴⁴ vuccanti¹⁰⁴⁵. kasmā.
kasiṇārammaṇūpanijjhānato¹⁰⁴⁶. **lakkhaṇūpanijjhānaṃ**¹⁰⁴⁷ ti ettha vipassanāmaggaḥāḍāni¹⁰⁴⁸ vuccanti.
kasmā lakkhaṇūpanijjhānato¹⁰⁴⁹. ettha hi vipassanā¹⁰⁵⁰ aniccalakkhaṇādīni¹⁰⁵¹ upanijjhāyati¹⁰⁵².

¹⁰⁰⁶ pajati A; majjati G

¹⁰⁰⁷ paṇissati H

¹⁰⁰⁸ etthana D

¹⁰⁰⁹ [jjhānena AEH]

¹⁰¹⁰ abhiññānēnā G; abhaññānēnā H; abhaññāthareṇā I; [abhiññānēnā]

¹⁰¹¹ ti H

¹⁰¹² catutthajjhāna H

¹⁰¹³ abhiññakiriyābhiññāya A; abhiññakiriyābhiññāya E; abhiññakiriyā abhiññāya FGI; abhiññakiriyābhiññāya HK; [abhiññakiriyābhiññāya]

¹⁰¹⁴ abhiññāpāda(khi, a)kan C; abhiññāpāda(kaḥ, a)kan I; [abhiññāpādakaṃ]

¹⁰¹⁵ abhiññā(khi, a)ya BJ; [abhiññāya]

¹⁰¹⁶ patiṭṭhānabhūta(khi, a)tan A; patiṭṭhānabhū(khi, a)tan Z; patiṭṭhānabhūtaṃ H

¹⁰¹⁷ ty H

¹⁰¹⁸ pada H

¹⁰¹⁹ [sārattadīpaniyaṃ AEFGK]; sārattadī(khi, a)cadiyaṃ D; sāraniyaṃ H; sārādīpaniyaṃ I

¹⁰²⁰ catunna H

¹⁰²¹ puraṇa H; [pūraṇaṃ]

¹⁰²² [paccanikadhamme]

¹⁰²³ ghāpeti F; jhāpeti HI

¹⁰²⁴ ghāyanti F; jhāyanti HI

¹⁰²⁵ [yogino ABCDEFGHIJK]

¹⁰²⁶ ti om. I

¹⁰²⁷ [jjhānaṃ FK]; jjhāna HI

¹⁰²⁸ go(kam, b)cara H; goparaṃ I

¹⁰²⁹ cintenti H; cinteti K

¹⁰³⁰ saya AH; (kha, b) sayaṃ E

¹⁰³¹ jhāyati HI

¹⁰³² upanijjhāyati ADH; [upanijjhāyati CEFGI]; (kha, b) upajjhāyati K

¹⁰³³ ti om. H

¹⁰³⁴ [jjhānaṃ K]

¹⁰³⁵ upanijjhānalakkhaṇaṃ AI; uppanijjhāyanalakkhaṇaṃ D; upanijjhānalakkhaṇa H

¹⁰³⁶ [jjhānaṃ AEHK]

¹⁰³⁷ eta H

¹⁰³⁸ ārammaṇūpanijjhānaṃ DH; ārammaṇūpanijjhāna I

¹⁰³⁹ [lakkhaṇūpanijjhānaṃ ABCDEFGIK]; lakkhaṇūpanilānaṃ H

¹⁰⁴⁰ duvidha H

¹⁰⁴¹ ārammaṇūpa(khī, b)nijjhānaṃ G; ārammaṇūpanijjhānaṃ H

¹⁰⁴² (khī, b) saha F

¹⁰⁴³ upacāre H

¹⁰⁴⁴ [atṭhasahapattiyō ABCDEFGHIJK]

¹⁰⁴⁵ vuccati H

¹⁰⁴⁶ kasiṇārammaṇūpanijjhānato A; kasiṇārammaṇūpanijjhānato H

¹⁰⁴⁷ lakkhaṇūpanijjhānaṃ H

¹⁰⁴⁸ vipassanomaggaḥāḍāni I

¹⁰⁴⁹ lakkhaṇūpanijjhānato CHI

¹⁰⁵⁰ vipassinā J

¹⁰⁵¹ aniccalakkhaṇādīni BHJ

¹⁰⁵² upajjhāyati I

vipassanā¹⁰⁵³ upanijjhāyanakiccena¹⁰⁵⁴ maggena sijjhātī¹⁰⁵⁵ ti maggo¹⁰⁵⁶ lakkhaṇūpaniijhānan¹⁰⁵⁷ ti vuccati¹⁰⁵⁸ . phalaṃ¹⁰⁵⁹ pana nirodhassa tathalakkhaṇaṃ¹⁰⁶⁰ upaniijhāyati¹⁰⁶¹ tasmā lakkhaṇūpaniijhānan¹⁰⁶² ti vuccati. imasmim¹⁰⁶³ panettha¹⁰⁶⁴ ārammaṇūpaniijhānam¹⁰⁶⁵ eva jhānan¹⁰⁶⁶ ti adhippetam¹⁰⁶⁷ . idaṃ¹⁰⁶⁸ pana catutthajjhānam¹⁰⁶⁹ kesañci¹⁰⁷⁰ cittekaggaṭṭhāyī¹⁰⁷¹ hoti kesañci¹⁰⁷² vipassanāpādakaṃ¹⁰⁷³ hoti kesañci abhiñāpādakaṃ¹⁰⁷⁴ hoti kesañci¹⁰⁷⁵ nirodhapādakaṃ¹⁰⁷⁶ hoti kesañci¹⁰⁷⁷ bhavokkamanatṭhāyī¹⁰⁷⁸ hoti. tattha ca¹⁰⁷⁹ khiṇāsavānaṃ¹⁰⁸⁰ cittekattaṭṭhāyī¹⁰⁸¹ hoti.¹⁰⁸² te¹⁰⁸³ hi¹⁰⁸⁴ samāpattim¹⁰⁸⁵ samāpajjitvā¹⁰⁸⁶ ekaggacittā¹⁰⁸⁷ sukhavihāraṃ viharissamā¹⁰⁸⁸ ti iccevaṃ¹⁰⁸⁹ kasiṇaparikkammaṃ¹⁰⁹⁰ katvā imaṃ samāpattim¹⁰⁹¹ nibbattenti¹⁰⁹² tesam cittekattaṭṭhāyī¹⁰⁹³ hoti¹⁰⁹⁴ . sekkhaphuthujanānaṃ¹⁰⁹⁵ samāpattito vuṭṭhāya samāhitena¹⁰⁹⁶ cittena¹⁰⁹⁷ vipassissamā ti nibbattentānaṃ vipassanāpādakaṃ hoti. ye¹⁰⁹⁸ pana atṭhasamāpattiyo nibbattetvā abhiñāpādakaṃ¹⁰⁹⁹ jjhānaṃ¹¹⁰⁰

¹⁰⁵³ [vipassanāya]

¹⁰⁵⁴ upaniijhāyanakiccapanā H; [upaniijhāyanakiccamaṃ pana I]

¹⁰⁵⁵ sijjhātī CD; sijjhati H

¹⁰⁵⁶ mago A

¹⁰⁵⁷ lakkhaṇūpaniijhānan H

¹⁰⁵⁸ vuccati H

¹⁰⁵⁹ phala H

¹⁰⁶⁰ tathalakkhaṇa H; [tathalakkhaṇaṃ I]

¹⁰⁶¹ upaniijhāyati A

¹⁰⁶² lakkhaṇūpaniijhānan H

¹⁰⁶³ (khi, b) imasmim BCJZ

¹⁰⁶⁴ [panatthe CEFCHK]

¹⁰⁶⁵ (khi, b) ārammaṇūpaniijhānam A; ārammaṇūpaniijhānam H

¹⁰⁶⁶ [jhānan]

¹⁰⁶⁷ (khi, b) adhippetam D; *adhippetam* H

¹⁰⁶⁸ ida H

¹⁰⁶⁹ catutthajjhānam F; catutthajjhānapana H

¹⁰⁷⁰ pana kesañ E; pana kesañci K

¹⁰⁷¹ cittekaggaṭṭhāyī A; cittekaggaṭṭhāyī C; cittaṅgaṭṭhāyī H; [cittakaggaṭṭhāni]

¹⁰⁷² kesañca H

¹⁰⁷³ vipassa(kha, b)nāpādakaṃ I

¹⁰⁷⁴ abhiñā(khā, a)pādakaṃ E; [abhiñāpādakaṃ]

¹⁰⁷⁵ kesañca H

¹⁰⁷⁶ niro(khā, a)dhapādakaṃ K

¹⁰⁷⁷ kesañca H

¹⁰⁷⁸ bhavokkamanatṭhāyī A; bhavokkamanatṭhāyī C; bhavokka(khu, a)manatṭhāyī F; (khu, a) bhavokkamanatṭhāyī G;

bhavokkamanatṭhāyī I; [bhavokkamanatṭhāni]

¹⁰⁷⁹ ca om. G

¹⁰⁸⁰ [khiṇāsavānaṃ ADEFGIK]; khiṇāsavāna H

¹⁰⁸¹ cittekaggaṭṭhāyī ABDEFGHIJ; cittekaggaṭṭhāyī C; [cittakaggaṭṭhāni]

¹⁰⁸² hoti(kha, a). H

¹⁰⁸³ te om. I

¹⁰⁸⁴ hi om. I

¹⁰⁸⁵ samāpattī F; sapatti H; samāpattim om. I

¹⁰⁸⁶ sāmāpajjitvā C; samāpajjatvā F; sahapajjitvā H

¹⁰⁸⁷ ekkaggacittā H; ekaggacittā om. I

¹⁰⁸⁸ viharissamā C

¹⁰⁸⁹ icceva HI

¹⁰⁹⁰ kasiṇaparikkamma H

¹⁰⁹¹ samāpatti H

¹⁰⁹² nabbattenti H

¹⁰⁹³ cittekaggaṭṭhāyī BDEFGHIJK; cittekaggaṭṭhāyī C; [cittakaggaṭṭhāni]

¹⁰⁹⁴ hoti ti I

¹⁰⁹⁵ sekkhaphuthujanānaṃ AK; sekkhaphuthujanānaṃ I

¹⁰⁹⁶ sahitena F

¹⁰⁹⁷ cittena om. A; citte H

¹⁰⁹⁸ yena DK

samāpajjitvā¹¹⁰¹ samāpattito vuttāya eko pi hutvā bahudhā¹¹⁰² hotī ti vuttanayena abhiñāyo¹¹⁰³
nibbattenti tesam abhiñāpādakaṃ¹¹⁰⁴ hoti¹¹⁰⁵. ye¹¹⁰⁶ pana aṭṭhasamāpattiyo¹¹⁰⁷ nibbattetvā¹¹⁰⁸
nirodhasamāpattim¹¹⁰⁹ samāpajjitvā sattāham¹¹¹⁰ acittā¹¹¹¹ hutvā diṭṭheva dhamme nibbānaṃ¹¹¹² patvā
sukhavihāraṃ¹¹¹³ viharissāmā¹¹¹⁴ ti nibbattenti tesam¹¹¹⁵ nirodhapādakaṃ hoti. ye pana aṭṭhasamāpattiyo
nibbattetvā aparihinijjhāno¹¹¹⁶ brahmaloke¹¹¹⁷ uppajjissāmā¹¹¹⁸ ti nibbattenti tesam¹¹¹⁹
bhavokkamanatthāyī¹¹²⁰ hoti. bhagavato¹¹²¹ panidaṃ¹¹²² catutthajjhānaṃ¹¹²³ bodhimūle¹¹²⁴
nibbattitaṃ¹¹²⁵ taṃ¹¹²⁶ tassa vipassanāpādakaṃ¹¹²⁷ ceva ahosi¹¹²⁸, abhiñāpādakaṃ¹¹²⁹ ca nirodhapādakaṃ
ca¹¹³⁰ sabbakiccaśadhakaṃ¹¹³¹ sabbalokiyalokuttaraṇadāyakaṃ¹¹³² ti vedītabbaṃ. imassa
mālayadevattherassa¹¹³³ panidaṃ¹¹³⁴ catutthajjhānaṃ abhiñāpādakappahonakaṃ¹¹³⁵ tasmā
abhiñāpādakaṃ catutthajjhānaṃ tidaṃ¹¹³⁶ vuttaṃ. **catutthajjhānaṃ**¹¹³⁷ tidaṃ¹¹³⁸
catukkanayadesanāya¹¹³⁹ vuttan¹¹⁴⁰ ti datṭhabbaṃ. pañcakanayadesanāya¹¹⁴¹ hi pañcamajjhānaṃ¹¹⁴² eva

¹⁰⁹⁹ abhiñāpādaka D; [abhiñāpādakaṃ]
¹¹⁰⁰ jjhā F; jjhānaṃ ~ abhiñāpādakaṃ om. I; [jjhānaṃ K]
¹¹⁰¹ sammāpajjitvā H
¹¹⁰² bahudā G; bahuvā H
¹¹⁰³ [abhiñāyo]
¹¹⁰⁴ abhiñāpādaka H; jjhānaṃ ~ abhiñāpādakaṃ om. I; [abhiñāpādakaṃ]
¹¹⁰⁵ (khī, a) hoti C
¹¹⁰⁶ (khī, a) ye BDJ
¹¹⁰⁷ (khī, a) aṭṭhasamāpattiyo A; aṭṭhasa(khī, a)māpattiyo Z
¹¹⁰⁸ nibbattatvā H
¹¹⁰⁹ nirodhasamāpatti H
¹¹¹⁰ sattāha H
¹¹¹¹ acitā A
¹¹¹² nibbāna H
¹¹¹³ sukha H
¹¹¹⁴ viharissāmā H
¹¹¹⁵ te(khu, b)saṃ FG
¹¹¹⁶ aparihinajjhāno ABCDEH; aparihinajjhānā FGI; aparihinajjhāno K; [aparihinajjhānā]
¹¹¹⁷ brahmaloke C; brāhmaloke GH
¹¹¹⁸ uppajjissāmā A; upajjissāmā BCDIJ; upajjissā(khā, b)mā E; upajjissāmā H; (khā, b) upajjissāmā K
¹¹¹⁹ tesa H
¹¹²⁰ bhavokkamanatthāyī C; [bhavokkamanatthāni]
¹¹²¹ [bhagavatā FG]
¹¹²² panidaṃ E; panida H
¹¹²³ catutthajjhānaṃ FJ; catutthajjhāna H
¹¹²⁴ bodhimūle AH
¹¹²⁵ nibbattikaṃ K
¹¹²⁶ taṃ om. H
¹¹²⁷ vipassanāpādakaṃ D; vipassanāpādakaṃ EHK; (kha, a) vipassanāpādakaṃ I
¹¹²⁸ hosi F
¹¹²⁹ abhiñāpādakaṃ I; [abhiñāpādakaṃ]
¹¹³⁰ cā A
¹¹³¹ abbakiccaśadhaka H
¹¹³² sa(kah, b)balokiyalokuttaraṇadāyakaṃ H
¹¹³³ mālayadevattherassa A; mālayadevattherassa EK
¹¹³⁴ panidaṃ E
¹¹³⁵ abhiñāpādakampahonakaṃ A; abhiñāpādakampahonakaṃ D; hoti I
¹¹³⁶ ty idaṃ I
¹¹³⁷ catutthajjhānaṃ F
¹¹³⁸ ty idaṃ I
¹¹³⁹ catukkanayadesanāya B
¹¹⁴⁰ vuttaṃ HK
¹¹⁴¹ pañcakanayadesanā EK; pañcakanadesanā H; pañcakanayadesanāya I
¹¹⁴² pañcapajjhānaṃ H

nāma¹¹⁴³ pathamadutiyaatiyesu¹¹⁴⁴ jhānesu¹¹⁴⁵ pana abhiñāpādakakiccaṃ¹¹⁴⁶ natthi¹¹⁴⁷ ti vuttaṃ
catutthajjhānaṃ ti.

*samāpajjivā*¹¹⁴⁸ ti pavattetvā¹¹⁴⁹ pavisitvā¹¹⁵⁰ . bhavaṅgehi avokkiṇṇaṃ¹¹⁵¹ katvā¹¹⁵² .
jjhānuppatti¹¹⁵³ yeva hi¹¹⁵⁴ samāpajjanaṃ¹¹⁵⁵ nāma.

tato ti tato samāpannajjhānato¹¹⁵⁶ .

vuṭṭhāyā ti vuṭṭhahitvā ito¹¹⁵⁷ jjhānato¹¹⁵⁸ nivattitvā¹¹⁵⁹ bhavaṅge thatvā¹¹⁶⁰ ti attho.
bhavaṅgupatti¹¹⁶¹ yeva hi vuṭṭhānaṃ¹¹⁶² nāma¹¹⁶³ .

*abhiñāpādakaṃ*¹¹⁶⁴ *samāpajjivā* ti ayaṃ¹¹⁶⁵ kamo. ādi¹¹⁶⁶ eva dve bhavaṅgacalanā ekam¹¹⁶⁷
āvajjanaṃ¹¹⁶⁸ caturojavanā¹¹⁶⁹ tesam ante abhiñāpādakasamkhātaṃ¹¹⁷⁰ catutthajjhānaṃ¹¹⁷¹
samāpajjivā¹¹⁷² vuṭṭhāya ca¹¹⁷³ bhavaṅgavārā¹¹⁷⁴ antā¹¹⁷⁵ tesam ante¹¹⁷⁶ dve¹¹⁷⁷ bhavaṅgacalanā ekam¹¹⁷⁸
āvajjanaṃ¹¹⁷⁸ tato iminā maggena gamissāmi¹¹⁷⁹ ti parivittakkaṃ¹¹⁸⁰ nāma sattajavanātadanantarā¹¹⁸¹
bhavaṅgā¹¹⁸² puna¹¹⁸³ javanā. atha parikkammāvasāne bhavaṅgacalanā ekam āvajjanaṃ¹¹⁸⁴ cattāro¹¹⁸⁵

¹¹⁴³ nā K
¹¹⁴⁴ pathamadutiya(khī, b)tatiyesu A; pathamaduti(khī, b)yatiyesu BJ; pathamadutiyaatiye(khī, b)su C; pathamadutiyaati(khī, b)yesu D; paṭṭhapadatiyaatiyesu H; paṭṭhamadatiyaatiyesu K; [paṭṭhamadutiyaatiyesu]
¹¹⁴⁵ jhānesu AEHK
¹¹⁴⁶ abhiñāpādakaṃ EHIK; abhiñāpā(khī, b)dakakiccaṃ Z; [abhiñāpādakakiccaṃ]
¹¹⁴⁷ nitthi H
¹¹⁴⁸ sa(khū, a)māpajjivā G
¹¹⁴⁹ pa(khū, a)vattetvā F; pavattetvā om. HI
¹¹⁵⁰ pavattetvā pavisitvā A; pavisitvā C; pavesitvā H; vasesitvā I
¹¹⁵¹ akkiṇṇaṃ A; avokkiṇṇa H; [avokkiṇṇaṃ I]
¹¹⁵² katvā FG
¹¹⁵³ jjhānuppatti AE; jānuppatti H; jjhānapatti I; jānuppatti K; [jjhānuppatti]
¹¹⁵⁴ hi om. I
¹¹⁵⁵ samāpajjana H
¹¹⁵⁶ samāpannajjhānato EK; samāpanaghānato H
¹¹⁵⁷ ito om. I
¹¹⁵⁸ [jjhānato EK]; ghānato H
¹¹⁵⁹ navattitvā A
¹¹⁶⁰ tthatvā EHI; [thatvā K]
¹¹⁶¹ bhavaṅgappatti H; bhavaṅgupatti K
¹¹⁶² tthā H
¹¹⁶³ nama H
¹¹⁶⁴ abhiñāpādaka H; [abhiñāpādakaṃ]
¹¹⁶⁵ (khi, a) ayaṃ E
¹¹⁶⁶ (khi, a) ādi K
¹¹⁶⁷ eka H
¹¹⁶⁸ āvajjana H; āvajjanaṃ K
¹¹⁶⁹ cattārojavanā I
¹¹⁷⁰ abhiñāpādakaṃ samkhātaṃ CJ; abhiñāpādakasakhātaṃ H
¹¹⁷¹ catutthajjhāna H
¹¹⁷² samāpajjivā D
¹¹⁷³ catu EK
¹¹⁷⁴ bhavaṅgavāvā I
¹¹⁷⁵ anantā K
¹¹⁷⁶ (kha, b) ante I
¹¹⁷⁷ de H
¹¹⁷⁸ āvajjana H
¹¹⁷⁹ gamissāmi DH
¹¹⁸⁰ parivittakkaṃ G; parivittakka H
¹¹⁸¹ sattajavanātadantarā A; sattajavanātadantarā G; sattavajjanātadantarā I
¹¹⁸² bhavaṅgaṃ EK; bhavaṅga H
¹¹⁸³ muna D
¹¹⁸⁴ āvajjana H

pubbabhāgejavānā¹¹⁸⁶ tesam avasāne adhiṭṭhānasamkhātā¹¹⁸⁷ abhiñācatutthajjhānā¹¹⁸⁸ samāpajjati¹¹⁸⁹
aniyamo¹¹⁹⁰ ty idaṃ¹¹⁹¹ visuddhimaggagaṇṭhipade¹¹⁹² vuttaṃ.

*accharasamghātamattam*¹¹⁹³ *eva culāmaṇicetiyaṅgaṇe*¹¹⁹⁴ pāturahosī¹¹⁹⁵ ti sambandho.

sattaratana. gha¹¹⁹⁶. nagaramajjhe sakalasuretaṅgānā¹¹⁹⁷ pūjanatthāya¹¹⁹⁸ pasādapatitthāpitan¹¹⁹⁹ ti
sambandho.

tena kāraṇena idaṃ¹²⁰⁰ gāthābandhanavacanā¹²⁰¹ porāṇehi vuttaṃ.

*samāpajjitvā*¹²⁰² ti¹²⁰³ vattabbe gāthābandhanassa¹²⁰⁴ lahupaṅcamavasena¹²⁰⁵
ākārassattā¹²⁰⁶ samāpajjitvā¹²⁰⁷ iccevaṃ¹²⁰⁸ vuttaṃ. khattā¹²⁰⁹ banditvā¹²¹⁰ vā¹²¹¹
mato¹²¹² ty ādisu¹²¹³ viya.

vuttaṃ¹²¹⁴ pi cetāṃ.

paṅcamā¹²¹⁵ lahu¹²¹⁶ sabbattha sattamaṃ¹²¹⁷ dvicatutthinaṃ¹²¹⁸

chaṭṭhan taṃ¹²¹⁹ gurupādānaṃ¹²²⁰ sesātv aniyamā matā ti.

¹¹⁸⁵ cattaro AI
¹¹⁸⁶ pubbabhāgejavānā EHK
¹¹⁸⁷ adhiṭṭhānaṃ samkhātā C; adhiṭṭhānasamkhātā H
¹¹⁸⁸ a(khu, a)abhiñācatutthajjhānā A; abhiñācatutthajjhā(khu, a)naṃ CJ; abhiñācatuttha(kha, a)jjhānā H; abhiñācatutthantyaṅgā I
¹¹⁸⁹ (khu, a) samāpajjati B; samāpajati H; samāpajja(khu, a)ti Z
¹¹⁹⁰ (khu, a) aniyamo D; ayaṃ niyamo I
¹¹⁹¹ adaṃ H; ivadaṃ K
¹¹⁹² suddhimaggagaṇṭhipade A; visuddhimaggagaṇṭhipade BCEJ; vi(khū, b)suddhimaggagaṇṭhipade F; (khū, b)
visuddhimaggagaṇṭhipade G; visuddhimaggagaṇṭhipade G
¹¹⁹³ accharasamghātapamattam A; accharasamghātamaggam K
¹¹⁹⁴ caḷāmaṇicetiyaṅgaṇe H; [cūlāmaṇicetiyaṅgaṇam]
¹¹⁹⁵ pāturahosi H
¹¹⁹⁶ pa ADFG; [la EK]; dha H
¹¹⁹⁷ [sakalasuregaṇāṇam ABCDEFGJK]; sakalasuregaṇāna H; sakalasuregaṇāṇam I
¹¹⁹⁸ pūjanatthā A; pujanatthāya DH
¹¹⁹⁹ padatitthāpitan A; casādarapatitthāpitan H
¹²⁰⁰ ida H
¹²⁰¹ gāthābandhanavacanā EK; gāthābandhanavacanā GI; gāthābandhana H
¹²⁰² [samāpajjitva]
¹²⁰³ iti EH; tīti K
¹²⁰⁴ gāthābandhanassa A; gāthābandhassa EHK; gāthābandhassa I
¹²⁰⁵ lahupaṅcamavasena C; lapaṅcamavasena F; lapaṅcapavasena H
¹²⁰⁶ ākāsattā A; ākārassattā D; ānārassatta H
¹²⁰⁷ samāpajjitvā H
¹²⁰⁸ iceva H; icceva I
¹²⁰⁹ [khaggaṃ ABCDEFGHIJK]; khagga H
¹²¹⁰ bandhitvā ABCEFGIK; bandhi D; bandhitvā H; banditvā J; [bandhitva]
¹²¹¹ vā om. GJ
¹²¹² to H
¹²¹³ ādisu AH; ā(khi, b)disu E; ādi(khi, b)su K
¹²¹⁴ vutta H
¹²¹⁵ paṅcama BJ
¹²¹⁶ laha H
¹²¹⁷ sattaṃmaṃ D; sattamaṃ H
¹²¹⁸ dvicatutthinaṃ AFGK; ddhicatutthinaṃ D; ddhicatutthinaṃ E; dacatutthina H
¹²¹⁹ naṃ I
¹²²⁰ gūrapādānaṃ A; garupādānaṃ EI; garapādānaṃ H

tena vuttam:

abhiññāpādakaṃ jhānaṃ samāpajjitvā jhānato
vutthāya hemamaṃseva nabhaṃ *uttamma tāvade*
accharāsaṅghātamattaṃ va Vejayantassa purato
cetiyaṃ upagantvāna pūjitvā va avandi so ti.

*uggammā*¹²²¹ ti abbhūgantvā¹²²².

tāvad evā ti tasmim¹²²³ khane.¹²²⁴

tasmim khane Sakko devarājā saha parivārehi āgantvā bhagavato dakkhiṇadāṭhañ ca Cūḷamaṇicetiyañ ca nānāvidhehi mālāgandhavilepanādīhi pūjetvā taṃ theram nisinnaṃ disvā upasankamitvā vanditvā ekamantaṃ nisīdi. sabbā devaparisā ca cetiyaṃ vanditvā padakkhiṇaṃ katvā theram vanditvā samantato niīdimṣu. sabbā pi devaccharā cetiyaṃ pūjetvā vanditvā padakkhiṇaṃ katvā *pañcapatīṭhitena* theram vanditvā samantato nisidimṣu.

*pañcapatīṭhitena*¹²²⁵ ti dvejānukādvejānukādvekappurānalātasamkhātena¹²²⁶
pañcaṅgapatīṭhitena¹²²⁷.

Sakko devarājā theram pucchi “bhante, kuto agacchathā” ti. “mahārāja, ahaṃ Jambūdīpāgato ’mhi cetiyaṃ vandanatthāyā” ti. puna thero Sakkaṃ devārājānaṃ pucchi “kiṃ tayā Cūḷamaṇicetiyaṃ patīṭṭhāpitaṃ, mahārāja” ti. “āma, bhante, mayā devānaṃ pūjanatthāya patīṭṭhāpitaṃ” ti. thero “devarāja, ime devā manussaloke kusalakammaṃ katvā dibbasukhaṃ anubhavitum idha nibbattā idāni kasmā puññaṃ karontī” ti pucchi. “bhante, ime devā kusalakammaṃ katvā upari devalokaṃ gantukāmā va honti. bhante, ye keci devā appapuñña te na ciraṃ sagge ṭhitā yathā appadhañña doṇe ṭhapitā khippam

¹²²¹ uggamā IK

¹²²² [abbhūgantvā ACDEHK]; abbhūgantvā FG; abbhūgantvā I

¹²²³ tasmī H

¹²²⁴ khane(khā, a). I

¹²²⁵ pañcapatīṭhitena H

¹²²⁶ dvejānukādvekappurānalātasamkhātena E; dvejānukappuvānalātasamkhātena H; dvejānukādvekappurānalātasamkhātena I; dvejānukappuvānalātasamkhātena K; [dvejānukādvekappurānalātasamkhātena]

¹²²⁷ pañcaṅgapatīṭhitena D; pañcaṅgapatīṭhitena I

eva khiyanti. bhante, ye keci devā bahūpuññā te ciraṃ sagge ʒhitā yathā bahūdhaññā koṭṭhe ʒhapitā ciraṃ ʒhatvā na khiyanti. bhante, yathā appadhaññā janā bahūsippā bahuñāṇino kasivanijjādīni karontā jīvantā na dukkarā honti tathā appapuññā devā phalaṃ bhuñjitvā puna paraṃ puññaṃ katvā pacchā saggasampattim anubhavanti. bhante, yathā bahūdhaññā janā asippā aññāṇino kasivanijjādīni akarontā khīṇadhaññā pacchā daliddakatarā honti evaṃ pi bahūpuññā devā phalaṃ anubhavantā paraṃ puññaṃ akatvā pacchā daliddakappattā jātā. bhante, yathā appadhaññā janā asippā aññāṇino kasivanijjādīni akarontā daliddakatarā honti evaṃ pi appapuññā devā phalaṃ anubhavantā paraṃ puññaṃ akatvā daliddakatarā honti. bhante, yathā bahūdhaññā janā bahūsippā bahuñāṇino kasivanijjādīni karontā bhīyyoso mattāya vaḍhanti evaṃ pi bahūpuññā devā dānasīlādīni karontā uddhamsotā vaḍhanti yāva nibbānan” ti. taṃ sutvā thero pasīditvā Sujampatiṃ pucchi “mahārāja, sabbe devā bhagavato cetiyaṃ vanditūṃ āgatā; kim Ariyametteyyo bodhisatto āgamissatī” ti. “āma, bhante” ti. “kadā āgamissatī” ti. “bhante, aṭṭhamiyaṃ vā cātuddasiyaṃ vā paṇṇarasiyaṃ vā Metteyyo cetiyaṃ vanditūṃ āgato” ti. “tena hi ajja aṭṭhamiyaṃ kiṃ so āgamissatī” ti. “āma, bhante” ti.

evaṃ there Sakkena saddhiṃ kathente yeva eko devaputto sataparivārehi saddhiṃ cetiyaṃ vandanatthāya āgato. thero taṃ devaputtam āgataṃ disvā Sujampatiṃ pucchi “devarāja, ayaṃ kiṃ Metteyyo bodhisatto” ti. “n’ eso, bhante” ti. “katamo, mahārāja” ti. “*aññataro*, bhante” ti. “devarāja. ayaṃ devaputto pubbe manussaloke kim akāsi puññan” ti. Sakko tassa puññakammaṃ ācikkhanto imaṃ gātham āha:

*aññataro*¹²²⁸ ti nāmagottavasena¹²²⁹ apākaṭo¹²³⁰.

bhante so mānuse jāto daliddo tiṇahārako
bhattapūṭaṇ ca bhuñjitvā *kāke* dajj’ ekapiṇḍikaṃ
ettakaṃ puññakammaṃ pi katvā so mānuse pana
marañante saritvā taṃ tena so upapajjati ti.

¹²²⁸ [aññataro]

¹²²⁹ nāmagottavasena I

¹²³⁰ (khe, a) apākaṭo G

*kāke*¹²³¹ ti ettha sampadānatthe¹²³² bhūmmavacanam¹²³³. kākassā¹²³⁴ ti¹²³⁵ attho.
*maraṇante*¹²³⁶ ti maraṇakāle¹²³⁷ maraṇāsannakāle ti attho.

tena vuttaṃ:

*tena vuttaṃ*¹²³⁸ ty¹²³⁹ attho¹²⁴⁰ yena kāraṇena dakkhiṇāvibhaṅgasutte
tatrānanda¹²⁴¹ tiracchānagato¹²⁴² dānaṃ deti **sataguṇā**¹²⁴³ dakkhiṇā **pāṭikaṅkhitabbā**¹²⁴⁴ ti
vuttaṃ bhagavatā tena¹²⁴⁵ kāraṇena idaṃ¹²⁴⁶ gāthābandhavacanam¹²⁴⁷ vā porāṇehi ācariyahi¹²⁴⁸ vuttaṃ
kathitaṃ.

kākādike tiracchāne dānaṃ datvāna koci pi
tass' eva dānassa phalaṃ satam labhati dāyako ti.

kākādike tiracchāne ti ettha¹²⁴⁹ pi sampadānatthe¹²⁵⁰ bhūmmavacanam¹²⁵¹. kākādikassa¹²⁵²
tiracchānassā¹²⁵³ ti vuttaṃ hoti.

tasseva dānaphalan¹²⁵⁴ ti etassa¹²⁵⁵ eva dānassa¹²⁵⁶ āyu-ādipaṇcānisamsam¹²⁵⁷.
satan¹²⁵⁸ ti satajātisu¹²⁵⁹ attabhāvesu¹²⁶⁰ vā¹²⁶¹,

dakkhiṇāvibhaṅgasuttaṭṭhakathāyam¹²⁶² pi vuttaṃ.

1231 (khe, a) kāke F
1232 sampa(khu, b)dānatthe A; sampadonatthe D
1233 [bhūmmavacanam H]; bhūmmavacanam I
1234 (khu, b) kākassā C
1235 (khu, b) ti BJ
1236 marante F; (khu, b) maraṇante Z
1237 (khu, b) maraṇakāle D
1238 vuttan EFGKI
1239 ti FG
1240 attho om. FG
1241 tatrānandha G
1242 [tiracchānagate BCDEFGHIJK]
1243 sata(kha, b)guṇā H
1244 pāṭikaṅgitabbā ABJ; pāṭikaṅkhitabbā CDEFGK; pāṭikakhitabbā H
1245 tāna D
1246 ida H
1247 gāthābandhavacanam DI; gāthābandhamvacanam E; gāthābandanavacanam F; gāthābandhanavacanam G; gāthābandham K
1248 ācariyehi AB; ācariyehi CDFGIJ; ācariyehi om. EHK
1249 etthā GI
1250 sappadānatthe F
1251 bhūmmavacanam CDFGK; bhūmmavacanam I; bhūmmavacanam J
1252 kākādakassa D; kākādikassā F
1253 tiracchānagatassā I
1254 [dānassa phalan FGI]
1255 tassa H
1256 dānaṃssa H
1257 [āyu-ādipaṇcānisamsam ABCDEFGHIJ]; āyudipaṇcānisamsam K
1258 (khī, a) satan E
1259 satajātimsu GJ; satajātisu H
1260 (khī, a) attabhāvesu K; attabhāvo I
1261 vā ti E

sataguṇā ti satānisamsā¹²⁶³. **pāṭikamkhitabbā**¹²⁶⁴ ti icchitabbā¹²⁶⁵. idaṃ vuttaṃ hoti.
ayaṃ dakkhiṇā āyusataṃ¹²⁶⁶ vaṇṇasataṃ¹²⁶⁷ sukhasataṃ¹²⁶⁸ balasataṃ¹²⁶⁹
patibhānasatan¹²⁷⁰ ti pañcānisamsāni deti. āyusataṃ¹²⁷¹ nāma attabhāvasate¹²⁷² āyuṃ¹²⁷³
deti¹²⁷⁴ tadā¹²⁷⁵ vaṇṇaṃ¹²⁷⁶ sukhaṃ¹²⁷⁷ balaṃ¹²⁷⁸ patibhānaṃ¹²⁷⁹ deti¹²⁸⁰ ti.

so devaputto āgantvā cetiyaṃ padakkhiṇaṃ katvā aṭṭhadisāsu vanditvā gandhamālādīhi
pūjetvā pācīnadisābhāge nisīdi.

tadanantare eko devaputto saḥassaparivārehi saddhim āgantvā bhagavato cetiyaṃ
pūjanatthāya sarīrobhasena sabbā disā obhāseti. therō taṃ disvā Sujampatiṃ pucchi
“devarāja, ayaṃ kiṃ Metteyyo bodhisatto” ti. “n’ eso, bhante” ti. “katamo, mahārājā” ti.
“aññataro, bhante” ti. “devarāja, ayaṃ devaputto pubbe manussaloke kim akāsi puññaṃ”
ti. Sakko tassa puññakammaṃ ācikkhanto imaṃ gātham āha:

bhante so mānuse jāto Gopālo nāma māṇavo
bhuñjanto attano bhāgaṃ deti gopālakassa ca
tena dānena so jāto saḥassaparivārīto
cetiyaṃ vandanatthāya saḥassen’ eva āgato ti.

tena vuttaṃ:

tena¹²⁸¹ **vuttan** ti yena kāraṇena taṃ¹²⁸² vacanaṃ dakkhiṇāvibhaṅgasutte¹²⁸³
puthujjanadusīle¹²⁸⁴ dānaṃ deti saḥsaguṇā dakkhiṇā pāṭikamkhitabbā¹²⁸⁵ ti

¹²⁶² dakkhiṇāvībhāṅgasuttatṭhakathāyam J
¹²⁶³ satānisasā BJ
¹²⁶⁴ pāṭikakkhitabbā A; pāṭikamkhitabbā E; pāṭikaṅkhitabbā I
¹²⁶⁵ icchitabbāt H
¹²⁶⁶ āyusata H
¹²⁶⁷ vaṇṇasattam H
¹²⁶⁸ su(khe, b)khasataṃ F; (khe, b) patibhānasatan G; [patibhānasatan]
¹²⁶⁹ (khā, b) balasataṃ I
¹²⁷⁰ patibhānasatan F; matibhānasatam H
¹²⁷¹ (khū, a) āyusataṃ A
¹²⁷² a(khū, a)ttabhāvasate C; atthabhāvasate H
¹²⁷³ (khū, a) āyuṃ BJ; āyu DHI
¹²⁷⁴ de(khū, a)ti Z
¹²⁷⁵ [tathā ABDEFGHIJK]
¹²⁷⁶ vaṇṇa H
¹²⁷⁷ sukha H
¹²⁷⁸ bala H
¹²⁷⁹ patibhā(khū, a)naṃ D; patibhāna EH; patibhānaṃ FG; patibhānaṃ K; [patibhānaṃ]
¹²⁸⁰ deti H
¹²⁸¹ te F
¹²⁸² ta H
¹²⁸³ dakkhiṇāvibhaṅgasatte H

vuttavacanena sameti tena kāraṇena¹²⁸⁶ idaṃ gāthābandhanaṃ¹²⁸⁷ porāṇācariyehi¹²⁸⁸ vuttaṃ.

asīle appapuññesu dānaṃ datvāna koci pi
tass' eva dānassa phalaṃ sahaṃsaṃ paṭilabhatī ti.

*asīle*¹²⁸⁹ ti nisīle¹²⁹⁰. tena pāpatopālakevaṭṭhamacchabandhādayo¹²⁹¹ parapiḷāya¹²⁹² jivitaṃ¹²⁹³
kappetāro¹²⁹⁴ jane saṅgaṇhanti¹²⁹⁵. sesaṃ¹²⁹⁶ vuttattham eva.

so āgantvā cetiyaṃ padakkhiṇaṃ katvā aṭṭhadisāsu vanditvā gandhamālādīhi pujetvā
pacchimadisābhāge nisīdi.

aparo devaputto dasasahassaparivārehi āgantvā mahantena sarīrobhāsena
sakalacetiyamaṇḍalam obhāseti. thero tam āgataṃ disvā Sujampatiṃ pucchi “devarāja,
ayaṃ kiṃ devaputto Metteyyo bodhisatto” ti. "n' eso, bhante" ti. "katamo, mahārāja" ti.
"aññataro, bhante" ti. “mahārāja, ayaṃ devaputto pubbe manussaloke kim akāsi puññaṃ”
ti. Sakko tassa puññakammaṃ kathento imaṃ gātham āha:

bhikkhaṃ datvā pure bhante sāmaṇerassa sīlino
tena puññavipākena cavitvā saggam āgato ti.

tena vuttaṃ:

tena vuttaṃ ti yena kāraṇena dakkhiṇāvibhaṅgasuttante

puthujjanasīlavante¹²⁹⁷ dānaṃ deti dasasahassaguṇā dakkhiṇā pāṭikaṃkhitabbā¹²⁹⁸ ti
vacanaṃ bhagavato¹²⁹⁹ vuttaṃ, tena kāraṇena¹³⁰⁰ idaṃ vacanaṃ¹³⁰¹ porāṇehi¹³⁰² vuttaṃ.

¹²⁸⁴ puthujanadusīle AC; puthujanadusīle DK; puthujanadussīle EF; puthujanadussīle G; puthujanadusīle H; puthujanadussīle I

¹²⁸⁵ pāṭikaṃkhitabbā AI; pāṭikaṃkhitabbā E; pāṭakakhitabbā H

¹²⁸⁶ [kāraṇena ABCDEFGHIJK]

¹²⁸⁷ gāthābandhanaṃ I

¹²⁸⁸ poṇācarayehi H

¹²⁸⁹ [asīle DEFGK]

¹²⁹⁰ [nisīle DEK]; nissīle F; nissīle G

¹²⁹¹ pāpagopālakevaṭṭhamacchabandhādayo A; [pāpagopālakevaṭṭhamacchabandhādayo BCDEFHJ];

pāpagopālakevaṭṭhamacchabandhādayo G; pāpakevajjamacchabandhādayo I; pāpatopālakevaṭṭhamacchabandhādayo K

¹²⁹² paramiḷāya H; parapaṇavadhāya I

¹²⁹³ [jivitaṃ EFGK]

¹²⁹⁴ kappe(khā, a)tāro H

¹²⁹⁵ saṅgaṇhanti EH; saṅgaṇhanti K

¹²⁹⁶ sesa I

¹²⁹⁷ puthujjanasīlavante ADK; puthujjanasīlavante CHI

¹²⁹⁸ pāṭikakhitabbā H; pāṭikaṃkhitabbā I

¹²⁹⁹ bhagavatā ACDEFGHIK

puthujane sīlavante dānaṃ datvāna koci pi
tass' eva *dasasahassaṃ phalaṃ* labhati dāyako ti.

*puthujane*¹³⁰³ *sīlavante*¹³⁰⁴ ti sāmaṇeraṃ sandhāyāha.

dakkhiṇāvibhaṅgaṭṭhakathāyaṃ¹³⁰⁵ pana

puthujjanasīlavā¹³⁰⁶ ti¹³⁰⁷ puthujjanasīlavā¹³⁰⁸ nāma tosīladhātuko¹³⁰⁹ hoti asatho¹³¹⁰
amāyāvī¹³¹¹ ca¹³¹² paraṃ¹³¹³ apiḷetvā¹³¹⁴ dhammena samena¹³¹⁵ kasīvaṇijjāya¹³¹⁶ ca¹³¹⁷
jīvitam¹³¹⁸ kappetāro¹³¹⁹ ti

ca¹³²⁰ vuttam. taṃ avisesena vuttan ti daṭṭhabbam.

*dasasahassaṃ*¹³²¹ ti¹³²² dasasahassesu¹³²³ jātīsu¹³²⁴ attabhāvesu¹³²⁵ vā.

*phalan*¹³²⁶ ti āyuvaṇṇasukhabalapatibhāṇasaṃkhātāṃ¹³²⁷ ānisaṃsapañcakaṃ¹³²⁸.

so āgantvā cetiyaṃ padakkhiṇaṃ katvā aṭṭhadisāsu vanditvā gandhamālādīhi pūjetvā
dakkhiṇadisābhāge nisīdi.

¹³⁰⁰ (khī, b) kāraṇena E; kāraṇe(khī, b)na K

¹³⁰¹ vacana I

¹³⁰² (khai, a) porāṇehi FG

¹³⁰³ puthujane ACDIK

¹³⁰⁴ silavante ACFHI

¹³⁰⁵ dakkhiṇāvibhaṅgaṭṭhakathāya I

¹³⁰⁶ puthujjanasīlavā AC; puthujjanasīlavā D; puthujjanasīlavā om. EIK; puthujjanasīlavā H

¹³⁰⁷ ti om. EIK; ta H

¹³⁰⁸ puthujjanasīlavā ACI; puthujjanasīlavā DK; puthujjanasīlavā H

¹³⁰⁹ to(khū, b)sīladhātuko A; tosīladhātuko CEH; kosīladhātuko I; [gosīladhātuko]

¹³¹⁰ (khū, b) asatho C; [asatho]

¹³¹¹ amāyāvī A; amāyāv(khū, b)ī B; ahayāvī DF; amāyāvī H; asa(khi, a)māyāvī I

¹³¹² ca om. I

¹³¹³ caraṃ I; (khū, b) paraṃ J

¹³¹⁴ a(khū, b)piḷetvā DZ; [apiḷetvā]

¹³¹⁵ samena om. H; sammena I

¹³¹⁶ kasīvaṇijjāya ACDE; kasīvaṇijjāya B; kasīvaṇijjāya FGI; kkasīvaṇijjāya H; kasīvaṇijjāya K

¹³¹⁷ pa CDI; ca om. EK

¹³¹⁸ [jīvitam DEFGK]

¹³¹⁹ kappetā I

¹³²⁰ ca om. EFGHIK

¹³²¹ dassasahassaṃ A; dasasahassaṃ om. D; dasasahassesu EK

¹³²² ti om. D

¹³²³ dasasahassasu D; dassasahassesu E

¹³²⁴ jātīsu H

¹³²⁵ aggabhāvesu J

¹³²⁶ balan I

¹³²⁷ āyuvaṇṇasukhabalapatibhāṇasaṃkhātāṃ FGJ; āyuvaṇṇaṃ sukhabalapatibhāṇasaṃkhātāṃ H

¹³²⁸ ānisaṃsapañcakaṃ HI

aparo devaputto vīsatisahassaparivārehi āgantvā mahantena sarīrobhāsena ābharaṇena ca ākāsamaṇḍalam obhāseti. therō taṃ āgataṃ disvā Sujampatiṃ pucchi “devarāja, ayaṃ devaputto Ariyametteyyo bodhisatto” ti. “n’ eso, bhante” ti. “katamo, mahārājā” ti. “aññataro, bhante” ti. “devarāja, ayaṃ devaputto pubbe manussaloke kim akāsi puññaṃ” ti. Sakko tassa puññaṃkammaṃ pakāseto imaṃ gātham āha:

bhikkhaṃ datvā tadā eso ***piṇḍapātikabhikkhuno***
ten’ eva puññaṃkammaṃ cavitvā ***saggam āgato*** ti.

piṇḍipātikabhikkhuno¹³²⁹ ti madam¹³³⁰ eva sandhāya ***bhikkhan***¹³³¹ ti vuttam bhikkhayitabbam¹³³² yācitabban¹³³³ ti bhikkham¹³³⁴. annādivatthu¹³³⁵.

sattam¹³³⁶ ***āgato*** ti paṭisandhivasena¹³³⁷ sattam¹³³⁸ tāvatimsavabhanam¹³³⁹ ātato¹³⁴⁰.

tena vuttam:

bhikkhuno sīlavantassa dānaṃ datvāna koci pi
tass’ eva vīsatisahassam phalam labhati dāyako ti.

so āgantvā cetiyam padakkhiṇam katvā aṭṭhadisāsu vanditvā uttaradisābhāge nisīdi.

tadā eko devaputto tiṃsasahassaparivārehi cetiyam vandanaṭṭhāya āgato. therō taṃ āgataṃ disvā Sujampatiṃ pucchi “devarāja, ayaṃ devaputto Ariyametteyyo bodhisatto” ti. “n’ eso, bhante” ti. “katamo, mahārājā” ti. “aññataro, bhante” ti. “devarāja, ayaṃ devaputto pubbe manussaloke kim akāsi puññaṃ” ti. Sakko tassa puññaṃkammaṃ kathento āha:

Anurādhapure pubbe sucikammaṃ jīvati
bahūpuññaṃkaro eso tantavāyo ti ***vissuto***.

¹³²⁹ [piṇḍapātikabhikkhuno ADFG]; piṇḍapātikassa bhikkhuno EHIK; paṇḍipātikabhikkhuno J

¹³³⁰ [padam ABCDEFGHIJK]

¹³³¹ bhikkhun I

¹³³² bhikkhāyitabbam I

¹³³³ yātibban D

¹³³⁴ bhikkham C; bhikkha H

¹³³⁵ annādivatthu ADK; annādivattham E; annādivattha H; annādivattham I

¹³³⁶ [saggam ABCDEFFHIJK]

¹³³⁷ paṭisandivasena DIK; paṭisandhivasena EH

¹³³⁸ [saggam ABCDEFGHIJK]

¹³³⁹ [tāvatimsabhavanam ABCDEFGK]; tāvatimsabhanam H; tāvatīḷabhavanam I; tāvatimsavabhavanam J

¹³⁴⁰ [āgato BCDEFGHIJK]

matakānaṃ sarīrāni jhāpetvāna taṃ taṃ
tam uddissa dakkhiṇaṃ ca sīlavantesu deti so
bhesajjaṃ piṇḍipātaṃ ca cīvaraṃ sayanāsaṃ.
ten’ eva puññakammaṃ uppajji tidase pure ti.

*viṣṣuto*¹³⁴¹ ti¹³⁴² pākapo¹³⁴³.

so āgantvā cetiyaṃ padakkhiṇaṃ katvā aṭṭhadisāsu vanditvā gandhamālādīhi pūjetvā
tadanantare nisīdi.

atha aparo devaputto cattāṭṭhasahassaparivārehi cetiyaṃ vandanatthāya āgato. thero taṃ
āgataṃ disvā Sujampatim pucchi “devarāja, ayaṃ devaputto Metteyyo bodhisatto” ti. “n’
eso, bhante” ti. “katamo, mahārāja” ti. “aññataro, bhante” ti. “devarāja, ayaṃ devaputto
pubbe manussaloke kim akāsi puññaṃ” ti. Sakko tassa puññakammaṃ kathento āha:

Haritālo mahāsetṭhī Haritāle ca gāmake
cāgavā sīlasampanno siddhājivena jīvati.
sīlavantesu bhesajjaṃ cīvaraṃ pānabhojanaṃ
datvā kammavipākena uppajji tidase pure ti.

*haritālo*¹³⁴⁴ ti gāmassetaṃ¹³⁴⁵ nāma¹³⁴⁶. tasmim¹³⁴⁷ kire¹³⁴⁸ so vasati tena ca¹³⁴⁹ tāmena¹³⁵⁰
laddhanāmo¹³⁵¹ haritālo mahāsetṭhī¹³⁵² ti datṭhabbo. yathā kira¹³⁵³ rājagahako¹³⁵⁴ setṭhī¹³⁵⁵ ti ettha viya.

so āgantvā bhagavato cetiyaṃ padakkhiṇaṃ katvā aṭṭhaadisāsu vanditvā
gandhamālādīhi pūjetvā tadanantare nisīdi.

¹³⁴¹ viṣṣuto HI

¹³⁴² ti om. H

¹³⁴³ [pākato ABCDEFGHIJK]

¹³⁴⁴ haritāralā I

¹³⁴⁵ gāmbassetam A

¹³⁴⁶ [nāmaṃ ABCDEFGHIJK]

¹³⁴⁷ tasmi H

¹³⁴⁸ [kira ACDEFGHIK]

¹³⁴⁹ pa I

¹³⁵⁰ [gāmena ABCDEFHJK]; (khai, b) gāmena G; nāmena I

¹³⁵¹ la(khai, b)ddhanāmo F

¹³⁵² mahāsetṭhī ABCDEFGHIJK

¹³⁵³ ki(khā, b)ra H; kiṃ I

¹³⁵⁴ rājagahako A; rājagahato C; rājagahiko E; rāṭagahako H; rājagahito K

¹³⁵⁵ setṭhī AH; setī F

aparo devaputto paññāsasahassaparivārehi cetiyaṃ vandanatthāya āgato. thero taṃ āgataṃ disvā Sujampatiṃ pucchi “devarāja, ayaṃ devaputto Metteyyo bodhisatto” ti. “n’ eso, bhante” ti. “katamo, mahārājā” ti. “aññataro, bhante” ti. “devarāja, ayaṃ devaputto pubbe manussaloke kim akāsi puññaṃ” ti. Sakko tassa puññaṃkammaṃ kathento āha:

Tāmbapaṇṇiyā dīpasmim uppajjitvā narādhipo
Abhayaduṭṭhassa bhātā Saddhātisso ti nāmako
cittappasādo buddhe ca dhamme saṅghe *sagāro*
pañcasīlaṃ uposathaṃ katvā *aṭṭhaṅg’ uposathaṃ*
sīlavantesu dādānaṃ yācayogo amaccharā.
tena kammavipākena uppajji tidasālaye ti.

*abhayaduṭṭhassa*¹³⁵⁶ *bhātā*¹³⁵⁷ ti kākavaṇṇatissaraṇo¹³⁵⁸ puttassa¹³⁵⁹ abhayaduṭṭhassa
gāminikumārassa¹³⁶⁰ kaniṭṭho sandhātissakumāro¹³⁶¹ . so¹³⁶² hi kira¹³⁶³ metteyyanāthassa¹³⁶⁴
dutiyaḡgasāvako¹³⁶⁵ bhavissatī ti.

*gāro*¹³⁶⁶ ti nicavutti¹³⁶⁷ sappatisso¹³⁶⁸ vā.

*pañcasīlaṃ*¹³⁶⁹ nīccasilavasena¹³⁷⁰ vuttaṃ.

*aṭṭhaṅguposathan*¹³⁷¹ ti padassatthaṃ¹³⁷² pana dutiyamālayyavaṇṇanāyaṃ¹³⁷³ vakkhissāma.

so āgantvā cetiyaṃ padakkhiṇaṃ katvā aṭṭhadisāsu vanditvā gandhamālādīhi pūjetvā
tadanantare nisīdi.

¹³⁵⁶ abhayadaṭṭhassā H

¹³⁵⁷ bhāgā J

¹³⁵⁸ (khu, a) kākavaṇṇatissaraṇo E; kākavaṇṇatissa(khu, a)raṇo K; [kākavaṇṇatissaraṇo]

¹³⁵⁹ puttassa raṇo puttassa K

¹³⁶⁰ āminikumārassa D; gāminikumārassa I; [gāmaṇikumārassa]

¹³⁶¹ [saddhātissakumāro DEHK]

¹³⁶² (khe, a) so C

¹³⁶³ (khe, a) kira J

¹³⁶⁴ (khe, a) metteyyanāthassa A; mette(khe, a)yyanāthassa Z

¹³⁶⁵ dutiya(khe, a)ḡgasāvako D

¹³⁶⁶ gārate A; gāro [BCDEFGHIJK]

¹³⁶⁷ nimavutti H; nipappavutti I; [nīcavutti]

¹³⁶⁸ sappatisso ABDFGJ; sappatisso CEHIK

¹³⁶⁹ pañcasīlaṃ AC; pañcasīla H; (khi, b) pañcasīlaṃ I

¹³⁷⁰ [nīccasilavasena ABDEGK]; nīccasilavasena C; nīccasilavasena I

¹³⁷¹ aṭṭhaṅguposathan A; aṭṭhaṅguposathan E

¹³⁷² madassatthaṃ F

¹³⁷³ dutiyamālayyavaṇṇanāya ACDIJ; dutiyamāleyyavaṇṇanāyaṃ EK; dutiyamālayavaṇṇanāya FG

aparo devaputto saṭṭhisahassaparivārehi cetiyaṃ vandanatthāya āgato. thero taṃ āgataṃ disvā devarājānaṃ pucchi “mahārāja, ayaṃ devaputto Metteyyo bodhisatto” ti. “n’ eso, bhante” ti. “katamo, mahārāja” ti. “aññataro, bhante” ti. “devarāja, ayaṃ devaputto pubbe manussaloke kim akāsi puññaṃ” ti. Sakko tassa puññakammaṃ kathento āha:

Abhayaduṭṭho ti nāmena catupaccayadāyako
buddhe ca dhamme ca saṃghe ca sakkaccaṃ payirupāsati.
tathāgatassa so thūpaṃ kārayi bodhiropanaṃ
mātāpitūnaṃ atthāya bhikkhūnaṃ deti **dakkhinaṃ**
sīlavantesu dādānaṃ yācakānaṃ anappakaṃ
sādarena cuto tamhā uppajji tidasālaye ti.

abhayaduṭṭho ti kākavaṇṇatissaraṇo¹³⁷⁴ jetṭhaputto abhayaduṭṭhatāmīni¹³⁷⁵ nāma¹³⁷⁶. taṃ¹³⁷⁷ sandhāya vuttam etaṃ abhayaduṭṭho ti nāmenā ti. so kire¹³⁷⁸ metteyyassa¹³⁷⁹ bhagavato pathamaggasāvako¹³⁸⁰ bhavissati ti.

dakkhinaṃ ti sampattihi¹³⁸¹ dakkhanti vaḍhanti etenā ti dakkhinaṃ. annādeyyavatthum¹³⁸².

so āgantvā cetiyaṃ padakkhinaṃ katvā aṭṭhadisāsu vanditvā gandhamālādīhi pūjetvā tadanantare nisīdi.

tadā eko devaputto sattasahassaparivārehi cetiyaṃ vandanatthāya āgato. thero taṃ āgataṃ disvā Sujampatiṃ pucchi “devarāja, ayaṃ devaputto Metteyyo bodhisatto” ti. “n’ eso, bhante” ti. “katamo, mahārāja” ti. “aññataro, bhante” ti. “devarāja, ayaṃ devaputto pubbe manussaloke kim akāsi puññaṃ” ti. Sakko tassa puññakammaṃ kathento āha:

sāmaṇero pure āsi appamatto vicakkhaṇo
buddhe dhamme ca saṃghe ca sakkaccaṃ payirupāsati.
uṇhodakena sītena rattindivam atandito

¹³⁷⁴ kavaṇṇatissaraṇo H; [kākavaṇṇatissaraṇo]

¹³⁷⁵ abhayaduṭṭhagāmaṇi A; abhayaduṭṭhagāmaṇi BDEGJK; abhayaduṭṭhagāmaṇi CFHI; [abhayaduṭṭhagāmaṇi]

¹³⁷⁶ nā F

¹³⁷⁷ taṃ ca I

¹³⁷⁸ [kira ACDEFGHJK]; pi kira I

¹³⁷⁹ metteyya I

¹³⁸⁰ pathamaggasāvako D; paṭṭhamaggasāvako H

¹³⁸¹ [sampattihi ABCDFIK]; sampattihi G

¹³⁸² adinnādeyyavatthu AD; annādeyyavatthu CHI; annā(kho, a)diyyavatthu F; (kho, a) annādeyyavatthu G

sammajjanīpadīpena sadā saṃgham upatṭhahi.

tena kammavipākena uppajji tidase pure ti.

so āgantvā cetiyaṃ padakkhiṇaṃ katvā aṭṭhadisāsu vanditvā gandhamālādīhi pūjetvā
tadanantare nisīdi.

tadā aparo devaputto asītisahassaparivārehi cetiyaṃ vandanatthāya āgato. thero taṃ
āgataṃ disvā Sujampatim pucchi “devarāja, ayaṃ devaputto Metteyyo bodhisatto” ti. “n’
eso, bhante” ti. “katamo, mahārājā” ti. “aññataro, bhante” ti. “devarāja ayaṃ pubbe
manussaloke kim akāsi puññaṃ” ti. Sakko tassa puññakammaṃ kathento āha:

duggatassa kule jāto *parādhinena* jīvati.

gocare ca bhikkhuṃ disvā paragehesu tiṭṭhati

gehasāmim ajānantam pabodhetvā subhāsītā:

sīlavanto ayyo sāmi gharadvāresu tiṭṭhati.

yathāladdham piṇḍapātam sādhuḥkaṃ dehi tādino.

sutvāna gharasāmiko piyen’ eva tam abravi:

sādhu tāta subhāsitaṃ piṇḍapātam dadāmi ’ham;

piṇḍapātam gahetvāna therassa upanāmayi.

etena *vacībhedenā* uppajji tidase pure ti.

duggatassa kule ti daliddakule¹³⁸³.

*parādhinena*¹³⁸⁴ ti paresaṃ bhattikakammena¹³⁸⁵.

*vacībhedenā*¹³⁸⁶ ti vacīkammena¹³⁸⁷.

so āgantvā cetiyaṃ padakkhiṇaṃ katvā aṭṭhadisāsu vanditvā gandhamālādīhi pūjetvā
tadanantare nisīdi.

tadā eko devaputto navuttisahassaparivārehi cetiyaṃ vandanatthāya āgato. thero taṃ
āgataṃ disvā Sujampatim pucchi “devarāja, ayaṃ devaputto Metteyyo bodhisatto” ti.

¹³⁸³ daliddhakule ACDEFGHIK

¹³⁸⁴ parādhinena EHIK; parādhinena F

¹³⁸⁵ bhattikammena AE; bhattikakammena FG; gaticakammena I

¹³⁸⁶ vacībhedenā AH; vacīdvārenā I

¹³⁸⁷ vacīkammena DHI

“katamo, mahārājā” ti. “aññataro, bhante” ti. “devarāja, ayaṃ devaputto pubbe manussaloke kim akāsi puññaṃ” ti. Sakko tassa puññakammaṃ kathento āha:

Tāmbapaṇṇiyā dīpe so Kaṇṇikārikagāmake
disvā tathāgataṃ thūpaṃ **kaṇṇikārena** pūjayi
cakkhudvayapadīpena sirasā pupphitena ca
vacasā dhūpakārena manasā va sugandhitā.
tena kammavipākena uppajji tidase pure ti.

kaṇṇikārenā ti kaṇṇikārapupphena¹³⁸⁸.

cakkhudvayapadīpenā¹³⁸⁹ ti cakkhudvayaṃ¹³⁹⁰ padīpasadīsaṃ¹³⁹¹ katvā pūjayi¹³⁹² ti attho.
evaṃ¹³⁹³ sesesu pi.

so āgantvā cetiyaṃ padakkhiṇaṃ katvā aṭṭhadisāsu vanditvā gandhamālādīhi pūjetvā tadanantare nisīdi.

tadā eko devaputto satahassaparivārehi cetiyaṃ vandanatthāya āgato. thero taṃ āgataṃ disvā Sujampatiṃ pucchi “devarāja, ayaṃ devaputto Metteyyo bodhisatto” ti. “n’ eso, bhante” ti. “katamo, mahārājā” ti. “aññataro, bhante” ti. “devarāja ayaṃ devaputto pubbe manussaloke kim akāsi puññaṃ” ti. Sakko tassa puññakammaṃ kathento āha:

Anurādhapure pubbe daliddo tiṇahārako
pāṇātipātā virato kalyāṇo saraṇe t̥hito.
tiṇakatthaṃ haritvāna sammājīvena jīvati.
aparena samayena nadiṃ gacchati ekako
rajataṃ vālukaṃ disvā **viyūhitvāna** so tadā
cetiyaṃ pi karitvāna **sumano** etad abravi:
aho subhaṃ vata cetiyaṃ me veduriyavaṇṇaruciraṃ
pabhassaraṃ aggi yathā pajjalitena **susubhaṃ**
hadayaṅgamaṃ vicittakaṃ ulāraṃ.

¹³⁸⁸ kaṇṇikārapupphena I

¹³⁸⁹ cakkhudvayapadīpenā ACDH; cakkhudvayaṃ padīpenā G; cakkhudvayacadīpenā I

¹³⁹⁰ cakkhudayaṃ H

¹³⁹¹ padīpasadīsaṃ ACHI; padīpasadīsaṃ BEFGJK; padīsaṃ D

¹³⁹² pūjayi FH; pūjayi I

¹³⁹³ eva I

*viyūhitvānā*¹³⁹⁴ ti byūhitvā¹³⁹⁵ rāsim¹³⁹⁶ katvā¹³⁹⁷.

*sumano*¹³⁹⁸ ti sundaramano¹³⁹⁹. pītisomanassajāto¹⁴⁰⁰ ti attho.

susubhan ti suṭṭhasundaram¹⁴⁰¹ ativiya sobhan¹⁴⁰² ti attho.

*hadayaṅgaman*¹⁴⁰³ ti hadaye citte¹⁴⁰⁴ gataṃ.

vandāmi cetiyaṃ varam bālukā pakaṭaṃ mayā.

kāyena vacā manasā saha puppehi pūjayi.

sīlavante bharitvāna yathāladdham dadāti so.

tena kammavipākena uppajji *tidasālaye* ti.

*sīlavante*¹⁴⁰⁵ *bharitvānā*¹⁴⁰⁶ ti sīlavante¹⁴⁰⁷ positvā upaṭṭhahitvā.

*yathāladdhan*¹⁴⁰⁸ ti yaṃ¹⁴⁰⁹ yaṃ¹⁴¹⁰ yena yena¹⁴¹¹ vā laddham¹⁴¹² yathāladdham¹⁴¹³
yathārahaṃ¹⁴¹⁴ laddhan¹⁴¹⁵ ti attho.

tidasālaye ti¹⁴¹⁶ ettha dasa¹⁴¹⁷ ca dasa ca dasa ca dasa tayo ca dasa ca tidasa¹⁴¹⁸. atha vā. tīhi¹⁴¹⁹
gaṇitādasa¹⁴²⁰ tidasa. tidasaparimāṇā¹⁴²¹ ete santitidasa¹⁴²². titidasā¹⁴²³ ti vattabbe eko *tisaddo*¹⁴²⁴
luttaniddhiṭṭho¹⁴²⁵. *ālayan*¹⁴²⁶ ti rammaṇanti¹⁴²⁷ etthā ti ālayo. atha vā. āgantvālayan ti nisīdanti¹⁴²⁸ etthā ti

¹³⁹⁴ viyuhitvānā D; viyahitvānā H; viyūhitvā K
¹³⁹⁵ byuhitvā ADEFGHK; (khe, b) byūhitvā BJ; (khe, b) byuhitvā C; byū(khe, b)hitvā Z
¹³⁹⁶ rāsi H; rāsī I
¹³⁹⁷ ka(khe, b)tvā D; ka(khi, a)tvā H
¹³⁹⁸ (khe, b) sumano A
¹³⁹⁹ sundharamano CH; (khu, b) sundaramano E
¹⁴⁰⁰ [pītisomanassajāto ABCDEGJ]; pītisomanassajāto F; (khu, b) pītisomanassajāto K
¹⁴⁰¹ suṭṭhūsandharam C; [suṭṭhusundaram EK]; suṭṭhasandaram F; suṭṭhasundharam H
¹⁴⁰² sobhattan I
¹⁴⁰³ mādayaṅgaman C; hadayaṅgaman EH; yādayaṅgaman I; hadayaṅgaman K
¹⁴⁰⁴ citte *om.* EHK
¹⁴⁰⁵ sīlavante HI
¹⁴⁰⁶ bharitvā I; karitvānā K
¹⁴⁰⁷ sīlavante CHI
¹⁴⁰⁸ yathālanaddhan H; yathāladdan I
¹⁴⁰⁹ ya H
¹⁴¹⁰ ya H
¹⁴¹¹ yena *om.* CDHI
¹⁴¹² laddha H; laddam I
¹⁴¹³ yaṃthāyaladdham D; yathāladdam I
¹⁴¹⁴ yaṃthārahaṃ D; yathāraha H; (khī, a) yathārahaṃ I
¹⁴¹⁵ laddan I
¹⁴¹⁶ ti *om.* I
¹⁴¹⁷ dassa H
¹⁴¹⁸ tidasa ca I; timsa K
¹⁴¹⁹ tīhi H
¹⁴²⁰ gaṇitādasa H
¹⁴²¹ tidasaparimāṇā A; (kho, b) tidasaparimāṇā F; tidasa(kho, b)parimāṇā G
¹⁴²² santitidasa AE
¹⁴²³ tidasā HI
¹⁴²⁴ tisaddho ADE; tisado H
¹⁴²⁵ lattaniḍḍhiṭṭho A; lattanidviṭṭho C; lattaniddhiṭṭho F; lūtinididhiṭṭho I

ālayo. ubhayenāpi oloketabbo ¹⁴²⁹ yeva. tidasānaṃ ālayo tidasālayo tāvatimsā ¹⁴³⁰ . sā hi ¹⁴³¹
dasasahassayojanapamāṇā ¹⁴³² sakkādīnaṃ ¹⁴³³ tetimsajanānaṃ ¹⁴³⁴ nivāsā ¹⁴³⁵ hotī ¹⁴³⁶ ti. tasmim ¹⁴³⁷
tidasālaye. tāvatimsabhavane ti adhippāyo ¹⁴³⁸ .

so pi āgantvā cetiyaṃ padakkhiṇaṃ katvā aṭṭhadisāsu vanditvā gandhamālādīhi pūjetvā
tadanantare nisīdi.

evaṃ dvādasahi devaputtehi upalakkhitaṃ pathamaṃ Māleyyavatthum samattaṃ.

so pi ti ettha **pisaddo** ¹⁴³⁹ heṭṭhā ¹⁴⁴⁰ vuttā ¹⁴⁴¹ pekkhattho ¹⁴⁴² . so ¹⁴⁴³ hi **piro** ¹⁴⁴⁴ pathamāgate ¹⁴⁴⁵
devaputte apekkhateva.

tadanantare ti tassa ¹⁴⁴⁶ pathamanantarāgatassa ¹⁴⁴⁷ devaputtassa anantaraṭṭhāre ¹⁴⁴⁸ tesam
anantare vā.

nisīdi ¹⁴⁴⁹ ti devatānubhāvena gamaniriyāpathaṃ ¹⁴⁵⁰ pacchinditvā ¹⁴⁵¹ nisinniriyāpathaṃ karoti ¹⁴⁵²
ti.

iti

¹⁴⁵³

pathamamālayyavatthudīpanīṭikā

¹⁴⁵⁴

¹⁴²⁶ ālaniyan I

¹⁴²⁷ [rammanti ACDEK]; ramanti FGI; ramma H

¹⁴²⁸ nisidanti CH

¹⁴²⁹ oloketabbe A

¹⁴³⁰ tāvatisā H

¹⁴³¹ ha H

¹⁴³² dasasahassayojanapa(khai, a)māṇā A; dasasahassayojanapamā(khai, a)ṇā BJ; dasasahassayo(khai, a)janapamāṇā C;
dasasahassayojanaparimāṇā EK

¹⁴³³ sakkā(khai, a)dīnaṃ D; sakkādīnaṃ H; (khai, a)sakkādīnaṃ Z

¹⁴³⁴ tetisajanānaṃ D; [tettimsajanānaṃ E]; tettimsaṇānaṃ H

¹⁴³⁵ nivāso EHK

¹⁴³⁶ hoti H

¹⁴³⁷ tasmī H

¹⁴³⁸ adhippāyo H

¹⁴³⁹ pisaddho AD

¹⁴⁴⁰ he D

¹⁴⁴¹ (khū, a) vuttā E

¹⁴⁴² cekkhato D; pe(khū, a)kkhattho K

¹⁴⁴³ (khi, b) so H

¹⁴⁴⁴ [pikāro ABCDEFGHIJK]

¹⁴⁴⁵ paṭṭhamāgate H; [paṭṭhamāgate K]

¹⁴⁴⁶ ssa E; tassam K

¹⁴⁴⁷ pathamantarāgatassa EI; [paṭṭhamantarāgatassa K]

¹⁴⁴⁸ [anantaraṭṭhāre ABCDFG]; anantareṭṭhāre EHI; anantare thāne K

¹⁴⁴⁹ nisīda AK; nisīdi H

¹⁴⁵⁰ gamaniriyāpatha F; gamaniriyopathaṃ I

¹⁴⁵¹ chinditvā I

¹⁴⁵² karoti H

¹⁴⁵³ (khau, a) iti FG

¹⁴⁵⁴ pathamamālayyavatthudīpanīṭikā A; pathamaṃ pamālayyavatthudīpanīṭikā B; pathamamālayyavatthudīpanīṭikā C;
pathamamālayyavatthudīpanīṭikā D; pathamamāleyyavatthudīpanīṭikā E; pathamamālayyavatthudīpanīṭikā FG;
pathamamālayyavatthudīpanīṭikā H; mālaya iti pathamamālayyavatthudīpanīṭikā I; pathampamālayyavatthudīpanīṭikā J;
paṭṭhamamāleyyavatthudīpanīṭikā K; [paṭṭhamamāleyyadevattheravatthudīpanīṭikā]

tilokatilaka-anantabuddhasirisaddhammakittimānandapaṇo¹⁴⁵⁵ ti nāmena therana¹⁴⁵⁶
katā sammata¹⁴⁵⁷.

¹⁴⁵⁵ tisokatilaka-anantabuddhasirisaddhammakittimānandapaṇo C; tilokatika-anantabuddhasirisaddhammakittimānandapaṇo D;
tilokatilaka-anantabuddhasirisaddhammakitti-ānandapaṇo EK; tilokatilaka-anantabuddhasirisaddhammakittimānandapaṇo FG;
tilokatilaka-anantabuddhasirisaddhammakitti-ānandapaṇo H; tiloka-anta(khī, b)buddhasirisaddhammakitti-ānandapaṇo I

¹⁴⁵⁶ [therena ABCDEFGHIJK]

¹⁴⁵⁷ samattā EHK; sammattā I

tadā Ariyametteyyo bodhisatto dasasatakiraṇanisākarapabhāṭirekapabhāviraṅgitehi
koṭisatasahassasurayuvatisuraputtehi parivārito tārāgaṇehi parivārito
jaladharapatalavirahitasaradasamayākāsasamuggato paripuṇṇacandamaṇḍalo viya
virocamāno dīpadhūpagandhamālādīhi gāhāpetvā Tusitabhavanato otarivā cetiyaṃ
vandanatthāya sakalatidasapuram dibbobhāsenā obhāseno dibbagandhehi pavāyānto
anopamāya sakapakatilīlāya anopamena sakapakatisirivilāsenā cetiyaṅgaṇam āgantvā
padakkhiṇam katvā aṭṭhadisāsu vanditvā pūjetvā *pācinadisābhāge* nisīdi.
tena vuttam:

tadā Ariyametteyyo *koṭhi* parivārito.
purato ca *sataṃ kaññā* pacchato accharā sataṃ
dakkhiṇato sataṃ kaññā vāmato accharā sataṃ.
tāsaṃ majjhe ca Metteyyo tārā majjhe va *candimā*.
dibbaccharānam *raṃsīhi* tāsaṃ ābharaṇassa ca
jotayanti disā sabbā *koṭicandappabhā* viyā ti.

evaṃ dvādasahi¹⁴⁵⁸ devaputtehi upalakkhitam¹⁴⁵⁹ pathamamālayyavatthum¹⁴⁶⁰ dasetvā¹⁴⁶¹
tadanantaram dutiyamālayyavatthum¹⁴⁶² dassetum *tadā ariyametteyyo*¹⁴⁶³ ty ādim āha. tattha *tadā* ti
tasmiṃ¹⁴⁶⁴ kāle yeva¹⁴⁶⁵ satasahassaparivārassa devaputtanisinnakāle¹⁴⁶⁶ ti attho¹⁴⁶⁷. idhāpi¹⁴⁶⁸
tasaddo¹⁴⁶⁹ pakkantavisayo¹⁴⁷⁰ ti daṭṭhabbo¹⁴⁷¹. atha vā. yadā satasahassaparivāro¹⁴⁷² pacchā
āgatadevputto¹⁴⁷³ nisinno hoti tadā yeva ariyametteyyo¹⁴⁷⁴ bodhisatto¹⁴⁷⁵. pa. nisīdi¹⁴⁷⁶ ti attho.
taṃsaddo¹⁴⁷⁷ yaṃsaddam¹⁴⁷⁸ apekkhatī¹⁴⁷⁹ ti vuttam.

¹⁴⁵⁸ dasahi I

¹⁴⁵⁹ upalikkhitam EHK

¹⁴⁶⁰ pathamālayyavatthum A; pathamamāleyyavatthum E; pathamamālayavatthum FG; pathamamālayyavattham H;

[pathamamālayyavatthum K]

¹⁴⁶¹ [dassetvā EGHK]; dassetvo F

¹⁴⁶² dutiyamāleyyavatthum E; dutiyamālayavatthum FG

¹⁴⁶³ [ariyametteyyo BCEFJK]; ariyametteyyo H

¹⁴⁶⁴ tasmi H

¹⁴⁶⁵ yevaṃ I

¹⁴⁶⁶ [devaputtassa nisinnakāle ABCDEFGHIK]

¹⁴⁶⁷ a(khai, b)ttho C; (khai, b) attho D

¹⁴⁶⁸ (khai, b) idhāpi ABJ

¹⁴⁶⁹ tasaddho ACD

¹⁴⁷⁰ pakantavisayo I; pakkantavisayo K; pakkantavisa(khai, b)yo Z

¹⁴⁷¹ daṭṭhabbam I

¹⁴⁷² satasahassaparivā A

¹⁴⁷³ gatadevputto I

¹⁴⁷⁴ ariyametteyyo BJ; ariyametteyyo H

¹⁴⁷⁵ bosatto A; bodhisatto H

¹⁴⁷⁶ nisīdi AH; [nisīdi CEGK]; nisīdi DFI

¹⁴⁷⁷ taṃsaddho A; [tasaddo EHK]

¹⁴⁷⁸ yaṃsaddham AC; yasaddam I; [yasaddam EK]; yasaddham H

tena¹⁴⁸⁰ saddavidū¹⁴⁸¹ āha¹⁴⁸².

yan ti sutvā tan ti padaṃ¹⁴⁸³ tan ti¹⁴⁸⁴ sutvā¹⁴⁸⁵ yan ti padaṃ

yojeyya yatasaddānaṃ¹⁴⁸⁶ niccaṃ¹⁴⁸⁷ sambandhabhāvato ti.

ariyo ti¹⁴⁸⁸ arihi¹⁴⁸⁹ ārakattā¹⁴⁹⁰ lokadhammesu¹⁴⁹¹ akappanato¹⁴⁹² vā ariyo. atha vā. **ariyo** ti
uttamo. catūsu¹⁴⁹³ ariyabhedesu ācāriyo¹⁴⁹⁴ idhādhippeto¹⁴⁹⁵. so hi uttamācārasampanno¹⁴⁹⁶ ariyo ti
vuccati. **ariyasilabbato**¹⁴⁹⁷ **hi so** ti pade viya. **ariyasilabbato**¹⁴⁹⁸ ti uttamena silavattena¹⁴⁹⁹
samannāgato¹⁵⁰⁰. himavantaṭṭhakathāyaṃ¹⁵⁰¹ pana ayam¹⁵⁰² attho oloketabbo. tena¹⁵⁰³ ca tassa
antantāparamittasilādisappurisaguṇaṇasampattim¹⁵⁰⁴ dasseti¹⁵⁰⁵. **metteyyo**¹⁵⁰⁶ ti¹⁵⁰⁷ ettha mittāya¹⁵⁰⁸
brāhmaṇiyā apaccaṃ¹⁵⁰⁹ puttabhūto¹⁵¹⁰ metteyyo. pubbhavohārasena¹⁵¹¹ panāyaṃ vutto kasmā
imasmim attabhāve opappātikapaṭisandhikattā¹⁵¹². ariyo ca¹⁵¹³ so metteyyo cā¹⁵¹⁴ ti¹⁵¹⁵ **ariyametteyyo**¹⁵¹⁶.
sāpekkhate¹⁵¹⁷ sati pi gamakattā¹⁵¹⁸ samāso¹⁵¹⁹ bhavati¹⁵²⁰. aṭṭha-ariyapuggalā ty ādisu¹⁵²¹ viya. catūsu¹⁵²²

¹⁴⁷⁹ pekkhatī EK; pekkhati H

¹⁴⁸⁰ (khū, b) tena E

¹⁴⁸¹ saddhavidū AD; saddavidu H; sadda(khū, b)vidū K

¹⁴⁸² āhu ABCDEFGK; āhū J

¹⁴⁸³ pa(khī, a)da H; padaṃ ~ ti om. I

¹⁴⁸⁴ padaṃ ~ ti om. I

¹⁴⁸⁵ sutvā tan ti tvā I

¹⁴⁸⁶ yatasaddhānaṃ A; yatasaddhāna H

¹⁴⁸⁷ nicca EHK; (khau, b) niccaṃ F; ni(khau, b)cccaṃ G

¹⁴⁸⁸ idhādhippeto C

¹⁴⁸⁹ arihi FHJ

¹⁴⁹⁰ ārakato EK; ārikattā H

¹⁴⁹¹ lokadhammesuka D

¹⁴⁹² [akampanato ACDEFGI]

¹⁴⁹³ catūsū E; catusu H; catūsa J

¹⁴⁹⁴ [ācāra-ariyo ABCDEFGHJK]; āhara-ariyo I

¹⁴⁹⁵ idhādhippeto H

¹⁴⁹⁶ uttamo(khu, a)murisasampanno I

¹⁴⁹⁷ ariyasilabbhato A; [ariyasilabbato DEFGIK]

¹⁴⁹⁸ ariyasilabbhato A; [ariyasilabbato DEFGI]

¹⁴⁹⁹ silavattena DEGIK; sīvattena F

¹⁵⁰⁰ samannāgato A; sampannāgato K

¹⁵⁰¹ himmavantaṭṭhakathāyaṃ A; himavantaṭṭhakathāya H

¹⁵⁰² am F

¹⁵⁰³ (kho, a) tena A

¹⁵⁰⁴ anantāparamittasilādisappurisaguṇaṇasampattim A; antantāparamittasilādisa(kho, a)mpurisaguṇaṇasampattim BJ; (kho, a)

nantāparamittasilādisappurisaguṇaṇasampattim C; anantāparamittasilādisappurisagu(kho, a)ṇaṇasampattim D;

nantāparimittasilādisappurisaguṇaṇasampattim EK; anantāparimittasilādisappurisaguṇaṇasampattim FG;

nantāparamittasilādisappurisaguṇaṇasampatti H; anantāparipattasilādisappurisaguṇaṇasampattim I;

[nantāparamittasilādisappurisaguṇaṇasampattim]

¹⁵⁰⁵ (kho, a)dasseti Z

¹⁵⁰⁶ metteyyo om. I; metteyo K

¹⁵⁰⁷ ti om. I

¹⁵⁰⁸ [mettāya]

¹⁵⁰⁹ amacca D; appaccaṃ H; [apacca I]

¹⁵¹⁰ puttabhūto FH; puttabhutto I

¹⁵¹¹ pubbhavohārasena F

¹⁵¹² opappātikapaṭisandhikattā A; upappātikapaṭisandhikattā E; ucappātikapaṭisandhikattā H; upappātikapaṭisandikatvā I;

upappātikapaṭisandhikattā K; [opappātikapaṭisandhikattā]

¹⁵¹³ pa I

¹⁵¹⁴ cā om. C

¹⁵¹⁵ ti om. C

¹⁵¹⁶ ariyametteyo H

¹⁵¹⁷ sopekkhate CD; (khe, a) sopekkhate E; (kham, a) sāpekkhate FG

¹⁵¹⁸ gamanattā H

ariyamaggesu bodhimhi¹⁵²³ sajjati¹⁵²⁴ ti **bodhisatto**.

pāpinadisābhāge¹⁵²⁵ ti cetiyassa pubbadisokāse¹⁵²⁶. devaloke candimasuriyā¹⁵²⁷ natthi
pācinadisābhāge¹⁵²⁸ ti pana vattabban ti codanā¹⁵²⁹. imasmim¹⁵³⁰ devaloke¹⁵³¹
manussalokasaṅketavasena¹⁵³². manussā hi amhākaṃ¹⁵³³ manussaloke¹⁵³⁴ candimasuriyānaṃ¹⁵³⁵ vasena
pubbadisānudisasāṅketo¹⁵³⁶ hoti devaloke¹⁵³⁷ pi tādiso disasāṅketo¹⁵³⁸ bhavissati ti sallakkhenti¹⁵³⁹ tasmā
devaloke¹⁵⁴⁰ candimasuriyā¹⁵⁴¹ pi na honti manussaloke¹⁵⁴² saṅketatāteneva¹⁵⁴³ pācinadisābhāte¹⁵⁴⁴ ti
vuttan¹⁵⁴⁵ ti daṭṭhabbaṃ¹⁵⁴⁶. niṭṭham etaṃ gantabbaṃ¹⁵⁴⁷.

tena kāraṇena idaṃ gāthābandhanaṃ¹⁵⁴⁸ porāṇācariyehi¹⁵⁴⁹ vuttam. iminā ācāriyena¹⁵⁵⁰
dhammasaṅgāhakādayo¹⁵⁵¹ paramparācariye¹⁵⁵² sandhāya¹⁵⁵³ vuttam **tena vuttan** ty¹⁵⁵⁴ idaṃ¹⁵⁵⁵.
amhākaṃ khanti. ekacce ācāriyā¹⁵⁵⁶ pana imaṃ¹⁵⁵⁷ lakkhaṇaṃ¹⁵⁵⁸ ajānitvā¹⁵⁵⁹ añathā¹⁵⁶⁰ **tena vuttan** ti
padattaṃ¹⁵⁶¹ vadanti¹⁵⁶². kathan ti ce. tena idaṃ¹⁵⁶³ gāthābandhanamālayyakāracāriyena¹⁵⁶⁴ cariyena

1519 samā(khe, a)so K
1520 bhaviti F
1521 ādisu CH
1522 cattūsu A; catusu CH; catūsū J
1523 *bodhi*(khī, b)mhi H
1524 sajjati H
1525 pācinadisābhāge ABCEFGHIJK; [pācinadisābhāge]
1526 pubbadisokāle DEK; pubbanisokāse I
1527 candimasuriyo A; candhimasuriyā D
1528 pācinadisābhāgo H; [pācinadisābhāge]
1529 codano H
1530 imasmi H
1531 devaloke ye H; dipeyeva I
1532 panussalokasaṅketavasena D; manussasaṃ ketavasena I; manussaloke saṅketavasena K
1533 amhāka H
1534 manussake H
1535 candimasuriyānaṃ D; candimasuriyānaṃ H
1536 pubbadisānudisasāṅketo E; pubbadisānudisasāṅketo F; pubbadisānudi(khu, b)sasaṅketo I
1537 devaloko AD
1538 disasa(kho, b)ṅketo A; disaṅketo C; disasaṅketo I; [disāsaṅketo]
1539 (kho, b) sallakkhenti BCJ; salakkhenti H
1540 loke devaloke I; deva(kho, b)loke Z
1541 candhimasuriyā D
1542 ma(kho, b)nussaloke D; manussaloka H
1543 [saṅketeneva ACDEFGHK]; saṅketeneva I
1544 pācinadisābhāge ABCDEFGHIJK; [pācinadisābhāge]
1545 vattan A
1546 daṭṭhabbaṃ D
1547 gandhabbaṃ I
1548 gāthābandhanaṃ I; gāthābandhaṃ K
1549 porāṇācarihi A
1550 [ācāriyena BDFGHI]
1551 dhammasaṅgāhakādayo DF; dhammasaṅgāhakādayo I
1552 paramparācari(khaṃ, b)ye G; parappārācariye HI
1553 sandhāya sandhāya A; (khaṃ, b) sandhāya F
1554 y J
1555 adaṃ H
1556 ācāriyā ACDK
1557 idaṃ I
1558 lakkhaṇaṃ A
1559 ajānitvā H
1560 añā(khe, b)thā E; añāpā I; (khe, b) añāthā K; [añāthā]
1561 [padattaṃ ABCDEFGIK]; padaṭṭhaṃ H
1562 vadanti AG
1563 imaṃ EGHK

vuttam¹⁵⁶⁵. evaṃ aladdhappadesā¹⁵⁶⁶ ekacce ācariyā¹⁵⁶⁷ **tena vuttan**¹⁵⁶⁸ ti padattham¹⁵⁶⁹ vadanti¹⁵⁷⁰ ti¹⁵⁷¹.
taṃ¹⁵⁷² na gahetabbam.

koṭīhi¹⁵⁷³ ti ettha uttarapadalopo. koṭisatasahasseehi¹⁵⁷⁴ ti attho¹⁵⁷⁵.

sataṃ kañā¹⁵⁷⁶ ti sataṃ taruṇadevaccharā¹⁵⁷⁷ ceva¹⁵⁷⁸ taruṇadevaputtā¹⁵⁷⁹ ca. sesesu pi
esevanayo. itarathā¹⁵⁸⁰ **koṭisatasahassasurayuvatisuraputtehi**¹⁵⁸¹ na¹⁵⁸² sameti¹⁵⁸³. yadi evaṃ purato¹⁵⁸⁴
ca sataṃ¹⁵⁸⁵ kañā. la. vāmato accharā¹⁵⁸⁶ satan ti iminā catūsataṃ¹⁵⁸⁷ accharāgahitā
sesasurayuvatisuraputtā¹⁵⁸⁸ pana¹⁵⁸⁹ kathanti. vuccate. te pi catudhā katvā¹⁵⁹⁰ purato¹⁵⁹¹ navasataṃ¹⁵⁹²
catusahassam¹⁵⁹³ visatisahassam¹⁵⁹⁴ honti tathā pacchato¹⁵⁹⁵ dakkhiṇato vāmato cā ti ekekasmim¹⁵⁹⁶
koṭṭhāse¹⁵⁹⁷ sataṃ sataṃ pakkhipitvā pañcasahassādhikam¹⁵⁹⁸ vīsatisahassam¹⁵⁹⁹ bhavanti¹⁶⁰⁰ ti
veditabbā¹⁶⁰¹. keci¹⁶⁰² pana satan ti anekasatan¹⁶⁰³ ti vadanti. taṃ na¹⁶⁰⁴ gahetabbam.

candimā ti paripuṇṇacandamaṇḍalo¹⁶⁰⁵. virocati¹⁶⁰⁶ ti pāthaseso¹⁶⁰⁷.

¹⁵⁶⁴ gāthābandhanam mālayyakācakāriyena ACDEI; [gāthābandhanam māleyyakācakāriyena EH]; gāthābandhanam
mālayyakācakāriyena FG; gāthābandham māleyyakācakāriyena K

¹⁵⁶⁵ vutta H

¹⁵⁶⁶ aladdhappadesā A; aladdhupadesā G; aladadesā H; aladdappadeso I

¹⁵⁶⁷ ācariyā A; ā(khu, a)cariyā H

¹⁵⁶⁸ [vattan A]

¹⁵⁶⁹ padaṭṭham H

¹⁵⁷⁰ vadanti HI

¹⁵⁷¹ ti om. I

¹⁵⁷² taṃ om. H

¹⁵⁷³ [koṭīhi ACDEFGK]; koṭīhi HI

¹⁵⁷⁴ koṭisatasahasseehi H

¹⁵⁷⁵ atottho H

¹⁵⁷⁶ [kañā]

¹⁵⁷⁷ taruṇadevaccharā H

¹⁵⁷⁸ cebhava H

¹⁵⁷⁹ taruṇadevaputtā H

¹⁵⁸⁰ itaracā H; itarathā I

¹⁵⁸¹ koṭisata(khau, a)sahasasurayuvatisuraputtehi A; koṭisatasahasasurayuvatisuraputte(khau, a)hi B;

koṭisatasahasasurayuva(khau, a)tisuraputtehi C; koṭisatasahasasurayuvatisuraputtehi DK; koṭisatasahasasurayuvatisuraputtehi E;

koṭisatasahasasurayuvatisurapu(khau, a)ttehi J

¹⁵⁸² (khau, a) na D; (khū, a) na I

¹⁵⁸³ sameti(khau, a) Z

¹⁵⁸⁴ pūrato FGI

¹⁵⁸⁵ sata I

¹⁵⁸⁶ ca accharā I

¹⁵⁸⁷ [catusataṃ ABCDEGHIJK]

¹⁵⁸⁸ sesasurayuvatisurapatto H; sesasurayuvatisuraputtā I

¹⁵⁸⁹ mana H

¹⁵⁹⁰ katā F

¹⁵⁹¹ pū(khaḥ, a)rato FG

¹⁵⁹² navasata FG

¹⁵⁹³ catusahassa FGH

¹⁵⁹⁴ [vīsatisahassam ADEGIK]; vīsatisahassa H

¹⁵⁹⁵ gacchato A

¹⁵⁹⁶ ekekasmī H

¹⁵⁹⁷ koṭṭhāso C

¹⁵⁹⁸ (khai, a) pañcasahassādhikam E; pañcasahassādhikam H

¹⁵⁹⁹ vīsatisahassam ACDH

¹⁶⁰⁰ bhavanti H

¹⁶⁰¹ vetabbā H; veditabbam I

¹⁶⁰² keṭhi H; (khai, a) keci K

¹⁶⁰³ anakasattan A; atirekasattan EI; atinarakasattan H; atirekatan K

¹⁶⁰⁴ pana EK

¹⁶⁰⁵ paripuṇṇacandamaṇḍalo A; paripuṇṇacandamaṇḍato G; paripuṇṇacandimam maṇḍalo I

*raṃsīhī*¹⁶⁰⁸ ti sarirarasimhi¹⁶⁰⁹. sabbadevānaṃ hi pakatiyā¹⁶¹⁰ sarirobhāsodvādasayojanāṃ¹⁶¹¹ pharati.

*koṭicandappabhā*¹⁶¹² *viyā* ti koṭicandānaṃ¹⁶¹³ raṃsiyo¹⁶¹⁴ viya¹⁶¹⁵.

thero bodhisattaṃ dūrato āgataṃ disvā Sujampatiṃ pucchi “devarāja, ayaṃ Metteyyo bodhisatto” ti. “āma, bhante” ti. “*devarāja, etā devakaññā Metteyyassa purato āgatā* setaraṃsā setavatthā setābharaṇā pubbe manussaloke kim akaṃsu puññaṃ” ti. Sakko tāsāṃ puññaṃkammaṃ kathento āha:

bhante devaccharā sabbā pubbe jātā mānusake
uposathamhi divase puññaṃ dānādikaṃ karā
setavatthaṃ setamālaṃ setagandhavilepanaṃ
setam āhāraṃ datvā *buddhaseṭṭhassa bhikkhuno*.
ten’ eva *puññaṃkamma* Metteyyapūrato gatā ti.

*koṭisatasahassasurayuvatisuraputtehī*¹⁶¹⁶ ti heṭṭhā vuttatā kasmā¹⁶¹⁷ therena *devarāja*¹⁶¹⁸ *etā*¹⁶¹⁹ *devakaññā*¹⁶²⁰ *metteyyassa*¹⁶²¹ *purato*¹⁶²² *āgatā*¹⁶²³ ti¹⁶²⁴ vuttan¹⁶²⁴ ti¹⁶²⁵ ce¹⁶²⁶. devaccharā¹⁶²⁷ bahuttarattā¹⁶²⁸. surayuvatisuraputtesū¹⁶²⁹ hi surayuvatiyo¹⁶³⁰ bahutarā¹⁶³¹ honti tasmā yebhuayanayavasena¹⁶³² *devarāja etā devakaññā*¹⁶³³ *metteyyassa*¹⁶³⁴ *purato*¹⁶³⁵ āgatā ty idaṃ¹⁶³⁶ vuttaṃ.

¹⁶⁰⁶ virocati H

¹⁶⁰⁷ pāṭṭhaseso EH; pāṭṭhaseso K

¹⁶⁰⁸ rasihi BJ; raṃsihi D; raṃsihi H

¹⁶⁰⁹ sarirarasimhi AJ; sarirarasimhi B; sarirarasimhi C; sariasmimhi D; sarirarasimhi EK; sarirarasimhi FGI; sarasmimhi H

¹⁶¹⁰ pakatiyā om. I

¹⁶¹¹ sarirobhādhādasayojanāṃ D; sarirobhāsodvādasayojanāṃ H

¹⁶¹² koṭicandappa A; koṭicandi(khu, b)pabhā H; koṭicandapabhā I

¹⁶¹³ koticandānaṃ E; koticandanaṃ F

¹⁶¹⁴ raṃsiyo ACDEFGHIJK

¹⁶¹⁵ viyaya H

¹⁶¹⁶ koṭisatasahassasurayuvatisuraputtehī D; koṭisatasahassasurayuvatihi suraputtehi H

¹⁶¹⁷ tasmā K

¹⁶¹⁸ devarāṭṭa H; devarāja om. I

¹⁶¹⁹ (khau, b) etā A; tā H; etā om. I

¹⁶²⁰ [devakaññā]

¹⁶²¹ metteyya(khau, b)ssa CD; metteyyassa H

¹⁶²² pūrato G

¹⁶²³ ti(khau, b) Z

¹⁶²⁴ (khau, b) vuttan BJ

¹⁶²⁵ tī D

¹⁶²⁶ ce om. C

¹⁶²⁷ devaccharānaṃ EIK

¹⁶²⁸ bahutarattā AFG; bahuttattā DIK; bahuttattā E

¹⁶²⁹ [surayuvatisuraputtesū ACDFG]; surayuvatisuraputte EHI; surayuvatisuraputte K

¹⁶³⁰ surayuvatiyo D; surayuvatiyā I

¹⁶³¹ bahuttarā ACDHI

¹⁶³² (khau, b) yebhuayanayavasena F; yebhu(khau, b)yyayanayavasena G; yebhuayanayavasana H; yebhuayanayavasena I

¹⁶³³ [devakaññā]

uposathamhi divase ti ettha ko uposathadivaso ti vuccatī ti. yasmim¹⁶³⁷ divase atṭhaṅgasamannāgataṃ¹⁶³⁸ uposathasilāṃ¹⁶³⁹ samādiyati so¹⁶⁴⁰ yeva uposathadivaso¹⁶⁴¹ ti vuccati. yathā¹⁶⁴² na loke viṣuṃ chaṇadivaso nāma atthi, yattha pana loko chaṇaṃ¹⁶⁴³ anubhoti so chaṇadivaso ti vuccati, evaṃ¹⁶⁴⁴ na māsādisu¹⁶⁴⁵ pāṭipadādayo viya¹⁶⁴⁶ viṣuṃ uposathadivaso¹⁶⁴⁷ nāma atthi, yattha yattha¹⁶⁴⁸ pana atthakāmā uposathaṃ upavasanti te te¹⁶⁴⁹ uposathadivasā ti vuccanti. yasmim¹⁶⁵⁰ divase atṭhaṅgasamannāgata¹⁶⁵¹ uposathasilāṃ¹⁶⁵² samādiyati¹⁶⁵³ so yeva¹⁶⁵⁴ uposathadivaso¹⁶⁵⁵ ti vuccatī¹⁶⁵⁶ ti¹⁶⁵⁷ vuttattā *uposathamhi*¹⁶⁵⁸ *divaso*¹⁶⁵⁹ ti uposathasikkhāpadasamādānadivase¹⁶⁶⁰ ti attho gahetabbo.

*buddhaseṭṭhassa*¹⁶⁶¹ *bhikkhuno* ti¹⁶⁶² buddhappamukhassa¹⁶⁶³ bhikkhusaṃghassa. *bhikkhuno*¹⁶⁶⁴ ti ettha hi buddhaseṭṭhassa¹⁶⁶⁵ ti vattabbe¹⁶⁶⁶ gāthābandhavasena¹⁶⁶⁷ *bhikkhuno* ti vuttaṃ. api ca buddhaseṭṭhassa¹⁶⁶⁸ *bhikkhūno*¹⁶⁶⁹ ti buddhaseṭṭhassa¹⁶⁷⁰ bhikkhunañ¹⁶⁷¹ ca. casaddo¹⁶⁷² samuccayatto¹⁶⁷³. kasmā na payutto¹⁶⁷⁴ ti ce. atthasseva¹⁶⁷⁵ gampamānattā¹⁶⁷⁶. *seṭṭhassa* ti

¹⁶³⁴ (khū, b) metteyyassa I
¹⁶³⁵ pūrato G
¹⁶³⁶ idaṃ D; adaṃ H
¹⁶³⁷ yasmi H
¹⁶³⁸ aṭṭhaṅgasamannāgataṃ D
¹⁶³⁹ uposathasilāṃ AH
¹⁶⁴⁰ so om. HI
¹⁶⁴¹ uposathadiva(khai, b)so E
¹⁶⁴² (khai, b) yathā K
¹⁶⁴³ channaṃ I
¹⁶⁴⁴ eva D; evan I
¹⁶⁴⁵ māsādisu ACDEFGHIK
¹⁶⁴⁶ viya om. I
¹⁶⁴⁷ uposathadivase E
¹⁶⁴⁸ yattha om. EHK
¹⁶⁴⁹ te om. EHK
¹⁶⁵⁰ yasmi H
¹⁶⁵¹ atṭhaṅgasamanāgataṃ A; [atṭhaṅgasamannāgataṃ BCDEFGHIK]
¹⁶⁵² uposathasilāṃ AH
¹⁶⁵³ saṃsamādiyati H
¹⁶⁵⁴ ye C
¹⁶⁵⁵ uposathadiso D; uposa(khū, a)thadivaso H
¹⁶⁵⁶ vuccatī om. I
¹⁶⁵⁷ ti om. I
¹⁶⁵⁸ (khaṃ, a) uposathamhi A
¹⁶⁵⁹ [divase ACDEFGHIK]
¹⁶⁶⁰ uposathasikkhā(khaṃ, a) padasamādānadivase B; u(khaṃ, a)posathasikkhāpadasamādānadivase C; uposathasikkhāpada(khaṃ, a)samādānadivase D; uposathadivasā ti vuccā sikkhāpadasamādānadivase H; sikkhāpadasamādānadivase I; uposathasikkhā(khaṃ, a)padasamādānadivase J; uposathasikkhā (khaṃ, a) padasamādānadivase Z
¹⁶⁶¹ (ga, a) buddhaseṭṭhassa FG
¹⁶⁶² ti om. E
¹⁶⁶³ buddhappamukhassa EHIK
¹⁶⁶⁴ bhikkhu A
¹⁶⁶⁵ buddhaseṭṭhassa A
¹⁶⁶⁶ vattebbe D
¹⁶⁶⁷ gāthābandavasena ADI
¹⁶⁶⁸ bubuddhaseṭṭhassa F
¹⁶⁶⁹ [bhikkhuno ABCDEFGHIJK]
¹⁶⁷⁰ budasetṭhassa H
¹⁶⁷¹ bhikkhunañ CE; bhikkunañ H; [bhikkhūnañ K]
¹⁶⁷² casaddho A; casado H
¹⁶⁷³ [samuccayatto ABCEFGHIJK]; samuccayato D
¹⁶⁷⁴ payutto H; cayutto I
¹⁶⁷⁵ atthassevava H; attha(khe, a)sseva I
¹⁶⁷⁶ ggamānattā I; [gamyamānattā]

saddantarasannidhānena¹⁶⁷⁷ sabbañubuddho¹⁶⁷⁸ yeva¹⁶⁷⁹ idhādhippeto¹⁶⁸⁰ na paccekabuddho.

*puñnakammenā*¹⁶⁸¹ ti dānādikusalakammena¹⁶⁸².

thero taṃ sutvā tāsam puññakammaṃ pasaṃsanto puna Sujampatiṃ pucchi “devarāja, etā devakaññā Metteyyassa dakkhiṇapaassena āgatā pītaraṃsā pītavattā pītabharaṇalaṅkatā pubbe manussaloke kim akaṃsu puññan” ti. Sakko tāsam puññakammaṃ kathento āha:

bhante devaccharā sabbā pubbe jātā manusake
uposathamhi divase puññam sīlādikaṃ karā
pītavattam pītamālam pītagandhavilepanam
pītam āhāraṃ datvā buddhaseṭṭhassa bhikkhuno.
ten' eva puññakammena Metteyyadakkhiṇā gatā ti.

21

thero taṃ sutvā tāsam puññakammaṃ pasaṃsanto puna devarājānam pucchi “devarāja, etā devakaññā vāmapassena āgatā rattaraṃsā rattavattā rattābharaṇā pubbe manussaloke kim akaṃsu puññan” ti. Sakko tāsam puññakammaṃ kathento āha:

bhante devaccharā sabbā pubbe jātā manusake
uposathamhi divase sutvā dhammaṃ supūjitā
rattavattam rattamālam rattagandhavilepanam
rattam āhāraṃ datvā buddhaseṭṭhassa bhikkhuno
ratanatthayam pūjesum Metteyyavāmato gatā ti

22

thero taṃ sutvā tāsam puññakammaṃ pasaṃsanto puna Sujampatiṃ pucchi “devarāja, etā devakaññā pacchimappassena āgatā sāmaraṃsā sāmavattā sāmabharaṇā pubbe manussaloke kim akaṃsu puññan” ti. Sakko tāsam puññakammaṃ kathento āha:

bhante devaccharā sabbā pubbe jātā manusake

¹⁶⁷⁷ saddhantarasannidhānena ADH

¹⁶⁷⁸ sabbañubuddho ACDFGIK; (kho, a) sabbañubuddho E; [sabbañubuddho]

¹⁶⁷⁹ (kho, a) yeva K

¹⁶⁸⁰ idādhippeto H

¹⁶⁸¹ [puññakammena]

¹⁶⁸² dānādikulakammena A; dānādikusalakammena D

uposathamhi divase sutvā dhammaṃ supūjītā
sāmvatthaṃ sāmamālaṃ sāmagandhavilepanaṃ
sāmam āhāraṃ datvā buddhaseṭṭhassa bhikkhuno.

saṃyamā saṃvibhātā ca Metteyyapacchato gatā ti.

*saṃyamā*¹⁶⁸³ ti pānātipātādīpāpato¹⁶⁸⁴ saṃyamā¹⁶⁸⁵. *saṃvibhātā*¹⁶⁸⁶ ti dānasamvibhātaratā¹⁶⁸⁷.
dānaṃ¹⁶⁸⁸ samadānaṃ¹⁶⁸⁹ bhājentiyo¹⁶⁹⁰ ti¹⁶⁹¹ attho. *saṃyamā*¹⁶⁹² ti padena sīlasampadābhāvaṃ¹⁶⁹³
dasseti¹⁶⁹⁴. *saṃvibhātā*¹⁶⁹⁵ ty¹⁶⁹⁶ iminā dānacittasampadā¹⁶⁹⁷ dassitā¹⁶⁹⁸.

23

thero taṃ sutvā tāsam puññakammaṃ pasamsanto puna Sujampatiṃ pucchi
“devarāja, Metteyyo īdisaṃ sampattiṃ labhati. kiṃ pana puññaṃ akāsī” ti. Sakko
Metteyyassa puññaṃ saṃkhepena sāgarātikkamanasasopamāya
pabbatārohanandhopamāya ca paññāya pakāsetvā puna
saddhādhikapaññādhikaviriyādhikasamkhātānaṃ *tiṇṇaṃ*
anappakappopacitakāyavacimāno
paṇihitatividhasucarita-cadhanapariccāga-puttapariccāga-bhariyāpariccāga-
aṅgapariccāga-jīvitapariccāga-samkhātadānapāramī
tadanurūpasīlanekkhammaṃ paññāviriyaṃ khaṇṭisaccādiṭṭhānamettu pekkhā ti *dasapāramī*
dasa-upapāramī dasaparamatthapāramī ti *sama-tiṇṇasapāramiyo* puritānaṃ
bodhisattānaṃ viriyādhikabodhisatto ariyaMetteyyo bodhisatto ti pakāseto imā
gāthayo āha:

tiṇṇaṃ ti padassa bodhisattānaṃ¹⁶⁹⁹ ty iminā¹⁷⁰⁰ padena sambandho¹⁷⁰¹ veditabbo¹⁷⁰². *tiṇṇaṃ*¹⁷⁰³

¹⁶⁸³ sayame I

¹⁶⁸⁴ pānātipātādīpāpato A; pānātipātādīto H

¹⁶⁸⁵ saṃyamo A; sayamā I

¹⁶⁸⁶ [saṃvibhāgā ABCDEFGHIJK]

¹⁶⁸⁷ [dānasamvibhāgaratā ABCDEFHJK]; dānasamvibhāgarato G; dānaṃ sabhāgato I

¹⁶⁸⁸ dāna EHK; dānaṃ om. I

¹⁶⁸⁹ samadānaṃ GJ; samadāna H; sammadānaṃ I

¹⁶⁹⁰ bhājantiyo I

¹⁶⁹¹ tti H

¹⁶⁹² sayamā I

¹⁶⁹³ sīlasampadābhāvaṃ A; sīlasappadābhāvaṃ H; sīlasampadābhāvaṃ I

¹⁶⁹⁴ dasenti H

¹⁶⁹⁵ [saṃvibhāgā ABDEFGHIJK]; tamvibhāgā C; savibhāgā I

¹⁶⁹⁶ mp A

¹⁶⁹⁷ dānacittassa sampadā I

¹⁶⁹⁸ dassitā A; dassittā H

¹⁶⁹⁹ bo(khaṃ, b)dhisattānaṃ C; bodhisattānaṃ D; bodhisattānaṃ H

bodhisattāna¹⁷⁰⁴ ti attho.

*dasapāramī*¹⁷⁰⁵ ti dānasīlādiguṇavisesayogena¹⁷⁰⁶ sattattamatāya¹⁷⁰⁷ paramā¹⁷⁰⁸ mahāsattā¹⁷⁰⁹
bodhisattā¹⁷¹⁰. tesam bhāvo kamma¹⁷¹¹ vā¹⁷¹² pāramī¹⁷¹³. kā¹⁷¹⁴ sā¹⁷¹⁵, dānādikiriyā. atha vā.
dānādayogūṇe paratī¹⁷¹⁶ pāleti puretī¹⁷¹⁷ vā¹⁷¹⁸ tī¹⁷¹⁹ paramo. paramassa sabbañubodhisattassa¹⁷²⁰ bhāvo
kammaṃ¹⁷²¹ vā¹⁷²² pāramī¹⁷²³. dānādikiriyā vā¹⁷²⁴. api ca¹⁷²⁵ paraṃ sattaṃ¹⁷²⁶ attani mavatī¹⁷²⁷ bandhati
guṇavisesayotena¹⁷²⁸, paraṃ¹⁷²⁹ vā adhikataṃ¹⁷³⁰ majjhātī¹⁷³¹ sujjhātī¹⁷³² saṅkilesamalato¹⁷³³, paraṃ¹⁷³⁴
vā seṭṭhaṃ¹⁷³⁵ nibbānaṃ¹⁷³⁶ mayatī¹⁷³⁷ gacchati, paraṃ vā lokaṃ¹⁷³⁸ pamānabhūtena¹⁷³⁹ ñāṇavisesena
idha lokaṃ¹⁷⁴⁰ viya punātī¹⁷⁴¹ paricchindatī¹⁷⁴², paraṃ vā ativiya silādiguṇagaṇaṃ¹⁷⁴³ attano santāne
minotī¹⁷⁴⁴ pakkhipatī¹⁷⁴⁵, paraṃ vā attabhūtato¹⁷⁴⁶ dhammakāyato aññaṃ¹⁷⁴⁷ patipakkhaṃ¹⁷⁴⁸ vā

¹⁷⁰⁰ iphaminā D; aminā H
¹⁷⁰¹ (ga, b) sambandho FG
¹⁷⁰² vedita(kham, b)bo AZ; (kham, b) veditabbo BJ
¹⁷⁰³ ti(kham, b)ṇṇam D
¹⁷⁰⁴ bodhisattānaṃ H
¹⁷⁰⁵ dasapāmi H
¹⁷⁰⁶ dānasīlādiguṇavisesayogena AH
¹⁷⁰⁷ [sattuttamatāya ABCDFHJ]; sattuttamatāya EK; sathuttamatāya G; sathutthamatāya I
¹⁷⁰⁸ parama HI
¹⁷⁰⁹ mahāsattā om. HI
¹⁷¹⁰ bodhisato (khū, b) H
¹⁷¹¹ [kammaṃ ABCEFGJIK]
¹⁷¹² vā om. K
¹⁷¹³ pāramī AHI
¹⁷¹⁴ kā om. H
¹⁷¹⁵ sā om. H
¹⁷¹⁶ paratī B; caratī H
¹⁷¹⁷ puretī tī I
¹⁷¹⁸ cā H
¹⁷¹⁹ tī om. DI
¹⁷²⁰ [sabbañubodhisattassa ADEFGIK]; sabbañubodhisattassa H
¹⁷²¹ kamma H
¹⁷²² vā om. FGK
¹⁷²³ pāramī BCDEFGK
¹⁷²⁴ cava D; va om. HI
¹⁷²⁵ ca om. H
¹⁷²⁶ satta HK
¹⁷²⁷ pavatī H; pavattatī I
¹⁷²⁸ [guṇavisesayogena ABCDEFGIJ]; guṇavisesayogena H; guṇavisesayogena K
¹⁷²⁹ (kho, b) paraṃ E; para H
¹⁷³⁰ adhikataṃ H; (kho, b) adhikataṃ K
¹⁷³¹ [majjhātī EHIK]
¹⁷³² sajjhātī H; sajjatī I
¹⁷³³ saṅkilesamato A; saṅkilesamalato CD; saṅkilesamalaṃto H; saṅkilesamūlato I
¹⁷³⁴ cara H
¹⁷³⁵ seṭṭha H
¹⁷³⁶ nibbāna H; nibbā(khe, b)naṃ I
¹⁷³⁷ payatī HI
¹⁷³⁸ loka H
¹⁷³⁹ [pamānabhūtena ACG]; paṇamānabhūtena F; pamānabhūtena H; pamānabhūtena om. I
¹⁷⁴⁰ loka H
¹⁷⁴¹ [munātī ABCDEFGIJK]; manātī H
¹⁷⁴² paricchindhatī D
¹⁷⁴³ [silādiguṇagaṇaṃ ACDEFGK]; silānugūṇagaṇaṃ HI
¹⁷⁴⁴ mino I
¹⁷⁴⁵ pakkhipatī om. AD; pakkhi I; pakkhimatī K
¹⁷⁴⁶ attabhūtato FH
¹⁷⁴⁷ [aññaṃ]
¹⁷⁴⁸ [paṭipakkhaṃ I]

tadanatthakaraṃ¹⁷⁴⁹ kilesacoragaṇaṃ mināti¹⁷⁵⁰ hiṃsaṭī¹⁷⁵¹ ti¹⁷⁵² paramo¹⁷⁵³. ko so¹⁷⁵⁴ bodhisatto¹⁷⁵⁵.
paramassa¹⁷⁵⁶ ayaṃ¹⁷⁵⁷ bhāvo kammaṃ vā¹⁷⁵⁸ pāramī¹⁷⁵⁹. dānādikiriya¹⁷⁶⁰ yeva. dasapāramī¹⁷⁶¹ ti
vuttattā¹⁷⁶² dānasīlanekkhammaṇāviriyakhantisaccādhiṭṭhānamettupekkhāsamkhātā¹⁷⁶³ pāramiyo¹⁷⁶⁴
pārami¹⁷⁶⁵ ti veditabbā.

*dasa-upapāramī*¹⁷⁶⁶ ti pāramito¹⁷⁶⁷ upa-adhikāpārami¹⁷⁶⁸ upapārami¹⁷⁶⁹ tā¹⁷⁷⁰ yeva dānādikā
dasa-upapārami¹⁷⁷¹ nāma.

*dasaparamatthapārami*¹⁷⁷² ti paramo uttamo attho paramattho¹⁷⁷³. paramattho eva pārami¹⁷⁷⁴
paramatthapārami¹⁷⁷⁵. dānādisabhāvo¹⁷⁷⁶ paramatthapārami¹⁷⁷⁷ nāma.

hinukkaṭṭhataravasena¹⁷⁷⁸ *samatīṃsapāramiyo*¹⁷⁷⁹ ti hi vuttaṃ. tāsu hi dānapāramitā¹⁷⁸⁰ va
dhanapariccāto¹⁷⁸¹ pārami¹⁷⁸² nāma¹⁷⁸³ aṅgapariccāgo¹⁷⁸⁴ upapārami¹⁷⁸⁵ nāma jīvitapariccāto¹⁷⁸⁶
paramatthapārami¹⁷⁸⁷ nāma. evaṃ¹⁷⁸⁸ sesāsu¹⁷⁸⁹ pāramisu¹⁷⁹⁰ pi¹⁷⁹¹. iti *samatīṃsapāramiyo*¹⁷⁹² honti¹⁷⁹³

¹⁷⁴⁹ tanatthakaraṃ A

¹⁷⁵⁰ (khaḥ, a) mināti C; miyati EK; michāti H

¹⁷⁵¹ (khaḥ, a) hiṃsaṭī BJ; (gā, a) hiṃsaṭī FG; hisati H; hisati I

¹⁷⁵² ti om. H

¹⁷⁵³ paramā E; (khaḥ, a)paramo Z

¹⁷⁵⁴ sā D

¹⁷⁵⁵ (khaḥ, a) bodhisatto AD; *bodhisatto* H

¹⁷⁵⁶ ayaṃ EHIK

¹⁷⁵⁷ paramassa EHIK

¹⁷⁵⁸ vā om. K

¹⁷⁵⁹ pārami H

¹⁷⁶⁰ nādanādikiriya C; dānādikiriya ~ dasapāramī om. AD

¹⁷⁶¹ dānādikiriya ~ dasapāramī om. AD; dasapārami H

¹⁷⁶² vuttā H

¹⁷⁶³ dānasīlanekkhammaṇāviriyakhantīettupekkhāsamkhātā A; dānasīlanekkhammaṇāviriyakhantīettupekkhāsamkhātā CDK;

dānasīlanekkhammaṇāviriyakhantīettupekkhāsamkhātā EG;

dānasīlanekkhammaṇāviriyakhantisaccādhiṭṭhānamettupekkhāsamkhātā FI; dānasīlanekkhammaṇāviriyakhantisaccādhiṭṭhānam H;

[dānasīlanekkhammaṇāviriyakhantisaccādhiṭṭhānamettupekkhāsamkhātā]

¹⁷⁶⁴ pāramiyo CEFK; thāpāramiyo H

¹⁷⁶⁵ [pāramī ABCDEFGIJK]

¹⁷⁶⁶ dasapārami H

¹⁷⁶⁷ pāramito F; [pāramiya]

¹⁷⁶⁸ [upa-adhikāpāramī CEF GK]; upa-*adhikāpārami* H; upa-*adhikopārami* I

¹⁷⁶⁹ upapārami ADI; uparami H

¹⁷⁷⁰ tā om. H; kā I

¹⁷⁷¹ dasa-upapāramī ACEFGK; (khe, a) dasa-upapārami H

¹⁷⁷² [dasaparamatthapāramī ABCDEFGIJK]; sadaparamatthapārami H

¹⁷⁷³ paramattho H

¹⁷⁷⁴ pārami AHI

¹⁷⁷⁵ paramatthapārami HI

¹⁷⁷⁶ dānādasabhāvo A; dānādi(khau, a)sabhāvo E

¹⁷⁷⁷ [paramatthapāramī ACDEFG]; parama(khau, a)tthapārami K

¹⁷⁷⁸ hinukkaṭṭhataravasena A; hinukkaṭṭhuttaravasena EK; [hinukkaṭṭhataravasena]

¹⁷⁷⁹ samatīṃsapāramiyo K

¹⁷⁸⁰ dānapāramitā EFGK; dānaṃ pāramitā H

¹⁷⁸¹ [dhanapariccāgo ABCDE]; dhanaparipāto F; dhanapariccāgo HIK

¹⁷⁸² [pāramī CEF GK]

¹⁷⁸³ nā F

¹⁷⁸⁴ aṅgaparipāgo F; aṅgapariccāgo HIK

¹⁷⁸⁵ upapārami AHI

¹⁷⁸⁶ jīvitapariccāgo ABCEFG; jīvitahpariccāgo D; [jīvitapariccāgo G]; tīvitapariccāgo H; jīvitapariccāgo I; jīvitapariccāgo K

¹⁷⁸⁷ [paramatthapāramī BDEFGK]; ramatthapārami H

¹⁷⁸⁸ eva H

¹⁷⁸⁹ sesā H; se(khai, a)sa I

¹⁷⁹⁰ pāramisu BCDEFGHIJK

daṭṭhabbaṃ.

tena vuttaṃ:

sampattipāramī¹⁷⁹⁴ ceva aṅgañ ca upapāramī¹⁷⁹⁵

jīvitam¹⁷⁹⁶ paramatthañ¹⁷⁹⁷ ca tiṃsapāramiyo¹⁷⁹⁸ matā¹⁷⁹⁹ ti.

*bodhisattānan*¹⁸⁰⁰ ti niddhāraṇachatṭhī¹⁸⁰¹. niddhāraṇe¹⁸⁰² cā ti sattavacanena¹⁸⁰³ chaṭṭhī¹⁸⁰⁴

vibhatti hoti. paṇḍitānaṃ pavaro satthā ti ādisu¹⁸⁰⁵ viya.

Metteyyo bodhisatto hi katvā puññāni nekadhā

seṭṭhasabbaññūbuddhehi na sakkā tāni vaṇṇitum

ekadese na vuttāni saso sāgaratikkamo

andho va pabbatāroho patitṭhaṃ na labhissati.

gāthāyaṃ¹⁸⁰⁶ pana vinicchayo vedibbo¹⁸⁰⁷. hi saccam bodhisatto¹⁸⁰⁸ metteyyo akāsi puññāni¹⁸⁰⁹
sambodhipācanāni¹⁸¹⁰ dānasilādīni¹⁸¹¹ kusalakammāni anekadhā anekappakārena anekāni vā.
seṭṭhasabbaññūbuddho¹⁸¹² hi anāgate hessati *na sakkā tāni vaṇṇitum* ti sambandho.
*seṭṭhasabbaññūbuddho*¹⁸¹³ *hi*¹⁸¹⁴ ti¹⁸¹⁵ pātho¹⁸¹⁶ hi sundaro¹⁸¹⁷. hi sando¹⁸¹⁸ evattho daṭṭhabbo.
seṭṭhasabbaññūbuddhehi¹⁸¹⁹ ti¹⁸²⁰ pātho¹⁸²¹ atthi tassa padassa¹⁸²² ca¹⁸²³ *na sakkā*¹⁸²⁴ *tāni vaṇṇitum* ti

¹⁷⁹¹ mi H

¹⁷⁹² samatiṃsapāramiyo ADEHI; samatiṃsapāramī(gā, b)yo FG

¹⁷⁹³ [hontī ti BCDEFGHIJK]; hontī ti H

¹⁷⁹⁴ sampattipārami ADEI; sampatti(khaḥ, b)pāramī BJ; (khaḥ, b) sampattipāramī C; samputtipārami H

¹⁷⁹⁵ upapārami AHI; upa(khaḥ, b)pāramī Z

¹⁷⁹⁶ (khaḥ, b) jīvitam A; jīvi(khaḥ, b)taṃ D; [jīvitam EFGK]

¹⁷⁹⁷ pamatthañ A

¹⁷⁹⁸ tiṃsapāramiyo AF; samatiṃsapāramiyo H

¹⁷⁹⁹ patā J

¹⁸⁰⁰ bodhisattānan DE; *bodhisattānan* H

¹⁸⁰¹ niddhāraṇachatṭhī A; niddhāraṇachatṭhī CH; [niddhāraṇe chatṭhī FG]; niddhāraṇachatṭhī K

¹⁸⁰² nirāṇe A; niddhāraṇe D

¹⁸⁰³ sattavacanena ABFGHIJK

¹⁸⁰⁴ chaṭṭhī HI

¹⁸⁰⁵ ādisu BHJ; ādisu om. I

¹⁸⁰⁶ gāthāyaṃ A; gāthāya H

¹⁸⁰⁷ [veditabbo ABCDEFGHIK]

¹⁸⁰⁸ bodhisatto H

¹⁸⁰⁹ [puññāni]

¹⁸¹⁰ sambodhipācanāni H; sambodhicāpanāni I

¹⁸¹¹ dānasilādīni AI; dānasilādīni H

¹⁸¹² seṭṭhasabbaññūbuddho A; seṭṭhasabbaññūbuddho HI; [seṭṭhasabbaññūbuddho]

¹⁸¹³ seṭṭhasabbaññūbuddho H; seṭṭhasabbaññūbuddho I; [seṭṭhasabbaññūbuddho]

¹⁸¹⁴ hī BCDEFGIK

¹⁸¹⁵ ti pi I

¹⁸¹⁶ pā(khaḥ, b)tho K

¹⁸¹⁷ sundharo CD; sundha(khe, b)ro H

¹⁸¹⁸ hisaddho ACEHK; hisandho DF; [hisaddo GJ]; hiladdo I

¹⁸¹⁹ seṭṭhasabbaññūbuddhohi H; seṭṭhasabbaññūbuddhohi I; [seṭṭhasabbaññūbuddhehi]

¹⁸²⁰ ti pi I

¹⁸²¹ pātho K

¹⁸²² cadassa H

padena sambandho. imasmim¹⁸²⁵ pana¹⁸²⁶ pisaddo¹⁸²⁷ āharitabbo seṭṭhasabbañūbuddehi¹⁸²⁸ pi¹⁸²⁹ na
sakkā¹⁸³⁰ vaṇṇitum tāni metteyassa¹⁸³¹ pag¹⁸³² eva **mayā** ti attho. dvisu¹⁸³³ pāthesu¹⁸³⁴
seṭṭhasabbañūbuddho¹⁸³⁵ **hī**¹⁸³⁶ ti¹⁸³⁷ pātho¹⁸³⁸ atipasamsitabbo¹⁸³⁹. anantaṃ¹⁸⁴⁰ buddhānaṃ ñānaṃ
yāvattakam¹⁸⁴¹ ñānaṃ tāvattakam¹⁸⁴² ñeyyaṃ, ñānapariyantikam¹⁸⁴³ ñeyyam¹⁸⁴⁴, ñeyyapariyantikam¹⁸⁴⁵
ñānaṃ ti vacanato sabbesaṃ ñeyyadhammānaṃ **niravasesato** gocarabhāvaṃ¹⁸⁴⁶ āgacchanti. buddhānaṃ
avisayo nāma natthi¹⁸⁴⁷ buddhānaṃ ajānaṃ¹⁸⁴⁸ nāma¹⁸⁴⁹ natthi¹⁸⁵⁰ ti **seṭṭhasabbañūbuddho**¹⁸⁵¹ **hī**¹⁸⁵²
ti¹⁸⁵³ **seṭṭhasabbañūbuddhehī**¹⁸⁵⁴ ti pi¹⁸⁵⁵ puttam¹⁸⁵⁶ viya¹⁸⁵⁷ dissati¹⁸⁵⁸. dhammapade cattāro
upāsakadhammasavanavattumhi¹⁸⁵⁹ evaṃ¹⁸⁶⁰ antarā upajjantassa¹⁸⁶¹ upattiyo¹⁸⁶² sabbañūtañāṇena¹⁸⁶³
pi na¹⁸⁶⁴ sakkā paricchinditun ti vacanato **seṭṭhasabbañūbuddho**¹⁸⁶⁵ **hī**¹⁸⁶⁶ ti pi vuttam. purimapāthe¹⁸⁶⁷

1823 dha F; pa I
1824 sakka A
1825 imasmi H
1826 (khau, b) pana E
1827 pisaddho ACDF
1828 seṭṭhasabbañūbuddehi ABCDEFGHIJK; seṭṭhasabbañūbuddho H; [seṭṭhasabbañūbuddehi]
1829 (gi, a) pi F
1830 sa(gi, a)kkā G
1831 [metteyassa ABCDEFGHIJK]
1832 (ga, a) pag ABCDZ; pagg EH; pag ~ (phūk 2) om. J; pat K
1833 ddisu H; dvisu I
1834 [pāthesu BK]
1835 seṭṭhasabbañūbuddho C; seṭṭhasabbañūbuddho H; sabbañūbuddhe I; [seṭṭhasabbañūbuddho]
1836 hi HI
1837 ti pi I
1838 [pātho K]
1839 atthipasamsitabbo H; (khai, b) atipasamsitabbo I
1840 ananta H
1841 [yāvattakam]
1842 [tāvattakam E]; tāvattakam H; pariyantakam I
1843 ñānapariyantikam F; yāvattakam I
1844 ñeyya om. I
1845 ñeyyapariyantika I
1846 gocarabhāva I
1847 na D
1848 ajāna E; ajānaṃ nam H
1849 nāmma E
1850 natthi H
1851 seṭṭhasabbañūbuddho DH; seṭṭhasabbañūbuddhe I; [seṭṭhasabbañūbuddho]
1852 hi H
1853 ti vuttam EIK
1854 seṭṭhasabbañūbuddhehī AB EK; seṭṭhasabbañūbuddho H; seṭṭhasabbañūbuddho H; seṭṭhasabbañūbuddhehī I;
[seṭṭhasabbañūbuddhehī]
1855 ci D; pi om. I
1856 [yuttam ACDEFGHIK]
1857 viyā I
1858 ti I
1859 upāsakadhammasavanavattumhi H; upāsakadhammasavanavattumhi I
1860 eva H
1861 upajjantassa E; [upajjantassa FG]; upajantassa H
1862 upattiyo FG; upattiya H
1863 sabbañūtañāṇena ADF; sabbañūtañāṇena H; sabbañūtañā(kham, a)ṇena K; [sabbañūtañāṇena]
1864 na om. H
1865 seṭṭhasabbañūbuddho ABD; seṭṭhasabbañūbuddho C; seṭṭhasabbañūbuddhe EFGIK; seṭṭhasabbañūbuddho H;
[seṭṭhasabbañūbuddho]
1866 hi H
1867 purime pāthe F; [purimapāthe K]

pana **mayā** iti padaseso¹⁸⁶⁸. sahasanetena devānam¹⁸⁶⁹ indena¹⁸⁷⁰ mayā na¹⁸⁷¹ sakkā vaṇṇitum¹⁸⁷²
tāni¹⁸⁷³ metteyyassā¹⁸⁷⁴ ti attho. **vaṇṇitun**¹⁸⁷⁵ ti¹⁸⁷⁶ kathetum¹⁸⁷⁷. **nivaravasenasato**¹⁸⁷⁸ ti visesitabbaṃ.
kasmā¹⁸⁷⁹ ti ce. paranantaragāthāyaṃ¹⁸⁸⁰ **ekadese na vuttāni**¹⁸⁸¹ ti vuttattā.

andho¹⁸⁸² ti dvicakkhundho¹⁸⁸³.

tathā Metteyyo puññāni **anantāparimāṇakā**
anappakappe sambhāre sambhāritvāna sabbaso.

anantā ti anantāni. atha vā. parapade **anappakappe**¹⁸⁸⁴ **sambhāre**¹⁸⁸⁵ ti vuttattā anantesu¹⁸⁸⁶
bhavesu pavattāni¹⁸⁸⁷ ti anantāni.

aparimāṇakā ti pade pi eseva nayo¹⁸⁸⁸.

sambhāre¹⁸⁸⁹ ti¹⁸⁹⁰ sammābharanti¹⁸⁹¹ posenti¹⁸⁹² paripācentī¹⁸⁹³ ti sambhārā¹⁸⁹⁴.
sammābhariyantī¹⁸⁹⁵ ti¹⁸⁹⁶ vā sambhārā. upakāraṇabhūtā¹⁸⁹⁷ ti¹⁸⁹⁸ attho. samāsanyaṣaṭikāyaṃ¹⁸⁹⁹ pi
tatheva¹⁹⁰⁰ vuttam. sambhāritvā nāṭisammāsuṭṭhavā¹⁹⁰¹ paripācetvā¹⁹⁰².

¹⁸⁶⁸ padaso C
¹⁸⁶⁹ devāna(gi, b)m F
¹⁸⁷⁰ indhena D; i(gi, b)ndena G; indona H
¹⁸⁷¹ na om. H
¹⁸⁷² vaṇṇitum H
¹⁸⁷³ (khai, a) voni H
¹⁸⁷⁴ petteyyassā C; metteyyassa H
¹⁸⁷⁵ vaṇṇitum I
¹⁸⁷⁶ ti om. I
¹⁸⁷⁷ ka(ga, b)thetum A
¹⁸⁷⁸ [niravasato ACDEFGHIK]
¹⁸⁷⁹ (ga, b) kasmā C
¹⁸⁸⁰ (ga, b) paranantaragāthāyaṃ BZ; paranantaragāthā(ga, b)yaṃ D; parana(kham, a)ntaragāthāyaṃ E; anantaragāthāyaṃ FG;
paranantaragāthāya I
¹⁸⁸¹ vuttāni CDEGK; vuttoni H
¹⁸⁸² ando D
¹⁸⁸³ dvicakkakhandho E; dicakkhundho H; dvicakkhandho K
¹⁸⁸⁴ nappaka anappe I
¹⁸⁸⁵ sambāre HI
¹⁸⁸⁶ anantesu AD; (kho, a) anantesu I
¹⁸⁸⁷ pavattāni H
¹⁸⁸⁸ nayo H
¹⁸⁸⁹ sambāre I
¹⁸⁹⁰ ti om. F
¹⁸⁹¹ sammārabhanti AD; bharanti F; sammābharanti H; samutibharanti I
¹⁸⁹² pesenti I
¹⁸⁹³ paripācenti CH; sarippāpenti I
¹⁸⁹⁴ [sambhārā AFGK]; sambhāvā D; sambārā I
¹⁸⁹⁵ sammābhariyantī EHK; sammābharayanti I
¹⁸⁹⁶ ti om. EHIK
¹⁸⁹⁷ [upakāraṇabhūtā FG]; upakāraṇabhūtā H
¹⁸⁹⁸ ta H
¹⁸⁹⁹ samāsanyaṣaṭikāyaṃ F; asamāsanyaṣaṭikāyaṃ H; samāsantassaṭikāyaṃ I; samāsanyaṣaṭikāyaṃ K
¹⁹⁰⁰ tatheva C
¹⁹⁰¹ nāṭisammāsuṭṭhavā BEGK; nāṭisammāsuṭṭhavā CFH; nāṭisambhāsuṭṭhavā D; nāmāṭisammāsuṭṭhavā I
¹⁹⁰² paripācetvā H; bhariipāpetvā I

tayo hi bodhisattāsuṃ eko **thāmādiko mato**
kappasatasahassāni asaṃkheyyāni soḷasa
pūretvā paramī sabbā patto sambodhim uttamam;

idāni bodhisattānaṃ¹⁹⁰³ nānattaṃ dassento **tayo**¹⁹⁰⁴ **hi**¹⁹⁰⁵ ti ādim¹⁹⁰⁶ āha.

thāmādhiko¹⁹⁰⁷ ti thāmā adhikā¹⁹⁰⁸ yassa so yaṃ¹⁹⁰⁹ thāmādhiko¹⁹¹⁰. thāmā¹⁹¹¹ ti¹⁹¹² viriyassetam
adhivacanam¹⁹¹³. viriyādhiko¹⁹¹⁴ ti attho.

mato¹⁹¹⁵ ti mantabbo ñātabbo bhāsitaḥ¹⁹¹⁶ vā.

kappasatasahassāni¹⁹¹⁷ ti ettha¹⁹¹⁸ ettakam¹⁹¹⁹ saṃvaccharam¹⁹²⁰ ettako divaso¹⁹²¹ vā¹⁹²² ti
kappati¹⁹²³ gaṇanam¹⁹²⁴ na pāpuṇāti¹⁹²⁵ ti kappo¹⁹²⁶ ko¹⁹²⁷ so, kālo.
tena¹⁹²⁸ vuttam¹⁹²⁹.

satavassekamekañ¹⁹³⁰ ca khomadussehi¹⁹³¹ majjati¹⁹³²

pamajjati¹⁹³³ niravasesam¹⁹³⁴ khalakappo¹⁹³⁵ ti vuccati.

nagaraṃ¹⁹³⁶ yojanubbedham viṭṭharena¹⁹³⁷ catubbidham¹⁹³⁸

satavassekamekañ¹⁹³⁹ ca sāsapehi¹⁹⁴⁰ paripurittam¹⁹⁴¹

¹⁹⁰³ bodhisattānaṃ H
¹⁹⁰⁴ ta(khaṃ, b)yo K
¹⁹⁰⁵ hi HI
¹⁹⁰⁶ (gī, a) ādim F
¹⁹⁰⁷ thāmādhiko(gī, a)ko G; thāmādhiko H; thāmādiko I
¹⁹⁰⁸ adhikā H
¹⁹⁰⁹ yaṃ om. I
¹⁹¹⁰ thāmādhiko H
¹⁹¹¹ divaso vā ti kappati gaṇanam thāmā E; thāmā om. H
¹⁹¹² ti om. H
¹⁹¹³ adhvācanam H
¹⁹¹⁴ viriyādhiko H
¹⁹¹⁵ pato CD
¹⁹¹⁶ bhāsitaḥ om. H
¹⁹¹⁷ (gā, a) kappasatasahassāni A; kappasatasahassāni H
¹⁹¹⁸ (gā, a) ettha C
¹⁹¹⁹ ettakam I
¹⁹²⁰ saṃvaccharam C; savaccharam H
¹⁹²¹ di(gā, a)vaso B; diva(gā, b)so D
¹⁹²² vā om. H
¹⁹²³ kappam I
¹⁹²⁴ ga(gā, a)ṇanam Z
¹⁹²⁵ pāpuṇāti H
¹⁹²⁶ kappā D
¹⁹²⁷ (khaṃ, b) ko E
¹⁹²⁸ tena om. H
¹⁹²⁹ vuttam om. H
¹⁹³⁰ satam vasekamekañ A; satam vassekamekañ BCDEFGK
¹⁹³¹ khomanussehi FI; khoca (khai, b) padussehim H
¹⁹³² majjhati H
¹⁹³³ samajjati H; samacchati I; samajjati K
¹⁹³⁴ niravasesa F; nivasesam H; niravase I
¹⁹³⁵ kheyakappo I
¹⁹³⁶ nagara C
¹⁹³⁷ viṭṭharena K
¹⁹³⁸ catubbidha D
¹⁹³⁹ satam vassekamekañ CDEFGK; sam tam vassekamekañ H

punappunaṃ¹⁹⁴² hāpetvāna¹⁹⁴³ sāsapakappo¹⁹⁴⁴ ti vuccati¹⁹⁴⁵ ti.

*asaṃkhayyānī*¹⁹⁴⁶ ti na saṃkhyāvasena asaṃkheyyānī¹⁹⁴⁷. gaṇanapathaṃ atikkantānī¹⁹⁴⁸
asaṃkheyyānī¹⁹⁴⁹ ti attho.

tathā hi vuttaṃ.

sakalātīnī¹⁹⁵⁰ vassānī cakkavāḷābhīrapurayaṃ¹⁹⁵¹

piṇḍaṃ¹⁹⁵² ca binduvassaṃ¹⁹⁵³ ca asaṃkheyyā¹⁹⁵⁴ ti vuccati¹⁹⁵⁵ ti¹⁹⁵⁶.

atha¹⁹⁵⁷ vā¹⁹⁵⁸.

cattāḷīsasataṃ¹⁹⁵⁹ puññaṃ¹⁹⁶⁰ asaṃkheyyaṃ¹⁹⁶¹ ti¹⁹⁶² vuccati

tathā hi gaṇanāpathaṃ¹⁹⁶³ atītattā¹⁹⁶⁴ tathā¹⁹⁶⁵ matā¹⁹⁶⁶.

gaṇanātītāsaṃkheyyaṃ¹⁹⁶⁷ idhādhippetam¹⁹⁶⁸. gaṇanāvīsesaṃ¹⁹⁶⁹ asaṃkheyyaṃ¹⁹⁷⁰ ti keci¹⁹⁷¹ pathanti¹⁹⁷².

eko *saddhādhiko* mato pākaṭo idha mānuse

kappasatasahassānī asaṃkheyyānī aṭṭha pi

pūretvā pāramī sabbā patto sambodhim uttamam;

eko *paññādhiko* mato pākaṭo idha mānuse

kappasatasahassānī cattāri ca asaṃkheyyānī

¹⁹⁴⁰ sāsappehi I

¹⁹⁴¹ paripuritaṃ ABCDEFGH; paripuraṃ I; [paripuritaṃ K]

¹⁹⁴² punappunaṃ ca I

¹⁹⁴³ na hāpetvāna H; hāpetvā I

¹⁹⁴⁴ sāsamakappo H; sāsa(kho, b)ppakappo I

¹⁹⁴⁵ vuccati H

¹⁹⁴⁶ [asaṃkheyyānī ACDEGIK]; asaṃkheyyānī BF; asakheyyānī H

¹⁹⁴⁷ asaṃkhayyānī H

¹⁹⁴⁸ atikkantānī A

¹⁹⁴⁹ asaṃkhayyānī H

¹⁹⁵⁰ sakalātīnī A; sakalātīnī F; sakkalātīnī H

¹⁹⁵¹ cakkavāḷābhīrapūrayaṃ A; cakkavāḷābhīmurayaṃ C; cakkavāḷābhīrapūrayaṃ DE; cakkavāḷābhīpurayaṃ FGH;

cakkavāḷābhīrayyaṃ I; cakkavāḷābhīpūrayaṃ K

¹⁹⁵² piṇḍaṃ H

¹⁹⁵³ binduvassaṃ A; bindhuvassaṃ B; bindhuvassaṃ G; bindavassaṃ H; bindaṃ vassaṃ I

¹⁹⁵⁴ asaṃkheyyo AI; asaṃ(khaḥ, a)kheyyā K

¹⁹⁵⁵ vuccati I

¹⁹⁵⁶ ti *om.* I

¹⁹⁵⁷ (gī, b) atha F

¹⁹⁵⁸ pi I

¹⁹⁵⁹ cattāḷīsasata FG; cattāḷīsasataṃ H; [cattāḷīsasataṃ IK]

¹⁹⁶⁰ suññaṃ ADEFHK; su(gī, b)ññaṃ G; suññaṃ I; [suññaṃ]

¹⁹⁶¹ asaṃkheyyaṃ *om.* HI

¹⁹⁶² ti pi HI

¹⁹⁶³ gaṇanapathaṃ FG

¹⁹⁶⁴ atītattā C; atītattā H; atikkantā I

¹⁹⁶⁵ tathā *om.* H

¹⁹⁶⁶ [matā A]; matā *om.* H

¹⁹⁶⁷ gaṇanātītāsaṃkheyyaṃ EFGK

¹⁹⁶⁸ idhādhippetam H

¹⁹⁶⁹ gaṇanāvīsesaṃ H

¹⁹⁷⁰ (gā, b) asaṃkheyyaṃ A

¹⁹⁷¹ (gā, b) keci C

¹⁹⁷² paṭṭhanti EHK; patthenti I; [paṭṭhanti]

pūretvā paramī sabbā patto sambodhim uttamaṃ.

*saddhādhikoti*¹⁹⁷³ saddhā adhikā¹⁹⁷⁴ yassa bodhisattassa so saddhādhiko.

*pañādhiko*¹⁹⁷⁵ ti etthāpi esevanayo¹⁹⁷⁶.

*kappasatasahassāni*¹⁹⁷⁷ *cattāri asaṃkheyyāni*¹⁹⁷⁸ ti¹⁹⁷⁹ idaṃ laddhabyākaraṇato paṭṭhaya
veditabbaṃ.

tena vuttaṃ.

cintitaṃ sattaṃkheyyaṃ navasaṃkheyya¹⁹⁸⁰ vācakaṃ¹⁹⁸¹

catusaṃkheyyaṃ¹⁹⁸² satasahassaṃ¹⁹⁸³ buddhattaṃ¹⁹⁸⁴ samupāgami¹⁹⁸⁵ ti.

saddhādhikabodhisatto¹⁹⁸⁶ ariyametteyyo ti keci pathanti¹⁹⁸⁷. taṃ vicāretabbaṃ¹⁹⁸⁸.

Metteyyo bodhisatto hi tesam thāmādhiko mato

kappasatasahassāni asaṃkheyyāni soḷasa

pūretvā pāramī Tusite upapajjati.

cavitvāna tato kāyā ***sambodhiṃ pāpuṇissatī*** ti.

idāni sabbañubodhisattānaṃ¹⁹⁸⁹ viriyasaddhāpañāvasena¹⁹⁹⁰ nānattaṃ dassetvā¹⁹⁹¹ viriyādhiko¹⁹⁹²
ariyametteyyo ti niyamaṭṭhaṃ¹⁹⁹³ ***metteyyo bodhisatto hi***¹⁹⁹⁵ ty ādim āha.

puretvā¹⁹⁹⁶ ***pāramī***¹⁹⁹⁷ sabbā ti vuttatā metteyyo pi¹⁹⁹⁸ amhākaṃ bodhisattassa¹⁹⁹⁹

¹⁹⁷³ (gā, b) saddhādhikoti BDZ

¹⁹⁷⁴ dhikā K

¹⁹⁷⁵ pañāeko H: [pañādhiko]

¹⁹⁷⁶ evanayo H

¹⁹⁷⁷ kappasatasaha(ga, a)ssāni E

¹⁹⁷⁸ asaṃkheyyātinī A; asaṃkheyyāni F; asakheyyāni H

¹⁹⁷⁹ ti om. H

¹⁹⁸⁰ [navasaṃkheyyaṃ E]; navasaṃkheyyaṃ H

¹⁹⁸¹ vācikaṃ I

¹⁹⁸² catusaṃkheyyaṃ E; catusaṃkheyya HI

¹⁹⁸³ satasahassa H

¹⁹⁸⁴ buddhatta E

¹⁹⁸⁵ samupāgami A; saḥupāgami E

¹⁹⁸⁶ saddādhikabodhisatto A; saddādhikā (kho, a) kabodhisatto H; saddādhikabodhisatto I

¹⁹⁸⁷ paṭṭhanti EH; [paṭṭhanti]

¹⁹⁸⁸ vicāretabba H

¹⁹⁸⁹ sabbañubodhisattānaṃ C; sabbañubodhisattānaṃ H

¹⁹⁹⁰ viriyasaddhāpañāvasena H; [sabbañubodhisattānaṃ]

¹⁹⁹¹ dassetvā H

¹⁹⁹² viriyādhiko H; viri(khau, a)yādhiko I; [viriyasaddhāpañāvasena]

¹⁹⁹³ niyamaṭṭhaṃ D; dipetaṃ I

¹⁹⁹⁴ bodhisatto H

¹⁹⁹⁵ hī FG

¹⁹⁹⁶ (gu, a) puretvā FG

¹⁹⁹⁷ pārami EHI

¹⁹⁹⁸ (khaḥ, b) pi K

¹⁹⁹⁹ bodhisattassa H

vessantarabhāvasadise²⁰⁰⁰ attabhāve thatvā²⁰⁰¹ mahādānaṃ pavattetvā²⁰⁰² sattakkhattuṃ²⁰⁰³ pathaviṃ²⁰⁰⁴
kampetvā²⁰⁰⁵ ito cavitvā²⁰⁰⁶ tussitadevaloke²⁰⁰⁷ devapūjito²⁰⁰⁸ visesadevaputto²⁰⁰⁹ jāto hoti, tasmā
tussite²⁰¹⁰ upapajjati²⁰¹¹ ti vuttaṃ.

sambhodhin²⁰¹² ti ettha sayam bujjhati²⁰¹³ bujjhanti²⁰¹⁴ vā²⁰¹⁵ tena taṃ²⁰¹⁶ sammagino²⁰¹⁷ ti
bodhimaggo²⁰¹⁸ sabbañūtañāṇaṃ²⁰¹⁹ vā²⁰²⁰. sammāsāmañ²⁰²¹ ca²⁰²² bodhi²⁰²³ sambodhi²⁰²⁴. atha vā.
sundaram²⁰²⁵ paseṭṭham²⁰²⁶ vā bodhi²⁰²⁷ sambodhi²⁰²⁸. idha²⁰²⁹ pana²⁰³⁰ sabbañūtañāṇaṃ²⁰³¹ gahitaṃ.

pāpuṇissatī ti anāgate pāpuṇissati.

tena vuttaṃ.

metteyyo uttaro rāmo²⁰³² passeno²⁰³³ kosalobhibhū²⁰³⁴
dighajantī²⁰³⁵ ca²⁰³⁶ soṇo²⁰³⁷ ca²⁰³⁸ subbo²⁰³⁹ todeyyabrāhmaṇo
nālāgiri²⁰⁴⁰ pālileyyo²⁰⁴¹ bodhisattā²⁰⁴² ime dasa
anukkamena²⁰⁴³ samodhiṃ²⁰⁴⁴ pāpuṇissanti²⁰⁴⁵ anāgate ti.

-
- 2000 vesantarabhāvasadise H; vessantarattahabhāvasadise I
2001 tthatvā H; thatvā K
2002 pavattetvā G
2003 [sattakkhattuṃ BFIK]; sattakkhatu H
2004 pathavi EH
2005 kampetā C; kappetvā EH
2006 ca(gi, a)vitvā A; cavi C; carivitvā F
2007 tussita(gi, a)devaloke B; (gi, a) tussitadevaloke C; tussitadevalokato E; [tussitadevaloke]
2008 devapūjito F; depujito H
2009 vise(gi, a)sadevaputto DZ; visesadevaputo H
2010 tussitaṃ EI; [tusite]
2011 upapajjati H; upappajjati I
2012 [sambodhin ABCDEFGIK]; sambodhin H
2013 bujjati H; bujjhati om. I
2014 bujjhanti om. H
2015 vā om. H
2016 ta E
2017 sammagino E
2018 bodhipaggo AD; bodhisatto E; bodhipatto H; bodhipago I
2019 sabbañūtañāṇaṃ CFG; sabbañūtañāṇa E; sabbañātañāṇa H; sabbañūtañāṇa I; [sabbañūtañāṇaṃ]
2020 vā om. EI; va K
2021 sammāsāmañ DH; sāmāṇa E; sammāsāmaña F; sāpañ I
2022 ca om. EF
2023 bodhi E; bodhi H; bodhiṃ I
2024 sambodhi om. EHI
2025 sundharam CH
2026 [paseṭṭham EFG]
2027 (ga, b) bodhi E; bodhi H; bodhi om. I
2028 sammodhi F; sambodhi H; sambodhiṃ I
2029 idaṃ E
2030 mana H
2031 sabbañūtañāṇaṃ BCEFGHIK; [sabbañūtañāṇaṃ]
2032 rāhe A
2033 passenā H
2034 kosalobhibhu FHI
2035 dighajantī B; dighajajjhi C; dighajantī D; digha E; dighajantī FG; digha H; digha I; dighajantī K
2036 ca om. EHI
2037 soṇi E; soṇim H; soni I
2038 ca caṃ kica E; ca taṅgo H; pa caṃ kica I
2039 subho EIK
2040 nālāgiriG: nāddhāgiri I; nālāgiri HK
2041 pālileyyo H;
2042 bodhisatto I; bodhisattā H

24

evaṃ Sakkena saddhiṃ there kathente yeva Metteyyo cetiyaṅgaṇaṃ āgantvā padakkhiṇaṃ katvā atthadisāsu vanditvā gandhamālādīhi pūjetvā pañcaṅgapatitthitena vanditvā pācīnadisābhāge nisīdi. bodhisatto tattha nisinnaṃ theramaṃ vanditvā pucchi “kuto āgato si, bhante” ti. “ahaṃ Jambūtipāyato ‘mhi, mahārājā” ti. “bhante, Jambūtipamanussānaṃ kiṃ vattamānaṃ” ti. thero bodhisattassa paṇhaṃ kathento āha:

sabbe te manussā tattha **sakakammena jīvitā**
samiddhā ca daliddā ca sukhitā dukkhitā pi ca
abhirūpā virūpā ca dighāyukā appāyukā.
samiddhā appakā honti daliddā ca bahūjanā;
sukhitā appakā honti dukkhitā ca bahūjanā;
surūpā appakā honti virūpā ca bahūjanā;
dīghāyukā appakā honti appāyukā ca bahūjanā.
manussā appakā honti tiracchānā bahūtarā;
tasmā vadāmi 'haṃ sabbe sakakammena jīvitā ti.

sakakammena²⁰⁴⁶ **jīvitā**²⁰⁴⁷ ti ettha ye janā dānādīni puñāni²⁰⁴⁸ katvā te tattha²⁰⁴⁹ samiddhā²⁰⁵⁰
sukhitā²⁰⁵¹ abhirūpā²⁰⁵² dīghāyukā²⁰⁵³ attano puñena²⁰⁵⁴ jīvanti²⁰⁵⁵ yeva²⁰⁵⁶ ye pana pāṇātipātādīni²⁰⁵⁷
pādāni²⁰⁵⁸ katvā puñamattam²⁰⁵⁹ pi ajānitvā²⁰⁶⁰ te²⁰⁶¹ sabbe pi daliddhā²⁰⁶² dukkhitā²⁰⁶³ virūpā²⁰⁶⁴
appāyukā²⁰⁶⁵ attano attano²⁰⁶⁶ pāpakammena²⁰⁶⁷ jīvanti²⁰⁶⁸ yevā ti imam atthaṃ sandhāya²⁰⁶⁹ thero **te**

2043 anukkammena H
2044 sambodhi A; sambodhiṃ BCEFGIK; sambodham D; sambodhiṃ H
2045 pāmuṇissanti A; pāpuṇi(kho, b)ssanti H
2046 sakakammena ~ (phūk 2) om. K
2047 [jīvitā DFG]; vijitā E
2048 puñā(gu, b)ni F; (gu, b) puñāni G; [puñāni]
2049 tthattha C
2050 samidā H
2051 sukkhitā H; sukhi(khau, b)tā I
2052 abhirupā FH
2053 dighāyukā ACEH
2054 [puñāna]
2055 [jīvanti DFG]; jīvanti E
2056 ye(gi, b)va AC
2057 pāṇātipātādīni H; pātātipātādīni I
2058 [pāpāni ABCDEFGHI]
2059 (gi, b) puñamattam B; [puñānamattam]
2060 ajā(gi, b)nitvā D
2061 (gi, b) te Z
2062 [duliddā D]; dalidā H
2063 dukkhatā E;
2064 [virūpā ABCDEFG]
2065 apāyukā E
2066 attano om. EI

sabbe²⁰⁷⁰ manussā tattha sakakammena²⁰⁷¹ jivitā²⁰⁷² ti āha. sakakamme²⁰⁷³ jivitā²⁰⁷⁴ ti attano²⁰⁷⁵
kammena pavattā²⁰⁷⁶ nibbattā vā.

bodhisatto therassa vacanaṃ sutvā “bhante, Jambūdīpamanussā kiṃ bahūpuññāni karonti udāhu pāpāni” ti. “mahārāja, puññaṃ karontā appakā honti pāpaṃ karontā bahutarā honti” ti. “kiṃ puññaṃ karontā, bhante” ti. “mahārāja, Jambūdīpamanussā keci dānaṃ denti keci sīlaṃ rakkhanti keci dhammānaṃ denti keci uposathaṃ karonti keci buddhapatimaṃ karonti keci vihāraṃ karonti keci āvāsaṃ karonti keci vassāvāsaṃ denti keci cīvaraṃ denti keci piṇḍapātaṃ denti keci bhesajjaṃ denti keci bodhirukkhaṃ ropenti keci thūpaṃ karonti keci cetiyaṃ karonti keci ārāmaṃ karonti keci setuṃ karonti keci caṅkamaṃ karonti keci kūpaṃ khananti keci taṭakaṃ khananti keci parikkhāraṃ denti keci dasavidhaṃ dānaṃ denti keci mātupitu-upatthānaṃ karonti keci kālakatānaṃ ñātakānaṃ atthaya yaññaṃ karonti keci ratanattayaṃ pūjenti keci puttaṃ pabbājenti keci dhammaputtaṃ pabbājenti keci buddhapatimaṃ pūjenti evaṃ sabbāni kusalakammāni Jambūdīpamanussā yathāsatiyathābalaṃ yathā-ajjhāsayamaṃ karonti” ti kathesi. “bhante, Jambūdīpamanussā evarūpāni puññāni katvā kiṃ paṭṭhanaṃ karonti” ti. thero tassa manussānaṃ panidhānaṃ karonto āha:

deva te **puññamattaṃ pi** katvā kārenti vā pana
paresaṃ vā anumodanti **tuyhaṃ patthenti bodhiyā:**
iminā katapuññena dānasīlādinaṃ pana
Metteyyass’ eva buddhassa **dassanañ ca labhāmhase;**
yāvānupajjate buddho Metteyyo devapūjito
saṃsāre saṃsarantā pi apāye na gamāmhase.
Jambūdīpamanussā te puññaṃ katvā tadā pana
evaṃ kariṃsu paṇidhiṃ sabbatṭhānesu sabbadā ti.

puñnamattam²⁰⁷⁷ **pi**²⁰⁷⁸ ti yaṃ kiñci kammaṃ lokena sammatam²⁰⁷⁹.

²⁰⁶⁷ pāmakammena F

²⁰⁶⁸ [jīvanti AFG]; jīvanti D

²⁰⁶⁹ sandāya DE

²⁰⁷⁰ sabbe sabbe E

²⁰⁷¹ sakamaṃ kammaṃ F

²⁰⁷² [jīvitā ADFG]; jīvikā E

²⁰⁷³ [sakakammena ACDEFGH]

²⁰⁷⁴ [jīvitā ADFG]

²⁰⁷⁵ atteno D

²⁰⁷⁶ pattā H

²⁰⁷⁷ [puññamattam]

tuyhaṃ²⁰⁸⁰ paṭṭhenti²⁰⁸¹ bodhiyā²⁰⁸² ti te²⁰⁸³ sabbe²⁰⁸⁴ sabbañūtañāṇātibujjhanakāle²⁰⁸⁵ tuyhaṃ
sāsane nibbattitū paṭṭhenti²⁰⁸⁶ paṭṭhanam²⁰⁸⁷ karonti. idāni thero manussānaṃ paṇidhānaṃ²⁰⁸⁸ dassento
*iminā katapuñēnā*²⁰⁸⁹ ty ādim āha.

dassanañ ca labhāmhase²⁰⁹⁰ ti metteyyabuddhassa²⁰⁹¹ santike pathamaṃ²⁰⁹²
nibbānadassanatthena²⁰⁹³ nayasahassapatimaṇḍitaṃ²⁰⁹⁴ sotāpattimaggañāṇasaṃkhātaṃ²⁰⁹⁵ dassanaṃ²⁰⁹⁶
labhēyyāma²⁰⁹⁷, metteyyanāthassa²⁰⁹⁸ dassanamattaṃ²⁰⁹⁹ vā labhitvāna yathā ruciṃ²¹⁰⁰ paṇidhānaṃ²¹⁰¹
kareyyāma²¹⁰².

bodhisatto Jambūḍīpamanussānaṃ pavattim sutvā somanassaṃ patto hutvā evam āha
“bhante, sabbe janā maṃ sabbaññūtaṃ pattaṃ daṭṭhū paṭṭhento
Mahāvessantarajātaṃ ekadivase yeva pariniṭṭhitaṃ suṇantu; saḥassapadīpena vā
pūjetvā saḥassapadumena vā saḥassaniluppalena vā saḥassa-indīvarena vā
saḥassa-maṇḍārapupphena vā saḥassa-ummārapupphena vā saḥassadhajena vā
saḥassachattena vā saḥassapaṭākena vā saḥassayaññena vā *sabbam āharitvā dhammaṃ*
pūjetvā mama bodhikāle mama sammukhā saha paṭisambhidāhi *arahattaṃ*
paṭilabhissanti” ti. iti vatvā puna pāpamanussānaṃ attano buddhattadassanaṃ
alabhamānabhāvaṃ kathento gātham āha:

*mahāvessantarajātaṃ*²¹⁰³ *ekadivase*²¹⁰⁴ *yeva suṇantū*²¹⁰⁵ ti²¹⁰⁶ etthāyaṃ²¹⁰⁷

²⁰⁷⁸ pi DH

²⁰⁷⁹ sammattaṃ E; kammatam H; samatam I

²⁰⁸⁰ tuyha H

²⁰⁸¹ patthenti EI; paṭṭhanti H

²⁰⁸² bodhiyā H

²⁰⁸³ tesu E

²⁰⁸⁴ (gā, a) sabbe E

²⁰⁸⁵ sabbañūtañāṇābhijjhanakāle AD; sabbañūtañāṇābhijjhanakāle CGH; sabbañūtañāṇābhijjhanakāle E;

sabbañūtañāṇātibujjhanakāle BF; sabbañāṇābhijjhanakāle I; [sabbaññyāñāṇābhijjhanakāle]

²⁰⁸⁶ [paṭṭhenti I]

²⁰⁸⁷ [paṭṭhanam]

²⁰⁸⁸ paṇidhānaṃ I

²⁰⁸⁹ [katapuñēna]

²⁰⁹⁰ labhāmhase H

²⁰⁹¹ metteyyabuddhassa F; metteyyabudassa H

²⁰⁹² thamaṃ A; paṭṭhanam E; pathama HI

²⁰⁹³ nibbānaṃ dassanatthena E; nibbānaṃ dassanaṭṭhena I

²⁰⁹⁴ saḥassanayapatimaṇḍitaṃ I; [saḥassanayapaṭimaṇḍitaṃ]

²⁰⁹⁵ sotāpattimaggañāṇasaṃkhātaṃ EHI; sotāpattimaggañāna(gū, a)saṃkhātaṃ F

²⁰⁹⁶ (gū, a) dassanaṃ G

²⁰⁹⁷ labhāyyāma H

²⁰⁹⁸ metteyyanā(gī, a)thassa A

²⁰⁹⁹ dassananāmaṃttaṃ H

²¹⁰⁰ (gī, a) ruci C; ruci EI; ruṭhi H

²¹⁰¹ paṇidhā(gī, a)naṃ B; paṇidhānaṃ C

²¹⁰² kareyyāma A; kare(khau, a)yyāma H

²¹⁰³ mahāvessantarajātaṃ ACFGHI; mahāve(gī, a)ssantarajātaṃ D

²¹⁰⁴ e(khaṃ, a)kadivase I; (gī, a) ekadivase Z

linantaracodanā²¹⁰⁸ nanu²¹⁰⁹ ca ko²¹¹⁰ mahāvessantarajāṭakaṃ²¹¹¹ suṇantū²¹¹² ti kasmā vuttam²¹¹³.
tadaññam²¹¹⁴ suttam²¹¹⁵ sattappakāraṇādi²¹¹⁵ kinnu²¹¹⁶ kho na sotabban ti vuccate²¹¹⁷ sotabbam eva. tañhi²¹¹⁸
nimuṇṇam²¹¹⁹ saṇṇam²¹²⁰ duddassa²¹²¹ atigambhiram²¹²² gambhiraññogāḷham²¹²³ na²¹²⁴ sakkā²¹²⁵
duppañehi²¹²⁶ pubbe²¹²⁷ anupacitapuññasambhārehi²¹²⁸ ogāhitum²¹²⁹ nacane²¹³⁰ samatthābhisamayo²¹³¹
hoti. yadi pi²¹³² pāthamattam²¹³³ eva savanam mahapphalam mahānisamsam eva, pañcasatā²¹³⁴
vagguliyo²¹³⁵ pi²¹³⁶ hi pabbhāre²¹³⁷ olambantā kaṇhasukkaṃ²¹³⁸ pakkham²¹³⁹ ajānitvā dvinnam
abhidhammikabhikkhūnam²¹⁴⁰ sajjhāyantānam²¹⁴¹ dhammo eso ti sare nimittam²¹⁴² gahetvā cutā
devaloke nibbattiṃsu. manussā pana andhabālā²¹⁴³ suṇantā attham anabhisambujjhivā²¹⁴⁴ idam
amadhuram²¹⁴⁵ amanoharaniyan²¹⁴⁶ ti pamādam²¹⁴⁷ āpajjitvā²¹⁴⁸ apāyagāmino²¹⁴⁹ honti²¹⁵⁰ thapetvā²¹⁵¹

2105 suṇantu ACEFH
2106 ti *om.* E
2107 etthāya F
2108 linantarapodanā AG; linantaracodanu E
2109 nanu *om.* E
2110 [bho ACDEFGHI]
2111 [mahāvessantarajāṭakaṃ E]
2112 suṇantu CEFH
2113 vutta H
2114 [tadaññam]
2115 sattappakaraṇādi EFGI; [sattappakaraṇādīm H]
2116 kinnu EI
2117 vuccatte A
2118 tamhi EI
2119 nipuṇṇam ABCDFGH; [nipuṇṇam EI]
2120 [saṇṇam ABCFGHI]; saṇhi E
2121 [duddassam ABCDI]; duddhassam E; duddassam F; dutthassam G; dudassam H
2122 atigambhira A; [atigambhīram I]
2123 gambhiraññogāḷhitum E; gambhiraññena gāḷhitum I
2124 sakkā EI
2125 na EI
2126 dupañehi EH; nuppañehi I; [duppañāhi]
2127 pubbena H
2128 anupacitapuññasambhārehi A; anupacitapuññasambhārehi E; anupacitapuññasambhārehi I
2129 ogāhitum EI
2130 napanesa; [vacane]
2131 abhisamayo I
2132 ma H; pi *om.* I
2133 pāthamattam ABCDGH; pāthamattass EI; pāthamattap F; [pāthamattam]
2134 pañcasata H
2135 vagguliyo C; vaguliyo I
2136 pa H; ba I
2137 (gā, b) pabbhāre E; bhāre H
2138 kaṇhasukka ACDFGHI; kaṇhasukkham E
2139 cakkha H
2140 ābhidhammakabhikkhūnam H; ābhidhammikabhikkhūnam I
2141 sajjhāyantānam E
2142 nimitam H
2143 andabālā I
2144 abhisambujjhivā H
2145 (gī, b) amadhuram A; madhuram D; amadhuram amadhuram E; ama(gū, b)dhuram F; amadhūram G; amadhura H
2146 amanomānoharaniyam E; (gū, b) amanoharaniyan G; amanoharaniyam H
2147 pahadam B
2148 āpajjhivā BE; āpajitvā G
2149 apāyagāmi(gī, b)no C
2150 (gī, b) honti B
2151 (gī, b) thapetvā Z; [thapetvā]

paṇḍite²¹⁵² jane ti idaṃ kāraṇaṃ disvā ariyametteyyo bodhisatto²¹⁵³ āha mahāvessantarajāṭakaṃ²¹⁵⁴
suṇantū²¹⁵⁵ ti. api ca vessantaro²¹⁵⁶ lokanātho²¹⁵⁷ evaṃ dhāretha jāṭakaṃ²¹⁵⁸ ti²¹⁵⁹ idaṃ nāma²¹⁶⁰
anussaritvā²¹⁶¹ evaṃ āha. ettha ca tumhe etarahi mama²¹⁶² sāsane lokuttaradhammaṃ²¹⁶³
anabhisambujjhivā, taduttariṃ²¹⁶⁴ saṃsāramahoghaṃ²¹⁶⁵ taritukāmā, anāgate²¹⁶⁶
metteyyasambuddhaṃ²¹⁶⁷ daṭṭhaṃ²¹⁶⁸ paṭṭhenta²¹⁶⁹, evaṃ mayā²¹⁷⁰ vuttanayena²¹⁷¹
gāthāsahassapaṭimaṇḍitaṃ²¹⁷² mahāvessantarajāṭakaṃ²¹⁷³ dhāretha yoniso upadhāretvā suṇātha²¹⁷⁴,
suṇitvā ca pana tena²¹⁷⁵ kusalena metteyyassa²¹⁷⁶ sāsane dukkhassantaṃ²¹⁷⁷ karissathā²¹⁷⁸ ti pakāsito
ayam²¹⁷⁹ attho. temiyamahājanakajāṭakādīni²¹⁸⁰ sotabbāni pi²¹⁸¹ pariyattiantaradhānakāle²¹⁸² pana
paṭilomato²¹⁸³ antaradhāyissati dasasujāṭakesu²¹⁸⁴ pathamaṃ²¹⁸⁵ mahāvessantarajāṭakaṃ²¹⁸⁶
antaradhāyissatī²¹⁸⁷ ti disvā evaṃ²¹⁸⁸ āha²¹⁸⁹. *ekadivase yevā* ti kasmā²¹⁹⁰ niyamo kato nanu
taduttaridivase pi suṇantā bhiyyoso²¹⁹¹ mattāya mahantaṃ²¹⁹² puñaphalaṃ²¹⁹³ paṭilabhantī²¹⁹⁴ ti.

2152 (gī, b) paṇḍite D

2153 bodhisatto H

2154 [mahāvessantarajāṭakaṃ E]; mahāvesantarajāṭakaṃ H

2155 suṇantu FH

2156 vessantaro H

2157 lokajettho E

2158 [jāṭakaṃ E]

2159 ti va(kham, b)datī ti I

2160 vacanam EI

2161 anussari(khau, b)tvā H

2162 pama D

2163 lokuttaradhamme D; lokuttaradhammaṃ E

2164 tadutari E; taduttari H; taduttaraṃ I

2165 saṃsāramahosapaṃ D; saṅghāramahoghaṃ H; saṃsāramahogha I

2166 anāgatte H

2167 metteyyasambuddhaṃ A; metteyyasambuddha H

2168 daṭṭhaṃ ADEFGH; daṭṭha I

2169 paṭṭhento EG; [paṭṭhenta I]

2170 vumayā G

2171 ritanayena H

2172 gāthāsahassapaṭimaṇḍitaṃ HI

2173 [mahāvessantarajāṭakaṃ E]; mahāvesantarajāṭakaṃ H

2174 suṇātha H

2175 tena om. E

2176 metteyya I

2177 dukkhassa(gi, a)ntaṃ E

2178 karissa I

2179 yam ACDGH

2180 temiyamahājanakajāṭakādīni E; temiyamahājanakajāṭakādīni H; temiyamahājanakajāṭakādīni I; [temiyamahājanakajāṭakādīni]

2181 pi om. EI

2182 pariyattiantaradhānakāle D; pariyattiantaradhānakālo E

2183 [paṭilomato I]

2184 dasasu(gu, a)jākesu A; [dasasujāṭakesu E]; dasasu(ge, a)jākesu F

2185 (ge, a) pathamaṃ G

2186 mahāve(gu, a)ssantarajāṭakaṃ C; mahāvessantarajāṭakaṃ antarajāṭakaṃ E; mahāvesantajāṭakaṃ H

2187 antaradhāyissa(gu, a)tī B; antaradhāyissatī H

2188 (gu, a) evam Z

2189 ā(gu, a)ha D; ahā ti EI

2190 kammā E

2191 tissoso E

2192 mahanta E

2193 [puññaphalaṃ]

2194 paṭilabhanti EH

ekadivase yeva²¹⁹⁵ sotum²¹⁹⁶ pahonakabhāvato²¹⁹⁷.

yathā pana ekam²¹⁹⁸ maṅgalakhettaṃ²¹⁹⁹ ekadivase yeva kasitabbaṃ kasati²²⁰⁰, na²²⁰¹ kevalam²²⁰²
kasati²²⁰³ yeva²²⁰⁴ atha²²⁰⁵ kho samakaraṇabijjavavuttikaraṇavasena²²⁰⁶ sabbam pi kattabbaṃ²²⁰⁷
kiccaṃ tadaheva²²⁰⁸ niṭṭhapeti²²⁰⁹, evam eva ekadivase yeva sotabbaṃ mahāveśāntarajātakam²²¹⁰
suṇantā, attano cittasāntānakhettaṃ²²¹¹ kasitvā paññāmayam²²¹² yugganaṅgalam²²¹³ hirimayaṇ²²¹⁴ ca²²¹⁵
īsam²²¹⁶ manomayena yottena²²¹⁷ ekābandham²²¹⁸ katvā paññānaṅgale²²¹⁹ satiphālam²²²⁰ ākoṭetvā²²²¹
paññāyutte²²²² viriyabalibaddhe²²²³ yojetvā²²²⁴ satipācānena²²²⁵ vijjhivā saddhābijjam²²²⁶ vappitvā²²²⁷
tappovuttīhiyā²²²⁸ anuggahitaṃ²²²⁹ rāgādi-akusaladhammatomahisamigagaṇehi²²³⁰
nānappakāraṇakusalasānaṃ²²³¹ avilumpanattham²²³² kāyavaciārahāraguttimayena²²³³ tividhaparikkhepena
tappetvā²²³⁴ niccam²²³⁵ niddhānaṃ²²³⁶ katvā soraccaṃ²²³⁷ pamodhanaṃ²²³⁸ viriyam²²³⁹

-
- 2195 ye E
2196 setum H
2197 mahānakabhāvato E; pahonakakāvato F
2198 eka EHI
2199 maṅgalakhetta H
2200 kassati E
2201 ne E
2202 nevalam E
2203 kassati E
2204 ye A
2205 (khaḥ, a) atha I
2206 samakaraṇatijjavavuttikaraṇavasena C; samakaraṇavijjiropanavuttikaraṇavasena E; samakaraṇabijjavapanavuttikaraṇa(khaṃ, a)vasena H; samakaraṇavijjaro puna vuttikaraṇavasena I; [samakaraṇabijjavapanavuttikaraṇavasena]
2207 kattabba BCDFGI; katabba H
2208 taṃdaheva D
2209 [niṭṭhapeti B]
2210 [mahāveśāntarajātakam E]; mahāveśāntarajātakam H
2211 pittasāntānakhettaṃ E; (ga, a) naṃkhettaṃ L
2212 [paññāmayam]
2213 yugganaṅgala H; yuggalam L; [yuganaṅgalam]
2214 hirimayaṇ EI; hirimayabya L
2215 cagghasamhirimayaṇācā H; ca om. EIL
2216 isam E; īsam om. H; īsam hirimayaṇ cā L
2217 yotteni L
2218 ekābandham E; ekābada H
2219 paññāmayanaṅgale E; paññānaṅgele G; maññānaṅgale H; [paññānaṅgale]
2220 (gi, b) satiphālam E; satinālam I
2221 akoṭetvā EH
2222 attano cittasāntānakhettaṃ kasitvā paññāyutte E; paññāyutta H; attano cittasāntānakhettaṃ kasitvā paññāyuta I; [paññāyugge]
2223 viriyabalitaddhe F; [viriyabalivadde]
2224 yojetvā E
2225 satipācānena L
2226 saddhājjam A; saddhātijjam CD; sadābijjam GH; saddhāvija I; [saddhābijjam]
2227 vappitvā H; vippitvā I; [vappitvā]
2228 tappovuttīhiyā H; tappovuttīhiyā L
2229 anu(gu, b)ggahitaṃ A; anuggahitvā I
2230 rāgādi-akusaladhammatomahīsatisamigagaṇehi A; rāgādi-akusaladhammatoma(gu, b)hisamigagaṇehi B;
rāgādi-akusaladhammatomahisa(gu, b)migagaṇehi C; rāgādi-akusaladhammatomahisami(gu, b)gagaṇehi DZ;
rāgādi-akusalakammatomahisamiggagaṇehi E; rāgādi-akusa(ge, b)ladhammatomahisamigagaṇehi F;
rāgādi-akusalatomahisamiggagaṇehi I; rāgādi-akusaladhammatomahisamigagaṇehi L;
[rāgādi-akusaladhammagomahisamigagaṇehi]
2231 nānappakāraṇakusalasānaṃ E; (ge, b) nānappakāraṇakusalasānaṃ G; nānappakāraṇakusalasānaṃ H
2232 avilumpanattham ABCDEFGHI; avilumpanattham L
2233 kāyavaciārahāraguttimayena A; kāyavaciārahāraguttimayena C; kāyavaciārahāraguttimayena E; kāyavaciārahāraguttimayena H;
kāyavaciārahāraguttimayena I
2234 [gopetvā]
2235 nisaccaṃ ABCD; [saccaṃ EFGL]; sacca H; niccam om. I

dhuradhoreyhaṃ²²⁴⁰ yogakhemābhimukhaṃ²²⁴¹ katvā²²⁴² kasikamma-pariyosāne²²⁴³ va²²⁴⁴
catubbidhasāmañaphalasālīphalaṃ²²⁴⁵ bhūñjissanti²²⁴⁶ ti. vuttaṃ hetamaṃ²²⁴⁷ bhagavatā²²⁴⁸ suttanipāte²²⁴⁹
kasibhāradhvājasutte²²⁵⁰.

saddhā bijjaṃ²²⁵¹ tapo²²⁵² vutthi²²⁵³ pañā²²⁵⁴ me²²⁵⁵ yugganaṅgalaṃ²²⁵⁶
hiri īsā mano²²⁵⁷ yottaṃ²²⁵⁸ sati²²⁵⁹ me phālapācanaṃ²²⁶⁰.
kāyagutto²²⁶¹ vacigutto²²⁶² āhāre²²⁶³ udare²²⁶⁴ yato²²⁶⁵
saccaṃ²²⁶⁶ karomi²²⁶⁷ niddhānaṃ²²⁶⁸ soraccaṃ me²²⁶⁹ pamocanaṃ²²⁷⁰.
viriyamaṃ²²⁷¹ me dhuradhoreyhaṃ²²⁷² yogakhemādhivāhanaṃ²²⁷³
gacchati anivattantaṃ²²⁷⁴ yattha gantvā na socati²²⁷⁵.
evam esā kasi²²⁷⁶ kaṭṭhā²²⁷⁷ sā hoti amatapphalā²²⁷⁸
etaṃ²²⁷⁹ kasiṃ²²⁸⁰ kasitvāna²²⁸¹ sabbadukkhā pamañcatī ti.

-
- 2236 niddhāna AH; [niddānaṃ BCDFG]; nidānaṃ E
2237 soracca H
2238 [pamocanaṃ ACDEFG]; mamocanaṃ HL; pamopana I
2239 viriyamaṃ om. EHIL
2240 [dhuradhoreyhaṃ BFG]; dhuradhoreyhaṃ om. EHIL
2241 yogakhetamābhimukhā E; yogakhemābhimukkhā H; yogakhemābhimukhā I; yogaghotimukkhā L; [yogakkhemābhimukhaṃ]
2242 hutvā EHIL
2243 kasikakamma-pariyosāne I
2244 va om. EI
2245 catubbidhasāmañaphalasālīphalaṃ EL; catubbidhasāmañaphalasālīphalaṃ F; catubbidhasāmañaphalaṃ H; catubbidham
sāmañaphalasālīphalaṃ I; [catubbidhasāmañāphalaṃ]
2246 bhūñjisati H
2247 hettamaṃ H
2248 bhagavato L
2249 suttanipāte H
2250 kasibhāradhvājasutte ABCDFG; kasibhāradhvājasutte E; kasibhāradhvājasutte H; kasiddhāradhvājasutte I; kasibhāradhvātasutte L
2251 bijjaṃ F; bijja H; vijja I; [bijjaṃ]
2252 tappo EHL
2253 vutthi H
2254 [pañā]
2255 maya H; mayamaṃ L
2256 yugganaṅgala H; [yuganaṅgalaṃ I]; yugganaṅgalaṃ L
2257 ma(khaḥ, b)no I
2258 yotta H
2259 satti G; sa HL
2260 nālapācanaṃ C; phalapācanaṃ H; phālaṃ pāpanamaṃ I; phalapāpana L
2261 kāyagutā E; kāyugutto L
2262 vacīgutto AD; vacigutto E
2263 āhārena D; āhāro I
2264 u(ga, b)dare L
2265 yatto H; yutto EI
2266 sacca H
2267 karomi E
2268 nidānaṃ E; [niddānaṃ FG]
2269 me om. E
2270 pamopanaṃ L
2271 viriya EH; viriyamaṃ I
2272 duradhāreyaṃ E; [duradhoreyhaṃ F]; dhuradhoreyhaṃ G; dhuradhā(khaṃ, b)re H; dhuramaṃ dhāre IL
2273 yogakhemādhivāpanamaṃ E; yogakhemāvavāhanaṃ H; yogaghotivāhanaṃ L; [yogakkhemādhivāhanaṃ]
2274 anivattantaṃ A; anivattanta E; anivattanta H; anivattanti L
2275 sopasi I
2276 kali H; [kasi]
2277 (gī, a) kaṭṭhā E
2278 amatapphalā E; amatacchalā I; amatapphala L
2279 eta HL

evasaddo²²⁸² niyamatto tena divasabhāgassa²²⁸³ niyamam dasseti.²²⁸⁴ katham²²⁸⁵.

atitarattiyā²²⁸⁶ yāmo pacchimoḍḍham²²⁸⁷ amussa²²⁸⁸ vā²²⁸⁹

bhāvaniyādīpahāro²²⁹⁰ taddaḍḍho²²⁹¹ vājja²²⁹² tehy aho ti

kaccāyanasāre²²⁹³ vuttam.

*sahassapadīpena*²²⁹⁴ vā ti ettha pana kasmā niyamo²²⁹⁵ kato²²⁹⁶ na tato oṇam²²⁹⁷ adhikan²²⁹⁸ ti nanu²²⁹⁹ vuttam²³⁰⁰ bhagavatā yathāsati²³⁰¹ yathābalaṃ²³⁰² dānam detha yathārahan²³⁰³ ti. vuccate idaṃ hi²³⁰⁴ anurūpaṃ²³⁰⁵ pūjāvacaṇam²³⁰⁶. kasmā ti ce. taṃ²³⁰⁷ varaṃ²³⁰⁸ dadanto imasmim gāthāsahassapaṭimaṇḍite²³⁰⁹ mahāvessantarajātake²³¹⁰ pathamaṃ²³¹¹ gātham²³¹² ahā²³¹³ ti vacanato²³¹⁴ tadanurūpavasena²³¹⁵ saṃkhyāvacaṇam²³¹⁶ suttan²³¹⁷ ti veditabbaṃ. vākāro samuccayatto²³¹⁸. tena *sahassapadīpena*²³¹⁹ vā sabbaṃ āharitvā ti vuttam hoti.

dhamman ti mahāvessantaradhammadesanaṃ²³²⁰. taṃ panaṃ²³²¹ suṇantena²³²² pi sādhukaṃ

2280 kasi DHIL; kasiṃ om. E
2281 tasitvāna L
2282 evasaddho BE; evasado H; evamsaddho L
2283 (gū, a) divasabhāgassa A; disabhogassa L
2284 dass(gū, a)ti. CD; dasseti (gū, a). Z
2285 (gū, a) katham B; katha H; atham L
2286 [atitarattiyā AD]; atitarattiyā I
2287 pacchimoḍḍham ABCDL; pacchimomajhim E; (gai, a) pacchimoḍḍham F; pacchimo aḍham I
2288 umussa L
2289 vā om. E
2290 bhāviniyādīpahāro B; bhāvaniyādīpakāro E; bhāvaniyā(gai, a)dīpahāro G; bhāvaniyādīpahāro I
2291 taddaḍḍhe A; taddaḍḍhe D; taddaḍḍho E; taddaḍḍho I; taddaḍḍho L
2292 rājja F; rāja L
2293 kaccāyasāre HI; kaccāyasāvera L
2294 [sahassapadīpena FG]
2295 niyahe A
2296 kamo kato H
2297 oṇam E; oṇam GI; [ūnam]
2298 aekan L
2299 na E; nana H
2300 vattam D
2301 yathāsatiṃ FG
2302 yathābala H; yathāphalam L
2303 yadārahan A
2304 hi om. EHL
2305 anurūpa ABCFGIL; anūrūpa D; anarupa H
2306 pūjāvacaṇam H
2307 ta H; kaṃ I
2308 vara H
2309 [gāthāsahassapaṭimaṇḍite FG]; gāthāsahassapatimaṇḍite H
2310 vessantarapatimaṇḍite mahāvessantarajātake E; mahāvessantarajātake H; [mahāvessantarajātake L]
2311 paṭṭhama H; pathama IL; [paṭṭhamam]
2312 katham I
2313 ahā H; āho I
2314 vacanato ~ (phūk 2) om. I; vacato L
2315 tadanurūpavasena H; tadanurūpavasenaṃ L
2316 saṃkhyāvacaṇa E; (gā, a) saṃkhyāvacaṇam L
2317 vuttan ACDEFGHL
2318 samuccasuvanatto E; samuccateyatto HL
2319 [sahassapadīpena FG]
2320 mahāvessantaradhammadesanaṃ H; mahāventaradhammadesanaṃ L
2321 [pana ABCDEFGHL]
2322 sunantena L

sunitabbaṃ²³²³. kathentena pi padabyañjanaṃ ahāpetvā sādhuṃ kathetabbaṃ²³²⁴. kābyavasena²³²⁵
pana²³²⁶ cittaḥkaraṃ²³²⁷ cittabyañjanaṃ²³²⁸ katvā²³²⁹ kathetuṃ na²³³⁰ vaṭṭati ti.

*arahattaṃ*²³³¹ ti aggaḥphalassettaṃ²³³² adhvācānaṃ²³³³. taṃ *patibujjhissanti*²³³⁴ ti attho.

paṭighaṃ bhikkhunīdūsaṃ karonti ***saṃghabhedakaṃ***

pañcānantariyakammaṃ thūpaṃ bodhissa chedakaṃ

bodhisattañ ca mārenti santaṃ saṃghassa hāraḥ

maccherā ca pamādā ca na honti ***mama santike*** ti.

*paṭighaṃ*²³³⁵ ti ariyupavādakammaṃ²³³⁶.

*bhikkhunīdūsaṃ*²³³⁷ ti bhikkhūnaṃ²³³⁸ silānāsanakammaṃ²³³⁹. kuladūsaḥ²³⁴⁰ ty ādisu²³⁴¹
viya²³⁴².

*saṃghabhedakaṃ*²³⁴³ ti ettha yo pana bhikkhusamānasamvāsako²³⁴⁴ pakatatto²³⁴⁵
samānasimāyattḥito²³⁴⁶ pañcahi kāraṇehi saṃghabhindakammaṃ²³⁴⁷ vā uddhesena²³⁴⁸ vā vohārena²³⁴⁹
vā anusāvanena²³⁵⁰ vā salākaḡāhena²³⁵¹ vā. so saṃghabhedako devadatto²³⁵² viya²³⁵³ kappattḥiko²³⁵⁴

²³²³ sunitabbaṃ L

²³²⁴ katheta(ḡī, b)bbāṃ E

²³²⁵ kābyavase(ḡū, b)na C

²³²⁶ pa(khaḥ, a)na H

²³²⁷ citta(ḡū, b)kkharaṃ A

²³²⁸ cittabya(ḡū, b)ñjanaṃ D; cibyañjanaṃ E

²³²⁹ ka(ḡū, b)tvā B

²³³⁰ vana B

²³³¹ ahattaṃ D; arahantattaṃ E; arahantattaṃ H

²³³² maggaḥphalassettaṃ E; agga(ḡū, b)phalassettaṃ Z

²³³³ adhvācānaṃ H

²³³⁴ patibujjhissanti EH; [paṭibujjhissanti FG]

²³³⁵ (ḡai, b) paṭighaṃ F

²³³⁶ ariyupavādakammaṃ B; ariyupavā(ḡai, b)dakammaṃ G; ariyupavādakammaṃ H

²³³⁷ bhikkhunīdūsaṃ ACF; bhikkhūnaṃdūsaṃ E; bhikkhunīdūsaṃ HL

²³³⁸ bhikkhūnaṃ AHL; bhikkhūna E

²³³⁹ silānāsaṃkammaṃ A; silānāsaṃkammaṃ DL; silānāsaṃkammaṃ E; silānāsaṃkammaṃ F; silānāsaṃkammaṃ H

²³⁴⁰ kuladūsaḥ E; kuladūsaḥ H; kuladūsaḥ L

²³⁴¹ ādisu HL

²³⁴² visuvīya E

²³⁴³ saṃghaṃ bhedakaṃ F

²³⁴⁴ bhikkhusamānasavāsako D; savāsako E; bhikkhusamānasavāsako H; bhikkhusamānasavāsako L

²³⁴⁵ pakatatto GH; pattatto L

²³⁴⁶ samānasimāyattḥito E; samānasimāyattḥito F; samānasimāyattḥito G; samānasimāyattḥito ~ devadatto om. HL; [samānasimāyattḥito]

²³⁴⁷ [saṃghaṃ bhindaṃ kammaṃ ACDFFG]; saṃghaṃ bhindaṃ kammaṃ B; saṃghaṃ bhindati kammaṃ E

²³⁴⁸ [uddhesena ABCDFG]

²³⁴⁹ vohārena E

²³⁵⁰ [anusāvanena]

²³⁵¹ salākaḡāhena B; salākaḡāhena D

²³⁵² samānasimāyattḥito ~ devadatto om. HL

²³⁵³ vi HL

²³⁵⁴ kappattḥiko E; kappattḥiko FH

nerayiko²³⁵⁵ tassa kammaṃ saṃghabhedakakammaṃ²³⁵⁶ nāma hoti.

*pañānantariyakammaṃ*²³⁵⁷ ti mātughāḍāḍīni²³⁵⁸ pañcānantariyakammāni. yo hi puthujjano²³⁵⁹ manussabhūto²³⁶⁰ manussabhūtaṃ mātaraṃ²³⁶¹ vā pitarāṃ²³⁶² vā appivattaliṅgaṃ²³⁶³ jīvitā²³⁶⁴ voropeti manussabhūtaṃ²³⁶⁵ arahantaṃ²³⁶⁶ ca tathāgatassa²³⁶⁷ pāde²³⁶⁸ khuddakamakakkhikāya²³⁶⁹ pivanamattam²³⁷⁰ pi lohitaṃ uppādeti²³⁷¹ so²³⁷² yathākkammaṃ²³⁷³ gato. mātughāḍāko²³⁷⁴ vā pitughāḍāko²³⁷⁵ vā arahantaghāḍāko²³⁷⁶ vā buddhalohituppāḍāko²³⁷⁷ vā²³⁷⁸ anantariyakammāni²³⁷⁹ phussati²³⁸⁰. assa²³⁸¹ kammaṃ anantare yevattabhāve²³⁸² vipaccanakattā anantariyakammaṃ²³⁸³ nāma²³⁸⁴ hoti²³⁸⁵. tāni pana saṃghabhedakammaṃ²³⁸⁶ saddhiṃ²³⁸⁷ pañca honti²³⁸⁸.

*thūpan*²³⁸⁹ ti cetiyaṃ. ye²³⁹⁰ pana dhanalobhādāhetu²³⁹¹ sadhātukaṃ vā²³⁹² adhātukaṃ²³⁹³ vā²³⁹⁴ cetiyaṃ bhindanti²³⁹⁵ vā khaṇanti vā uddharanti²³⁹⁶ vā²³⁹⁷ tato²³⁹⁸ cavitvā²³⁹⁹ avicimhi²⁴⁰⁰ nibbattā

-
- 2355 neyayiko L
2356 saṃghabhedakammaṃ E; saṃghadekakammaṃ H; saṃyadekammaṃ L
2357 [pañcānantariyakammaṃ CDEFGL]
2358 mātughāḍāḍīni D; mātuyāḍāḍīni H; [mātughāḍāḍīni]
2359 puthujjano ACDEF L
2360 manussabhūto E; manussabhūto H
2361 mātara H
2362 pittaraṃ H
2363 apparivattaliṅgaṃ ABCDFH; appavattaliṅga E; appari(gā, b)vattaliṅgaṃ L; [api vattaliṅgaṃ]
2364 jīvitā ACEHL
2365 manussabhūtaṃ H
2366 mahantaṃ E; arahanta H; arahattaṃ L
2367 tathāgatassa E; tapātatassa H
2368 pādena E; pādhe L
2369 khuddha(ge, a)kamakkhikāya A; khuddhakamakakkhikāya BGL; (ge, a) khuddhakamakakkhikāya C
2370 pivanama(ge, a)ttam B; pivanamattam C; piva(ge, a)namattam D; mivanamattam L
2371 uppādeti E
2372 (gu, a) so E; (ge, a) so Z
2373 yathākkamma E; yathākkammaṃ H; yathākkammaṃ L
2374 [mātughāḍāko]
2375 mitughāḍāko L; [pitughāḍāko]
2376 [arahantaghāḍāko]
2377 lohittuppāḍāko E
2378 vā om. E
2379 anantariyaṃ E
2380 (go, a) phussati F
2381 tassa E
2382 yeva-attabhāve L
2383 anantariyakamma E
2384 nāma om. E; nāmma H
2385 (go, a) hoti G
2386 saṃghabhedakammaṃ H
2387 sasaddhiṃ F
2388 hoti D
2389 thūpan CHL
2390 ye ca L
2391 dhanalobhādāhetu E
2392 (khaḥ, b) vā H
2393 adātukaṃ G; adhātukaṃ om. L
2394 vā om. L
2395 bhindhanti E
2396 uddharanti om. HL
2397 vā om. HL
2398 te E
2399 caritvā AH
2400 [avīcimhi]

paccamānā²⁴⁰¹ metteyyam²⁴⁰² buddham daṭṭhum²⁴⁰³ na labhanti.

*bodhisattassa*²⁴⁰⁴ *chedakan*²⁴⁰⁵ ti ettha pana rukkho bodhi²⁴⁰⁶ ti veditabbo²⁴⁰⁷. ye hi bhagavato²⁴⁰⁸ bodhirukkhabhaṅgadosādīni²⁴⁰⁹ kammāni ronti²⁴¹⁰ te cavitvā avicimhi²⁴¹¹ nibbattā paccamānā²⁴¹² metteyyabuddhassa santike²⁴¹³ na honti. sace²⁴¹⁴ pana bhagavati parinibbatta²⁴¹⁵ cetiyam²⁴¹⁶ vā²⁴¹⁷ bhindanti²⁴¹⁸ bodhiṃ²⁴¹⁹ vā²⁴²⁰ chindanti²⁴²¹ dhātumhi²⁴²² upakkamanti²⁴²³ tesam²⁴²⁴ kiṃ²⁴²⁵ hoti. bhāriyakammaṃ²⁴²⁶ va hoti anantariyasadisam²⁴²⁷. sadhātukaṃ²⁴²⁸ pana thūpaṃ²⁴²⁹ vā paṭimaṃ²⁴³⁰ vā bādhiyamānaṃ²⁴³¹ bodhisākhaṃ²⁴³² chinditum vaṭṭati²⁴³³. sace pi²⁴³⁴ tattha nisinnā sakuṇā cetiye vaccaṃ²⁴³⁵ pāṭenti chinditum²⁴³⁶ vaṭṭati²⁴³⁷ yeva²⁴³⁸. paribhogacetiyo²⁴³⁹ hi sariracetiyaṃ²⁴⁴⁰ mahantataram²⁴⁴¹ seṭṭhataram²⁴⁴² ca. cetiyavatthum²⁴⁴³ bhinditvā²⁴⁴⁴ gacchantabodhimūlam²⁴⁴⁵ hi²⁴⁴⁶ chinditvā²⁴⁴⁷ haritum²⁴⁴⁸ vaṭṭati²⁴⁴⁹. yā²⁴⁵⁰ pana bodhisākha²⁴⁵¹ bodhigharam²⁴⁵² bādhati²⁴⁵³ tam²⁴⁵⁴

2401 paccahanā C
2402 metteyya EFGHL
2403 daṭṭham F; daṭṭham GH
2404 [bodhissa ACDEFGL]; *bodhissa* H
2405 cchedakan E
2406 bodhi EL; *bodhi* H
2407 vedibbam H; veditabbam L
2408 bhagavāto B
2409 bodhirukkhabhaṅgadosādīni BFG; bodhirukkhaṅgabhedādīni E; *bodhirukthabhaṅgadosādīni* H
2410 [karonti CDEFGH]; kanti L
2411 [avīcimhi]
2412 paccamānā *om.* EHL
2413 ntike E
2414 sacce F; pacce L
2415 parinibbāte A; [parinibbute BCEFGH]; parinibbatta D
2416 yetiyam C; ceti(gi, a)yam L
2417 (ge, b) vā AC
2418 bhindhanti E
2419 (ge, b) bodhiṃ D; bodhi F; *bodhi* H
2420 (ge, b) vā B
2421 chindhinti E
2422 dhātama H
2423 upakkamanti E; umakkamanti L
2424 (ge, b) tesam Z
2425 ki H
2426 bhāriyam kammaṃ ADF
2427 antariyasadisam C; anantariyasadisa H
2428 sadhātuka H
2429 thupa H
2430 pa(gu, b)timam E; paṭtima H; [paṭimam]
2431 bodhiyamānaṃ D; bādhiyamāna H; [bādhamānaṃ]
2432 bodhisākhaṃ vaṭṭati C; *bodhisākha* H
2433 vaṭṭati L
2434 hi E
2435 vacca FL
2436 chindatam A
2437 vaṭṭati H
2438 (go, b) yeva F; yeva *om.* L
2439 paribhāgacetiyo H; paribhogacetiyo L
2440 [sariracetiyaṃ]
2441 mahantaram BEH; mahantataram FL
2442 seṭṭhatara C
2443 cetiyavatthu DE; cetiyavatthumhi HL
2444 cchinditvā E; bhinditvā *om.* HL
2445 gacchantam bodhimūlam ACDEFG; gacchantam *bodhimulam* H; gacchantam *bodhimulam* L
2446 [pi HL]
2447 chanditvā F; chindatvā H

geharakkhanattham chinditum²⁴⁵⁵ na vaṭṭati²⁴⁵⁶. bodhi-attham²⁴⁵⁷ hi geham²⁴⁵⁸ na gehattham²⁴⁵⁹ bodhi²⁴⁶⁰,
āsannaghare pi eseva nayo. yasmim²⁴⁶¹ pana āsannaghare²⁴⁶² dhātu nihitā²⁴⁶³ hoti tassa²⁴⁶⁴
rakkhanatthāya²⁴⁶⁵ bodhisākhā²⁴⁶⁶ chinditum²⁴⁶⁷ vaṭṭati. bodhijagganattham²⁴⁶⁸ oṅgharāṇasākhā²⁴⁶⁹ vā
puttiṭṭhānam²⁴⁷⁰ vā chinditum²⁴⁷⁰ vaṭṭati²⁴⁷¹ yeva. bhagavato²⁴⁷² sarirapaṭijaggane²⁴⁷³ viya puṇnam²⁴⁷⁴ pi
hoti.²⁴⁷⁵

bodhisattam²⁴⁷⁶ ca mārenti²⁴⁷⁷ ti²⁴⁷⁸ saddhabyākaraṇam²⁴⁷⁹ bodhisattam²⁴⁸⁰ buddhaṅkuram²⁴⁸¹
ghāṭenti²⁴⁸². aladdhabyākaraṇā hi bodhisattā²⁴⁸³ niyamena sambodhim²⁴⁸⁴ pāpuṇitum²⁴⁸⁵ na sakkonti²⁴⁸⁶.
tesam ca aladdhabyākaraṇānam²⁴⁸⁷ bodhisattānam²⁴⁸⁸ viparigabhāvo²⁴⁸⁹ hoti tasmā laddhabyākaraṇam²⁴⁹⁰
bodhisattam²⁴⁹¹ ghāṭenti²⁴⁹² ti attho veditabbo.

santam²⁴⁹³ saṅghassa hārakā²⁴⁹⁴ ti saṅghasantakam²⁴⁹⁵ thenakā²⁴⁹⁶. maccherā²⁴⁹⁷ ti

-
- 2448 haritu H
2449 vaṭṭati HL
2450 yo E
2451 bodhisākhā H
2452 bogharam A; bodhigharam H
2453 (go, b) bādhati G
2454 ta D; tam om. HL
2455 chinditum om. E
2456 labbhati E
2457 bodhi-attham ~ gehattham om. HL
2458 geham om. E
2459 gehanattāya E; bodhi-attham ~ gehattham om. HL
2460 bodhi H
2461 yasmim H
2462 ghare E
2463 nissitā E; nisitā HL
2464 tamssa D
2465 rakkhanatthāya E; akkharanattāya HL
2466 bodhisākhā E; bodhisākhā H
2467 cchinditum E
2468 bodhijaṅganattham E; bodhijagganattham H
2469 [puttiṭṭhānam ABDFG]; tam puttiṭṭhānam E; tampatinā(ga, a)na H; tampatiṭṭhāna L
2470 chindantum F
2471 vaṭṭati H
2472 bhagavato om. EHL
2473 sarirapadhijaggane E; saripatiijaggane H; sarirapatiijagane L; [sarirapatiijaggane]
2474 [puṇnam]
2475 hoti(gai, a). C
2476 (gai, a) bodhisattam A; bodhisa(gai, a)ttam D; bodhisattam H
2477 harenti C; mārenti EH
2478 ti om. C
2479 [laddhabyākaraṇam ACDEFL]; laddhabyekaraṇam H
2480 bodhi(gai, a)sattam B; bodhisattam H
2481 buddhamkuram EL; buddhankaram F; buddhānkura H; buddhānku(gai, a)ram Z
2482 [ghāṭenti]
2483 bodhisattā H
2484 sambodhim H
2485 pāpu(gi, b)ṇitum L
2486 sakonti A
2487 aladdhabyākaraṇam A; laddhabyākaraṇānam C; alaladdhabyākaraṇānam D
2488 bo(gū, a)dhisattānam E; bodhisattānam H
2489 viparittabhāvo AEL; viparitabhāvo BCDFGH; [viparītabhāvo]
2490 laddhabyākaraṇa EH; laddhappākaraṇam L
2491 bodhisatta H
2492 ghāṭeti E; ghāṭenti H; [ghāṭenti]
2493 santaka A; santa EH
2494 hāraṇa E; hāraṇā HL

āsavādimaccharino²⁴⁹⁸ . *pamādā*²⁴⁹⁹ ti kāmaguṇe cittaṣṣa vossaggā²⁵⁰⁰ . sativirahitasamkhātena²⁵⁰¹
pamādena²⁵⁰² samannāgatā²⁵⁰³ ti attho. ettha²⁵⁰⁴ hi sativirahā²⁵⁰⁵ cattāro²⁵⁰⁶ akusalakkhandhā pamādo²⁵⁰⁷
ti veditabbo²⁵⁰⁸ . *casaddho*²⁵⁰⁹ samuccayattho²⁵¹⁰ . tena hi niyatamicchādīṭṭhike²⁵¹¹ saṅgaṇhātī²⁵¹² . idha²⁵¹³
ettakam²⁵¹⁴ eva vuttaṃ *paṭiṅghaṃ bhikkhunīdūsaṃ*²⁵¹⁵ . *la*²⁵¹⁶ . *mama*²⁵¹⁷ *santike* ti, Anāgatavāse²⁵¹⁸ pana
vuttaṃ,

te pana ariyametteyyaṃ²⁵¹⁹ na passanti kappattho²⁵²⁰ devadatto²⁵²¹ ti vuttattā²⁵²²
sesānantariyakammaṃ²⁵²³ katvā²⁵²⁴ bhikkhunīdūsā²⁵²⁵ saṃghabhedakā saṃghahārakā²⁵²⁶
bodhisattassa mārakā²⁵²⁷ mātughātakā²⁵²⁸ pitughātakā²⁵²⁹ thūpaṃ²⁵³⁰ bodhiṃ²⁵³¹ ca
chedakā²⁵³² maccherā ca pamādā ca avicimhi²⁵³³ nibbattivā²⁵³⁴ te na²⁵³⁵ passanti.
niyattamicchādīṭṭhikā²⁵³⁶ ariyupavādakā²⁵³⁷ saṃghassa²⁵³⁸ kappitavatthukakhādakā²⁵³⁹

2495 saṃghaṃ santakaṃ E; saṃghasantaka HL
2496 thenaṃ E; the(gau, ab) ~ patthetvā om. F
2497 macchevā AD; macche HL
2498 [āvāsādimaccharino ACDGHL]; āvāsādimaccharido E
2499 mamādā L
2500 vosataggā E; vāsaggā HL
2501 sativirahitasamkhāte pana D; sativirahitasamkhātena E; sativirahitasakhotena H; sativirahatasamkhātena L
2502 pamādena L
2503 samannāgato E; samanāgatā HL
2504 ete L
2505 sativirahā D
2506 cattāro L
2507 pamāddho E
2508 veditabbā CDH
2509 [casaddo ABD]; (gau, a) casaddo G
2510 samuccasattho L
2511 niyattamicchādīṭṭhike E
2512 gaṇhātī E; saṃgaṇhātī HL
2513 idaṃ H; ida L
2514 etakam E; etthakam L
2515 bhikkhunīdūsaṃ EH; bhikkhunīdūsamaṃ L
2516 pe E; la om. HL
2517 ma L
2518 anāgatavase E
2519 ariyamette(gai, b)yyaṃ AC
2520 (gai, b) kappattho D; kappattho va E
2521 devadatto D
2522 vutta(gai, b)ttā B
2523 sesānantariyakamma H
2524 (gai, b) katvā Z
2525 bhikkhunīdūsā AD; bhikkhunīdūsā E; bhikkhunīdūsā G; bhikkhunīdūsā H
2526 saṃghahārekā L
2527 marakā E
2528 mātu(ga, b)ghātakā H; mātughātikā L; [mātughātakā]
2529 pitughātakā A; pitughātakā om. E; pitughātikā L; [pitughātakā]
2530 thupaṃ H
2531 bodhiṃ H
2532 chekā D; chenadakā H
2533 avicimhi L; [avicimhi]
2534 nibbatvā A; nibbatvā B; nibbatā CDEGH; (gī, a) nibbatā L
2535 na om. E
2536 niyattamicchādīṭṭhikā A; [niyattamicchādīṭṭhikā CDGL]; niyattamicchādīṭṭhikā H
2537 ariyupavāda(gū, b)kā E
2538 saṃghassa om. EHL
2539 kappitavatthukakhādakā om. EHL

aṭṭha-akkhaṇe nibbattā te na passanti. avasesāsattā²⁵⁴⁰ dinnadānā²⁵⁴¹ rakkhitasilā²⁵⁴²
bhāvītabhāvanā²⁵⁴³ upavasita-uposathā²⁵⁴⁴ puritabrahmacariyā²⁵⁴⁵ cetiyabodhipatitṭhāpatī²⁵⁴⁶
ārāmaropā²⁵⁴⁷ vanaropā²⁵⁴⁸ setukārakā sajjitamaggā²⁵⁴⁹ patitṭhāpittāsālā²⁵⁵⁰
khaṇitudakapāṇā²⁵⁵¹ amhākaṃ maggahitasāsana²⁵⁵² dhammakathikānaṃ²⁵⁵³ maṇḍapaṃ
dhammāsaṇaṃ sajjetvā²⁵⁵⁴ vijjanivīṭānadussaratanagandhamālādhūpadīpādīhi²⁵⁵⁵ pūjetvā²⁵⁵⁶
sakkaccaṃ²⁵⁵⁷ dhammasavanā²⁵⁵⁸ appamattā tattheva āmissādīhi²⁵⁵⁹ saṃghassa katapūjā²⁵⁶⁰
mātupaṭṭhānapitupaṭṭhānakule²⁵⁶¹ jeṭṭhāpaccāyikakammaṃ²⁵⁶² katvā
salākapakkhika-uposathikabhaddadinnakā²⁵⁶³ dasapuñakiriyāvattūni²⁵⁶⁴ puritā²⁵⁶⁵ bhagavato
dassadatthaṃ²⁵⁶⁶ paṭṭhetvā²⁵⁶⁷ passanti, puttaṃ vā añassa²⁵⁶⁸ puttaṃ vā pañcājetvā²⁵⁶⁹
passanti²⁵⁷⁰, mahāvessantarajāṭakaṃ²⁵⁷¹ ekadivase yeva²⁵⁷² suṇanti saḥassapadīpena²⁵⁷³ vā
saḥassayañena²⁵⁷⁴ vā saḥassapadūmena vā saḥassa-ummārapupphena²⁵⁷⁵ vā
saḥassaniluppalena²⁵⁷⁶ vā saḥassamaṇḍāravena²⁵⁷⁷ vā²⁵⁷⁸ dhajena²⁵⁷⁹ vā vitānena vā

²⁵⁴⁰ avasesā E

²⁵⁴¹ dinnānādānā H; dinidānā L

²⁵⁴² rakkhitasilā ACL; kkhitasilā E; rakkhitatasilā H

²⁵⁴³ bhāvībhāvanā A

²⁵⁴⁴ upavasata-uposathā E

²⁵⁴⁵ [pūritabrahmacariyā]

²⁵⁴⁶ [cetiyaabodhipatitṭhāpīṭā ABCDEGL]; cetiyabodhipatitṭhāpīṭā H

²⁵⁴⁷ ārāmaropā om. EHL

²⁵⁴⁸ vanaropo E; vanarothā HL

²⁵⁴⁹ sajjitamaggā om. EHL

²⁵⁵⁰ patīsālā D; patitṭhāpittāsālā EG; patitṭhāpittāsālā H

²⁵⁵¹ khaṇitudakapāṇā G

²⁵⁵² [paggahitasāsana ABCD]; paggatasāsana E; passaggahitasāsana H; passattahitasāsana L

²⁵⁵³ dhammikathikānaṃ L

²⁵⁵⁴ sajjetvā AL

²⁵⁵⁵ vijjanivīṭānadussaratanagandhamālādūpadīpādīhi A; vijjanivīṭānadussaratanagandhamālādhūpadīpādīhi B;

vijjanivīṭānadussaratanagandhamālādhūpadīpādīhi C; vijjanivīṭānadussaratanagandhamālādhūpadīpādīhi D;

vijjanīupadhānavīṭānadussaratanagandhamālādhūpadīhi E; vijjanivīṭānadussaratanagandhamālādhūpadīpādīhi G;

vijjanivīṭānadussaratanagandhamālādhūpadīhi H; vijjanivīṭānadussaratanagandhamālādhūpadīhi L;

[vijjanivīṭānadussaratanagandhamālādhūpadīpādīhi]

²⁵⁵⁶ pajetvā H

²⁵⁵⁷ sakkacca E; sakkaccaṃ L

²⁵⁵⁸ (gau, b) dhammasavanā G; dhammaṃ savanā L

²⁵⁵⁹ āmissādīhi EH; [āmissādīhi G]; āgāmissādīhi L

²⁵⁶⁰ katapū(gō, a)jā A; kata(gō, a)pūjā D; katapujā H

²⁵⁶¹ mātupaṭṭhānapitupaṭṭhānaku(gō, a)le B; mātu(gō, a)paṭṭhānapitupaṭṭhānakule C; mātupaṭṭhānakule D; mātupaṭṭhānaṃ

pitupaṭṭhānaṃ kule EL; mātupaṭṭhānapitupaṭṭhānapitupaṭṭhānakule H

²⁵⁶² jeṭṭhāpaccāyikakammaṃ D; jeṭṭhāpāyikakammaṃ G; jeṭṭhāpaccāyikakamma H; jeṭṭhāpaccāyikakammaṃ L

²⁵⁶³ salākapakkhika-uposathikabhaddadinnakā G; salākapakkhika-uposathikabhaddadinnakā L; (gō, a)

salākapakkhika-uposathikabhaddadinnakā Z

²⁵⁶⁴ dasapuñakiriyāvattūni CEL; dasapuñakiriyāvattu G; dasapuñakiriyāvattūni H; [dasapuñakiriyāvattūni]

²⁵⁶⁵ pūratā D; paritā E; [pūritā]

²⁵⁶⁶ [dassanatthaṃ ACDG]; dassadatthaṃ om. E; dassanattaṃ H; dassanatti L

²⁵⁶⁷ pūjetvā E; paṭṭhetvā G; aṭetvā H; paṭetvā L

²⁵⁶⁸ [aññassa]

²⁵⁶⁹ pañcājetvā ADEL; [pabbājetvā BGH]

²⁵⁷⁰ ssanti D

²⁵⁷¹ [mahāvessantarajāṭakaṃ E]; mahāvessantarajāṭakaṃ H

²⁵⁷² ye L

²⁵⁷³ saḥassapīpena EL; [saḥassapīpena G]

²⁵⁷⁴ saḥassayañena H; [saḥassayañena]

²⁵⁷⁵ saḥassa-ummāra(gā, a)pupphena H; (gī, a) saḥassa-ummārapupphena L

²⁵⁷⁶ [saḥassaniluppalena]

vatthena²⁵⁸⁰ vā annena²⁵⁸¹ vā²⁵⁸² pāṇena²⁵⁸³ vā sabbaparikkhārena²⁵⁸⁴ vā pūjetvā²⁵⁸⁵
bhagavato dassanattamaṃ patthetvā²⁵⁸⁶ passanti²⁵⁸⁷, cetiyaṃ²⁵⁸⁸ vā buddhapaṭimaṃ²⁵⁸⁹ vā²⁵⁹⁰
pūjaṃ²⁵⁹¹ karontā²⁵⁹² antamaso muṭṭhikamālaṅ²⁵⁹³ ca²⁵⁹⁴ ekapadīpaṅ²⁵⁹⁵ ca ālopamattaṅ²⁵⁹⁶
ca dassetvā²⁵⁹⁷ añesaṃ²⁵⁹⁸ katapuññakammāni²⁵⁹⁹ anumodino²⁶⁰⁰ passissanti²⁶⁰¹ tasmā²⁶⁰²,
dullabhuppattino²⁶⁰³ ariyametteyyassa²⁶⁰⁴ sabbaññubuddhassa²⁶⁰⁵ dassanattāya²⁶⁰⁶ tumhe
mama idha sāsane²⁶⁰⁷ thatvā²⁶⁰⁸ ubhiṅgamānasā²⁶⁰⁹ hutvā vuttappakārādīpuṅṅaṃ²⁶¹⁰ yaṃ²⁶¹¹
attano dassanattāya āyasmato²⁶¹² māleyyadevatherassa²⁶¹³ ariyametteyyabodhisattena²⁶¹⁴
vuttaṃ²⁶¹⁵ sabbovādaṃ²⁶¹⁶ katvā āyuhariyosāne²⁶¹⁷ devaloke nibbattiṃsu²⁶¹⁸,
sabbasampattiṃ²⁶¹⁹ yathākkamaṃ²⁶²⁰ anubhavitvā tasmīṃ²⁶²¹ buddhappāde²⁶²² tato cutā²⁶²³

-
- 2577 sahasamaṇḍārivena H; [sahasamandaravena]
2578 vā *om.* E
2579 jena B; dhūpena E; dhajjena H
2580 anevatthena L
2581 annena *om.* L
2582 vā *om.* L
2583 [pāṇena AHL]
2584 (ge, a) sabbaparikkhārena E
2585 pūjjetvā E; pūjetvā H
2586 patthetvā E; the(gau, ab) ~ patthetvā *om.* F
2587 passaniyaṃ E; (gam, a)the F
2588 cetiya H
2589 [buddhapaṭimaṃ]
2590 vāna H
2591 pujaṃ E
2592 karonto L
2593 mudikamālaṅ E; muṭṭhisamālabbā H; muṭṭhisamālaṅ L
2594 ca *om.* H
2595 edakadīpaṅ E; [ekapadīpaṅ FG]
2596 ālomataṅ HL
2597 [datvā ACDFGHL]; dinnā E
2598 [aññesaṃ]
2599 [katapuññakammāni]
2600 anumodakā E; anumodano HL
2601 passanti E
2602 tasmāna HL
2603 dullabhapaṭṭhanaṅ EH; dullabhuppattino F; dullabhuppattino G; dullabhapaṭṭhano L
2604 ariyametteyyassa H
2605 sabbaññubuddhassa H; sabbaññubuddhassa L; [sabbaññubuddhassa]
2606 natthāya EL
2607 sāsane D; (gam, a) sāsane G
2608 tthetvā E; tthatvā H; [thatvā]
2609 u(go, b)bbhiṅgamānasā A; ubbhigamānasā E; ubbhigamānasā HL; [ubbhigamānasā]
2610 vuttappakā(go, b)rādīpuṅṅaṃ B; (go, b)vuttappakārādīpuṅṅaṃ CZ
2611 yaṃ *om.* E; ya H
2612 āyasmataṅ D; āyasmāto EH; āyato L
2613 māleyyadevatherassa EFG; māleyyadevatthetherassa H; māleyyadevattherassa L
2614 ariyametteyyabodhisattena H
2615 vutta D
2616 sabbovāda H
2617 āyuhariyosāne C; ayuhariyosāne H
2618 nibbattiṃ A; nibbatti E; nibbattisu H
2619 sabbasampattiṃ *om.* A; sampattiṃ E; sabbasampattiṃ H
2620 yathākkamaṃ EHL
2621 tasmī H
2622 [buddhappāde E]; budampade H
2623 puttā E; cuto G; cuto tā L

yathā²⁶²⁴ vuttappakāra²⁶²⁵ sampattiṃ²⁶²⁶ anubhavitvā²⁶²⁷ bhagavato ariyametteyyassa santike
aggadhammaṃ suṇitvā ariyabhūmiṃ²⁶²⁸ pāpuṇissanti²⁶²⁹, tathā²⁶³⁰ pāpuṇitum assakkontā²⁶³¹
satte²⁶³² nibbattissathā ti.

evam²⁶³³ pi²⁶³⁴ Anāgatavaṇṣe āgatanayo²⁶³⁵ veditabbo.

25

thero tassa vacanaṃ sutvā evam ahā “mahārāja, sādhu te vacanaṃ ahaṃ
Jambūdīpamanussānaṃ kathessāmi. tvaṃ pana kadā buddho bhavissasī” ti. “bhante,
Gotamabuddhassa sāsanaṃ pañcavassasahassāni ṭhātvā antaradhāyissati. tasmim
antarahite loke akusalussannaṃ bhavissati. kusalan ti nāma mattaṃ pi na bhavissati
pageva kusaluppatti. tadā anukkamena manussā virahitahirottappābhinṇamariyādā ayaṃ
me mātādhītābhaginīnattātisaññaṃ anuppādetvā ajelakakukkuṭasūkarasiṃgālasonādayo
viya nillajjā bhavissanti. tadā te anukkamena ussanna-akusalappayogena
vassasataparicchinnāyukato manussā parihāyitā dasavassāyukā bhavissanti. yadā
pañcavassikadārakassa pañcavassikāya dārikāya *āvāho vivāho* bhavissati tadā
sathantarakappo bhavissati.

*āvāho vivāho*²⁶³⁶ ti ādānaṃ²⁶³⁷ dāpanaṃ²⁶³⁸. attano²⁶³⁹ pañcavassikadārakassa paresaṃ²⁶⁴⁰
pañcavassikadārikaṃ²⁶⁴¹ ādānaṃ²⁶⁴² paresaṃ²⁶⁴³ ca pañcavassikadārakassa²⁶⁴⁴ attano
pañcavassikadārikaṃ²⁶⁴⁵ dāpanaṃ²⁶⁴⁶ ti vuttaṃ hoti.

*sathantarakappo*²⁶⁴⁷ ti²⁶⁴⁸ ettha tividhā²⁶⁴⁹ antarakappā²⁶⁵⁰ dubbhikkhantarakeppo²⁶⁵¹

2624 yaṃ E
2625 vuttappakāra E
2626 sampatti CH; (gu, a) sampattiṃ L
2627 anūbhavitvā A
2628 ariyabhūmiṃ E; ariyabhūmi H
2629 māpuṇissanti B; pāpuṇissatha E
2630 taṃthā D
2631 [asakkontā EFGHL]
2632 [sagge ABCDEFGHL]
2633 eva A
2634 pa H
2635 āgatanaye E
2636 vi(gā, b)vāho H; vivāho om. L
2637 ādāni L
2638 dāpadāpanaṃ L
2639 (ge, b) attano E
2640 paresa DH; pare(gaṃ, b)saṃ F
2641 pañcavassikadārikaṃ A; pañcavassikadārikāya E; pañcavassikadārikāya H; pañcakadārikāya L
2642 ādāya AD
2643 paresaṃ E
2644 pañcavassikadāvarakassa D
2645 pañcavassikadārikāya E; pañcavassikāyadārikāya HL
2646 dāpana H; dāpanaṃ L
2647 sathantarakassappo D

rogantarakappo²⁶⁵² sathantarakappo²⁶⁵³ ti. yadā²⁶⁵⁴ hi²⁶⁵⁵ loke sattānaṃ lobho²⁶⁵⁶ ussanno²⁶⁵⁷ hoti tadā²⁶⁵⁸ dubbhikkhantarakappo hoti²⁶⁵⁹. yadā hi moho ussanno tadā rogantarakappo hoti. yadā so²⁶⁶⁰ ussanno hoti²⁶⁶¹ tadā sathantarakappo²⁶⁶² hoti. tattha ye²⁶⁶³ dubbhintarakappena²⁶⁶⁴ vinatthā²⁶⁶⁵ sattā²⁶⁶⁶ petavisaye²⁶⁶⁷ nibbattanti²⁶⁶⁸. rogantarakappena²⁶⁶⁹ vinatthā²⁶⁷⁰ sattā²⁶⁷¹ yakkhabhūte²⁶⁷² nibbattanti²⁶⁷³. sathantarakappena²⁶⁷⁴ vinatthā²⁶⁷⁵ sattā niraye²⁶⁷⁶ nibbattanti, kasmā²⁶⁷⁷, aññamaññaṃ²⁶⁷⁸ balavāghātacittatā²⁶⁷⁹ niraye nibbattanti. imesu pana tīsu²⁶⁸⁰ antarakappesu²⁶⁸¹ idha sathantarakappo²⁶⁸² ti veditabbo²⁶⁸³.

manussā aññamaññaṃ migasaññikā bhavissanti tesam daṇḍādi upakaraṇaṃ hi hatthena gahitagahitaṃ yaṃ kiñci ubhatodhārākhuradhārasadisam āvudhaṃ bhavissati. te aññamaññaṃ ghāṭessanti. tesu ye manussā paṇḍitā paṭhamam eva taṃ vināsam sutvā pabbatantarādisu pavisitvā ekikā nilīyissanti. te ṭhapetvā avasesā sattāhaṃ aññamaññaṃ paharivā vinassissanti. atha sattame divase atikkante attano attano niliyatthānā nikkhamitvā aññamaññaṃ ālingitvā samaggasaṃvāsam paṭilabhitvā yan nūna mayam kusalakammaṃ kareyyāma pāṇātipātā virameyyāma adinnādānā kāmesu micchācārā

2648 ta H
2649 tayo E
2650 antarakappo E
2651 [dubbhikkhantarakappo ABCDFGHL]; dubbhikkhantakappo E
2652 rogantarakap(gau, a)ppo A
2653 sathantarak(gam, a)ppo D
2654 (gau, a) yadā C
2655 (gau, a) hi B
2656 (gau, a) lobho Z
2657 upassanno L
2658 (gam, b) tadā G
2659 hoti om. E
2660 [doso ACDFGHL]
2661 hoti om. E
2662 sathantakappo H
2663 ye om. E
2664 [dubbhikkhantarakappena ACDFGL]; dubbhikkhantarakappo E
2665 vitthā A; [vinatthā CDFG]
2666 sathā B
2667 petavisa(gu, b)ye L
2668 nibbattissanti E
2669 roggantarakappo E; rogantarakappe H
2670 vinatthā EL; vinatthā H
2671 sattā om. L
2672 yakkhabhute H
2673 nibbattissanti E
2674 sathantarakappe E
2675 vinatthā CEHL
2676 niraye om. D; nibbaraye H
2677 kasmā niraye nibbattanti E; kasmā om. HL
2678 aññamañña HL; [aññamaññaṃ]
2679 balavāghātavittatā E; balaghāṭapatitattā HL; [balavāghātacittatā]
2680 tisu CH
2681 antarakantarakappesu H
2682 sathantaram kappo A; sathantarakappe E
2683 venitabbo H

musāvādā surāmerayā pisuññāvācā pharussāvācā samphappalāvācā abhijjhā byāpādā micchādīṭṭhiyā pativirameyyāma puññāni karissāmā ti puññāni karissanti. atha dasavassāyukamanussānaṃ vīsativassāyukā dārakā bhavissanti; bhiyyo puññāni karontānaṃ manussānaṃ dārakā anukkamena tiṃsacattāḷisapaññāsasaṭṭhisattati-asītinavuti-satavassāyukā bhavissanti. anukkamena dvivassasatāyukā puttā ticatupañcachasatta-aṭṭhanavasatāyukā saḥassāyukā. bhavissanti anukkamena saḥassāyukānaṃ dvisahassāyukā puttā bhavissanti; ticatupañcachasatta-aṭṭhanavadasasahassāyukā bhavissanti. atha manussā atirekataraṃ dhammaṃ caritvā vassasatasahassāyukā bhavissanti. atirekataraṃ dhammaṃ carantesu anukkamena vassasatasahassākoṭi-āyukā bhavissanti. tato paraṃ atirekataraṃ dhammaṃ caritvā asaṃkheyyāyukā bhavissanti. tadā sattānaṃ jarāmaṇāni na paññāyissanti; puna pi **pamādaṃ āpajjissanti**; tesāṃ āyuparihāyissanti. asaṃkheyyāyukato sattā parihāyitvā vassakoṭivassasahassāyukā bhavissanti; tato pi parihāyitvā anukkamena navutikoṭivassasahassāyukā bhavissanti. tato pi anukkamena parihāyitvā asītivassasahassāyukā bhavissanti. tasmīṃ samaye devo anvaḍhamāsaṃ anudasāhaṃ anupañcāhaṃ ca majjhimayāme paṭhaviraṃsaṃ vaḍhento vassissati. tadā Jambūdīpo **samiddho** hoti sabbakālaṃ pupphaphalalatāgumbapādapābharito kukkūṭasampātikagāmanigamasamākiṇṇo corakaṇṭakavirahito appagatadīṭṭhigahano rājadhānīsamujjalito sabbaratanasampanno sukhito subhikkho khemo bahu-annapānakkhajjabhojanasampanno macchamaṃsādi upabhogaparibhogasamiddho.

pamādam²⁶⁸⁴ **āpajjissanti**²⁶⁸⁵ ti²⁶⁸⁶ nirayadukkhaṃ²⁶⁸⁷ nāma kīdisaṃ hoti, kadā²⁶⁸⁸ amhākaṃ maraṇaṃ bhavissati²⁶⁸⁹ ti vatvā pamādaṃ āpajjissanti²⁶⁹⁰.

samiddho²⁶⁹¹ ti vatthālaṅkāradīhi²⁶⁹² sampanno.

pādapā²⁶⁹³ ti rukkhā. tehi bhārīto²⁶⁹⁴ ti attho.

taḷākā sumadhurodakaparipuññā sabbattha bhavissanti. tadā bhante jāyapatikā

²⁶⁸⁴ (gāi, a) pamādam E

²⁶⁸⁵ āpaṭṭissantati E; āpajjissanti H; āpajjissanti L

²⁶⁸⁶ ti om. E

²⁶⁸⁷ niriyadukkhaṃ EGH; niredayadakkhaṃ L

²⁶⁸⁸ kapā CD

²⁶⁸⁹ bhavissati E

²⁶⁹⁰ āpajjissanti AD; apajjanti E; āpajjissanti H

²⁶⁹¹ (gaḷ, a) samiddho F

²⁶⁹² (gi, a) vatthālaṅkāradīhi H; vatthālaṅkāradīhi L

²⁶⁹³ dādapā A

²⁶⁹⁴ bhārīto E

avivādakā akodhanā pañcakāmaguṇasukhaṃ anubhavantā kasivañijjādi kammavirahitā sukkena jīvissanti. itthī purisā na suttaṃ kantissanti na tantaṃ vāyissanti dibbavatthāni nivāsissanti. purisā sadārehi santuṭṭhā itthīyo sasāmikehi santuṭṭhā; saṃyamā purisā paradāraṃ na karonti na itthīyo paraṃ purisaṃ karonti te piyā manāpā aññamaññaṃ bhavissanti. sabbe te gāmanigamadhanadhaññakhattavatthupamaṃsuhetu na vivādaṃ karissanti; sabbe manussā surūpā uttamarūpadharā aññamaññaṃ piyā manāpā honti. kākā ulukehi saddhiṃ mettacittā majjārī ca undurehi saddhiṃ mettacittā migā migindehi saddhiṃ mettacittā naṅkulā sappehi saddhiṃ mettacittā bhavissanti sīhādayo migehehi saddhiṃ mettacittā honti evaṃ aññamaññaṃ paṭisattatiracchānā sabbe mettacittaṃ labhissanti. tadā *sālī* ekabījā sañjātā *āropitā*; dve sakatasahassāni *dve sakatasatāni* ca dve sakatasattati c’ eva ambaṇaṃ soḷasaṃ pi ca atho pi dve ca tumbāni tandulāni pajāyareti.

*sālī*²⁶⁹⁵ ti suddhasālī²⁶⁹⁶.

*āropitā*²⁶⁹⁷ ti kenaci²⁶⁹⁸ āropitā²⁶⁹⁹.

*dvesakatasatāni*²⁷⁰⁰ ti²⁷⁰¹ ettha ekekasakatāpamāṇaṃ²⁷⁰² datṭhabbaṃ. catasso²⁷⁰³ hi muṭṭhiyo eko kukhubbo²⁷⁰⁴ cattāro kuḍabbā²⁷⁰⁵ eko paṭṭho²⁷⁰⁶ cattāro²⁷⁰⁷ paṭṭhā²⁷⁰⁸ eko ālhako²⁷⁰⁹ cattāro²⁷¹⁰ ālhakā²⁷¹¹ ekaṃ²⁷¹² donaṃ²⁷¹³ cattāri doṇāni ekāmānikā catassomānikā²⁷¹⁴ ekākhāri²⁷¹⁵ visakhārikā²⁷¹⁶ eko vāho tadeva ekaṃ sakaṭaṃ²⁷¹⁷ hoti. vinayaṭikāsu²⁷¹⁸ tatheva²⁷¹⁹ vuttaṃ.

²⁶⁹⁵ sālī EH

²⁶⁹⁶ suddhasālī A; suddasālī E; suddhali H; suddhalī L

²⁶⁹⁷ āropitā A

²⁶⁹⁸ ke(gau, b)naci A; kenapi EH

²⁶⁹⁹ āropitā L

²⁷⁰⁰ dvesakatasatā(gau, b)nī B; (gau, b) dvesakatasatāni C; dvesaka(gau, b)tasatāni D; dvesakatasahassāni E; dvesakatasatāni H; dvesakatasatāni L

²⁷⁰¹ ti om. L

²⁷⁰² ekekasakatāpamāṇaṃ D; ekekasakatāpamāṇaṃ E; e(gau, b)kekasakatāpamāṇaṃ Z

²⁷⁰³ cattasso E

²⁷⁰⁴ kaḍubbo A; kakhubbo B; kaḍabbo CDFGH; kuḍaro E; sabbe L; [kuḍuvo]

²⁷⁰⁵ kaḍubbā A; kakhubbā B; kaḍabbā CDFGH; kuḍavā E; ḍabbā L; [kuḍuvā]

²⁷⁰⁶ maṭṭho C; paṭṭhā E; [paṭṭho]

²⁷⁰⁷ (gaḥ, a) cattāro F

²⁷⁰⁸ [paṭṭhā]

²⁷⁰⁹ ālhakā L

²⁷¹⁰ cattāro ~ ekaṃ om. L

²⁷¹¹ ālhakā H

²⁷¹² eka E; cattāro ~ ekaṃ om. L

²⁷¹³ [donaṃ ABCDEFGHL]

²⁷¹⁴ cattassomānikā E

²⁷¹⁵ [ekākhāri FG]

²⁷¹⁶ visatikhāritā E; visakhārikā FG; [visatikhārikā]

²⁷¹⁷ sakaṭa A

²⁷¹⁸ vinayaṭikādisu D; vinayaṭikādisu EFG; vinayaṭikādisu H; (gū, a) vinayaṭikādisu L

²⁷¹⁹ tathe L

ambaṇan ti dhañabhājanam²⁷²⁰.

*taṇḍulāni*²⁷²¹ *pajāyare*²⁷²² ti sabbāni²⁷²³ taṇḍulaphalāni²⁷²⁴ pajāyanti. ekekasmim²⁷²⁵ hi bijje²⁷²⁶
satasahassa-aṅkuro²⁷²⁷ ekekasmim²⁷²⁸ aṅkare²⁷²⁹ satasahassāni²⁷³⁰ gacchāni²⁷³¹ ekekasmim²⁷³²
gacche²⁷³³ satasahassasisāni²⁷³⁴ ekekasmim²⁷³⁵ sise dvenāliyo²⁷³⁶ taṇḍulaphalāni²⁷³⁷ honti²⁷³⁸. idha
māleyyavatthumhi²⁷³⁹ ettakameva²⁷⁴⁰ vuttam yadā²⁷⁴¹ sāli²⁷⁴² ekabijā²⁷⁴³. pa²⁷⁴⁴. taṇḍulāni²⁷⁴⁵ pajāyare ti.
anāgatavaṇse pana vuttam,

aropitam²⁷⁴⁶ sayamjātam²⁷⁴⁷ puñnakammena²⁷⁴⁸ jantūnam²⁷⁴⁹
akkaṇam²⁷⁵⁰ athūsaṃsuddham²⁷⁵¹ sugandham²⁷⁵² taṇḍulapphalam²⁷⁵³
akattḥapākimaṃ²⁷⁵⁴ sāliparibhuñjanti²⁷⁵⁵ mānusa²⁷⁵⁶
dvesakaṭasahasāni²⁷⁵⁷ dvesakaṭasatāni²⁷⁵⁸ ca
sakaṭādvesattati²⁷⁵⁹ ca²⁷⁶⁰ ambaṇam²⁷⁶¹ soḷasam²⁷⁶² bhava
atho²⁷⁶³ pi²⁷⁶⁴ dve ca²⁷⁶⁵ tumbāni²⁷⁶⁶ taṇḍulāni²⁷⁶⁷ pavuccare²⁷⁶⁸

- 2720 dhañabhājana H; [dhaññabhājanam]
2721 taṇḍalāni B
2722 majāyare H
2723 sabbāni *om.* HL
2724 taṇḍulāni E; taṇḍalaphalāni H
2725 ekekasmi H
2726 tijje A; [bije FG]
2727 satasahassa-aṅkurā ABCDL; satasahassa-antarā E; satasahassa-aṅgurā FG; satasahassa-aṅkarā H
2728 ekekasmi H
2729 [aṅkure ABCDFGL]; antare E; aṅgare H
2730 satasahassa E; satasahassāni H
2731 muccāni E; tacchāni H
2732 (gai, b) ekekasmim E; ekekasmi H
2733 mucce E
2734 satasahassasisāni F; [satasahassasisāni G]; satasahassasilāni L
2735 ekekasmi H
2736 dvenāliyo G; danāliyo H
2737 taṇḍulapphalāni E; taṇḍulaphalāniyo H
2738 honti *om.* H
2739 māleyyavatthumhi EL; mālayavatthumhi FG; māleyyavatthamhi H
2740 ekattakameva A; etthakameva E
2741 yathā HL
2742 sāli EHL
2743 [ekabijā DFG]; ekabijā EHL
2744 gha EHL
2745 taṇḍulā(gaḥ, b)ni F
2746 aropita H
2747 sayajātam EH
2748 [puññakammena]
2749 jantunam CL; jjantunam E; jantuna H
2750 (gaṃ, a) akkaṇam AC; a(gaṃ, a)kkaṇam D; aṅguṇam E; [akkaṇam FG]; akkana H; akkaṇam L
2751 athūsaṃsuddhim A; a(gaṃ, a)thūsaṃsuddham B; athūsaṃsuddham E; [athusaṃsuddham FGL]; athusaṃsuddham H
2752 sugandha EH; (gaṃ, a)sugandham Z
2753 taṇḍulapphala E; taṇḍulaphalam HL
2754 akattḥapārikimaṃ E; akattḥapāka H; akattḥapākam L
2755 [sālim paribhuñjanti ACFGL]; sāliparibhuñjanti D; salālam paribhuñjanti E; sāli(gi, b)parabhuñjanti H
2756 manussā E; mānussā HL
2757 dvesakkaṭasahasāni E
2758 dvesakaṭasatāna H; dvesakaṭasattāni L
2759 sakaṭāni dvesattati L
2760 ca *om.* E
2761 ambaṇa EFH; anambaṇa L
2762 soḷasa H

ekabijje²⁷⁶⁹ samuppannā²⁷⁷⁰ puñakammena²⁷⁷¹ jantūnan²⁷⁷² ti²⁷⁷³.

tadāhaṃ bhante dasasahassacakkavāḷavāsīnaṃ devabrahmānaṃ āyācanaṃ sutvā
kāledesadīpakulamātāyusaṃkhātāni pañcavilokanāni viloketvā buddho
manussalokaṃ gamissāmī” ti vatvā attano pāramīvaṇṇaṃ vaṇṇento āha:

kāledesadīpakulamātāyusaṃkhātāni ²⁷⁷⁴ **pañcavilokanāni** ²⁷⁷⁵ **viloketvā** ti ettha
sabbabodhisattānaṃ²⁷⁷⁶ dhammatāvasena²⁷⁷⁷ sayam²⁷⁷⁸ tāni viloketi²⁷⁷⁹. tathā hi vuttaṃ²⁷⁸⁰,
kālaṃ²⁷⁸¹ desaṃ ca dipaṃ²⁷⁸² ca kulam mātaram eva ca
ete pañcaviloketvā upajjanti²⁷⁸³ tathāgatā ti.

tattha **kālo** ti ²⁷⁸⁴ āyukālo. vassasatasahassato ²⁷⁸⁵ hi uddham ²⁷⁸⁶ vaḍhita-āyukālo ²⁷⁸⁷
buddhappādakālo ²⁷⁸⁸ nāma na ²⁷⁸⁹ hoti. kasmā ti ce ²⁷⁹⁰. tadā sattānaṃ ²⁷⁹¹ jarāmarañānaṃ ²⁷⁹²
apañāyamānattā buddhānaṃ²⁷⁹³ pana²⁷⁹⁴ dhammadesanā²⁷⁹⁵ nāma tilakkhaṇehi²⁷⁹⁶ vimuttā²⁷⁹⁷ natthi
tesaṃ aniccaṃ²⁷⁹⁸ dukkhaṃ²⁷⁹⁹ anattā²⁸⁰⁰ ti²⁸⁰¹ kathentānaṃ²⁸⁰² sutvā kiṃ²⁸⁰³ nāma²⁸⁰⁴ kathenti²⁸⁰⁵ ti na

²⁷⁶³ attho AE; atho om. D; atthothā H

²⁷⁶⁴ api D

²⁷⁶⁵ [ka HL]

²⁷⁶⁶ tukambāni HL

²⁷⁶⁷ taṇalāni A; taṇḍalāni D

²⁷⁶⁸ (gah, b) pavuccare G; pavucca H

²⁷⁶⁹ ekabijjo E; [ekabīje F]; ekabije G; ekabijjo HL

²⁷⁷⁰ samuppanno DHL; samumpanno E

²⁷⁷¹ puñakammena H; [puññakammena]

²⁷⁷² jantunan CEFGLH

²⁷⁷³ ta H

²⁷⁷⁴ kāledesadīpakulamātāyusaṃkhātāni F; kāledesadīpakulamātāyusaṃkhātāni G; kāledesadīpakulamātāyu(gū, b)saṃkhātāni L

²⁷⁷⁵ pañca L

²⁷⁷⁶ sabbabodhisattāna E; sabbabodhisattāna H

²⁷⁷⁷ dhammavaseṇā E; dhammatāvasena F; dhammatāvasenāya H; dhammatāvasenāyaṃ L

²⁷⁷⁸ yaṃ EF; sayam om. HL

²⁷⁷⁹ loketi D

²⁷⁸⁰ vuttaṃ F

²⁷⁸¹ kāla EH

²⁷⁸² [dīpaṃ FG]

²⁷⁸³ uppajjanti ABDF; uppajjanti G; upajjanti L

²⁷⁸⁴ (go, a) ti E

²⁷⁸⁵ vassasatasahassato H

²⁷⁸⁶ uddha H

²⁷⁸⁷ [vaḍhita-āyukālo]

²⁷⁸⁸ [buddhappādakālo BE]; buddappādakālo F; buddhappādalā H; buddhappādalo L

²⁷⁸⁹ na om. D

²⁷⁹⁰ ca E

²⁷⁹¹ sattāna H

²⁷⁹² jarāmarañāna D; rājarāmarañāna H

²⁷⁹³ buddhāna H

²⁷⁹⁴ (gha, a) pana F

²⁷⁹⁵ dhammadesa L

²⁷⁹⁶ lakkhaṇehi E

²⁷⁹⁷ viputtā D; muttā E

²⁷⁹⁸ (gaṃ, b) aniccaṃ A

²⁷⁹⁹ du(gaṃ, b)kkhaṃ D; dukkha H

²⁸⁰⁰ a(gaṃ, b)nattā C;

²⁸⁰¹ ti om. E

sotabbaṃ²⁸⁰⁶ mañanti²⁸⁰⁷ na saddhahituṃ²⁸⁰⁸ mañanti²⁸⁰⁹, tato abhisamayo na hoti, tasmim²⁸¹⁰ asati²⁸¹¹ niyyānikaṃ²⁸¹² sāsaṇaṃ na hoti. tasmā so akālo. vassasatato oṇāyukālo²⁸¹³ pi²⁸¹⁴ buddhuppādakālo²⁸¹⁵ nāma na²⁸¹⁶ hoti. kasmā ti²⁸¹⁷ ce²⁸¹⁸. tadā sattā ussannakilesā²⁸¹⁹ honti²⁸²⁰, ussannakilesānañ ca dinnovādo²⁸²¹ ovādatṭhāne na tiṭṭhati uduke²⁸²² daṇḍarāji²⁸²³ viya khippaṃ vigacchati²⁸²⁴, tasmā so ca akālo nāma. vassasatasahassato heṭṭhā vassasatato paṭṭhāya uddhaṃ²⁸²⁵ āyukālo buddhuppādakālo²⁸²⁶ nāma hoti. atha ayaṃ pi metteyyo²⁸²⁷ ayaṃ nibbattakālo²⁸²⁸ ti asītivassasahassakālaṃ²⁸²⁹ viloketvā tato dipaṃ²⁸³⁰ olokeno²⁸³¹ saparivāre²⁸³² cattāro mahādime²⁸³³ vilokesi.

tisu²⁸³⁴ hi dīpesu²⁸³⁵ buddhā²⁸³⁶ na²⁸³⁷ nibbattanti, jambūdipe²⁸³⁸ yeva²⁸³⁹ nibbattanti tadā ayaṃ²⁸⁴⁰ pana imasmim²⁸⁴¹ jambūdipe²⁸⁴² nibbattissāmī²⁸⁴³ ti jambūdiपाṃ²⁸⁴⁴ viloketvā tato desam²⁸⁴⁵ vilokento majjhimadesam²⁸⁴⁶ passissati²⁸⁴⁷.

-
- 2802 kathentonam H; nakathentānam L
2803 kin E; ki H
2804 nāmu H
2805 kathenti H; ka(gaṃ, b)thentī Z
2806 (gaṃ, b) sotabbaṃ B; sobbaṃ H
2807 pañanti E; [maññanti]
2808 [saddahituṃ F]; sadvahitu H
2809 [maññanti]
2810 tasmī H
2811 sati A
2812 niyyānika E; nayyānika HL
2813 onāyukālo FG; uṇoyukālo H; uṇāyukālo L
2814 pi *om.* E
2815 buddhappādakālo ACDFL; buddhuppādakālo *om.* E; buddappā(gī, a)akālo H
2816 (gha, a) na G
2817 ti *om.* E
2818 ce *om.* E
2819 usannakilesā H; usa(ge, a)nnakilesā L
2820 hotinti D; hoti L
2821 dinnovādho L
2822 oduke E
2823 daṇḍavāji ADEH; daṇḍavāji C; daṇḍuvāji F; daṇḍurāji G
2824 nigacchati H
2825 uddhaṃ H
2826 buddhappādakālo CDHL
2827 metteyya L
2828 nibbattakāle L
2829 asītivassasatasa(go, b)hassakālaṃ E; asītivassasahassakāle FG; asītivassasahassakālaṃ H; asītivassasahakālaṃ L
2830 [dīpaṃ AFG]
2831 okento H
2832 saparivā D
2833 [mahādīpe AFG]; mahādīpe BCDEHL
2834 tisu DFH
2835 dīpesu CDEHL
2836 budā H
2837 naṃ H
2838 jambūdipe FG; jambudīpe HL; [jambudīpe]
2839 ye(gha, b)va F
2840 a(gaṃ, a)yaṃ A
2841 (gaṃ, a) imasmim C; imasmi H
2842 jambūdipe AFG; jambudīpe H; [jambudīpe]
2843 nibba(gaṃ, a)ttissāmī B; (gaṃ, a) nibbattissāmī D; bbattissāmī H
2844 jambūdiपाṃ AFG; jambūdipe E; jambudīpa H(gaṃ, a) jambūdiपाṃ Z; [jambūdiपाṃ]
2845 tesam L
2846 majjhīpadesam AH; majjhīmapadesam L
2847 passissati E; passissati H; passiti L

ekasmim²⁸⁴⁸ majjhimadese²⁸⁴⁹ buddhā²⁸⁵⁰ paccekabuddhā²⁸⁵¹ aggasāvaka²⁸⁵² asīmahāsāvaka²⁸⁵²
cakkavattirājāno añe²⁸⁵³ ca katapuñā²⁸⁵⁴ mahesakkhā khattiyabrāhmaṇagahapatimahāsālā²⁸⁵⁵
uppajjanti²⁸⁵⁶, tadā manussānam²⁸⁵⁷ dvevassasatāyukakāle²⁸⁵⁸ bārāṇasīnagaram²⁸⁵⁹ nāma bhavissati²⁸⁶⁰.
tato²⁸⁶¹ paraṃ pana anukkamena manussā dhammam²⁸⁶² carantā²⁸⁶³ tena²⁸⁶⁴ kusalasampayotena²⁸⁶⁵
tīnicattāripañcacasatta-aṭṭhanavasahassam²⁸⁶⁶
dveticatupañcachadasavīsatiṃsacattāḷisapañāsasatṭhīsattasītinavutivassasahassāyukā²⁸⁶⁷ bhavissanti. tadā
bārāṇasīnagaram²⁸⁶⁸ parivattetvā²⁸⁶⁹ uppalanagaram²⁸⁷⁰ nāma bhavissati²⁸⁷¹ chayojanapamāṇam²⁸⁷². atha
manussasu²⁸⁷³ atirekataram²⁸⁷⁴ dhammam²⁸⁷⁵ carantesu vassasatasahassam²⁸⁷⁶ āyu bhavissati²⁸⁷⁷, tada²⁸⁷⁸
pi uppalanagaram²⁸⁷⁹ parivattetvā²⁸⁸⁰ sattayojanapamāṇam²⁸⁸¹ padumam²⁸⁸² nāma nagaram²⁸⁸³

- 2848 ekasmi H
2849 majjhipadese AH; majjhimapadese CE; pajjhimapadese L
2850 budā H
2851 maccekabuddhā H
2852 asīmahāsāvaka H
2853 [añe]
2854 kattapuño E; katapuña HL
2855 khattiyabrāhmaṇagahapatimahāsāna H; khattiyam brāhmaṇagahapatimahāsālā L
2856 uppajjhanti B; upajjanti E
2857 manussā E
2858 dveva(ge, b)ssasatāyukakāle L
2859 bārāṇasīnagaram FGH
2860 (gha, a) bhavissati G; bhavissati L
2861 tato H
2862 dhamma EH
2863 caranto L
2864 te(gī, b)na H
2865 [kusalasampayogena ABCDFGL]; kusalasampattena E
2866 tīnicattāripañcacasatta-aṭṭhanavasahassam A; tīnicattāripañcacasatta-aṭṭhanavasahassam D;
tīnicattāripañcacasatta-aṭṭhanavasahassa E; tīnicattāripañcacasatta-aṭṭhanavasahassam F;
tīnicattāripañcacasatta-aṭṭhanavasahassam H; [tīnicattāripañcacasatta-aṭṭhanavasatam sahasam]
2867 dveticatupañcachadasavīsatiṃsacattāḷisapañāsasatṭhīsattasītinavutivassasahassāyukā A;
dveticatupañcachadasavīsatiṃsacattāḷisapañāsasatṭhīsattasītinavutivassasahassāyukā B;
dveticatupañcachadasavīsatiṃsacattāḷisapañāsasatṭhīsattasītinavutivassasahassāyukā C;
dveticatupañcachadasavīsatiṃsacattāḷisapañāsasatṭhīsattasītinavutivassasahassāyukā D;
dveticatupañcachadasavīsatiṃsacattāḷisapañāsasatṭhīsattasītinavutivassasahassāyukā E;
dveticatupañcachadasavīsatiṃsacattāḷisapañāsasatṭhīsattasītinavutivassasahassāyukā F;
dveticatupañcachadasavīsatiṃsacattāḷisapañāsasatṭhīsattasītinavutivassasahassāyukā G;
dveticatupañcachadasavīsatiṃsacattāḷisapañāsasatṭhīsattasītinavutivassasahassāyukā H; dveticatupañcachadasavīsati
sacattāḷisapañāsasatṭhīsattasītinavutivassasahassāyukā L;
[dveticatupañcachadasavīsatiṃsacattāḷisapañāsasatṭhīsattasītinavutivassasahassāyukā]
2868 bārāṇasī(gau, a)nagaram E; bārāṇasīnagaram FH
2869 parivattetvā F; parivattetvā H
2870 uppalanagaram E; upalanagaram L
2871 bhavissati L
2872 chayojanapamāṇam C; chayojanapamāṇam E
2873 [manussasu ACDFGL]; munussasu H
2874 atirekkattara E; atirekatara H
2875 dhamma H
2876 vassakoṭisattasahassam E; [vassasatasahassa HL]
2877 bhavissa(ghā, b)ti A
2878 tadā ~ bhavissati om. E
2879 uppalanagaram C; uppanamgaram D
2880 parivatte(ghā, b)tvā B
2881 (ghā, b) sattayojanapamāṇam CZ; sa(ghā, b)ttayojanapamāṇam D; sattayojana(ghā. a)pamāṇam F
2882 padappa H; padupam L
2883 nagara H

bhavissati, tato atirekataram²⁸⁸⁴ dhammam²⁸⁸⁵ carantesu vassakoṭisatasahassam āyu bhavissati²⁸⁸⁶, tato asamkhayam²⁸⁸⁷. tadā taṃ padumanagaram²⁸⁸⁸ parivattetvā dvādasayojanikam²⁸⁸⁹ maṇḍāravam²⁸⁹⁰ nāma²⁸⁹¹ nagaram bhavissati. tadā sattānam²⁸⁹² jarāmarañam²⁸⁹³ pañāyati²⁸⁹⁴. apañāyamānajarāmarañā²⁸⁹⁵ sattā puna²⁸⁹⁶ pi²⁸⁹⁷ pamādam²⁸⁹⁸ āpajjissanti²⁸⁹⁹. tesu pamādam²⁹⁰⁰ āpajjantesu²⁹⁰¹ asamkheyyato²⁹⁰² āyu²⁹⁰³ parihāyivā vassakoṭisatasahassam²⁹⁰⁴. tato piri²⁹⁰⁵ parihāyivā²⁹⁰⁶ navuttivassasahassam²⁹⁰⁷ tato pi²⁹⁰⁸ parihāyivā²⁹⁰⁹ asitivassasahassam²⁹¹⁰ tiṭṭhati. tadā manussā asitivassasahassāyukā²⁹¹¹ bhavissanti²⁹¹². tadā kāle maṇḍāranagaram²⁹¹³ parivattetvā āyāmena dvādasayojanikam²⁹¹⁴ vitthārato²⁹¹⁵ sattayojanikam²⁹¹⁶ vuttappakārasampattisampannam²⁹¹⁷ ketumatī²⁹¹⁸ nāma²⁹¹⁹ nagaram bhavissati²⁹²⁰. ayam²⁹²¹ pi metteyyo²⁹²² ayam ketumatī²⁹²³ rājadhānī²⁹²⁴ tattha mayā nibbattitabban ti ketumatī²⁹²⁵ nagaram passissati.

tato kulaṃ anuvilokesi²⁹²⁶. buddhā²⁹²⁷ nāma²⁹²⁸ lokasammate²⁹²⁹ kule nibbattanti, vessakule²⁹³⁰ vā

-
- 2884 atirekatara H
2885 dhamma FH
2886 tadā ~ bhavissati *om.* E
2887 asamkheyyam ACDEFGH; asamkheyya H
2888 padamanataram H
2889 dvādasayojjanikam E
2890 maṇḍāram EL; maṇḍāra H; [maṇḍāravam]
2891 nāpa H
2892 sattāna H
2893 janamarāṇa H; pajarāmarañam L
2894 na pañāyati BCGHL; pana pañāyati D; [na pañāyati]
2895 añāmanājarāmarāṇa E; apañāyamānam jarāmarañam H; apañāyamānam jarāmarañam L; [apañāyamānajarāmarāṇa]
2896 pu E; pana F; pana puna H
2897 mi L
2898 camādam H; mamā(gai, a)nam L
2899 āpajjassanti BH; āpajjanti E
2900 pamāda E; pamādapam HL
2901 pajjantesu E
2902 asamkhayato E
2903 āyū E; (ghā, a) āyu G
2904 vassakoṭisatasahassa H
2905 [pi ABCDEFGHL]
2906 carihāyivā H
2907 navuttivassasahassam EH; navuttisahassam L
2908 piri A; pi *om.* EHL
2909 rihāyivā H
2910 asitivassasahassa H; asitivassasahassam L
2911 asitivassasahassāyukā F; asitiva(gu, a)sahassāyukā H
2912 bhavissanti ti E
2913 maṇḍāranagaram E; maṇḍāranagara H; maṇḍāranagaram L; [maṇḍāranagaram]
2914 dvādasayojjanikam H
2915 vitthārato E
2916 sattayojanikam D
2917 vuttappakārasampattisampannam D; vuttappattisampannam E; vuttappakārasampattisampannam HL
2918 [ketumatī ACFG]
2919 (gha, a) nāma A
2920 bhavi(gha, a)ssati C
2921 (gha, a) ayam D; (gau, b) atha ayam E; aya H
2922 me(gha, a)tteyyo BZ; meyyo HL
2923 ketumatī AEH; ketuma L
2924 rājadhāniṃ C; rājadhāni EHL; rājadhāni F
2925 ketumatī EHL
2926 (ghā, b) anuvilokesi F
2927 budā H
2928 nā E

suddhākule²⁹³¹ vā na²⁹³² nibbattanti²⁹³³, lokasammataṃ²⁹³⁴ pana khattiyakulaṃ²⁹³⁵ vā brāhmaṇakulaṃ vā, dvīsu²⁹³⁶ kulesu yaṃ²⁹³⁷ kulaṃ²⁹³⁸ seṭṭhaṃ²⁹³⁹ pavaraṃ²⁹⁴⁰ ahosi, tadā ayaṃ²⁹⁴¹ dvīsu²⁹⁴² lokasammatesu kulesu²⁹⁴³ lokasammataṃ brāhmaṇakulaṃ²⁹⁴⁴ tatthāhaṃ²⁹⁴⁵ nibbattissāmi saṅgaraṇo²⁹⁴⁶ purohito²⁹⁴⁷ nāma²⁹⁴⁸ brāhmaṇo²⁹⁴⁹ mama pitā bhavissati²⁹⁵⁰ ti brāhmaṇakulaṃ²⁹⁵¹ passati²⁹⁵².
tato²⁹⁵³ mātaraṃ vilokesi. buddhamātā nāma²⁹⁵⁴ lobhā surādhutā²⁹⁵⁵ na hoti, kappasatasahassapuritapārami²⁹⁵⁶ jātito²⁹⁵⁷ paṭṭhāya²⁹⁵⁸ akhaṇḍapañcasilā²⁹⁵⁹ hoti. atha²⁹⁶⁰ ayaṃ²⁹⁶¹ pi²⁹⁶² purohitassa²⁹⁶³ subrahmabrāhmaṇassa²⁹⁶⁴ bhiriya²⁹⁶⁵ brahmavati²⁹⁶⁶ nāma brāhmaṇi²⁹⁶⁷ mama mātā²⁹⁶⁸ bhavissati²⁹⁶⁹, sā ca²⁹⁷⁰ mama²⁹⁷¹ jātidivasato²⁹⁷² paṭṭhāya²⁹⁷³ sattame²⁹⁷⁴ divase²⁹⁷⁵ cavanadhammā²⁹⁷⁶ ti mātāyuṃ²⁹⁷⁷ vilokessati²⁹⁷⁸. kasmā taṃ viloketi ti ce. buddhānaṃ²⁹⁷⁹

-
- 2929 lokasamate E; lokammatite L
2930 vessakule ~ nibbattanti *om.* E
2931 sudakūle F; sūdakule G; sudākule H; [suddakule]
2932 na na L
2933 vessakule ~ nibbattanti *om.* E
2934 lokasammata H
2935 khattiyakulaṃ H
2936 dvisu DEHL
2937 yaṃ H
2938 kulaṃ H
2939 seṭṭha H
2940 pavaraṃ E
2941 aya F
2942 dvisu EHL
2943 kule(gai, b)su L
2944 brahmaṇakulaṃ D; brāhmaṇakulaṃ E
2945 tassāhaṃ E; tatthāha H
2946 saṅkharāṇo BDFG; saṅkharāṇo E; saṅgaraṇā H; [saṅkharāṇo]
2947 purohito CE; purohi sabrahmanābrāhma H; purohitosu L
2948 subrahmā nāma E; nāma *om.* L
2949 brāhmaṇo A
2950 bhavissati H
2951 brāhmaṇakulaṃ *om.* E; brāhmaṇakala H
2952 passissati ACDFL; passiti B; passati *om.* E; (ghā, b) passissati G; pississati H
2953 tutā H
2954 nā E
2955 [surādhutā EFG]
2956 kappasatasahassapuritapārami DF; kappasatasahassaṃ pana puritapārami E; kappasatasahassapuritapārami H; kappasatasahassapuritapāramiṃ L; [kappasatasahassaṃ puritapārami]
2957 jātiko HL
2958 paṭṭhāya H
2959 akhaṇḍapañcasilā D; akhaṇḍapañcasilā EHL; akhandhapañcasilā G
2960 atha *om.* HL
2961 aya H
2962 pitaro pi E
2963 purohitassa EHL
2964 brahmabrāhmaṇassa A; subrahmaṇassa E; brāhmaṇassa HL
2965 [bhariya DEFG]; bhiriya HL
2966 brahmavati E; brā(gu, b)hmavatti H; brāhmavatti L
2967 brāhmaṇi AHL; brāhmaṇi E
2968 hatā F
2969 bhavi(gha, b)ssati A
2970 (gha, b) ca D
2971 ma(gha, b)ma B; (gha, b) mama C
2972 jātidivasato E
2973 paṭṭhāya H
2974 (gha, b) sattame Z
2975 divase G; di H; vadi L
2976 vanadhammā HL
2977 mātāyu D

dhammatattā²⁹⁸⁰. buddhamātugabbho²⁹⁸¹ hi cetiyagabbho viya buddhadhātunidhānāraho²⁹⁸² añesaṃ²⁹⁸³
asādhāraṇo²⁹⁸⁴ hoti, tasmā pacchimabhavikassa²⁹⁸⁵ bodhisattassa²⁹⁸⁶ jātadivasato²⁹⁸⁷ paṭṭhāya sattame²⁹⁸⁸
divase²⁹⁸⁹ sā²⁹⁹⁰ mātā cutā²⁹⁹¹ devaloke nibbatti, ayaṃ²⁹⁹² buddhamātudhammatā²⁹⁹³.

*manussalokaṃ*²⁹⁹⁴ *gamissāmi*²⁹⁹⁵ ti ettha kathaṃ jānitabbaṃ²⁹⁹⁶. ayaṃ²⁹⁹⁷ hi²⁹⁹⁸ metteyyo
bodhisatto²⁹⁹⁹ aṭṭhavassasahassāni agāraṃ³⁰⁰⁰ vassitvā³⁰⁰¹ caturō nimitte³⁰⁰² disvā pāsādena nikkhamitvā
sattāhaṃ padhānacāraṃ³⁰⁰³ caritvā apparājītapallaṅke³⁰⁰⁴ bodhimūle³⁰⁰⁵ sambodhiṃ³⁰⁰⁶ bujjhissati³⁰⁰⁷.
tena³⁰⁰⁸ vuttaṃ³⁰⁰⁹.

aṭṭhavassasahassāni³⁰¹⁰ agāraṃ so vassissati³⁰¹¹
cattāro nimitte disvā³⁰¹² pāsādena nikkhamitvā
sattāhaṃ³⁰¹³ padhānacāraṃ³⁰¹⁴ carissati ca³⁰¹⁵ so jino³⁰¹⁶
apparājītapallaṅke³⁰¹⁷ bodhimūle³⁰¹⁸ bujjhissati³⁰¹⁹
bodhi³⁰²⁰ tassa³⁰²¹ bhagavato nāgarukkho³⁰²² ti vuccati³⁰²³ ti.

2978 vilokesi E; viṇakessati L
2979 budāna H
2980 pi dhammātattā E; dhammattattā F
2981 budamābbho H; buddhamātabbho L
2982 buddhadhātunidhānārahā E; buddhadhā(ghi, a)tunidhānāraho F; buddhadhātunidhānāraho G
2983 [añesaṃ]
2984 adhāraṇo E
2985 pacchimabhavissa A; pacchimabhavissakassa L
2986 bodhisattassaṃ H
2987 jātadivaseto E; jātadivato L
2988 satta E
2989 divavase H
2990 sā om. EHL
2991 putā HL
2992 aya H
2993 buddamātudhammatā D; buddhamātudhammatā. na. E; buddha(go, a)mātudhammatā L
2994 manussaloka H
2995 gamissā E; gamī F; gamissāmi H
2996 jānitabbaṃ E
2997 aya H
2998 pi hi E
2999 bodhisatto H
3000 agāraṃ A; agāraṃ D; āgāraṃ E
3001 [vasitvā FGHL]
3002 nīmitte B; nipitte F; dimitte L
3003 (ghi, a) padhānacāraṃ G; padhānaca H; padhānacirātā L
3004 apparājītapallaṅge A; apparājītapallaṅke C; apparājītapalaṃ E; [aparājītapallaṅke FG]; apparāñijitapallaṅke L
3005 bodhimule FH
3006 sambodhi EFL; sambodhi H
3007 bujjhitassati L
3008 te H
3009 vattaṃ H
3010 athavassasahassāni E
3011 vassissati DFG
3012 didisvā D
3013 sa(ghā, a)ttāhaṃ B; sattāhaṃ ~ jino om. E
3014 (ghā, a) madhānadhāraṃ A; padhānapāraṃ BG; (ghā, a) padhānacāraṃ C; pa(ghā, a)dhānacāraṃ D; padhānara caritvā
apparājītapallaṅge bodhimule sambobodhi bujjhissati (gū, a) gamissati sattāhaṃ padhānaṃ H; padhānacāraṃ caritvā
aparājītapallaṅke bodhimule sambodhi bujjhissati. gamissati sattāhaṃ padhānaṃ L
3015 (ghā, a) ca Z
3016 sattāhaṃ ~ jino om. E
3017 apparājītapallaṅke AC; apparājītapallake E; aparājītapallaṅke FG; apparājītapallaṅge H; aparājīgapallaṅke L
3018 bodhimule F; bodhimule H
3019 sambodhiṃ bujjhiti E; bujjissati H

gāthāsu³⁰²⁴ vinicchayo³⁰²⁵ veditabbo.

ahaṃ hi paripūretvā pāramiyo anekadhā
kappasatasahassāni asaṃkheyyāni soḷasa
viriyādhiko bodhisatto *racitvā* demi *dānakam*
yadā *sabbaññutam* patto *vikalaṅgā* na honti te.

*racitvā*³⁰²⁶ ti³⁰²⁷ sodhetvā.

dānakan ti annapāṇādīpānavatthum³⁰²⁸. dānem³⁰²⁹ eva³⁰³⁰ dānakam. ettha savattheko³⁰³¹
nadiko³⁰³² ty³⁰³³ ādisu³⁰³⁴ viya³⁰³⁵.

*sabbaññutan*³⁰³⁶ ti sabbam jānātī³⁰³⁷ ti sabbañū³⁰³⁸ bhagavā. sabbañño³⁰³⁹ bhāvo³⁰⁴⁰
sabbaññutam³⁰⁴¹. kin tam³⁰⁴² nāṇam.

*vikalaṅgā*³⁰⁴³ ti ettha³⁰⁴⁴ aṅgan ti hatthapādādīkamahantaṅgam³⁰⁴⁵. paccāṅgan ti
aṅgulicakkhubhamukādīkam³⁰⁴⁶ khuddakaṅgam³⁰⁴⁷. aṅgañ ca paccāṅgañ³⁰⁴⁸ ca aṅgapaccāṅgam³⁰⁴⁹.
gāthābandhavasena³⁰⁵⁰ uttarapadayopam³⁰⁵¹ katvā³⁰⁵² vikalaṅgā ti vuttam. vikalam³⁰⁵³ rupam³⁰⁵⁴

³⁰²⁰ bodhi H
³⁰²¹ sattassa E
³⁰²² nāgarukkhe C; nāgurukkho D
³⁰²³ vuccati H
³⁰²⁴ sagāthāsu L
³⁰²⁵ vinicchayyo H; vinnicchayyo L
³⁰²⁶ rucitvā HL
³⁰²⁷ ti om. L
³⁰²⁸ annapāṇādīdānavattham A; annapāṇādīdānavatthum BHL; annapāṇādīpānavatthu E; [annapāṇādīdānavatthum FG]
³⁰²⁹ [dānam ABCDEFGHL]
³⁰³⁰ edāva L
³⁰³¹ svattheko ACDFGHL; sasettheko E; [svatthiko]
³⁰³² na(gam, b)diko E; nidinno L
³⁰³³ (ghī, b) ty F
³⁰³⁴ ādisu EH; ādi(go, b)su L
³⁰³⁵ viya om. C; viyā D
³⁰³⁶ sabbaññūta E; sabbaññatan H; [sabbaññutan]
³⁰³⁷ jānāti H
³⁰³⁸ sabbañū EHL; [sabbaññū]
³⁰³⁹ sabbañño CGHL; [sabbañño]
³⁰⁴⁰ bhānavo L
³⁰⁴¹ sabbaññutam AGL; sabbaññatan H; [sabbaññutam]
³⁰⁴² ta H
³⁰⁴³ vikalāṅkā CL
³⁰⁴⁴ dhīttha H
³⁰⁴⁵ [hatthapādādīkam mahantaṅgam EFGL]; hatthapādādīkam mahantaṅgam H
³⁰⁴⁶ aṅgulicakkhubhamukādīkam A; aṅgulibhamukādīkam E; aṅguligulamakkhubhamukādīkam H;
aṅguligulacakkhubhamukādīkam L
³⁰⁴⁷ khuddhakaṅgam C; khuddhakantaṅgam E; khuddhakaṅga H; kuddhakaṅgam L
³⁰⁴⁸ paccagañ E
³⁰⁴⁹ aṅgapaccantaṅgam E
³⁰⁵⁰ gāthābundhavasena H; gāthābuddhavasena L
³⁰⁵¹ [uttarapadalopam ABCDFGHL]; uttarapadalomam E
³⁰⁵² kamtvā H
³⁰⁵³ vikaḷa E
³⁰⁵⁴ rūpam ACF; [virūpam DGL]; visupa E; virupam H

lāmakam vā aṅgam³⁰⁵⁵ etesan³⁰⁵⁶ ti³⁰⁵⁷ vikalāṅgā.

*tadā*³⁰⁵⁸ ti padaseso.

sīsam me racitam katvā añjanam akkhiyugalam
yācakānam adādānam *kappakoṭisatehi pi*
yadā sabbaññutam patto *andhā* na honti mānūsā.

*kappakoṭisutesu*³⁰⁵⁹ *cā*³⁰⁶⁰ ti anekakappakoṭisu³⁰⁶¹ ca. *satasaddo*³⁰⁶² hi anekatthavācako.³⁰⁶³
*kappakoṭisatehi*³⁰⁶⁴ *pi*³⁰⁶⁵ ti pi³⁰⁶⁶ pātho.³⁰⁶⁷ so ca³⁰⁶⁸ vacanabhedo³⁰⁶⁹ nāma³⁰⁷⁰ atthato.

*andhā*³⁰⁷¹ ti dvicakkhu-andhā³⁰⁷².

racitvā *aṅgapaccaṅge* dānam datvā asesakam
yadā sabbaññutam patto *vikalāṅgā* na honti te.

*aṅgapaccaṅge*³⁰⁷³ ti³⁰⁷⁴ mahanta-aṅge³⁰⁷⁵ khuddaka-aṅge³⁰⁷⁶ ca³⁰⁷⁷.

*vikalāṅgā*³⁰⁷⁸ ti vuttattham yeva³⁰⁷⁹.

ayam pana gāthā attano ajjhaticadānānubhāvena³⁰⁸⁰ manussānam pi³⁰⁸¹ rūpasampattim³⁰⁸²
sandhāya³⁰⁸³ puna metteyyena³⁰⁸⁴ vuttā³⁰⁸⁵.

³⁰⁵⁵ aṅga F

³⁰⁵⁶ etessan E; etesamṇ H

³⁰⁵⁷ ta E

³⁰⁵⁸ (ghi, b) tadā G

³⁰⁵⁹ [kappakoṭisatesu ADEGL]; kappakotisesu B; kappākoṭisatesu H

³⁰⁶⁰ vā HL

³⁰⁶¹ anekakappakoṭisu E; anekakappakoṭimsu F; anekappakoṭisu HL

³⁰⁶² satasaddho EHL

³⁰⁶³ anekatthavāca(ghā, b)ko. A; anekatthavācako(ghā, b). CD; anekavāsocako. E; anekatavācako. HL

³⁰⁶⁴ [kappakoṭisatehi ABCDEFGL]; kappakoṭisatehi H

³⁰⁶⁵ (ghā, b) pi B; pi EGH

³⁰⁶⁶ pi *om.* HL

³⁰⁶⁷ pātho(ghā, b). Z

³⁰⁶⁸ ma E; ca *om.* HL

³⁰⁶⁹ vamanabhedo H

³⁰⁷⁰ na EHL

³⁰⁷¹ andā E

³⁰⁷² dvcakkhu-andā E; dicakkhu-andhā F; dvcakkhu-andā HL

³⁰⁷³ aṅgapaccaṅge C; aṅgapaccaṅge *om.* D; aṅgapaccaṅte E

³⁰⁷⁴ ti *om.* D

³⁰⁷⁵ mahantaṅge H; mahanteṅge L

³⁰⁷⁶ khuddhaka-aṅge CDGL; uddhaka-aṅge E; uddhaka-aṅge H

³⁰⁷⁷ (gū, b) ca H

³⁰⁷⁸ vikalāṅkā F

³⁰⁷⁹ yeva. vikalāṅgā ti vuttattham yeva H; yeva. vikalāṅgā ti vuttattham yeva L

³⁰⁸⁰ ajjhaticadānānubhāvena HL

³⁰⁸¹ pi *om.* EH

³⁰⁸² rūpasampatti CE; rūpasappattim D; rupasampatti H

³⁰⁸³ sandāya E

³⁰⁸⁴ metteyyana ADL; meteyena E

na vadāmi musāvādaṃ yācakānaṃ avañcano
yadā sabbaññutaṃ patto na mūgā honti mānūsā.
dhammaṃ sutvā pasīditvā **yācakānaṃ kathaṃ** suniṃ
yadā sabbaññutaṃ patto na **badhirā** honti mānūsā.

yācakānaṃ³⁰⁸⁶ **kathan** ti yācakānaṃ³⁰⁸⁷ yācanakathaṃ³⁰⁸⁸. **badhirā**³⁰⁸⁹ ti³⁰⁹⁰ sotapasādavikalā³⁰⁹¹.

piyacakkhūhi passāmi **sīlavante** ca **yācake**
yadā sabbaññutaṃ patto na andhā honti mānūsā.

sīlavante³⁰⁹² ti sīlasampanne³⁰⁹³ samaṇabrāhmaṇe³⁰⁹⁴.
yācake ti añe³⁰⁹⁵ ca yācakavanibbake³⁰⁹⁶.

ujam **kāyaṃ** karitvā 'haṃ kāle dānādike pana
yadā sabbaññutaṃ patto na khujjā honti mānūsā.

kāyaṃ³⁰⁹⁷ ti sariraṃ³⁰⁹⁸. ujjā³⁰⁹⁹ ti piṭṭhivaṅkā³¹⁰⁰

osadhaṃ demi sattānaṃ bhayaṃ tesam pi no kare
yadā sabbaññutaṃ patto tadā sattā arogino.

osathaṃ³¹⁰¹ **demi sattānan** ti vuttatā³¹⁰².

bhayan ti rogādibhayaṃ.

³⁰⁸⁵ vuttaṃ HL
³⁰⁸⁶ yācakāna H; (gau, a) yācakānaṃ L
³⁰⁸⁷ yācakānaṃ om. HL
³⁰⁸⁸ canakathaṃ D; yācanakatha H
³⁰⁸⁹ badhirā H
³⁰⁹⁰ ki L
³⁰⁹¹ sotapasādavikālo E; sotapasādalovikalo H; sotapasādalāvikalā L
³⁰⁹² sīlavante ADEH; sīlaṃ vante C; (ghī, a) sīlavante F; sillavante L
³⁰⁹³ sīlasampanne AE; sīlasampanne CH; salassasampanne L
³⁰⁹⁴ samaṇabrāhmaṇe C; sa(gaḥ, a)maṇabrāhmaṇe E
³⁰⁹⁵ añe A; [añe]
³⁰⁹⁶ yācakavanibbake FG
³⁰⁹⁷ kayan E
³⁰⁹⁸ [sarīraṃ]
³⁰⁹⁹ ujjā ACDEFGH; [ujum]
³¹⁰⁰ piṭṭhivaṅkā E; piṭṭhivaṅgā L; [piṭṭhi-avaṅkā]
³¹⁰¹ osatha H; ocasathaṃ L
³¹⁰² vuttatā EFHL

mettaṃ karomi sattānaṃ bhayasantāsanāsaṃ
yadā sabbaññutaṃ patto tadā **Mārā** na honti te.

mārā ti mārābalanikāyā³¹⁰³.

manāpā annapānāni **manāpena** dadāmi 'haṃ
yadā sabbaññutaṃ patto **samidhā** honti mānusa.

manāpenā ti saddhācittena³¹⁰⁴.

samidhā ti annapānādisampannā³¹⁰⁵.

manāpāni ca vatthāni manāpena dadāmi 'haṃ
yadā sabbaññutaṃ patto **surūpā** honti mānusa.

surūpā³¹⁰⁶ ti sundararūpā³¹⁰⁷.

manāpāni ca yānāni hatthi-assarathāni ca
dolā ca sivikā cāpi yācakānaṃ dadāmi 'haṃ
yadā sabbaññutaṃ patto sukhitā honti mānusa.
mocemi **bandhanā** satte dosato dukkhato pi ca
yadā sabbaññutaṃ patto bhujjissā honti pānino.

bandhanā ti saṃkhalikādibandhanā³¹⁰⁸ taṇhābandhanā³¹⁰⁹ vā.

samaṃ mettaṃ karitvā 'haṃ **piyesu apiyesu** ca
yadā sabbaññutaṃ patto samā honti **mahitalā**.

piyesū³¹¹⁰ ti memaniyenasu³¹¹¹ mittasuhajjesu³¹¹². **apiyesū**³¹¹³ ti amittesu. **mahitalā** ti

³¹⁰³ mārābalanikāyā E

³¹⁰⁴ suddhācittena E; saddāhittena H

³¹⁰⁵ annapānādisampannā B; [annapānādisampannā FG]

³¹⁰⁶ surupā HL

³¹⁰⁷ sundhararūpā C; sundararūpo E; sundhararupā HL

³¹⁰⁸ saṃkha(ghi, a)likādibandhanā A; (ghi, a) saṃkhalikādibandhanā C

³¹⁰⁹ ta(ghi, a)ṇhābandhanā D; taṇhābandhavanā L

maṅgalabheritalasadisā³¹¹⁴ sakalopathavitalā³¹¹⁵.

tosemi yācake sabbe bhojanehi dhanehi ca
yadā sabbaññutaṃ patto sītodakāpuṇṇā nadī.
yaṃ kiñci kusalaṃ katvā mamaṃ patthenti mānusa
saṃsārabhayabhītā te bhavissaṃ bhavamocako.
avijjāghorapabhavaṃ mohajālasamākulaṃ
vuyhantaṃ *caturoghesu lokaṃ* santārayiss' āhaṃ.

*caturoghesu*³¹¹⁶ ti kāmogho bhavogho³¹¹⁷ diṭṭhogho avijjogho³¹¹⁸ ti catūsu³¹¹⁹ oghesu. *lokan* ti
sadevakaṃ lokaṃ. dhammanāvāya³¹²⁰ nibbānaṃ³¹²¹ santārayissanti³¹²² sambandho.

kilesapaṅkamakkhite *taṇhātakkarasevite*

saṃsāradisasamuḷhe mokkhamaggaṃ adesayiṃ.

*taṇhātakkarasevite*³¹²³ ti³¹²⁴ taṇhācorasevite³¹²⁵.

*saṃsāradisasamuḷhe*³¹²⁶ ti saṃsāre³¹²⁷ ca chasu disāsu³¹²⁸ ca³¹²⁹ samuḷhe³¹³⁰.

tena vuttaṃ.

mātāpitā³¹³¹ disā pubbā ācariyā dakkhiṇā disā
puttadārā³¹³² disā pacchā³¹³³ mittāmaccā ca uttarā
dāsa³¹³⁴ kammakarā heṭṭhā uddhaṃ samaṇabrāhmaṇā³¹³⁵

³¹¹⁰ pi(ghi, a)yesū B; piyesu EHL; (ghī, a) piyesū G

³¹¹¹ [pemaniesu ACGH]; pemanienasu BD; memaniesu E; ceminiyesu L

³¹¹² mittasahajesa H; mittasahajesu L; (ghi, a) mittasuhajesu Z

³¹¹³ apiyesu EHL

³¹¹⁴ maṅgalabheritalasadisā AD; maṅkalabheritalasadisā L

³¹¹⁵ sakalopathavitalā AEFHG; sakapaṭṭhavitalā L

³¹¹⁶ [caturoghesū ABCDEGH]; caturoghesa L

³¹¹⁷ bhavogho om. E

³¹¹⁸ avijogho GL

³¹¹⁹ catusa L

³¹²⁰ dhammanāvāyadi D

³¹²¹ nibbāna H

³¹²² santāriyissanti F

³¹²³ taṇhātakkarasevite D; taṇhātakka(ge, a)rasevite H; taṇhātarakkarisevike L

³¹²⁴ (gau, b) ti L

³¹²⁵ taṇhācorasevite B; taṇhādhorasevike C; taṇhādhorasevite D; taṇhāviresevite E; taṇhāporasevite HL

³¹²⁶ saṃsāradisaṃsamuḷhe E; [saṃsāradisaṃsamuḷhe]

³¹²⁷ saṃkhasāre L

³¹²⁸ disesu HL

³¹²⁹ pa L

³¹³⁰ muḷhe EHL; [sammūḷhe]

³¹³¹ mātāpitutā E; mātā(ghī, b)pitā F

³¹³² puttāpārā L

³¹³³ pa(gah, b)cchā E; caccā H; paccā L

etā disā³¹³⁶ namasseyya³¹³⁷ allametto³¹³⁸ kulehī³¹³⁹ ti³¹⁴⁰.

mokkhamakkhan³¹⁴¹ ti nibbānagamanam dasakusalakammamapatham³¹⁴². passivā³¹⁴³ ti
āharitabbo³¹⁴⁴.

kilesapaṅkamakkhitte³¹⁴⁵ ti ādisu³¹⁴⁶ catutthyatthe³¹⁴⁷ upayogabahūvacanam³¹⁴⁸.
kilesapaṅkamakkhittānam³¹⁴⁹ sattānan ti attho. dvīsu³¹⁵⁰ padesu eseva nayo³¹⁵¹. evam³¹⁵² sati **adesayin** ti
sambandho³¹⁵³. api ca **kilesapaṅkamakkhitte** ti³¹⁵⁴ ādisu³¹⁵⁵ bhāvalakkhaṇe³¹⁵⁶ sattami³¹⁵⁷ ekavacanam³¹⁵⁸
hoti.

Sañjive Kālasutte ca Tāpane ca Patāpane
Aviciniraye satte saggamaggam adesayim.

tattha **sañjive**³¹⁵⁹ ti sañjivanāmake³¹⁶⁰ niraye³¹⁶¹. tassa vacanattho saṃvaccharasahassāni³¹⁶²
bahūni³¹⁶³ hatapahatā³¹⁶⁴ pi sattā sañjivanti³¹⁶⁵ etthā ti sañjivo³¹⁶⁶. ye³¹⁶⁷ pana sattā dosamohābhībhūtā³¹⁶⁸
pāṇam³¹⁶⁹ hantvā³¹⁷⁰ pharūsā³¹⁷¹ pāpadāruṇā³¹⁷² honti te tattha³¹⁷³ paccanti.

³¹³⁴ pāsaCD

³¹³⁵ samaṇabrahmaṇā D

³¹³⁶ dinasā E

³¹³⁷ namaseyya H; namaseyyana L

³¹³⁸ allamatto EH; [alamattho]

³¹³⁹ [kule gīhī AB]; kule tīhī CD; kule tīhi E; kule gīhī F; kule gīhi G; kule hi HL

³¹⁴⁰ ti hi HL

³¹⁴¹ [mokkhamagga ABFG]; mokkhamattan CDEH

³¹⁴² dasakulakammamapatha HL

³¹⁴³ passivā E; passi L

³¹⁴⁴ āharitabbo ti E; āharitabbā ti HL

³¹⁴⁵ kila(ghi, b)paṅkamakkhitte A; kilesapa(ghi, b)ṅkamakkhitte C; kile(ghi, b)saṅkamakkhitte D; atha vā
kilesapaṅkamakkhitte E; atha vā kilesāpaṅkamakkhitte HL; [kilesapaṅkamakkhitte]

³¹⁴⁶ ādisu HL

³¹⁴⁷ catutthyatthe A; ca(ghi, b)tutthyatthe B; catutthe E; catutthyetthe G; catthutyatthe L

³¹⁴⁸ upayogabahūvacanam D; upayobahūvacana H; upayobahūvacanam L; u(ghi, b)payogabahūvacanam Z;

[upayogabahūvacanam]

³¹⁴⁹ kkhilesapaṅgamakkhittānam H; kilesajapaṅkamakkhittānam L

³¹⁵⁰ dvīsu HL

³¹⁵¹ nayā H

³¹⁵² (ghī, b) evam G; eva HL

³¹⁵³ sambando AH

³¹⁵⁴ da HL

³¹⁵⁵ ādisu H; ādasu L

³¹⁵⁶ bhāvalakkhalo EH; bhāvalakkhaṇā L

³¹⁵⁷ sattami CEFHG

³¹⁵⁸ ekavacana BH

³¹⁵⁹ [sañjive]

³¹⁶⁰ sañjivanāmake L; [sañjivanāmake]

³¹⁶¹ nirīye HL

³¹⁶² saṃvaccharasahassāni *om.* EHL

³¹⁶³ bahūni *om.* EHL

³¹⁶⁴ hatapahattā E

³¹⁶⁵ sañjivanti E; [sañjivanti]

³¹⁶⁶ sañjivāme H; sañji(gam, a)vo L; [sañjivo]

³¹⁶⁷ ya H

³¹⁶⁸ dosamohābhībhū E; dosamohābhībhūtā H; dosamohobhībhūto L

³¹⁶⁹ pāṇa H

³¹⁷⁰ gantvā B; hantā EL; māntā H

tena vuttam³¹⁷⁴.

dosamohābhībūtena³¹⁷⁵ pānaghāṭam³¹⁷⁶ karonti ye

te narā³¹⁷⁷ pharūsā³¹⁷⁸ pādā³¹⁷⁹ sañjive upapajjare³¹⁸⁰ ti.

kālasutte ti nirayadālā³¹⁸¹ hi pajjalitāni³¹⁸² nānāvudhāni³¹⁸³ gahetvā jalitāya³¹⁸⁴ ayapathaviyā³¹⁸⁵

nerayike³¹⁸⁶ aparāparam³¹⁸⁷ anubanditvā³¹⁸⁸ paharitvā³¹⁸⁹ jalita-ayapathaviyaṃ³¹⁹⁰ patite

jalitakālasuttam³¹⁹¹ pātetvā³¹⁹² jalitapharusuṃ³¹⁹³ gahetvā sayam unnamantā³¹⁹⁴ mahantena³¹⁹⁵

aṭṭasaddena³¹⁹⁶ viravante³¹⁹⁷ aṭṭhamse³¹⁹⁸ soḷasamse³¹⁹⁹ karontā ettha³²⁰⁰ gacchanti³²⁰¹ ti³²⁰² kālasutto.

vuttam hetam³²⁰³ porānehi³²⁰⁴

mātāpitūsu³²⁰⁵ mittesu guṇavantesu dūsakā³²⁰⁶

narā asaccavādā³²⁰⁷ ke³²⁰⁸ kālasuttamhi³²⁰⁹ jāyare ti.

saṭṭhinipāte³²¹⁰ samkiccapaṇḍitajātaka³²¹¹ brahmadattaputtassa³²¹² bodhisattena³²¹³ vuttam

3171 pharusā ABDEFGHL

3172 cadāruṇā E; cāpadāruṇā H

3173 ttha L

3174 vūttam D

3175 dosamohābhībūte(ghu, a)na F; dosahohābhībūtena L

3176 pānaghāṭam E; pānaghāṭa L; [pānaghāṭam]

3177 navā ACDEHL

3178 pharusā ABCDEFGHL

3179 pāpā CFGL; pāthā H

3180 upapajjare E; upapajjanti H; uppan L

3181 nirayapāṇālā A; nirayapālālā B; nirayapāṇālā C; nirayapāṇā D; niriyapāle E; niriyapālā FG; niriya(ge, b)pāle H; nirayapāle L;

[nirayapālā]

3182 pajjalitāni EGH; pajjalatāni L

3183 nānāvadhāni A; nānāvudhāni HL

3184 jalatāya E; jasitāya H; javitāya L

3185 pathaviyā C; pathavi(gha, a)yā E; ayathaviyā HL

3186 neriyike HL

3187 aparāparam H

3188 [anubandhitvā BCDFGHL]

3189 paharitvā om. EHL

3190 jalitapathaviyaṃ EHL

3191 jalitakā(ghī, a)lasuttam A; jali(ghī, a)talakālasuttam D

3192 pātetvā E

3193 [jalitapharusuṃ AFG]; (ghī, a) jalitapharusuṃ B; (ghī, a) jalitapharusuṃ C; jalitapharusu D; jalitapharusu E; jalitapharusu H;

jalitapharusu L; jali(ghī, a)tapharusu Z

3194 unnamantā HL

3195 mahatentena E

3196 aṭṭasaddhena C; aṭṭasaddhena D; aṭṭasaddhe E; aṭṭasaddhena H; aṭṭasaddhena L

3197 vinaviravane E

3198 aṭṭhamse C; aṭṭhase E

3199 soḷasase E

3200 etthā L

3201 gacchanti H; [tacchantī]

3202 ti om. E

3203 heta A

3204 purānehi E

3205 hatāpitūsu FG; mātāpitūsu L

3206 dūsakā CFHL

3207 asaccavādā A; [asaccavādā CDEGHL]; asaccavādā F

3208 [te ACDEFGHL]

3209 (ghu, a)kālasuttamhi G

3210 saṭṭhinipāte H

3211 samkiccapaṇḍitajātaka CFGH; samkiccapaṇḍitajātaphake D

3212 brāhmadattaputtassa D; brahmadattassa H; brāhmadattassa L

3213 bodhisattena H

yo lobhā pitaraṃ³²¹⁴ hanti dosā vā purisādharmo³²¹⁵

sa kālasutte niraye³²¹⁶ ciraṃ³²¹⁷ rattāya³²¹⁸ paccaṭi³²¹⁹ ti.

tāpane ti niccakāle³²²⁰ satte³²²¹ tapati³²²² ti³²²³ tāpano³²²⁴. imasmiṃ³²²⁵ kira nibbattasatte
tālakhandhapamāne³²²⁶ jalita-ayasule³²²⁷ nisidāpenti³²²⁸, tato heṭṭhā pathavi³²²⁹ jalitasulā³²³⁰ jalanti³²³¹,
sattā³²³² jalanti³²³³, evaṃ so³²³⁴ nirayo³²³⁵ niccakālaṃ satte tapati. ke pana tattha nibbattanti³²³⁶ ti ce.
vuccate,

dāyādiḍayhane³²³⁷ dāhaṃ³²³⁸ pāṇānaṃ³²³⁹ viddhadhāti³²⁴⁰ yo

so jalajjalane³²⁴¹ jantu³²⁴² tappane³²⁴³ tāpane³²⁴⁴ rudanti³²⁴⁵.

patāpane³²⁴⁶ ti³²⁴⁷ ativiya tāpeti³²⁴⁸ ti patāpano³²⁴⁹. tasmīṃ³²⁵⁰ kira nibbattasatte jalantehi
āvudhehi³²⁵¹ paharivā³²⁵² jalita-ayapattaṃ³²⁵³ āropenti³²⁵⁴, tesam pabbamatthakeṭṭhitakāle³²⁵⁵
kammaṃpaccayo vāto³²⁵⁶ paharati, te tattha saṅghāretuṃ³²⁵⁷ asakkontā³²⁵⁸ uddhampādā³²⁵⁹ avamsira³²⁶⁰

³²¹⁴ pitara E

³²¹⁵ parisādharmo E; [purisādhamo HL]

³²¹⁶ niraye EHL

³²¹⁷ ciraṃ ABFG

³²¹⁸ ttāya H

³²¹⁹ paccaṭi H; pacca(gaṃ, b)ṭi L

³²²⁰ niccakāse C

³²²¹ sutte L

³²²² tapeti D; tapati EHL

³²²³ ti om. E

³²²⁴ tāpanno F

³²²⁵ ismiṃ D; imasmiṃ pana E; imasmi H

³²²⁶ [tālakhandhapamāne CEFGLH]

³²²⁷ jalita-ayasule L; [jalita-ayasūle]

³²²⁸ nisidāpenti ACEG; nīsi(ghu, b)dāpenti F; nisipāpenti H

³²²⁹ [pathavi G]

³²³⁰ jatasulā D; [jalitasulā]

³²³¹ jalanti HL

³²³² sattā om. E

³²³³ jalanti om. E; jalattinti H

³²³⁴ sesā E

³²³⁵ nirayo EL

³²³⁶ nibbattanti HL

³²³⁷ devadibbuyhaneṅ E; nāyādiḍayhaneṅ H; nāyādiḍayhane L

³²³⁸ cahaṃ E; dāhaṃ H

³²³⁹ dāṇānaṃ FG; pāṇānaṃ H

³²⁴⁰ vindhadhāti E; viddhadhāti H; [vidahati]

³²⁴¹ jalajjalane E; jālujalane HL

³²⁴² (ghī, b) jantu D; jan H

³²⁴³ tappa(ghī, b)ne A; ta(ghī, b)ppane C; tappate EFG; tapane H; panepa L

³²⁴⁴ tāpanne E; patāpane H

³²⁴⁵ ruddhan E; rudanti om. HL

³²⁴⁶ (gha, b) patāpanne E; patāpane om. HL

³²⁴⁷ (ghī, b) ti B

³²⁴⁸ tāpeti D; tāti H; tāti L; (ghī, b) tāpeti Z

³²⁴⁹ patāpanno E; patāpa(gai, a)nno H; pannātāpanno L

³²⁵⁰ tasmī A; tasmī H

³²⁵¹ āvutteḍhehi H; āvudhehi L

³²⁵² caharivā H

³²⁵³ jalitaṃ ayapattaṃ E; jalita-ayapattaṃ HL

³²⁵⁴ āpenti EHL

³²⁵⁵ [pabbatamatthakeṭṭhitakāle ABCDEFG]; pabbaṃ taṃ matthakeṭṭhitakāle H; sabbam tamattham keṭṭhitakāle L

³²⁵⁶ vato F

³²⁵⁷ saṅghāretuṃ E; [saṅghātuṃ]

³²⁵⁸ asakkonto A; assakonto E; assakkoasakkontā H; asakko asakkontānaṃ L

patanti³²⁶¹ . atha³²⁶² heṭṭhā ayapathavito³²⁶³ jalitāni³²⁶⁴ ayasulāni³²⁶⁵ upaṭṭhahanti³²⁶⁶ , tesam³²⁶⁷
mattakeneva³²⁶⁸ assādetvā³²⁶⁹ tesu vinividdhasarirā³²⁷⁰ pajalantā³²⁷¹ paccanti. evam³²⁷² assa³²⁷³ ativiya
patāpeti. pacchādiṭṭhikā³²⁷⁴ pana³²⁷⁵ natthi yitṭham³²⁷⁶ natthi hutam³²⁷⁷ ty ādi diṭṭhim³²⁷⁸ gaṇhantā³²⁷⁹
tattha paccanti.
tena vuttam³²⁸⁰.

kusalākusalakammam³²⁸¹ natthi³²⁸² ti ye pakāsare³²⁸³
ucchedadiṭṭhim³²⁸⁴ gaṇhantā³²⁸⁵ sattā tāpenti³²⁸⁶ te pana³²⁸⁷
vipalāsam³²⁸⁸ gāhāpentī³²⁸⁹, niraye³²⁹⁰ patāpane vipaccareti³²⁹¹.

avīciniraye³²⁹² ti ettha jālānam vā pana³²⁹³ sattānam vā tesam dukkhassa vā³²⁹⁴ vici-antaram³²⁹⁵
natthi³²⁹⁶ etassā³²⁹⁷ ti avīci³²⁹⁸. natthi³²⁹⁹ ayosukham³³⁰⁰ etthā³³⁰¹ ti nirayo³³⁰² dukkhaṭṭhānapadeso³³⁰³.

-
- 3259 udampādā EF; udvapādā H
3260 avasirā H
3261 matanti D; pattanti E
3262 aṭṭhatha D; atha *om.* E
3263 ayathavito H; [ayapathaviyā]
3264 (ghu, b) jalitāni G
3265 [ayasulāni]
3266 uṭṭhahanti BEGHL
3267 te tesam E; tetāsa H; tetāsam L
3268 [mattakeneva ABCEFGHL]; matthakene ava D
3269 sādētvā E
3270 vinidvasarirā H; vinividdhamsarirā L; [vinividdhasarirā]
3271 jalantā A; pajalanā L
3272 evam E
3273 [ayam E]
3274 [micchādiṭṭhikā ABCDEFGHL]
3275 pi E; ca HL
3276 yitṭham AH; yaṃtṭham D; yitṭha F; (gaḥ, a) yitṭham L
3277 hun E; hutam HL
3278 niṭṭhim D; diṭṭhī F; diṭṭhi HL
3279 gaṇhattantā H
3280 vuttam H
3281 kusalākusalam E; kusalāsalam HL
3282 [natthi ABCDEFG]
3283 pasare H; [passare]
3284 [ucchedadiṭṭhi EFL]; udatṭhi H
3285 ga(ghū, a)ṇhantā F
3286 penti CL; tāmenti H
3287 mana F
3288 vilāpalāsam CE; vipalāsa HL; [vipallāsam]
3289 gāhā E; gāhāpanti F; gāhā HL
3290 nirīye H
3291 paccareti L
3292 avīcinirīye HL; [avīciniraye]
3293 pi E
3294 (ghu, a) vā D
3295 vi(ghu, a)ci-antaram C; viṭhi-antaram H; vici-anantaram L; [vici-antaram]
3296 natti H
3297 (ghu, a) etassā A; [etthā]
3298 avīṭhi H; [avīci]
3299 (ghu, a) natthi B
3300 ahesukham E; ayosukha H
3301 (ghu, a) etthā Z
3302 narayo E; nirayo *om.* H
3303 dukkhaṭṭhānapadesā CHL

avici³³⁰⁴ eva³³⁰⁵ nirayo³³⁰⁶ avicinirayo³³⁰⁷ . idha³³⁰⁸ pana maṃhā-avicinirayo³³⁰⁹ adhippeto³³¹⁰ .
mahanto³³¹¹ avicī³³¹² ti mahā-avicī³³¹³ ti³³¹⁴ viggaho. tatra³³¹⁵ hi kira³³¹⁶ puratthimadisādhi³³¹⁷
bhittīhi³³¹⁸ jālā³³¹⁹ utthahitvā pacchimadisādīsu³³²⁰ paṭihaṇāti³³²¹ tā ca bhittīyo³³²² vinivijjhita³³²³
purato³³²⁴ yojanasatam³³²⁵ gaṇhāti heṭṭhā utthitajālā³³²⁶ upari paṭihaṇāti³³²⁷ upari utthitā³³²⁸ jālā³³²⁹
heṭṭhā³³³⁰ paṭihaṇāti³³³¹ . evaṃ³³³² tattha³³³³ jālānaṃ vici³³³⁴ nāma natthi. tassa pana anto
yojanasatattānaṃ khiravallipitthassa³³³⁵ puritanāli³³³⁶ viya sattehi nirantaram³³³⁷ puritam³³³⁸ . catūhi³³³⁹
iriyāpathehi³³⁴⁰ paccantānaṃ sattānaṃ pamānaṃ³³⁴¹ natthi. na ca añamañam sambodhenti³³⁴²
sakkatthāne³³⁴³ yeva³³⁴⁴ paccanti, evam ettha sattānaṃ vici³³⁴⁵ nāma natthi. yathā³³⁴⁶ pana jivhagge³³⁴⁷
madhubindhūni³³⁴⁸ sattamassa³³⁴⁹ tāmbalohabindhuno³³⁵⁰ anudahanabalavatāya abbohārikāni honti³³⁵¹ ,

-
- 3304 avīthi H; [avīci]
3305 evan ti E
3306 niriyō H
3307 aviciniriyo E; avīthiniriyo H; avicinirayo *om.* L; [avīcinirayo]
3308 idha idha H
3309 mahā-avicinirayo ABCDFG; mahānirayo E; mahā-avīthiniriyo H; mahā-aviciniriyo L; [mahā-avīcinirayo]
3310 a(ghā, a)dhippeto E; *adhippeto* H
3311 mahantā HL
3312 avici EL; avīthi H; [avīci]
3313 mahā-avicī ABCDFG; mahā-avici EHL
3314 ti *om.* L
3315 tatu HL
3316 kiri D
3317 puratthimādihi E; puratthimadihi H; putthimadihi L
3318 bhittīhi *om.* E; bhittīhi F; bhittīhi HL
3319 jālā E
3320 pacchimādisādisu HL
3321 paṭihaṇāti L; [paṭihaṇāti]
3322 vi bhittīyo E
3323 vinivijjhita A
3324 pūrato G
3325 yojanasattam B; yo(gai, b)janasattam H
3326 utthitajālā A; utthitajālā E
3327 paṭihaṇāti E; [paṭihaṇāti]
3328 utthita FG
3329 jālā *om.* EHL
3330 (ghū, a) heṭṭhā G; heṭṭho H
3331 paṭihaṇāti E; [paṭihaṇāti]
3332 eva H
3333 tāvettha E
3334 vīthi H; [vīci]
3335 khiravallipitthassa D; khiravallipitthassa E; khiravallipitthassa G; khiravallipitthassa L; [khiravallipitthassa]
3336 puritamnāli E; paritanāli FL
3337 nintera H
3338 puram E; purita H; nālim viya L; [pūritam]
3339 catuhi F; cutūhi H; ca(gaḥ, b)tuhi L
3340 iriyāpathehi D
3341 [pamānaṃ CFGH]; maraṇam E; pamāna L
3342 [sambādhenti ACDEFGHL]
3343 sakkatthāne E
3344 meva E; (ghū, b) yeva F
3345 vipi E; vāpi H; [vīci]
3346 yathā ~ honti *om.* HL
3347 jivhagge E
3348 [madhubindūni ABD]; madhubandhani E; madhubinduni F
3349 sattama(ghu, b)ssa D; sattassa E
3350 tāmbaloha(ghu, b)lohahinduno A; tāmbaloha(ghu, b)bindhuno B; tā(ghu, b)mbalohabindhuno C; tāmbalohabinduno D;
[tāmbalohabinduno]
3351 (ghu, b) honti Z

tathā tattha anadahanabalavatāya³³⁵² sesā akusalavipākupekkhā³³⁵³ abbohārikā honti³³⁵⁴, dukkham eva³³⁵⁵
nirantiraṃ³³⁵⁶ pañāyati³³⁵⁷ evam assa³³⁵⁸ dukkhassa³³⁵⁹ vici³³⁶⁰ nāma³³⁶¹ natthi. svāyaṃ saha³³⁶²
bhittīhi³³⁶³ vikkhambhato aṭṭhārasādhikayojanasato³³⁶⁴ āvaṭṭato³³⁶⁵ catupaṇṇāsādhikatiyojanasato³³⁶⁶
saha ussudehi³³⁶⁷ dasayojanasahassāni³³⁶⁸. evam assa³³⁶⁹ mahantatā³³⁷⁰ veditabbā³³⁷¹.
vuttaṃ³³⁷² hetaṃ.

katvā guṇādike³³⁷³ dosaṃ³³⁷⁴ ghāṭayitvā³³⁷⁵ na te pi ca
mātāpitugurūsu³³⁷⁶ ca³³⁷⁷ avicimhi³³⁷⁸ bhavanti te ti.

*tāpane*³³⁷⁹ *cā*³³⁸⁰ ti ettha pana³³⁸¹ *casaddena*³³⁸² saṃghāṭaroruvamahāroruvasaṃkhāte³³⁸³ tayo
mahāniraye³³⁸⁴ saṃgaṇhāti³³⁸⁵. mahāniriya³³⁸⁶ hi aṭṭhavidhā honti³³⁸⁷.
tena vuttaṃ.

sañjivo³³⁸⁸ kālasutto³³⁸⁹ ca saṃghāto³³⁹⁰ roruvo³³⁹¹ tathā³³⁹²
mahāroruvo³³⁹³ patāpo³³⁹⁴ mahāpatāpo³³⁹⁵ avici³³⁹⁶

3352 [anudahanabalavatāya ACDEG]; anudamāhanabalavatāya F
3353 akusalavipāka-upekkhā E
3354 yathā ~ honti *om.* HL
3355 e C
3356 [nirantiraṃ ABFGL]; nirantara CD; nirantayāti H
3357 pañāyati *om.* H; yāti L; [pañāyati]
3358 [ettha]
3359 dukkha HL
3360 viṭhi H; [vīci]
3361 nāpa F
3362 samā C
3363 bhittimhi A; bhittīhi E; bhittīhi HL
3364 (ghā, b) aṭṭhārasādhikayojanasato E; aṭṭhārasādhikayojanasato H
3365 āvajjato E; āvaṭṭhato FH
3366 cutupaṇṇāsādhikatiyojanasato D; cutupaṇṇāsādhikayojanasato E; cutupaṇṇāsādhitiyojanasatosato H; cutupaṇṇāsādhitiyojanasato
L
3367 [ussadehi EHL]
3368 dasayojanasahassāni E
3369 assa *om.* HL
3370 ahantatā HL
3371 veditabba H
3372 vutta D
3373 gaṇādike A; guṇādhike FG
3374 dhosaṃ F; thosaṃ G
3375 ghāṭayitvā E; [ghāṭayitvā]
3376 mātāpitugurūsu A; mātāpitugurūsu BDFG; mātāpituguru CL; mātāpituguha E; mātāpituguru H
3377 pi E
3378 (ghū, b) avicimhi G; aviṭhimhi H
3379 patāpane EHL
3380 cā *om.* EHL
3381 panā HL
3382 casaddhena CHL; casaddhona E
3383 saṃghātaṃ roruvasaṃkhātena E
3384 mahāniriye L
3385 saṃgaṇhāti EHL
3386 [mahāniraya ABCEFGH]; mahānirayo D
3387 ho(ghe, a)nti F
3388 [sañjivo]
3389 kālasutte C; kālasutto E; kālasuto HL
3390 saṃghāto E; saṃghātako HL
3391 roruvo ~ avici *om.* E; roruvā L
3392 tadā L
3393 mahāro(go, a)ruvo H

iccete³³⁹⁷ atṭhanirayā³³⁹⁸ akkhātā duratikkamā³³⁹⁹

ākiṇṇā³⁴⁰⁰ luddhakammehi³⁴⁰¹ **paccekā**³⁴⁰² **soḷasussadā**³⁴⁰³ ti.

tattha **paccekā soḷasussadā**³⁴⁰⁴ ti etesaṃ³⁴⁰⁵ nirayānaṃ³⁴⁰⁶ ekekassa³⁴⁰⁷ catusu³⁴⁰⁸ ddhāresu³⁴⁰⁹
ekekasmim³⁴¹⁰ cattāro katvā soḷasa-ussadā³⁴¹¹ ti sabbe pi satam³⁴¹² atṭhavisati³⁴¹³ ussanirayā³⁴¹⁴. tehi ca
saddhim³⁴¹⁵ atṭhamahānirayaṃ³⁴¹⁶ chatimsanirayasataṃ³⁴¹⁷ hoti³⁴¹⁸.

sañjive. la³⁴¹⁹. aviciniraye³⁴²⁰ paccante³⁴²¹ nibbatte satte³⁴²² disvā saggamaggaṃ adesayim³⁴²³
ahan³⁴²⁴ ti padayojanā³⁴²⁵.

saggamaggaṃ ti sagge gamanahetudasakusalakammamapatham³⁴²⁶.

aññābandhanā bandhe taṇhājālavasaṃgate

chetvāna bandhanā satte sampāpessāmi nibbuttiṃ.

aññābandhanā³⁴²⁷ ti mohabandhanā³⁴²⁸.

chetvā³⁴²⁹ ti ñāṇāsina³⁴³⁰ chinditvā³⁴³¹.

3394 patāco H
3395 ma(ghū, a)hāpatāpo A; mahāpa(ghū, a)tāpo C; mahāpatāco H; (gha, a) mahāpatāpo L
3396 a(ghū, a)vicī BZ; (ghū, a) avicī D; roruvo ~ avicī om. E; avīthi H; [avīci]
3397 icete A; ca dveccarosivā athāparo avicī tāpano papatāpanno icete E
3398 atṭhaniriyā CEHL; atṭhanirayo D
3399 duratikkamā D; duratikkhamā F; durakkamā L
3400 ākiṇṇā H
3401 luddhakammehi H; [luddakammehi]
3402 pacetā E
3403 soḷasusadā E; soḷasussudā G; soḷasadā HL
3404 soḷasussudā FG; soḷasadā HL
3405 ekesaṃ C
3406 nirayāna BD; niriyānaṃ L
3407 ekassa AD; ekekassi L
3408 catūsu ABCDEG
3409 [dvāresu ABCEFGHL]; pāresu D
3410 ekesakasmī H
3411 soḷassa-ussudā A; soḷasa-ussudā CDFGL; soḷasa-ussaddhā E
3412 sattaṃ BEL; satta H
3413 [atṭhavisati ADFGL]; atṭhavisati ca E
3414 ussanirayā ADFGHL; ussanirayā E
3415 saddi H
3416 atṭhamahā(ghi, a)niriyā E; atṭhamahānirayā HL
3417 chatimsaniriyāṃ sataṃ E; chatimsaniriyasataṃ H; chatimsaniriyāṃ sataṃ L
3418 honti E
3419 pa EH; la om. L
3420 avicinirayo E; avīthinaraye H
3421 paccante ba H
3422 satte om. HL
3423 adesayi H
3424 āhan B; ahaṃ E; anahan L
3425 padayojanā E
3426 gamanahetudasakusalakammamapatham F; nagapanahetudasakusalakammamapatham L
3427 aññābandhanā HL; [aññābandhanā]
3428 mohabandhā E; mohabandhanā ti mohabandhanā L
3429 (ghe, a) chetvā G
3430 ñāṇāsina AD
3431 dhinditvā H

micchādīṭṭhikavātena dvāsaṭṭhidiṭṭhi-aggalaṃ
aṭṭhaṅgikamaggatālena vivarissāmi pāṇīnaṃ
nibbānanagaradvāraṃ *visālam ajarāmarāṃ*.

*micchādīṭṭhikavātenā*³⁴³² ti³⁴³³ micchādīṭṭhikasamkhātena³⁴³⁴ kavātena³⁴³⁵. micchādīṭṭhi³⁴³⁶
saggamokkhapidahakiccaṃ³⁴³⁷ sādheti³⁴³⁸, dvārakavāto³⁴³⁹ viya dvārapidahana-kiccaṃ³⁴⁴⁰, tasmā
micchādīṭṭhikavātenā³⁴⁴¹ ti vuttam³⁴⁴².

*dvārasaṭṭhī*³⁴⁴³ *diṭṭhi-aggalaṃ*³⁴⁴⁴ ti dvāsaṭṭhiviparitaṃ³⁴⁴⁵ yeva³⁴⁴⁶ kavātaghaṭikaṃ³⁴⁴⁷.
dvāsaṭṭhī³⁴⁴⁸ diṭṭhi³⁴⁴⁹ veditabbā³⁴⁵⁰, cattāro sassatāvādā³⁴⁵¹ cattāro³⁴⁵² ekaccasassatāvādā³⁴⁵³ cattāro³⁴⁵⁴
antānantikā³⁴⁵⁵ cattāro aparāvikkhepikā³⁴⁵⁶ dve adhiccasamuppannikā³⁴⁵⁷ soḷasasañjivādā³⁴⁵⁸
aṭṭha-asañjivādā³⁴⁵⁹ aṭṭha³⁴⁶⁰ nevasañjivādā³⁴⁶¹ satta-ucchedavādā³⁴⁶²
pañcadiṭṭhadhammanibbānavādā³⁴⁶³ ti etāni dvāsaṭṭhidiṭṭhigatāni³⁴⁶⁴ honti.
tathā hi vuttam.

cattāro **sassatāvādā**³⁴⁶⁵ cattāro **ekaccasassatāvādā**³⁴⁶⁶ **antānantikā** cattāro

3432 micchādīṭṭhikavātenā B; pacchādīṭṭhikavātenā E; picchādīṭṭhikavātenā F; micchādīṭṭhakarātenā L
3433 ti ti C
3434 micchādīṭṭhisamkhātena EFGHL
3435 vātena CDL; [kavātena]
3436 [micchādīṭṭhi hi CDEFHL]; micchādīṭṭhīhi G
3437 saggamokkhapidahana-kiccaṃ AFGHL; saggamokkhapidamānakiccaṃ CE; saggahakkhapidahana-kiccaṃ D
3438 sodheti E; sodhoti HL
3439 dvā(ghe, b)rakavāto F
3440 dvāramidahana-kiccaṃ A; dvārapidahana-kiccaṃ F
3441 micchādīṭṭhikavā(ghū, b)tenā A; [micchādīṭṭhikavātenā]
3442 vu(gha, b)ttam L
3443 [dvāsaṭṭhī ABDEFG]; dvādasatṭhim C; dvāsaṭṭhi HL
3444 diṭṭhi(ghū, b)aggalaṃ CD; attasan E; diṭi-attalaṃ H
3445 dvāsaṭṭhidiṭṭhiviparitaṃ A; dvāsaṭṭhi(ghū, b)viparitaṃ B; dvāsaṭṭhidiṭṭhiviparitaṃ CDL; dvāsaṭṭhivicarita E; viparitaṃ FG;
dvāsaṭṭhidiṭṭhivicaritaṃ H; dvāsaṭṭhidiṭṭhivicaritaṃ L
3446 (ghū, b) yeva Z
3447 [kavātaghaṭikaṃ E]; kataghaṭikaṃ H; kataghajikaṃ L
3448 dvāsaṭṭhim A; dvāsaṭṭhi CH
3449 diṭṭhi D; diṭṭhi ti H; datṭhi L
3450 veditabbo E
3451 sassatāvādā E
3452 caro E
3453 ekaccasassatāvādā E; ekaccasassatāvādā HL
3454 pattāro C
3455 antonantikā D
3456 [amarā-vikkhepikā ABCDEFG]; ama(go, b)rāvikkhepikā H
3457 adhiccasamuppannikā BD; api ca samuppakā E; adhiccasamuppanno H; adhiccasamuppanā L
3458 soḷasasañjivādā E; [soḷasasañjivādā]
3459 aṭṭhasañjivādā HL; [aṭṭha-asañjivādā]
3460 aneṭṭha E
3461 nevasañjivādā ACD; nevasañjivādā E; nevasañjivādā FHL; nevasañjivādā G; [nevasañjivādā]
3462 satta-ucchedavādā om. E
3463 pañcadiṭṭhadhammanibbānavādā E
3464 dvāsaṭṭhidiṭṭhigatāni CFL; dadvāsaṭṭhidiṭṭhigatāni H
3465 sassa(ghi, b)tavādā E
3466 kaccasassatā E

amarāvācivikkhepikā³⁴⁶⁷ dve-adhiccāsammuppannikā³⁴⁶⁸ saññivādā³⁴⁶⁹ ca
soḷasa-asaññivādā³⁴⁷⁰ aṭṭheva³⁴⁷¹ nevasaññināsaññi³⁴⁷² ca³⁴⁷³ satta-ucchedavādā³⁴⁷⁴ ca
pañcadīṭṭhidhammanibbānavādā³⁴⁷⁵ ti.
te³⁴⁷⁶ tesam dīṭṭhikānam³⁴⁷⁷ pana³⁴⁷⁸ vacanatto³⁴⁷⁹.
attā ca loko³⁴⁸⁰ ca sassato ti vādā sassatavādā. sattesu³⁴⁸¹ vā³⁴⁸² saṃsāresu³⁴⁸³ vā ekaccaṃ³⁴⁸⁴
sassatan³⁴⁸⁵ ti pavattāro³⁴⁸⁶ ekaccasassatavādā. anto³⁴⁸⁸ ca³⁴⁸⁹ ananto³⁴⁹⁰ cā³⁴⁹¹ ti evaṃ³⁴⁹²
antānanti³⁴⁹³ ārabhha pavattā cattārovādā³⁴⁹⁴. antānantesu niyuttā antānantikā. na marati na³⁴⁹⁵
upacchijjati³⁴⁹⁶ ti³⁴⁹⁷ amarā. kā³⁴⁹⁸ sā³⁴⁹⁹. evam pi me no tathā pi me³⁵⁰⁰ no ti³⁵⁰¹ ādinā³⁵⁰² pavattā³⁵⁰³
dīṭṭhi ceva vācā³⁵⁰⁴ ca³⁵⁰⁵. tassā vikkhepo³⁵⁰⁶ amarāvikkhepo³⁵⁰⁷. so³⁵⁰⁸ etesan ti amarāvikkhepikā³⁵⁰⁹. atha
vā. amarā³⁵¹⁰ ma³⁵¹¹ macchajāti³⁵¹² duggahā³⁵¹³ hoti. tassā amarāya³⁵¹⁴ vikkhepo³⁵¹⁵ etesan ti

3467 amavāvācivikkhepikā C; amarāvāpivikkhepikā EL; amarāvācivikkhepikā FG; amavāvāpivikkhepikā H; [amarāvikkhepikā]
3468 dve-adhiccāsammuppannikā B; dve-adhiccāsammuppannikā E; dve-adhiccāsammuppannikā H; dve-adhiccāsammuppannikā L
3469 [saññivādā]
3470 soḷasa-asaññivādā A; soḷasa-asaññivādā CDEFGHL; [soḷasa-asaññivādā]
3471 aṭṭheva H
3472 nevasaññināsaññi D; nevasaññināsaññi EFGHL; [nevasaññināsaññivādā]
3473 pi ca E; pi HL
3474 (ghe, b) satta-ucchedavādā G
3475 [pañcadīṭṭhidhammanibbānavādā ABCDEFGHL]; pañcadīṭṭhi adhammikatadā micchādīṭṭhidhammaṃ nibbānavādinosisun E
3476 [te om. ACDEFGHL]
3477 dīṭṭhigatānam E; dīṭṭhikāna L
3478 pina E
3479 canattho H; vacattho L
3480 lobho L
3481 (ghai, a) sattesu F; sattesusu HL
3482 vā vā H; (ghā, a) vā L
3483 saṃkhāresu FG; sāresu L
3484 ekacca E
3485 (ghe, a) sassatan A; sa(ghe, a)ssatan D
3486 vattāro E; [pavattaro]
3487 ekaccaṃ sassatavādāA; ekaccasassa(ghe, a)tavādā. B; ekaccasassatavādā D; ekaccasassatam. E; ekaccasassatā. HL;
ekaccasassatavādā(ghe, a). Z
3488 (ghe, a) anto C
3489 pi E
3490 anto ca ananto L
3491 pā AE
3492 ete santi amanā vikkho evaṃ H
3493 [antānantam CDGHL]; antānantam E
3494 rovādā E
3495 na om. E
3496 upacchijja E; upacchijjati H; upacchijjati L
3497 ti om. E
3498 kā om. EHL
3499 sā om. EHL
3500 me ~ ti om. L
3501 me ~ ti om. L
3502 ādi E
3503 mavattā A
3504 vāha AE; rājā HL
3505 va E
3506 vikkhepā HL
3507 amarāvikkhepo om. EHL
3508 so om. EHL
3509 amarāvikkhepikkhā E
3510 aparāCD
3511 namaA; [nāma BCDEFGHL]
3512 paccajāti E; macchajāti F

amarāvikkhepikā³⁵¹⁶. **adhiccasamuppannikā**³⁵¹⁷ ti ettha adhiccayam³⁵¹⁸ kiñci kāraṇam anapekkhitvā samuppanno³⁵¹⁹ attā ca loko cā³⁵²⁰ ti vādehi³⁵²¹ niyuttā³⁵²² adhiccasamuppannikā³⁵²³. sañi³⁵²⁴ attā ti vādo³⁵²⁵ yesan³⁵²⁶ te **sañivādā**³⁵²⁷. evaṃ **asañivādā**³⁵²⁸ **nevasaññināsañivādā**³⁵²⁹ ti etthā³⁵³⁰ pi. kāyassa³⁵³¹ bhedaṃ satto³⁵³² upacchijjati³⁵³³ ti evaṃ³⁵³⁴ ucchedaṃ vadanti³⁵³⁵ ti **ucchedavādā**³⁵³⁶. diṭṭhidhammā³⁵³⁷ ti³⁵³⁸ paccakkho yathāsakaṃ³⁵³⁹ attabhāvo. tasmim³⁵⁴⁰ yeva³⁵⁴¹ yathākāmaṃ³⁵⁴² pañcakāmaguṇaparibhotena³⁵⁴³ nibbānaṃ³⁵⁴⁴ dukkhūpasamaṃ³⁵⁴⁵ vadanti³⁵⁴⁶ ti³⁵⁴⁷ **diṭṭhidhammanibbānavādā**³⁵⁴⁸ ti.

aṭṭhaṅgikamaggatālenā³⁵⁴⁹ ti ettha sammādiṭṭhi³⁵⁵⁰ sammāsankappo³⁵⁵¹ sammāvācā sammākammanto sammā-ājīvo³⁵⁵² sammāvāyāmo sammāsati sammāsamādhi³⁵⁵³ ti. aṭṭha-aṅgāni³⁵⁵⁴ avayavā aṭṭhaṅgaṃ³⁵⁵⁵. tad³⁵⁵⁶ assatthi ti aṭṭhaṅgiko³⁵⁵⁷. samudāyabhūto³⁵⁵⁸ maggo. maramattato³⁵⁵⁹ vā³⁵⁶⁰

3513 dugga EHL
3514 amarāya viya ABCDEFG; amarā viya L
3515 vi(gau, a)ya vikkhepo H
3516 aparāvikkhepikā CD; amarāvikkhepikā E
3517 adhiccasamuppannikā B; *adhiccasamuppannikā* H; adhiccasamuppannikā L
3518 [adhiccasamuppannikā E]; aecchayadiyam H; aecchayaniyam L
3519 sampanno E; samuppanno F; sumuppanno L
3520 pā A; ca E
3521 vādeti H; vādeti L
3522 (ghī, a) niyuttā E
3523 [adhiccasamuppannikā ABCDEFG]; *adhiccasamuppannikā* H; adhiccasamuppannikā L
3524 sañi AD; asañi E; (ghai, a) sañi G; sattāni L; [sañi]
3525 vā E; dose HL
3526 satte HL
3527 sañivā HL; [sañivādā]
3528 asañivādā E; asañi. pañcakāmavā H; asañivā L; [asañivādā]
3529 nevasaññināsañivādā A; neva-asaññināsañivādā E; nevasaññināsañivādā HL; [nevasaññināsañivādā]
3530 etā A
3531 kāyassā F
3532 sakkotto F
3533 upacchi(ghai, b)jjati F
3534 eva H
3535 vadanti H
3536 ucchedakāvādā E; udavādā H; u(ghā, b)davādā L
3537 diṭṭhadhammā ABCDFG; diṭṭhidhammo E
3538 (ghe, b) ti A
3539 yathāsa(ghe, b)kaṃ C; yathāsakka E; yathāsaka HL
3540 ta(ghe, b)smim B; tasmī H
3541 ye(ghe, b)va D
3542 yathākammaṃ E; yathā(ghe, b)kāmaṃ Z
3543 [pañcakāmaguṇaparibhogena ABCDEFGL]; pañcakāmaguṇaparibhogena H
3544 nibbāna E
3545 dakkhūpasamaṃ B; dukkhūpasamaṃ D; dukkhūpasamaṃ HL
3546 vadanti HL
3547 ti *om.* L
3548 diṭṭhadhammanibbānavādā BCDFGHL
3549 aṭṭhasamaggatālenā E; aṭṭhaṅgikamaggatālenā H
3550 sammādiṭṭhi *om.* L
3551 sammāsankappo E; sammāsāṅgappo H
3552 [sammā-ājīvo ACEHL]
3553 [sammāsamādhi ABDEFG]; *sammāsamādhi* H
3554 aṭṭha-aṅgāni ~ vuccati *om.* HL
3555 aṭṭhaṅgaṃ E
3556 datad E
3557 aṭṭhaṅgino B; aṭṭhaṅgitoko FG
3558 samudāyabhūto E
3559 [paramatthato ABCDEFG]

avayavāvinimuttassa³⁵⁶¹ samudāyassa³⁵⁶² abhāvo³⁵⁶³ aṭṭhaṅgāneva maggo ti vuccati³⁵⁶⁴ .
aṭṭhaṅgikamaggo³⁵⁶⁵ hi paramatthato³⁵⁶⁶ nibbānavāraṃ³⁵⁶⁷ vivaraṇakiccaṃ³⁵⁶⁸ sādheti³⁵⁶⁹
tālakuñcikaṃ³⁵⁷⁰ viya kavātadvāravivaraṇakiccaṃ tasmā **aṭṭhaṅgikatālenā**³⁵⁷¹ ti vuttaṃ. kiñcāpi³⁵⁷²
avisesato aṭṭhaṅgiko³⁵⁷³ maggo ti vuttaṃ, visesato panidha sotāpattimaggo³⁵⁷⁴ adhippeto³⁵⁷⁵. kasmā³⁵⁷⁶
ti³⁵⁷⁷ ce³⁵⁷⁸. dvāsaṭṭhīdīṭṭhigatānaṃ³⁵⁷⁹ sotāpattimaggena³⁵⁸⁰ pahātabbattā³⁵⁸¹ .

visālan³⁵⁸² ti vitthāraṃ.³⁵⁸³

ajarāmaran³⁵⁸⁴ ti ajaraṃ³⁵⁸⁵ ca amaraṃ ca³⁵⁸⁶. tatthāyaṃ³⁵⁸⁷ dapedayojanā³⁵⁸⁸ bhante ahaṃ
vivarissāmi³⁵⁸⁹ dvāsaṭṭhīdīṭṭhi-aggalaṃ³⁵⁹⁰ pi dahitvā micchādīṭṭhikavātena³⁵⁹¹ aṭṭhaṅgikamaggatālena³⁵⁹²
vivaritvā³⁵⁹³ ca pana dassessāmi³⁵⁹⁴ nibbānaṃ³⁵⁹⁵ nagaradvāraṃ³⁵⁹⁶ pāṇīnaṃ³⁵⁹⁷ nibbutaṃ³⁵⁹⁸
visālaṃ³⁵⁹⁹ ajarāmaran³⁶⁰⁰ ti³⁶⁰¹ .

rāgadosatamonaddhahatanettānaṃ jantūnaṃ

-
- 3560 vā *om.* ABCDEFG
3561 avayavāvinimuttassa F; [avayavavinimuttassa]
3562 samuddhāyassa E
3563 abhāvato E
3564 vuccanti E; aṭṭha-ṅgāni ~ vuccati *om.* HL
3565 aṭṭhaṅgikamatto H; aṭṭhaṅgikomaggo L
3566 paramattheto L
3567 nibbānaṃ dvāraṃ B; nibbānavāra E; nibbānaddhāraṃ H
3568 vivaraṇaṃ kiccaṃ L
3569 sādheti FG
3570 tālakuñcikaṃ E; tālakuñcika L
3571 aṭṭhaṅgikamattatālenā ACDFHL; aṭṭhaṅgika(ghī, b)pattatālenā E; aṭṭhaṅgikamatta(ghai, b)tālenā G
3572 kiñcāpi D
3573 aṭṭhaṅgiko D
3574 sotāpattimaggo EHL
3575 adhippeto H
3576 ka(gho, a)smā F
3577 ti *om.* C
3578 ce *om.* C
3579 dvāsaṭṭhīdīṭṭhigatānaṃ ABCDEGH; dvāsaṭṭhīdīṭṭhigatānaṃ F; dvāsaṭṭhīdīṭṭhigatānaṃ L
3580 sotāpattimaggena EHL
3581 mahātabbattā C; hāttabbatā E
3582 (ghai, a) visālan C; (gau, b) visālan H
3583 vitthāraṃ(ghai, a). A; (ghai, a)vitthāraṃ. B; viraṃ D; [vitthāraṃ E]
3584 ajarāmaran L
3585 aja(ghai, a)raṃ D; ajjaraṃ EL; (ghai, a) ajaraṃ Z
3586 ca ajarāmaran E; ci L
3587 tatthayaṃ CHL
3588 [padayojanā ABCDFGHL]; padayojanā E
3589 viharissāmi E; (ghi, a) vivarissāmi L
3590 dvāsaṭṭhīdīṭṭhi-aggala E; dvāsaṭṭhīdīṭṭhi-aggalaṃ F; [dvāsaṭṭhīdīṭṭhi-aggalaṃ HL]
3591 micchādīṭṭhikavātena H; [micchādīṭṭhikavātena]
3592 aṭṭhaṅgikamaggatālena C; aṭṭhaṅgikapaggatālena D; aṭṭhaṅgikamaggatālena E
3593 viritvā F
3594 dassessāmi D; dassessāmi HL
3595 [nibbāna ACDEFGHL]
3596 nagaraṃ dvāraṃ L
3597 pāṇīni D; pāṇīnaṃ EFHL
3598 kībhūtaṃ E; kibhūtaṃ H; nibhūtaṃ L
3599 vilālaṃ E
3600 ajarāmaran E
3601 ti. vādo. E

paññāsallākaṃ datvāna **nayanam** sodhayiss' āhaṃ.

rāgadosatamonaddhahaganettāna³⁶⁰² ti rāgadosatamonaddhahataññānaṃ³⁶⁰³.

nayanam³⁶⁰⁴ ti cakkhum³⁶⁰⁵. ñāṇam ti attho³⁶⁰⁶.

sokāturaṃ sudukkhitaṃ jarāmarañapīlitaṃ
ñāṇosadhavaraṃ datvā tikicchissāmi pañīnaṃ.
mohandhakārasamulhe sadevāsuraṃ mānusa
ñāṇālokaṃ pharivāna nīharissāmi taṃ tamaṃ.
apāyesu ca patante atāṇe aparāyane
apāyā uddharitvāna dassessāmi **parāyana** **ti**.

apāyesu ca patante³⁶⁰⁷. la³⁶⁰⁸. dassossāmi³⁶⁰⁹ parāyana³⁶¹⁰ ti ettha siyā paṭighaṃ³⁶¹¹. pa³⁶¹². na
honti³⁶¹³ mama³⁶¹⁴ santike ti³⁶¹⁵ hetthā vuttattā³⁶¹⁶ punaruggadoso³⁶¹⁷ āpajjati³⁶¹⁸ ti. yathā³⁶¹⁹ sace³⁶²⁰
pi³⁶²¹ nadati siho³⁶²² na bhāyāmi³⁶²³ vane³⁶²⁴ va saṃsiṅgālasaddhaṃ³⁶²⁵ sutvāna bhāyāmi³⁶²⁶
sabbadāvane³⁶²⁷ ti lahukammaṃ³⁶²⁸ sandhāya³⁶²⁹ vuttattā³⁶³⁰ tasmim³⁶³¹ hi samaye³⁶³² tesam pāpaṃ

³⁶⁰² [rāgadosatamonaddhahatanettāna ABCDFG]; rāgadosatamonaddhahattanettāna E; vātdosagamonaddhahatanettāna H;
rāgedosatamonandhahandhatanettāna L
³⁶⁰³ rāgadosatamonaddhahataññā E; rāgadosatamonaddhahataññānaṃ H; rāgadosatamonandhahataññānaṃ L
³⁶⁰⁴ nayanta AD; dayana E; naya L
³⁶⁰⁵ cakkhu E
³⁶⁰⁶ bhattho H
³⁶⁰⁷ pattantaṃ EL; pattante H
³⁶⁰⁸ pa E
³⁶⁰⁹ dassessāmi ABCDEFGHL
³⁶¹⁰ parāya E; rāyana H
³⁶¹¹ paṭiyaṃ L
³⁶¹² [pe]
³⁶¹³ yonti L
³⁶¹⁴ pama H
³⁶¹⁵ tī F
³⁶¹⁶ vuttana H
³⁶¹⁷ punaruttadoso ABDEFGHL; ruttaposo CD
³⁶¹⁸ āvajjati E
³⁶¹⁹ (gho, a) yathā G
³⁶²⁰ sa L
³⁶²¹ pi om. HL
³⁶²² siṃho E; [siho FG]
³⁶²³ bhāyāpi EL
³⁶²⁴ nara HL
³⁶²⁵ saṃsiṅgālasaddha A; saṃsiṅgālasaddha B; [saṃsiṅgālasaddha CFG]; saṃsiṅgālasaddha D; saṃsiṅgālasaddha H; sati
siṅgālasaddha L
³⁶²⁶ bhāyāma EH
³⁶²⁷ sabbadāvasena C
³⁶²⁸ (ghu, a)na lahukammaṃ E
³⁶²⁹ sandāya EH
³⁶³⁰ vaṇattattā E
³⁶³¹ tasmi H
³⁶³² sammayesa E

byāntibhavissati³⁶³³.

tattha³⁶³⁴ *apāyesū*³⁶³⁵ ti niraya-asurakāyapetavisayatiracchānā³⁶³⁶ ti catūsu³⁶³⁷ apāyesu³⁶³⁸.
*parāyanan*³⁶³⁹ ti³⁶⁴⁰ saggalokaṃ nibbānaṃ vā.

26

evaṇ ca pana vatvā bodhisatto “yathā ’haṃ, bhante, vadāmi tathā manussānaṃ kathetā”
ti *sāsanaṃ* datvā *dasanakkhasamodhānasamujjalakarapūṭamakūlo*
sudhotakanakaphalakasadisanaḷāntarasupatiṭṭhāpitāsamujjalitañjalikarapūṭo
manoramaṃ indanīlamanimayaṃ Cūḷāmanicetiyaṃ padakkhiṇaṃ katvā *aṭṭhadisāsu*
vanditvā pañcaṅgapatitṭhitena vanditvā therāṃ āpucchitvā koṭisatasahassasamkhāya
surayuvati-suraputtaparisāya parivutto tārāgaṇaparivārito
bahalajaladharapaṭalavirahitakkhaggatalasamudito paripuṇṇacandamaṇḍalo viya
virocamaṇo Tusitapuram eva gato.

*evaṇ*³⁶⁴¹ *ca panā* ti nipātasamudāyo³⁶⁴². iminā nāyena³⁶⁴³ ti atthe³⁶⁴⁴ pavattati³⁶⁴⁵.

sāsanan ti attano vacanaṃ.

*dasanakhasamodhānasamujjalakaramakulo*³⁶⁴⁶ ti ettha dasanaṃ nakhānaṃ samodhānaṃ³⁶⁴⁷
sampiṇḍanaṃ³⁶⁴⁸ *dasanakhasamodhānaṃ*³⁶⁴⁹. *dasanakhasamodhānena*³⁶⁵⁰ *samujjalaṃ*³⁶⁵¹
*dasanakhasamodhānasamujjalaṃ*³⁶⁵². *tena karamakulaṃ*³⁶⁵³ *etassā* ti
*dasanakhasamodhānasamujjalakaramakulo*³⁶⁵⁴. atha vā. karo ti hattho³⁶⁵⁵. karoti³⁶⁵⁶ etenā ti karoti viggaho.

³⁶³³ byāntibhavissati E; [vyantibhavissati]

³⁶³⁴ (gho, b) tattha F

³⁶³⁵ apāyesu CEHL

³⁶³⁶ niraya-asurakāyapetavisaya(ghai, b)tiracchānā C; niraya-asurakāyapetavisayatiracchā(ghai, b)nā D;
niraya-asurakāyapetavisayatiracchānā E; niraya-asurakāyapetavisayatiracchā L

³⁶³⁷ (ghai, b) catūsu B; catusu H

³⁶³⁸ a(ghai, b)pāyesu A

³⁶³⁹ parāyana E; (ghai, b) parāyanan Z

³⁶⁴⁰ ti om. E

³⁶⁴¹ evaṃ HL

³⁶⁴² pātasamudāyo E; nipātasamudāyo H; nipā(ghi, b)tāsamudāyo L; [nipātasamudāyo]

³⁶⁴³ dānāyena E

³⁶⁴⁴ atthe E

³⁶⁴⁵ pavatti E

³⁶⁴⁶ dasanaṃ. *dasanakhasamodhānasamujjalakaramakulo* A; *dasanakhasamodānasamujjalakaramakulo* EH;

dasanakhasamodhānasamujjalakaramakulo G; *dasanakhasamodhānasamujjalakaramakulo* L

³⁶⁴⁷ samodhānaṃ E; (gam, a) samodhānaṃ H

³⁶⁴⁸ sampiṇḍanaṃ E; samīṇḍanaṃ HL

³⁶⁴⁹ *dasanakhasamodhānaṃ* C; *dasanakhasamodhānaṃ* om. E; *dasanaṃ khasamodhā* H; *dasanakhasamodhā* L

³⁶⁵⁰ *dasanakhasamodhānena* A; *nasanausamodhānena* H; *dasanakhasamodānena* L

³⁶⁵¹ *samujjala* EH

³⁶⁵² *dasanakhasamodhānasamujjalaṃ* om. E

³⁶⁵³ [karamakulaṃ ABDFGHL]; karamakulaṃ C; kamaṃ makulaṃ E

³⁶⁵⁴ *dasanakhasamodhānasamujjalakaramakulo* L

³⁶⁵⁵ hatthā E; attho HL

³⁶⁵⁶ karo HL

evaṃ sati hi karo ca so makulo cā³⁶⁵⁷ ti karamakulo. dasanakhasamodhānasamujjalo³⁶⁵⁸ karamakulo
yassa soyaṃ³⁶⁵⁹ dasanakhasamodhānasamujjalakaramakulo³⁶⁶⁰.

theraṃ āpucchivā ti bhante mahāpuṇa³⁶⁶¹ gacchāmahan³⁶⁶² ti devatheraṃ³⁶⁶³ ādaraṃ³⁶⁶⁴
āpucchivā³⁶⁶⁵.

tena vuttaṃ:

evaṃ anomavaṇṇo so Metteyyo cetiyaṃ varaṃ
pūjetvā *puna vanditvā* piṭṭhito va paṭikkami.

*evan*³⁶⁶⁶ ti iminā kāraṇena.

*anomavaṇṇo*³⁶⁶⁷ ti anupamasariravaṇṇo³⁶⁶⁸. atha³⁶⁶⁹ vā³⁶⁷⁰. *vaṇṇasaddho*³⁶⁷¹ guṇavācako³⁶⁷² pi
attheva³⁶⁷³. anomaḡuṇo ti attho³⁶⁷⁴.

puna vanditvā ti dutiyam pi vanditvā³⁶⁷⁵. atha vā. *aṭṭhadisāsu vanditvā*³⁶⁷⁶
*pañcāṅgapatiṭṭhitena*³⁶⁷⁷ *vanditvā*³⁶⁷⁸ ti hetṭhā vuttatā punappanaṃ³⁶⁷⁹ vanditvā³⁶⁸⁰ ti pi³⁶⁸¹ attho
veditabbo³⁶⁸².

sabbā devaccharā pi ca pūjetvā cetiyaṃ varaṃ
aṭṭhadisāsu vanditvā piṭṭhito ca paṭikkamuṃ.
punṇamāyaṃ yathā cando sarade va virocati

³⁶⁵⁷ pā A
³⁶⁵⁸ dasanakhasamodhānasamujjalo HL
³⁶⁵⁹ (gho, b) soyaṃ G; so HL
³⁶⁶⁰ dasanakhasamodhānasamujjalakaramakulo C; dasanakhasamodhānasamujjalakaramakulo D;
dasanakhasamodhānasamujjalakaramakulo H; dassanakhasamodhānasamujjalakaramakulo L
³⁶⁶¹ [mahāpuṇāṃ]
³⁶⁶² gacchāma mayan E; gacchāmāhan HL
³⁶⁶³ devathe(gho, a)raṃ A; deva(gho, a)theraṃ BC; de(gho, a)vatheraṃ D; duvettheraṃ E
³⁶⁶⁴ ādara E
³⁶⁶⁵ pucchivā EH; āpucchi(ghau, a)tvā F
³⁶⁶⁶ (gho, a) evan Z
³⁶⁶⁷ anopavaṇṇo DL
³⁶⁶⁸ ānūpamasariravaṇṇo E
³⁶⁶⁹ atha om. HL
³⁶⁷⁰ vā om. HL
³⁶⁷¹ [vaṇṇasaddo ABCDFG]; (ghu, b) vaṇṇāsaddho E
³⁶⁷² guṇavācakkko E
³⁶⁷³ atthova HL
³⁶⁷⁴ rattho E
³⁶⁷⁵ vandhitvā F; (ghī, a) vanditvā L
³⁶⁷⁶ vandhitvā FL
³⁶⁷⁷ pañcāṅgapatiṭṭhitena D; pañcapatiṭṭhitena E
³⁶⁷⁸ vandhitvā HL
³⁶⁷⁹ punappanaṃ B; punnapunnaṃ E; punappunnaṃ L
³⁶⁸⁰ vandhitvā L
³⁶⁸¹ pi om. EL
³⁶⁸² veditabbo om. HL

tathā ariyaMetteyyo devamajjhe virocati.

*puṇṇamāyaṃ*³⁶⁸³ *yathā cando*³⁶⁸⁴ ti ettha³⁶⁸⁵ suriyo³⁶⁸⁶ kālapakkhūposathe³⁶⁸⁷ candena³⁶⁸⁸
saheva³⁶⁸⁹ gantvā tato paraṃ pātipadadivase³⁶⁹⁰ yojanānaṃ³⁶⁹¹ sataṣahassaṃ³⁶⁹² caṇḍamaṇḍalaṃ³⁶⁹³
ohāya gacchati attano siṃghagāmitāya³⁶⁹⁴. atha candalekhā³⁶⁹⁵ va³⁶⁹⁶ paññāyati³⁶⁹⁷ tato paraṃ pi
pakkhassa³⁶⁹⁸ dutiyāya³⁶⁹⁹ yojanānaṃ³⁷⁰⁰ sataṣahassaṃ³⁷⁰¹ candamaṇḍalaṃ³⁷⁰² ohāya gacchati³⁷⁰³ evaṃ
divase³⁷⁰⁴ divase³⁷⁰⁵ yāvā³⁷⁰⁶ sukkuposathadivaso³⁷⁰⁷ sataṣahassaṃ³⁷⁰⁸ sataṣahassaṃ³⁷⁰⁹ ohāya gacchati
atha³⁷¹⁰ cando³⁷¹¹ anukkamena³⁷¹² vadhitvā³⁷¹³ uposathadivase³⁷¹⁴ paripuṇṇo hoti³⁷¹⁵ ti³⁷¹⁶. vuttaṃ³⁷¹⁷
*puṇṇamāyaṃ*³⁷¹⁸ *yathā*³⁷¹⁹ *cando*³⁷²⁰ ti.
*sarade*³⁷²¹ ti saradakālasamāyoge³⁷²².

migamajjhe yathā sīho gavamajjhe yath' *usabho*
pakkhimajjhe yathā *garuddho* devamajjhe tathā ayaṃ.

³⁶⁸³ puṇṇamiyaṃ HL
³⁶⁸⁴ candho EFL
³⁶⁸⁵ eta E
³⁶⁸⁶ sūriyo AD
³⁶⁸⁷ [kālapakkhūposathe A]; kālacakkhūposathe D; kālacakkhuposathe E; kālapakkhuposathe FG; kālacakkhucosathe H;
kālacakkhuthosathe L
³⁶⁸⁸ candhena L
³⁶⁸⁹ samova L
³⁶⁹⁰ pātimadadivase H
³⁶⁹¹ yojanāna H
³⁶⁹² sataṣahassa H
³⁶⁹³ [candamaṇḍalaṃ ACG]; candamaṇḍala H; candhamaṇḍalaṃ L
³⁶⁹⁴ siṃghagāmitāya E; si(gaṃ, b)ghagāmitāya H; siṃghagāmitāya L; [siṃghagāmitāya]
³⁶⁹⁵ candolekhi E; candhalekhā L; [cando lekhā]
³⁶⁹⁶ [viya E]; vama H
³⁶⁹⁷ [paññāyati]
³⁶⁹⁸ pakkassa E
³⁶⁹⁹ dutiya HL
³⁷⁰⁰ yojjanānaṃ E
³⁷⁰¹ sataṣahassaṃ H
³⁷⁰² caṇḍamaṇḍalaṃ E; candamaṇḍalaṃ F
³⁷⁰³ (ghau, a) gacchati G
³⁷⁰⁴ dise E
³⁷⁰⁵ divase om. CD; davase H
³⁷⁰⁶ yāvā E
³⁷⁰⁷ [sukkuposathadivasā ACD]; sukhaposathadivasā E; sukkuposathadivasā FG; sukkuthosathadivasā HL
³⁷⁰⁸ sataṣahassa CH
³⁷⁰⁹ sataṣahassaṃ om. AE; sataṣahassa H
³⁷¹⁰ a(gho, b)tha B; (gho, b) atha C; atha om. E
³⁷¹¹ cando om. E; candho L
³⁷¹² a(gho, b)nukkamena A; (gho, b) anukkamena D; anukkamena L
³⁷¹³ [vadhitvā]
³⁷¹⁴ (gho, b)uposathadivase Z
³⁷¹⁵ hoti A
³⁷¹⁶ ti om. A
³⁷¹⁷ tena vuttaṃ FG; vutta HL
³⁷¹⁸ puṇṇamālamyaṃ
³⁷¹⁹ yaṃndhothā L
³⁷²⁰ candho EF; pandho L
³⁷²¹ sarede E; (ghau, b) sarade F
³⁷²² saradakālasamayaṃ. la. E; sarakālasamāyote H; sarakālasamāyoge L

siho³⁷²³ ti **sihā**³⁷²⁴ **catubbidhā**³⁷²⁵ **hontī**³⁷²⁶ **tiṇasiho**³⁷²⁷ **kālasīho**³⁷²⁸ **paṇḍasiho**³⁷²⁹ **kesarasiho**³⁷³⁰
tī³⁷³¹ . **tesu**³⁷³² **hi**³⁷³³ **tiṇasiho**³⁷³⁴ **kapotavaṇṇatāvisadiso**³⁷³⁵ **tiṇabhakkho**³⁷³⁶ **hoti. kālasīho**³⁷³⁷
kālagāvisadiso³⁷³⁸ **tiṇabhakkho**³⁷³⁹ **yeva. paṇḍasiho**³⁷⁴⁰ **paṇḍapalāsavaṇṇatāvisadiso**³⁷⁴¹
mamsabhakkho³⁷⁴² . **kesarasiho**³⁷⁴³ **pana lākhārasaparikkammakatteneva**³⁷⁴⁴ **mukhena**³⁷⁴⁵
agganaṅguṭṭhena³⁷⁴⁶ **catūhi**³⁷⁴⁷ **ca pādapariyantehi**³⁷⁴⁸ **samantāgato**³⁷⁴⁹ . **matthakāto**³⁷⁵⁰ **pissa**³⁷⁵¹ **paṭṭhāya**
lākhātulikāya³⁷⁵² **katā viya tisso rājiyo**³⁷⁵³ **piṭṭhimajjhena gantvā**³⁷⁵⁴ **antarasatthimhi**³⁷⁵⁵ **dakkhiṇāvata**³⁷⁵⁶
hutvā ṭṭhitā³⁷⁵⁷ . **khandhe**³⁷⁵⁸ **panassa satahassagghanikarattakambalaparikkhepo**³⁷⁵⁹ **viya**³⁷⁶⁰
kesarabhāro³⁷⁶¹ **hoti. avisesatṭhānaṃ**³⁷⁶² **parisuddhasālipiṭṭhasaṃkhacunṇapīṇḍavaṇṇa**³⁷⁶³ **hoti. so attano**

³⁷²³ [siho FG]

³⁷²⁴ [sihā FHL]

³⁷²⁵ catubbidhā F; chabbidhā HL

³⁷²⁶ hontī E

³⁷²⁷ tiṇasiho E; tiṇasiṃho F; [tiṇasiho G]

³⁷²⁸ kālasīho E; kālasīho FG

³⁷²⁹ maṇḍasiho BL; paṇḍasiho FG; [paṇḍusiho]

³⁷³⁰ kesarasiho FG

³⁷³¹ ti *om.* HL

³⁷³² (ghū, a)su E

³⁷³³ hi *om.* HL

³⁷³⁴ [tiṇasiho FG]

³⁷³⁵ kapotavaṇṇagāvisadiso ABFG; kapotavaṇṇatāvisadisoso C; kapotavaṇṇavisadiso D; kapotatāvisadiso E; cotakavaṇṇatāvisadiso H; (gh, b) dotakavaṇṇatāvisadiso L; [kapotavaṇṇagāvisadiso]

³⁷³⁶ tiṇabhakkho va E

³⁷³⁷ kāḷasiho A; kālasīho E; [kālasīho FG]

³⁷³⁸ kālagāvisadiso ABDEFH; [kālagāvisadiso GL]

³⁷³⁹ tiṇabhakkho E

³⁷⁴⁰ paṇḍasiho FG; maṇḍasiho L; [paṇḍusiho]

³⁷⁴¹ paṇḍapalāsavaṇṇagāvisadiso ABCDF; paṇḍapalāvavaṇṇagāvisadiso E; paṇḍapalāsavaṇṇagāvisadiso G; maṇḍapalāsavaṇṇagāvisadiso L; [paṇḍapalāsavaṇṇagāvisadiso]

³⁷⁴² masabhakkho E

³⁷⁴³ [kesarasiho FG]

³⁷⁴⁴ lākhārasaparikkammakatteneva E; lākhārasaparikkammakatteneva F; lākhārasaparikkammakatteneva H; sākhārasaparikkammakatteneva L

³⁷⁴⁵ muvekkena E

³⁷⁴⁶ agganaṅguṭṭhena E

³⁷⁴⁷ catūhi FH

³⁷⁴⁸ pādapariyanteha B

³⁷⁴⁹ [samantāgato ABCFGHL]; samantāgato E

³⁷⁵⁰ [matthakato ABCDFG]; matthakato E; mukhato HL

³⁷⁵¹ pissa HL

³⁷⁵² lākhātuliya E; [lākhātulikāya]

³⁷⁵³ rājiyo E

³⁷⁵⁴ (ghau, b) gantvā G

³⁷⁵⁵ antarasatthimhi F

³⁷⁵⁶ [dakkhiṇāvattā ACDFG]; dakkhiṇāvattā B; dakkhiṇāvattā H; dakkhiṇāvattāṃ L

³⁷⁵⁷ thitā E; [ṭṭhitā]

³⁷⁵⁸ khande DE; khanta H; khantaṃ L

³⁷⁵⁹ satahassagghanikarattakamma(ghau, a)aparikkhepo A; satahassagghanikambalaparikkhe(ghau, a)po C;

satahassagghanikarattakammalaparikkhepo D; satahassagghanikarattakambalavikkhepo E;

satahassagghanikarattakambalaparilo H; satahassagghanikarattakambalam parilo L

³⁷⁶⁰ vi(ghau, a)ya B

³⁷⁶¹ kesarabhāvo CDF; kesarasihabhāvo EHL

³⁷⁶² [avasesatṭhānaṃ BCEFGL]; (ghau, a) avasesatṭhānaṃ D; (gh, a) avasesatṭhānaṃ H

³⁷⁶³ parisuddhasālipiṭṭhasaṃkhacunṇapīṇḍavaṇṇaṃ AFG; parisaddhasālipiṭṭhasaṃkhaṇṇapīṇḍavaṇṇaṃ B;

parisuddhasālipiṭṭhasaṃkhaṇṇapīṇḍavaṇṇaṃ CH; parisuddhasālipiṭṭhasaṃkhaṇṇapīṇḍavaṇṇaṃ D;

parisuddhasālipiṭṭhasaṃkhaṇṇapīṇḍavaṇṇaṃ E; parisuddhasālipiṭṭhasaṃkhaṇṇapīṇḍavaṇṇaṃ L; pari(ghau,

a)suddhasālipiṭṭhasaṃkhaṇṇapīṇḍavaṇṇaṃ Z; [parisuddham sālipiṭṭhasaṃkhaṇṇapīṇḍavaṇṇaṃ]

vasanattḥānato³⁷⁶⁴ suvaṇṇagūhato³⁷⁶⁵ vā rajaṭamaṇiphalakamanosilāgūhato³⁷⁶⁶ vā nikkhamitvā³⁷⁶⁷
 suvaṇṇarajaṭamaṇiphalikamanosilānaṃ³⁷⁶⁸ vā añatarasmim³⁷⁶⁹ dvepacchimapāde samaṃ³⁷⁷⁰ thapetvā³⁷⁷¹
 purimāpāde purato³⁷⁷² pasāretvā³⁷⁷³ sarirassa³⁷⁷⁴ pacchābhāgaṃ ākaḍḍhitvā³⁷⁷⁵ purimabhāgaṃ
 abhisamaṇharitvā³⁷⁷⁶ piṭṭhim³⁷⁷⁷ onāmetvā³⁷⁷⁸ tivam³⁷⁷⁹ ukkhipitvā asunisaddham³⁷⁸⁰ karonto viya³⁷⁸¹
 nāsapuṭāni³⁷⁸² sochetvā³⁷⁸³ sariralattaṃ³⁷⁸⁴ rajaṃ³⁷⁸⁵ vidhunanto³⁷⁸⁶ vijambhati³⁷⁸⁷ .
 vijambhanabhūmiyaṃ³⁷⁸⁸ ca³⁷⁸⁹ pana garuṇavacchakā³⁷⁹⁰ viya aparāparam³⁷⁹¹ javati³⁷⁹² . javato³⁷⁹³
 panassa sariraṃ³⁷⁹⁴ andhakāre³⁷⁹⁵ paribbhamantaṃ³⁷⁹⁶ alātaṃ³⁷⁹⁷ viya khāyati. evaṃ³⁷⁹⁸ vijambhitvā³⁷⁹⁹
 tikkhattuṃ³⁸⁰⁰ sihanādaṃ³⁸⁰¹ nadati. so nadasaddo³⁸⁰² samantā tiyojanappadesaṃ³⁸⁰³ ekaninnādaṃ³⁸⁰⁴
 karoti, tam³⁸⁰⁵ assa ninnādaṃ³⁸⁰⁶ sutvā tiyojanabbhantaragatā dvipadacatupadasattagaṇā³⁸⁰⁷ yathā³⁸⁰⁸
 tḥhāne³⁸⁰⁹ tḥhātuṃ³⁸¹⁰ assakkontā³⁸¹¹ , idāni³⁸¹² no³⁸¹³ āgantvā gaṇhissatī ti³⁸¹⁴ bhita³⁸¹⁵ maggaṃ³⁸¹⁶

³⁷⁶⁴ vasanattḥānato C; vassanattḥānato E

³⁷⁶⁵ suvaṇṇagūhato EFGHL

³⁷⁶⁶ rajaṭamaṇiphalikamanosilāgūhato ABCDG; rajaṭamaṇiphalikamanosilāgūhato EHL; rajaṭamaṇipha(ghaṃ, a)likamanosilāgūhato F; [rajaṭamaṇiphalikamanosilāgūhato]

³⁷⁶⁷ nikkhapitvā D

³⁷⁶⁸ suvaṇṇanāle vā rajaṭamaṇiphalimanosilānaṃ E; suvaṇṇaphalirajaṭamaṇiphalikamanosilānaṃ HL

³⁷⁶⁹ araṇasmim E; añatarasmi H; [aññatarasmim]

³⁷⁷⁰ sadamaṃ D; sama E

³⁷⁷¹ thāpetvā A; thametvā D; tḥhāpetvā EH; tḥhāpe(ghu, a)tvā L; [thāpetvā]

³⁷⁷² pūrato F

³⁷⁷³ pasāritvā E

³⁷⁷⁴ [sarirassa]

³⁷⁷⁵ [ākāḍḍhitvā]

³⁷⁷⁶ a(ghū, b)bhiharitvā E; abhiharitvā HL

³⁷⁷⁷ piṭṭhi L

³⁷⁷⁸ onāpetvā B; panāmetvā E; nāmetvā H

³⁷⁷⁹ givaṃ ABCDEFG; utisaṃ HL; [gīvaṃ]

³⁷⁸⁰ asunisaddaṃ ACDG; [asanisaddaṃ]

³⁷⁸¹ riya H

³⁷⁸² nāsapupphāni E; nāsapuṭāni HL; [nāsapuṭāni]

³⁷⁸³ sochetvā H

³⁷⁸⁴ sariralaggaṃ ABCEFG; sariralagga D; sariraggaṃ H; [sarira-laggaṃ]

³⁷⁸⁵ raja D

³⁷⁸⁶ vidunanto E

³⁷⁸⁷ vijambhati *om.* EHL

³⁷⁸⁸ vijambhanabhūmiyaṃ E; vijambhanabhūmiyaṃ HL

³⁷⁸⁹ ca *om.* E

³⁷⁹⁰ [taruṇavacchakā ABCDFGL]; taruṇavacchākā EH

³⁷⁹¹ aparayāti H; aparaṃ yāti L

³⁷⁹² javati *om.* HL

³⁷⁹³ jaṅgo HL

³⁷⁹⁴ sariraṃ *om.* HL; [sariraṃ]

³⁷⁹⁵ (ghaṃ, a) andhakāre G

³⁷⁹⁶ paribbhamanta A

³⁷⁹⁷ alāta D

³⁷⁹⁸ eva E

³⁷⁹⁹ vijambhitvā A; hijambhitvā E; jambhitvā HL

³⁸⁰⁰ tikkhattaṃ D; tikkhattuṃ E; tikkhattaṃ HL

³⁸⁰¹ [sihanādaṃ FG]; sihanāda H

³⁸⁰² nadasaddho BF; saddho EL; saddo H

³⁸⁰³ tiyejanampadesaṃ E; tiyojanapadesaṃ L

³⁸⁰⁴ ekānināda H; ekādinnaḍḍaṃ L

³⁸⁰⁵ gam L

³⁸⁰⁶ ninnānaṃ B; nināda H

³⁸⁰⁷ dvi(ghau, b)padacatupadasattagaṇā AC; dvipadacatupadasattagaṇā D

³⁸⁰⁸ ya(ghau, b) thā Z

³⁸⁰⁹ (ghau, b)tḥhāne B; tḥhāne *om.* C; thāne E; [tḥhāne]

olokenti³⁸¹⁷ , bilavāsino³⁸¹⁸ ahināṅkulagodhādayo³⁸¹⁹ bilam³⁸²⁰ pavisanti³⁸²¹ , udakavāsino³⁸²²
macchakacchapādayo³⁸²³ udakam³⁸²⁴ pavisanti³⁸²⁵ . vanavāsino³⁸²⁶ hatthi-assagoṇamigādayo³⁸²⁷
vanam³⁸²⁸ pavisanti³⁸²⁹ . ākāsam³⁸³⁰ pakkhino bhajanti³⁸³¹ . ye pi³⁸³² gāmanigamarājadhānīsu³⁸³³
dalhehi³⁸³⁴ dhammayarajjuhi³⁸³⁵ bandhā³⁸³⁶ hatthināgā³⁸³⁷ , te pi³⁸³⁸ tāni³⁸³⁹ bandhāni³⁸⁴⁰ chinditvā³⁸⁴¹
bhita³⁸⁴² muttakarīsam³⁸⁴³ cajjamānā³⁸⁴⁴ yena vā³⁸⁴⁵ tena³⁸⁴⁶ vā palāyanti³⁸⁴⁷ . evaṃ sihasa³⁸⁴⁸
mīgaraṇo³⁸⁴⁹ nādam sutvā bahū³⁸⁵⁰ bhāyanti. ke pana³⁸⁵¹ te abhitā³⁸⁵² ti. samasiho³⁸⁵³ hatthājāniyo³⁸⁵⁴
assājāniyo³⁸⁵⁵ usabhājāniyo³⁸⁵⁶ purisājāniyo³⁸⁵⁷ khīṇāsavo³⁸⁵⁸ ti. kasmā³⁸⁵⁹ pi³⁸⁶⁰ te na bhāyanti³⁸⁶¹ ti³⁸⁶² .

-
- 3810 tṭhāta H; [tṭhātum]
3811 assakkonto BCD; [asakkontā EFG]; assakonto HL
3812 dāni HL
3813 no *om.* E
3814 (ghau, b) ti D
3815 bhittā E; [bhītā FG]
3816 magga H
3817 oloketā E; okentā H; oloketto L
3818 tilavāsino A; bilavāsi L
3819 ahināṅkulagodhādayo CFG; ahinākulamkodhādayo E; ahinākulātothādayo H; ahinākulāgodhādayo L; [ahinākulagodhādayo]
3820 bila D
3821 pavavāsanti D; pavissanti EL; pavāsanti FG
3822 udakavāno HL
3823 maccha(gham, b)kacchapādayo F
3824 udaka DL
3825 pavāsanti AG; pavasanti D; pavissanti EHL
3826 navarāsino H; navāsino L
3827 hatthi-assagoṇamigādayo E; hatthi-assagoṇa(gh, b)migādayo H
3828 vana H
3829 pavasanti A; pavāsanti DG; pavissanti EHL
3830 ākāsa D
3831 bhajjanti EL
3832 (ghu, b) pi L
3833 gāmaniggamarājadhānisu E; gāmanigamarājadhānisu HL
3834 dadalhehi D; dalham pi E; dalhapa HL
3835 cammayarajjuhi BCG; cammayarajjuhi DEF; cammayarajjahi H; dhammayam rajjuhi L
3836 bahi bandhā ABCDFGHL; bandā E
3837 hatthinātā L
3838 pi *om.* HL
3839 kāni A
3840 bandhāni *om.* D
3841 dhinditvā D; cchindhitvā L
3842 bhivā CD; bhinditvā bhita E; [bhītā F]
3843 puttakarīsam C; puttakarīsam D; muttakarīsam E; muttakarīsam FG; muttakarīsam HL
3844 pajamānā E; [cajamānā FG]
3845 vā *om.* D
3846 tena *om.* D
3847 palāya(gh, a)nti E
3848 [sihasa FG]
3849 migaraṇo ACDFGHL; migaraṇo E
3850 bahū na EL; bahu F; bahu na H
3851 pane HL
3852 abhitā *om.* EHL; [abhītā F]; (gham, b) abhitā G
3853 [samasiho FG]
3854 hatthājāniyo HL
3855 assājāniyo *om.* E
3856 [usabhājāniyo FG]
3857 purisājāniyo H; rusājāniyo L
3858 [khīṇāsavo ADF]; khīṇāsavā H
3859 kasā L
3860 pa E
3861 bhāyanti EHL
3862 ti *om.* EHL

samasīho³⁸⁶³ tāva jātigottakulasurabhāvehi³⁸⁶⁴ sampannosmī³⁸⁶⁵ ti na bhāyati. hatthājanīyādayo³⁸⁶⁶ attano³⁸⁶⁷ sakkāyadiṭṭhibalavattā³⁸⁶⁸ na bhāyanti³⁸⁶⁹. khīṇāsavo³⁸⁷⁰ sakkāya³⁸⁷¹ diṭṭhiyā³⁸⁷² pahinattā³⁸⁷³ na bhāyati. so pana vijambhanabhūmiyam³⁸⁷⁴ thatvā³⁸⁷⁵ dakkhiṇato vā³⁸⁷⁶ vāmato vā pacchimoto³⁸⁷⁷ vā ce uppatanto³⁸⁷⁸ usabhamattam³⁸⁷⁹ uppatati³⁸⁸⁰. uddham³⁸⁸¹ uppatanto cattāri pi³⁸⁸² atṭha pi usabhāni uppatati³⁸⁸³, samatṭhāne uppatanto³⁸⁸⁴ ujukaṃ³⁸⁸⁵ pakkhandanto³⁸⁸⁶ soḷasusabhamattam³⁸⁸⁷ pi vīsati³⁸⁸⁸ usabhamattam³⁸⁸⁹ pi³⁸⁹⁰ tṭhānam³⁸⁹¹ makkhandati³⁸⁹², phalā³⁸⁹³ vā³⁸⁹⁴ pabbatā³⁸⁹⁵ vā³⁸⁹⁶ pakkhandanto³⁸⁹⁷ satṭhi³⁸⁹⁸ usabhamattam pi asiti³⁸⁹⁹ usabhamattam³⁹⁰⁰ pi³⁹⁰¹ tṭhānam pakkhandati³⁹⁰². antarā magge³⁹⁰³ rukkham³⁹⁰⁴ vā pabbataṃ vā disvā taṃ pariharanto³⁹⁰⁵ vāmato³⁹⁰⁶ vā dakkhiṇato³⁹⁰⁷ vā uddham³⁹⁰⁸ usabhamattam apakkamati³⁹⁰⁹. so³⁹¹⁰ tatiyam³⁹¹¹ sihanādam³⁹¹² naditvā teneva saddhim³⁹¹³

³⁸⁶³ [samasīho FG]

³⁸⁶⁴ jātigottakulasurabhāvehi C; jātigottakulasurabhāvehi H; jātigottakulasurabhāvehi L; [jātigottakulasurabhāvehi]

³⁸⁶⁵ sampannosmim̐ BDF; sampannosmi E; sammānosmi H; sammānosmim̐ L

³⁸⁶⁶ hatthājanīyodayo AE; hatthā(ghaṃ, a)janīyādayo C; hatthājanīyādayo H; hatthājanīyā L

³⁸⁶⁷ dattano L

³⁸⁶⁸ sakkāya(ghaṃ, a)diṭṭhibalavattā AB; attasabhāvena E; sakāyadiṭṭhibalavattā FG; sabhāve HL; [sakkāyadiṭṭhibalavatāya]

³⁸⁶⁹ bhāsayanti D

³⁸⁷⁰ khīṇāsavo A; [khīṇāsavo FG]; (ghaṃ, a) khīṇāsavo Z

³⁸⁷¹ kkāya E; sakāya FG; sakkāya om. HL

³⁸⁷² kilesa H; kilosa L

³⁸⁷³ hitattā E; [pahīnattā]

³⁸⁷⁴ vijambhabhūmiyam E

³⁸⁷⁵ tha(ghaṃ, a)tvā D; tṭhatvā E; datvā L; [tṭhatvā]

³⁸⁷⁶ vā om. H

³⁸⁷⁷ pacchato E

³⁸⁷⁸ (ghaṃ, a) uppatanto F

³⁸⁷⁹ sabhamattam L

³⁸⁸⁰ upattati E

³⁸⁸¹ uddha H

³⁸⁸² pa H

³⁸⁸³ uppatiti HL

³⁸⁸⁴ uppatantā E; uppatanti H; uppatanti L

³⁸⁸⁵ ujjukaṃ E

³⁸⁸⁶ pakkhandanto D; pakkhandanto H; pakkhandanto L

³⁸⁸⁷ soḷasa-usabhamattam E; soḷasabhamattam HL

³⁸⁸⁸ vīsati DHL; vīsati om. E

³⁸⁸⁹ usabhamattam om. E; usabham H

³⁸⁹⁰ pi om. E

³⁸⁹¹ tṭhā D; nam̐ E; tṭhanam̐ H; (ghū, a)tṭhānam̐ L; [tṭhānam̐]

³⁸⁹² [pakkhandati ABCDFGH]; pakkhandati EL

³⁸⁹³ phanaṃ E; [thalā]

³⁸⁹⁴ vāri L

³⁸⁹⁵ pibbatā H

³⁸⁹⁶ rā HL

³⁸⁹⁷ pakkhandanto EL; pakkhandanto H

³⁸⁹⁸ satṭhi ABCEFG

³⁸⁹⁹ [asīti ACDFG]; asīti ~ pi om. E

³⁹⁰⁰ usabhamattam HL

³⁹⁰¹ asīti ~ pi om. E

³⁹⁰² pakkhandati EL

³⁹⁰³ matte H

³⁹⁰⁴ rūkkham̐ F

³⁹⁰⁵ parihanto H; parimānto L

³⁹⁰⁶ vāmato E

³⁹⁰⁷ (ghaṃ, a) dakkhiṇato G; nikkhiṇato H

³⁹⁰⁸ khandam̐ H; uddam̐ L

³⁹⁰⁹ acakkamati E

³⁹¹⁰ (gha, a) so H

³⁹¹¹ tatiya EH

³⁹¹² siṃhanādam̐ E; [siṃhanādam̐ FG]; siṃhanāda H

tiyojanatṭhāne pañāyati³⁹¹⁴ tiyojanam³⁹¹⁵ gantvā nivattitvā tṭhito³⁹¹⁶ attano mahānādassa³⁹¹⁷ anunādam
suṇāti. evaṃ surabhāvādīhi³⁹¹⁸ guṇehi³⁹¹⁹ tiṇṇam³⁹²⁰ pi sesasihāna³⁹²¹ kesarasiho³⁹²² setṭho³⁹²³ aggo³⁹²⁴.
idha pana *migamajjhe*³⁹²⁵ ti vuttattā kesarasiho³⁹²⁶ va adhippeto³⁹²⁷.

*usabho*³⁹²⁸ ti ettha usabhasaddo³⁹²⁹ setṭhavācako. goṇasetṭhabhūto³⁹³⁰ hi³⁹³¹ balibaddho³⁹³² ti
attho.

*garuddho*³⁹³³ ti supaṇṇarājā. so hi³⁹³⁴ diyadhoyojanasatiko³⁹³⁵ tassa dakkhiṇapakkho
pañāsayojaniko³⁹³⁶ hoti tathā vāmapakkho³⁹³⁷ piñchavaṭṭisatṭhiyojaniko³⁹³⁸ givāṭimsayojaniko³⁹³⁹
mukhaṃ navayojanikaṃ³⁹⁴⁰ pādādvādasayojanikā³⁹⁴¹. tasmim³⁹⁴² supaṇṇe³⁹⁴³ vātam kātuṃ³⁹⁴⁴ āradve³⁹⁴⁵
sattatṭhoyojanasatam³⁹⁴⁶ thānam³⁹⁴⁷ nappahoti.

vuttam hetam.

guruddho³⁹⁴⁸ yathā³⁹⁴⁹ upati³⁹⁵⁰ tam³⁹⁵¹ pannagam³⁹⁵² bhakkham³⁹⁵³ attano
samantāyojanasatam vikkhobheti mahāsaram³⁹⁵⁴

-
- ³⁹¹³ saddhi H
³⁹¹⁴ pañāyati EL; pañāyatim H; [paññāyati]
³⁹¹⁵ tiyojana H
³⁹¹⁶ tṭhito *om.* C; thito E; [tṭhito]
³⁹¹⁷ ma(ghē, b)hānadassa E
³⁹¹⁸ sarabhāvādīhi A; surabhāvādīhi EH; surabhāvādahi L; [sūrabhāvādīhi]
³⁹¹⁹ nehi L
³⁹²⁰ ttiṇṇam A; (ghaṃ, b) tiṇṇam C
³⁹²¹ sesasihānam ABCDEH; [sesasihānam FG]; sesahānam L
³⁹²² [kesarasiho FG]; kesarasiho H
³⁹²³ (ghaṃ, b) setṭho
³⁹²⁴ aggataṃ pato E
³⁹²⁵ miggamajjhe E
³⁹²⁶ kesarasiṃho E; [kesarasiho FG]; (ghaṃ, b)kesarasiho Z
³⁹²⁷ rādhippeto D; adhippeto H
³⁹²⁸ usabhā E
³⁹²⁹ usabhasa(ghaṃ, b)ddo D; usaddho E; usabhasaddho HL
³⁹³⁰ gaṇasetṭhabhūto E
³⁹³¹ hi *om.* HL
³⁹³² bandho E; bahibaddo H
³⁹³³ [gaḷuro]
³⁹³⁴ (ghaḥ, b) hi F
³⁹³⁵ yadayojanasatiko HL; [diyadhoyojanasatiko]
³⁹³⁶ [pañāsayojaniko]
³⁹³⁷ vāpamapakkho D
³⁹³⁸ piñchavaṭṭisatṭhiyojaniko ABC; piñchivaṭṭisatṭhiyojaniko D; micchavaṭṭisatṭhiyojaniko E; piñjavatṭisatṭhiyojanikā FG;
picchavaṭṭisatṭhiyojaniko H; macchavaṭṭisatṭhiyojaniko L
³⁹³⁹ givāṭimsayojanikā BCFGH; tivāṭisayojanikā L; [givāṭimsayojanikā]
³⁹⁴⁰ navaveyojanikaṃ E
³⁹⁴¹ pādādvādasayojanikā E; pādādvā(ghū, b)dasayojanikā L
³⁹⁴² tasmī H
³⁹⁴³ supaṇṇekā L
³⁹⁴⁴ kātu D
³⁹⁴⁵ [āraddhe ABCEFGHL]
³⁹⁴⁶ sattatṭhoyojanasatta E; sattatṭhoyojanasata FG
³⁹⁴⁷ tṭhānam E; [thānam]
³⁹⁴⁸ garuddho BCDEF; (ghaḥ, b) guruddho G; garuddhā H; [gaḷuro]
³⁹⁴⁹ yadā FG
³⁹⁵⁰ [opati EFGHL]
³⁹⁵¹ ta E
³⁹⁵² panna E; pannatam H
³⁹⁵³ bhatakkham D
³⁹⁵⁴ mahārasam HL

pannatam³⁹⁵⁵ so³⁹⁵⁶ gahetvāna³⁹⁵⁷ adhosisam³⁹⁵⁸ vihetṭhayam³⁹⁵⁹
tam ādāya pakkamati³⁹⁶⁰ yena kāmam³⁹⁶¹ vihaṅgamo³⁹⁶² ti³⁹⁶³.

nagamajjhe yathā Meru **sattaratanamaṇḍito**
naramajjhe cakkavatti devamajjhe tathā ayam.

nabhamajjhe³⁹⁶⁴ ti yugandaro³⁹⁶⁵ isindaro³⁹⁶⁶ kāraviko³⁹⁶⁷ sudassano nemindaro³⁹⁶⁸ vinatakho³⁹⁶⁹
assakaṇṇo ti sattanam³⁹⁷⁰ parivārapabbatānam³⁹⁷¹ majjhe³⁹⁷².

tenāhu porāṇā

caturāsītisahassāni³⁹⁷³ ajjhogālhoggatā³⁹⁷⁴ dibbā nānāratanaṇḍita³⁹⁷⁵
yugandharo³⁹⁷⁶ isindharo³⁹⁷⁷ karaviko³⁹⁷⁸ sudassano
nemindhuro³⁹⁷⁹ vinatakho³⁹⁸⁰ assakaṇṇo³⁹⁸¹ giri³⁹⁸² brahā
ete³⁹⁸³ sattamahāselā³⁹⁸⁴ sinnerussa³⁹⁸⁵ samanteto³⁹⁸⁶
mahārājānam³⁹⁸⁷ āvāsā³⁹⁸⁸ devayakkhanisevitā³⁹⁸⁹ ti.
sattaratanamaṇḍito³⁹⁹⁰ ti suvaṇṇādīhi³⁹⁹¹ sattaratanehi³⁹⁹² patimaṇḍito³⁹⁹³.

³⁹⁵⁵ [pannagam ABCFGH]; pannaga D; pannagato E; pannamgam L

³⁹⁵⁶ so *om.* E

³⁹⁵⁷ gahetvā H

³⁹⁵⁸ [adhosisam FG]

³⁹⁵⁹ ṭṭhayam E

³⁹⁶⁰ makkapati H; pakkapati L

³⁹⁶¹ vikāmam L

³⁹⁶² vihaṅgamo EHL

³⁹⁶³ (gha, b) ti H

³⁹⁶⁴ nagama(ghaḥ, a)jjhe A; [nagamajjhe BFGL]; na(ghaḥ, a)tamajjhe C; nakamajjhe D; natamajjhe E; natapajjhe H

³⁹⁶⁵ [yugandharo ABCFGL]; yugandhare E; yuggandharo H

³⁹⁶⁶ isindharo ACFHL; (ghaḥ, a) isindharo B; [isadharo]

³⁹⁶⁷ karaviko EFGHL; [karaviko]

³⁹⁶⁸ [nemindharo ABCDEFG]; ninamindharo L

³⁹⁶⁹ vinata(ghai, a)ko E; [vinatako FHL]; (ghaḥ, a)vinatako Z

³⁹⁷⁰ sattanam A; satta E

³⁹⁷¹ parivārapabbatānam E; parivārapabbatāna F

³⁹⁷² ma(ghaḥ, a)jjhe D

³⁹⁷³ tato upadhānapamāṇena yathākamman E; caturāsītisahassāni F; carurāsītisahassāni HL

³⁹⁷⁴ ajjhogālham gatā E

³⁹⁷⁵ nārattanavicittakā E; nāchāratanaṇḍita H; nānāratanaṇḍita L

³⁹⁷⁶ yuggandaro E; yuggandharo HL

³⁹⁷⁷ isindaro E; [isadharo]

³⁹⁷⁸ kāraviko HL; [karaviko]

³⁹⁷⁹ [nemindharo ABCDFHGL]; nemindaro E

³⁹⁸⁰ [vinatako EFH]; vinako L

³⁹⁸¹ assakaṇṇo L

³⁹⁸² giri E

³⁹⁸³ e(ṇa, a)te F

³⁹⁸⁴ sattamahāse L

³⁹⁸⁵ sinnerussa E

³⁹⁸⁶ [samantato ABCDFGHL]; samantagato E

³⁹⁸⁷ mahārājānim E

³⁹⁸⁸ ivāsā EL

³⁹⁸⁹ devayakkhanisevito AD

³⁹⁹⁰ sattaratanamaṇḍito E; sattaratanapaṭimaṇḍito G

³⁹⁹¹ suvaṇṇādīha A; suvaṇṇādīni C; suvaṇṇādīhi H

naramajjhe ti catumahādīpavāsīnaṃ³⁹⁹⁴ manussānaṃ vemajjhe.

*cakkavatti*³⁹⁹⁵ ti cakkaratānavanto³⁹⁹⁶ rājādhipatirājā³⁹⁹⁷.

tarumajjhe pāricchattako pupphamajjhe kokanado
maṇimajjhe veduriyo devamajjhe yathā ayaṃ.
pabbatagge yathā aggi suddhantakanakaṃ yathā
sabbe deve atikkamma vaṇṇatejena rocati.
Tusitabhavanaṃ *yanto* devehi parivārito
dibbasukhaṃ anubhutvā ciraṃ satte *pamodatī* ti.

*yanto*³⁹⁹⁸ ti gacchanto patto³⁹⁹⁹ vā.

*pamodatī*⁴⁰⁰⁰ ti attano⁴⁰⁰¹ katapuñākamma⁴⁰⁰² punappunaṃ⁴⁰⁰³ modatī⁴⁰⁰⁴.

yathā vuttena kālenā ti manussānaṃ⁴⁰⁰⁵ asītisahassāyukakāle⁴⁰⁰⁶ yeva sambodhiṃ⁴⁰⁰⁷ ti⁴⁰⁰⁸
padaseso⁴⁰⁰⁹.

27

tasmim̐ khaṇe yeva thero **paramapāṭimokkhasaṃvarasīlaṃ indriyasaṃvarasīlaṃ
sammā jīvapārisuddhasīlaṃ paccayasannissitasīlaṃ** cā ti *catupārisuddhasīlādi
aparimita-guṇagaṇābharaṇasamalāṅkato* indanīlamaṇimayaṃ Cūlāmaṇicetiyaṃ
vanditvā Sakkāṃ devarājanaṃ āpucchitvā *ativiyadāruṇarāgataṅhā-micchādīṭṭhādi
vividha-rukkhavanalatākīṇṇaputhuvanagumbālayajā* ti *jarāmarañādi
dukkhappabhavasamsāram addhānaṃ atikkanto*
paramasetṭṭhativijjāpāla-sīsacatutthajhānavicittapakkhavilāsitavirājitam

³⁹⁹² sattahi rattanehi E; sattara(ghe, a)tanehi L

³⁹⁹³ [paṭimaṇḍito G]; paṇḍito L

³⁹⁹⁴ catumahādīparāsīnaṃ A; catumahādīpavāsīnaṃ CEH; catumahādīpavāsīnaṃ L

³⁹⁹⁵ cakkavatti H

³⁹⁹⁶ cakkaratānavanto E

³⁹⁹⁷ rādhipatirājā A; rājādhipatirājā H

³⁹⁹⁸ yaṃnto D

³⁹⁹⁹ pato AD; panotto F

⁴⁰⁰⁰ pahedatī D; pamodatī H; pamotī L

⁴⁰⁰¹ attanā F; (ña, a) attanā G

⁴⁰⁰² katañapuñākamma D; kattapuñākamma E; [katapuñākamma]

⁴⁰⁰³ punappu E; punappanaṃ H

⁴⁰⁰⁴ modatī ti E

⁴⁰⁰⁵ manussā(ghaḥ, b)naṃ C

⁴⁰⁰⁶ asītisahassā(ghaḥ, b)yukakāle A; asītisahassāyukakāle E; asītisahassānaṃ asītisahassāyukakāle H; asītisahassānaṃ

asītisahassāyukakāle L

⁴⁰⁰⁷ [sambodhī ABCDFG]; sambodhi EL; sammodī H

⁴⁰⁰⁸ ti om. E

⁴⁰⁰⁹ padase(ghaḥ, b)so B; padaseso C

iddhipāda-varapāda-dvayasubhaggam

aṭṭha-vimokkhaṭṭhisambhidāñāṇa-lokiyalokuttarasaddhā-pāla-sakalalomāṅkata-deho
suvanṇaḥṣo viya sobhamāno tāvatimsabhavanato otarivā Jambūdīpaṃ āgantvā
anopamāya sāvakaṭṭhāṅkāya gāmanigamarājadhānīsu piṇḍāya pāvīsi.

*tasmim*⁴⁰¹⁰ *khāṇe yevā* ti tasmim⁴⁰¹¹ ariyametteyyassa⁴⁰¹² gatakhāṇe eva⁴⁰¹³ .
dasasaṃvaccharaṃ⁴⁰¹⁴ pamāṇakālo⁴⁰¹⁵ khaṇo nāmā⁴⁰¹⁶ ti hi vuttaṃ.

paramapāṭimokkhasaṃvara⁴⁰¹⁷ . pa.⁴⁰¹⁸ samalaṅkato⁴⁰¹⁹ ti ettha pāṭimokkhe⁴⁰²⁰ saṃvaro⁴⁰²¹
*pāṭimokkhasaṃvaro*⁴⁰²² so⁴⁰²³ yeva sīlaṃ⁴⁰²⁴ pāṭimokkhasaṃvarasīlaṃ⁴⁰²⁵ . taṃ sikkhāpadaṇāṭṭi⁴⁰²⁶
yānulomapaṭipattī⁴⁰²⁷ ti daṭṭhabbaṃ. cakkhundriyādisaṃvaro⁴⁰²⁸ *indriyasaṃvarasīlaṃ*⁴⁰²⁹ nāma.
vejjakammādikāya⁴⁰³⁰ anesānāya vā kumānālapānānēmittakātālābhena⁴⁰³¹ labhaṃ jigisatā⁴⁰³² ti
evarūpena⁴⁰³³ micchājivena⁴⁰³⁴ uppādite⁴⁰³⁵ pi cattāro macceye⁴⁰³⁶ vajjetvā⁴⁰³⁷ dhammena samena
uppāditehi⁴⁰³⁸ catūhi paccayehi⁴⁰³⁹ ājivo⁴⁰⁴⁰ so⁴⁰⁴¹ *sammā-ājivapārisuddhasīlaṃ*⁴⁰⁴² nāma. anesanaṃ⁴⁰⁴³
pahāya⁴⁰⁴⁴ micchājivaṃ⁴⁰⁴⁵ vajjetvā⁴⁰⁴⁶ dhammena samena⁴⁰⁴⁷ uppādite⁴⁰⁴⁸ paṭisaṃkhā⁴⁰⁴⁹ yoniso⁴⁰⁵⁰

⁴⁰¹⁰ tasmī H

⁴⁰¹¹ tasmim om. E; tasmī H; (ghaḥ, b)tasmim Z

⁴⁰¹² ariyametteyyassa E; arimetteyyassa HL

⁴⁰¹³ yeva E

⁴⁰¹⁴ dasacchara ACDEFGHL; [dasasaṃvacchara B]

⁴⁰¹⁵ pamā(ghaḥ, b)ṇakālo D; pamāṇo kālo E; mamāṇakālo L

⁴⁰¹⁶ nā L

⁴⁰¹⁷ (ghai, b) paramapāṭimokkhasaṃvaraṃ E; paramapāṭimo(ghā, a)kkhasaṃvaraṃ H

⁴⁰¹⁸ [pe.]

⁴⁰¹⁹ samalaṅkato C; samalakato H; samalaṅkato L

⁴⁰²⁰ pāṭimokkha A

⁴⁰²¹ savaro ti H

⁴⁰²² pāṭimokkhasavaro H

⁴⁰²³ pāṭimokkhasaṃvaro E

⁴⁰²⁴ sīlaṃ ABEL; sila H

⁴⁰²⁵ pāṭimokkhasavarasīlaṃ E; pāṭimokkhavarasīlaṃ HL

⁴⁰²⁶ sikkhāpadaṇāṭṭi E; sikkhāpadaṇāṭṭi H; sikkhāpadaṇāṭṭi L

⁴⁰²⁷ yānulomapaṭipattī ABCDFGL; yānulomapaṭipattī E; yānulomapaṭipattī H

⁴⁰²⁸ cakkhundriyādisaṃvaro ADGL; cakkhundriyādisaṃvaro B; cakkhundriyādisaṃvaro CE; cakkhundriyādisaṃvaro H

⁴⁰²⁹ indriyasaṃvarasīlaṃ B; inriyasaṃvarasīlaṃ CH; inriyasaṃvarasīlaṃ E; inri(ṇa, b)yamsaṃvarasīlaṃ F;

inriyasaṃvarasīlaṃ G; inriyaṃ saṃvarasīlaṃ L

⁴⁰³⁰ vekammādikāya E; vejjakammādikāya G; veṭṭakammādikāya H; vejjakammānikāya L

⁴⁰³¹ [kuhanālapānānēmittakātālābhena ACDG]; kuhanālapānānēmittakātālābhena E; kuhanālapānālapānānēmittakātālābhena F;

kuhanālapānānēmittakātālābhena HL

⁴⁰³² [jigimsatā ACFG]; jagimsatā D; jigissatā E; ṭigisatā H; jigisa(ghē, b)tā L

⁴⁰³³ evarūpena H

⁴⁰³⁴ [micchājivena DFG]

⁴⁰³⁵ uppādite E

⁴⁰³⁶ paccaye AB; [paccaye CDEFGHL]

⁴⁰³⁷ vajjetvā H

⁴⁰³⁸ uppāditehi E; uppāditehi HL

⁴⁰³⁹ paccaye D

⁴⁰⁴⁰ [ājivo FG]; ājivo H

⁴⁰⁴¹ so so HL

⁴⁰⁴² sammā-ājivapārisuddhasīlaṃ A; sammā-ājivapārisuddhasīlaṃ C; sammā-ājivapārisuddhasīlaṃ EL;

sammā-ājivapārisuddhasīlaṃ FG; sammā-ājivapārisuddhasīlaṃ H

⁴⁰⁴³ anesana E

⁴⁰⁴⁴ pahāya om. E; mahāya H

cīvaram⁴⁰⁵¹ paṭisevāmi⁴⁰⁵² ty ādi vuttanayena cattāro paccaye⁴⁰⁵³ paccavekkhitvā⁴⁰⁵⁴ paribhuñjati.
tasseva te paccaye sannissitam⁴⁰⁵⁵ sīlam⁴⁰⁵⁶ **paccayasannissitasīlam**⁴⁰⁵⁷ nāma⁴⁰⁵⁸.
api cetam vuttam⁴⁰⁵⁹.

navakoṭisahassāni⁴⁰⁶⁰ asītisatakoṭiyo⁴⁰⁶¹
pañāsasasahassāni⁴⁰⁶² chatimsā⁴⁰⁶³ ca punāpure⁴⁰⁶⁴
ete saṃvaravanayā⁴⁰⁶⁵ sambuddhena pakāsītā⁴⁰⁶⁶
peyyālamukhena⁴⁰⁶⁷ niddiṭṭhā⁴⁰⁶⁸ sikkhā vinayasamvare ti.

evam⁴⁰⁶⁹ gaṇanasena pariyaṅtam⁴⁰⁷⁰ pi upasampannasīlam⁴⁰⁷¹ anavasesena⁴⁰⁷²
samādānabhāvaṃ⁴⁰⁷³ lābhayaśāntiāṅgajivitavasena⁴⁰⁷⁴ adiṭṭhipariyaṅtabhāvaṃ⁴⁰⁷⁵ ca sandhāya⁴⁰⁷⁶
apariyaṅtapārisuddhī⁴⁰⁷⁷ ti veditabbo⁴⁰⁷⁸ . tassidaṃ⁴⁰⁷⁹ udāharaṇam⁴⁰⁸⁰ .
cīragumbavāsīambakhādakamahātissattherassa⁴⁰⁸¹ sīlam⁴⁰⁸² eva⁴⁰⁸³ . so hāyasmā
dhanam cajje⁴⁰⁸⁴ āṅavarassa hetu

-
- 4045 [micchājīvam G]
4046 vajetvā L
4047 (ña, a) samena C
4048 (ña, a) uppādite A; upādite E
4049 paṭisaṃkhā E
4050 (ña, a) yoniso B; (ña, b)yoniso G
4051 cīvaram AEHL
4052 paṭissevāmi E; paṭisevāmi FG
4053 paccaye om. E
4054 (ña, a)paccavekkhitvā Z
4055 sannissitam E; sannissita HL
4056 sīlam ACEFHL
4057 paccayasannissitasīlam C; (ña, a) paccayasannissitasīlam D; paccayasannissitasīlam E; paccayasannissitasīlam HL
4058 nāma. tasseva te paccaye sannissitam sīlam paccayasannissitasīlam nāma E
4059 vutta H
4060 narakoṭisahassādi H
4061 asītisattako(gho, a)ṭiyo E; asītisatakoṭiyo HL
4062 pañāsasasasahassāni ABCDEFGH; pañāsasasasahassāni H; [pañāsasasasahassāni]
4063 [chattimsā]
4064 [punāpure ABCDFGHL]; paranācare E
4065 [saṃvaravinayā ACDFGHL]; saṃsaṃvaravinayā B; saṃvaravinayo E
4066 pakkāsītā A
4067 peyyāpukhena HL
4068 niṭṭhā E; niddiṭṭhā FG; niddiṭṭhā HL
4069 eva HL
4070 ma(ghā, b)riyantip H; pariyaṅtip L
4071 upasampannasīlam CFG; upasampasīlam HL
4072 anavasesena AD; anevasesena HL
4073 samādānavāvaṃ E; samādhāna(ñā, a)bhāvaṃ F; samādhānabhāvaṃ G
4074 [lābhayaśāntiāṅgajivitavasena CG]; lābhayaśāntiāṅgajivitavasena E; ṇabhayaśāntiāṅgajivitavasena H
4075 [adiṭṭhipariyaṅtabhāvaṃ ABDEFGHL]
4076 sandhāya E
4077 acariyaṅtapārisuddhī A; appariyaṅtapārisuddhī C; appariyaṅtapārisuddhī E; ampariyaṅtapārisuddhī H; appariyaṅtapārisuddhī L
4078 veditabbā ACGH; vedi(ghai, a)tabbā L
4079 tassida H
4080 upāharaṇam CD
4081 cīragumbavāsīambakhādakamahātissattherassa ABC; cīragumbavāsīambakhādakamahātissattherassa DFG;
cīragumbavāsīambakhādakamahātissattherassa EL; ṭhīragumbavāsīambakhādakamahātissattherassa H;
[cīvaragumbavāsīambakhādakamahātissattherassa]
4082 sīlam E; lam HL
4083 [iva]
4084 cajjena E; [caje FG]; pajje L

āṅgaṃ⁴⁰⁸⁵ cājje⁴⁰⁸⁶ jīvitam⁴⁰⁸⁷ rakkhamāno⁴⁰⁸⁸
āṅgaṃ⁴⁰⁸⁹ dhanam⁴⁰⁹⁰ jīvitam⁴⁰⁹¹ vā pi sabbam⁴⁰⁹²
cājje⁴⁰⁹³ naro dhammam anussaranto ti
imam⁴⁰⁹⁴ sappurisānussatim⁴⁰⁹⁵ avijjahanto⁴⁰⁹⁶ jivitasamsaye⁴⁰⁹⁷ pi⁴⁰⁹⁸ sikkhāpadam⁴⁰⁹⁹ avitikkama⁴¹⁰⁰
tad⁴¹⁰¹ eva apariyantapārisuddhasīlam⁴¹⁰² nissāya upāsakassa⁴¹⁰³ piṭṭhi⁴¹⁰⁴ gato⁴¹⁰⁵ arahattam pāpuṇi.
thero kira dubbhikkhakāle maggam gacchanto bhattacchedena⁴¹⁰⁶ maggakilamatthena⁴¹⁰⁷ ca
kilantakāyo⁴¹⁰⁸ dubbalo añatarassa⁴¹⁰⁹ phalitassa ambassa mūle⁴¹¹⁰ nipajji⁴¹¹¹. bahūni⁴¹¹² ambaphalāni⁴¹¹³
gaham⁴¹¹⁴ gaham⁴¹¹⁵ patitāni honti. tattheho⁴¹¹⁶ vuḍḍhataro⁴¹¹⁷ upāsako therassa⁴¹¹⁸ santikam⁴¹¹⁹ gantvā
parissamam⁴¹²⁰ ñatvā ambapānam⁴¹²¹ pāyetvā attano⁴¹²² piṭṭhim⁴¹²³ āropetvā vasanaṭṭhānam⁴¹²⁴ neti.
thero
na pitā⁴¹²⁵ na mitto⁴¹²⁶ na mātā⁴¹²⁷ na ñāti na pi⁴¹²⁸ bandhavo⁴¹²⁹

-
- 4085 āṅga H
4086 [cāje FG]; pajje L
4087 [jīvitam FG]; tīvita H
4088 rakkhamānā AD
4089 āṅga EHL
4090 dha(ṅa, b)nam C
4091 jitam DE; [jīvitam FG]; jivita H
4092 sa(ṅa, b)bbam AB; sabba H
4093 [cāje FGH]
4094 (ṅa, b)jiam Z
4095 sappurisānussati EH
4096 hanto D; [avijjahanto HL]
4097 [jivitasamsaye AFG]; jivitam samsaye E; jivitasasaye H
4098 pi *om.* E
4099 sikkhāpada H
4100 avitikkamma ACDFG; avittikamma E; atikkama L; [avitikkamma]
4101 (ṅā, a) tad G
4102 apariyantapārisuddhasīlam A; apariyantapārisu(ṅa, b)ddhasīlam D; apariyantapārisuddhasīlam E; amariyantapārisudvasila H; amariyantapārisuddhasīlam L
4103 upāsakkassa E
4104 paṭṭhi AHL
4105 gamto L
4106 bhattacchedena E; bhattucchedena HL
4107 [maggakilamathena CEH]; maggam kilamathena L
4108 kilāntakāyo H; kilantakālo L
4109 [añātarassa]
4110 amūle A; mule HL
4111 nippaji E; nimpajji H; nippajji L
4112 bahuni H
4113 ambalāni E
4114 [tahaṃ ABCDFGHL]; ta(gho, b)ham E
4115 [tahaṃ ABCDFGHL]; tahaṃ *om.* E
4116 tattheva HL
4117 [vuḍḍhataro]
4118 tharassa H
4119 santika H
4120 rissamam A; pirissamam C; parisamam EHL; parissamma F
4121 [ambapānam F]; ambapāna H
4122 (ṅā, b) attano F
4123 piṭṭhi CD; paṭṭhi H; piṭṭim L
4124 vasanaṭṭhānam E
4125 pittā E
4126 mito HL
4127 bhātā E
4128 pā HL

karote tādisa⁴¹³⁰ kiccaṃ sīlavantassa⁴¹³¹ kāraṇā ti
attānaṃ ovaditvā sammasanaṃ⁴¹³² ārabhitvā⁴¹³³ vipassanaṃ vaḍhetvā⁴¹³⁴ tassa piṭṭhigato va
maggapaṭipāṭiyā⁴¹³⁵ arahattaṃ sacchākāsi⁴¹³⁶. yathāha⁴¹³⁷.

saṃvetama⁴¹³⁸ janayitvāna⁴¹³⁹ sammasitvāna⁴¹⁴⁰ yoniso⁴¹⁴¹
tassa⁴¹⁴² piṭṭhigato⁴¹⁴³ santo⁴¹⁴⁴ arahattaṃ pāpuṇi⁴¹⁴⁵ ti.
ayama⁴¹⁴⁶ eva saṃkhepo vitthāro pana visuddhimagge oloketabbo⁴¹⁴⁷.

catupārisuddhasīlādī⁴¹⁴⁸ ti ettha ādisaddena⁴¹⁴⁹ pana⁴¹⁵⁰ samādhikhandhādayo⁴¹⁵¹ saṅgaṇhāti⁴¹⁵².

paramasaddo⁴¹⁵³ pidha⁴¹⁵⁴ paccekaṃ⁴¹⁵⁵ yojetabbo⁴¹⁵⁶.

ativiyadāruṇarāgatanhāmicchādīṭṭhādī⁴¹⁵⁷ ti ettha pana ādisaddena⁴¹⁵⁸ dosamohādayo vutta⁴¹⁵⁹

yeva.

jarāmarāṇādī dukkhappabhavasamsāra⁴¹⁶⁰ **addhāna**⁴¹⁶¹ **atikkanto**⁴¹⁶² ti jarāmarāṇā⁴¹⁶³ cā⁴¹⁶⁴
ti jarāmarāṇaṃ⁴¹⁶⁵. taṃ ādī⁴¹⁶⁶ yesaṃ⁴¹⁶⁷ sokādīnaṃ⁴¹⁶⁸ te jarāmarāṇādayo⁴¹⁶⁹. taṃ jarāmarāṇādī eva⁴¹⁷⁰

4129 bandharo L

4130 tādisa L

4131 silavantassa AH; silassa E; si(ghai, b)lavantassa L

4132 samasanaṃ EHL

4133 ārabhitvā FG; (ghi, a) ārabhitvā H

4134 vaḍhitvā E; [vaḍdhetvā]

4135 maggapaṭiyā A; maggamaggapaṭipāṭiyā E; maggapaṭipāṭiyā HL

4136 (nā, a) sacchākāsi BC; sacchākāsiya L

4137 yathā(nā, a)ha A; yathā HL

4138 [saṃvegaṃ ABCDFGHL]; savega E; savegaṃ L

4139 janayitvā EHL

4140 samasitvāna EHL; (nā, a) sammasitvāna Z

4141 yoniso L

4142 kassa L

4143 piṭṭhigato E; paṭṭhigato H; paṭigato L

4144 sento B; seno L

4145 pāpuṇi ABCF; apāmuṇi D; [apāpuṇi EGH]

4146 a(nā, a)yama D; ayama panama E

4147 oloketabbo C

4148 catupārisuddhisīlādī E; (nā, b) catupārisuddhasīlādī G; catupārisuddhisīlādī HL

4149 ādisaddhena EFL

4150 ca E

4151 samādhikhandhādayo H

4152 saṅgaṇhāti ti E; saṃgaṇhāti ti HL

4153 paramasaddho EFHL

4154 paidha E

4155 pacceka EH

4156 jetabbo CL

4157 ativiyaḍāruṇarāgatanhāmicchādīṭṭhādī A; ativiyaḍāruṇarāgatanhāmicchādīṭṭhādī CD; ativiyaḍāruṇarāgatanhāmicchādīṭṭhādī HL

4158 āddhisaddhena E; ādisadvena H; ādisaddhena L

4159 vuto E

4160 [dukkhappabhavasamsāra ABCDFGH]; dukkhassa bhavasasāra E; dudukkhappabhavasasāra L

4161 addhāna L

4162 attikalamaṃto E; atikanto H; atikanto L

4163 [jarā ca maraṇā BDEFG]; jarā ca maraṇā C; jarā ca maraṇaṃ HL

4164 cā om. C

4165 jarāmarāṇa D

4166 ā(ghau, a)di E

4167 yama saṃ E

4168 sokādīnaṃ CDHL

4169 jarā(ni, a)marāṇādayo F; jarāmarāṇādayo HL

4170 evama L

dukkhaṃ⁴¹⁷¹ jarāmarañādidukkhāṃ⁴¹⁷² . jarāmarañādidukkhassa⁴¹⁷³ pabhavo⁴¹⁷⁴ uppattideso⁴¹⁷⁵ ti.
tuppuriso⁴¹⁷⁶ na⁴¹⁷⁷ so⁴¹⁷⁸ bahubbihi⁴¹⁷⁹ . kasmā ti ce. jarāmarañādinam⁴¹⁸⁰ pi
paccayuppannaṅgabhāvena⁴¹⁸¹ gahetvābbabhāvato⁴¹⁸² . so yeva saṃsāro⁴¹⁸³ ti tathā⁴¹⁸⁴ . tasmim⁴¹⁸⁵
pavattaṃ⁴¹⁸⁶ addhānaṃ dīghakāladhānaṃ⁴¹⁸⁷ jarāmarañādidukkhappabhavasamsāram⁴¹⁸⁸ addhānaṃ⁴¹⁸⁹ .
ta⁴¹⁹⁰ atikkanto⁴¹⁹¹ ti adhippāyo⁴¹⁹² .

tivijjā⁴¹⁹³ ti dibbacakkhuññaṃ⁴¹⁹⁴ pubbe nivāsāññaṃ⁴¹⁹⁵ āsavakkhayaññaṃ⁴¹⁹⁶ ti⁴¹⁹⁷ tivijjā⁴¹⁹⁸ .

catutthajjhānavicittapakkho⁴¹⁹⁹ ti catukkanayavasena catutthajjhāne⁴²⁰⁰ iddhividhiṃ⁴²⁰¹
sandhāyāha⁴²⁰² .

iddhipādā⁴²⁰³ ti⁴²⁰⁴ chandiddhipādo⁴²⁰⁵ cittiddhipādo⁴²⁰⁶ viriyiddhipādo⁴²⁰⁷ vimamsiddhipādo⁴²⁰⁸
ti⁴²⁰⁹ cattāro iddhipādā⁴²¹⁰ .

aṭṭhavimokkhā⁴²¹¹ ti aṭṭhasamāpattiyo⁴²¹² rūpāvacarārūpāvacarā⁴²¹³ .

4171 dukkha E
4172 jarāmarañādidid(u/i)kkhāṃ F; jaramañādididukkhāṃ H; jaramañādididukkhāṃ L
4173 jarāmarañādididukkhassa E; jarāmarañādi(gho, a)dukkhassa L
4174 mabhavo E
4175 uppattideso HL
4176 [tappuriso ABCDFGL]; tappuri E; tappuriso H
4177 na om. L
4178 so om. L
4179 bahūbbihi E; buhubbihi F; bahumbihi H; bahumbihi L; [bahuvīhi]
4180 jarāmarañādinam AEHL; jarāmarañā(nā, b)dinam C
4181 paccayuppa(nā, b)naṅgabhāvena B; paccayuppanaṅgabhāvena E
4182 gahē(nā, b)tabbābhāvato A; gahetābbābhāvato BDEFG; gahetvā bhāvato CL; gahetvāyābbābhāvato H
4183 saṃ(nā, b)sāro Z
4184 yathā E
4185 tasmim yeva AD; tasmi H
4186 pavatta HL
4187 dīghakāladhānaṃ ACDH; dīghakādaladānaṃ E; dīghakāladānaṃ L
4188 jarāmarañādididukkhappabhavasāram C; jarāmarañādididukkhappabha(nā, b)vasāram D;
jarāmarañādididukkhappabhāvasāram EL; jarāmarañādididukkhappabhavaṃ saṃsā(ghi, b)ram H
4189 aṭṭhānaṃ L
4190 [taṃ ABCDEFGH]
4191 atikantā E; atikanto HL
4192 adhippāyo H
4193 tivijjā EGHL
4194 dibbā cakkhuññaṃ E
4195 nivāsāññaṃ E; nivāsāññaṃ H
4196 āsavakkhayaññaṃ L
4197 tī EHL
4198 tivijjā ACEGHL
4199 catutthajjhānavicittapakkho C; catutthajjhānaṃ vicittapakkhā E; (nī, a) catutthajjhānavicittapakkho G; catujjhānavicittapakkhā
H; catujjhānavicittapakkhā L
4200 catutthajjhāne A; catujjhāne HL
4201 iddhividhi DHL
4202 sandhāyāha E; saddhāyāha H
4203 iddhipādā om. E; iddhipāpā H
4204 ti om. E
4205 [chandiddhipādo ACDFG]; tandhiddhipādo E; chandiddhīhādo H; chandhiddhipādo L
4206 mitta E
4207 viriyiddhipāddho E; viriyipādo F; viriyiddhipāpādo L
4208 vimamsiddhipādo om. EL; [vimamsiddhipādo]
4209 ti om. E
4210 iddhipādo EF
4211 aṭṭhavimokkho EHL
4212 aṭṭhasamāpattiyo E; aṭṭhasamāpattiye H
4213 rūpāvacarārūpāvacārā A; rūpāvacarārūpāvacārā D; rūpāvacarārūpāvacārā H; rūpāvacarārūpāvacārā L

*paṭisambhidāñāṇā*⁴²¹⁴ ti aṭṭhapaṭisambhidāñāṇaṃ⁴²¹⁵ dhammapaṭisambhidāñāṇaṃ⁴²¹⁶
niruttipaṭisambhidāñāṇaṃ⁴²¹⁷ paṭibhāṇapaṭisambhidāñāṇaṃ⁴²¹⁸ ti catasso⁴²¹⁹ paṭisambhidā⁴²²⁰.

tena vuttam:

tadā so devathero pi āpucchitvā *surindakaṃ*
cetiyaṃ puna vanditvā otarivāna *saggato*
sobhati *hemahaṅso va pun'* āgacchati *mānusaṃ*.
nigamarājadhānīsu bhikkhaṃ piṇḍāya pāvisī ti.

so piṇḍapātapaṭikkanto Metteyyassa pavattiṃ Jambūdīpamanussānaṃ ārocesi. manussā
therassa vacanaṃ sutvā pasannacittā dānādīni puññāni katvā āyuhapariyosāne devaloke
pūrayiṃsu.

*surindakan*⁴²²¹ ti sakkam⁴²²² devānam indam⁴²²³.

*sattato*⁴²²⁴ ti tāvatimsabhavanato⁴²²⁵.

*hemahaṅse*⁴²²⁶ *vā* ti suvaṇṇahaṅsarājā⁴²²⁷ viya.

*mānusan*⁴²²⁸ ti jambudīpaṃ⁴²²⁹ yeva.

28

so daliddakapuriso aṭṭhanīluppaladāyako yāvajīvam uppaladānaṃ anussarivā
manussalokato cavitvā tāvatimsabhavane devaccharāhi parikiṇṇe
naccagīta*pañcaṅgikaturiyasamghuṭṭhe* sattaratanakhacitte niluppalapasāde nibbatti.
tassa akkanta-akkanta-kāle *pañcavaṇṇāni* uppalāni pade pade sampatiṅchīṃsu. tassa
mukhagandho uppalagandho viya *sakaladevanagaraṃ* pavāyi. devā devitthiyo
uppalagandhaṃ ghāyitvā taṃ sevanti. sabbe devā tassa pade pade sampatiṅchannaṃ

⁴²¹⁴ paṭisambhidāñāṇaṃ E; paṭisambhidāñāṇā HL

⁴²¹⁵ [aṭṭhapaṭisambhidāñāṇaṃ ABCEFGH]; aṭṭhapaṭisambhidāñāṇaṃ D

⁴²¹⁶ dhammapaṭisambhidāñāṇaṃ B; dhammapaṭisambhidāñāṇaṃ L

⁴²¹⁷ (ni, b) niruttipaṭisambhidāñāṇaṃ F; niruttipaṭisambhidāñāṇaṃ H; niruttipaṭisambhidāñāṇaṃ L

⁴²¹⁸ paṭibhāṇapaṭisambhidāñāṇaṃ C; paṭibhāṇapaṭisambhidāñāṇaṃ E; paṭibhāṇapaṭisambhidāñāṇa H

⁴²¹⁹ catasso E

⁴²²⁰ paṭisambhi(gho, b)dā L

⁴²²¹ surindhakan CHL

⁴²²² sakka H

⁴²²³ indi B; inda C; indham EL

⁴²²⁴ [saggato ABCDEFGHL]

⁴²²⁵ tāvatimsabhavana(ni, a)to AB; tāva(ni, a)tiṃsabhavanato C; tāvatimsabhavaneto DL

⁴²²⁶ [hemahaṅso ADL]; hemahaṅ(ghau, b)so E; hemahaje H; hema(ni, a)haṅse Z

⁴²²⁷ suvaṇṇahaṅsarājā E; suvaṇṇahajarājā H; suvaṇṇahaṅsarājā L

⁴²²⁸ mānussan ABDEH; manussan L

⁴²²⁹ jambūdīpaṃ ABCE; (ni, a) jambūdīpaṃ D; [jambūdīpaṃ F]; jambūdīpaṃ G; jambādīpa H

talekayuttakumbhathanadaddharikādikaṃ⁴²⁵⁶. viṭataṃ⁴²⁵⁷ nāma ubhayatalaṃ⁴²⁵⁸ mudiṅgādikaṃ⁴²⁵⁹.
āṭataviṭataṃ⁴²⁶⁰ nāma tantibaddhaṃ⁴²⁶¹ paṇḍavādikaṃ⁴²⁶². ghaṇaṃ nāma samatālādikaṃ⁴²⁶³. susiraṃ
nāma vaṃsasamkhādikaṃ⁴²⁶⁴.

*pañcavaṇṇānī*⁴²⁶⁵ ti⁴²⁶⁶ nilādipañcavaṇṇānī⁴²⁶⁷.

*sakaladevanagaraṃ*⁴²⁶⁸ ti ettha tāvatimsabhavanam⁴²⁶⁹ eva⁴²⁷⁰ adhippetam⁴²⁷¹ na yāmādikaṃ.

*kāyagandho*⁴²⁷² ti sariragaṇṭho⁴²⁷³.

*yāvajjattana*⁴²⁷⁴ *yevā*⁴²⁷⁵ ti⁴²⁷⁶ yāva ajjakāle⁴²⁷⁷ yeva⁴²⁷⁸.

tena vuttaṃ:

puna bhava pi taṃ puññaṃ Metteyyass’ eva santike
dibbasukhañ ca bhuñjitvā pupphadānass’ idaṃ phalaṃ.
tasmā hi paṇḍito poso Metteyyabuddhasantike
pāpunituṃ paṇidhāya dānasīlādikaṃ kare.
yo yo yaṃ yaṃ bodhisattaṃ vacanassānusārino
puññaṃ karoti so so ca *Metteyyadassanaṃ varaṃ*
labhissati dukkhass’ antaṃ karissati anāgate.
samsāre samsaranto pi apāye na gamissatī ti.

iti Māleyyadevatherassa vaṇṇanā nitthitā.

nibbānapaccayo hotu anāgate bhavissanti.

⁴²⁵⁶ talekayuttam kumbhathunanadaddharikādikaṃ A; talekayuttakumbhathunadaddharikādikaṃ B; talekayuttam
kumbhathunadaddharikādikaṃ CDFGHL; talekayuttam kumbhathunadaddharikādikaṃ E; [talekayuttam
kumbhathunadaddharikādikaṃ]

⁴²⁵⁷ viṅata E; viṅatamma H; viṅataṃ L; [viṅataṃ]

⁴²⁵⁸ ubhayatala E

⁴²⁵⁹ muraṅgādikaṃ E

⁴²⁶⁰ āgataviṅataṃ EL; āgataviṅata H; [ātataviṅataṃ]

⁴²⁶¹ tantibaddha E

⁴²⁶² paṇḍavādikaṃ EH; [paṇḍavādikaṃ FG]; paṇḍarādika L

⁴²⁶³ samatālādikaṃ D

⁴²⁶⁴ vasasamkhādikaṃ AE

⁴²⁶⁵ pañcavaṇṇānī E; pañcavaṇṇānī om. F; pañcavaṇṇānī GH

⁴²⁶⁶ ti om. F

⁴²⁶⁷ tisādipañcavaṇṇānī E; lādipañcavaṇṇānī HL

⁴²⁶⁸ sakaladevanagaraṃ E

⁴²⁶⁹ tāvatimsabhavanam E; tāvatīsanagaraṃ H; tāvatīsanagaraṃ L

⁴²⁷⁰ eva om. HL

⁴²⁷¹ adhippetā H

⁴²⁷² kāyagaṇḍo B; (ñī, a) kāyagandho F

⁴²⁷³ sariragaṇḍo ABCDFGHL; sariragando E; sariragaṅḍo F; [sariragaṇḍo]

⁴²⁷⁴ (ñī, b) yāvajjattana AC; yā(ghau, a)vaajjattana L; [yāvajjattana]

⁴²⁷⁵ (ñī, b) yevā B; yeva HL

⁴²⁷⁶ ti ~ yeva om. HL

⁴²⁷⁷ (ñī, b)ajjakāle Z

⁴²⁷⁸ ye E; ti ~ yeva om. HL

*puna bhave*⁴²⁷⁹ *pi*⁴²⁸⁰ *taṃ puñan*⁴²⁸¹ ti so uppaladevaputto⁴²⁸² devalokato⁴²⁸³ cavitvā
punabbhave⁴²⁸⁴ pi manussattaṃ⁴²⁸⁵ āgato taṃ aṭṭhaniluppalaḍānaphalaṃ⁴²⁸⁶ anubhossati⁴²⁸⁷
metteyyavasantike⁴²⁸⁸ idāni dibbasukhaṃ⁴²⁸⁹ ca⁴²⁹⁰ bhuñjitvā ciraṃ⁴²⁹¹ sagge pamodaṭī ti. *yo* ti
aniyamuddeso⁴²⁹² yo⁴²⁹³ yādiso ti attho. yaṃ yan⁴²⁹⁴ ti yena⁴²⁹⁵ yenappakārena⁴²⁹⁶.

*bodhisattan*⁴²⁹⁷ ti tatiyatthe cetam⁴²⁹⁸ upayogavacanam⁴²⁹⁹. bodhisattena⁴³⁰⁰ iccevaṃ⁴³⁰¹ vuttam
hoti⁴³⁰². bodhisatta⁴³⁰³ ti⁴³⁰⁴ pi⁴³⁰⁵ pātho⁴³⁰⁶.

*vacanassānusārino*⁴³⁰⁷ ti "bhante sabbe janā maṃ sabbañutaṃ⁴³⁰⁸ daṭṭham⁴³⁰⁹ patṭhenta⁴³¹⁰
mahāveśāntarajāṭakaṃ⁴³¹¹ ekadivase⁴³¹² yeva suṇantu⁴³¹³ " ti⁴³¹⁴ metteyyabodhisattena⁴³¹⁵ hetṭhā⁴³¹⁶
vuttavacanassa⁴³¹⁷ anussaraṇasilā⁴³¹⁸ ti attho. no ti nipātamattaṃ. so so⁴³¹⁹ ca⁴³²⁰ taṃ taṃ⁴³²¹
tenappakārena⁴³²² mahāveśāntarajāṭakaṃ⁴³²³ savanādikaṃ⁴³²⁴ puñakammaṃ⁴³²⁵ karoti.

4279 bbhave HL
4280 ci E
4281 puñā(nī, b)n D; [puññān]
4282 upaladevaputto EG; uppaladevaputto devaputto F; umpaladevaputto H
4283 devalokatto A
4284 punabbhave E
4285 manussattaṃ L
4286 aṭṭhaniluppalaḍānaphalaṃ D
4287 anubhossa HL
4288 metteyyasevasantike A; [metteyyasseva santike BCDGFL]; mette(gham, a)yasseva santike E; metteyyasevantike H
4289 dibbasukhaṃ L
4290 caṃ E
4291 ciraṃ FG; cira HL
4292 aniyamuddheso AB; aniyamuḷaso E; aniyumuddheso L
4293 ye DE
4294 yaṃ E
4295 ye HL
4296 yena pakārena FG
4297 bodhisatta A; bodhisatta H
4298 cetam EH
4299 upayogavacanam E; upayogavacana HL
4300 bodhisattena H
4301 iccevaṃ D; iccetam E; iccevaṃ HL
4302 (nī, a) hoti G
4303 bodhisatta EL; bodhita H
4304 ti H
4305 mi F
4306 [pātho]
4307 vacanassārino E
4308 sabbañutaṃ patṭm E; sabbañuta H; sabbañūta L; [sabbaññutaṃ]
4309 daṭṭham A; [daṭṭham CE]
4310 pathentā A; [patthentā]
4311 [mahāveśāntarajāṭakaṃ E]
4312 ekadivasaṃse L
4313 suṇantu DEF; suṇatva H; suṇatvā L
4314 ti om. E
4315 metteyyabodhisattena H; metteyyadasanavaram labhissatīti hebodhisattena L
4316 hetṭhā E
4317 vuttavacanassa E; vuttam (ghī, b) vacanassa H; vuttam vacanassa L
4318 anussaraṇasilā D; nussaraṇasilā E; anussaraṇasilo F; anussaraṇasilo G; anussaraṇam silā H
4319 te sā L
4320 ca om. HL
4321 ta E
4322 [tena tenappakārena ABCDEHL]; tena tena pakārena FG
4323 mahā(nī, a)veśāntarajāṭakaṃ A; mahāveśānta(nī, a)rajāṭakaṃ B; mahāveśā(nī, a)ntarajāṭakaṃ C; veśāntajāṭaka E; (nī, b)

*metteyyadassanaṃ*⁴³²⁶ *varaṃ labhissatī*⁴³²⁷ *ti*⁴³²⁸ *ettha metteyyanāthassa*⁴³²⁹ *santike*
*pathamanibbānadassanatthe*⁴³³⁰ *nayasahassapaṭimaṇḍitaṃ*⁴³³¹ *soṭāpatimaggasaṃkhātadassanaṃ*⁴³³²
*varaṃ saṃsāradukkhatō muñcitukāmehi*⁴³³³ *tadattihikehi ābādhadukkhatō*⁴³³⁴ *muñcitukāmo sathaṃ*⁴³³⁵
*gavesanto*⁴³³⁶ *bāḷhagilāno*⁴³³⁷ *viya dānasilabhāvanāvasena*⁴³³⁸ *kusalakammesu*⁴³³⁹ *sutehi*⁴³⁴⁰
*ekantasammādiṭṭhikehi*⁴³⁴¹ *paṇḍitadevanarehi*⁴³⁴² *varitabbam paṭṭhetabbam*⁴³⁴³ *āsaṃsitabbam*⁴³⁴⁴
*labhissati*⁴³⁴⁵ *bujjhissati*⁴³⁴⁶ *tilakkhaṇabhāvanāvasena*⁴³⁴⁷ . *atha*⁴³⁴⁸ *vā*⁴³⁴⁹ . *so so*⁴³⁵⁰ *ca*
*tuddhapaccekabuddhabuddhasāvakasampattīsu*⁴³⁵¹ *añātaram*⁴³⁵² *paṭṭhayanto*⁴³⁵³ *aparipuñṇasaṅkappo*⁴³⁵⁴
*metteyyabuddham*⁴³⁵⁵ *passitum*⁴³⁵⁶ *icchanto*⁴³⁵⁷ *mahāvessantarajāṭakaṃ*⁴³⁵⁸ *savaṇādikam*⁴³⁵⁹ *puñam*⁴³⁶⁰
*karoti. katvā ca na*⁴³⁶¹ *tassānubhāvena*⁴³⁶² *metteyyanāthassa dassanamattam*⁴³⁶³ *labhissati. labhitvā ca*⁴³⁶⁴
*pana tassa*⁴³⁶⁵ *sāsane dānapāramī-ādayo*⁴³⁶⁶ *ucinitvā*⁴³⁶⁷ *varaṃ sabbaññutaññam*⁴³⁶⁸ *ādikam attanā*⁴³⁶⁹

mahāvessantarajāṭaka F; mahāvessantarajāṭaka G; mahāvessantarajāṭakam H; mahāvessantarajāṭakam ekam divasase yeva L;
[mahāvessantarajāṭakam]

⁴³²⁴ savaṇādikam H; (ghau, b) savaṇādikam L

⁴³²⁵ puñña(nī, a)kammaṃ Z

⁴³²⁶ metteyyadassana E; metteyyadasana HL

⁴³²⁷ labhissati H

⁴³²⁸ tī H

⁴³²⁹ metteyyanāthassa C; metteyya(nī, a)nāthassa D

⁴³³⁰ pathamanibbānadassanatthena EFG; pathamanibbānadassatthe H; pathamaṃ nibbānadassatthe L;

[pathamanibbānadassanatthena]

⁴³³¹ [nayasahassapaṭimaṇḍitaṃ CG]; nayasahassapaṭimaṇḍitaṃ F; nayasamāssapaṭimaṇḍitaṃ H; nayassapaṭimaṇḍitaṃ L

⁴³³² soṭāpatimaggasaṃkhātam dassanam ACDFG; soṭāpatimaggasaṃkhātam dassanam B; soṭāpatimasamkhātam dassana E;

soṭāpatimaggasaṃkhātam dassana HL

⁴³³³ muñcitukāmohi E; muñcitakāmmehi H

⁴³³⁴ ārodhadukkhatō C

⁴³³⁵ uttamosatham ABCDEFGL; uttamosatha H; [uttamosadhim]

⁴³³⁶ gavessanto HL

⁴³³⁷ bāḷhagilāno B; (gham, b) bāḷhagilāno E; bāḷhagilāno FG

⁴³³⁸ [dānasīlābhāvanāvasena CDFG]; dānasīlābhāvanāvasena E

⁴³³⁹ kusalakammenasu HL

⁴³⁴⁰ suttehi E

⁴³⁴¹ ekantakammādiṭṭhikehi E; ekantasammādiṭṭhikehī F

⁴³⁴² paṇḍitadevanarehi L

⁴³⁴³ paṭṭhetabba B; paṭṭhetabbam om. HL; [paṭṭhetabbam]

⁴³⁴⁴ āsaṃsitabbam EFG; āsaṃsi L

⁴³⁴⁵ labhissatī ti D; labhissati E

⁴³⁴⁶ patibujjhissati E; bujjhissati H; bujjhissati L

⁴³⁴⁷ timahālakkaṇabhāvasena E

⁴³⁴⁸ (nī, b) atha G

⁴³⁴⁹ devā E

⁴³⁵⁰ so om. L

⁴³⁵¹ [buddhapaccekabuddhabuddhasāvakasampattīsu ABCDG]; buddhapaccekabuddhasāvakasampattīsu E;

buddhapaccekabuddhasāvakasampattīsu FL; buddhapaccekabuddhāsāvakasampattīsu H

⁴³⁵² añātara H; [aññātaram]

⁴³⁵³ paṭṭhayantā E

⁴³⁵⁴ aparipuñṇasaṅkampo A; apparipuñṇasaṅkappo E; apuripuñṇasaṅkappo F; aparipuñṇasaṅkappo HL

⁴³⁵⁵ metteyyabuddha L

⁴³⁵⁶ passitumm G

⁴³⁵⁷ acchanto C

⁴³⁵⁸ [mahāvessantarajāṭaka E]; mahāvessantarajāṭaka FGH

⁴³⁵⁹ savaṇādikam E

⁴³⁶⁰ puñña H; [puññam]

⁴³⁶¹ [pana ABCDEFGHL]

⁴³⁶² tassā ānubhāvena L

⁴³⁶³ dassanamattam E; dassa(nū, a)namattam F

⁴³⁶⁴ (nī, b) ca C

⁴³⁶⁵ ta(nī, b)ssa A; tassā H

paṭṭhitam⁴³⁷⁰ tam⁴³⁷¹ sampattim⁴³⁷² labhissati⁴³⁷³, anāgata⁴³⁷⁴ ito anappakappesu⁴³⁷⁵
tadanūrupāvasena⁴³⁷⁶ añatarasmim⁴³⁷⁷ āgate kappe. atha vā. metteyyanāthassa dassanamattam⁴³⁷⁸
labhitvā ca pana tassānubhāvena⁴³⁷⁹ tassa sāsane dānasīlādikam⁴³⁸⁰ kanonto⁴³⁸¹ yaṃ yaṃ sampattim⁴³⁸²
varam⁴³⁸³ varanto⁴³⁸⁴ paṭṭhento⁴³⁸⁵ tam⁴³⁸⁶ tam labhissati⁴³⁸⁷ ti attho⁴³⁸⁸.

*dukkhassantaṃ karissati*⁴³⁸⁹ ti nibbānārammaṇam⁴³⁹⁰ maggaparamparāya⁴³⁹¹ sakalassa⁴³⁹²
saṃsāradukkhassa antakiriyaabhūtam arahattamaggam patibujjhissati⁴³⁹³. yāva⁴³⁹⁴ metteyyassa⁴³⁹⁵ santike
nibbānam apatvā tāva⁴³⁹⁶ apāye⁴³⁹⁷ na gamissati manussalokato devalokam devalokato manussalokam
saṃsaranto⁴³⁹⁸ ti adhippāyo⁴³⁹⁹.

tasmā vuttam saṃsāre⁴⁴⁰⁰ saṃsaranto pi apāye⁴⁴⁰¹ na gamissati ti. tattha *pisaddo*⁴⁴⁰²
sambhāvanattho⁴⁴⁰³ daṭṭhabbo, *saṃsaranto*⁴⁴⁰⁴ ti paṭisandivasena⁴⁴⁰⁵ mattagge⁴⁴⁰⁶ saṃsārabhave
saṃsaranto pi puthujjano⁴⁴⁰⁷ dānādipuṇātejena⁴⁴⁰⁸ nirayādike⁴⁴⁰⁹ caturāpāye na⁴⁴¹⁰ gamissati⁴⁴¹¹ ti

⁴³⁶⁶ dānapāramī-ā(nī, b)dayo B; dānapārami EFG; dānapārumi-āda(ghu, a)yo H; dānapāramim āda(gham, a) ~ om. L

⁴³⁶⁷ upacinitvā E; u(nī, b)cinitvā Z; [uccinitvā]

⁴³⁶⁸ sabbaññūtaṇam E; sabbaññūtaññam H; [sabbaññūtaññam]

⁴³⁶⁹ attano E

⁴³⁷⁰ pattiga E; patiṭṭhitam H

⁴³⁷¹ (nī, b) tam D

⁴³⁷² sampattim E; sappati H

⁴³⁷³ labhissa H

⁴³⁷⁴ anāgate EH

⁴³⁷⁵ anappakakappesu E

⁴³⁷⁶ tadanurūpāvasena A; tadanūrupavasena B; [tadanurūpavasena CDFGH]; tadanurupavasena E

⁴³⁷⁷ añatarasmi H; [aññatarasmim]

⁴³⁷⁸ dassanamattam H

⁴³⁷⁹ tassānubhoveṇa A; tassānubhāvena om. E

⁴³⁸⁰ dānasīlādikam ACEH; dānasīlādāka D

⁴³⁸¹ [karonto ABCDEH]; karonō FG

⁴³⁸² sampatti E; sappatti H

⁴³⁸³ vara H

⁴³⁸⁴ varanto om. H

⁴³⁸⁵ paṭṭhentā A; paṭṭhento om. E; maṭṭhento paṭṭhayanto H

⁴³⁸⁶ ta H

⁴³⁸⁷ lassati A; labhissati H

⁴³⁸⁸ ato F

⁴³⁸⁹ karissati H

⁴³⁹⁰ nibbānārammaṇa H

⁴³⁹¹ pa(ghaḥ, a)ggapparammarāyamarāya E; maggaparampavāya F; maggaparapparāya H; [maggam paramparāya?]

⁴³⁹² sagalassa E

⁴³⁹³ patibujjhissati C; patibujjhati ti E; [patibujjhissati FG]; patibujjhissati ti H

⁴³⁹⁴ (ñu, a) yāva G

⁴³⁹⁵ metteyya EH

⁴³⁹⁶ va E

⁴³⁹⁷ apāyam H

⁴³⁹⁸ saṃsara(ñu, b)nto F

⁴³⁹⁹ ādhippāyo D; adhippāyo H

⁴⁴⁰⁰ saṃsāre om. H

⁴⁴⁰¹ appāyam E; apāyam H

⁴⁴⁰² pisaddho BEH

⁴⁴⁰³ sambhāvatthe E

⁴⁴⁰⁴ saṃsara(ñu, a)nto C

⁴⁴⁰⁵ paṭisandhiva(ñu, a)sena B; [paṭisandhivasena CFG]; paṭisandhivase(ñu, a)na D; paṭisandivasena E; pasandhivasena H

⁴⁴⁰⁶ (ñu, a) anamattagge A; anamattagge CDFG; anamitta E; anamatatte H; (ñu, a) mattagge Z; [anamattagge]

⁴⁴⁰⁷ puthujjano ACDGH

⁴⁴⁰⁸ dānādipuṇātejena E; [dānādipuṇātejena]

⁴⁴⁰⁹ niriyādike E

⁴⁴¹⁰ na om. C

adhippāyo⁴⁴¹².

iti dutiyamālayyavatthudīpanīṭikā⁴⁴¹³ buddhaviḷāsāvhayena⁴⁴¹⁴ tayo⁴⁴¹⁵
vassikena⁴⁴¹⁶ likkhitā sāsane⁴⁴¹⁷ thāvaratthāya⁴⁴¹⁸ samatā⁴⁴¹⁹.

⁴⁴¹¹ gamisatī B

⁴⁴¹² adhippāyo H

⁴⁴¹³ dutiyamālayyavatthudīpanīṭikā A; dutiyamāleyavatthudīpanīṭikā E; dutiyamālayavatthudīpanīṭikā FG; dutiyamā(ghu, a)layyavatthudīpanīṭikā H; [dutyamāleyyadevattheravatthudīpanīṭikā]

⁴⁴¹⁴ buddhaviḷāsāvhayena ~ thāvaratthāya om. E

⁴⁴¹⁵ tayā H

⁴⁴¹⁶ vasikena A; vassike H

⁴⁴¹⁷ sāsāne FG

⁴⁴¹⁸ thāvaratthāya AD; buddhaviḷāsāvhayena ~ thāvaratthāya om. E; ṭṭhāvaratthāya H

⁴⁴¹⁹ [sammata ACD]; samattā. iti pi so bhaggavā arahaṃ sammāsambuddho vijācaraṇasampanno sukhatō lokavidū anuttaro purisadhammasārathī sathā devamanussānaṃ buddho bhagavā ti kusalādhammā akusalādhammā akusalādhammā. maraṇaṃ me bhavissati. E; samattā. buddhaṃ saraṇaṃ gacchāmi dhammaṃ saraṇaṃ gacchāmi saṃghaṃ saraṇaṃ gacchāmi. F; sammata. buddhasaraṇaṃ gacchāmi dhammaṃ saraṇaṃ gacchāmi saṃghaṃ saraṇaṃ gacchāmi. G; samattā. nibbānapaccayo hoti. H

『マーレツヤデーヴァ長老物語』
『マーレツヤデーヴァ長老物語註』

【帰敬文】(*Mth-v*, p. 19, 2)

かの世尊、阿羅漢、正等覺者に帰依します。

天と人によって崇められるべき最上の仏に (*suranaramahiṇīyaṃ buddhaseṭṭhaṃ*) 敬礼し、善逝を起源とする (*sugatappabhavaṃ*) 法 (*dhammaṃ*) と善き僧伽に (*sādhūṃ saṅghaṃ*) 敬礼し (*namitvā*) 様々な最上の手引き (*paramanayavicittaṃ*) であり、すべての人々に浄心をもたらす (*sakalajanappasādaṃ*) マーレツヤという名の物語を (*Mālayyaṃ nāma vatthuṃ*) 手短に始めよう (*ārabhissaṃ*) と。

それに帰依せよ。

執着を離れた賢い仏に、無垢で最上の法に、そして、垢濁なき衆 (僧伽) にも頭によって礼拝し、先師の獅子 (仏) たちのすばらしい考えに従い、私が幸福のために種々の最上の手引きを備え、無上で、非常に勝れ、有益な幸福をもたらす、喜ばしい *Mālayyavatthudīpanī* (『マーレツヤデーヴァ長老物語註』) を覺りの鈍い者たちに語るだろう、と。

残りなく耳に心地よく美味に至らせ、すべての人々に浄心をもたらすこのテキストに着手し、まず第一に、喜びをもたらすために、そして、美しさなどのために、あらゆる生存の苦しみを遮ることができ、尊ばれた宝であり、三界における唯一の帰依処である仏などの対象 3 つを礼拝したいと考えるこの師匠 (*Mthv* の筆者) は、彼の優れた徳を備えた見解のために、*suranaramahiṇīyaṃ buddhaseṭṭhaṃ* 云々と言ったのである。というのも、「優れた徳を備えることによって礼拝するに値する存在となり、礼拝に値する者たちに礼拝をなし、意味された通りに完成者となる¹、と [言われた] からである。ここに三宝に帰依する目的があるが、そこかしこで師匠たちは多くの屁理屈を言っている。そして、特に障害や怖畏の破壊を望んでいる。なぜなら、同様に注釈者たちによって [次のように] 言われたからである、

三宝に対して五体投地をなしたその者の威力によって諸々の障害を残らず萎びさす²、と。

実に三宝への帰依は第一義的に欲界の善意である。そして、それ (意) は第一の速行心との結

¹ *As-mī*, p. 2: *guṇavisesavā hi paṇāmāraho hoti, paṇāmārahe ca kato paṇāmo vuttappayojanasiddhikaro va hoti ti.*

² *As*, p. 1: (7) *Nipaccakāraṃ etassa katassa ratanattaye, ānubhāvena sosetvā antarāye asesato. Tin* [1958: 2] 参照。

合を意味している。まさにそれ（三宝へ帰依するという意思）は礼拝されるべきものを礼拝する者たちの福田の成就や意志の成就のために感受されるべき現世が生じる、前世での善業の力が与えることによって、前世での行いによって生じた異熟相続の障害となる妨害や断絶と呼ばれる悪業を破壊し、それ（悪業）による病などの禍いと呼ばれる障害を起こさせない。それ故、三宝に帰依するのは、自ら着手した著書が障害なく成功するため、そして、弟子やその弟子たちの帰依の導きとなる道の把握受持などが障害なく成功するためである。また、ここにおいてこれ（suranaramahīṇīyaṃ buddhaseṭṭhan 云々）は支分の意味である。ここにおいて、これは集まりの意味である。天と人によって崇められるべき最上の仏に礼拝し、善逝を起源とする法に礼拝し、そして、善き僧伽に礼拝し、すべての人に信仰心を導く様々な最上の手引きとなるマーレツヤという名の物語を手短に始めよう、という文脈である。これは、語義の集まりである。*Mālayya* を著した師匠が三宝に帰依する、というのは、私はどんな最上仏に礼拝するのか、天と人に崇められるべき最上仏だけを礼拝する、私はどんな法を礼拝するのか、善逝を起源とする法だけを礼拝する、私はどんな僧伽を礼拝するのか、善き聖なる善人で四向四果を目指す〔僧伽だけを礼拝する〕、このように三宝への帰依により障害を破壊し、このマーラツヤという名の物語を手短に始める、どういうことが、すべての人に信仰心を導く様々な最上の手引きであり、すべての信仰心のない人に信仰心を起こし、信仰心のある人にはより多くの信仰心を起こさせる、というのが文意である。

その内、suranaramahīṇīyaṃ sugatappabhavaṃ sādhuṃ という 3 語は、順に形容している。buddhaseṭṭhaṃ dhammaṃ saṅghaṃ という 3 語は、目的語であることを示している。また、namitvā natvā という 2 語は、特別な動詞〔の形〕(vīsesanakiriya ジェラント)を示している。また、過去動詞 (pubbakālakiriya) とも言う。namitvā natvā というのは、語根 nam の縁語 tvā [のジェラント]である。過去など 4 つの意味の中で、過去が今意味されたのである。他の 3 つではない。何故〔他の 3 つではないの〕か、というと、不適當だからである。なぜならもし未来であれば執筆してから礼拝することになってしまう。もし同時であるなら、一瞬で 2 つの行為をなすことになってしまう。もし理由であるなら、まさに礼拝するがために著作があることになってしまう慈悲のためでなくなってしまう。この師匠 (*Mthv* の著者) は、輪廻における迷いから脱することができない衆生の集団を見て、慈悲を生じ、「これらの衆生がどのように輪廻する存在から脱し、天界や解脱に至るのだろうか」と〔言った〕。それ故に、慈悲に促されてこの著書を著すのであり、礼拝のために〔著すのではない〕では、礼拝は何のためのものなのか。そこで、礼拝は障害を破壊するためのものである、と我々は述べたのである。

また、tvā という縁語をもつものは、主体をとる語であり、3 つの主体の中で主格を主体とするもの（能動態）が今意味されたのであって、他の 2 つではない。なぜかというと、意味が不適當だからである。というのも、もし対格を主体とする（受動態）語であるならば、buddhaseṭṭhan

云々という句との結合が不適切である。なぜかという、buddhaseṭṭhan 云々という句に〔具格による〕行動主体が説かれていないからである。〔能動態であると〕なぜ分かるのかという、第2格（対格）が見られるからである。第2格（対格）も語られないことがある、と〔言われる〕〔その場合〕なぜ分かるのかという、〔能動態は〕目的語となる第2格に依存した語であるが、一方、〔受動態は〕第1格（主格）が説かれ、第2格（対格）などが説かれない語であるから、〔さらに〕状況主体であるならば目的語は結びつかないだろう。もし目的語を必要とするならば、第6格の目的語となるだろう。それ故に主格主体（能動態）と理解されるべきである。

さらにまた、ārabhissan というのは、主格と動詞句との一致関係から、そして、まさにその特徴から主格というのが知られるべきである。一致・差異・相違・特殊性という語の故に、ārabhissan という語の特殊性があるべきなのだろうか、namitvā というのは、動詞句が3つの主体を持つ語句であるから、そして、tvā などの縁語が過去などに起きたことであるから、一致が生じている。そして、ārabhissāmi（私が始めるだろう）というの、語句のまさに主語を意味する語から、そして、確実な未来時制であることから相違が生じている。これが事実である。〔しかし〕、そのようではなく、ここでは次のように理解されるべきである。ここにおいて ārabhissan（始めるだろう）という語は、特殊である。というのも、ārabhissan（始めるだろう）と言われたのは、存在して(bhutvā)、あるいは、横になって(sayitvā)、あるいは、行って(gantvā)、いかなる過去の行いをなしてから、ārabhissan（始めるだろう）と特定していないからである、nimitvā と言われたことによって、残りすべてを過去の行為に引き戻す、ということである。

なぜなら、文法学者たちによってこれが説かれたからである。

tvā という縁語によって随意に語られる動詞がある、そのようであっても、それ（動詞）は主要ではない。

またここで語義〔解釈〕がなされるべきである。そこにおいて suranti（楽しむ）³、輝く、というのが、神々に再生した者たち surā である。導きによって naranti（至る）、原因によって naranti（至る）⁴、生まれる、というのが、人々 narā である。surā（神）と asurā（阿修羅）と narā（人）とで surāsuranarā である。それらによって尊敬されるべき供養されるべきというのが suranaramahiṇiyo である。その天と人に崇められるべきものを（suranaramahiṇiyaṃ）である。surāsuranamahiṇiyan と言われるべきである、それにもかかわらず、間で〔asurā が〕省略されたことによって suranaramahiṇiyaṃ と言われたのである。asura の語の省略という意味である。surāsuranaramahiṇiyan という読みもある。まさにこれが意味である。ここにおいて sura を把握することによって帝釈天と梵天の〔把握が〕 asura を把握することによって天の阿修羅・餓鬼の阿修羅の〔把握が〕 nara を把握することによって人・畜生の把握が、理解されるべきである。

³ surati は辞書にはない語である。sura の語義を導くための動詞と考えられる。意味は文脈から判断した。

⁴ narati は、辞書にはない語である。nara の語義を導くための動詞と考えられる。意味は文脈から判断した。

suranaramahīṇīyan とは、神々や人々によって供養されるべき [という意味である]

四聖諦あるいはすべてのダルマを覚る、覚った、覚るであろうというのが buddho である。あるいは、生類を覚らせる、というのが buddho である。彼は賞賛された、そして、彼も賞賛された、かれらの中で彼は特に賞賛された者である、というのが seṭṭho である。buddho とその seṭṭho とで buddhaseṭṭho である。その「最上の仏を (buddhaseṭṭham)」である。seṭṭha という語との結合により独覚や声聞から転じる。sammāsambuddhan と言われた語のようである。

礼拝して、というのが namitvā である。身口意といわれる清浄な三門によって礼拝して、という意味である。

すばらしい涅槃に至るのが sugata (善逝) である。すばらし一切知性に行った、至った、というのが sugata (善逝) である、とある者たちは説く。ここではこれは簡略である、詳細は *Visuddhimagga* の “ buddhānussatisaṃvaṇṇanā (念仏註) ” と *Vinaya* 註 *Samantapāsādikā* においてそれ (sugata という語の詳細な語義解釈) を求めるものたちによって考察されるべきである⁵。善逝から発した、というのが sugatappabhavo である。善逝がその起源であるというのが、sugatappabhavo である、という分析もある。

2 つの [解釈] によって dhammo (法) が [理解されるべきである] 罪深い不善の法を棄てる、というのが dhamma である、あるいは、人々を涅槃に至らせる、というのが dhamma である。賢者たちによって保持される、というのが法である。出世間 [法] であり、教 [法] である。その「法を (dhammam)」である。

衆生のために彼らを成就させるというのが sādhusaṅgho (善い僧伽) である。sādhun とは、修習する人である、とある者たちは説く。このようであっても、なぜ saṅgha という句の形容が説かれなかったのか、と問われるべきである。それ故に、その (sādhusaṅgha) のそれ (sādhun) は、saṅgha という語と同格に結びつけられた、と理解されるべきである。見解と戒が互いに等しいことによって打ち勝つ、あるいは、和合した行為に近づこうとする、というのが僧伽である、勝義の僧伽と世俗の僧伽がある。その「僧伽を (saṃgham)」である。

礼拝して (namitūnā) というのが、namitvā である。

帯びられるべき、数えられるべきである、というのが kala である。kala とともに生じるといなのが sakala である。sakalo (すべてが) とその jano (人が) とで sakalajano (すべての人が) である。その「すべての人々のために (sakalajanassa)」である。

paramā (諸々の最上の) とその nayā (諸々の方法) とで paramanayā (諸々の最上の方法) である。諸々の最上の方法によって (paramanayehi) 彩られた (vicittam) のが、paramanayavicittam

⁵ sugata (善逝) という語について、*Vis* (pp. 203-204) と *Sp* (pp. 116-117) において同様の語義解釈がなされている。
『南伝』 vol. 62, pp. 401-403 参照。

である。喜びの転起・三つ葉・ライオンの遊び・鉤・方角の記述・方法⁶、と呼ばれる勝者の言葉にふさわしい最上の方法によって飾られた荘厳されたと言われたのである。

ārabhissan とは、私が始めるだろう (ārabhissāmi) あるいは、私が語るだろう (kathessāmi) という意味である。また、kathemi という読みもある。それ (kathemi) は、現在時に近いので、現在時制の語を説いている。

そしてここにおいて、suranaramahīṇiyam (省略) natvā という、これによって三宝に対する帰依を示している。ārabhissan という語によって行為主体を示している。mālayyaṃ nāma vatthun という句によって固有名を示している。そしてここにおいてこの nāma という語は [Mālayya という] 固有名にかかる不変化辞である。また要因 (nimittam) には内的 [要因] (abbhantaram) と外的 [要因] (bāhiram) の 2 種ある。そのうち内的なものは、師匠 (Mthv の著者) の慈悲であり、まさに [自らの慈悲心のために、というのが] 内的要因である。それは、ārabhissan (私が始めるだろう) という語によって知り得る。まさに師匠 (Mthv の著者) の慈悲の対象となったのが sakalajana (すべての人々) という複合語で、まさに [すべての人々のために、というのが] 外的要因である。そして、それは sakalajanappasādam (すべての人々の浄心を) という語によって示された。sakalajanappasādam というのはまさにこれによって目的も示している。そしてここにおいて三宝に帰依する目的が説かれたのである。主語を示すことは、行為者を示すためであり、固有名を示すことは、知られていない著書の名称を確立し、名称に幸福をもたらすためである。要因を示すことは、善人であることを示すためである。量を示すことは、知者たちの心を満たすためであり、さらに、著書が難解ではないという理解のためである。[著作] 目的を示すことは、これは賢者のための法であり、これは愚者のための法ではないという言葉から天界や解脱を目指す賢明な人々のために聴聞を理解させる (促す) ためである。それ (著作目的) は福相を知らせるためであり、それ (著作目的) は意味された意味を確立するためである。

【長老による天界と地獄の遍歴】(Mth-v, p. 19, 7)

昔 (atīte) [三] 宝を確立したランカー島と呼ばれるターンバパンニ島に (Tāmbapaṇṇidīpe) 最高の神通力と智恵によって知られたマーレツヤデーヴァ長老 (Māleyyaḍevatto) という名の一人の (eko) 長老が、カンボージャ村に依拠して (Kambojagāmaṃ nissāya) ローハナ地方に住んでいた (vihāsi) そうです (kira)。

このように三宝への帰依を示し、今、マーラツヤ物語を [説き] 始めるでしょう。公言した

⁶ Nett, pp. 110-127 の記述に基づく言及であると考えられる。Ñāṇamoli [1977: 148-172] 参照。

典籍を [説き] 始めて atite 云々と [言った] そのうち、超越してここから進み生じたというのが atita (過去の) 時である。その過去の時に於いて [という意味である] kāla という語は、atita という語との結合によって働きをもたらす。

kira とは、不変化辞である。そして、それは vihāsi (住んでいた) という動詞句と結合する。

ここにおいて、tāmbapaṇṇidīpe とは、一人の女がターンバパニヤに生まれ、ランカー島で有名であった。それ故に慣習的にターンバパニヤという名称を受け入れる。

ここにおいて、māleyyadevatthero とは、mālaya というこれは島の名称である、なぜならその島にはたくさん赤い栴檀と呼ばれる mālayya の樹が生息しているからである。よってそれは通常の慣習に従って māleyya という名を受け入れるのである。たとえば、マンゴー園やナーガ樹園云々 [のように] 森林官・戦場官云々のように長老 [の名前] も多くの慣例に従っている。そこにおいてこれが語義である。マーラヤ [島] に結びつけられた長老が、マーラヤ [長老] である。māleyya という読みもある。まさにこれが意味である。また、ここにおいて接辞 ṇa [によって形成される] rāga と、「それによって染められるもの (貪欲)」というこのものは別の意味である、という經典の言葉による ṇa という縁語がある、マーガによって結びつけられたのがマーガ月である、というように。天の 3 つの禅定によって果報を楽しみ喜ぶ、というのが deva である。それは、3 種あり、世俗天、再生天、清浄天である。それらのうち清浄天がここでは意味されている。戒蘊などにより堅固である、あるいはそこ (堅固) にいる、というのが therō である。さらにまた。智慧が堅固であると言われる。それ (堅固な智慧) が、彼にあるというのが長老である、と *Saddavuttiyaṇṇanā* において説かれた⁷。mālayya と deva とで mālayyadeva である、まさにその長老というのがそのよう (mālayyadevathera) である。一人の最上の最勝者である。最上の果に至った漏尽者という意味である。eka という語はここでは最上の (setṭha) の同義語である。その最上者はあらゆる潜在的影響や煩惱を滅して云々というように。

だから言われた。

その長老は、偉大な智慧を有し、偉大な名声を有し、偉大な漏尽者で、最上で、知足者で、心が静まり、智慧と神通力によって空にある月のように明るい、と。

また、ある者たちによっても言われた、

最上の神通力と智慧によって有名である、と言われ、彼が最上の果を得たので妥当である、と。

eko とは、第二のない [という意味である] 意味は適当である、と [言える] [しかし] 彼の存在もいるのでそう捉えるべきではない。

kambojagāmaṃ nissāya とは、カンボージャ村を托鉢に行く村にして [という意味である]

⁷ この *Saddavuttiyaṇṇanā* というテキストは、橘堂 [1997: 43]、Skilling & Pakdeekham [2002: 265] に言及されているが、校訂テキストは未刊であるため、引用元は未確認である。

そしてその長老は、しばしば地獄で煮られている地獄の者たちのために伝言を持っていき（*nārakānaṃ pavuttim āharitvā*）、彼の親族たちの為に語り、布施などの福德をさせ、彼らのために指定し、福德の随喜によって得られた福德の果報によって、天界に〔再生することを〕目的とする者となり、まさにそこ（天界）に住していました。また彼は、神通力によって天界と閻魔界へ赴きました。三宝のある天界へ明浄な優婆塞や優婆夷の大いなる自在を見にやって来ると、「そのような優婆塞やそのような優婆夷は、実にそのような天界に生まれて、大きな幸福を経験します」と人々の為に語りました。閻魔界に悪人たちの大きな苦を見にやって来ると、「そのような男やそのような女はそのような地獄に生まれて、大きな苦を経験します」と人々の為に語りました。人々は教説を信じ、悪事をなさず、布施をはじめとする諸々の福德を亡き親族たちのために指定しました、彼らは〔福德を〕指定して、福德の随喜によって得られた福德の果報によって、天界に〔再生することを〕目的とする者となりました。

ここにおいて *nārakānaṃ pavuttim āharitvā* とは、その長老が衆生の資助者マハーモッガラーナ長老のようである〔という意味である〕

だから言われたのである、

〔マーレツヤデーヴァ〕長老は繰り返し、地獄で起こっていることを知るために〔地獄へ〕行くのである、モッガラーナが地獄の者たちを解放させるために無上の法を示すように、デーヴァ長老もそのようである。

そして、モッガラーナが地獄の火を滅して雨を生じさせるように、デーヴァ長老もそのようである。

そして、モッガラーナが銅釜を破壊させ、胸輪を破壊させるように、そのマーレツヤ長老もそのようである。

そして、モッガラーナがシンバリ樹林を倒し、炭火の山を破壊させるように、かのデーヴァ長老もそのようである。

そして、モッガラーナが灰汁河を蜜にし、甘露を衆生に飲ませるように、かのデーヴァ長老もそのようである。

そして、モッガラーナが地獄の使者を連れて行き、彼らの親族に語るように、かのデーヴァ長老もそのようである。

それ故に、マーラツヤデーヴァ長老はあらゆる所において有名である、モッガ

ラーナ長老が神通力を生じた、デーヴァ長老も同様である、と⁸。

地獄に於けるたくさんの功德を有し、天界のたくさんの功德を有する [マーレツヤデーヴァ長老] は、[彼らの伝言を] 持って彼らの生きている親族たちのために語った。地獄の者たち、あるいは、餓鬼たちはマーラツヤがやってくるのを見て、敬意を持って礼拝しこう言った。

「尊者よ、衆生の資助者であるあなたは、そのような名前の町へ行き、このような名前の生きている親族たちに語って下さい『沢山の善業をなして下さい、仏などの徳を記憶させて下さい、果のあることをなして下さい、食物などの布施を自分にも与え、自らの手で他人を喜ばせ、我々に果のあることをなして下さい』」

長老は彼らの話を聞いて [人間界へ] 行き、かれら（地獄の者たち、あるいは、餓鬼たち）によって語られた言葉を、彼らに求められたことを、彼らの親族たちに語った。

「このような名前の男とこのような名前の女は、たくさんの悪業をなし、今日、阿鼻地獄界にいる、このような名前の男とこのような名前の女はたくさんの悪業をなし、世において今、餓鬼となっている、[彼らは] 私に会いこう言いました『泣いて悲しんでいるこのような名前の親族が、このような名前の父母が、このような名前の息子娘が皆、我々を愛しているのであれば、布施などの福德をなしこの世で果報をなして下さい。』」

[その言葉を] 聞いて、皆は偉大な神通力を持つデーヴァ長老を礼拝して、鉢を満たすなどの福德業をなしその果報をなした。彼らは皆 (sabbe)、親族によってなされたその福德を (taṃ puññaṃ) 喜び (anumoditvā)、その苦しみから解放され、善き神々の家に再生した、それ故にマーレツヤデーヴァ長老は偉大な神通力を有し、自らのなすべきことをなす衆生の資助者である、と[言われるのである]、そこにおいて anumoditvā とは、承認して[という意味である]、taṃ puññaṃ とは、その福德の果を[という意味である]、もし次のようであれば、その福德の果を承認する、これが妨げる (条件となる)

「尊者ナーガセーナよ、これらの施者が布施をして先亡の餓鬼に廻向し、『これが彼らのために至りますように』と言って、彼らはそれによって何らかの果報を得るのですか」と。

「大王よ、ある者は得て、ある者は得ません」と。

「誰が得て、誰が得ないのですか」と。

「大王よ、地獄に生まれた者は得ません、天に生まれた者は得ません、畜生に生まれたものは得ません、人間に生まれた者は得ません、4つの餓鬼のうち3つの餓鬼は得ません、[すなわち] 焼くような渴きをもつ [餓鬼]・飢えと渴きをもつ [餓鬼]・黒

⁸ *Mogg-vth*, p. 317, tasmim khane sabbe te niriyakasattā therassānubhāvena sitabhūtā ahesum. devo vassanti, lohakumbhiyo bhijanti, khāraṇadiyo sussanti, vikiranti āṅgārapabbatā, patanti simbalirukkhā. (和訳：その時、その地獄の衆生たちは皆、長老の威力によって冷たくなりました。天が雨降り、銅釜は壊れ、灰汁の川は乾上がり、炭火の山は砕け散り、シンバリ樹は倒れました。)

い酸粥 [を食べる餓鬼] である。まさに他者の施しによって生きる彼らだけが [果報
を] 得ます。彼らも憶念するときだけ (te pi saramānā yeva) 得ます」と言われた⁹。

ここにおいて sabbe とは、集合体であることから sabba という語が知られるべきであり、個別であることからではない、従って、彼らは皆他人の施しによって生きる餓鬼たちという意味である。さらにまた、得たままの趣旨であるから、例えば、「魚の群れも砂利も小石も動いたり止まったりしている¹⁰」というここにおいて魚の群れが期待されているので *carāṇa* との結合から *carāṇa* という動詞が結びつけられる、このようにここにおいても [果を] 得られるべき者は、まさに [餓鬼界に] 行く者である。別の意味では、te pi saramānā yeva という場合、ここでは pi という語が言われることが期待されている、地獄に生まれた彼らは憶念しているときだけ [果を] 得られる、と言われた。さらにまた、地獄に生まれた者は得られない、というこれが多く習慣なので [地獄に生まれた彼らであっても得られる、と] 言われた、と理解されるべきである。

そして、*Tirokuḍḍapetavathuvaṇṇanā* においてこれが言われたのである¹¹。

ここにおいて、尋ねた、

「餓鬼界に生まれた者たちだけが、親族による成就を得るのですか、あるいは、他の者たちも [得るのですか] 」と。

釈尊によって次のように答えられたので、ここにおいて我々によって説かれるべきではない¹²。

「ゴータマよ、我々バラモンは布施を与え、福德をなし、この布施が亡者である親族・縁者たちのために役立ちますように、この布施を亡者である親族・縁者たちが享受しますように」と [言って]、ゴータマよ、その布施は亡者である親族・縁者たちに役に立つのでしょうか、亡者である親族・縁者たちはその布施を享受するのでしょうか」と [尋ねた]

「バラモンよ、適所において役立ちます、不適所において役立ちません」と [答えた]

⁹ *Mil*, p. 294: Bhante Nāgasena, ime dāyakā dānaṃ datvā pubbapetanāṃ ādisanti: imaṃ tesāṃ pāpuṇātūti. Api nu te kañci tatonidānaṃ vipākaṃ paṭilabhanṭīti. · Keci mahārāja paṭilabhanṭīti, keci na paṭilabhanṭīti. · Ke bhante paṭilabhanṭīti, ke na paṭilabhanṭīti. · Nirayūpapannā mahārāja na paṭilabhanṭīti, saggagatā na paṭilabhanṭīti, tiracchāyayonigatā na paṭilabhanṭīti; catunnaṃ petānaṃ tayo petā na paṭilabhanṭīti: vantāsikā khuppipāsino nijjhāmatanahikā; labhanṭīti petā paradattūpajivino, te pi saramānā yeva labhanṭīti. (中村・早島 [1964: 61-62]): 『尊者ナーガセーナよ、これらの布施者たちが布施をなして、亡者の餓鬼らに廻向し、「これ [布施] はかれらのもに達せよ」と [言うならば]、かれら [亡者] は、それを因縁として [なんらかの] 果報を獲得しますか?』『大王よ、或る者は獲得し、或る者は獲得しません』『尊者よ、いかなる者たちが獲得し、いかなる者たちが獲得しないのですか?』『大王よ、地獄に生まれた者たちは [布施の果報を] 獲得しません。天に生まれた者たちは獲得しません。畜生に生まれた者たちは獲得しません。四種の餓鬼のうちの三餓鬼、すなわち (1) 吐いたものを食べる餓鬼、(2) 飢えと渴きをもつ餓鬼および焼くごとき渴きをもつ餓鬼は [布施の果報を] 獲得しません。他者の施しによって生きる餓鬼は [布施の果報を] 獲得しますが、かれらとても憶念するときだけ獲得するのです』

¹⁰ *DN* 等では、煩惱を滅する智によって見ることの譬えとして類似する文が見られる。*DN*, vol. 1, p. 84: sippi-sambukam pi sakkharakathalam pi maccha-gumbam pi carantam pi tiṭṭhantam pi. (片山 [2003: 233]: 牡蠣も貝も、砂利も小石も、魚の群れも動いたり止まったりしているのを・・・)

¹¹ *Tirokuḍḍapetavathuvaṇṇanā* は、*Pv-a* の第 1 章第 5 話である。ここで引用されているのは、その第 5 偈に対する注釈である。藤本 [2006: 182, fn. 2] によれば、*Tirokuḍḍapetavathuvaṇṇanā* と同様の言及が *Khuddakapāṭa* の注釈書 *Pj I* (pp. 210-211) にも見られる。以下の *Pv-a* の引用については、Kyaw [2007: 29-50]、藤本 [2006: 191-193] 参照。

¹² 以下の釈尊とバラモンとの問答は、*AN* (vol. 5, pp.269-271) に基づくものである。

「では、ゴータマよ、どれが適所で、どれが不適所なのですか」と〔尋ねた〕

「バラモンよ、ある者がこの世で殺生をなし、邪見者であると、彼は身体が破壊してから死後、地獄に生まれます。地獄の衆生たちの為の食事によって彼はそこで生活し、彼はそれによってそこに住みます。バラモンよ、この不適所に住する者にとってその布施は役立ちません。

バラモンよ、ある者がこの世で殺生をなし、邪見者であると、彼は身体が破壊してから死後、畜生界に生まれます。畜生界の衆生たちのための食事によって彼はそこで生活し、彼はそれによってそこに住みます。バラモンよ、この非適所に住する者にその布施は役立ちません。

バラモンよ、この世で殺生からはなれ、正見者であると、彼は身体が破壊してから死後、人間界の仲間に再生します。人間界の食事によって彼はそこで生活し、彼はそれによって住みます。バラモンよ、この非適所に住する者にとってその布施は役立ちません。

バラモンよ、ある者がこの世で殺生から離れ、正見者であり、彼は身体が破壊してから死後、神々の仲間に生まれます。神々の食事によって彼はそこで生活し、彼はそれによってそこに住みます。バラモンよ、この非適所に住する者にとってその布施は役立ちません¹³。

バラモンよ、ある者がこの世で殺生をなし、邪見者であると、彼は身体が破壊してから死後、餓鬼界に生まれます。餓鬼界の者たちの食事によって彼はそこで生活し、彼はそれによってそこに住みます。あるいはまた、友人たち、あるいは、親友たち、あるいは、親族・縁者たちが彼の為に与えるものによって彼はそこで生活し、彼はそれによって住みます。バラモンよ、この適所に住する者にその布施は役立ちます」と。

「友ゴータマよ、もしその亡者である親族・縁者がその適所に生まれなければ、誰がその布施を享受するのですか」と〔尋ねた〕

「バラモンよ、彼の他の亡者である親族・縁者たちもまたその適所（餓鬼界）に生まれ、彼らがその布施を享受します」と〔答えた〕

「友ゴータマよ、もしその亡者である親族・縁者が、その適所に生まれなければ、だれがその布施を享受するのですか」と〔尋ねた〕

「バラモンよ、彼の他の亡者である親族・縁者たちもまた適所に生まれます、彼らがその布施を享受します¹⁴。バラモンよ、これほど長い間それが亡者である親族・縁者

¹³ 人間や神々に生まれることは、*Pv-a* や *Pj I* では、中略されているが、引用元の *AN* (vol. 5, pp. 269-270.) では、*Mthv-1* と同様に人間に再生している親族、神々に再生している親族についても言及されている。

¹⁴ *Mthv-1* では、先の間答が繰り返されているが、*Pv-a* では以下のように記されている。*Pv-a*, p. 28: 'sace pana gotama, so c' eva peto nātisālohito taṃ thānaṃ anupapanno hoti, aññe pi 'ssa petā nātisālohitaṃ taṃ thānaṃ anupapannā honti, ko taṃ dānaṃ

たちによって離れていることはあり得ない」という結論がここにおいて導かれるべきである、と。

【貧者による青蓮華の布施】(*Mth-v*, p. 20, 8)

さて、ある日その長老は午後に座から立って、衣と鉢を取って、鉢食を得る為に村に赴きました。その村では一人の貧しい人が母の看病をしていました。その時、彼は、村から出て、沐浴する為にとある池に至り、そこで沐浴し、8輪の青蓮華の花々を見つけて、それらを取って、池から上がり、帰路につきました。その時彼は、穏やかで、調御され、よく抑制され、感官を制し、至高なる容姿を備え、鉢を手に持ってやって来ている長老を見て、喜悦を起こし、長老のもとに近づきました、近づいて、10本の爪を集めて空洞の蓮型にした彼は、長老に礼拝し、熱心な信仰のために8輪の青蓮華の花々を長老の手に渡し (*therassa hatthe datvā*)、願いをかけて (*pañidhānaṃ karonto*) この偈を唱えました。

therassa hatthe datvā とは、長老の手に置いて [という意味である]

pañidhānaṃ karonto とは、願いを定めさせて [という意味である] *kara* という語根はすべてを覆うからである。

そしてこれが *Bālavatāra* の「*kāraka* の章」において言われている、

bhū と *kara* はすべての語根の意味においてある (使われる)¹⁵、と。

これらの花々を布施したことによって (*iminā pupphadānena*) わたしがどこにでも存在しますように、百千の誕生でも (何度生まれ変わったとしても) わたしが貧しくありませんように、と。

iminā pupphadānena とは、この8輪の青蓮華の花々という布施によって [という意味である] と師匠は言う。さらにまた、文法の性を [中性から女性に] 崩して、この8輪の青蓮華の花々を手放す無行の喜びを伴った智慧に相応しい欲界の善心によって、という [意味] が我々の認めるところである、説明はないがまさに思の布施である。根拠となる法門があるが故に、と。よりよい後者の意味の選択が採られるべきである。

paribuñjati' ti? (藤本 [2006: 193] : “しかし、友ゴータマよ、もしまた、彼すなわち亡き親族・血縁者がその境遇に生まれず、しかも彼以外の亡き親族・血縁者たちもその境遇に生まれていないとしたら、誰がその布施を享受するのですか？”)

¹⁵ *Bālav*, p. 108: *bhū-karā sabbadhātvaṃ atthesu eva santi*.

長老は、8輪の青蓮華の花々を受取り、随喜してこの偈を唱えました。

明浄心を有する者が (pasannamānaso) 劣ったものであれ、勝れたもの (lūkhaṃ paṇītaṃ vā) であれ (yaṃ yaṃ) 布施をすれば (deti) その布施の為に望み通り (yathā-icchā) 結果を得ます (samijjhatī) と。

yaṃ yaṃ とは、不特定であることを示す語である。彼によるいかなる施物も生じ、与えられるべきものは受け取られた。

lūkhaṃ majjhimam paṇītaṃ vā と言われるべきであるが、韻律を失うことを畏れて、majjhima という語の省略がなされたのである。彼によって何が説かれたのか。そこにおいて、まず第一に貧しく卑しく悪しき気持の人間、奴隷たちの布施と呼ばれる施物の〔力によって〕第二に中立の気持のある友たちのそれ(施物)の〔力によって〕そして第三にそれ(施物)の勝れた無上の気持のある主・支配者・長たち善人たちの力によって言われた、と説明された。というのも、施者は、施物の力によって布施の奴隷・布施の友・布施の主という3種ある。そのうち、自らは甘美を享受し、他者には質素で卑しく悪しき不味いものを与える者は、布施と名付けられた施物の奴隷となって与える。そして、自ら享受する物を与える者は、まさにそれ(施物)の友となって与える。さらに、自らは何かを享受し、他人には勝れたよりよい甘美を与える者は、それ(施物)の主・最勝者・支配者となって与える。

だから言われた。

根拠を総括して kūtadanta において大仙人によって、布施の奴隷・布施の友・布施の主という3種の施者が語られた¹⁶、と。

deti とは、施物に関して施捨する、という意味が、法に関して清浄にする、浄化をなす、という意味である。

¹⁶ 施者に関する散文と偈文は、DNの“kūtadanta sutta”(DN, pt. 1, pp. 127-149)に現れる pati という語に対する註釈、及び、副註の言及を踏まえたものと考えられる。DN, pt. 1, p. 137: saddho dāyako *dāna-patī* anāvaṭa-dvāro samaṇa-brāhmaṇa-kapaṇiddhika-vanībba-kāyācākaṇāṃ opāna-bhūto puññāni karoti (片山[2003: 47]: 信心があり、布施をよくし、布施の主として門戸を開き、沙門・バラモン・貧者・旅人・放浪者・乞食のために泉となって、もろもろの功德を積んでいる。) Sv, pt. 1, p. 298: *Dānapatī* ti yaṃ dānaṃ deti tassa pati hutvā deti, na dāso na sahaṃyo. Yo hi attanā madhuarm bhuñjati paresaṃ amadhuraṃ deti, so dāna-saṃkhātassa deyya-dhammassa *dāso hutvā deti*. Yo yaṃ attanā bhuñjati tad eva deti, so *sahaṃyo hutvā deti*. Yo pana attanā yena kenaci yāpeti paresaṃ madhuraṃ deti, so pati jetṭhako *sāmi hutvā deti*. Ayaṃ tādiso ti atho. Sv-pf, vol. 1, p. 425: *Yaṃ dānaṃ detīti* yaṃ deyyadhammam parassa deti. *Tassa pati hutvā* ti tabbisayaṃ lobhaṃ sutṭhu abhibhavanto tassa adhipati hutvā deti, anākaḍḍhaniyattā. *Na dāso na sahaṃyo* ti vatvā tad ubhayaṃ vyatirekato anvayato ca dassetuṃ *Yo hīti* ādi vuttam. *Dāso hutvā deti* tanhāya dānassa dāsavatam upagattā. *Sahaṃyo hutvā deti* tassa piyabhāvānissajjanayo. *Sāmi hutvā deti* tattha tanhādāsavyato attānaṃ mocetvā abhibhuyya pavattanato. Sāmi paribhogasadisā h' etassāyaṃ pavatti. (片山[2003: 47, fn. 9]: 布施をする者の主となって施す者《その対象となる貪欲を征服し、その主となって施す者》、奴隷とならず、友とならない者である。なぜなら自分は蜜を食べ他人には蜜でないものを与える者は、布施という名の施法の奴隷となって与える《渴愛によって布施の奴隷に陥る》から。また自分が食べるものだけを与える者は、友となって与える《愛情を捨てることができない》から。しかし、自分にはなにがしかのものによって生活し、他人には蜜を与える者は、主、最勝の主人となって与えるからである。)

Paṭṭhānaṭṭhakathā においても言われた、

dānaṃ datvā とは施物を施捨して [という意味である] あるいは、あるものによってそれが与えられる、その意思が布施を [与えてという意味である] datvā とは、清浄にして、浄化をなして [という意味である]¹⁷。

さらにまた、datvā とは、貪欲などの悪法から浄化させて、清めさせて、という意味である。

pasannamānaso とは、[過去・現在・未来という] 三世において喜んだ心となって [という意味である]

釈尊が言った、

施す前にはよい心で、施す心は清らかで、施してから喜ぶ、これが福德の完成である¹⁸、と。

yathā icchā とは、ある願望がある、[まさにその] 願望のままに [という意味である] 願望に相応しい、願望に適した、と言われたのである。

samijjhati とは、完成させる [という意味である] samijjhātu という読みもある。その意味は考察されない。

長老は、随喜して正しく思いました (sammacintesi) 「わたしは、これら 8 輪の青蓮華の花々をどこに (kuhim) 供えるべきか (āropessāmi) 塔廟に [供えたら] どうか (udāhu) 山頂にある [塔廟] か、般涅槃の地にある [塔廟] か、大菩提樹下にある [塔廟] か、世尊の初転法輪の地にある [塔廟] か？」と。さらに考えました、「わたしが、天界でチューラーマニ・チェーティヤを供養するならば、これらの場所を 7 度も供養したことになるのだろうか」と。

sammacintesi とは、まさに意門において心を生じさせる [という意味である]

kuhim とは、どこが供養されるべき場であるのか [という意味である]

āropessāmi とは、私が住立させましょう [という意味である]

pūjessāmi とは、私が供養しましょう [という意味である]

udāhu とは、思いめぐらす意味の不変化辞である。

¹⁷ *Paṭṭh-a*, pt. 1, p. 269: Dānaṃ datvā ti deyyadhammaṃ cajitvā. Yāya vā cetanāya so diyyati, sā cetanā dānaṃ. Datvā ti cetaṇaṃ pariyodāpetvā visuddhaṃ katvā.

¹⁸ 以下の偈文は *AN* からの引用である。*AN*, vol. 3, p. 337: Pubb' eva dānā sumano, dadaṃ cittaṃ pasādaye, datvā attamaṇo hoti: esā yaññassa sampadā. (『南伝』 vol. 20, p. 78: 施す先に意の悦喜 正施の時に心歡喜 施し已り意悦豫す 是ほどこの圓滿ぞ) また、同様の偈文が *Ja* (vol. 3, p. 300) にも見られる。中村 [1982: 23] 参照。

【長老のチューラーマニ・チェーティヤへの到来】(*Mth-v*, p. 22, 1)

長老は自分で考えるとすぐに、神通力の基礎 (*abhiññāpāda*) である第四禪に (*catutthajjhāna*) 入り (*samāpajjitvā*)、それから (*tato*) 出て (*vutthāya*)、空の表面に飛び上がり (*anilapathatalaṃ ullāṅghitvā*)、弾指の間に (*accharāsaṅghāṭamattam*)、世尊が自ら木綿のように柔らかい水掻のある掌で掴んだ剣で切断した最上なる髻髪を、「もし私がこの出家によって無上等覺を得て仏となるなら、私の髻髪は大地に落ちないでしょう」という決意をもって、大地に落下しつつないもの (髻髪) を虚空に投げ入れると、天界の王サッカ (帝釈天) が自身の頭で運んだみごとな金箱で受け取り、あらゆる神々の会衆を供養する為に、七宝の様々な地面によって大地の部分が莊嚴され輝いた三十三天の都の中央に敬意を持って建立された美しいサファイア製のチューラーマニ・チェーティヤのある中庭に (*Cūlāmaṇicetiyaṅgaṇa*) 至り、8 輪の青蓮華の花々で供養し、右繞し、八方に拝礼し、五体投地で礼拝し、東方に座りました。

abhiññāpāda とは、特性によって知られる神通力である。そしてそれ (神通力) は、神足通・天耳通・他心通・宿住通・天眼通という 5 種である。

これもまたアヌルツダという師匠によって説かれた。

神足通・天耳通・他心通・宿住通・天眼通という 5 種がある¹⁹、と。

そして、それらのうち *anilapathatalaṃ ullāṅghitvā* と言われたので神足通がここでは意味されている。この神通力の禪定によって行き、至る、というのが *pāda* (足) である。まさにそれが *pāda* (足をもつもの、すなわち、基礎) である。それは何か。[それは] 第四禪である。神通力をなすことが神通力の直接的原因であるという意味である。

abhiññāpāda とは、神通力によって確立されたものである²⁰、とこれが *Sāratthadīpanī* において説かれた²¹。

catutthajjhāna とは、[不苦不楽・捨・念・一心という] 4 つを満たす第四 [禪] が障碍となる法を焼滅させる、あるいは、修行者がこれによって思念する、というのが禪定であり、対象を思考するという意味である。自ら思念し、瞑想するというのが *jhāna* (禪定) である。省察の特徴を有する禪定である、と言われたのである。そして、それは、*ārammaṇūpanijjhāna* (対象の省察) と *lakkaṇūpanijjhāna* (特相の省察) というこの 2 種がある。そのうち、*ārammaṇūpanijjhāna* とは、近行定 (始めの安定度の低い禪定) と共に八等至が言われる。何故か。すべての対象を

¹⁹ Anuruddha による *Abhidhamma* の綱要 *Abhidhammthasāṅgaha* からの引用。 *Abhidh-s*, p. 48: *Iddhividhaṃ dibbasotaṃ paracittavijānaṇā, Pubbenivāsānussati dibbacakkhūti pañcadhā.*

²⁰ *Sp-ī*, p. 125: *abhiññāpāda* kaṇaṃ ti *abhiññāya patitthābhūtaṃ.*

²¹ *Sāratthadīpanī* は、*Vinaya* の註釈書 *Samantapāsādikā* の *Sāriputta* による副註である。

省察するからである。lakkhaṇūpanijjhānaṃ とは、ここでは観察の道の果 (vipassanāmagga) であると言われる。何故か、特相の省察であるから。なぜなら、ここにおいて観察 (vipassanā) が無常の特相などを省察するからである。そして、観察 (vipassanā) の省察というなされるべきことが道 (magga) によって成就する、という道が特相の省察である、と言われる。そして、[道が] 滅尽のそのような特相という果 (phala) を省察する、それ故に特相の省察と言われる。そしてこの意味において、対象の省察こそが禅定である、ということが意味されたのである²²。そして、この第四禅は、ある者たちにとって心を一点に集中する為のもので、ある者たちにとって観察の基礎であり、ある者たちにとって神通力の基礎であり、ある者たちにとって滅尽の基礎であり、ある者たちにとって生存に近づく為のものである。そのうち漏尽者たちにとって[第四禅は] 心を一点に集中させるためのものである。なぜなら彼らは、禅定に入り、一点に心を集中し、我々は幸福という住処に住むでしょう、とこのように一切の準備をなし、この禅定を生じさせる、彼らにとって[第四禅は] 心を一点に集中させるためのものである。禅定から出てからも、入定した心によって我々は観察するでしょう、と生じさせる有学の凡夫たちにとって[第四禅は] 観察の基礎である。そして、八等至を生じさせ、神通の基礎である禅定に入り、禅定から出て、「ひとつになり多になる」と言われた意味によって神通力を生じさせる者たちにとって[第四禅は] 神通力の基礎である。そして、八等至を生じさせ、滅尽の定に入り、一週間無意識となり、覚った法において涅槃に至り、我々は幸福という住処に住むでしょう、と生じさせる者たちにとって[第四禅は] 滅尽の基礎である。そして、八等至を生じさせて、不壊の禅定となり、梵天界に生まれるでしょう、と生じさせる者たちにとって[第四禅は] 生存に近づく為のものである。さらに、この第四禅は釈尊が菩提樹下で生じたものである、それこそが彼 (釈尊) にとって観察の基礎である。神通力の基礎と滅尽の基礎とは、一切の行いを成就させ、すべての世間・出世間の徳を与えるものである、と知られるべきである²³。そして、このマーレツヤデーヴァ長老にとってこの第四禅は、神通力の基礎に十分である、それ故に、abhiññāpādaṃ catutthajjhānaṃ(神通力の基礎である第四禅に)というこれが言われたのである。第四禅というこれは4つの説き方で説かれたと知られるべきである。5つの説き方によってまさに第五禅がある、そして、第一禅・第二禅・第三禅において神通力を基礎とする所作はない、

²² Sp. vol. 1, pp. 145-146: paccanīkadhamme jhāpetīti jhānaṃ, iminā yogino jhāyantīti pi jhānaṃ, paccanīkadhamme dahanti gocaraṃ vā cintentīti attho. sayam vā taṃ jhāyati upanijjhāyati jhānaṃ.

²³ Sp. vol. 1, pp. 156-157: imāni cattāri jhānāni kesañci cittekkaggatthāni hoti, kesañci vipassanāpādaṃ, kesañci abhiññāpādaṃ, kesañci nirodhapādaṃ, kesañci bhavokkamanatthāni. tattha khīṇāsavaṇaṃ cittekkaggatthāni honti. tehi samāpajjitvā ekaggacittā sukhaṃ divasaṃ viharissāma 'ti icc' evaṃ kasiṇaparikkamaṃ katvā aṭṭhasamāpattiyo nibbattenti. sekhaputhujjanānaṃ samāpattito vuṭṭhāya samāhitena cittaṃ vipassissāma 'ti nibbattentānaṃ vipassanāpādaṃ honti. ye pana aṭṭhasamāpattiyo nibbattetvā abhiññāpādaṃ jhānaṃ samāpajjitvā samāpattito vuṭṭhāya eko pi hutvā bahudhā hotīti vuttanaya abhiññāyo patthentā nibbattenti tesam abhiññāpādaṃ honti. ye pana aṭṭhasamāpattiyo nibbattetvā nirodhasamāpattiṃ samāpajjitvā sattāhaṃ acittā hutvā dīṭṭh' eva dhamme nirodhaṃ nibbānaṃ patvā sukhaṃ viharissāma 'ti nibbattenti, tesam nirodhapādaṃ honti. ye pana aṭṭhasamāpattiyo nibbattetvā aparihīṇajjhānā brahmaloke uppajjissāma 'ti nibbattenti, tesam bhavokkamanatthāni honti. bhagavatā pan' idaṃ catutthajjhānaṃ bodhirukkhamūle nibbattitaṃ taṃ tassa vipassanāpādaṃ c' eva ahoṣi abhiññāpādaṃ ca nirodhapādaṃ ca sabbakiccāsādhakaṃ ca sabbalokiyalokuttaraguṇadāyakaṃ ti veditabbaṃ. また、同等の言及が Ps, vol. 1, pp.124-125 にも見られる。

と説かれたのが第四禅である、と。

samāpajjitvā とは、起こして、入って[という意味である] 有支によって満たされなくなって [という意味である] まさに禅定の生起が入定である。

tato とは、その入定した禅定から [という意味である]

vuṭṭhaya とは、この禅定から出て、帰って来て、有支に住して [という意味である] 有支の生起こそが、出定である。

abhiññāpādakaṃ samāpajjitvā と言うと、この順序がある。まず初めに、2つの有支の動揺、1つの傾注、4つの速行、それらの最後に神通の基礎と呼ばれる第四禅に入り、そして、最後の有支の順から出定し、それらの最後に2つの有支の動揺、1つの傾注がある、それからこの道に従って私は進むでしょう、という思念があり、7つの速行の直後に有支、そして速行がある。そして、準備の終わりに有支の動揺・1つの傾注・4つの前段階の速行があり、それらの最後に確立と呼ばれる神通の第四禅に入る、[しかし] 定まってはいない、というこれが、*Visuddhimaggagaṇṭhi* において説かれた²⁴。

弾指の間に (accharasaṃghātamattam eva) は、チューラーマニ・チェーティヤのある中庭に (cūḷāmaṇicetiyaṅgaṇaṃ) 現れた (pāturaḥosi) と結びつく。sattaratana. la. (七宝の、省略) は、町の中にある sakalasuragaṇānaṃ pūjanatthāya pasādapatiṭṭhāpitan (あらゆる神々の会衆を供養する為に敬意を持って建立された) というのと結びつく。

それ故にこの偈に関係する語が古人によって言われたのである。

samāpajjitvā と、言われるべきであるが、偈の関係の軽い第5[音節]によって、ā字の短性があり、samāpajjitva、とこのように言われた。あるいは、剣を手にして (bandhitva) 死んだ、云々というように。

これもまた言われた。

あらゆるところで第5[音節]は軽く、第2・4[パーダ]において第7[音節]は [軽く]、その第6[音節]は重く、残りは不定と考えられた²⁵、と。

だから説かれました。

神通力の基礎である禅に入り、禅定から抜けると金鷲のように天空に昇り (uggamma)²⁶、直ちに (tāvad eva) まさに弾指の間にヴェージャヤンタ宮殿の前にある塔廟に近づいて、まさに供養し、彼は礼拝しました、と。

²⁴ *Visuddhimaggagaṇṭhi* のテキストは未入手のため引用元は未確認である。

²⁵ *Mil-ī*, p. 22: “Pañcamam lahu sabbattha sattamam dvi-catutthisu, chaṭṭhan tu garupāp(d?)ānaṃ(?) sesā aniyamā matā”

²⁶ *uggama tāvad eva* (*Mth-v*, p. 22, fn. 12) で翻訳。

uggamma とは、昇り「という意味である」。

tāvad eva とは、その時「という意味である」。

⑤【帝釈天と長老の対話】(Mth-v, p. 23, 3)

その時、天界の王サッカは、従者たちとともにやって来て、世尊の右齒とチューラーマニ・チェーティヤを色々な種類の華鬘・香・塗香などで供養し、その座った長老を見て、近づいて礼拝し、片側に座りました。そして、一切の天衆は、塔廟を礼拝し、右繞をなし、長老に礼拝し、遍く座りました。あらゆる天女たちも、塔廟を供養し、礼拝し、右繞をなし、**五体投地**によって (pañcapatiṭṭhitena) 長老に礼拝し、遍く座りました。

pañcapatiṭṭhitena とは、両膝・両ひじ・額という五支を置くことによって[という意味である]。

天界の王サッカは、長老に問いました、「尊者よ、あなたはどこから来たのですか」と。「大王よ、わたしは閻浮提からの来訪者です、塔廟を礼拝する為に [やって来ました]」と。さらに長老は、天界の王サッカに問いました、「大王よ、あなたによってチューラーマニ・チェーティヤが建立されたのですか」と。「その通りです、尊者よ、わたしによって神々の供養の為に建立されました」と。長老は、「天界の王よ、これらの神々は、人間界で善業をなし、天の樂を享受する為にここ(天界)に生まれたのに、これらの者たちはなぜ福德をなすのでしょうか」と問いました。「尊者よ、これらの神々は、善業をなして、さらに上の天界に行きたいのです。尊者よ、わずかな福德を有する神々は天界に長く住しません、たとえば、木桶に入れられたわずかな穀物がまさにすぐに尽きてしまうように。尊者よ、たくさんの福德を有する神々は、天界に長く住します、たとえば、蔵に置かれたたくさんの穀物が長くあって尽きないように。尊者よ、わずかな穀物を有する人々は、多くの技術や多くの知恵を有し、農耕・商売などをなし、生きるのは困難ではありません。同様にわずかな福德を有する神々は果を享受し、さらなる福德をなせば、のちに天の幸福を享受します。尊者よ、たとえば、たくさんの穀物を有する人々が、技術がなく知恵がなく農耕・商売などをなさなければ、穀物が尽き、後にさらに貧しい人々になります、このように、たくさんの福德を有する神々は、果を享受し、さらなる福德をなさなけ

れば、後に貧しい人々になります。尊者よ、たとえば、わずかな穀物を有し、技術がなく知恵がなく、農耕・商売などをなさない人々は、さらに貧しい人々になります、このように、わずかな福德を有する神々は、果を享受し、さらなる福德をなさなければ、さらに貧しい人々になります。尊者よ、たくさんの穀物を有し、たくさんの技術やたくさんの知恵を有する人々が、農耕・商売などをなせば、いっそう繁栄します、このように、たくさんの福德を有する神々は、布施や戒などをなし、上流（三界のうち最高の境地である悲想非非想処）に上がって涅槃にまで〔至ります〕と。それを聞いて長老は喜んでスジャンパティに問いました、「大王よ、すべての神々が、世尊の塔廟を礼拝する為にやってくる。聖なる弥勒菩薩はいらっしゃるのですか」と。「尊者よ、その通りです」と。「いついらっしゃるのですか」と。「尊者よ、8日あるいは14日あるいは15日に弥勒は塔廟を礼拝しにいらっしゃいます」と。「では今日は8日なので、彼はいらっしゃるのでしょうか」と。「その通りです、尊者よ」と。

【1人目の天人の到来】[*Mth-v*, p. 25, 8]

このように長老がサッカと一緒に話をしているちょうどその時、実に一人の天人が、百人の従者たちと一緒に塔廟を礼拝しにやってきました。長老はその天人がやってくるのを見てスジャンパティに問いました、「天界の王よ、こちらが弥勒菩薩ですか」と。「尊者よ、この方ではありません」と。「大王よ、誰のですか」と。「尊者よ、〔弥勒とは〕別人です (aññataro)」と。「天界の王よ、こちらの天人は、以前人間界でどんな福德をなしたのですか」と。サッカは彼の功德ある行いを説いてこの偈を唱えました。

aññataro とは、名と姓によって明らかにされていない者が〔という意味である〕

尊者よ、彼は人間界では貧しい草刈り人として生まれました、そして葉で包まれた食物を食べ、カラスに (kāke) 一つの団子を与えました、ただこれだけの福德をなし、そして、彼は人間界で死んだ後 (maraṇante) 輪廻して²⁷、それ(功德)によって彼は〔天界に〕再生しました、と。

²⁷ saritvāna (*Mth-v*, p. 26, fn.9) で翻訳。taṃ saritvā (*Mth-v*, p. 26) と解せば「それ(功德)を引き受けて」という意の可能性もある。

kāke とは、ここでは、与格の意味で第 7 格を [用いている] カラスの為に (kākassa) という意味である。

marāṇante とは、死ぬ時に、死が近い時に、という意味である。

だから説かれました (tena vuttaṃ)。

tena vuttaṃ という [句の] 意味は、“dakkhiṇāvibhaṅgasutta” において、

アーナンダよ、そのうち、畜生に布施をすれば、百倍の功德の施しが期待されるだろう²⁸、

と釈尊によって語られたことにより、この偈と関連する言葉が古の師匠たちによって説かれ、語られたのである。

カラスなどの畜生に (kākādike tiracchāne) 布施を与える者はだれでも、まさにその布施の為に (tass’ eva dānassa) 施者は百の (satam) 果報を (phalam) 得ます、と。

kākādike tiracchāne とは、ここにおいても与格の意味で第 7 格を [用いている] カラスなどの畜生の為に、と言われたのである。

tasseva dānassa phalam とは、まさにこの布施の長寿などの 5 つの功德を [という意味である]、

satam とは、百の生において、あるいは、自己存在において [という意味である]、

“dakkhiṇāvibhaṅgasuttaṭṭhakathā” においても説かれた。

sataguṇā とは、百の功德が [という意味である]、pāṭikaṃkhitabbā とは、願われるべきである [という意味である]、これが説かれている。この施しが百の寿命・百の容姿・百の幸福・百の力・百の弁才という 5 つの功德を与える。百の寿命は、百の自己存在に寿命を与える、同様に容姿・幸福・力・弁才を与える²⁹、と。

その天人はやって来て、塔廟で右繞をなし、八方に礼拝し、香・華鬘などで供養し、東方に座りました。

²⁸ MN, vol. 3, p. 255: Tatr, Ānanda, tiracchānagate dānaṃ datvā sataguṇā dakkhiṇā pāṭikaṃkhitabbā. (片山 [2002: 298]: アーナンダよ、そのうち、動物に対して布施をすれば、百徳の施を期待することができます。)

²⁹ Ps, pt. 5, pp. 71-72: sataguṇā ti satānisamsā. Pāṭikaṃkhitabbā ti icchītabbā. Idam vuttaṃ hoti: "ayam dakkhiṇā āyusataṃ vaṇṇasataṃ sukhasataṃ balasataṃ paṭibhānasatan" ti pañca-ānisamsasatāni deti, attabhāvasate āyus deti; vaṇṇam sukham balaṃ paṭibhānam deti. (片山 [2002: 497]: sataguṇā 百の利得 (satānisamsā)。ここはつぎのことが言われている。すなわち、この施 (dakkhiṇā) は、百の寿命 (āyu-sata)、百の容色 (vaṇṇa-sata)、百の楽 (sukha-sata)、百の力 (bala-sata)、百の弁才 (paṭibhāna-sata) という五百の利得を与える。百の自体 (attabhāva-sata) に寿命を与える。容色、楽、力、弁才を与える。)

【2人目の天人の到来】(*Mth-v*, p. 26, 11)

するとすぐに一人の天人が千人の従者と一緒にやって来て、世尊の為の塔廟を供養する為に身体の輝きによってあらゆる方角を照らしました。長老は、それを見てスジャンパティに問いました、「天界の王よ、こちらが弥勒菩薩ですか」と。「尊者よ、この方ではありません」と。「大王よ、誰なのですか」と。「尊者よ、[弥勒とは] 別人です。」と。「天界の王よ、この天人は以前人間界でどんな福德をなしたのですか」と。サッカは、彼の功德ある行いを説いて、この偈を唱えました。

尊者よ、彼は人間界で、ゴーパーラという名の若いバラモンとして生まれました、そして食事をしている彼は、自分のものの一部を牛飼いに与えました、その布施によって彼は千人に圍繞された者として生まれ、塔廟を礼拝する為に千人と一緒にやって来ました、と。
だから説かれました (*tena vuttam*)。

tena vuttam とは、“ *dakkhiṇāvibhaṅgasutta* ” において

戒を守らない凡夫に布施を与え、千の功德の施しが期待されるべきである³⁰、と言われた言葉と結びつくことにより、この偈との関連が古の師匠たちによって説かれたのである。

戒を守らず (*asīle*) わずかな福德をなす者たちに、布施を与えるなら、誰でもまさにその布施の千の果報を得ます、と。

asīle とは、戒を守らない [という意味である] 従って、罪深い牧牛者や漁師などは、他を害して生活をする人々をまとめている。その他 [の語句] は [先に] 説かれた意味である。

彼はやって来て、塔廟を右繞し、八方に礼拝し、香・華鬘などで供養して、西方に座りました。

【3人目の天人の到来】(*Mth-v*, p. 27, 8)

別の天人が、1万の従者と一緒にやって来て、偉大な身体の光明によって塔廟の円輪全体を照らしました。長老は、彼 (天人) がやって来たのを見て、ス

³⁰ *MN*, vol. 3, p. 255: *puthujjanadussīle dānaṃ datvā sahaṣṣaguṇā dakkhiṇā pāṭikankhitabbā*. (片山 [2002: 298] : 凡夫の破戒者に対して布施をすれば、千徳の施を期待することができます。)

ジャンパティに問いました、「天界の王よ、こちらの天人が弥勒菩薩ですか」と。「尊者よ、この方ではありません」と。「大王よ、誰なのですか」と「尊者よ、[弥勒とは]別人です」と。「大王よ、この天人は以前人間界でどんな福德をなしたのですか」と。サッカは、彼の功德ある行いを説いて、この偈を唱えました。

尊者よ、前世で、戒ある沙弥に施食を与え、その福德の果報によって、命を終えると天界にやって来ました、と。

だから説かれました (tena vuttam)。

tena vuttam とは、“dakkhiṇāvibhaṅgasutta”において、

戒を守る凡夫に布施を与えれば、1万の功德の施しが期待されるべきである³¹、という言葉が釈尊によって語られたことにより、この言葉が古人たちによって説かれたのである。

戒を守る凡夫に (puthujane sīlavante) 布施を与えれば誰でも、実にその1万の (dasasahassam) 果報を (phalam) 施者は得ます、と。

puthujane sīlavante とは、沙弥について語ったのである。

また、“dakkhiṇāvibhaṅgaṭṭhakathā”では、

puthujjanasīlavā とは、まさに戒を守る凡夫で、牛の習性を備え、狡くなく、欺瞞でなく、他を害することなく、正しく等しく農耕や商売によって生活する者である³²、

と説かれた。それは残らず説かれたと理解されるべきである。

dasasahassam とは、1万の生において、あるいは、[1万の]自己存在において[という意味である]

phalam とは、寿命・容姿・幸福・力・弁才と呼ばれる5つの功德を備える[という意味である]

³¹ MN, vol. 3, p. 255: puthujjanasīlavante dānam datva satasahassagunā dakkhiṇā pāṭikankhitabbā. (片山 [2002: 298]: 凡夫の持戒者に対して布施をすれば十万徳の施を期待することができます。) *Mth-v-1* と *Mth-v* では、凡夫の持戒者に布施をした場合、1万の (dasasahassa) 功德が期待できると説いている。

³² Ps, pt. 5, p. 71: *Puthujjanasīlavante* ti puthujjanasīlavā nāma gosīladhātuko hoti. Asaṭho amāyāvī param apīletvā dhammena samena kasiyā vā vāṇijjāya vā jīvitam kappetā. (片山 [2002: 298, fn. 1]: 「凡夫の持戒者」とは、牛の習性をそなえ (gosīladhātuka) 諂いがなく (asaṭha)、誑かしがなく (amāyāvī) 他を圧迫せず、正しく (dhammena)、等しく (samena)、耕作 (kasi) により、あるいは商売 (vāṇijjā) により、生活を営む者である。)

彼はやって来て、塔廟を右繞し、八方に礼拝し、香や華鬘などで供養し、南方に座りました。

【4人目の天人の到来】(*Mth-v*, p. 28, 4)

別の天人は2万の従者と一緒にやって来て、偉大な身体の光明と装身具によって虚空円輪を照らしました。長老は、彼(天人)がやって来たのを見て、スジャンパティに問いました、「天界の王よ、こちらの天人が聖なる弥勒菩薩ですか」と。「尊者よ、この方ではありません」と。「大王よ、誰なのですか」と。「尊者よ、[弥勒とは]別人です」と。「天界の王よ、この天人は、以前人間界でどんな福德をなしたのですか」と。サッカは彼の功德ある行いを説いてこの偈を唱えました。

その時、彼は常乞食比丘のために(*piṇḍapātikabhikkhuno*) 施食(*bhikkhaṃ*) を与え、その功德ある行いによって命を終えると天界にやって来ました(*saggam āgato*) と。

piṇḍapātikabhikkhuno という語について *bhikkhaṃ* (施食) と言われた、乞求されるべき、乞われるべきものというのが、*bhikkhaṃ* (施食) である。食物などのことである。

saggam āgato とは、再生によって天界の三十三天宮にやって来た[という意味である]

だから説かれました。

戒を守る比丘に布施を与えれば、誰でもその2万倍の果報を施者は得ます、と。

彼はやって来て、塔廟を右繞して、八方に礼拝し、北方に座りました。

【5人目の天人の到来】(*Mth-v*, p. 29, 2)

その時一人の天人が3万の従者と一緒に塔廟を礼拝する為にやって来ました。長老は、彼(天人)がやって来たのを見て、スジャンパティに問いました、「天界の王よ、この天人が聖なる弥勒菩薩ですか」と。「尊者よ、この方ではありません」と。「大王よ、誰なのですか」と。「尊者よ、[弥勒とは]別人です」と。「天界の王よ。この天人は以前人間界でどんな福德をなしたのですか」と。サッカは彼の功德ある行いを説いて言いました。

前世においてアヌラーダプラで清浄な行いによって生き、彼は、た

くさんの福德をなす織師である、と有名でした (vissuto)。死者の身体を火葬し、まさにそこにそれ [福德] を指定し、彼は具戒者たちに布施を与えました、薬・食物・衣・臥具・座具を [与えました]。まさにその功德ある行いによって、三十三天の都に生まれました、と。

visutto とは、有名である [という意味である]

彼はやって来て、塔廟を右繞し、八方に礼拝し、香や華鬘などで供養し、すぐ後ろに座りました。

【6人目の天人の到来】(*Mth-v*, p. 29, 15)

そして、別の天人が、4万の従者と一緒に塔廟を礼拝しにやって来ました。長老は、彼 (天人) がやって来たのを見て、スジャンパティに問いました、「天界の王よ、こちらの天人が弥勒菩薩ですか」と。「尊者よ、この方ではありません」と。「大王よ、誰なのですか」と。「尊者よ、[弥勒とは] 別人です。」と。「天界の王よ、この天人は以前人間界でどんな福德をなしたのですか」と。サッカは、その功德ある行いを説いて言いました。

ハリターラ (Haritālo) という偉大な富豪は、ハリターラの村で、施捨した具戒者として、信のある生活によって生きていました。具戒者たちに薬・衣・飲食を与え、行いの果報として三十三天の都に生まれました、と。

Haritālo とは、これは村の名前である。その当時彼が住んでいた村に従って付けられた名前がハリターラ大富豪である、と理解されるべきである。例えば、ラージャガハ富豪と、ここにおいて [言われた] ようなものである。

彼はやって来て、世尊の為の塔廟を右繞し、八方に礼拝し、香・華鬘などで供養し、すぐ後ろに座りました。

【7人目の天人の到来】(*Mth-v*, p. 30, 11)

別の天人は5万の従者と一緒に塔廟を礼拝する為にやって来ました。長老は、

彼(天人)がやって来たのを見て、スジャンパティに問いました、「天界の王よ、こちらの天人が、弥勒菩薩ですか」と。「尊者よ、この方ではありません」と。「大王よ、誰なのですか」と。「尊者よ、[弥勒とは]別人です」と。「天界の王よ、この天人は以前人間界でどんな福德をなしたのですか」と。サッカは、彼の功德ある行いを説いて言いました。

ターンバパンニ島に君主として生まれ、アバヤドゥッタの弟で (Abhayaduṭṭhassa bhātā) サッターティッサと名付けられました、澄浄な心を有する彼は、仏法僧を崇め (gāraṇa) 五戒を (pañcasīlaṃ) 常に守り³³、八齋戒をなし (aṭṭhaṅg' uposathaṃ) 具戒者たちに布施をし、求めに応じて物惜しみしませんでした、その行いの果報として三十三天の邸宅に生まれました、と。

abhayaduṭṭhassa bhātā とは、カーカヴァンナティッサ王の息子アバヤドゥッタガーマニ王子の最年少の[弟が]サッターティッサ王子である。彼(サッターティッサ王子)は、弥勒という名の第二の勝れた声聞となるだろう³⁴。

gāraṇa とは、へりくだって振る舞うこと、あるいは、従順であること[という意味である]、pañcasīlaṃ は、常に守るべき戒として説かれた。

そして、aṭṭhaṅguposathaṃ という語句の意味は、マーラツヤの註釈(『マーレツヤデーヴァ長老物語註』)第2部において語るでしょう³⁵。

彼はやって来て、塔廟を右繞して、八方に礼拝して、香・華鬘などで供養し、すぐ後ろに座りました。

【8人目の天人の到来】(Mth-v, p. 31, 8)

別の天人は6万の従者と一緒に塔廟を礼拝するためにやって来ました。長老は、彼(天人)がやって来たのを見て、天界の王に問いました、「大王よ、この天人が弥勒菩薩ですか」と。「尊者よ、この方ではありません」と。「大王よ、誰なのですか」と。「尊者よ、[弥勒とは]別人です」と。「天界の王よ、この天人は以前人間界でどんな福德をなしたのですか」と。サッカは、彼の功德ある

³³ pañcasīle saññāmo niccaṃ (Mth-v, p. 31, fn. 6) で翻訳。

³⁴ Mhv, p. 265: (82) Rañño pitā pitā tassa, mātā mātā bhavissati, Saddhātisso kaṇiṭṭho tu dutiyo hessati sāvako. (和訳：王(ドゥッタガーマニ王)の父は彼の父に、母は母となるだろう、そして年下の[弟]サッターティッサは[弥勒の]第二の声聞となるだろう。)

³⁵ Mth-v-f, p. 170.

行いを説いて言いました。

アバヤドゥッタ (Abhayadutt̥ho) という名前で、四資具を施す者は、
仏法僧に恭しく敬意を表しました。彼は如来のための仏塔に菩提樹
を植えて、父母や比丘たちのために施物を (dakkhiṇaṃ) 与えまし
た、具戒者たちに乞求者たちのために少なからざる施しをしました、
敬虔に命を終え、それから三十三天の邸宅に生まれました、と。

abhayadutt̥ho とは、カーカヴァンナティッサ王の長男アヴァヤドゥッタガーマニーのこと
である。彼について abhayadutt̥ha という名前で説かれたのである³⁶。彼は、尊き弥勒の第一
の勝れた声聞となるでしょう³⁷、と [言われる]

dakkhiṇaṃ とは、幸福によって与え、これによって繁栄するというのが dakkhiṇaṃ(施物を)
である。食物などの与えられるべきものである。

彼はやって来て、塔廟を右繞し、八方に礼拝して、香・華鬘などで供養し、す
ぐ後ろに座りました。

【9人目の天人の到来】(Mth-v, p. 32, 5)

その時一人の天人が7万の従者と一緒に塔廟を礼拝する為にやって来ました。
長老は、彼(天人)がやって来たのを見て、スジャンパティに問いました、「天
界の王よ、この天人が弥勒菩薩ですか」と。「尊者よ、この方ではありません」
と。「大王よ、誰なのですか」と。「尊者よ、[弥勒とは]別人です」と。「天界
の王よ、この天人は、以前人間界でどんな福德をなしたのですか」と。サツカ
は、彼の功德ある行いを説いて言いました。

都において沙弥であった彼は、熱心で、賢明でした、仏法僧に恭し
く敬意を表しました。温水冷水によって昼夜努力し続け、常に篝や
灯明によって僧団に仕えました。その行いの果報として三十三天の
都に生まれました、と。

彼はやって来て、塔廟を右繞し、八方に礼拝し、香や華鬘などで供養し、す
ぐ後ろに座りました。

³⁶ DPPN, vol. 1, p. 1093 では、カーカヴァンナティッサ王の王子の名を Duṭṭhagāmaṇī-Abhaya としている。

³⁷ Mhv, p. 265: (81) Duṭṭhagāmaṇirāja so rājanāmāraho mahā, Metteyyassa bhagavato hessati aggasāvako. (和訳：王という名に
ふさわしいその偉大なドゥッタガーマニ王は、尊い弥勒の第一の声聞となるでしょう。)

【10 人目の天人の到来】(*Mth-v*, p. 33, 2)

そのとき別の天人が、8 万の従者と一緒に塔廟を礼拝する為にやって来ました。長老は、彼(天人)がやって来たのを見て、スジャンパティに問いました、「天界の王よ、この天人が弥勒菩薩ですか」と。「尊者よ、この方ではありません。」と「大王よ、誰なのですか」と。「尊者よ、[弥勒とは]別人です」と。「天界の王よ、以前この方は人間界でどんな福德をなしたのですか」と。サッカは彼の功德ある行いを説いて言いました。

貧しい一族に(*duggatassa kule*)生まれた彼は、他人から与えられたものによって(*parādhinena*)生きていました。行境で他人の家に立った³⁸比丘を見ると、気づいていない家主に知らせて言いました、「主人よ、具戒者である高貴な者が家の門に立っています。[自分が]得られた通りによい鉢食をそのように与えなさい」と。聞くと家主はまさに喜んで彼に言いました。「友よ、善く話されました、わたしが鉢食を与えます」と、鉢食を取って、長老に手渡しました。この発言によって(*vacībhedena*)三十三天の都に生まれました、と。

duggatassa kule とは、貧しい家に[という意味である]

parādhinena とは、他人の分け与えた行為によって[という意味である]

vacībhedena とは、口にすることによって[という意味である]

彼はやって来て塔廟を右繞し、八方に礼拝し、香や華鬘などで供養し、すぐ後ろに座りました。

【11 人目の天人の到来】(*Mth-v*, p. 34, 4)

そのとき一人の天人が 9 万の従者と一緒に塔廟を礼拝する為にやって来ました。長老は彼(天人)がやって来たのを見て、スジャンパティに問いました、「天界の王よ、この天人が、弥勒菩薩ですか」と。「大王よ、誰なのですか」と。「尊者よ、[弥勒とは]別人です」と。「天界の王よ、この天人は以前人間界でどんな福德をなしたのですか」と。サッカは彼の功德ある行いを説いて言いました。

彼は、ターンバパンニ島のカンニカーリカ村で如来の塔を³⁹見て、カンニカーラによって(*kaṇṇikārena*)供養しました、灯明としての

³⁸ *tiṭṭhakam* (*Mth-v*, p. 33, fn. 12) で翻訳。

³⁹ *tathāgatathūpaṃ* (*Mth-v*, p. 34, fn. 12) で翻訳。

両眼によって (cakkhudvayapadīpena) 花としての頭によって、香としての声によって、あるいは妙香としての心によって [供養しました] その行いの果報として三十三天の都に生まれました、と。

kaṇṇikārena とは、カンニカーラの花によって [という意味である]

cakkhudvayapadīpena とは、両眼を燈明のようにして供養した、という意味である。残りの [sirasā などの] 語句についてもこのようである。

彼はやって来て、右繞をなして、八方に礼拝し、香や華鬘などで供養し、すぐ後ろに座りました。

【12人目の天人の到来】(*Mth-v*, p. 34, 16)

そのとき一人の天人が10万の従者たちと一緒に塔廟を礼拝する為にやって来ました。長老は彼(天人)がやって来たのを見て、スジャンパティに問いました、「天界の王よ、この天人が弥勒菩薩ですか」と。「尊者よ、この方ではありません」と。「大王よ、誰なのですか」と。「尊者よ、[弥勒とは] 別人です」と。「天界の王よ、この天人は以前人間界でどんな福德をなしたのですか」と。サツカは、彼の功德ある行いを説いて言いました。

前世では、アヌラーダラブの貧しい草刈り人であった彼は、殺生を慎んで、適当な小屋に住していました、草や薪を運んで、正しい生活によって生きていました。

後に一人で河に行き、銀の砂を見つけて運び (viyūhitvāna) そして、彼は塔廟をも建立し、善き心を有する (sumano) 彼はこう言いました、

「なんと美しいのか、実にわたしの塔廟は、瑠璃色に輝いている、炎が燃えたように輝いてとても美しく (susubham) 感動的で (hadayaṅgamam) 彩られ、見事です。わたしによって砂で造られたすぐれた塔廟をわたしは礼拝します、身口意と共に花々で供養します」と。

viyūhitvā とは、整えて、集まりにして [という意味である]

sumano とは、美しい心をもつ [という意味である] 喜びの心を起こした、という意味である。

susubham とは、非常に美しく、すばらしい、という意味である。

hadayaṅgamam とは、心臓に、心に伝わった [という意味である]

具戒者に仕えて (sīlavante bharitvāna) 彼は [自分が] 得た通りに (yathāladham) 与えました。その行いの果報として三十三天宮に (tidasālaye) 生まれました、と。

sīlavante bharitvāna とは、具戒者たちを養い、奉仕して [という意味である]

yathāladham とは、あるもの、あるいは、ある者によって得られたものが、得られた通りに適切に得られた、という意味である。

ここにおいて、tidasālaye とは、10 と 10 と 10 というのが dasa (10) で、3 と dasa で tidasa である。さらにまた、3 によって数えられた (3 倍にされた) 10 が tidasa (30) である。これらの 30 の量というのが、tidasa である。titidasā と言われるべきであるが、ti という語が一つ削られて示されている。ālayam というのは、ここにおいて楽しむというのが、ālaya (愛著) である。さらにまた、āgantvālayam (ālaya にやって来て) という場合、ここに座るとというのが ālaya (住处) である。両者とも知られるべきである。三十の ālaya が、tidasālaya であり、三十三天である。それ (三十三天) は、帝釈天をはじめとする三十三天の人々の 1 万ヨージュアナもの住处である。その三十三天にある三十三天宮という意味である。

彼も (so pi) やって来て、塔廟を右繞し、八方に礼拝し、香や華鬘などで供養し、すぐ後ろに (tadanantare) 座りました (nisīdi)。

このように、12 人の天人たちによって特徴づけられたマーレツヤ物語第 1 部が結ばれました。

ここにおいて、so pi とは、pi という語が先に語られたことを予期する意味である。なぜなら、その pi という文字は、最初にやって来た天人たちが予期されたからである。

tadanantare とは、その最初から続けてやって来た天人の間隔のないところに、あるいは、彼らのすぐ後ろに [という意味である]

nisīdi とは、神々に従って、動くことを中断して座った姿勢になるという [意味である]

以上、『マーレツヤデーヴァ長老物語註』第 1 部が、Tilokatilaka-anantabuddha-sirisaddhammakittimānandapañña という名の長老によって作り終えられた。

【弥勒菩薩のチューラーマニ・チェーティヤへの到来】(*Mth-v*, p. 36, 9)

その時、聖なる弥勒菩薩は (*tadā Ariyametteyyo bodhisatto*) 1 千の光によって照らし出された月光にも優る光明による輝きを持ち、10 万コーティの若い天女や天人たちによって (*koṭisatasahassasurayuvatisuraputtehi*) 囲まれ、星の群れによって囲まれ、雨雲の覆っていることのない秋空に浮かんだ満月のように輝きながら、灯火・香・塗香・華鬘などを取らせて、塔廟を礼拝する為に兜率天から下り、三十三天の都全土を天の光明によって照らしながら、天の香を放ちながら、自分自身の無類の美しさを持って、自分自身の無類の優美さをもって、塔廟の庭にやって来て、右繞をし、八方を礼拝し、供養し、東方に (*pācinadisābhāge*) 座りました。

だから説かれました (*tena vuttam*) 。

そのとき聖なる弥勒は、1 千万の者たちによって (*koṭihi*) 囲まれていました。前方に百人の天女たち (*satam kaññā*)、後方に百人の天女たち、右側に百人の天女たち、左側に百人の天女たちがいます。星の中心に月が (*candimā*) あるように彼女たちの中心に弥勒はいました。天女たちの光線によって (*raṃsīhi*)、彼女たちの装身具によって、あらゆる方角が 1 千万の月光のように (*koṭicandappabhā viyā*) 照らされました、と。

このように 12 人の天人たちによって知られたマーレツヤ物語第 1 部を示して、その直後にマーレツヤ物語第 2 部を示すために *tadā ariyametteyyo* 云々と言った。その中で *tadā* とはまさにその時、10 万人の従者を伴った天人の座った時、という意味である。また、ここにおいて [*tadā* の] *ta* の音は過ぎ去った領域と理解されるべきである。また、10 万人の従者を伴った後方からやって来た天人が座ったちょうどその時弥勒菩薩は (中略) 座りました、という意味である。[*tadā* の] *ta* の音は [*yadā* の] *ya* の音を期待すると言われた。

だから、言葉を知る人 (音声学) は言った。

yan というのを聞いて *tan* という句を、*tan* というのを聞いて *yan* という句を [期待する]、*ya* と *ta* の音には常に結合があるので結びつけられるべきである、と。

[*ariyametteyyo* の] *ariyo* (聖なる) というのは敵から遠く離れ、あるいは、世間法において不動であるのが *ariya* である。さらにまた、*ariyo* というのは「最上」である。4 つの *ariya* の分類の中で *ācāra-ariya* がここでの意味である。彼は最上の行いを備えた聖なる者である、と言われた。 *ariyasīlabbato hi so* という句のように、*ariyasīlabbato* とは、「最上の戒と掟を備えた者」であ

る。そして、*Himavantaṭṭhakathā*⁴⁰でこの意味が見られるべきである。そして、それによって彼の終わりのない限りのない戒など善人の徳の集まりの完成を示している。ここにおいて metteyyo は、ミッターという名の婆羅門女の子孫が metteyyo (弥勒) である⁴¹。そしてこれが古の言説によって言われた、なぜかというこの自己存在において化生という再生であるから。ariyo と metteyyo とで ariyametteyyo (聖なる弥勒が) である。期待がある時も暗示の故に省略がある。8人の聖人云々におけるように。四聖道において菩提に執着する、というのが bodhisatta (菩薩) である。

pācīnadisābhāge (東の方角に) とは、「塔廟の東方の虚空に」である。天界には月と太陽がないが、pācīnadisābhāge (東の方角に) と言われべきであるというのは反論がある。この天界において人間界の規定によって [規定している] なぜなら、人間は我々の人間界にある月と太陽の力によって東方や四維という規定があるため、天界にもそのように方角の規定があるだろう、と考えるからである。従って、天界には月も太陽もないが人間界における規定によって pācīnadisābhāge (東の方角に) と言われたと理解すべきである。その場所に行くべきである。

「その理由によって (tena)」この偈との関係が古の師匠たちによって説かれた、[あるいは] 伝承に関して法結集者などの「ある師匠によって (tena)」説かれた [ので] tena vuttan という、これは、我々が認めるところである。[一方] ある師匠たちは、この定義を知らず、別の方法で tena vuttan という語義を説く。どのようにかということ。この偈との関係が「そのマーレツヤの著者である師匠によって (tena)」言われた。[また] このように部分的にしか理解していない師匠たちは tena vuttan (それによって生じた) と言って語義を説く。そう捉えられるべきではない。

koṭīhi とは、ここでは次の語句が欠けている。koṭīsatasaḥassehi (10万コーティによって) という意味である。

sataṃ kaññā というのは、「百人の若い天女と若い天人が」である。残りの箇所に於いてもこれが意味である。そうでなければ、koṭīsatasaḥassasurayuvatisuraputtehi (10万コーティの天女や天人たちによって) と一致しない。もしこのように purato ca sataṃ kaññā. la. vāmato accharā sataṃ と言うと、これによって 4 百人の天女が捉えられ、残りの若い天女と天人がいる。何故かと言われると。彼らも 4 種となり、東から 2 万 4 千 9 百であり、同様に後方から、右から、左から [到来する] [さらに] 一カ所に百人ずつ置いて、2 万 5 千を超えられるべきである。ある者たちは sata は数百であると言う。[しかし] そう捉えられるべきではない。

candimā とは、「満月が」である。virocati (輝く) というのが読みの残りである (省略されて

⁴⁰ 第 547 話『ヴェッサンタラジャータカ』第 1725 偈。Ja, vol. 6, p. 491: na cāhaṃ pi tassa dubbeyyaṃ, ariyasīlavato hi so, asiloko pi me assa, pāpañ ca pasave bahuṃ, kathaṃ Vessantaraṃ puttaṃ satthena ghātayāmaṃ ti. (中村 [1988: 160]: 彼を迫害したくもない、彼には気品高い品性があるから、大変な罪も生じよう、わが子ヴェッサンタラを、どうして剣で殺せよう)

⁴¹ 三上 [1989: 170-171] によると、Buddhaghosa 以降の文献において弥勒の母は Brahmavatī という名で言及されている。Vism. p. 434: Subrahmanāṃ' assa brāhmaṇo pitā bhavissati Brahmavatī nāma brāhmaṇī mātā ti.

いる。

ramṣīhi とは、「身体の光線によって」である。あらゆる天人たちの身体の輝きは、自然に 12 ヨーjanaに広がる。

koticandappabhā viya とは、「コーティの月の光のように」である。

【弥勒の前方の天女について】(Mth-v, p. 37, 11)

長老は、遠くから菩薩がやって来たのを見て、スジャンパティに問いました、「天界の王よ、こちらが弥勒菩薩ですか」と。「尊者よ、その通りです」と。「天界の王よ、弥勒の前方からやって来て (devarāja, etā devakaññā Metteyyassa purato āgatā) 白い光線を放ち、白い衣を着て、白い装身具を持ったこれらの天女たちは、前世において人間界でどんな福德をなしたのですか」と。サッカは、彼女たちの功德ある行いを説いて言いました。

尊者よ、前世では天女たちは皆、人間界に生まれました、布薩日 (uposathamhi divase) に功德ある布施などをなし、白い衣、白い華鬘、白い香と塗香、白い食物を最上仏と比丘 (buddhassetthassa bhikkhuno) に与えました。まさにその功德ある行い (puññakamma) によって、弥勒の前方に行きました、と。

koṭisatasahassasurayuvatisuraputtehi (10 万の若い天女と天人たちによって) と先述されたのになぜ長老によって devarāja, etā devakaññā metteyyassa purato āgata (天界の王よ、これらの天女たちが弥勒の前方からやって来た) と説かれたのかということ。天女たちはさらに多いからである。というのも若い天女と天人のうち若い天女の方がより多い、それ故に沢山であるという意趣によって devarāja, etā devakaññā metteyyassa purato āgata (天界の王よ、これらの天女たちが弥勒の前方からやって来た) というこれが説かれたのである。

uposathamhi divase というのは、ここでは何が布薩日と言われたのか。八支を備えた布薩戒を受持する、まさにその日が布薩日と言われる。例えば世界には各々に祭日があるのではなく、世界が祭を受けるその時が祭日と言われる、このように月などに自分の初日などがあるようなものであり、各々に布薩日があるのではない、そしてある時々に義を望んだ者たちが布薩に入るそれが布薩日であると言われる。八支を備えた布薩戒を受持するまさにその日が布薩日であると言われた。uposathamhi divase というのは戒を受持する日という意味が捉えられるべきである。

buddhassetthassa bhikkhuno とは、「ブツダを上首とする比丘僧伽に」である。bhikkhuno というのは、ここでは buddhassetthassa と言われるべきであったが、偈の[韻律]関係によって bhikkhuno

と言われた。また、buddhassetthassa bhikkhuno とは、buddhassetthassa (ブツダを上首とする者のために) と (ca) bhikkhūnañ (比丘たちのために) である。ca の語は、集合を意味する。なぜ適用されないのか、という。意味が理解できるからである。setthassa とは、言葉に含意されたことによって一切智仏であることがここで意味されたのであり、独覚仏であることが [意味されたのでは] ない。

puññakamma というのは、「布施などの善業によって」である。

【弥勒の右側の天女について】(*Mth-v*, p. 38, 3)

長老はそれを聞いて、彼女たちの功德ある行いを讃えながら、再びスジャンパーティに問いました、「天界の王よ、弥勒の右側にやって来た黄色い光線を放ち、黄色い衣を着て、黄色い装身具を持ったこれらの天女たちは、前世において人間界でどんな福德をなしたのですか」と。サッカは、彼女たちの功德ある行いを説いて言いました。

尊者よ、前世では天女たちは皆、人間界に生まれました、布薩日に功德ある戒を守り、黄色い衣、黄色い華鬘、黄色い香と塗香、黄色い食物を最上仏と比丘に与えました。まさにその功德ある行いによって、弥勒の右側に行きました、と。

21 【弥勒の左側の天女について】(*Mth-v*, p. 38, 12)

長老はそれを聞いて、彼女たちの功德ある行いを讃えながら、再び天界の王に問いました、「天界の王よ、[弥勒の] 左側にやって来た赤い光線を放ち、赤い衣を着て、赤い装身具を持ったこれらの天女たちは、前世において人間界でどんな福德をなしたのですか」と。サッカは、彼女たちの功德ある行いを説いて言いました。

尊者よ、前世で天女たちは皆、人間界に生まれました、布薩日に法を聞いて、よく供養し、赤い衣、赤い華鬘、赤い香と塗香、赤い食物を最上仏と比丘に与えました。三宝を供養し、弥勒の左側に行きました、と。

22 【弥勒の後方の天女について】(*Mth-v*, p. 39, 8)

長老はそれを聞いて、彼女たちの功德ある行いを讃えながら、再びスジャンパーティに問いました、「天界の王よ、後方にやって来た黒い光線を放ち、黒い衣

を着て、黒い装身具を持ったこれらの天女たちは、前世において人間界でどんな福德をなしたのですか」と。サツカは彼女たちの功德ある行いを説いて言いました。

尊者よ、前世で天女たちは皆、人間界に生まれました、布薩日に法を聞いて、よく供養し、黒い衣、黒い華鬘、黒い香と塗香、黒い食物を最上仏と比丘に与えました。自制し (saṃyamā) 分け与えた (saṃvihātā) 彼女たちは、弥勒の後方に行きました、と。

saṃyamā というのは、殺生などの罪から自制する者たちは [という意味である]

saṃvihātā とは、布施などを与えることを好む者たちは [という意味である] 布施を等しく配分する、という意味である。saṃyamā という語によって戒を具足している状態を示している。saṃvihātā というこの [語] によって布施心の具足が示されている。

23 【帝釈天と長老の対話】(*Mth-v*, p. 40, 3)

長老はそれを聞いて、彼女たちの功德ある行いを讃えながら、再びスジャンパティに問いました、「天界の王よ、弥勒はこのような幸福を得ています。では、どんな福德をなしたのですか」と。サツカは、弥勒の福德を簡潔に、海を飛び越えるうさぎの譬喩と山に登る盲人の譬喩によって般若を明らかにし、さらに、信において優れた・般若において優れた・精進において優れた、と言われる 3 つの (tiṇṇaṃ) [菩薩] がおり、多劫の間身口意によって [徳を] 積んだ者で、心を傾け三種 (身口意) によって善くなされた五大施捨、[すなわち] 財を施捨すること⁴²・子を施捨すること・妻を施捨すること・肢体を施捨すること・生命を施捨することが布施波羅蜜であり、その (布施) のように戒・出離・慧・精進・忍耐・真実・決定・慈・捨というのが十波羅蜜 (dasapāramī) であり、十近波羅蜜 (dasa-upapāramī) ・十最勝義波羅蜜 (dasaparamatthapāramī) というのを合わせた三十波羅蜜 (sama-tiṇṇasapāramiyo) を満たした菩薩たちの中で (bodhisattānaṃ) 精進において優れた菩薩が、聖なる弥勒菩薩であると説いて、これらの偈を唱えました。

tiṇṇaṃ というのは、bodhisattāna (菩薩の) というこの語との結合が知られるべきである。tiṇṇaṃ bodhisattāna (3 種の菩薩) という意味である。

⁴² pañcamahāpariccāga (*Mth-v*, p. 40, fn. 15) を dhanapariccāga の前に加え翻訳。

dasapārami というのは、摩訶薩である諸々の菩薩は布施や戒など優れた徳と結合することによって衆生の中で無上であるから最上 (paramā) である。彼ら (菩薩たち) の特性あるいは行いが波羅蜜 (pāramī) である。それ (波羅蜜) とは何か、布施などの行為である。さらにまた、布施などの徳において、parati (最高となる⁴³)、あるいは pāleti (護る)、あるいは pūreti (満たす) というのが paramo (最上者) である。至高の一切智菩薩の存在あるいは行為が波羅蜜である。まさに布施などの行いである。さらにまた、優れた徳を身につけることによって、他の (param) 衆生を自分に muvati (結びつけ⁴⁴)、縛り付ける、また、他の (param) [衆生を] 汚れた垢からより優れたものに清め、浄化する、また、至高の (param) 最上の涅槃に mayati (赴いて⁴⁵) 行く、また、あの (param) 世を基準となる優れた智にによってこの世のように知り、決定する、また、自己の真実である法身とは異なる他の (param) あるいは敵であるその不利益をもたらす煩惱という盜賊集を計り、滅する、というのが paramo (最上者) である⁴⁶。誰がその菩薩か。最上のその存在あるいは行為が pāramī (波羅蜜)、まさに布施等の行いである。dasapāramī と言われたので、布施・戒・出離・慧・精進・忍・真実・決定・慈悲・捨と呼ばれる諸々の波羅蜜が pāramī と言われるべきである。

dasa-upapāramī とは、波羅蜜から少し超えた波羅蜜が upapāramī (近波羅蜜) であり、まさにそれは布施などの十近波羅蜜である。

dasaparamatthapāramī とは、最勝で最上の意味が paramattha (最勝義) である。まさに最勝義の波羅蜜が paramatthapāramī (最勝義波羅蜜) である。布施などの特性が最勝義波羅蜜である。

より詳細に samatiṃsapāramiyo (合わせて三十波羅蜜) と言われた。それらの中で布施波羅蜜は財の施捨が波羅蜜であり、肢分の施捨が近波羅蜜であり、命の施捨が最勝義波羅蜜である。このように残りの波羅蜜においても [説かれる]、以上、合わせて三十波羅蜜である、と知られ

⁴³ parati は辞書にない単語であり、parama を説明するために用いられた動詞と考えられる。

⁴⁴ muvati は、辞書にはない単語である。勝本 [2007: 296] に従い和訳。

⁴⁵ mayati は、辞書にはない単語である。勝本 [2007: 296] に従い和訳。

⁴⁶ Cp-a, p. 277: Tena dānasīlādi guṇavisesayogena sattuttamatāyo paramā mahāsattā bodhisattā. Tesam bhāvo kammaṃ vā pāramī; dānadikiriya. Athavā pūreti ti paramo. Dānādinaṃ guṇaṇaṃ purako pālako cāti Bodhisatto paramo. Paramassa ayam, paramassa vā bhāvo kammaṃ vā pāramī; dānadikiriya va. Athavā param sattaṃ attani mavati bandhati guṇavisesayogena, param vā adhikataṃ majjati sujhati saṅkilesamalato, param vā seṭṭham nibbānaṃ visesena mayati gacchati, param vā lokam pamāṇabhūtena nānavisesena idha lokam viya munāti paricchindati, param vā ativiya sīlādiguṇaṇaṃ attano santāne minoti pakkhipati, param vā attabhūtaṃ dhammakāyato aññaṃ paṭipakkhaṃ vā anathakaraṃ kilesacoragahaṇaṃ mināti himsaṭi ti paramo. (勝本 [2007: 296-297]: 摩訶薩である諸の菩薩は (mahāsattā bodhisattā 菩薩摩訶薩)、有情のなかの最高のものであるから (sattuttamatāyo) 最上 (paramā) である。[そういう] 彼ら (菩薩) の [もつ] 特性 (bhāva) または彼らの [なす] 行為 (kamma) であるから、「波羅蜜」(pāramī 最高のもの) である。[それは具体的にいえば] 施などを行うことである。あるいはまた、満たす (pūreti) と [いう意味で] 最上者 (paramo) である。すなわち、菩薩は、施などの諸の徳を満たす者 (purako) であるから、最高者 (paramo) である。これは、最高者のもの (paramassa) であるから、あるいは、最上者の特性または行為であるから、「波羅蜜」(pāramī) である。[それは具体的にいえば] 施などを行うことである。あるいはまた、摩訶薩は、すぐれた徳を身につけることによって、他の (para) 有情を自分に結びつけ (mavati)、縛り付ける [から]、また、[煩惱の] 汚れという垢から、他の [有情] を (para) よりすぐれたものに清め (majjati)、浄化する [から]、また、上方の (para) 最高の涅槃に、区別して (visesena) 赴き (mayati) 行く [から]、また、規範となるすぐれた智によって、あの (para) 世をこの世のごとく知り (munāti) 確定する [から]、また、極めてすぐれた (para) 戒などの徳の集まりを自己の相続 (輪廻) に投入し (minoti)、含ましめる [から]、また、真実の自己である法身とは違う、他の (para) もしくは敵であるところ [自己に] 不利益をもたらす煩惱という賊の群れを計り (mināti) 退治する [から] 最上者である。)

るべきである。

だから言われたのである。

備わった波羅蜜と肢分を [施捨する] 近波羅蜜と

命を [施捨する] 最勝義波羅蜜とで三十波羅蜜が考えられた、と。

bodhisattānan とは、選別 (niddhāraṇa) [を意味する] 第 6 格である。そして、niddhāraṇe (選別) とは、7 つの格によって第 6 の格変化である。paṇḍitānaṃ pavaro satthā (聖者たちの中で最上の師が) 云々というように。

弥勒菩薩は繰り返し福德をなしたので、最上の一切知仏たちによって (seṭṭhasabbaññūbuddhehi) それらを説明できず (na sakkā tāni vaṇṇitun) 部分的にも説かれておらず、海を渡るうさぎ、あるいは、盲目の (andho) 登山者は拠り所を得ないでしょう。

そして、[*Mth-v* の上述の] 偈において断定が知られるべきである。弥勒菩薩は確かに布施や戒などの色々な沢山の種類の善業をなした。seṭṭhasabbaññūbuddho hi (まさに最上なる一切智仏が) は、未来において存在するので na sakkā tāni vaṇṇitun (それらについて説明することはできない) と結びつく。seṭṭhasabbaññūbuddho hi (まさに最上なる一切智仏が) という読みは正しい。hi の語は eva (まさに) の意味であると理解されるべきである。seṭṭhasabbaññūbuddhehi (一切智仏たちによって) という読みもある、そしてその句は na sakkā tāni vaṇṇitun (それらについて説明することはできない) という句と結びつく。この時、pi の語が採られるべきであり、seṭṭhasabbaññūbuddhehi pi (一切智仏たちによっても) ましてや私 (帝釈天) によっても弥勒のそれら (諸々の功德) を説明することはできない、という意味である。両者の読みのうち seṭṭhasabbaññūbuddho hi という読みが讃えられるべきである。「諸々の仏たちの無限の智は、智の限りの知られるべきものであり、智を限りあるものとする知られるべきものであり、知られるべき限りあるものとする智である⁴⁷」という言葉からすべての知られるべき諸法のうち残らず (niravasesato 限定して) 領域に至る。仏たちにとって非境はない、仏たちによって無知はないというのがまさに seṭṭhasabbaññūbuddho hi (まさに最上なる一切智仏が) というもので、seṭṭhasabbaññūbuddhehi (最上なる一切智仏によって) というのも相応しいように思える。*Dhammapada* 第 4 “upāsakadhammasavanavattū” における「このようにしばしば生じる諸の生起を一切知智によっても断つことはできない⁴⁸」という言葉から seṭṭhasabbaññūbuddho hi (最上なる

⁴⁷ Sv, pt. 3, p. 897: Buddhānaṃ hi yāvatakaṃ nānaṃ tāvatakaṃ ñeyyaṃ, yāvatakaṃ ñeyyaṃ tāvatakaṃ nānaṃ. Ñāna-pariyantikaṃ ñeyyaṃ. ñeyya-pariyantikaṃ nānaṃ. (片山 [2005: 461]: 諸仏には、「智のある限りの知られるべきものがあり、知られるべきもののある限りの智があり、智を究竟とする知られるべきものがあり、知られるべきものを究竟とする智がある」)

⁴⁸ *Dha-a*, vol. 3, p.361: evaṃ antarantarā uppajjantassa uppattiyo sabbaññūtañānenāpi na sakkā paricchintitū.

一切智仏が)というも説かれた。そして、前の読み (setthasabbaññūbuddhehi) では、mayā (わたしによって) というのが語の残りである (省略されている)。千眼者であり神々の中の王である私 (帝釈天) によって弥勒のそれら (諸々の功德) を説明することはできない、という意味である。vaṇṇitun とは、語ることは [という意味である] niravasesato とは、「限定されるべき」である。なぜかという。他の偈 (Mth-v) の中で ekadesena vuttāni (部分的にも説かれていない) と言われたからである。

andho とは、両眼が見えない者が [という意味である]

それと同様に弥勒は、無辺 (anantā) 無限 (aparimāṇakā) の功德を多劫の資糧 (anappakappe sambhāre) を完全に積みました。

anantā とは、諸々の無辺の (anantāni) [という意味である] さらにまた。他の句において anappakappe sambhāre (多劫の資糧) と言われたので、無限の存在において生じたというのが「無辺の (anantāni)」である。

aparimāṇakā という語もまさにこれが意趣である。

sambhāre (資糧、必要なもの) とは、「正しく保ち、養い、熟させる」というのが sambhāra である。あるいは、正しく保たれる (sammābhariyanti) というのが sambhāra である。援助という意味である。

菩薩には3つ (tayo hi) あり、1つは精進において優れた者 (thāmādiko) と考えられ (mato) 160万阿僧祇劫 (kappasatasahassāni, asaṃkheyyāni) となり、すべての波羅蜜を満たし、最上の正覚を得ます。

今、菩薩たちの相違を示して tayo hi 云々と言った。

thāmādika とは、ある者の thāma (力) が優れている、まさにその人が力において優れた者である。thāma というのは、これは精進の同義語である。viriyādhiko (精進に優れた者) という意味である。

mato とは、「考えられるべき」あるいは「知られるべき」あるいは「説かれるべき」である。

kappasatasahassāni とは、ここではこれほどに多い年、あるいは、これほどに多い日という kappa (劫) で、計算に至らないというのが、kappa (劫) である。それは何か、時間である。だから言われたのである。

百年ごとに麻布で清め、
残りなく清浄にするので、打穀の劫と言われる。

街は1由旬の高さで、幅は4種であり、
百年ごとに芥子によって満たされる、
繰り返し失うので、芥子の劫と言われる、と。

asamkhyāni とは、数えられない無数である。計算方法を超越した無数という意味である。
同様に言われた。

3年間で[降った雨によって]鉄圍山が満たされるが
水粒や水滴は数えることはできない、と言われる、と。

さらにまた。

4千の空は阿僧祇、と言われる、

なぜならば、数える方法を超越しているから、同様に適量を[超越するから]

計算を超越した無数がここでは意味される。計算よりも特殊なのが無数であるとある者たちは言う。

1つは信において優れた者(saddhādhiko)とこの人間界において考えられ明らかにされ、80万阿僧祇劫となり、すべての波羅蜜をも満たし、最上の正覚を得ます。

1つは智慧において優れた者(paññādhiko)とこの人間界において考えられ明らかにされ、40万阿僧祇劫(kappasatasahassāni cattāri ca asamkhyāni)となり、すべての波羅蜜を満たし、最上の正覚を得ます。

saddhādhiko とは、ある菩薩の信が優れている、その人が信において優れた者である。

ここにおいても paññādhiko は、これが意趣である。

kappasatasahassāni cattāri asamkhyāni とは、得られた解説から知られるべきである。

だから言われたのである。

7阿僧祇の思考に、9阿僧祇の言葉に、
40万阿僧祇の仏性に至る、と。

[一方で]ある者たちは、信において優れた菩薩が弥勒菩薩である、と言う。

実に、弥勒菩薩は(Metteyyo bodhisatto hi)それらのなかで精進において優れた者と考えられ、160万阿僧祇劫となり、波羅蜜を満たし(pūretvā pāramī)兜率天に再生します(Tusite upapajjati)。その身

体から離れ正覚を (sambodhiṃ) 得るだろう (pāpuṇissatī) と。

それは考察されるべきである。今一切智菩薩を精進・信・智慧による違いを示して精進に優れた聖なる弥勒菩薩であると定めることが [正しいので] metteyyo bodhisatto hi 云々と言ったのである。

pūretvā pāramī sabbā と言われたので、弥勒は我々の菩薩のヴェッサンタラの存在のように自分の存在を置いて、偉大な布施をなして、七度大地を振動させて、そこから死んで、兜率天界において神々に尊敬される特別な天人として生まれた、それ故に Tussite upapajjati と言われたのである。

sambodhiṃ とはここでは自ら [ある者が] 悟る (bujjhati)、あるいは、[ある者たちが] 悟る (bujjhanti) ことである、それ (sambodhi) を具足した者のそれというのが、菩提の道あるいは一切知智である。正しく自らさとするのが sambodhi (正覚) である。さらにまた、美妙あるいは賞賛された覚りが sambodhi (正覚) である。ここでは一切知智と捉えられた。

pāpuṇissati とは、未来において至るだろう [という意味である]
だから言われたのである。

最上のメッテツヤ (弥勒) ・ ラーマ ・ パセーナ ・ コーサラービブー
ディーガジャンティー ・ ソーナ ・ スバ ・ トーデツヤブラーフマナ。
ナーラーギリール ・ パーリレツヤ、これら十菩薩は、
未来において順に正覚を得るでしょう⁴⁹、と。

24 【弥勒菩薩と長老の対話 (弥勒の福德)】 (*Mth-v*, p. 42, 3)

このようにサッカと一緒に長老が話していると、弥勒は塔廟の庭にやって来て、右繞をなし、八方に礼拝し、香や華鬘などで供養し、五体投地によって礼拝し、東方に座りました。菩薩は、そこに座った長老に礼拝して問いました、「尊者よ、あなたはどこから来ましたか」と。「大王よ、わたしは閻浮提からやって来ました」と。「尊者よ、閻浮提の人々にとって何が起きているのですか」と。長老は菩薩の問いを明らかにして言いました。

それらの人々は皆そこにおいて、自己の行いによって
(sakakammena) 豊かな者、貧しい者、幸福な者、不幸な者、麗しい者、醜い者、長寿の者、短命な者、として生きています (jīvitā)、
豊かな者は少なく、貧しい者が多いです、幸福な者は少なく、不幸

⁴⁹ *Dasab*, p. 413: Metteyyo uttamo Rāmo Paseno Kosalābhībhū, Dīghasoni ca Camkī ca Subho Todeyyabrāhmaṇo. Nālāgiri Pārileyyo bodhisattā ime dasa, anukkamena sambodhiṃ pāpuṇissanty anāgate.

な者が多いです、麗しい者は少なく、醜い者が多いです、長寿の者は少なく、短命な者が多いです。

人間は少なく、畜生はより多いです、それ故、自己の行いによって、皆生きています、とわたしは言うのです。

sakakammena jīvitā というのは、ここでは布施などの福德をなした人々が、そこにおいて繁栄し、幸福で、麗しく、長命で自分の善業によって生きている、また、殺生などの罪を犯し、福德を知らない人々も皆、貧しく、不幸で、醜く、短命で、自分自身の悪業によって生きている、というこの意味について [マーレツヤデーヴァ] 長老は *te sabbe manussā tattha sakakammena jīvitā* (その人間たちは皆自分の行いによって生きた) と言ったのである。sakakamme jīvitā というのは、自分の行為によって転じた、あるいは、生まれた [という意味] である。

菩薩は、長老の言葉を聞いて、「尊者よ、閻浮提の人々はたくさんの福德をなすのですか、あるいは、悪事をなすのですか」と。「大王よ、福德をなす者は少ないが、悪事をなす者はさらに多いのです」と。「尊者よ、どんな福德をなすのですか」「大王よ、閻浮提の人々のなかである者が布施を与え、ある者が戒を守り、ある者が法の施しを与え、ある者が布薩をなし、ある者が仏像を造り、ある者が精舎を建て、ある者が住居を建て、ある者が雨安居を与え、ある者が衣を与え、ある者が鉢食を与え、ある者が薬を与え、ある者が菩提樹を植え、ある者が塔を建立し、ある者が塔廟を建立し、ある者が園を造り、ある者が橋を造り、ある者が経行処を造り、ある者が井戸を掘り、ある者が池を掘り、ある者が資具を与え、ある者が十種の布施を与え、ある者が父母の看病をし、ある者が亡くなった親族たちの為の祭式をなし、ある者が三宝を供養し、ある者が子供を出家させ、ある者が法嗣⁵⁰を出家させ、ある者が仏像を供養します、このようなすべての良い行いを、閻浮提の人々は、想いに応じて力に応じて志に応じてなします」と語りました。「尊者よ、閻浮提の人々は、このような福德をなしてどんな願いを立てるのでしょうか」と。長老は彼の為に人々の願いを明らかにして、言いました。

王よ、彼らは福德をも (*puññamattam pi*) なし、あるいは [他人に

⁵⁰ “dhammaputta” の語は、*Vism* の注釈書である *Visuddhimagga Mahāṭṭkā* (以下 *Vism-mhṭ* と略す) の一箇所に (*Vism-mhṭ*, p. 275) のみ見られ、そこでは、“Yudhiṭṭhilo dhammaputto” と述べられている。*Vism* の “Yudhiṭṭhilo” の脚注では、*Ja*, 5, p. 426 と言及され、『クナラ前世物語』 (*Ja*, 5, p. 426) に見られる “Yudhiṭṭhilo” は、パンドウ王家の5人の王子の長男である。それ以外に “Yudhiṭṭhila” の名が現れるのは『ユヴァンジャヤ王子前世物語』 (*Ja*, 4, p. 123) で、ユヴァンジャヤ王と一緒に出家した王の弟で、アーナンダの前世として描かれている。*Mth-v* において、“dhammaputta” が何を意味しているのが明確ではない。

福德を] させて、あるいは他人の為に随喜し、あなたの菩提を願っています (*tuyhaṃ paṭṭhenti bodhiyā*) 「これらの布施や戒などのなされた福德によって (*iminā katapuññaena*) 我々が弥勒仏に会えますように (*dassanañ ca labhāmhase*) 弥勒仏が再生しない限り、天に供養され、輪廻界において輪廻していても、我々が苦界に行きませんように」と。その閻浮提の人々は福德をなし、そして、このようにあらゆる場面で常に誓願を立てます、と。

puññamattam pi というのは、世間によって認められたあらゆる行為 [という意味である]

tuyhaṃ paṭṭhenti bodhiyā というのは、彼らは皆、一切知智を覚った時、あなた (弥勒) の教説 [の時] に生まれるよう望み、誓願をなす [という意味である] [そして] 今、[マーレツヤデーヴァ] 長老が人々に誓願を示して、*iminā katapuññaena* 云々と言ったのである。

dassanañ ca labhāmhase とは、弥勒仏の側で、最初に涅槃を見ることによって千の方法で彩られた預流向智と呼ばれる見識を我々は得るでしょう、あるいは、弥勒という主の見だけを得て (弥勒という主にだけ会い) 望み通り我々は誓願をなすだろう [という意味である]

菩薩は閻浮提の人々の便りを聞いて、喜んで、このように言いました、「尊者よ、人々が皆、一切知者となったわたしに会いたいならば、『マハーヴェッサンタラ・ジャータカ』を一日で完全に (一通り) 聞きなさい (*Mahāvessantarajātakaṃ ekadivase yeva pariniṭṭhitaṃ suṇantu*)、そして、千の灯明によって、また (*sahassapadīpena vā*) 千の蓮によって、また千の青蓮華によって、また青睡蓮によって、また千のデイゴの花によって、また千のウンマーラ花によって、また千の旗によって、また千の傘によって、また千の法幢によって、また千の祭壇によって供養し、すべてを運び (*sabbam āharitvā*) 法を (*dhammaṃ*) 供養して、わたしが悟るとき、わたしの面前で無碍解とともに阿羅漢性を (*arahattaṃ*) 得るでしょう (*paṭilabhissantī*) 」と言って、さらに、悪人たちには自らの仏性の見が不可得であることを明らかにして、偈を唱えました。

mahāvessantarajātakaṃ ekadivase yeva suṇantu というのは、ここにおいてこの内在した非難がある、友よ『マハーヴェッサンタラ・ジャータカ』を聴きなさい、となぜ言われたのか。その他の経や七論などはなぜ聴かれるべきではない、といわれたのか、まさに聴かれるべきである。精妙で、柔らかで、難解で、非常に深淵で、しっかりと深入した [経・七論などに] 悪慧によって潜入することはできず、過去に積み重ねた福德の集積によって言葉に潜入することができ、

明瞭な理解がある。もし正典だけを聞くことが偉大な果報をもたらす偉大な功德であるなら、洞窟に垂れ下がっている5百羽のコウモリが、黒分白分を知らず、2人のアピダルマ論者である比丘たちの読誦の中で、これがダルマであると、音声を捉えて、死後天界に再生した、また、目の見えない愚かな人々は[読誦を]聞いて意味を覚らず、これは甘露ではない、宝珠ではない、という放逸に陥り、悪趣に赴く者となる、[それ故]「賢い人々を除くと」というこの理由を知って、弥勒菩薩は言った、「『マハーヴェッサンタラ・ジャータカ』を聞きなさい」と。さらにまた、世間主であるヴェッサンタラがこのようにジャータカを保持しなさい、と言ってこれを記憶してこのように言いました。「ここにおいてあなた方は今私の教えの世間法を覚らず、それ以上に輪廻という大きな流れを渡りたいと思い、来世において弥勒仏に会えるよう望んでいる、このように私によって説かれた千偈で彩られた『マハーヴェッサンタラ・ジャータカ』を保持しなさい、真に保持して聴きなさい、そして聴いてその善業によって弥勒の教えにおいて苦の終局をなしなさい」と説かれたこれが意味である。『テーミヤ[ジャータカ]』や『マハージャーナカ・ジャータカ』なども聴かれるべきである、そして、教えを失う時には、逆から失うだろう。十大ジャータカの中で第一に『マハーヴェッサンタラ・ジャータカ』を失うだろう、と知ってこのように言ったのである。ekadivase yeva と言ってなぜ[一日で]制限されたのか、それ以上の日数聴いてより一層偉大な功德の果を得られるであろうに、と[考えるだろう]、一日で聴くのが十分であるから[「一日で」と制限したのである]

例えば、たった一日で耕作すべき一つの吉祥田を耕す、ただ耕すだけでなく、平らにして種を播く行為によってすべてのなされるべき行いをその日に終わらせる、まさにこのように一日で聴かれるべき『マハーヴェッサンタラ・ジャータカ』を聴くのである、自分の心の相続という田を耕して、智慧でできた軛・鋤と慚でできた轅を意でできた紐で一つに結び、智慧という鋤に念という鋤先を打ちつけ、智慧という軛に精進という牡牛をくくり付け、念という棒で打ち、信という種を播き、苦行という雨によって育まれた貪欲などの不善法という牛・水牛・鹿の群れによって様々な善という穀物が盗まれないために、身体・語・食事の慎みでできた三種の圃によって護り、真実という草刈りをし、柔和という解放を[なし]、精進という荷駄牛を[引き]、安穩に向かい、まさに農耕の終わりに四種の沙門果という稲の実りを享受するでしょう⁵¹。まさにこれは、釈尊によって *Suttanipāta* の “Kasibhāradhājasutta” において説かれた⁵²。

⁵¹ 「耕作者パーラドヴァージャ」の言及のうち散文は、*Sn* の注釈書 (*Pj*, pp. 148-151) から大半を引用している。村上・及川 [1985: 336-351] 参照。

⁵² *Sn*, pp. 13-14: (77) "Saddhā bijam, tapo vutthi, paññā me yuganāgalam, hiri isā, mano yottam, sati me phālapācanam. (78) Kāyagutto vacīgutto āhāre udare yato, saccam karomi niddānam, soraccam me pamocanam, (79) viriyam me dhuradhorayham, yogakkhemādhivāhanam, gacchati anivattantaṃ. yattha gantvā na socati. (80) Evam esā kasī katthā, sā hoti amatapphalā: etaṃ kasim kasitvāna sabbadukkhā pamuccati" ti. (中村 [1996: 24]: 77. 「私にとっては、信仰が種子である。苦行が雨である。智慧がわが軛と鋤とである。慚が鋤棒である。心が縛る縄である。気を落ちつけることがわが鋤先と突棒とである。78. 身をつつしみ、ことばをつつしみ、食物を節して過食しない。わたくしは真実をまもることを草刈りとしている。柔和がわたくしにとって[牛の]軛を離すことである。79. 努力がわが 軛をかけた牛 であり、安穩の境地に運んでくれる。退くことなく進み、そこに至ったならば、憂えることがない。80. この耕作はこのようになされ、甘露の果実をも

信が種子、苦行が雨、智慧が私の軛と鋤である、
慚が轅、意が紐、念が私の鋤先と突き棒である。
身を守り、語を守り、腹において食事を節制し、
真実を草刈りとし、柔和を私の解放とする。
精進は私の荷駄牛であり、軛からの安穩の境地に運び、
引き返すことなく進む、行って愁い悲しまないところに。
このようにこの耕作が行われた、これは甘露の果を有する、
この耕作をなし、一切の苦から解放する。

[ekadivase yeva の] eva という語は限定の意味であり、日の限定を示した。何故か。

過ぎ去った夜の後更がある、あるいは、これ(過ぎ去った夜の後更)の半分がある、尊ばれ到来しつつある[夜の]初更がある、あるいは、その(初更)半分がある、それらによって今日一日である、と

Kaccāyanasāra において説かれた⁵³。

ここにおいて *sahassapadīpena vā* とは、なぜ限定がなされたのか、それより少なくも多くもない、と実に言われた、釈尊によって「念の限り力の限り分相応に布施をなしなさい」と[言われた]、この適切な供養の言葉が言われた。何故かという。その恩恵を与えて、この千偈で彩られた『マハーヴェッサンタラ・ジャータカ』の中の第一偈を語った、という言葉から、それに相応しい(千という)数詞が説かれたと理解されるべきである。*vā* という語は集合の意味である。*tena saḥassapadīpena* (その千の燈火によって) *sabbam āharitvā* (すべてを持って)と言われたのである。

dhammaṃ とは『マハーヴェッサンタラ[・ジャータカ]』の説法である。そしてそれ(*dhamma*)を聴くことによってしっかりと聴かれるべきである。語ることによって語句の特徴が残らずしっかりと語られるべきである。そして、詩によって美字、美文となり、語ることは適していない、と[言われた]

arahattaṃ(阿羅漢性を)というのは最上果の同義語である。それ(阿羅漢性)を悟る(*paṭibujhissanti*)でしよう、という意味である。

たらず。この耕作を行ったならば、あらゆる苦悩から解放される。」)

⁵³ *Kaccāyanasāra* は、橘堂 [1997: 41]・Skilling & Pakdeekham [2002: 249] によれば、ビルマの Mahāyasa による 14 世紀の作とされ、6 章 71 偈からなる *Kaccāyana* 文法の要点を解説したものである。既刊テキストとしては、*Kaccāyanasāraya*, edited by B. Amarasīha, Vālitara: Vidyāratnākara Press, 1892. *Kaccāyanasāraya-sannasahita*, edited by Laddūva Somaratana, Alutgama: Saddharamaprakāśa Press, 1906. がある(筆者未見)。

怒って (paṭighaṃ) 比丘尼の破壊を (bhikkhunīdūsaṃ)、僧団の破壊を (saṃghabbhedaṃ) なします、五つの無間業を (pañcānantariyakammaṃ) 塔廟を (thūpaṃ) 菩提 [樹] の破壊を (bodhisattañ ca mārenti) [なします] 菩薩を殺害し (bodhisattañ ca mārenti) 僧団の静寂を奪います (santaṃ saṃghassa hāraṃ) [そのような] 慳惜で (maccherā) 怠惰な者たちは (pamādā) わたしの周りには (mama santike) いません。

paṭighaṃ とは、聖者が非難する行為である。

bhikkhunīdūsaṃ とは、比丘尼たちの戒を失わせる行為、家を汚す云々というように。

saṃghabbhedaṃ というのは、ここにおいて、比丘と共住する本性の同界に住する者が、行為によって、あるいは、説示によって、あるいは、言説によって、あるいは、唱説によって、あるいは、行籌によってという 5 つの原因によって僧団を破壊した、その僧団の破壊者はデーヴァダッタのように輪廻し地獄に住する、彼の行いこそが僧団を破壊する行為である。

pañcānantariyakammaṃ とは、母の殺害などの五無間業である。人間である凡夫が転じた相を有する人間である母あるいは父を生命から奪い、人間である阿羅漢を [殺し] 如来の足に小さな蛇の吸った血を生じさせる、その [凡夫] は、順に赴く。母を殺す者、あるいは、父を殺す者、あるいは、阿羅漢を殺す者、あるいは覚者に血を生じさせる者は、諸々の無間業に至る。彼の行為はまさに無間の自己存在において熟したので、実に無間業である。これらは、僧団を破壊する行為と合わせて、5 つである。

thūpaṃ とは、塔廟である。財欲などのために舍利のある、あるいは、舍利のない塔廟を、破壊する、あるいは、掘る、あるいは、取り出すと、ここから死んで、阿鼻地獄に生まれ、煮られて、弥勒仏に会うことはできない。

そして、bodhisattassa chedakaṃ とは、菩提樹であると理解されるべきである。釈尊のための菩提樹を破壊するという過失などの行為をなす者たちは、死んで阿鼻地獄に生まれて、煮られて、弥勒仏の側にいない。もし、釈尊が般涅槃した後、塔廟を破壊する、あるいは、菩提樹を切断して舍利に近づく者たちにとって何であるのだろうか。無間に等しい重罪の行為である。舍利のある塔あるいは像を圧迫している菩提樹の枝を断ち切るとは正しい。もしそこ (菩提樹) にとまった鳥たちが塔廟に糞を落とし、[菩提樹のその枝を] 断ち切るとは正しい。享受物を納めた塔廟よりも舍利を納めた塔廟の方が偉大で、すばらしいものである。塔廟の地を破壊して進む菩提樹の根も断ち切って運び去るとは正しい。そして、菩提樹の枝が菩提樹の家屋を圧迫しても、それ (菩提樹の枝) を家屋を守るために断ち切るとは正しくない。なぜなら菩

提樹のために家屋があるのであって、家屋のために菩提樹があるのではない。近くの家屋においても、これが[正しい対処]方法である。ある近くの家屋に舍利が置かれ、それを守るために菩提樹の枝を断ち切るとは正しい。菩提樹を警護するために栄養のなくなった枝、あるいは、腐った所を断ち切るとは正しい。釈尊の舍利の警護のような福德である⁵⁴。

bodhisattaṃ ca mārenti とは、授記を得た菩薩、仏の芽を殺す[という意味である]、授記を得られなかった菩薩は必然的に正覚を得ることはできない。そして、それら授記を得られなかった菩薩たちは転倒する状態である、それ故に授記を得た菩薩を殺すという意味が理解されるべきである。

santaṃ samghassa hāraṅkā とは、僧団の財を盗む者たちは[という意味である]

maccherā とは、住処などを物惜しみする者たちは[という意味である]

pamāda とは、欲望の対象において心を捨て、不注意と言われる放逸を備えた者たちは、という意味である。ここにおいて4つの不善の集まりが pamāda (放逸) と理解されるべきである。ca という語は集合の意味である。それ (ca) によって確定された邪見を集めている。ここにおいてこれほどに説かれた patighaṃ bhikkhunīdusaṃ (中略) mama santike と。

また Anāgatavaṃsa において説かれた、

彼らは聖なる弥勒に会わない、劫住するデーヴァダッタ[のように]とされたので、残りの無間業をなし、比丘尼の破壊者、僧団の破壊者、僧団の[財の]盗人、菩薩の殺害者・母の殺害者・父の殺害者・塔や菩提樹を倒す者・物惜しみする者・不注意な者は阿鼻地獄に再生して、彼らは弥勒に会わない。定められた邪見を有し、聖者が非難し、僧団に用意された食事を食べる者は、八不時に再生し、彼らは[弥勒に]会わない。衆生は皆、布施を与え、戒を守り、修習を修め、布薩に入り、梵行を完成させ、塔廟や菩提樹を樹立し、園を造り、植林し、橋を造り、道が用意され、堂が建てられ、井戸が掘られ、我々のために教えが捉えられ、説法者たちのために飯堂・法座を用意して、扇・天蓋・宝・香・華鬘・芳香・灯明などで供養し、熱心に僅かに法を聴き、そこにおいて美味しい食事などで僧団のために供養がなされ、母に仕え父に仕える家において最長老の信頼しうる行為をなし、行籌食・十五日食・布施食を与え、十の善業を完成させ、尊者(弥勒)に会うことを願って会う、息子あるいは他人の息子を出家させて[弥勒に]会う、『マハーヴェッサンタラ・ジャータカ』を一日で聴き、千の灯明によって、あるいは、千の供儀によって、あるいは、千の紅蓮華によつ

⁵⁴ *Mp*, vol. 2, pp. 6-7: Ath' assa ye parinibbute Tathāgate cetiyaṃ bhindanti bodhiṃ chindanti dhātumhi upakkamanti, tesam kiṃ hoti ti? Bhāriyaṃ kammaṃ hoti ānantariyasadisam. Sādhātukaṃ pana thūpaṃ vā paṭimaṃ vā bādhamānaṃ bodhisākhāṃ chinditūṃ vaṭṭati. Sace pi tattha nilīnā sakunā cetiye vaccaṃ pāteṇti, chinditūṃ vaṭṭati yeva. Paribhogacetiyo hi sarīracetiyaṃ mahantataraṃ. Cetiyaṃ vaṭṭitūṃ bhinditvā gacchantam bodhimūlam pi chinditvā haritūṃ vaṭṭati. Yā pana bodhisākhā bodhigāraṃ bādhati, tam geharakkhanattham chinditūṃ na labbhati. Bodhi-attham hi geham, na gehattham bodhi. Āsanaghare pi es' eva nayo. Yasmiṃ pana āsanaghare dhātuyo nihitā honti, tassa rakkhanatthāya bodhisākhāṃ chinditūṃ vaṭṭati, Bodhijagganattham ojharaṇasākhāṃ vā pūtiṭṭhānaṃ vā chinditūṃ vaṭṭati yeva. Sarīrapatiṭṭhānaṃ viya puññaṃ hoti.

て、あるいは、千のウンマーラの花によって、千の青蓮華によって、千の曼荼羅華によって、あるいは、幡によって、あるいは、天蓋によって、あるいは、布によって、あるいは、食物によって、あるいは、飲物によって、あるいは、資具によって供養し、尊者（弥勒）に会うことを願って会う、塔廟あるいは仏像を供養して、ただ拳ほどの華鬘や一つの燈明や団食だけを与え、他者のためになされた福德業を喜び [弥勒に] 会うだろう、従って、得難い再生を [願う] 者は、一切智仏たる聖なる弥勒に会うためにあなた方はこの世で私（弥勒）の教えに立ち、自身（弥勒）に会うために語られた色々な福德を [なし]、尊きマーレツヤデーヴァ長老のために聖なる弥勒菩薩によって説かれたすべての訓戒をなし、命を終えると天界に生まれる、[そして] あらゆる幸福を順に享受し、彼（弥勒）が仏として生まれる時に、ここ（天界）から死んで、説かれた類いの幸福を享受し、尊き聖なる弥勒の側で最上の法を聴き、聖なる大地に至るように [聖なる大地に] 至ることができないあなた方は天界に至りなさい⁵⁵、と。

このようにも *Anāgatavaṃsa* において *anāgata*（未来）の意味が理解されるべきである。

25 【弥勒と長老の対話（弥勒の下生）】（*Mth-v*, p. 46, 2）

長老は、彼の言葉を聞いてこのように言いました。「大王よ、わかりました、わたしは閻浮提の人々のためにあなたの言葉を語るでしょう。では、あなたはいつ仏になるのでしょうか」と。「尊者よ、ゴータマブッタの教説は5千年続いて消滅するでしょう。それが消滅したとき世界では、不善の充満があるでしょう。『善』という名でさえもないでしょう、まして善の生起は [ないでしょう]、そして次第に人々は慚愧を持たず区別されない境界を持つ者となり、『これがわたしの母・娘・姉妹・孫である』という考えを起こさず、山羊・羊・鶏・豚・ジャッカル・犬などのように羞恥心のないものとなるだろう。そして、彼らは次第に増大した不善の行いによって百年の限られた寿命から人々は減少した10年の寿命となるだろう。5歳の男の子と5歳の女の子にとっての嫁取りや嫁やりが（*avaho vivāho*）あるそのような時、刀杖の時代（*satthantarakappo*）となるだろう。

⁵⁵ *Anāg*, p. 37: *kappattho devadatto 'ti vuttattā saṃghabhedako. sesā pañcānantariyakammaṃ katvā avīcimhi nibbattā. niyatamicchādīṭṭhikā. ariyupavādakā na passissanti. nigaṇṭhakā ca saṃghassa kappiyavattubhedakā na passissanti. avasesā sattā dinnadānarakkhitasilā upavasuposathā pūritabrahmacariyā cetiyabodhipatiṭṭhāpakā. āramaropakā vanaropakā. setukārakā susajjitamaggā patiṭṭhitasilā ca khaṇita-udapānā passissanti. bhagavato bhāvaṃ patthetvā antamaso muṭṭhimālaṇā ca ekapadipāṇā ca ālopamattaṇā ca dinnā. aññatarapuññakammānumoditā passissanti. pagghahitabuddhasāsanā. dhammakathikānaṃ dhammamaṇḍapam dhammāsanam sajjitvā bijaniṃ upaṭṭhāpetvā dussavitānamālādhūpadipā pūjetvā sakkaccaṃ sakkaccaṃ dhammasavanapavattāpakā passissanti. vessantarajātakasavanā passissanti. tath' eva amisādīhi saṃghassa katapūjā passissanti mātāpitu-upaṭṭhakānaṃ kule jetṭhāpacāyikakammakatā passissanti. salākapakkhika-uposathabhaddādinā dasapuññakiriyavattukārakā passissanti.*

āvaho vivāho とは、受け取ることと贈ることである。自分の5歳の息子に他人の5歳の娘を受け取ること、また、他人の5歳の息子のために自分の5歳の娘を与えること、と説かれた。

satthantarakappo とは、ここでは三種の中劫のことであり、飢饉中劫・病中劫・刀中劫という [3種である] 世界で衆生の貪が蔓延する時が、飢饉中劫である。癡が蔓延する時が、病中劫である。瞋が蔓延する時が、刀中劫である。飢饉中劫によって滅んだ衆生は餓鬼道に再生する。病中劫によって滅んだ衆生は夜叉に再生する。刀中劫によって滅んだ衆生は地獄に再生する、なぜか [という] 互いに強力な殺意があるが故に地獄に再生する [から] ⁵⁶。そして、これら3つの中劫のうち刀中劫がここにおいて理解されるべきである。

人々は互いに野獣と認識し合うでしょう。彼らの手でそれぞれ捉えられた杖などの資具は何でも、諸刃や剃刀の刃のような武器となるであろう。彼らは互いに殺し合うでしょう。彼らの中で、賢者たちは、その消滅を聞くや否や、山の中などに入って、各々隠れるだろう。彼らを除いて、残りの者たちは7日間、互いに伐ち合い亡ぶであろう。そこで7日目を過ぎると、それぞれの隠れていた所から出て、互いに抱き合っ一緒に住むようになり、『確かに我々は善い行いをなすべきであり、殺生から離れるべきであり、欲において、偷盗、邪淫、妄語、穀酒果酒、中傷の言葉、悪口、雑穢語、貪欲、瞋恚心、邪見から離れるべきであり、福德をなすべきであろう』と言って彼らは福德をなすだろう。そこで、10年の寿命をもつ人々にとって20年の寿命をもつ子供たちがいるだろう。より多くの福德をなした人々の子供たちは、次第に30年、40年、50年、60年、70年、80年、90年、百年の寿命を持つ者となるでしょう。子供たちは、次第に2百年、3百年、4百年、5百年、6百年、7百年、8百年、9百年、そして、1千年の寿命を持つ者となるでしょう。次第に1千年の寿命を持つ者たちにとって、2千年の寿命を持つ子供がいるでしょう、3千年、4千年、5千年、6千年、7千年、8千年、9千年、1万年の寿命を持つものとなるでしょう。そこで、人々がより優れた法をなすと、10万年の寿命を持つものとなるでしょう。さらに優れ

⁵⁶ Sv, vol. 3, p. 854: Antara-kappo ca nām' esa dubbhikkh' antara-kappo rog' antara-kappo satth' antara-kappo ti tividho. Tattha lobh' ussādāya pajāya dubbhikkh' antara-kappo hoti, moh' ussādāya rog' antara-kappo, dos' ussādāya satth' antara-kappo. Tattha dubbhikkh' antara-kappena natthā yebhuyyena petti-visaye upapajjanti. Kasmā? Āhāra-nikantiyā balavattā. Rog' antara-kappena natthā yebhuyyena sagge nibbattanti. Kasmā? Tesam hi: Aho vat' aññesaṃ sattānaṃ evarūpo rogo na bhavyeyā ti, metta-cittaṃ uppajjati. Satth' antara-kappena natthā yebhuyyena nirayaṃ uppajjanti. Kasmā? Aññam-aññam balavāghātātāya. (片山 [2005: 441]: この中劫には三種、すなわち、飢饉による中劫 (dubbhikha-a)、病による中劫 (roga-a)、刀による中劫 (sattha-a) がある。そのうち貪りの盛んな (lobhussada) 人々には飢饉の中劫が、愚痴の盛んな (mohussada) 人々には病の中劫が、怒りの盛んな (dosussada) 人々には刀の中劫が現れる。そのうち飢饉の中劫によって滅んだ者たちは、ほとんどが餓鬼界 (petti-visaya) に生まれかわる。なぜか。食べ物に対する欲求 (āhāra-nikanti) が強いからである。病の中劫によって滅んだ者たちは、ほとんどが天 (sagga) に生まれかわる。なぜか。「ああ、どうか他の生けるものたちにはこのような病が起こりませんように」との慈心 (metta-citta) が生じるからである。刀の中劫によって滅んだ者たちは、ほとんどが地獄 (niraya) に生まれかわる。なぜか。強く殺しあうからである。)

た法をなす者たちの中には、次第に 10 万コーティの寿命を持つものがあるでしょう。それよりも更に優れた法をなせば、阿僧祇の寿命を持つものとなるでしょう。そのとき衆生の老死は、知られていないだろう、またも放逸に至るであろう (pamādam āpajjissanti) 彼らの寿命は減少するだろう。衆生は、阿僧祇の寿命から減少して、10 万コーティの寿命を持つ者となるだろう。それから減少して、次第に 9 万コーティの寿命を持つ者となるだろう。それから次第に減少して 8 万年の寿命を持つ者となるだろう。その時神 (雨の神) は、半月ごと 10 日ごと 5 日ごとに中夜に大地の味を増大させつつ雨を降らすでしょう。そのときジャンプディーパは栄え (samiddho) 常に花・果実・蔓草・ジャングル (pādapā) で満ち、飛んだ鶏が村や町中に満ち、盗賊や治安を乱す者はおらず、少しも間違った見解はなく、王都は輝き、あらゆる宝を有し、幸福で、豊穡で、平穩で、たくさんの食物・飲物・硬食・軟食があり、魚・肉などがあり、享受されていました。

pamādam āpajjissanti とは、地獄の苦しみがどのようなものであるのか、いつ我々の死があるのだろうか、と言って、放逸に至るだろう [という意味である]

samiddho とは、衣や装身具などを備えた [という意味である]

pādapā とは樹である。それらによって満ちた、という意味である。

諸々の池は、甘い蜜のような水の充満があらゆるところにあるでしょう。尊者よ、その時、夫婦は喧嘩せず怒らず、五種欲の楽を享受し、農業や商業など働くことなく幸せに暮らすでしょう。女も男も糸を紡がず、糸を織らず、天衣を纏うでしょう。男たちは自分の妻に満足し、女たちは自分の夫に満足していません、自制した男たちは、他の妻をつくらず、女たちは他の男をつくらず、彼らは互いに愛し合い心が通じあうでしょう。彼らは皆、村・町・財・穀物・田畑・土地・塵土のために口論しないだろう。そして、人々は皆、美しく、最上の容姿を持ち、互いに愛し合い心が通じ合います。カラスたちはフクロウたちと慈しみ合い、ネコたちはネズミたちと慈しみ合い、鹿たちはライオンたちと慈しみ合い、イタチたちは蛇たちと慈しみあうだろう。ライオンなどは鹿たちと慈しみ合い、このように互いに敵である畜生が皆、慈悲の心を抱くだろう。稲が (sālī) 1 つの種子から生まれ育てずに (aropitā) 2270 サカタ (sakata) と 16 アンバナ (ambana) そして 2 トウンバほどの米が生じます (taṇḍulāni pajāyare)。

sālī とは、清浄な稲が [という意味である]

aropitā とは、何によっても育てない [という意味である]

dve sakatasatānī とは、サカタごとの量が考えられるべきである、4 ムツティが 1 クドゥヴァ、4 クドゥヴァが 1 パッタ、4 パッタが 1 アールハカ、4 アールハカが 1 ドナ、4 ドナが 1 マーニカ、4 マーニカが 1 カーリー、20 カーリーが 1 ヴァーハ、それがまさに 1 サカタである。同様に *Vinayaṭīkā* においても説かれた⁵⁷。

ambāṇa とは、穀物の器の [量の意味である]

taṇḍulāni pajāyare とは、すべての米という果が実る [という意味である]、一つ一つの種に 10 万の芽があり、一つ一つの芽に 10 万の苗があり、一つ一つの苗に十万の穂先があり、一つ一つの穂先に 2 ナーリの米という果がある。このマーレツヤ物語においてこれほどのことが説かれた。yadā sālī ekabījā (中略) taṇḍulāni pajāyare と。そして、*Anāgatavaṅsa* において説かれた。

生類の福德によって播かれずに自然に生じた朶がなく、精米され、清く、良い香りのする米がある、人々は耕さず実った米を享受する。

2272 サカタと 16 アンバナある。

そしてまた、一つの種に 2 トウンバと言われる米が、人々の福德によって生じる⁵⁸。

尊者よ、その時わたしは 1 万の鉄围山を覆い、梵天の願いを聞いて、時・地方・島・家柄・母と言われる 5 つの考察をして (*kālaḍesaḍīpakulamātāyusaṃkhātāni pañcavilokanāni viloketvā*)、仏は人間界に赴くでしょう (*manussalokaṃ gamissāmī*)、と言って、自らの波羅蜜を賞賛して言いました。

kālaḍesaḍīpakulamātāyusaṃkhātāni pañcavilokanāni viloketvā とはここではすべての菩薩の法性によって自らそれらを観察する [という意味である]

同様に言われた、

時・地方・島・家・母というこれら 5 つを観察して如来が生じた⁵⁹、と。

そのうち *kāla* とは、寿命のことである。10 万年よりさらに増加した寿命は、仏の生まれる時ではない。なぜかという。その時衆生の老死は知られないからである、そして仏たちの説法は三相 (無常・苦・無我) から解放されていないからである、彼ら (仏たち) が無常や苦や無

⁵⁷ *Pālim-ṅ*, p. 80: kuḍuvo pasato eko. pattho te caturo siyuṃ. āḷhaka caturo patthā. doṇaṃ vā caturāḷhakan ti.

⁵⁸ *Anāg*, p. 44: āropitaṃ sayamjātaṃ puññakammena jantūnaṃ, akaṇaṃ aṭhusaṃ suddhaṃ sugandhaṃ taṇḍulaphalaṃ akatṭhapākimaṃ sālīm paribhuñjanti manusā, deve sakatasahasānī dve sakatasatānī ca, sakate sattati c' eva ambaṇaṃsoḷasaṃ bhava, atho pi dve ca tumbāni taṇḍulāni pavuccare ekabīje samuppannā puññakammena jantūnaṃ. 三上 [1987: 35] 参照。

⁵⁹ *Dhp-a*, p. 84, fn. 14: kālaṃ desaṃ ca dīpaṃ ca kulāṃ mātaram eva ca ime pañca viloketvā uppajjanti mahāyasaṃ ti.

我を語っているのを聞いても、[衆生は]「何を語っているのか」と言って聞かれるべきことを考えず、信じることを考えない、それ故に現観はない。それがないならば出離の教えはない。それ故にそれは百年より少ない寿命もまた非時であり、仏が生まれる時ではない。なぜかという。その時衆生は煩惱に満ちている、そして煩惱に満ちた者たちに与えられた訓令は訓令の場に住立せず、池に棒[で描いた]線のように忽ち消えてしまう。それ故に非時である。10万年より少なく百年より多い寿命が仏の生まれる時である。さて、かの弥勒も彼が生まれる時であるという8万年の寿命を観察して、それから鳥を眺めて、従者を伴う四大島を観察した。

3つの島には仏たちが生まれぬ、閻浮提にだけ[仏たちは]生まれる。その時、彼(弥勒)は「私はこの閻浮提に生まれるでしょう」と閻浮提を観察してから地方を観察し、中央地方を見るでしょう。

ある中央地方では、覚者・独覚・第一の弟子・80人の偉大な弟子・転輪王・福德をなした他の有力な土族や婆羅門・家長・大屋敷を持つ者が生まれる、その時人間には2百歳の寿命で、パーラーナシーの都があるでしょう。その後順に人間は法を転じ、その善の結合によって3百、4百、5百、6百、7百、8百、9百、1千、2千、3千、4千、5千、6千、1万、2万、3万、4万、5万、6万、7万、8万、9万の寿命となるでしょう。その時、パーラーナシーの都を遷させて、6ヨーjanaのウッパラという名の都になるだろう。そして、人々がより優れた法を転ずると10万年の寿命となるだろう、その時ウッパラという都を遷して7ヨーjanaのパドゥマという名の都になるだろう。それからより優れた法を転ずると、10万コーティが寿命となるでしょう、それから阿僧祇[の寿命]となるでしょう。その時、パドゥマという都を遷して、12ヨーjanaのマンダーラヴァという名の都になるでしょう。その時、衆生の老死は知られない。そして、知られない老死を有する衆生は、放逸に至るであろう。彼らが放逸に至ると、阿僧祇から寿命が減少して、10万コーティとなるでしょう。それから減少して9千年に、そこからも減少して8万年[の寿命]になるだろう。その時、人々は、8万年の寿命を持つだろう。その時、マンダーラヴァという都を遷して、縦12ヨーjana・横7ヨーjanaの説かれた類いの幸福のあるケートゥマティーという名の都になるでしょう。かの弥勒も「このケートゥマティーが王都であり、そこに私は生まれることができる」とケートゥマティーの都を見るでしょう⁶⁰。

それから家柄を観察した。仏たちは世間に認められた家柄に生まれ、庶民や隷民の家に生ま

⁶⁰ *Anāg-a*, pp. 110-111: tato dvevassasatāyukā manussā kusalakammavipākam sampassamānā bhīyoso mattāya dhammam pūressanti atha anukammena āyuvaddhamānā tīni cattāri pañca vassasatāni tato vassasahassam tato dve tīni cattāri pañca vassahassāni tato dasa visati timsa cattāḷisa paññāsa satthi satti asīti nabuti vassasahassāni vadḍhanti nabutivassasahassāyukakāle bārānasīnagarassa nāmaṃ parivattetvā uppalanagaraṃ nāma bhavissati ekayojanikappamānaṃ. atha manussesu atirekataraṃ sattesu dhammam vassakoṭisatasahassam tato asaṃkheyyā āyu bhavissati. tadā padumanagaraṃ parivattetvā dvādasayojanikam maṇḍāranagaraṃ bhavissati. tadā sattānaṃ jarāmarānaṃ na paññāyati apaññāyamānaṃ jarāmarānaṃ sattā puna pamādam āpajjanti nirayaṃ dukkhaṃ kiṃ nāmāti sattānaṃ suggatipaṭilābhena pamādamāpajjanaṃ viya sattānaṃ santānaṃ akusaladhammapavesanena kusalahammā parihāyitum ārabhanti. tesu parihāyantesu āhārasamuttānarūpatāhāni viya āyuparihāyati asaṃkheyyāyū hāyitvā vassakoṭisatasahassam taṃ parihāyitvā vassasatasahassam tato navutivassasahassam taṃ parihāyitvā asītivassasahassam tiṭṭhati.

れない、世間に認められた王族の家あるいは婆羅門の家に〔生まれる〕、両家の内最勝の家が第一の家である、その時彼（弥勒）は、世間に認められた両家のうち世間に認められた婆羅門の家を「そこに私は生まれるだろう、サンカ王の司祭官である婆羅門が私の父となるだろう」と婆羅門の家を見るでしょう。

それから母を観察した。仏の母は欲深く酒に浸らず、10万劫もの間波羅蜜を満たし、生まれで以降五戒を守っている。そして彼（弥勒）も「司祭官であるとても高貴な婆羅門の妻である高貴な婆羅門女が私の母となるだろう、そして彼女は私が生まれた日から7日目に亡くなるでしょう」と母の寿命を観察するでしょう。なぜそれを観察するのかというと。諸々の仏たちの法性があるからである。仏の母胎は舍利を納めるのに相応しい塔廟の胎のように他者と共有するものではない、それ故、最後の生存を有する（解脱する）菩薩の誕生した日から7日目にその母は死に、天界に再生する、これが仏の母の常法である。

manussalokaṃ gamissāmi とは、ここにおいて知られるべき話である。かの弥勒菩薩は8千年間家に住し、4つの相を見て宮殿から出て、一週間精勤をなし、敗れることのない結跏趺座で菩提樹下において正覚を覚るだろう。

だから言われた。

彼は8千年間家に住し、4つの相を見て宮殿から出て、一週間精勤をなすだろう、その勝者は敗れることのない結跏趺座で菩提樹下において覚るでしょう、その尊き者の菩提樹はナーガ樹である、と言われた、と。

諸々の偈において〔弥勒の生起に関する〕決定が理解されるべきである。

わたしは実に多様な波羅蜜を完成させて、10万コーティ、16阿僧祇の間、精進において優れた菩薩であるわたしは、準備して(racitvā)布施を(dānakaṃ)与えます、一切知性を(sabbaññutaṃ)得た時、彼らは足がないこと(vikalaṅgā)はありません。

racitvā とは、清めて〔という意味である〕

dānakaṃ とは、食物飲物などを布施することである。布施こそが dānaka である。ここにおいて svatthiko（自己の欲求の）、nadiko（河の）云々というようなものである。

sabbaññutaṃ とは、すべてを知っているという尊き一切知者である。一切知者の性質が一切智性である。それは何か、智慧である。

vikalaṅgā というのは、ここで aṅga というのは手足などの大きな部位である。paccāṅga とは指・眼・眉などの小さな部位である。aṅga と paccāṅga とで aṅgapaccāṅga である。偈の〔韻律の〕関係によって先の語を省いて vikalaṅgā と言われた。彼らの部位が欠けていたり醜かったり不具合

があるというのが vikalāṅgā である。

tadā というのが語の残りである（省略されている）。

わたしの頭を整えて両眼に目薬をさし、10 万コーティもの間（kappakoṭisatehi pi）乞求者のために布施をしました、一切知性を得た時、人々は盲目（andhā）ではありません。

kappakoṭisatesu ca とは、数コーティの間〔という意味である〕sata の語は複数を意味する言葉である。kappakoṭisatahi pi という読みもある。その語句の相違は意味によるものである。

andhā とは両目が見えない〔という意味である〕

肢節を（aṅgapaccaṅge）整えて、のこらず布施を与えて、一切知性を得た時、彼らは足がないことは（vikalāṅgā）ありません。

aṅgapaccaṅge とは、大きな部位と小さな部位を〔という意味である〕

vikalāṅgā とは、まさに〔先に〕説かれた意味である。

そしてこの偈は、個人の布施に従って人間たちの容姿の完成について弥勒によって説かれた。

わたしは妄語を言わず、乞求者たちを騙しません、一切知性を得た時、人々が口をきけないことはありません。

わたしは、法を聞いて、喜んで乞求者の話を（yācakānaṃ kathaṃ）聞きました、一切知性を得た時、人々は耳が聞こえないことは（badhirā）ありません。

yācakānaṃ kathaṃ とは、乞求者たちの乞求の話を〔という意味である〕

badhirā とは、耳の機能が欠けている〔という意味である〕

わたしは、愛の眼で戒を守る（sīlavante）乞求者たちを（yācake）見ます、一切知性を得た時、人々は盲目ではありません。

sīlavante とは、戒を具足した沙門や婆羅門を〔という意味である〕

yācake とは、他の乞求者や乞食者たちを〔という意味である〕

そして身体を (kāyaṃ) 正して (ujam) 私は常に布施などを [なし
ます] 一切知性を得た時、人々は猫背ではありません。

kāyaṃ とは、身体を [という意味である]

ujam とは、背の曲がっていない [という意味である]

わたしは、薬を衆生に与え (osadham demi sattānam) 恐れ (bhayaṃ)
をなさないだろう、一切知性を得たその時、衆生は病んでいません。

osadham demi sattānam と言われたからである。

bhayaṃ とは、病などの恐怖である。

わたしは、衆生に慈悲をなし、恐怖戦慄の破滅が [あるだろう]
一切知性を得たその時、彼らは魔 (mārā) ではありません。

mārā とは、魔軍たち [という意味である]

わたしは、心のまま (manāpena) 意にかなった食物飲物を与えます、
一切知性を得た時、人々は栄えます (samiddhā)。

manāpena とは、信仰心によって [という意味である]

samiddhā とは、食物飲物などを備えた [という意味である]

わたしは、心のまま意にかなった衣を与えます、一切知性を得た時、
人々は美しい (surūpā) です。

surūpā とは、美しい容姿をした [という意味である]

意にかなった乗り物を、象や馬や戦車を、ぶらんこやかごをも、わ
たしは乞求者たちに与えます、一切知性を得た時、人々は幸せです。
わたしは、衆生を束縛から (bandhanā) 怒りから苦から解き放ちま
す、一切知性を得た時、生命ある者たちは自由になります。

bandhanā とは、鎖などの縛りから、あるいは、渴愛という縛りから[という意味である]

わたしは、愛すべき者たち (piyesu) と愛すべきでない者たちに対して (apiyesu) 等しく慈悲をなします、一切知性を得た時、大地は (mahitalā) 平静になります。

piyesu とは、愛すべき友人や親友に対して [という意味である]

apiyesu とは、敵に対して [という意味である]

mahitalā とは、吉祥な太鼓の面のような大地の全面は [という意味である]

わたしは、すべての乞求者たちを食事と財によって満足させます、一切知性を得た時、川は冷たい水で満ちます。

何であれ善業をなし、人々はわたしを求めます、輪廻の恐れのために、わたしは彼らを生存から解脱させる者となるだろう。

無智という恐怖の源を有し、迷いの網に掛かり、四暴流において (caturoghesu) 運ばれつつある世界を (lokaṃ) わたしは済度するだろう。

caturoghesu とは、欲流・有流・見流・無明流という4つの暴流において[という意味である]

lokaṃ とは、神々を含める世界を [という意味である] [lokaṃ は] 法という船によって涅槃に至らせるだろうという [語句と] 結びつく。

煩悩という泥にまみれた者に、愛欲という盗人に仕える者に (tañhātakkarasevite)、輪廻の方に迷い込んだ者たちに (saṃsāradisasammūlhe) わたしは解脱の道を (mokkhamaggaṃ) 示しました。

tañhātakkarasevite とは、渴愛という盗人に仕える者たちに [という意味である]

saṃsāradisasammūlhe とは、輪廻において六方で昏迷した者たちに [という意味である]
だから言われた。

母父は東の方角、師匠は南の方角

妻子は西の方角、友人親友は北の方角である

奴隷・従事者は下方、沙門・婆羅門は上方である

適切な在家者は家においてこれらの方角を拝むべきである⁶¹、と。

mokkhamaggaṃ とは、十善業の道である。passitvā (見て) という語が採られるべきである。

kilesapaṅkamakkhite 云々というのは、第 4 格 (与格) の意味における目的格の複数形である。

[すなわち] kilesapaṅkamakkhitānaṃ sattānaṃ (煩悩という泥にまみれた者たちのために) という意味である。2 パーダにおいてこれが意味である。このようである時、adesayiṃ (示した) と結びつくのである。さらに、kilesapaṅkamakkhite 云々というのは、存在を特徴づける第 7 格 (処格) の単数である [とも理解できる]

等活地獄 (Sañjive) 黒縄地獄 (Kālasutte) 焦熱地獄 (Tāpane) 大焦熱地獄 (Patāpane) 阿鼻地獄 (Aviciniraye) にいる衆生にわたしは天界への道を示しました。

そのうち sañjive とは、等活という名の地獄である。その語義は、ここにおいて殺された衆生が数千年間一緒に生きる、というのが sañjiva (等活地獄) である。そして、瞋癡に打ち負かされた衆生が生き物を殺して、悪く罪深く強暴な彼らはそこにおいて煮られる。

だから言われたのである。

瞋癡に打ち負かされたことによって生き物を殺す

その人々は悪く、罪深く、等活地獄に生まれた、と。

kālasutte とは、地獄の守護者が燃えた種々の武器を手にし、地獄の燃えた鉄でできた大地のあちらこちらで結びつけ、打ち、燃えた鉄の大地に落ちると、燃えた黒縄を投げ、燃えた斧を手にして自ら叫び、大きな苦しみに満ちた声で叫び、八重、十六重になり、ここにおいて切る、というのが kālasutta (黒縄地獄) である。

古人によってこれが説かれた。

母父に対して、友に対して、有徳者に対して破壊をなす、

真実を語らないその人々は黒縄地獄に生まれる、と。

60 篇の『サンキッチャパンディタ・ジャータカ』においてブラフマダッタの息子の菩薩によって説かれた。

貪欲あるいは怒りから父を殺す悪人は、

黒縄地獄で長夜に煮られる⁶²。

⁶¹ DN, vol. 3, pp. 191-192: Mātā-pitā disā pubbā, ācariyā dakkhiṇā disā, Putta-dārā disā pacchā, mittāmaccā ca uttarā, Dāsa-kammakarā heṭṭhā, uddhaṃ Samaṇa-Brahmaṇā, Etā disā namasseyya alam-attho kule gihī. (片山 [2005: 385-386]: 母父は東の方角なり 師匠は南の方角なり 妻子は西の方角なり 友人・知己は北の方角なり 奴隷・雑役夫は下方なり 沙門・バラモンは上方なり 家にふさわしい家主は これらの方角を拝むべきなり)

⁶² 第 530 話 “samkiccejātaka” からの引用である。Ja, vol. 5, p. 268: Yo lobhā pitaraṃ hanti dosā vā purisādhamo, sa Kālasutte niraye cirarattāni paccari. (中村 [1982: 117]: 貪欲あるいは いかりから 父を殺す 極悪人 かれは黒縄 地獄におい

tāpane とは、常に衆生を熱する、という焦熱である。ここに生まれた衆生をターラ樹の幹ほどの大きさの熱した鉄串に座らせる、そこから下では大地や熱した串が燃え、衆生が燃えている、このようにその地獄は常に衆生を熱する。では、誰がそこに生まれるのかというと、

[次のように] 言われた。

森などの燃やされているところで生類に火を置く、

その生き物は燃え、燃焼している焦熱 [地獄] において慟哭する。

patāpane とは、さらに熱するという大焦熱である。そこに生まれた衆生を熱した武器で打ち、熱した鉄山に登らせる。山の頂上に立つと、業を原因とする風が吹き、彼らはそこに立っていることができず、足を上に、頭を下にして墮ちる。そして、下の鉄の大地に熱した鉄串が現れ、それらの先で味わわれ、そこで [鉄串が] 身体を貫通し、熱し、煮られるのである。このようにこれはさらに焦熱するのである。さらに、邪見者らは「供儀がない、供物がない」云々という考えを持ってそこで煮られる。

だから言われたのである。

善不善業はない、と考えた断滅の見解を持った衆生は熱され、その者たちは

錯倒をとらえさせて、大焦熱地獄で煮られる、と。

ここにおいて、avīciniraye とは、炎の、あるいは、衆生たちの、あるいは、彼らの苦しみの間隔がここにはない、というのが阿鼻（無間地獄）である。ここにおいて幸福はない、という苦しみのある場所、地獄である。まさに阿鼻（無間）の地獄が阿鼻地獄である。ここでは大阿鼻地獄が適当である。大きな阿鼻というのが大阿鼻である、という分析がある。そこにおいて東方などの壁によって炎が生じ、西方などで撃破される、それ（炎）は壁を貫通して東方から百ヨージャナを占領し、下方に生じた炎は上方で撃破され、上方で生じた炎は下方で撃破される。このようにここにおいて炎の隙間がない。そしてその極限は百ヨージャナの地を乳蔓草の粉の満たされたナーリ（柘目の単位）のように衆生によって間隔なく満たされた。四威儀で煮られている衆生に認識はない。互いに苦しめ合わず、個々の場所で煮られる、このようにここにおいて衆生の間隔はない。舌先に蜜滴を第 7 の赤銅・青銅の滴の焼力によって消し去るように、そこにおいて焼力によって残りの不善の果を捨てて消し去る。苦しみが無間であると知る、このように苦の隙間がない。それは、壁を含めて鎮まって 118 ヨージャナ、回転させられて 354 ヨージャナ、小地獄と合わせて数万ヨージャナである。このようにこれ（阿鼻地獄）のすさまじさが知られるべきである。

て 長夜の報いが あるのです)

これが説かれたからである。

徳などをなしても母父師匠に対して怒り殺せば、彼らは阿鼻地獄にいで
しょう、と。

そして tāpane ca というのは、ここでは ca の語によって衆合・叫喚・大叫喚と呼ばれる三大地
獄を集めている。大地獄は 8 種である。

だから言われたのである。

等活・黒縄・衆合・叫喚、同じく、大叫喚・焦熱・大焦熱・阿鼻、
というこれら説かれた八地獄は超越し難いものであり、凶暴な行為によって [満
ちた] 残酷な各々十六小地獄が (paccekā soḷasussadā) ある⁶³、と。

そこにおいて paccekā soḷasussadā とは、これら (八大) 地獄それぞれにある 4 つの門にそれぞ
れ 4 つ (の小地獄) を造り 16 小地獄となるので、全部で 128 小地獄である。それに共に八大地
獄とで 136 地獄である。

等活地獄 (中略) 阿鼻地獄に生まれ煮られている (paccante nibbatte) 衆生に会い (disvā)、わ
たしは (aham) 天界への道を示しました、というのが、偈の [韻律の] 関係のために [省略さ
れている]

saggamaggam とは、天界に行く原因となる十善業の道である。

縛られた者たちや愛欲の網に捕われた者たちを無智の束縛から
(aññāṇabadhanā) 断ち (chetvāna)、わたしは、衆生を涅槃に至らせ
るだろう。

aññāṇabadhanā とは、癡という束縛から [という意味である]

chetvā とは、智という剣によって断って [という意味である]

邪見という扉によって (micchādiṭṭhikavātena) [閉ざされた] 六十二
見の門を (dvāsaṭṭhidiṭṭhi-aggalaṃ) 八支道の鍵によって
(aṭṭhaṅgikamaggatālena) 生命ある者たちの為にわたしが、不老不
死の (ajarāmaram) 広大な (visālam) 涅槃の都への扉を開くでし
ょう。

micchādiṭṭhikavātenā とは、邪見と呼ばれる扉によって [という意味である] 邪見は天や解脱

⁶³ Ja, vol. 5, p. 266: Sañjivo Kālasutto ca Saṃghāto dve ca Roruvā, athāparo Mahāvīci Tapano ca Patāpano. Icc-ete aṭṭha nirayā akkhātā duratikkamā, ākiṇṇā luddakammehi paccekā soḷas' ussadā. (中村[1982: 115]; 等活地獄と 黒縄地獄 衆合地獄と 二つの叫喚地獄 大阿鼻地獄 さらにまた 炎熱地獄と 極熱地獄。以上説かれた この八地獄 逃れることは 難しく 凶暴行為に 満たされた 各十六の 小地獄。)

への[道を]閉ざす作用を完了させるので、門の扉のような門の閉鎖作用である、それ故に邪見という扉によって、と言われたのである。

dvārasatthī ditthi-aggalaṇa とは、六十二の顛倒が扉の門である。六十二見が知られるべきである、4つの常住論、4つの部分的常住論、4つの辺無辺に関するもの、4つの詭弁論、2つの無因生論、16の有想論、8つの無想論、16の非有想非無想論、7つの断滅論、5つの現在涅槃論というのが六十二見である。

同様に説かれた。

4つの常住論 (sassatavādā) 4つの部分的常住論 (ekaccasassatavādā) 4つの辺無辺に関するもの (antānantikā) [4つの] 詭弁に関するもの (amarāvikkhepikā) 2つの無因生に関するもの (adhiccasamuppannikā) そして、16の有想論 (saññivādā) 8つの無想論 (asaññivādā) [16の] 非有想非無想論 (nevasaññināsaññivādā) 7つの断滅論 (ucchedavādā) 5つの現在涅槃論 (ditthidhammanibbānavādā) と。

また、それらの見の語義は [次のようである]

我と世界は常住である、という論が sassatavādā (常住論) である。衆生あるいは輪廻において一部分が常住であるという論者が ekaccasassatavādā (部分的常住論) である。辺と無辺とってこのように辺無辺について起こった4つの論である。辺無辺に結びつけられたのが、antānantikā (辺無辺に関するもの) である。死なず、断絶しない、というのが amarā (不死) である。それは何か。「このようでもなく、そのようでもない」云々と言って、生まれた見解や言葉である。その撒布が詭弁である。彼らにとってそれ (詭弁) があるのが、amarāvikkhepikā (詭弁論者) である。さらにまた、不死は捉え難い魚の類である。彼らにとってその不死のような撒布がある、というのが amarāvikkhepikā (詭弁論者) である。adhiccasamuppannikā とは、ここではどんな原因にもよらず、我や世界が生じた、という考えに結びつけられた無因生論に関するものである。我は有想であるというある者たちの論が saññivādā である。asaññivādā (無想論) と nevasaññināsaññivādā (非有想非無想論) というのは、ここにおいても [同様の意味である] 身体の違いから衆生は断滅する、というこのように断滅を説くというのが ucchedavādā (断滅論) である。ditthidhamma とは、現前のそれぞれの自己の存在である。まさにその時望み通り五欲の享受による涅槃を苦の寂滅と説く、というのが ditthidhammanibbānavādā (現在涅槃論) である。

aṭṭhaṅgikamaggatālena とは、ここでは正見・正思・正語・正業・正命・正精進・正念・正定という [意味である] 八支の支分が aṭṭhaṅga である。それにそれ (八支) があるのが八支を有するという意味である。集まった状態が magga (道) である。最高の真実からすると支分を離れた集まりが存在しないのが八支道である、と言われた。なぜなら八支道は、最高の真実からすると、涅槃という門を開けること、鍵のように扉の門を開けることを完成させ

るからである、それ故に atthaṅgikatālena (八支の鍵によって)と言われたのである。一般的に八支道と言われ、ここでは特に預流道が意味されている。なぜかという。六十二見に陥ることは預流道によって捨てられるべきであるから。

visālaṃ とは、広い [という意味である]

ajaramaraṃ とは、不老と不死 [という意味である]

そこにおいて彼(弥勒)は偈の [韻律の] 関係から [省略しているが] 「尊者よ、私は開けるでしょう、六十二見の門を燃やし、邪見の扉によって [閉ざされた門を] 八支道という鍵で開けて、私は生き物たちに涅槃した広い不老不死の涅槃という都への門を示すでしょう」と [説いている]

貪欲や怒りの闇に覆われたものを破壊する眼を持った人々の為に (rāgadosatamonaddhahatanettaṇaṃ)、徳のある籌を与えて、わたしは眼を (nayanamaṃ) 浄めるでしょう。

rāgadosatamonaddhahatanettaṇaṃ とは、貪欲や怒りという闇に覆われたものを破壊する智慧を持つ人々のために [という意味である]

nayanamaṃ とは、眼である。智慧という意味である。

愁によって病み、非常に苦しめられ、老死に悩まされた者に、わたしは、知恵の薬という恵みを与えて、生命ある者たちのために治療するでしょう。

天人・悪魔・人間が共におろかな暗闇で迷乱したならば、わたしは、知恵の世界を広げて、その闇を取り除くでしょう。

無救護で (apāyesu) 無到彼岸の苦界に落ちたなら、わたしは、苦界を取り除いて、彼岸を (parāyanamaṃ) 示すでしょう、と。

無救護で無到彼岸の(中略)彼岸を示すでしょう、というのは、ここにあるべきである、「怒って(中略)わたしの周りにはいません⁶⁴」、と先に説かれたので、さらに厳しい過ちとなる、と [言われた] 例え、もしたった一つの森でライオンが吼えたとしても私は怖くないが、森中でたくさんのジャッカルの声を聞くと私は怖い、と軽い行為について説かれたので、その時

⁶⁴ *Mth-v*, pp. 45-46; **paṭighamaṃ** bhikkhunīdūsaṃ karonti saṃghabhedakamaṃ, pañcānantariyakammaṃ thūpaṃ bodhissa chedakamaṃ, bodhisattaṃ ca mārenti santamaṃ saṃghassa hāraṃ, maccherā ca pamāda ca **na honti mama santike ti.** (和訳: 怒って比丘尼の破壊を、僧団の破壊をなします、五つの無間業を、塔廟を菩提のための破壊を [なします]、菩薩を殺害し、僧団の静寂を奪います、[そのような] 慳惜で怠惰な者たちは、わたしの周りにはいません)

彼らの罪は終わるのである。

そこにおいて apāyesu とは、地獄・阿修羅・餓鬼・畜生という四悪趣において [という意味である]

parāyanam とは、天界に、あるいは、涅槃に [という意味である]

26 【弥勒の兜率天への帰還】(*Mth-v*, p. 55, 2)

そして、このように (evañ ca pana) 語ると、菩薩は、「尊者よ、わたしが言うように、人々の為に語るべきである」という教説を (sāsanam) 与えて、10本の爪を集め、輝く手で蒼の型にし (dasanakkhasamodhānasamujjalakarapūṭamakūlo) よく浄められた金板のように額の真ん中で固定され輝いた合掌した手の型で、意のままに、サファイアやマニでできたチューラマニ・チューティヤを右繞して、八方に礼拝して、五体投地で礼拝して (aṭṭhadisāsu vanditvā pañcaṅgapatitṭhitena vanditvā) 長老に許しを請い (theram āpucchitvā) 10万コーティを数える天女や天人衆に囲まれて、星の群れに囲まれ、厚い雲のない空の満月のように輝きながら、兜率天の都に行きました。

evañ ca pana とは、不変化辞の集まりである。この方法によって、という意味が生じている。

sāsanam とは、自身の言葉を [という意味である]

dasanakkhasamodhānasamujjalakarapūṭamakūlo とは、ここでは十本の爪の集まりを一つにすることが、dasanakkhasamodhāna (十本の爪の集まり) である。十本の爪の集まりによって輝くが、dasanakkhasamodhānasamujjala である。それによる彼の手の蒼というのが、dasanakkhasamodhānasamujjalakaramakulo である。さらにまた、karo とは手である。[一方で] それによって作る (karoti) という karo であるという反論がある。このようである時、karo (作る) とその蒼とで karamakulo (蒼を作る) [という意味になる] ある人に十本の爪を集めて輝く手の蒼がある、彼こそが dasanakkhasamodhānasamujjalakaramakulo (十本の爪を集めて輝いた手の蒼を有する人は) である。

theram āpucchitvā とは、「尊者よ、わたしが偉大な福德を [なしに] 行きます」と言って、デーヴァ長老に思慮を尋ねて [という意味である]

だから説かれました。

このように (evam) 優美な (anomavaṇṇo) かの弥勒は、優れた塔廟を供養して、さらに礼拝して (puna vanditvā) 背後に退きます。

evam とは、この原因によって [という意味である]

anomavaṇṇo とは比類ない身体の姿を持つ [という意味である] さらに、vaṇṇa の音は、
guṇa という言葉の意味もある。anomaguṇo (最高の徳を有する) という意味である。

puna vanditvā とは、第二にも礼拝して [という意味である] さらにまた、aṭṭhadisāsū vanditvā
pañcaṅgapatitṭhitena vanditvā (八方に礼拝して、五体投地によって礼拝して) と先に述べられ
たので、何度も礼拝して、とも意味が理解されるべきである。

天女たちも皆、優れた塔廟を供養し、八方に礼拝して、背後に退き
ます。

秋の (sarade) 満月の時における月のように (puṇṇamāyaṃ yathā
cando) そのように聖なる弥勒は天人の間で輝いています。

puṇṇamāyaṃ yathā cando とは、ここでは太陽が黒分の布薩日に月と共に進み、その後、[太陽
は] 白分の初日に数ヨージアナのうちの 10 万の月輪を放置していく、自分 (太陽) が早く進む
為である。そして、月は線のように認められ、それから第二の半月の数ヨージアナのうちの 10
万の月輪を放置して進む、このように白分の布薩日から日々 10 万ずつ放置して行く、そして月
は次第に大きくなり、布薩日に満ちる⁶⁵、と [言われた] [従って *Mth-v* において] 言われたの
である、puṇṇamāyaṃ yathā cando と。

sarade とは、秋と時の結合において [という意味である]

獣の中にいる (migamajjhe) ライオン (sīho) のように、雄牛の中に
いる牛王 (usabho) のように、鳥の中にいるガルダ (garuddho) の
ように、彼 (弥勒) は天人の中にいます。

sīho とは、4 種のライオンである。草ライオン・黒ライオン・黄ライオン・鬣ライオンという
[4 種である] そのうち tiṇasīho (草ライオン) は、鳩の色の牡牛と同じように草を食べる。kālasīho
(黒ライオン) は、黒い牡牛のように草を食べる。paṇḍusīho (黄ライオン) とは、枯れ葉色の
牡牛のように肉を食べる。そして、kesarasīho (鬣ライオン) は、漆汁で浄化した口、最上の尾、

⁶⁵ Sv, vol. 3, p. 867: So kāla-pakkh' uposatho pātipādādivase yojanānaṃ sata-sahassaṃ canda-maṇḍalaṃ ohāya gacchati. Atha cando lekha viya paññāyati. Pakkhassa dutiyāya sata-sahassaṃ ti evaṃ yāva uposatha-divasā sata-sahassaṃ sata-sahassaṃ ohāya gacchati. Atha cando anukkamena vaddhitvā uposatha-divase paripuṇṇo hoti. (片山 [2005: 447]: かれ《太陽》は、黒分の布薩 (kālapakkha-uposatha) から《月とともに行き、それよりさらに》白分の翌日 (pātipada-divasa) に《自分が速く行くことにより、またかれ (月) が遅く行くことにより》十万ヨージアナにわたり、月輪を捨てて行く。そこで、月は《西方に》線のように認められる。半月の第二の十万である、とこのように布薩の日《白分の布薩日》まで、それぞれ十万を捨てて行く。また、月は次第に満ち、布薩日に満月となる。)

4つの足先を備えている。その頭頂から漆の敷物によって作られたような三本の線が背中の真ん中まであり、腿の中間で右回りに渦を巻いている。そしてその肩には10万の価値のある赤い毛布の囲いのような鬘という荷がある。他の所は清浄な稲色、穀物色、法螺貝色、粉末色、綿色である⁶⁶。彼は自分の住処である黄金の洞窟から、あるいは、銀・摩尼・水晶・鶏冠石の洞窟から出て、金・銀・摩尼・水晶・鶏冠石のある所で、2本の後ろ足を平に立って、前足を前に伸ばして、身体の後方を引いて、前方を伏せて、背を曲げさせて、首を上へ上げて、雷鳴をなすように鼻の穴を清め、身体についた垢を除いて欠伸をする。欠伸をした大地で若い子牛のようにあちこち走り回る。そして走り回り、彼の身体は暗黒の中でよるめく火のように見える⁶⁷。このように欠伸をして、三度獅子吼を吼えた。吼えた声は遍く3ヨージアナの領域に一つの音をなした。彼のその吼声を聞いて3ヨージアナの内部では二足・四足の衆生の群れは[その]場に立つことができなかった⁶⁸、「まさに今やって来て捕まえるだろう」と言って畏れた者たちは道を眺めた⁶⁹、穴に住む蛇・マングース・イグアナなどは穴に住し、水に住む魚・亀などは水に住した。森に住む象・馬・牛・鹿などは森に住した⁷⁰。鳥たちは空に赴いた。村・町・王都に堅固な法でできた縄で縛られた象たちは、その縛りを断ち、恐れて尿と糞を捨てどこかへ逃げた⁷¹。このように鹿の中の王であるライオンの吼を聞いて多くの者たちは畏れるのである。では、誰が畏れないのか。同種であるライオン・良象・良馬・良牛・良人・漏尽者である、と。なぜ彼らは畏れないのか。同種であるライオンは、「私は生まれ・種姓・家系・勇ましさを備えている」と言って畏れない。良象などは自身が有身見の力を有するが故に畏れない。漏尽者は有身見が捨てられているので畏れない⁷²。そして彼(ライオン)は、欠伸をした大地に立ち、右から、あるいは、左から、あるいは、後方から飛び上がりウサバだけ飛び上がった。上方に飛び上がり4ウサバも8ウサバも飛び上がった、平地で飛び上がり垂直に飛び上がり16ウサバも20ウサバも[その]場で飛び上が

⁶⁶ *Spk*, vol. 2, p. 283: *sīho ti, cattāro sīhā: tiṇa-sīho, kāla-sīho, paṇḍu-sīho, kesara-sīho ti. Tesu tiṇa-sīho kapota-vaṇṇa-gāvī-sadisō tiṇa-bhakkho ca hoti. Kāla-sīho kāla-gāvī-sadisō tiṇa-bhakkho yeva. paṇḍu-sīho paṇḍu-palāsa-vaṇṇa-gāvī-sadisō maṃsa-bhakkho. Kesara-sīho lākha-rasa parikamma-katen' eva mukhena agga-nanguṭṭhena catūhi ca pāda-pariyantehi samannāgato: matthakato pi 'ssa paṭṭhāya lākha-tūlikāya katā viya tisso rājiyo piṭṭhi-majjhena gantvā antara-satthimhi dakkhiṇā-vattā hutvā ṭhitā. Khandhe pan' assa sata-sahassagghanaka-kambala-parikkhepo viya kesara-bhāro hoti. Avasesa-tṭhānaṃ parisuddham sāli-piṭṭha-sankha-cuṇṇa-picu-vaṇṇaṃ hoti.*

⁶⁷ *Spk*, vol. 2, p. 284: *suvaṇṇa-tale vā rajata-maṇi-phalika-mano-silā-talānaṃ vā aññatarasmim dve pacchima-pāde samam patitṭhapetvā, purima-pāde purato pasāretvā, sarīrassa pacchā-bhāgaṃ ākadḍhitvā, purima-bhāgaṃ abhiharitvā, piṭṭhim nāmetvā, gīvaṃ ukkhipitvā, asani-saddaṃ karonto viya nāsā-putāni poṭhetvā, sarīra-laggam rājam vidhunanto vijambhati: vijambhana-bhūmiyaṃ ca pana taruṇa-vacchako viya aparāparaṃ javati, javato pan' assa sarīraṃ andha-kāre paribbhamantaṃ alātaṃ viya khāyati.*

⁶⁸ *Spk*, vol. 2, p. 284: *Evaṃ ca pan' assa vijambhana-bhūmiyaṃ ṭhatvā nadantassa saddo samantā tiyojana-ppadesaṃ eka-ninnādaṃ karoti. Tam assa ninnādaṃ sutvā tiyojan' abbhantara-gatā dipada-catuppada-gaṇā yathā ṭhāne ṭhātuṃ na sakkonti.*

⁶⁹ *Spk*, vol. 2, p. 285: *'idāni āgantvā gaṇhissati' ti maggaṃ oloketā va pavisanti.*

⁷⁰ *Spk*, vol. 2, p. 285: *Bilāsaya ti, bile sayantā, bila-vāsino ahi-nakula-godhādayo. Dakāsaya ti, udaka-vāsino maccha-kacchapādayo. Vanāsaya ti, vana-vāsino hatthi-assa-go-kaṇṇa-migādayo.*

⁷¹ *SN*, vol. 3, p. 85: *akāsaṃ pakkhino bhajanti. Ye pi te bhikkhave raṇṇo nāgā gāma-nigama-rājadhānīsu dalhehi yottehi baddhā. te pi tāni bandhanāni samchinditvā bhūtā muttakarīsaṃ mocantā ye na vā tena vā palāyanti. (『南伝』 vol. 17, p. 136: 鳥は虚空に就く。諸比丘よ、まあた国王の有する象あり、村邑王都に於て堅固なる繩に縛さる、彼等も亦彼縛を裁ち破り怖れて大小便を失し、所有の方便を以て逃走す。)*

⁷² *Spk*, vol. 2, p. 285: *Sihassa hi saddaṃ sutvā bahū satta bhāyanti, appakā na bhāyanti. Ke pana te ti? Sama-sīho hatthājanīyo assājanīyo usabhājanīyo purisājanīyo khīṇāsavo ti kasmā pan' ete na bhāyanti ti? Samasīho nāma 'jāti-gotta-kula-sūra-bhāvehi samāno 'mhi' ti na bhāyati. Hatthājanīyādayo attano sakkāya-ditṭhi-balavatāya na bhāyanti. Khīṇāsavo sakkāya-ditṭhiyā pahinattā na bhāyati.*

った、岸から、あるいは、山から飛び上がり 60 ウサバも 80 ウサバも[その]場で飛び上がった。道中で樹あるいは山を見てそれを持って左から、あるいは、右から上方にウサバだけ立ち去った。彼(ライオン)は、三度目の獅子吼を吼えて。それとともに 3 ヨーjanyaの地を認識し、3 ヨーjanya [の中] に向かって立ち、自分の大きな吼の響きを聞いた⁷³。このように勇ましさなどの徳によって他の 3 つのライオンのうち(よりも)鬣ライオンが最勝で最上である。またここにおいて migamajjhe と言われたので鬣ライオンが意味されている。

usabho とは、ここでは usabha という語が最上という語である。なぜなら牛の中で最上の存在である牡牛という意味だからである。

garuddho とは、金翅鳥王である。なぜならそれは[体長が] 150 ヨーjanyaで、その右翼は 50 ヨーjanyaで、同様に左翼があり、尾は 60 ヨーjanya、首は 30 ヨーjanya、嘴は 9 ヨーjanya、足は 12 ヨーjanyaである。その金翅鳥が風を起こし始めると 700・800 ヨーjanyaの地は[立っていることが] できない⁷⁴。

これが言われたからである。

例えば、ガルラは自分の食べる蛇に降り、遍く 100 ヨーjanyaの大湖を揺らす、彼は蛇を捕らえて、[蛇の] 頭を下にして苦しめ、鳥はそれを持って欲するまま飛び立つのである⁷⁵、と。

山の中で (nagamajjhe) 須弥山のように七宝で飾られ (sattaratanamaṇḍito) 人の中にいる(naramajjhe) 転輪王(cakkavatti) のように彼は天人の中にいます。

nagamajjhe とは、雙持[山]・持軸[山]・迦陵頻伽[山]・善見[山]・持地[山]・調伏[山]・馬耳[山] という 7 つの周囲の山々の中で [という意味である]

だから古人は言った、

8 万 4 千 [ヨーjanya] 上下する、神々の種々の宝で彩られた雙持[山]・持軸[山]・迦陵頻伽[山]・善見[山]・持地[山]・調伏[山]・馬耳[山] という

⁷³ *Spk*, vol. 2, pp. 284-285: So hi vijambhana-bhūmiyaṃ thatvā dakkhiṇato vā vāmato vā uppatanto usabha-mattam thānaṃ ganhāti. Uddham uppatanto cattāri pi attha pi usabhāni uppatati. Sama-tthāne ujukaṃ pakkhandanto soḷasa usabha-mattam pi vīsati usabha-mattam pi thānaṃ pakkhandati. Thalā vā pabbatā vā pakkhandanto satthi usabha-mattam pi āsīti usabha-mattam pi thānaṃ pakkhandati. Antarā magge rukkhāṃ vā pabbataṃ vā disvā taṃ pariharanto vāmato vā dakkhiṇato vā usabhamattam pi apakkamati; tatiyaṃ pana siha-nādaṃ naditvā ten' eva saddhiṃ tiyojane thāne paññayati. Tiyojanaṃ gantvā nivattitvā thito attano vā nādassa anunādaṃ suṇāti.

⁷⁴ *Sv*, vol. 2, p. 487: Supaṇṇa-rājā ca diyadḍha-yojana-satiko; tassa dakkhiṇapakkho paññāsa-yojaniko hoti, tathā vāma-pakkho pi, piṇjavatti satthi-yojanikā, gīvā tiṃsa-yojanikā, mukhaṃ nava-yojanaṃ, pādā dvādasa-yojanikā. Tasmim supaṇṇe vātaṃ dassetum āradde satt' attha-yojana-sataṃ thānaṃ nappahoti. 他 *Spk*, vol. 2, pp. 88-89 にも言及有り。

⁷⁵ *Ap*, p. 41: Garuḷo yathā opatti pannagaṃ bhakkam attano, samantāyojanasataṃ vikkhobheti mahāsaram. Pannagaṃ so gahetvāna adhosīsaṃ vihethayaṃ, ādāya so pakkamati yena kāmaṃ vihaṅgamo. (『南伝』 vol. 26, p. 77: 恰も金翅鳥、自らの食なる蛇に舞ひ下り 彼の大海を、其の周り 百由旬を攪き亂し、彼其の蛇を捕へ執り 頭を下に苦しめて 欲するままに彼の鳥は 其の蛇執りて飛び去らむ。)

大きな山がある、
これらの7つの大きな山は、須弥山の周囲にあり、大王たちの住処であり、神や
夜叉が住している⁷⁶、と。

sattaratanamaṇḍito とは、金などの七宝によって彩られた [という意味である]

naramajjhe とは、四大島に住む人々の間で [という意味である]

cakkavatti とは、転輪宝を備えた王、君主である王 [という意味である]

木の中にある珊瑚樹のように、花の中にある紅蓮のように、摩尼の
中にある瑠璃のように、彼は天人の中にいます。
山頂にある火のように、よく熔かされた金のように、すべての天人
たちを超えて、美の炎を伴って輝いています。
兜率天宮に行き (yanto) 天人たちに囲まれて、天の楽を享受して、
長い間天界において⁷⁷喜びます (pamodati) と。

yanto とは、行きつつある、あるいは、至った [という意味である]

pamodati とは、自身のなした福德業によって何度も喜ぶ [という意味である]

yathā vuttēna kālenā とは⁷⁸、まさに人々の8万歳の寿命の時に正覚がある、というのが語句の
残りである (省略されている)。

27 【長老の閻浮提への帰還】(*Mth-v*, p. 57, 1)

ちょうどその時 (*tasmim̐ khaṇe yeva*) 長老は、最上の (*parama*) 別解脱律儀
戒・根律儀戒・正命遍浄戒・資具依止戒という4つの遍浄戒などを
(*catupārisuddhasīlādi*) 守り、量れないほど色々な装身具で荘厳されたサファイ
アや摩尼で造られたチューラーマニ・チェーティヤを礼拝して、天界の王サッ
カに許しを請い、極めて強い貪欲・愛欲・邪見など
(*atīviyadāruṇarāgatanhā-micchādītthādi*) [を象徴する] 種々の木・森・蔓草・蘂・
広い森の茂み・家という老死などの苦の源である輪廻の時を越え (*jarāmarañādi*

⁷⁶ *Pj I*, vol. 2, pp. 442-443: *caturāsīti sahasāni ajjhogāḷho mahañṇave, accuggato tāvad eva Sineru pabbatuttamo, tato upaddhupaḍḍhena pamāṇena yathākkamaṃ, ajjhogāḷhuggatā dibbā nānāratana-cittatā, Yugandharo Īsadhāro Karavīko Sudassano, Nemindhāro Vinatāko Assakaṇṇo giri brahā, ete satta mahāselā Sinerussa samantato, Mahārājānam āvāsā devayakkhanisevitā.* (村上・及川 [1988: 260]: 八万四千ヨージャナ、大海に沈み、同じ分だけ聳え立つ最高の山・スメール (*Sineru*, 須弥山、妙高山) がある。それから次々に [須弥山の] それぞれ半分の高さ (分量) で、[大海に] 沈み、また聳え立つ・神々の種々の宝で彩られた・雙持 (*Yudandhara*) [山]・持軸 (*Īsadhāro*) [山]・迦陵頻伽 (*Karavīko*) [山]・善見 (*Sudassano*) [山]・持地 (*Nemindhāro*) [山]・調伏 (*Vinatāko*) [山]・馬耳 (*Assakaṇṇo*) [山] の大山がある。須弥山の周辺の、これら七つの大岩 [山] は、大王 (四天王) 達の住所であり、神や夜叉が住んでいる。)

⁷⁷ *satte* (*Mth-v*, p. 56, 13) とあるが、*sagge* に校訂し翻訳。

⁷⁸ *Mth-v* の本文 (*Mth-v*, p. 56) に、*“yathā vuttēna kālenā”* という語句は現れない。

dukkhappabhavasamsāram addhānaṃ atikkanto) 最上の三明 (tivijjā) を備えた頭を有し、第四禪の種々の方法 (catutthajhānavicittapakka) は輝き貪欲を離れており、神足 (iddhipādā) と最勝足という 2 つの吉祥なものを備え、八解脱 (attha vimokkhā) の無礙智 (paṭisambhidāññāṇa) がある世界で世間を越えた信ある守護者 (マーレツヤ長老) は、身体全体を十分に毛で覆った金色鷲のように輝いており、三十三天宮から下って、閻浮提へやって来て、喩えられないほどの声聞としての本質的な優美さを伴って、村・町・王都に托鉢のために入りました。

tasmiṃ khāṇe yeva とは、聖なる弥勒の来るまさにその時に [という意味である] なぜなら、10 年という量の時間が khāṇa であると言われたから。

paramapāṭimokkhasaṃvara. pe. samalaṅkato (最上の別解脱律儀戒 中略 莊嚴された) とは、ここにおいて別解脱における律儀がまさにその pāṭimokkhasaṃvara (別解脱律儀) であり、戒が別解脱律儀戒である。それは、学処の制定の自然な方法であると知られるべきである。眼根などの制御が indriyasaṃvarasīla (根律儀戒) である。医術行為などの、あるいは、不法の詐欺・饒舌・占術をなした利益によって利益を望むというこのような邪命によって生じた 4 つの資具を捨て、正しい法によって生じた 4 つの資具によるその命が、まさに sammājīvapārisuddhasīla (正命遍淨戒) である。不法を捨て、邪命を避けさせ等しい法によって生じた考察は、真に衣を愛用する云々と言われた方法によって四資具を觀察して受用する、まさにそれのそれら資具に依った戒がまさに paccayasannissitasīla (資具依止戒) である。

さらにまたこれが説かれた。

900 億、18 億、500 万、さらにまた 3 万 6 千。

これらの防護の律は正覚者によって説示されたが、

律蔵では省略によって学処が説かれた⁷⁹、と。

このように数えることによる限界もあるが、戒を受け、残らず受戒することに関して、そして、利得・名声・親族・肢体・生命によって制限されないことに関して、無限遍淨 [戒] である、と理解されるべきである。これはその譬えである。チーヴァラグンバに住みマンゴーを食べるマハーティッサ長老の戒のようである。というのもその尊者は、

勝れた肢体のために財を捨てるべきであり、生命を守るのに肢体を捨てるべき

である、

法を記憶しつつある人は肢体も財も生命もすべてを捨てるべきである⁸⁰、と。

⁷⁹ *Vism*, p. 46: Nava koṭṭisahassāni, āsīti satakoṭṭiyo, paññāsa satasahassāni chattimsā ca punāpare. Ete saṃvaravinayā sambuddhena pakāsītā; peyyālamukhena niddiṭṭhā, sikkhā vinayasamvare ti. (『南伝』 vol. 62, p. 84 : 九百億と十八億と、五百萬と更にまた、三萬六千となり。此等の防護の律が、正覚者によりて説かれたるも、律蔵中には略門によりて、[戒] 学が説示せられたり。)

この善人は随念を捨てず、生命の心配がある時にも学処を犯さず、まさにその無限遍浄戒に依って優婆塞の背に負われて、阿羅漢果を得た。[マハーティッサ]長老は、飢饉の時に道を行き、断食によって疲れ、疲れた身体は力を失い、他所の実ったマンゴー樹の元で横になった。たくさんのマンゴーの実がそこに落ちていた。そこに一人のさらに老いた優婆塞が[マハーティッサ]長老の側に行き、疲労を知ってマンゴーの汁を飲ませ、自分の背に載せて住んでいる所に連れて行った⁸¹。長老は、

父でなく、友でなく、母でなく、親族でなく、親類でもな者が、具戒者である
が故にそのようななされるべきことをなした⁸²、と

自分自身に訓戒して、思惟を始め、観察を増大させて、彼の背に負われて、道中で次第に阿羅漢果を覚った。すなわち[次に]言う通りである、

感激を生じて、真に思惟して、彼の背に負われて阿羅漢果を得た⁸³、と。

これは省略であり、詳細は *Visuddhimagga* (『清浄道論』) において知られるべきである⁸⁴。

catupārisuddhasīlādi とはここでは ādi の語によって定蘊などを集めている。

parama という語は、ここでは一つ一つ[の戒]に結びつけられるべきである。

ativiyadārūnarāgatanhāmicchādiṭṭhādi とは、ここでは ādi という語によって瞋・癡などが言われた。

jarāmarāṇādi dukkhappabhavasamsāram addhānam atikkanto というのは、jarā(老い)と marāṇa(死)とで jarāmarāṇa(老死)である。その ādi はある愁いなどにとってそれが jarāmarāṇādayo(老死など)である。その老死などの苦しみこそが jarāmarāṇādidukkhāṃ である。老死などの苦しみの pabhava(根源)とは発生する所である。それは限定複合語(tappurisa)であり、所有複合語(bahuvīhi)ではない。なぜかという。老死などの縁起によって生じた部分によって捉えられるべきであるから。まさにその saṃsāra(輪廻)というのも同様である。そこにおいて生じた addhāna(時間)は長い時間であり、老死などの苦しみの根源となる輪廻という時間である。それ(老死などの苦しみの根源となる輪廻という時間)を atikkanto(超越する)という意味である。

⁸⁰ *Vism*, p. 47: Dhanam caje aṅgavarassa hetu, aṅgam caje jīvitaṃ rakkhamāno; aṅgam dhanam jīvitaṃ cāpi sabbam, caje naro dhammam anussaranto ti. (『南伝』 vol. 62, p. 85 : 大切な肢體のためには當に財産をも捨つべし、生命を護るためには當に肢體をも捨つべし、法を随憶しつつある人は當に 肢體も財産も生命も一切を捨つべし。)

⁸¹ *Vism-mhṭ*, p. 66, mahātiṣṣatthero kira dubbhikkhakāle maggaṃ gacchanto bhattachedena, maggakilamathena ca kilantakāyo dubbalo aññatarassa phalitassa ambassa mūle nipajji, bahūni ambaphalāni taḥaṃ taḥaṃ patitāni honti. tattheke vuḍḍhataro upāsako therassa santikaṃ upagantvā parissamaṃ ñatvā ambapānam pāyevā attano piṭṭhiṃ āropetvā vasanaṭṭhānam neti. therō, “na pitā nāpi te mātā, na ñātī nāpi bandhavo. karote tādisaṃ kiccaṃ, silavantassa kāraṇā” ti attānam ovaḍḍitvā sammasanaṃ ārabhitvā vipassanaṃ vadḍhetvā tassa piṭṭhigato eva maggaṃ piṭṭhiyā arahattaṃ sacchākāsi.

⁸² *Vism*, p. 47: Na pitā na pi te mātā, na ñātī na pi bandhavā, karote tādisaṃ kiccaṃ silavantassa kāraṇā. (『南伝』 vol. 62, p. 85 「汝の父にも非ず、母にも非ず、親戚にも非ず、縁者にも非ざるに、[汝が] 具戒者たるのを故を以て、[彼は] 斯の如き所行をなせり」[と思惟して])

⁸³ *Vism*, p. 47: Saṃvegā janayitvāna sammasitvāna yoniso; tassa piṭṭhigato santo arahattaṃ apāpuṇī ti. (『南伝』 vol. 62, p. 85 : 悚懼を生じ、如理に正観して、彼の背中に負はれて、[我は] 阿羅漢果を得たり。)

⁸⁴ 上述の言及は『清浄道論』(*Vism*, pp.47-47.)からの引用であるが、一部『清浄道論』の副註 *Paramatthamañjūsā*(*Vism-mhṭ*)からの引用も含んでいる。

tivijjā とは、天眼智・過去における宿住智・漏尽智というのが三明 (tivijjā) である。

catutthajhānavacittapakka とは、4 つある道について第四禪における神通力の方法について語っている。

iddhipāda とは、欲神足・心神足・精進神足・観神足という4つの神足である。

aṭṭha vimokkhā とは、色界無色界の8つの成就である。

paṭisambhidāññānā とは、義無礙智・法無礙智・詞無礙智・弁無礙智という4つの無礙である。

だから説かれました。

その時その[マーレツヤ]デーヴァ長老も天界の王に (surindakam) 許しを請い、再び塔廟を礼拝し、天界から (saggato) 下り、金色鷲のように (hemahaṃso va) 輝き、再び人々の所に (mānusaṃ) やつて来ます。町や王都に施食を托鉢するために入ります、と。

托鉢から帰った彼は、弥勒の伝言を閻浮提の人々の為に語りました。人々は、長老の言葉を聞いて、明浄心から布施などの功德をなして、臨終のときに天界に至りました。

surindakam とは、神々の王サッカに [という意味である]

saggato とは、三十三天宮から [という意味である]

hemahaṃso va とは、金鷲鳥王のように [という意味である]

mānusaṃ とは、閻浮提に [という意味である]

28 【青蓮華を布施した貧者の再生】(Mth-v, p. 58, 7)

8 輪の青蓮華の花の施したその貧しい人は、命の限り、青蓮華の施しを記憶しており、人間界から離れ、天女たちに囲まれ、踊り・歌・五支の楽器を響かせ (pañcaṅgikaturiyasaṃghuṭṭhe) 七宝で飾られ、青蓮華の殿堂である三十三天宮に生まれました。彼が近づいた時に、五色の (pañcavaṇṇāni) 蓮華を一步一步受け取りました。蓮華の香のような彼の口の香は、天界の町中に (sakaladevanagaram) 香りました。天人たちと天女たちは蓮華の香を嗅ぎ、彼について行きました。天人たちは皆、一步一步受け取った蓮華を見て、天界の王サッカに言いました。サッカは彼らの為に彼の話を聞いて、満足した心となり、そこに行って問いました、「天人よ、あなたは人間界でどんな福德をなし、このような成功を得たのですか」と。サッカの言葉を聞いて、このように言いました。「天界の王よ、わたしは以前人間界でミティラに住しており、ピングタラという名の青年で、母

を養っていましたが、ある日、沐浴の為にある池に行って、そこで沐浴して 8 輪の青蓮華の花々を見つけ、それらを取って、一人の比丘に与えると、その青蓮華の施しによって、青蓮華の殿堂に生まれました。わたしが近づいた時に、一步一步、蓮華の花が生まれました、わたしの両眼は蓮華の花びらのようで、わたしの身体は蓮華の香のようでした、それ故に、ウッパラ（青蓮華）という名の天人として生まれたのです」と。サッカはその言葉を聞いて、心喜び清らかになり、それからも、青蓮華の花々を取って、仏の塔廟を供養し、かのウッパラ天人は、今もなお〔天界に〕います（yāvajjattanā yeva）。

pañcāṅgikaturiyasamghuṭṭhe とは、ここでは ātata、vitata、ātatavitata、ghana、そして、susira である。これらの 5 つの支があるのでこれが pañcaṅga（五支）であり、まさに五支が pañcāṅgika（五支を有する）と言われた。

というのも同様に言われたからである。

ātata、vitata、ātatavitata、ghana、そして、susira と述べられたのが五支の楽器である、と。

そのうち、ātata は、皮に覆われた鼓などのうち片面が結びつけられた kumbhathunadaddarika（太鼓）などである。vitata は、両面で mudinga（小鼓）などである。ātatavitata は、紐で結びつけられた paṇava（銅鼓）などである。ghana は、平らな tāla（銅鑼）などである。susira は、竹や法螺貝などである⁸⁵。

pañcavaṇṇāni とは、青などの五色〔という意味である〕

ここにおいて、sakaladevanagaram とは、三十三天宮が意味されており、夜摩天などではない。

kāyagandho とは、身体の香り〔という意味である〕

yāvajjattanā yeva とは、まさに今まで〔という意味である〕

だから説かれました。

（ウッパラ天人は）再生した時にもその功德を（puna bhave pi taṃ puññaṃ）花を布施したこの果報をまさに弥勒の近くで天の幸福として享受します。

それゆえ、賢者が弥勒仏の近くに至ることを願うなら、布施や戒などをなすべきであろう。

⁸⁵ *Ps*, p. 300: Pañcahi turiyasatehi ti pañcāṅgikānaṃ turiyānaṃ pañcahi satehi. Pañcāṅgikaṃ turiyaṃ nāma, ātataṃ, vitataṃ, ātatavitataṃ, susiraṃ ghanan ti imehi pañcahi aṅgehi samannāgataṃ. Tattha ātataṃ nāma cammapariyonaddhesu bheri-ādisu ekatalaturiyaṃ. Vitataṃ nāma ubhayatalaṃ. Ātatavitataṃ nāma tannibaddhaṃ paṇavādi. Susiraṃ vamsādi. Ghanan sammādi. その他 *Mp* や *Spk* などにも類似した言及がある。

誰であれ (yo) 菩薩による (bodhisattam) 言葉を追憶して
(vacanassānusārino) 福德をなせば、その者はそれぞれ、最上なる弥勒に会い (Metteyyadassanam varam labhissati) 未来に苦の終極をな
すだろう (dukkhass' antam karissati)。
輪廻において輪廻している者 (saṃsaranto) も (pi) 苦界に行かない
だろう、と。

というようにマーラツヤデーヴァ長老の物語が結ばれました。

涅槃の縁がありますように、未来に叶いますように

puna bhava pi tam puñnam とは、ウッパラ天人が天界から死に、再生においても人間になり、その 8 輪の青蓮華を布施した果報があるだろう、今は弥勒の側で天界の幸福を享受し、久しく天界で歓喜している、という [意味である]

yo とは、特定せずに示すもの (関係代名詞) である、yo は、いかなる、という意味である。
yam yam とは、いかなる方法で [という意味である。]

bodhisattam とは、第 3 格 (具格) の意味の対格である。bodhisattena とこのように言われたのである。bodhisattā という読みもある。

vacanassānusārino とは、「尊者よ、人々は皆一切知者である私に会うことを願い、『マハーヴェッサンタラ・ジャータカ』を一日で聴きなさい⁸⁶」という弥勒菩薩によって先に説かれた言葉の追憶という習慣、という意味である。no というのは、ただの不変化辞である。そして、それぞれの人々がそれぞれをそれぞれの方法で『マハーヴェッサンタラ・ジャータカ』を聴くなどの福德業をなすのである。

metteyyadassanam varam labhissati とは、弥勒という主の側で第一の涅槃を見るために千の方法で彩られた預流向という見解が、輪廻の苦しみから脱したいというその目的を有する者たちによって病の苦しみから解放されたいと最良の薬を望む重病人のように [得られる] 布施・戒・修習による善業の中で [『マハーヴェッサンタラ・ジャータカ』を] 聴いた一途な正見を有する賢い天人たちによって願われるべき、望まれるべき、期待されるべきものを得て、三相の修習によって覚るだろう。さらにまた。それぞれの人は、覚者・独覚・仏弟子の完成のうちのいずれかを望み、満たされない思いを持つ者は、弥勒仏に会うことを望み、『マハーヴェッサンタラ・ジャータカ』を聴くなどの福德をなす。そして [福德を] なしてその威力によって弥勒という

⁸⁶ *Mth-v*, pp. 44-45: Mahāvessantarajtakam ekadivase yeva parinīṭṭitam suṇantu.

主に会うことも得るでしょう。そして [弥勒に会うことを] 得て、彼の教えにおいて、布施波羅蜜などを積み、最上の一切知性智など自ら望んだその成就を得るでしょう、未来において、今から少なからざる時において、それに相応しく、ある時間が到来した。さらにまた。弥勒という主に会うことも得て、そして、彼の威力によって彼の教説において布施・戒などをなし、最上の成就を望み、願い、それを得るでしょう、という意味である。

dukkhassantaṃ karissati とは、涅槃を対象とする道を次々と [進み] あらゆる輪廻の苦しみの終局をなす阿羅漢向を覚るでしょう。弥勒の側で涅槃に至らない限り、悪趣に落ちないでしょう、[つまり] 人間界から天界に、天界から人間界に輪廻する、という意味である。

従って saṃsāre saṃsaranto pi apāye na gamissatī (輪廻において輪廻している者も苦界に行かないだろう) と言われた。そこにおいて pi という語は、仮定の意味と理解されるべきであり、saṃsaranto とは、再生によって無始の輪廻する存在において輪廻しても、凡夫は布施などの福德の威力によって地獄などの四悪趣には落ちないでしょう、という意味である。

以上、『マーレツヤデーヴァ長老物語註』第 2 部は、教えの中に確立するために Buddhavilāsāvahya によって 3 年かけて書き終えられた。

5

Mahāmogallānattheravatthu

『目連尊者の物語』

Mahāmogallānatheravatthu

ekadā¹ kira samaye satthā sāvattiyam nissāya sāvattikehi saddhim jetavane vasi. mahiddhiko mahānubhāvo aviciniyam² gantukāmo bhagavantam vanditvā āpucchitvā pathaviyam nimujitvā³ accharasamghātamattam⁴ mahāniriyam⁵ patvā. tasmī⁶ samaye sakatacakampamānam⁷ māhāsuvannaṇapadumam⁸ pātur ahoṣi. tassa matthake nisiditvā⁹.

tasmim khaṇe sabbe te niriyakasattā¹⁰ therassānubhāvena sitabhūtā¹¹ ahesum. devo vassanti, lohakumbhiyo bhijanti¹², khāraṇadiyo¹³ sussanti, vikiranti āngārapabbatā¹⁴, patanti simbalirukkhā. sabbe te niriyakasattā dukkhato muñcanti. tasmā tena assā¹⁵ sampati¹⁶ labhimṣu. thero pi niriyam¹⁷ anukammāya thero dhammam desesi. te dhammam sutvā keci muñcanti. te theram vanditvā tasmā pucchimṣu.

kuto āgato labhan ti.

thero tesam vacanam sutvā evam āha.

manussalokato āgatomi ti.

te tassa vacanam sutvā evam āha.

saccam bhante manussalokagohi¹⁸ ti.

asukkasmi¹⁹ nāmma²⁰ niggame²¹ asukkasmi²² nāma rājadhāniyo²³ mātā me atthi. pitā me atthi, bhātā me atthi, bhatinīyā²⁴ me atthi, mama²⁵ nātikāyo²⁶ atthi, sahāyo me atthi, kulabandhavā²⁷ me atthi, tasmā amhākam sāsanam nivedethā ti.

¹ (ka, a) ekadā Z

² [avīciniriyam]

³ [nimujitvā]

⁴ [accharasamghātamattam]

⁵ [mahāniriyam]

⁶ [tasmim]

⁷ [sakatacakampamānam]

⁸ [māhāsuvannaṇapadumam]

⁹ [nisiditvā]

¹⁰ [niriyakasattā]

¹¹ [sitabhūtā]

¹² [bhijjanti]

¹³ [khāraṇadiyo]

¹⁴ [āngārapabbatā]

¹⁵ [esam]

¹⁶ [sampattim]

¹⁷ [niriyam]

¹⁸ [manussalokatosi]

¹⁹ [asukasmim]

²⁰ [nāma]

²¹ [nigame]

²² [asukasmim]

²³ [rājadhāniyā]

²⁴ [bhagini]

²⁵ (ka, b) mama Z

²⁶ [nātikō]

²⁷ [kulabandhavo]

saccam²⁸ amhākaṃ sineho atthi, dānādīni puññāni²⁹ katvā dakkhiṇodakaṃ pātetvā dānassa phalaṃ
no dethā ti

vaḍḍisū.

thero vacanaṃ gahetvā sāsappamattaṃ³⁰ niriya-aggim³¹ uggahetvā kannicivaraṃ³² bandhitvā
mahā-avicito³³ nikkhamitvā manussalokaṃ āgantvā sabbasāsaṇaṃ nivedesi. taṃ sutvā puttaṃ³⁴ vā
dhitaraṃ³⁵ vā mātāpitā nātikāyo ca te manussā bhītabhīta³⁶ rodantā parideventi. dānādīni puññāni³⁷ katvā
dakkhiṇodakaṃ pātetvā evaṃ āha.

imaṃ dāniphalaṃ mātāpitūnaṃ me hotū ti.

amhākaṃ nātināṃ me hotū ti.

tassā³⁸ puññānubhāvena³⁹ niriyaḍukkhaṭo⁴⁰ muñcanti. tato cavitvā saggapadaṃ purayimsu⁴¹. sabbe
nātikāyo dānādīni puññāni⁴² katvā āyuhapariyosāne manussalokato cavitvā saggam eva puriyimsu⁴³.

thero devalokaṃ gantvā niriyaṃaggitejena⁴⁴ na kāmāvacaradevatāyo⁴⁵
mahāpathavikulāhalaṃ⁴⁶ ahesuṃ, na sukka⁴⁷ bhūñjanti, na sukka⁴⁸ tittḥati, na⁴⁹ sukkaḍanti⁵⁰, na
sukka⁵¹ nisidanti⁵², na sukka⁵³ sayanti.

sakko taṃ kāraṇaṃ nātvā yena thero atthi tenupasaṅkami⁵⁴, uppasaṅkamtivā⁵⁵ therāṃ vanditvā
evaṃ āhaṃsu,

bhante idheva mā ciraṃ vassathā ti.

taṃ sutvā thero cintesi

28 [sace]
29 [puññāni]
30 [sāsapamattaṃ]
31 [niriya-aggim]
32 [kannicivaraṃ]
33 [mahāvicito]
34 [puttā]
35 [dhitaro]
36 [bhītabhīta]
37 [puññāni]
38 [tesaṃ]
39 [puññānubhāvena]
40 [niriyaḍukkhaṭo]
41 [purayimsu]
42 [puññāni]
43 [purayimsu]
44 [niriya-aggitejena]
45 [kāmāvacaradevatāyo]
46 [mahāpathavikulāhalaṃ]
47 [sukkaṃ]
48 [sukkaṃ]
49 [?, a] na Z
50 [sukkaṃ ādanti]
51 [sukkaṃ]
52 [nisidanti]
53 [sukkaṃ]
54 [tenupasaṅkami]
55 [uppasaṅkamtivā]

imaṃ niriya-aggī⁵⁶ kuhiṃ pakkhipissāmi, sacce⁵⁷ mahāpathavi⁵⁸ pakkhipissāmi, mahāpathavi⁵⁹ dahanti, sacce⁶⁰ mahāsamuddhe⁶¹ pakkhipissāmi, mahāsamuddho⁶² sussanti, sacce⁶³ ākāse pakkhipissāmi, dvādasavassā⁶⁴ devo⁶⁵ na vassanti. evaṃ bhindanaṃ mattam pi na pattati⁶⁶. yan nunāhaṃ⁶⁷ nam eva pakkhipissāmi,

cintesi.

so tattha gantvā taṃ pakkhipitvā puna manussalokaṃ gantvā jetavanaṃ pavisitvā yena bhagavā tenuppasānkami⁶⁸ uppasaṅkamtivā⁶⁹ bhagavantaṃ vanditvā sabbasāsanāṃ nivedesi. atha tassa dhammaṃ desento satthā evaṃ āha.

na hi dhammo adhammo ca ubho samavipākīṇṇo⁷⁰
 adhammo niriyam⁷¹ nenti⁷² dhammo pāpenti⁷³ sugatim⁷⁴.
 dānaṃ sahāyasambhūtaṃ dānaṃ sasampatibhājanam⁷⁵
 dānaṃ daliddahāsanam⁷⁶ dāna⁷⁷ saṅgassa⁷⁸ sopānam
 dānaṃ mokkhapathavaram⁷⁹ dānaṃ appāyasañjanam⁷⁹
 dānaṃ budānam⁸⁰ gocaram.
 natthi dānaṃ sammo⁸¹ mātā⁸² natthi dānaṃ sammo⁸³ pitā
 natthi dānaṃ sammo⁸⁴ nāti⁸⁵ natthi dānaṃ sammo⁸⁶ nidhi.
 saddhāpubbaṅgamadānaṃ api kiñci ye kataṃ passanā⁸⁷ tisu kālesu labhati ti

⁵⁶ [nirayāggim]
⁵⁷ [sace]
⁵⁸ [mahāpathaviyam]
⁵⁹ [mahāpathavi]
⁶⁰ [sace]
⁶¹ [mahāsamudde]
⁶² [mahāsamuddā]
⁶³ [sace]
⁶⁴ [dvādasavassāni]
⁶⁵ [devā]
⁶⁶ [vattati]
⁶⁷ [nūnahaṃ]
⁶⁸ [tenupasaṅkami]
⁶⁹ [upasaṅkamtivā]
⁷⁰ [samavipākino]
⁷¹ [niriyam]
⁷² [neti]
⁷³ [pāpeti]
⁷⁴ [suggatim]
⁷⁵ [sompattibhājanam]
⁷⁶ [daliddahāyanam]
⁷⁷ [dānam]
⁷⁸ [saṅgassa]
⁷⁹ [apāyasañjanam]
⁸⁰ [buddhānam]
⁸¹ [samo]
⁸² (?, b) mātā Z
⁸³ [samo]
⁸⁴ [samo]
⁸⁵ [nāti]
⁸⁶ [samo]
⁸⁷ [pasanne]

vadaṃ sukkaṃ⁸⁸ sukkaṃmanussa⁸⁹ deyya⁹⁰ deti sattesu⁹¹ ca parisukkaṃ gato ca nibbānaṃ
sukkaṃ sabbadānena labhati ti.

desanāpariyosāne caturāsītikappānasahassāni⁹² dhammābhisamayo⁹³ sotāpattiphalaṃ⁹⁴
ahesuṃ.

mahāmoggalānatheravatthunitthitaṃ⁹⁵.

⁸⁸ [sukkaṃ]

⁸⁹ [sukkaṃmanussa]

⁹⁰ [deyya]

⁹¹ [saggesu]

⁹² [caturāsītikappānasahassāni]

⁹³ [dhammābhisamayo]

⁹⁴ [sotāpattiphalaṃ]

⁹⁵ [mahāmoggalānatheravatthunitthitaṃ]

『目連尊者の物語』

ある時、師はサーヴァッティーに留まってサーヴァッティーの者たちと共にジェータヴァナに住んでいました。偉大な神通力を有し、偉大な威力を有する者（モッガラーナ長老）は、阿鼻地獄へ行きたいと〔考え〕、釈尊に礼拝し、許しを請い、大地に沈んで、ほんの一瞬で大地獄へ至りました。

その時、車輪のような大きな黄金の蓮が現れました。〔モッガラーナ長老は〕その頂きに座っていました。その時、その地獄の衆生たちは皆、長老の威力によって涼しくなりました。天が雨降り、銅釜は壊れ、灰汁の川は乾上がり、炭火の山は砕け散り、シンバリ樹は倒れました。彼ら地獄の衆生たちは皆、苦しみから脱しました。それから、それ（長老の威力）によって彼らの幸福を得ました。長老は地獄へ近づき、長老は法を示しました。彼らは法を聞いて誰もが解放されました。彼らは長老を礼拝し、そして尋ねました。

「どこから来たのですか」と。

長老は彼らの言葉を聞いてこう言いました。

「人間界から来ました」と。

彼らは彼の言葉を聞いてこう言いました。

「尊者よ、実にあなたは人間界から〔来た〕のですね」と。

「　　という名の町に、××という名の王都に私の母がいます。私の父がいます、私の兄弟がいます、私の姉妹がいます、私の親類がいます、私の友人がいます、私の親戚がいます、それ故に我々のために教えを伝えて下さい」と。

「もし我々への愛情があるならば、布施などの福德をなし、施水を落として、布施の果報を我々に与えて下さい」

と言いました。

長老は言葉を受け取って、芥子粒ほどの地獄の火を取り、衣の隅を結んで、阿鼻地獄から出て、人間界に帰り、すべての教えを伝えました。それを聞いて、息子、あるいは、娘、あるいは、母父親類というそれらの人々は、とても畏れて泣いて悲しみました。布施などの福德をなし、施水を落としてこのように言いました。

「この布施の果報が私の母父のためになりますように」と。

「我々の、私の親類のためになりますように」と。

彼の福德によって地獄の苦しみから脱しました。そして死んで天界を満喫しました。親類たちは皆、布施などをなし、臨終時に人間界から死ぬと、天界を満喫しました。

長老が天界へ行くと、地獄の火の熱によって欲界の神々は、大地の轟をなさず、楽を享受せず、楽に住立せず、楽を取らず、楽に座らず、楽に眠りませんでした。

サッカはその理由を知り、長老のいるところへ近づきました、近づいて長老に礼拝してこう言いました、

「尊者よ、まさにここ（天界）に長く住してはいけません」と。

それを聞いて長老は考えました、

「この地獄の火をどこに置くべきだろうか、大地に置いたならば、大地が燃えてしまう、大海に置いたならば、大海が干上がってしまう、虚空に置いたならば、12年間、天が雨降らなくなってしまう。このように破壊が少しも起こらないところに、私はそれを置きましょう」

と考えました。

彼（モッガラーナ長老）はそこへ行き、それを置いて、再び人間界に帰り、ジェータヴァナに入り、釈尊のいるところへ近づきました、近づいて釈尊に礼拝し、すべての教えを伝えました。そして彼の法を示して師はこう言いました。

「実に法と非法の両者は同じ果報を持つものではありません、

非法は地獄へ導き、法は善趣へ至らせます¹。

布施は友を生むもので、布施は成功の器です、

布施は貧しさを取り除くもので、布施は天界への梯子です、

布施は優れた解脱の道で、布施は無執着を生むもので、

布施は仏たちの境域です。

布施は母と等しくなく、布施は父と等しくありません、

布施は親類と等しくなく、布施は宝と等しくありません（より勝れています）。

何であっても信の先行する布施をなせば、三世において喜びを得ます、という

幸福 [をもたらす] 言葉を幸福な人々に与えます。そして天界において幸福に至り、涅槃の幸福をあらゆる布施によって得ます」と。

説法が終わると、八万四千劫の間、法を明らかに観る者となり、預流果に至りました。

『目連尊者の物語』 完

¹ *Th*, p. 35: na hi dhammo adhammo ca ubho samavipākino, adhammo nirayaṃ neti, dhammo pāpeti sūggaṭṭim. (304) (中村 [1997: 81]: 正しいこととただしくないこととの両者は、等しい果報をもたらすものではない。正しくないことは、人を地獄に導き、正しいことは善い境界（天上）に達せしめる。)

6

Supinakumārajātaka

『スピナクマーラ前世物語』

Supinakumārajātaka

sāvattitho¹ avidure² eko kira nesādatāmo³ aholi⁴. tasmī⁵ gāme eko nesādajettḥako pativassati⁶.
tassa putto supinakumāro nāma aholi⁷. patisanditahaṇakāle⁸ evam assa mātā supinaṃ passi.

sāmikena saddhiṃ gāmato nikkhamitvā kaṭṭhaṃ tahaṇatthāya⁹ araṇaṃ¹⁰ pavilitvā¹¹
mattamuḷhaṃ¹² hutvā anukkamena¹³ yāva samuddatiraṃ¹⁴ patvā sā samuddatiraṃ¹⁵ disvā bhitalitā¹⁶
turituṃ asakkonto rodamānā paridevamānā rukkhamūle chāyāya niliditvā¹⁷, tasmī¹⁸ eko tāpaso
mahiddhiko mahānubhāvo sabbalakkhaṇasampannaṃ maṇirataṇaṃ gahetvā attano balena himavantā
nikkhamitvā ākāseṇa āgantvā maṇirataṇaṃ tassā hatthe thapesi¹⁹. sā taṃ gahetvā samuddatiraṃ²⁰ āgantvā
attano sāmikaṃ pariyesanatthāya puna nivatteli²¹.

tato sā sabbaratiṃ²² sayitvā sa²³ pabujjhivā pāto vutthāya²⁴ dantakaṭṭhaṃ mukkhadovannaṃ²⁵
katvā pupphaṃ gahetvā vuḍḍhajane²⁶ ānapeli²⁷. te supinaṃ byākarimṃsu,

tvam uttamaputtaṃ labhissasī ti.

¹ (ka, a). sāvattitho Z

² [avidūre]

³ [nesādagāmo]

⁴ [ahosi]

⁵ [tasmim]

⁶ [paṭivasati]

⁷ [ahosi]

⁸ [paṭisandhigahaṇakāle]

⁹ [gahaṇatthāya]

¹⁰ [araṇaṃ]

¹¹ [pavisitvā]

¹² [maggamuḷhaṃ]

¹³ [anukkamena]

¹⁴ [samuddatiraṃ]

¹⁵ [samuddatiraṃ]

¹⁶ [bhitasitā]

¹⁷ [nisiditvā]

¹⁸ [tasmim]

¹⁹ [thapesi]

²⁰ [samuddatiraṃ]

²¹ [nivattesi]

²² [sabbarattim]

²³ [sā]

²⁴ [vutthāya]

²⁵ [mukhaṃ dhovanaṃ]

²⁶ [vuḍḍhajane]

²⁷ (ka, b) ānapeli Z; [ānapesi]

sā tāto paṭṭhāya gabbhaṃ dhārayi. sā dasamāsacayena suvaṇṇavaṇṇaṃ puttaṃ vijāyi. nesādajeṭṭhako attano puttassa nāma gahaṇadivase supinakumāro nāmaṃ akāsi. kumāro divase vaḍḍhati²⁸. sattavassikakāle²⁹ tassa pitā kena byādhinā pilitā³⁰ kālam akāli³¹. so buddhassa dhammassa saṅghassa guṇaṃ ajānitvā adānaṃ na lilaṃ³² na mettabhāvaṃ ahosi. so pitu maraṇaṃ kālakato paṭṭhāya vihāraṃ gantvā sāmaṇerena saddhi³³ kilitvā³⁴ vihāracālimaṃ³⁵ sammajitvā³⁶ udakaṃ āharitvā bhikkhusaṃghassa datvā yāva soḷasavalikakāle anucari. so ekadivasaṃ hi uppajjhāyassa³⁷ santikaṃ gantvā,

bhante mayhaṃ pabbājethā ti.

taṃ sutvā thero,

tāta kulaputta ki³⁸ te mātāpitāro atthi natthi.

pitā me bhante kālakato ti.

mātā me bhante atthi ti.

yadi paneva³⁹ tāta mā, mātaraṃ⁴⁰ āpucchāhi ti.

taṃ sutvā kumāro sakatehaṃ⁴¹ gantvā mātaraṃ āpucchitvā vanditvā,

amma pabbajā⁴² me anuñātakālam⁴³ mayhaṃ ārocehi ti.

taṃ sutvā mātā kampitahadayo evam āha,

hā tāta piyaputtaka hā tāta hadaya mama cāhaṃ pi vidhavā jātā, tuvaṃ ekaputtako, maṃ mā maṃ pahāya yatatosi⁴⁴ ti.

tāta piyaputtaka, ato kāraṇā mā amhe ohāya gacchali⁴⁵, tāta pabbajitā nāma atidukkarā, uṇhena atthe sati sitaṃ⁴⁶ labhati sitena⁴⁷ atthe sati uṇhaṃ labhati, tasmā pabbajitā nāma atidukkarā, tvaṃ atibālā ti

buddhaguṇaṃ na jānāli⁴⁸, dhammaguṇaṃ saṃhaguṇaṃ na jānāli⁴⁹.

²⁸ [vaḍḍhati]

²⁹ [sattavassikakāle]

³⁰ [pīlito]

³¹ [akāsi]

³² [silaṃ]

³³ [saddhiṃ]

³⁴ [kīlitvā]

³⁵ [vihāraṃ ca sīmaṃ]

³⁶ [sammajjitvā]

³⁷ [uppajjhāyassa]

³⁸ [kiṃ]

³⁹ [panevaṃ]

⁴⁰ (kā, a) mātaraṃ Z

⁴¹ [sakagehaṃ]

⁴² [pabbajā]

⁴³ [anuñātakālam]

⁴⁴ [gatosi]

⁴⁵ [gacchasi]

⁴⁶ [sitaṃ]

⁴⁷ [sītena]

⁴⁸ [jānāsi]

⁴⁹ [jānāsi]

taṃ sutvā kumāro evam āha,

mā maṃ nivāresi amma pabbajjaṃ anujānāsi ti.

sā taṃ sutvā nivāretuṃ assakkonti⁵⁰ anuñātā,

tāta pabbajjaṃ yācāhi tava manoratho paripuṇṇo hotū ti.

taṃ sutvā kumāro somanassajāto mātaraṃ vanditvā āpucchitvā dhipadhupagandamālādīhi⁵¹ gahetvā vihāraṃ gantvā therāṃ vanditvā,

bhante maṃ pabbājethā ti āha.

taṃ⁵² sutvā thero,

tvāṃ mātuyā anuñātāsi⁵³ ti.

āma bhante ti.

taṃ sutvā thero sāmaṇeraṃ patvājeli⁵⁴. so tato paṭṭhāya āhariyavattena lilasampanno⁵⁵ ahosi. so rattin divaṃ upajjhāyassa cari.

tate⁵⁶ pana kālantare. tasmī⁵⁷ samaye yamarājā⁵⁸ dve yamake pakosāpetvā⁵⁹,

bhonto dve yamapālā sakalajambūdiṇaṃ⁶⁰ gantvā gāmanigamajanapadārājadhāniyaṃ passatha, itthi vā puriso vā yo koci manusso vā adinnādāno arakkhisilo⁶¹ abhāvitarāco⁶² akatapuṇṇo⁶³, taṃ pañcabandanena⁶⁴ banditvā⁶⁵ mahāniriyamajjhe⁶⁶ pakkhipitvā ethā ti

āṇapesi. taṃ sutvā dve yamapālā,

sādhu devā ti.

te gacchanti.

tasmī⁶⁷ kāle sā sāmaṇerassa pāto vuṭṭhāya gāmā nikkhamitvā kaṭṭhaṃ gahanatthāya⁶⁸ vanāṃ

⁵⁰ [asakkonti]

⁵¹ [dīpadhūpagandhamālādīni]

⁵² (kā, b) taṃ Z

⁵³ [anuñātāsi]

⁵⁴ [pabbājesi]

⁵⁵ [sīlasampanno]

⁵⁶ [tato]

⁵⁷ [tasmīṃ]

⁵⁸ [yamarājā]

⁵⁹ [pakkosāpetvā]

⁶⁰ [sakalaJambūdiṇaṃ]

⁶¹ [arakkhitasi]

⁶² [abhāvitaviriyo]

⁶³ [akatapuṇṇo]

⁶⁴ [pañcabandhanena]

⁶⁵ [bandhitvā]

⁶⁶ [mahāniriyamajjhe]

⁶⁷ [tasmīṃ]

⁶⁸ [gahanatthāya]

pāvili⁶⁹, kaṭṭhaṃ kalāpaṃ bandhitvā sise⁷⁰ thapetvā⁷¹ gāmābhimukho pāyāli⁷². tadā maggantare araṇatarasmi⁷³ rukkhāmūle dhāyāya⁷⁴ niliditvā⁷⁵ thokaṃ niddaṃ okkami. tadā dve yamaṃpālā vasanaṭṭhānaṃ⁷⁶ patvā taṃ itthiṃ disvā evaṃ āha,

cora⁷⁷ vasali⁷⁸ utthehi ti

pañcabandanena⁷⁹ bandhitvā⁸⁰ siṃghavegena⁸¹ ādāya yamaṃraño dasesi⁸². yamaṃrajā pucchi,

hare vasali⁸³ manussaloke kiṃ kusaladhammaṃ katan ti.

natthi devā ti.

yāva dutiyaṃ pucchitvā, rājā tassā natthi bhāvaṃ ñatvā dve yamaṃpāle āha,

dve yamaṃpāla tumhe imaṃ gahetvā gacchathā ti.

atha dve yamaṃpālā taṃ gahetvā pañcabandhanena bandhiṃsu pāyāsi. sā durato⁸⁴ niriyaṃ aggiṃ disvā evaṃ āha.

dve yamaṃpāla⁸⁵ kiṃ durato⁸⁶ aggī jalamānā ti.

dve yamaṃpālā āhaṃsu,

hare vasali⁸⁷ so durato⁸⁸ niriyaṭṭi⁸⁹ vasanaṭṭhānaṃ⁹⁰ pakkhipimā⁹¹ ti.

sā tesāṃ vacanaṃ sutvā evaṃ āha,

so aggī durato⁹² mama puttassa cīvaraṃ vaṇṇo sadiso.

taṃ sutvā yamaṃpālā hatthena mukhaṃ paharanto. so rodanti paridevanti evaṃ āha.

hā tāta piyaṃputtaka hā tāta hadaya tamhā dukkhā pamocesi, mā anāthaṃ karosi maṃ hā putta

abhirūposi, mama dukkhaṃ na jānāsi.

taṃ sutvā yamaṃpālā mahāniriyaṃ⁹³ majjhe pakkhipiṃsu.

⁶⁹ [pāvīsi]

⁷⁰ [sise]

⁷¹ [thapetvā]

⁷² [pāyāsi]

⁷³ [araṇāntarasmiṃ]

⁷⁴ [chāyāya]

⁷⁵ [nisiditvā]

⁷⁶ [vasanaṭṭhānaṃ]

⁷⁷ [coro]

⁷⁸ [vasali]

⁷⁹ [pañcabandhanena]

⁸⁰ (4, a) bandhitvā Z

⁸¹ [siṃghavegena]

⁸² [dasesi]

⁸³ [vasali]

⁸⁴ [dūrato]

⁸⁵ [yamaṃpāla]

⁸⁶ [dūrato]

⁸⁷ [vasali]

⁸⁸ [dūrato]

⁸⁹ [niriyaṃaggī]

⁹⁰ [vasanaṭṭhānaṃ]

⁹¹ [pakkhipimhā]

⁹² [dūrato]

⁹³ [mahāniriyaṃ]

tadā kāle sakaṭacakkapamānaṃ suvaṇṇapadumaṃ⁹⁴ pātur ahoṣi. tassa sāmaṇerassa mettākaraṇānubhāvena sabbalokantaniriye⁹⁵ yojanasahassapamānā sitabhūtā⁹⁶ ahoṣi, ekaniriye⁹⁷ saḥassayojanappamāne⁹⁸ ekaniriye⁹⁹ satasahassayojanappamāne¹⁰⁰ sitabhūtā¹⁰¹ ahoṣi. dve yamaṇā tāṃ acchiriyaṃ¹⁰² disvā taṃ gaḥetvā yamassa raṇo¹⁰³ santikaṃ gantvā taṃ desesum. rājā tesam vacanaṃ sutvā pucchi,

hare vassali¹⁰⁴ kiṃ putto pabbajjito ti.

āma devā ti.

yadi bhavyeṃ yathāsukhaṃ gacchāhi ti

tava putto posesī ti.

sā puttassa pabbajānubhāvana¹⁰⁵ niriyam¹⁰⁶ muccanti¹⁰⁷. taṃ khaṇaṃ eva nivattitvā sā pabbujjivā¹⁰⁸ bhitasitā¹⁰⁹ evam āha,

yo papa¹¹⁰ buddhaṃ ca dhammaṃ ca saṃghaṃ ca saraṇaṃ gato, apadaṃ so na āgaccheyya abhigaccheyya padaṃ sukhaṃ. sādhu dassanaṃ ariyā¹¹¹ annivāso¹¹² satṭhā¹¹³ adassanena bālānaṃ niccam eva sukhi¹¹⁴ siyā.

sā rukkhamūllato¹¹⁵ nikkhamitvā kaṭṭhakalāpaṃ sise¹¹⁶ thapetvā¹¹⁷ geḥaṃ gantvā puttassa pavuttiṃ ārocesi. kaṭṭhanatthāya vihāraṃ gantvā siṃam¹¹⁸ pavisitvā durato¹¹⁹ putta¹²⁰ disvā¹²¹ puttassa

⁹⁴ suva(4, b)ṇṇapadumaṃ Z

⁹⁵ [sabblokantaniraye]

⁹⁶ [sitabhūtā]

⁹⁷ [ekaniraye]

⁹⁸ [saḥassayojanappamāṇe]

⁹⁹ [ekaniraye]

¹⁰⁰ [satasahassayojanappamāṇe]

¹⁰¹ [sitabhūtā]

¹⁰² [acchariyaṃ]

¹⁰³ [raṇo]

¹⁰⁴ [vasalī]

¹⁰⁵ [pabbajānubhāvena]

¹⁰⁶ [niriyam]

¹⁰⁷ [muccati]

¹⁰⁸ [pabbujjhitvā]

¹⁰⁹ [bhitasitā]

¹¹⁰ [papa]

¹¹¹ [ariyaṇaṃ]

¹¹² [sannivāso]

¹¹³ [saddā sukho]

¹¹⁴ [sukhi]

¹¹⁵ [rukkhamūllato]

¹¹⁶ [sise]

¹¹⁷ [thapetvā]

¹¹⁸ [siṃam]

¹¹⁹ [durato]

¹²⁰ [puttaṃ]

¹²¹ (5, a) disvā Z

santikam gantvā kaṭṭhakaḷāpaṃ sisato¹²² ottarivā¹²³ sāmaṇerassa pāde vanditvā puṭṭhim¹²⁴ parāmasitvā
nānāvilāpaṃ vilapanti¹²⁵. taṃ sutvā sāmaṇero āha,

amma kuto āgatosī ti.

mātā āha,

hā tāta piyaputtaka hā tāta hadaya mama atthā¹²⁶ ahaṃ kaṭṭhagahaṇatthāya pavisitvā vanaṃ gaccha
kaṭṭhaṃ gahetvā sise¹²⁷ ādāya gahetvā upipāsā¹²⁸ pilitā¹²⁹ kilamanti, gantvā rukkhāyāya¹³⁰
nisiditvā¹³¹, taṃ khaṇaṃ eva niddaṃ okkami. atha dve yamaṇā māṃ gahetvā niriye¹³² pakkhipiṃsu,
taṃ niriyaṃttim¹³³ mama lomakupamattaṃ¹³⁴ uṇhaṃ nā¹³⁵ sakkhi, tasmā mama puttassa
silānubhāvena¹³⁶ mahāniriyakā¹³⁷ muñcāmi.

taṃ sutvā sāmaṇero imaṃ gātham āha.

1. silaṃ¹³⁸ ābharaṇasetthaṃ silaṃ¹³⁹ pātheyyam uggamaṃ¹⁴⁰
silaṃ¹⁴¹ apāyasañjanaṃ¹⁴² sīsaṃ¹⁴³ mokkhaṇṇavaraṃ
2. silaṃ¹⁴⁴ sattassa¹⁴⁵ sopāṇaṃ¹⁴⁶ silaṃ¹⁴⁷ buddhānagocaraṃ¹⁴⁸
khaṇḍena silaṃ¹⁴⁹ rakkheyya appam eva phalaṃ siyā.
anantakusalā vuttā buddhena¹⁵⁰ dipabandhanā¹⁵¹

vatvā ca pana cintesi,

aho bahūpakāro silan ti

ahaṃ ajja sāmaṇero pi samāno etarahi mātara¹⁵² dukkhaṃ mocesi. kiṃ pana uppasampadaṃ¹⁵³

¹²² [sisato]
¹²³ [otarivā]
¹²⁴ [puṭṭhim]
¹²⁵ [vilapati]
¹²⁶ [satthā]
¹²⁷ [sise]
¹²⁸ [khuppiāsā]
¹²⁹ [pilitā]
¹³⁰ [rukkhachāyāya]
¹³¹ [nisiditvā]
¹³² [niraye]
¹³³ [nirayāggim]
¹³⁴ [lomakupamattaṃ]
¹³⁵ [na]
¹³⁶ [silānubhāvena]
¹³⁷ [mahāniriyakā]
¹³⁸ [silaṃ]
¹³⁹ [silaṃ]
¹⁴⁰ [uttamaṃ]
¹⁴¹ [silaṃ]
¹⁴² [apāyasañjanaṃ]
¹⁴³ [silaṃ]
¹⁴⁴ [silaṃ]
¹⁴⁵ [saggassa]
¹⁴⁶ [sopāṇaṃ]
¹⁴⁷ [silaṃ]
¹⁴⁸ [buddhānaṃ gocaraṃ]
¹⁴⁹ [silaṃ]
¹⁵⁰ [buddhena]
¹⁵¹ [dīpabandhanā]

labhitvā seyyo hotū ti.

mātāpitāroādayo parimocessāmī ti.

so mātaraṃ anujānāpetvā uppajjhāyassa santikaṃ gantvā uppasampadam¹⁵⁴ yāci. so uppasampadam¹⁵⁵ labhitvā uppajjhāyassa santike kammaṭṭhānaṃ¹⁵⁶ labhitvā bhāvetvā tato pṭṭhāya labhamānena piṇḍipātena¹⁵⁷ mātaraṃ posesi. so bhikkhuvīnayaṇṇaṃ¹⁵⁸ ca suttantaṇṇaṃ ca abhidhammaṇṇaṃ ca tīṇi ṇṇaṃ likkhitvā bhāvetvā araṇṇaṃ¹⁵⁹ kappesi.

sā mātā dibbasukhaṃ labhitvā dānādāni puṇṇāni¹⁶⁰ katvā āyuhapariyosāne kālaṃ katvā tāvatiṃsabhavane dvādasasayojanike¹⁶¹ kanakavimāne nibbatti saḥassadevakaṇṇāhi parivutto¹⁶².

atha pitā pāpakammaṃ uppacittatā¹⁶³ petabhāvaṃ nibbattetvā mahādukkhaṃ anubhavanto vicarītva anupubbena yāva therassa vassanaṭṭhānaṃ¹⁶⁴ gantvā taṃ saṇṇānitvā paṇṇasāladvāraṃ¹⁶⁵ ākoṭento visaraddhaṃ akāsi. atha therō visaraddhaṃ ca dvāraṇṇaṃ ca sutvā uṭṭhāya dvāre petam disvā pucchitukāmaṃ imāya gāthāya¹⁶⁶ abhāsi.

3. ahaṃ araṇṇe¹⁶⁷ ciraṃ vāsitosi me devayakkhā

na ca diṭṭhapubbā idaṃ ca saddaṃ na suṇomi pure

4. akkhāhi kutona¹⁶⁸ āgato dubbaṇṇosi tuvaṇṇo¹⁶⁹

kattakammaṇṇo¹⁷⁰ kisotallasuddhikāyo¹⁷¹

ko nu tvam idaṃ diṭṭhati.

taṃ sutvā peto imaṃ gātham āha.

5. pitā pa¹⁷² te pure āsi tadā nesādaṇṇaṃ¹⁷³

idāni petabhāvaṃ ca kathaṃ maṃ tvam khapekkhasī ti.

¹⁵² (5, b) mātara Z

¹⁵³ [upasampadam]

¹⁵⁴ [upasampadam]

¹⁵⁵ [upasampadam]

¹⁵⁶ [kammaṭṭhānaṃ]

¹⁵⁷ [piṇḍipātena]

¹⁵⁸ [bhikkhuvīnayaṇṇaṃ]

¹⁵⁹ [araṇṇaṃ]

¹⁶⁰ [puṇṇāni]

¹⁶¹ [dvādasasayojanike]

¹⁶² [parivutto]

¹⁶³ [upacittatā]

¹⁶⁴ [vassanaṭṭhānaṃ]

¹⁶⁵ [paṇṇasāladvāraṃ]

¹⁶⁶ (6, a) gāthāya Z

¹⁶⁷ [araṇṇe]

¹⁶⁸ [kuto]

¹⁶⁹ [attano]

¹⁷⁰ [kattakammaṇṇo]

¹⁷¹ [kosotallasuddhikāyo]

¹⁷² [ca]

¹⁷³ [nesādaṇṇaṃ]

taṃ sutvā thero,

sādhū upāsaka mā socittha, mā paridevesi, ahaṃ tava atthāya dānaṃ dassāmī ti
vatvā uyojesi¹⁷⁴.

punadivase bhikkhāharavelāya upāsake ārohapetvā¹⁷⁵ visatajjimsu¹⁷⁶, bhikkhusaṃghaṃ
nimantetvā bhojetvā sabbaparikkhāraṃ adāsi. thero dikkhiṇṇodakaṃ¹⁷⁷ pātetvā evaṃ āha.

bhante saṃghaparināyaka idaṃ me dānaṃ uppasampadaṃ¹⁷⁸ mayā ñāṇena sadiṇeva¹⁷⁹
sakalasaṃmodhānetvā mātāpitūnaṃ deti.

taṃ sutvā peto pamuditamānaso jāto tattheva petabhāvaṃ pajahitvā dvādasayojanikena¹⁸⁰ kanakavimāne
dibba-accharaparivutto¹⁸¹ devaputto hutvā nibbatti. so attano¹⁸² dibbasampattiṃ olokento evaṃ cintesi,

ayaṃ me sampati¹⁸³ panaraṇṇena¹⁸⁴ diṭṭhātherassānubhāvena mahatiyā kuruṇā evaṃ labhāmi tassa
guṇaṃ pakāsessāmī ti

parivārehi saddhiṃ therassa santikaṃ āgantvā aṭṭhāsi. so taṃ pucchanto imaṃ gātham āha.

6. ko me vandhati¹⁸⁵ pādāni iddhiyā saḥassājalaṃ
abhikkantena vaṇṇena so tvaṃ titthasi¹⁸⁶ devatā
obhāsenti disā sabbā osaddhi¹⁸⁷ viya tārakā

7. pucchāmi tadeva mahānubhāvamanussabhūto
kim akāsi puṇaṃ ekenāsi¹⁸⁸ eva
jalitānubhāvā sabbā obhāsati disā jalantā ti.

devaputto imaṃ gātham āha.

8. pitāhaṃ te pure āsi tadā nesādajetṭhako
tava silassa¹⁸⁹ tejena patohaṃ tidasālaye

9. tava guṇaṃ saritvāna āgacchāmi
tava santike sabbasampattiṃ pavedetvā
theraṃ āpucchitvā sakathānaṃ¹⁹⁰ evaṃ¹⁹¹ gato.

¹⁷⁴ [uyyojesi]

¹⁷⁵ [āropetvā]

¹⁷⁶ [vissajjimsu]

¹⁷⁷ [dakkhiṇṇodakaṃ]

¹⁷⁸ [upasampadaṃ]

¹⁷⁹ [saddhim eva]

¹⁸⁰ [dvādasayojanike]

¹⁸¹ [dibbaccharāparivuto]

¹⁸² attā(6, b)no Z

¹⁸³ [sampatti]

¹⁸⁴ [panaraṇṇe]

¹⁸⁵ [vandati]

¹⁸⁶ [titthasi]

¹⁸⁷ [osadhī]

¹⁸⁸ [kenāsi]

¹⁸⁹ [silassa]

¹⁹⁰ [sakatthānaṃ]

evaṃ kataññutā¹⁹² dhammo pabbajāniso¹⁹³ uttamo pavaro seṭṭho hotū ti
desanāvasāne bahū sotāpaṭṭiphalādīhi¹⁹⁴ sampapūṇimsu¹⁹⁵.

supinnakumārajātakam¹⁹⁶ nitthitam¹⁹⁷.

¹⁹¹ [eva]

¹⁹² [kataññutā]

¹⁹³ [pabbajānisamso]

¹⁹⁴ [sotāpattiphalādīni]

¹⁹⁵ [sampapūṇimsu]

¹⁹⁶ [supinakumārajātakam]

¹⁹⁷ [nitthitam]

『スピナクマーラ前世物語』

【母の夢と年長者の予言】

サーヴァッティーから遠く離れた所に一つの獵師の村がありました。その村に獵師の長が住んでいました。彼の息子はスピナクマーラという名前でした。結生を得た時、彼の母はこのようにスピナを見ました。

主人と一緒に村から出て、薪を取るために森に入ったが、道に迷い、次第に海岸まで至りました。彼女は海岸を見て、怖く冷たくなって、[先を]急ぐことができず、泣いて悲しんで、樹の根の影に座っていました。そこに一人の偉大な神通力を有し、偉大な威力を有する苦行者が、すべての相を備えた摩尼宝珠を手にして、自らの力でヒマラヤ山から出て、虚空を通過して来て、摩尼宝珠を彼女の手に乗せました。彼女はそれを持って海岸に来て、自分の主人を探し求めに戻りました。

そして彼女は一晩中横になって、彼女は目を覚まし、早朝から起きて、楊枝を[噛み]、口を洗い、花を手にして年長者たちに予言させました。彼らはスピナについて語りました。

「あなたは最上なる息子を得るでしょう」と。

【スピナクマーラの誕生から出家】

彼女はその後母胎を保ちました。彼女は10ヶ月が経つと、黄金色の息子を出産しました。獵師の長は自分の息子が生まれた日にスピナクマーラと名づけました。息子は日々成長しました。[スピナクマーラが]7歳の時に彼の父は何らかの病によって苦しんで死にました。彼(スピナクマーラの父)は、仏・法・僧の徳を知らず、布施をせず、戒を守らず、慈悲を持ちませんでした。彼(スピナクマーラ)は父の死後、精舎に行き、沙弥と共に遊び、精舎や結界を掃除し、水を持って比丘僧伽に与えて、16歳まで従事していました。彼はある日、和尚の側へ行き、

「尊者よ、私を出家させてください」と。

それを聞いて長老は、

「愛する善男子よ、あなたの両親はいるのですか、いないのですか」

「尊者よ、私の父は亡くなりました」と。

「尊者よ、私の母はいます」と。

「愛する者よ、そうであっても、[出家を許すわけには]いきません、母に許しを請いなさい」と。

それを聞いて、[スピナ]クマーラは自分の家に帰って母に許しを請い、礼拝して、

「お母さん、わたしの出家です、許しの時を私に教えてください」と。

それを聞いて、母は動揺してこのように言いました、

「ああ愛する可愛い息子よ、ああ私の可愛い心（息子）よ、私も未亡人として生きています、あなたは一人息子です、絶対に私を捨てて、行かないでください」と。

「愛する可愛い息子よ、だから私を捨てて行かないで下さい。愛する者よ、出家は実に困難です。暑さを求める時、寒さを得、寒さを求める時、暑さを得ます¹。それ故に出家は実に困難です、あなたはまだまだ未熟です」と、

「仏の徳を知らず、法の徳、僧の徳を知りません。」

それを聞いて[スピナ]クマーラはこう言いました。

「私を妨げないで下さい、お母さん、出家をお許し下さい」と。

彼女はそれを聞いて、止められず許して、

「愛する者よ、出家を願い出なさい、あなたにとって悦ばしく満足するものでありますように」と。

それを聞いて[スピナ]クマーラは喜んで、母を礼拝して、許しを請い[帰路につき]灯明・香・芳香・華鬘を持って精舎に行き、長老に礼拝して、

「尊者よ、私を出家させて下さい」と言いました。

それを聞いて長老は、

「あなたは母の許しを得たのですか」と。

「はい、尊者よ」と。

それを聞いて長老は沙弥として出家させました。彼はその後、なすべき務めによって戒を具足しました。彼は昼夜、和尚のために従事しました。

【母の墮地獄】

それから、後時において[起こりました]その時、夜魔王は二人の夜魔王の従者を呼んで、

「尊い二人の夜魔の守護者よ、全閻浮提へ行き、村や町や国や王都を視察しろ、女あるいは男、どんな人でも布施をせず戒を守らず、精進せず、福德をなさない者がいれば、その者を五つの結びで縛って大地獄の間に投下して来い」

と命じました。それを聞いて、二人の夜魔の守護者は、

「わかりました、王よ」と。

彼らは[閻浮提へ]向かいました。

その時、彼女（スピナクマーラの母）は沙弥のために早朝から起きて村から出て、薪を取るために森に入りました、薪を束ねて、頭に置いて村に向けて出発しました。その時、道中の森の中で樹の根の影に座り、うとうとと眠りに入りました。その時二人の夜魔の守護者が、[彼女

¹ *Dhp-a*, vol.2, p. 87: *abbhūhena atthe sati sītaḷaṃ labhati, sītaḷena atthe sati abbhūhaṃ labhati.*

の]住処に至り、その女を見てこう言いました、

「盗人、卑しい女、起きろ」と[言って]

[彼女を]五つの結びで縛って急いで抱えて、夜魔王に見せました。夜魔王は尋ねました、

「おい、卑しい女よ、人間界で善法がなされたのか」と。

「いいえ、王よ」と。

二人に尋ねて、王は彼女に[なされた善法が]ないことを知るに至り、二人の夜魔の守護者に言いました、

「二人の夜魔の守護者よ、おまえたちはこいつ(彼女)を[地獄へ]持って行け」と。

そこで二人の夜魔の守護者は彼女を抱え、五つの結びで縛って出発しました。彼女は遠くから地獄の火を見て、こう言いました。

「二人の夜魔の守護者よ、遠くから[見える]火は燃えているのですか」と。

二人の夜魔の守護者は言いました、

「ああ、卑しい女よ、それは遠くから[見える]地獄の火だ、我々が[お前の]住処(地獄)に投下しよう」と。

彼女は彼らの言葉を聞いてこう言いました。

「遠くから[見える]その火は私の息子の袈裟の色と同じです」

それを聞き、夜魔の守護者は手で[彼女の]顔を打ちました。彼女は泣いて悲しみ、こう言いました。

「ああ愛する可愛い息子よ、ああ愛する心(息子)よ、渴愛や苦しみから解放させ、わたしを孤独にしないでください、ああ息子よ、あなたは愛らしいです、私の苦しみを知りません」

それを聞いて、夜魔の守護者は大地獄の間に置きました。

その時、車輪のような黄金の蓮が現れました。その沙弥の慈悲により全世界の末端の地獄に千ヨージアナもの大きさの冷たいものが現れました、千ヨージアナもの大きさの或る地獄に、十万ヨージアナもの大きさの或る地獄に、冷たいものが現れました。二人の夜魔の守護者は、その稀有なのを見て、それ(彼女)を抱えて、夜魔王の近くへ行きそれを見せました。王は彼らの言葉を聞いて尋ねました、

「おい、卑しい女よ、息子は出家したのか」と。

「その通りです、王よ」と。

「もしそうならば、望みのままに行くがよい」と。

「あなたの息子が養ったのだ(救ったのだ)」と。

彼女は息子の出家によって地獄を脱しました。ちょうどその時、彼女は目を覚まし、怖くて冷たくなってこう言いました、

「仏・法・僧に帰依する者は抛り所のないところへは来ず、悦ばしいところへ行くでしょう。諸々の聖者に会うのはよいことであり、[賢者と]共に住むのは常に楽しいことです、諸々の愚者に会わないのならば、常に幸福となるでしょう²。」

【スピナと母の対話】

彼女は樹の根から出発して、薪の束を頭にのせ、家に帰り、息子に出来事を告げ[に行き]ました。薪[を渡す]ために精舎へ行き、結界へ入り、遠くから息子を見て、息子の側へ行き、薪の束を頭から下ろし、沙弥の足下に礼拝して拳を握って色々な嘆きを嘆きました。

「お母さん、あなたはどこから来たのですか」と。

母は言いました。

「ああ愛する可愛い息子よ、ああ愛する心(息子)よ、私の師よ、私は、薪を取りに森に入って行きました、薪を取って頭にのせて持って行き、飢と渴きで苦しみ疲れていました、進んで木陰に座ると、ちょうどその時、眠りに入りました。すると、二人の夜魔の守護者が私を連れて行き地獄に投下しました、その地獄の火を[浴びても]私の毛穴すら熱くなりませんでした、つまり、私の息子の戒によって大地獄から脱したのです。」

それを聞いて沙弥はこの偈を唱えました。

1. 戒は最上の荘嚴で³、戒は最上の糧です⁴、
戒は無執着を生むもので、戒は最上の解脱の道です
2. 戒は天界への梯子で、戒は仏たちの境域です
戒を部分的に守れば、わずかな果報となるだろう。
[戒は]仏によって説かれた輝く絆であり、無限の善である

と言って、そして思いました、

「ああなんと戒は様々な役に立つのか」と。

「私は今日沙弥でありながら、今まさに母の苦しみを解きます。具足戒を受けたら、どんなに優れていようか」と。

「父母らを私が解放させましょう」と。

彼は母に許させて和尚の側へ行き具足戒を請いました。彼は具足戒を受けて、和尚の側に業処を得て、修習し、その後は得る鉢食によって母を養いました。彼は比丘の律蔵や経蔵や論蔵という三蔵を筆写し、修習し、森林住を設けました。

² *Dhp*, p. 58, no. 206: *sādhū dassanam ariyānaṃ sannivāso sadā sukho, adassanena bālānaṃ niccama eva sukhi siyā.* (中村 [1996: 39]: もろもろの聖者に会うのは善いことである。かれらと共に住むのは常に楽しい。愚かなる者どもに会わないならば、心は常に楽しいであろう。)

³ *Th*, p. 63, n. 614: *sīlam ābharaṇaṃ seṭṭham.* (中村 [1997: 133]: 戒しめは、最良の飾りである。)

⁴ *Th*, p. 63, n. 616: *sīlam pātheyyam uttamaṃ.* (中村 [1997: 134]: 戒しめは、最上の旅程の糧である。)

【母父の救済】

その母は天界の幸福を得て（願い）布施などの福德をなし、臨終時に命を終えると、三十三天宮の12 ヨージャーナの黄金の宮殿に再生し、数千の天女たちに囲まれていました。

さて、父は悪業を積み重ね餓鬼の姿に生まれ、大きな苦を経験していました、歩き回って、次第に長老（スピナクマーラ）の住処まで行き、彼を想って、茅屋の門を叩いて叫びました。そこで長老は門を叩く音を聞き、起き上がって門にいる餓鬼を見て、尋ねたいと思いこれらの偈を唱えました。

3. 私は森林に久しく住しています、あなたは以前私が会ったことのある神や夜叉ではありません、この声を今まで聞いたことがありません。
4. 答えなさい、あなたはどこから来たのですか、あなたは醜いですが自身のなされた業を原因として痩せて貧弱で不浄な身体をしているここに立ってるあなたは誰ですか。

それを聞いて餓鬼はこの偈を唱えました。

5. 昔、あなたの父で、その時獵師の長でした、そして今は餓鬼の身です、実にあなたは私に話を求めているのです、と。

それを聞いて長老は、

「わかりました、優婆塞よ、悲しむことはありません、嘆くことはありません、私があなたのために布施をしましょう」

と言って出ました。

翌日、比丘の食事時に優婆塞たちに用意させ、置かせました、比丘僧伽を召して、食事をさせてあらゆる資具を与えました。長老は施水を飲ませてこう言いました。

「尊者よ、僧伽を導く者よ、これは私の布施です、私によって受戒が[なされた] 智慧とすべて結びつけて母と父のために与えます」

それを聞いて餓鬼は満足した心となって、そして、餓鬼の姿を捨て、12 ヨージャーナの黄金の宮殿で天女に囲まれた天人となって生まれました。彼は自分の天界の幸福を眺めてこう思いました、

「これが私の幸福です、森林で会った長老（スピナクマーラ）の威力によって、偉大な慈悲のためにこのように得るのです、私が彼の徳を明らかにしましょう」と

従者と一緒に長老の側にやって来て、立ちました。彼（長老）は彼（餓鬼）に尋ねてこの偈を唱えました。

6. 誰が私の足に礼拝するのですか、神通力によって千の光を [放つのですか] 天人たちよ、そのあなたは、美しい容色によって全方角を照らして住立し、暁の明星のようです⁵、
7. まさにその時、私はお尋ねします、偉大な力のある人間はどんな福德をなしたのですか、
何によってあなたは光り輝く存在となり、全方角に輝き光輝するのですか⁶。

天人はこの偈を唱えました。

8. 昔、私はあなたの父で、その時獵師の長でした、
あなたの戒の威力によって私は三十三天宮に至りました、
9. あなたの徳を憶念してやって来ました、
あなたの側ですべての幸福を明らかにして、
長老に許しを請い、自分の処に帰ります。

「このように恩を知ることは法なのです、出家の功德が最上で最勝で優れていますように」と、
[釈尊が説きました]

説法が終わると、たくさんの [人々が] 預流果などに至りました。

『スピナクマーラ前世物語』 完

⁵ Vv, p. 77: Ko me vandati pādāni iddhiyā yasasā jalam, abhikkantena vaṇṇena sabbā obhāsayam disā ti. (『南伝』 vol. 24, p. 511 : 我が足に頂礼し、神通により、名声によりて輝き、優れたる容色によりて十方を照らすは誰なりや、と。) Vv, p. 10: Abhikkantena vaṇṇena yā tvam tiṭṭhasi devate, obhāsentī disā sabbā osadhī viya tārakā. (『南伝』 vol. 24, p. 447 : 女神よ、汝は勝れたる容色によりて十方を照らしつつ立つ、恰も暁の明星の如く。)

⁶ Vv, p. 10: Pucchāmi taṃ devi mahānubhāve, manussabhūtā kim akāsi puññaṃ, kenāsi evaṃ jalitānubhāvā, vaṇṇo ca te sabbadisā pabhāsati ti. (『南伝』 vol. 24, p. 447 : 女神よ、大威神ある者よ、我汝に問ふ、汝人間たりし時、如何なる福業をか為したるや、と。)